

2023年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



# 目次

7100000	地誌 塩崎	大輔	後期	・ ・ ・	1
7304000	立体構成	梅田 力	後期	・ ・ ・	3
1305001	統計学入門 (M)	伊藤 裕康	後期	・ ・ ・	5
1305002	統計学入門 (S)	伊藤 裕康	後期	・ ・ ・	7
1305003	統計学入門 (D)	伊藤 裕康	後期	・ ・ ・	9
1305004	統計学入門 (A)	伊藤 裕康	後期	・ ・ ・	11
2102001	情報基礎演習 (M)	薦田 勇智	後期	・ ・ ・	13
2102002	情報基礎演習 (M-2)	由水 伸	後期	・ ・ ・	15
2102003	情報基礎演習 (M-3)	由水 伸	後期	・ ・ ・	17
2102005	情報基礎演習 (S)	薦田 勇智	後期	・ ・ ・	19
2102006	情報基礎演習 (D)	薦田 勇智	後期	・ ・ ・	21
2102007	情報基礎演習 (A)	薦田 勇智	後期	・ ・ ・	23
3102101	基礎英語 (M)	信濃 吉彦	後期	・ ・ ・	25
3102102	基礎英語 (M)	岡島 徳昭	後期	・ ・ ・	27
3102103	基礎英語 (M)	石田 暁子	後期	・ ・ ・	29
3102104	基礎英語 (M)	井坂 肇	後期	・ ・ ・	31
3102105	基礎英語 (S・D・A)	西崎 毅	後期	・ ・ ・	33
3102106	基礎英語 (S・D・A)	宮嶋 達也	後期	・ ・ ・	35
3102107	基礎英語 (S・D・A)	横田 肇	後期	・ ・ ・	37
3102108	基礎英語 (S・D・A)	井坂 肇	後期	・ ・ ・	39
3202101	トイ語入門 (M)	河田 一郎	後期	・ ・ ・	41
3202102	トイ語入門 (S・D・A)	河田 一郎	後期	・ ・ ・	43
4102001	健康科学 (M)	米野 宏	後期	・ ・ ・	45
4102002	健康科学 (S)	尾西 則昭	後期	・ ・ ・	47
4102003	健康科学 (D)	小山 尋明	後期	・ ・ ・	49
4102004	健康科学 (A)	小山 尋明	後期	・ ・ ・	51
5102100	ソシヤルワークの基礎と専門職(専門)	上原 正希	後期	・ ・ ・	53
5204001	平面構成	赤木 良子	後期	・ ・ ・	55
5302000	建築設計製図	佐々木 哲之	後期	・ ・ ・	57
5404000	経営管理論	信濃 吉彦	後期	・ ・ ・	59
6210101	キャリア支援演習 (M)	石山 玄幸	後期	・ ・ ・	61
6210102	キャリア支援演習 (S)	尾西 則昭	後期	・ ・ ・	63
6210103	キャリア支援演習 (D)	北嶋 洋一	後期	・ ・ ・	65
6210104	キャリア支援演習 (A)	横山 哲也	後期	・ ・ ・	67
7211001	専門演習 B	由水 伸	後期	・ ・ ・	69
7211002	専門演習 B	信濃 吉彦	後期	・ ・ ・	71
7211003	専門演習 B	河野 善文	後期	・ ・ ・	73
7211004	専門演習 B	遠藤 均	後期	・ ・ ・	75
7211005	専門演習 B	鈴木 重政	後期	・ ・ ・	77
7211006	専門演習 B	岡島 徳昭	後期	・ ・ ・	79
7211008	専門演習 B	青山 浩之	後期	・ ・ ・	81
7211009	専門演習 B	石山 玄幸	後期	・ ・ ・	83
7211010	専門演習 B	天野 雅斗	後期	・ ・ ・	85
7211011	専門演習 B	石井 祐治	後期	・ ・ ・	87
7211012	専門演習 B	篠原 諒介	後期	・ ・ ・	89
7211013	専門演習 B	川津 大樹	後期	・ ・ ・	91
7211014	専門演習 B	小林 大州介	後期	・ ・ ・	93
7211062	専門演習 B	小早川 俊哉	後期	・ ・ ・	95
7211064	専門演習 B	藤根 収	後期	・ ・ ・	97
7211068	専門演習 B	大島 康雄	後期	・ ・ ・	99
7211069	専門演習 B	吉江 幸子	後期	・ ・ ・	101
7211070	専門演習 B	西野 克俊	後期	・ ・ ・	103
7211071	専門演習 B	畠山 明子	後期	・ ・ ・	105
7211073	専門演習 B	吉澤 英里	後期	・ ・ ・	107
7211074	専門演習 B	堀川 厚志	後期	・ ・ ・	109
7211075	専門演習 B	宮崎 剛司	後期	・ ・ ・	111
7211076	専門演習 B	松下 守邦	後期	・ ・ ・	113
7211078	専門演習 B	蝦名 美穂	後期	・ ・ ・	115
7211079	専門演習 B	星野 秀治	後期	・ ・ ・	117
7553000	CAD演習	佐藤 善太郎	後期	・ ・ ・	119
7717000	社会行政学	三嶋 康嗣	後期	・ ・ ・	121
2103300	デザイン基礎	薦田 勇智	後期	・ ・ ・	123
5402000	簿記論	川津 大樹	後期	・ ・ ・	125
6102061	基礎ゼミナル B	竹内 美帆	後期	・ ・ ・	127
6102062	基礎ゼミナル B	後藤 啓倫	後期	・ ・ ・	129
6102063	基礎ゼミナル B	戸佐 晃一	後期	・ ・ ・	131
6102064	基礎ゼミナル B	米野 宏	後期	・ ・ ・	133
6102065	基礎ゼミナル B	佐藤 和裕	後期	・ ・ ・	135
6102067	基礎ゼミナル B	中川 純二	後期	・ ・ ・	137
6102068	基礎ゼミナル B	三嶋 康嗣	後期	・ ・ ・	139
6102069	基礎ゼミナル B	井坂 肇	後期	・ ・ ・	141
6102071	基礎ゼミナル B	田畑 圭悟	後期	・ ・ ・	143
6102072	基礎ゼミナル B	篠原 諒介	後期	・ ・ ・	145
6102074	基礎ゼミナル B	杉本 大輔	後期	・ ・ ・	147
6102075	基礎ゼミナル B	横田 肇	後期	・ ・ ・	149

6102076	基礎ゼミナール	B	櫻井 美帆子	後期	151
6102077	基礎ゼミナール	B	湯浅 頼佳	後期	153
6102078	基礎ゼミナール	B	尾西 則昭	後期	155
6102079	基礎ゼミナール	B	西崎 毅	後期	157
6102081	基礎ゼミナール	B	宮嶋 達也	後期	159
6102082	基礎ゼミナール	B	小山 尋明	後期	161
6102083	基礎ゼミナール	B	横山 哲也	後期	163
6102084	基礎ゼミナール	B	長森 正	後期	165
6102085	基礎ゼミナール	B	向井 正伸	後期	167
6102086	基礎ゼミナール	B	佐藤 恵利	後期	169
6102087	基礎ゼミナール	B	千葉 聡美	後期	171
6102089	基礎ゼミナール	B	河田 一郎	後期	173
6102090	基礎ゼミナール	B	大島 康雄	後期	175
6102092	基礎ゼミナール	B	山本 一彦	後期	177
6102093	基礎ゼミナール	B	木村 浩紀	後期	179
6102094	基礎ゼミナール	B	薦田 勇智	後期	181
6102095	基礎ゼミナール	B(再)	河田 一郎	後期	183
7321000	国文学		赤木 良子	後期	185
7726001	基礎統計演習(M)		河野 善文	後期	187
7726002	基礎統計演習(S)		杉本 大輔	後期	189
7726003	基礎統計演習(D)		伊藤 裕康	後期	191
7726004	基礎統計演習(A)		伊藤 裕康	後期	193
1308000	環境学入門		吉田 淳一	後期	195
3104101	英語入門(M)		石田 暁子	後期	197
3104102	英語入門(S)		横田 肇	後期	199
3104103	英語入門(D・A)		宮嶋 達也	後期	201
3204101	中国語入門		孫 暢	後期	203
7098000	自然地理学		鈴木 正章	後期	205
7121000	社会心理学		松下 守邦	後期	207
7506000	建築史		木下 泰男	後期	209
7543000	建築表現		安藤 淳一	後期	211
7798000	沁-ツ生理学		天野 雅斗	後期	213
5207201	デザイン		西田 陽二	後期	215
5304000	建築システム論		向井 正伸	後期	217
6204000	キャリアデザイン		青山 浩之	後期	219
7012200	ソシヤルワ-ク演習		上原 正希	後期	221
7305400	デザイン		上坂 恒章	後期	223
7738000	沁-ツ医学		黒川 泰任	後期	225
7808000	哲学概論		遠藤 均	後期	227
7813000	サトセクタ-論		山本 一彦	後期	229
1202001	社会学入門(M・D・A)		山本 一彦	後期	231
1202002	社会学入門(S)		松下 守邦	後期	233
3402000	日本語		佐藤 恵利	後期	235
6104063	基礎ゼミナール	B	戸佐 晃一	後期	237
6104064	基礎ゼミナール	B	米野 宏	後期	239
6104065	基礎ゼミナール	B	佐藤 和裕	後期	241
6104067	基礎ゼミナール	B	中川 純二	後期	243
6104068	基礎ゼミナール	B	三嶋 康嗣	後期	245
6104069	基礎ゼミナール	B	井坂 肇	後期	247
6104071	基礎ゼミナール	B	田畑 圭悟	後期	249
6104072	基礎ゼミナール	B	篠原 諒介	後期	251
6104073	基礎ゼミナール	B	後藤 啓倫	後期	253
6104074	基礎ゼミナール	B	杉本 大輔	後期	255
6104075	基礎ゼミナール	B	横田 肇	後期	257
6104076	基礎ゼミナール	B	櫻井 美帆子	後期	259
6104077	基礎ゼミナール	B	湯浅 頼佳	後期	261
6104078	基礎ゼミナール	B	尾西 則昭	後期	263
6104079	基礎ゼミナール	B	西崎 毅	後期	265
6104081	基礎ゼミナール	B	小山 尋明	後期	267
6104082	基礎ゼミナール	B	宮嶋 達也	後期	269
6104083	基礎ゼミナール	B	横山 哲也	後期	271
6104084	基礎ゼミナール	B	長森 正	後期	273
6104085	基礎ゼミナール	B	向井 正伸	後期	275
6104086	基礎ゼミナール	B	佐藤 恵利	後期	277
6104089	基礎ゼミナール	B	大島 康雄	後期	279
6104092	基礎ゼミナール	B	竹内 美帆	後期	281
6104093	基礎ゼミナール	B	千葉 聡美	後期	283
6104094	基礎ゼミナール	B	山本 一彦	後期	285
6104095	基礎ゼミナール	B	薦田 勇智	後期	287
6104096	基礎ゼミナール	B(再)	河田 一郎	後期	289
7120000	精神保健福祉援助実習指導		西野 克俊	後期	291
7305201	基礎デザイン		林 春生	後期	293
7725000	財務会計論		川津 大樹	後期	295
7741000	沁-ツ指導論		高井 雅一	後期	297
9119100	特別活動の指導法		若林 利行	後期	299
7021100	現代の精神保健の課題と支援		畠山 明子	後期	301
7305600	イストラ-ション基礎		佐藤 正人	後期	303
7335000	ビジュアルデザイン		田中 靖之	後期	305
7753000	沁-ツと栄養		湯浅 頼佳	後期	307
9125100	生徒・進路指導論		高井 雅一	後期	309

1203001	経済学入門 (M・D・A) 小林 大州介 後期	311
1203002	経済学入門 (経済学概論) (S) 河野 善文 後期	313
3404000	日本語 佐藤 恵利 後期	315
7168000	精神保健福祉援助実習指導 西野 克俊 後期	317
7514000	建築設計演習 日野 桂子 後期	319
7544000	アクションプラン 伊藤 裕康 後期	321
7332000	漫画 三上 いずみ 後期	323
7337000	イラストレーション 浩而 魅諭 後期	325
7600100	建築設計演習 安藤 淳一 後期	327
1207000	外国の歴史 横田 肇 後期	329
5209000	西洋美術史 竹内 美帆 後期	331
7038000	発達心理学 蝦名 美穂 後期	333
7058000	知的障害者の心理・生理・病理 堀川 厚志 後期	335
7545001	建築計画 安藤 淳一 後期	337
7710001	社会心理学 戸佐 晃一 後期	339
7710002	社会心理学 (SP) 戸佐 晃一 後期	341
7720000	トレーニング科学 篠原 諒介 後期	343
9117100	道德教育の指導法 遠藤 均 後期	345
1104001	北海道誌 塩崎 大輔 後期	347
3301001	外国語コミュニケーション (M) 岡島 徳昭 後期	349
3301002	外国語コミュニケーション (S) 信濃 吉彦 後期	351
3301003	外国語コミュニケーション (D・A) 宮嶋 達也 後期	353
5108100	権利擁護を支える法制度 星野 秀治 後期	355
5207001	デザイン 西田 陽二 後期	357
7059000	肢体不自由教育 千葉 聡美 後期	359
7337200	イラストレーション 佐藤 正人 後期	361
C7720000	トレーニング科学 後期	363
5310001	福祉環境計画論 佐々木 哲之 後期	365
5113100	保健医療と福祉 宮崎 剛司 後期	367
5403000	経営組織論 信濃 吉彦 後期	369
7028100	精神保健福祉制度論 大島 康雄 後期	371
7104000	病弱者の心理・生理・病理 千葉 聡美 後期	373
7280000	子どもの理解と援助 吉江 幸子 後期	375
7332100	キャラクターデザイン 三上 いずみ 後期	377
7728000	マクロ経済学 河野 善文 後期	379
7766100	ホビータイムマネジメント論 五ノ井 壽一 後期	381
9106001	教育心理学 (M・D・A) 吉澤 英里 後期	383
9106002	教育心理学 (S) 吉澤 英里 後期	385
5308000	建築構造力学 長森 正 後期	387
7085000	保育内容総論 佐藤 慶知 後期	389
7103000	知的障害教育 藤根 収 後期	391
7144002	人文地理学 塩崎 大輔 後期	393
7555000	CAD演習 向井 正伸 後期	395
7593002	職業指導 (A) 横山 哲也 後期	397
7729000	北海道経済論 小林 大州介 後期	399
7145000	知的障害教育 藤根 収 後期	401
7354000	映像表現 北嶋 洋一 後期	403
7711001	経済学概論 河野 善文 後期	405
7711003	経済学概論 (S) 河野 善文 後期	407
7053001	生涯学習概論 (M) 藤根 収 後期	409
7053002	生涯学習概論 (S・D・A) 藤根 収 後期	411
7291000	造形表現 浩而 魅諭 後期	413
7550000	建築法規 佐藤 善太郎 後期	415
7724000	経営戦略論 鈴木 重政 後期	417
7724001	経営戦略論 (SP) 鈴木 重政 後期	419
7178000	精神疾患とその治療 伊東 隆雄 後期	421
7289000	音楽表現 小黒 万里子 後期	423
7357000	グラフィックデザイン 上坂 恒章 後期	425
7568000	建築表現 安藤 淳一 後期	427
9128000	保健体育科教育法 若林 利行 後期	429
3401400	上級日本語 竜野 征一郎 後期	431
5312000	建築施工 小笠原 健 後期	433
7061000	聴覚障害教育総論 室岡 弘明 後期	435
7742000	管理会計論 鈴木 重政 後期	437
9129000	保健体育科教育法 高井 雅一 後期	439
7190001	国際法 (M) 細川 光法 後期	441
7190002	国際法 (S) 細川 光法 後期	443
7539100	エビュレーション演習 安藤 淳一 後期	445
7706100	ビジネスコミュニケーション演習 本間 智子 後期	447
9131000	保健体育科教育法 高井 雅一 後期	449
9108000	社会科・地理歴史科教育法 塩崎 大輔 後期	451
7570000	アクションプラン 長森 正 後期	453
7730001	国際経済論 (M) 小早川 俊哉 後期	455
7730002	国際経済論 (S) 小早川 俊哉 後期	457
9138000	総合的な学習の時間の指導法 西崎 毅 後期	459
7102000	肢体不自由教育 千葉 聡美 後期	461
7192000	特別支援教育実習 (事後指導) 木村 浩紀 後期	463
7359000	デザイン製図 松岡 龍介 後期	465
7734000	会社法 青山 浩之 後期	467
9113000	社会科・公民科教育法 松下 守邦 後期	469

9139000	介護等体験指導	堀川 厚志	後期	471
7571000	建築設計演習	君 興治	後期	473
7713001	西洋経済史(M)	小林 大州介	後期	475
7713002	西洋経済史(S)	小林 大州介	後期	477
7737100	グラフィック表現	由水 伸	後期	479
9122001	商業科教育法	大庭 隆	後期	481
7362000	技法・材料研究	安田 祐造	後期	483
9124001	商業科教育法	大庭 隆	後期	485
7365000	彫刻	梅田 力	後期	487
7732001	国際政治論(M)	後藤 啓倫	後期	489
7732002	国際政治論(S)	後藤 啓倫	後期	491
7350000	日本画	岡 恵子	後期	493
7370001	漫画	鴨 修平	後期	495
7573100	建築環境	伊藤 裕康	後期	497
7758000	イノベーション論	阿部 裕樹	後期	499
7372000	造形論	松岡 龍介	後期	501
7581000	鋼構造	長森 正	後期	503
7759000	e-ビジネス論	阿部 裕樹	後期	505
7763000	ビジネス法務	青山 浩之	後期	507
7374000	東洋・日本美術史	苦名 真	後期	509
7588000	建築法規	佐藤 善太郎	後期	511
5107100	貧困に対する支援	星野 秀治	後期	513
7583000	建築生産	小笠原 健	後期	515
5110100	児童・家庭福祉	杉本 大輔	後期	517
7589000	建築の職能と倫理(4年)	安藤 淳一	後期	519
9127001	教育相談(カウンセリングを含む。)(M・D・A)	蝦名 美穂	後期	521
9127002	教育相談(カウンセリングを含む。)(S)	蝦名 美穂	後期	523
7380001	彫刻(3年)	国松 明日香	後期	525
7380002	彫刻(4年)	国松 明日香	後期	527
7749000	情報ネットワーク論	由水 伸	後期	529
7142000	障害児保育	坂上 俊樹	後期	531
9103000	教育史	西崎 毅	後期	533
7024100	精神保健福祉の原理	西野 克俊	後期	535
7311000	工芸実習(オムニバス)	林 春生	後期	537
7765001	産業心理学(M)	吉澤 英里	後期	539
7765002	産業心理学(S)	吉澤 英里	後期	541
9104001	教育行政学(M・D・A)	木村 浩紀	後期	543
9104002	教育行政学(S)	木村 浩紀	後期	545
7764001	コミュニティ心理学(M)	吉澤 英里	後期	547
7764002	コミュニティ心理学(S)	吉澤 英里	後期	549
7105001	民法(M)	青山 浩之	後期	551
7105002	民法(S)	青山 浩之	後期	553
7369001	工芸実習(漆)	三上 いずみ	後期	555
7369002	工芸実習(金工)	梅田 力	後期	557
7369003	工芸実習(染色)	中島 義博	後期	559
7369004	工芸実習(版表現)	鳴海 伸一	後期	561
7557000	応用数学	横山 哲也	後期	563
7011100	地域福祉と包括的支援体制	上原 正希	後期	565
9112000	工業科教育法	横山 哲也	後期	567
9114000	美術科教育法	竹内 美帆	後期	569
5105100	社会学と社会学	松下 守邦	後期	571
7782300	金融論	小林 大州介	後期	573
7599000	アクションゲーム	君 興治	後期	575
7782400	地域政策論	信濃 吉彦	後期	577
7810000	倫理学概論	遠藤 均	後期	579
9118000	工芸科教育法	三上 いずみ	後期	581
7751001	クリエイション概論	尾西 則昭	後期	583
7318300	WEBデザイン	山腰 雅樹	後期	585
7614000	建築学特講	柿沼 博彦	後期	587
7006101	ソーシャルワークの理論と方法(M)	櫻井 美帆子	後期	589
7006102	ソーシャルワークの理論と方法(S)	櫻井 美帆子	後期	591
7319300	WEBデザイン	山腰 雅樹	後期	593
7615000	建築学特講	柿沼 博彦	後期	595
9123000	視聴覚教育	上坂 恒章	後期	597
7007101	ソーシャルワークの理論と方法(M)	櫻井 美帆子	後期	599
7007102	ソーシャルワークの理論と方法(S)	櫻井 美帆子	後期	601
5202000	美術学概論	寺嶋 弘道	後期	603
7327000	洋画	安田 祐造	後期	605
7188001	日本政治史(M)	後藤 啓倫	後期	607
7188002	日本政治史(S)	後藤 啓倫	後期	609
7319100	グラフィックデザイン	北嶋 洋一	後期	611
9134000	教職実践演習	塩崎 大輔	後期	613
7522300	二級建築士演習	佐藤 善太郎	後期	615
7319200	グラフィックデザイン	林 春生	後期	617
7522500	二級建築士演習	佐藤 善太郎	後期	619
7824000	絵画	西田 陽二	後期	621
7322300	グラフィックデザイン	林 春生	後期	623
7791000	運動学(運動方法学を含む。)	米野 宏	後期	625
7818000	コーチング方法論	伊藤 博	後期	627
7790100	柔道	中川 純二	後期	629

7613000	アクションゲーム	佐藤 善太郎	後期	・ ・ ・	631
7805000	精神保健 (2年)	畠山 明子	後期	・ ・ ・	633
7805001	精神保健 (3年)	畠山 明子	後期	・ ・ ・	635
7319600	アニメーション	梅田 真紀	後期	・ ・ ・	637
7807100	ダンス	天野 雅斗	後期	・ ・ ・	639
7319700	アニメーション	梅田 真紀	後期	・ ・ ・	641
7755000	テーマ-ス論	由水 伸	後期	・ ・ ・	643
7795201	陸上競技	戸佐 晃一	後期	・ ・ ・	645
7794100	球技 (バドミントン)	戸佐 晃一	後期	・ ・ ・	647
7803100	球技 (ラグビー)	佐藤 和裕	後期	・ ・ ・	649
7198000	スクールソーシャルワーク論	上原 正希	後期	・ ・ ・	651
7282000	スクールソーシャルワーク演習	上原 正希	後期	・ ・ ・	653
7806000	精神保健	畠山 明子	後期	・ ・ ・	655
7297000	社会的養護	杉本 大輔	後期	・ ・ ・	657
7296000	子どもの健康と安全	宮崎 剛司	後期	・ ・ ・	659
7482000	保育の計画と評価	吉江 幸子	後期	・ ・ ・	661
7484000	保育内容演習 (人間関係)	松下 守邦	後期	・ ・ ・	663
7299000	保育実践演習	吉江 幸子	後期	・ ・ ・	665
7292000	造形表現	浩而 魅諭	後期	・ ・ ・	667
7293000	言語表現	吉江 幸子	後期	・ ・ ・	669
7295000	乳児保育	吉江 幸子	後期	・ ・ ・	671
7025100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	西野 克俊	後期	・ ・ ・	673
7026100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	西野 克俊	後期	・ ・ ・	675
7014100	ソーシャルワーク演習(専門)	杉本 大輔	後期	・ ・ ・	677
7016100	ソーシャルワーク実習指導	杉本 大輔	後期	・ ・ ・	679
7018100	ソーシャルワーク実習指導	杉本 大輔	後期	・ ・ ・	681
7030100	ストレスとメンタルヘルス	吉澤 英里	後期	・ ・ ・	683
7022100	現代の精神保健の課題と支援	畠山 明子	後期	・ ・ ・	685
7197000	社会福祉特講	櫻井 美帆子	後期	・ ・ ・	687

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング: HUG122129, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

海外の事例と身近な事例を通して地誌学の基礎概念や方法論に触れ、議論することができる知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

地誌学の基礎を身につける。  
東南アジアの事例から、地域と経済の関係を考えることができる。

授業全体の内容と概要

本授業では東南アジアを対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係をj通じて地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また東南アジアというグローバルな視点から日本との関係を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まずマレーシアを中心とした東南アジアの地理的条件および産業を学び、アジア通貨危機と世界金融危機によってどのような影響を受けたのかを解説する。そして東南アジア諸国における港湾の発達、知的クラスターの形成、そして生み出された知的財産家の保護に焦点をあて説明する。  
「SDGs4・質の高い教育をみんなに」および「SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。教科書を中心にスライド資料及び映像資料を交えながら講義を進める。そのため、教科書を必ず用意すること。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。  
講義内で適宜連絡する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域をより深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング: HUG122129, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『東南アジアの経済発展と世界金融危機』	橋本 雄一	古今書院	2014	4772252746	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(授業内容と課題・評価基準の説明含む)	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地誌学概論	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地誌学の位置づけ	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	東南アジアの地理的条件	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	マレー半島の歴史	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	東南アジアの産業政策	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	東南アジアにおける開発と経済変化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	アジア通貨危機の概要と発生	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	アジア通貨危機と東南アジア経済	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	世界金融危機の概要と発生	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	世界金融危機による東南アジアへの影響	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
12	東南アジアにおけるインフラ整備と地域開発	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	東南アジアにおける知的クラスターの形成	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	東南アジアにおける知的財産権に関する制度整備と特許	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	これからの地理教育における地誌の課題	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211013)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。また自由制作では、作品プレゼンテーションも行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。  
 必要な材料、用具を事前に指示するので、各自忘れずに用意すること。  
 「立体構成」の展開講座のため、立体構成を履修済みの者が対象。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。  
 評価は作品点(40%)、ポートフォリオ点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。  
 講義の前中で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。また遅刻3回で欠席1回と見做す。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。またデザイン原理を活用しようとしている。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211013)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美的構成学で学ぶ』	パウハウスからフラクタルまで 三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事(45分)
2	素材について	身近な素材について、考察してくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
3	素材研究1 線材1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
4	素材研究1 線材1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
5	素材研究2 線材2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
6	素材研究2 線材2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
7	素材研究3 線材3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
8	素材研究3 線材3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
9	素材研究4 面1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
10	素材研究4 面1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
11	素材研究5 塊1 彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
12	素材研究5 塊1 彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
13	素材研究6 塊2 塑像1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
14	素材研究6 塊2 塑像1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
15	素材研究7 塊3 塑像2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
16	素材研究7 塊3 塑像2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	構成の応用1 (課題説明)	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
18	構成の応用1 (アイデア出し)	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
19	構成の応用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
20	構成の応用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
21	構成の応用3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
22	構成の応用3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
23	構成の応用4	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
24	構成の応用4	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
25	構成の応用5	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
26	構成の応用5	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
27	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
28	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
29	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
30	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評、授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (M) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには「ばらつき」が存在する。この「ばらつき」の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標
記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス教育の関連授業科目。記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらおう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業はパワーポイント及び教科書・配布資料で実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・USBメモリーを持参すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</li> </ul>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	15%	0%	0%	25%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	15%	0%	0%	25%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>記述統計についての理解</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。</td> <td>与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。</td> <td>平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布図について理解できた。</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成できた。</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>確率と確率分布についての理解</td> <td>確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。</td> <td>確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。</td> <td>確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。</td> <td>確率変数や確率分布について理解できた。</td> <td>確率変数や確率分布について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>標本分布についての理解</td> <td>正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。</td> <td>データの標準化について理解することができた。</td> <td>正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。</td> <td>正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。</td> <td>正規分布表の見方を理解できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布図について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。	確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。	標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布図について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。																								
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。																								
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門(M) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明/データの整理について	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
9	演習問題(度数分布表・平均値・分散)	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(60分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習すること(90分)	試験内容について復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (S) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには「ばらつき」が存在する。この「ばらつき」の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)に対応する。

到達目標
記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス教育の関連授業科目。記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらおう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業はパワーポイント及び教科書・配布資料で実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・USBメモリーを持参すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</li> </ul>

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	15%	0%	0%	25%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	15%	0%	0%	25%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>記述統計についての理解</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。</td> <td>与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。</td> <td>平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成できた。</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>確率と確率分布についての理解</td> <td>確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。</td> <td>確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。</td> <td>確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。</td> <td>確率変数や確率分布について理解できた。</td> <td>確率変数や確率分布について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>標本分布についての理解</td> <td>正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。</td> <td>データの標準化について理解することができた。</td> <td>正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。</td> <td>正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。</td> <td>正規分布表の見方を理解できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。	確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。	標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。																								
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。																								
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (S) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明/データの整理について	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
9	演習問題(度数分布表・平均値・分散)	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(60分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習すること(90分)	試験内容について復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (D) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには「ばらつき」が存在する。この「ばらつき」の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP(2)に対応する。

到達目標
記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス教育の関連授業科目。記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらおう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業はパワーポイント及び教科書・配布資料で実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・USBメモリーを持参すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	15%	0%	0%	25%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	15%	0%	0%	25%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布図について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門(D) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明/データの整理について	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
9	演習問題(度数分布表・平均値・分散)	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(60分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習すること(90分)	試験内容について復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (A) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには「ばらつき」が存在する。この「ばらつき」の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP (2) に対応する。

到達目標
記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要
数理・データサイエンス教育の関連授業科目。記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらおう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業はパワーポイント及び教科書・配布資料で実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他 (授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他 (授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他 (授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・USBメモリーを持参すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</li> </ul>

修学サポート (合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	15%	0%	0%	25%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	15%	0%	0%	25%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>記述統計についての理解</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。</td> <td>与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。</td> <td>平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成できた。</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>確率と確率分布についての理解</td> <td>確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。</td> <td>確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。</td> <td>確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。</td> <td>確率変数や確率分布について理解できた。</td> <td>確率変数や確率分布について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>標本分布についての理解</td> <td>正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。</td> <td>データの標準化について理解することができた。</td> <td>正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。</td> <td>正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。</td> <td>正規分布表の見方を理解できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。	確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。	標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。																								
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。																								
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門(A) (科目ナンバリング: STS071047)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明/データの整理について	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
9	演習問題(度数分布表・平均値・分散)	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること(90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(60分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習すること(90分)	試験内容について復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M) (科目ナンバリング: SOF061043)					
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

- 本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
  - ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
  - ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
  - ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマ一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGsに関連授業科目である。  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M) (科目ナンバリング: S0F061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-2) (科目ナンバリング: SOF061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

- 本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
  - ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
  - ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
  - ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGｓ関連授業科目である。  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-2) (科目ナンバリング: S0F061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-3) (科目ナンバリング: SOF061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。

- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
- ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
- ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
- ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDG5「関連授業科目である」。
- ・SDG4「質の高い教育をみんなに」。

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

<p>修学サポート(合理的配慮)</p>
<p>資格指定科目</p> <p>教職課程(全教科)必須科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-3) (科目ナンバリング: S0F061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング: SOF061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、宮崎 剛司(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(宮崎)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(3)に対応する。

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。

- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
- ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
- ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
- ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGｓ関連授業科目である。  
 1 SDG4「質の高い教育をみんなに」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング: S0F061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、宮崎 剛司(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(宮崎)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング: SOF061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館5階(北嶋)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場合だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)に対応する。

到達目標

- 本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
  - ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
  - ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
  - ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。  
「SDGs4: 質の高い教育をみんなに」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
-	-	100%	-	-	-

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング: S0F061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館5階(北嶋)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング: SOF061043)					
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館8階(伊藤)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。  
 ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。  
 ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。  
 ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。  
 ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。  
 ・個人別作成編では、テーマ一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。  
 ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。  
 ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。  
 ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。  
 ・本科目は、以下のSDGsに関連授業科目である。  
 ・SDGs 4: 質の高い教育をみんなに

授業の方法

・ICTを活用した講義体制となる。  
 ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。  
 ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。  
 ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。  
 ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。  
 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。  
 ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
-	-	100%	-	-	-

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング: S0F061043)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館8階(伊藤)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語の基礎運用を場面ごとに理解することを目的とする。具体的には翻訳アプリを併用しながら基本的なコミュニケーションを行うことができる土台(基礎会話および定型・応用表現)の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

基礎英語の内容をさらに深め、「辞書さえあれば英語は大丈夫!」といった自信を持つことができる。加えて、会話力へ繋がる文法事項・表現方法を習得することができる。

授業全体の内容と概要

場面における会話の運用や日常の基礎表現を英語で行うことができるようVoiceTraを併用しながら、学習する。  
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらおう。  
指定翻訳アプリ: VoiceTra  
<VoiceTra(ボイストラ)はNICT(エヌアイシーティ: 国立研究開発法人情報通信研究機構)が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

平常点を重視する。遅刻は20分までとし2回の遅刻を以って欠席1回とする。特別な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英文日記を課し、採用する。  
前向きな課題の提出には、加点する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。初回授業(科目オリエンテーション)終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。12回以上の出席を基準とし10回の出席を確保できないものは再履修とする。  
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	10%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、英語の理解において必要となる文法・語法を学び、英語によるコミュニケーション力の基礎がほぼ確立している。	課題に取り組み、英語の語彙力や文法・語法への理解が深まりつつある。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーション力の重要性や基本文法の理解に対する努力が見られる。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーションの基礎を理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、英語による情報交換の基本に対する進歩が見られず、自分なりの学習ができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も密であり国際言語獲得に関して前向きで、努力が見られる。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『カラー改訂版 世界一わかりやすい英文法の授業』VoiceTraとその使い方	関 正生 著	株式会社KADOKAWA	2021	9787-4-04-602288-2	基礎英語と同じ
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 英語の構造に関する基本的な考え方(おさらい) VoiceTraとその使い方	専用のノートを準備する(90分)	自分の弱点確認(90分)
2	基礎英語 の復習	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
3	基礎英語 の復習	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
4	基礎英語 の復習	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
5	日常表現と定型句	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
6	日常表現と定型句	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
7	アメリカの大学	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
8	アメリカの大学	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
9	見落としがちな重要事項	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
10	見落としがちな重要事項	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
11	教科書パート5	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
12	教科書パート6	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
13	教科書パート7	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
14	教科書 パート8	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
15	文法の補足とテストビュー 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む(90分)	期末試験に備える(90分)
16	試験(60分)及び授業総評(30分)	試験準備(150分)	授業内容の振り返り(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文法、読解、作文などの演習をとおし、英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業全体の内容と概要

英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習をとおし、英語運用能力の向上を図る。  
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の4技能向上を目指し、学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席重視。テキスト・辞書持参  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・語彙・文法・読解等)	定期試験・中間試験で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英検準2級 合格への道』	坂部俊行、岡島徳昭 他	南雲堂	2011	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関するガイダンス。(シラバスの説明)	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	Lesson 7 語句空所補充 読解の基礎練習 Choosing a Pet	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	Lesson 7 語句空所補充 読解の基礎練習 Choosing a Pet	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	Lesson 8 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	Lesson 8 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	Lesson 9 語句空所補充 読解の基礎練習 Gaming and Relation-	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	Lesson 9 語句空所補充 読解の基礎練習 Gaming and Relation-	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	中間テスト	試験の準備学習。(90分)	試験の復習。(90分)
9	Lesson 10 語句空所補充 読解の基礎練習 Music before Birth	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	Lesson 10 語句空所補充 読解の基礎練習 Music before Birth	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	Lesson 11 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	Lesson 11 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	Lesson 12 語句空所補充 読解の基礎練習 Crayola Crayo	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	Lesson 12 語句空所補充 読解の基礎練習 Crayola Crayo	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	全体復習 Simulation Test (P-76)	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施	リーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のD P (2)に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。  
「Sdc 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳しておくことを課題とし、学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認する。最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は、前期の「基礎英語」と同じものを継続して使用する。一回目の授業から持参すること。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身につけていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミス指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英文和訳)への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋 哲徳 他	朝日出版社	2017	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 比較の表現	テキストp.42-45 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.46 予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
3	助動詞の基本的用法・過去形	テキストp.47-49 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.50 予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
5	受動態	テキストp.51-53 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.54予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
7	現在分詞と過去分詞の用法	テキストp.55-58 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.59 予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
9	不定詞の基本と用法	テキストp.61-64 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.65 予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
11	動名詞の基本と用法	テキストp.67-70 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.71 予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
13	接続詞の種類・時制の一致	テキストp.73-76 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.77 予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信する力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・15分以上の遅刻は欠席とみなす
- ・遅刻2回で欠席1回とする
- ・授業には必ずテキストを持参すること。
- ・不足の事柄の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	40%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で90点以上の得点を上げた。	定期試験で75点以上の得点を上げた。	定期試験で60点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で50点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限で達成できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関しては最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『English Day! 過ごしてみる』 やさしい英語でまるごと1日	Robert Hickling	金星堂	2023	9784764741690	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく (90分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	Unit 8 現在進行形と過去進行形 単語テスト	Unit 8の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
3	Unit 8 現在進行形と過去進行形 文法テスト	Unit 8の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
4	Unit 9 未来時制(willとbe going to) 単語テスト	Unit 9の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
5	Unit 9 未来時制(willとbe going to) 文法テスト	Unit 9の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
6	Unit 10 現在完了形 単語テスト	Unit 10の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
7	Unit 10 現在完了形 文法テスト	Unit 10の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
8	Unit 11 助動詞 単語テスト	Unit 11の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
9	Unit 11 助動詞 文法テスト	Unit 11の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
10	Unit 12 不定詞と動名詞 単語テスト	Unit 12の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
11	Unit 12 不定詞と動名詞 文法テスト	Unit 12の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
12	Unit 13 比較級と最上級 単語テスト	Unit 13の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
13	Unit 13 比較級と最上級 文法テスト	Unit 13の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
14	Unit 14 接続詞 単語テスト	Unit 14の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
15	Unit 14 接続詞 文法テスト	Unit 14の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
16	期末試験(60分)・解説(30分) 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)					
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標	英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
------	--

授業の位置づけ

社会福祉学科のD P ( 2 ) ( 4 ) に対応する。  
デザイン学科のD P ( 2 ) ( 4 ) に対応する。  
建築学科のD P ( 2 ) ( 4 ) に対応する。

到達目標

英語の5つの文型についてその概要を理解できる。  
修飾語・句・前についてその概要を理解できる。  
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、プリントや教材提示装置を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forns の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

○講義の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。  
プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。  
欠席した場合は、Microsoft Teams上に格納したファイルを活用しプリント等を入手すること。  
講義中の私語・居眠り等は厳に慎むこと。  
講義中のスマートフォンの使用は英単語の検索など英語学習に関わるものに限定する。  
講義開始のチャイム後、教員入室以降の入室は、すべて「遅刻」の扱いとする。  
講義開始時刻までに用度を済ませておくこと。  
30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。  
受講姿勢及び課題の実施状況はすべて点数化・集積し、評価に活用する。  
S評価は全体の10%、S評価とA評価を合わせて40%以内が目安となっている。  
私語、スマートフォンの目的外使用、居眠り等の授業妨害については、別途評価点を減じる。

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は11回。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で9割以上の得点を上げた。	定期試験で8割以上の得点を上げた。	定期試験で7割以上の得点を上げた。	定期試験で6割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が6割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*基礎英語 で使用したテキストを継続使用する					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 5文型の復習 授業改善アンケート結果反映の説明	英語についての自己の課題を考慮しておくこと。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
2	5文型の復習 リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
3	5文型の復習 リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
4	準動詞 リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
5	準動詞 リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
6	準動詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
7	準動詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
8	接続詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
9	接続詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
10	接続詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
11	接続詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
12	関係詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
13	関係詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
14	関係詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 (90分)
15	関係詞 リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。 (90分)	前回までの学修内容を復習すること。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。	前回までの学修内容を復習すること。(90分)	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価すること。 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶための英語科目であり、講義と演習(ペアワークとグループワーク)を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。文法ベースで初級から徐々に積み上げることで、最終的にはコミュニケーションに生かせる力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

文法やリスニングを中心にやさしい英語で書かれた文での練習を通じて、英文がどのような構成要素から成り立っているのかを明確に把握する。英会話に最低限必要な語彙力、文法力を身につけて、スピーキング、ライティングなどのアウトプットへの発展を意図する。英語で5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べるができる。

授業全体の内容と概要

既存の英語知識を活用させ、スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、4技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中の表現を利用し、様々なコミュニケーションの構造(挨拶、スモール・トーク、質問する、意見を述べる)を理解し、表現することを目標とする。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でダウンロードし自習用音声として活用する。NAU'UN-DO(http://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲の単語などの意味を調べておくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も、評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リスニング技能	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング技能を問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	"Speaking of People"	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 英語他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 (90分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(90分)
2	Modal Verbs (法助動詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
3	Modal Verbs (法助動詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
4	Unit 7 Tell Me About Your Family	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
5	Unit 8 Communication	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
6	Unit 9 How Are You Feeling?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
7	Review Units 7-9	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
8	Grammar Present perfect (完了形)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
9	Grammar Present perfect (完了形)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
10	中間テスト	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
11	Unit 10 Memories	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
12	Unit 11 How Healthy Are You?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
13	Unit 12 You Can Fly!	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
14	Review Units 10-12	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
15	Review 1	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。(90分)	授業で説明を受けた解説を復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
------

学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を理解する。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションについて理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

学生が英語の基礎的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎的理解と習得ができている。また、平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができる能力を身に付けている。さらに、平易な英会話ができるようになる。

授業全体の内容と概要

毎回、テキストに即し、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて関連する読解、作文、英会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

授業の方法

毎回、テキストに即し、パワーポイントと板書、配布資料により各項目の全体的な説明(一言)を行ない、その後、個人・グループワークによる練習問題(課題)の解答を行う。解答後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック(コメント)と課外学習(宿題)についての指示を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録画を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎が完全に理解できており、十分に活用することができた。	英文法の基礎がほぼ理解できており、ある程度活用することができた。	英文法の基礎が大体理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が完全に理解でき、十分に活用することができた。	テキスト内の英文がほぼ理解でき、ある程度活用することができた。	テキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	*Simply Grammar 改訂版	K.Saito	南雲堂	2017	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読んでおく(90分)	Unit 3 練習問題の予習(90分)
2	英文法と英語の運用について(1) 未来形	Unit 3 練習問題の予習(90分)	Unit 3 練習問題の復習(90分)
3	英文法と英語の運用について(2) 未来形	Unit 3 練習問題の予習(90分)	Unit 3 練習問題の復習(90分)
4	英文法と英語の運用について(3) 助動詞	Unit 4 練習問題の予習(90分)	Unit 4 練習問題の復習(90分)
5	英文法と英語の運用について(4) 助動詞	Unit 4 練習問題の予習(90分)	Unit 4 練習問題の復習(90分)
6	英文法と英語の運用について(5) 冠詞	Unit 5 練習問題の予習(90分)	Unit 5 練習問題の復習(90分)
7	英文法と英語の運用について(6) 冠詞	Unit 5 練習問題の予習(90分)	Unit 5 練習問題の復習(90分)
8	英文法と英語の運用について(7) 代名詞	Unit 6 練習問題の予習(90分)	Unit 6 練習問題の復習(90分)
9	英文法と英語の運用について(8) 前置詞	Unit 7 練習問題の予習(90分)	Unit 7 演習問題の復習(90分)
10	英文法と英語の運用について(9) 前置詞	Unit 7 練習問題の予習(90分)	Unit 7 練習問題の復習(90分)
11	英文法と英語の運用について(10) 接続詞	Unit 8 説明文の予習(90分)	Unit 8 練習問題の復習(90分)
12	英文法と英語の運用について(11) 進行形	Unit 9 説明文の予習(90分)	Unit 9 練習問題の復習(90分)
13	英文法と英語の運用について(12) 受動態	Unit 10 説明文の予習(90分)	Unit 10 練習問題の復習(90分)
14	英文法と英語の運用について(13) 完了形	Unit 11 説明文の予習(90分)	Unit 11 練習問題の復習(90分)
15	英文法と英語の運用について(14) 完了形	Unit 11 練習問題の予習(90分)	Unit 11 全体の復習(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	既習事項の復習(90分)	既習事項の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2	(単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のD P ( 2 ) ( 4 ) ( 5 ) に対応する。  
デザイン学科のD P ( 2 ) ( 4 ) に対応する。  
建築学科のD P ( 2 ) ( 4 ) に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信する力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・15分以上の遅刻は欠席とみなす
- ・遅刻2回で欠席1回とする
- ・授業には必ずテキストを持参すること。
- ・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	40%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で90点以上の得点を上げた。	定期試験で75点以上の得点を上げた。	定期試験で60点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で50点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限で達成できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関しては最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041030)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『English Day! 通じてみる』 やさしい英語でまるごと1日	Robert Hickling	金星堂	2023	9784764741690	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく (90分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	Unit 8 現在進行形と過去進行形 単語テスト	Unit 8の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
3	Unit 8 現在進行形と過去進行形 文法テスト	Unit 8の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
4	Unit 9 未来時制(willとbe going to) 単語テスト	Unit 9の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
5	Unit 9 未来時制(willとbe going to) 文法テスト	Unit 9の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
6	Unit 10 現在完了形 単語テスト	Unit 10の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
7	Unit 10 現在完了形 文法テスト	Unit 10の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
8	Unit 11 助動詞 単語テスト	Unit 11の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
9	Unit 11 助動詞 文法テスト	Unit 11の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
10	Unit 12 不定詞と動名詞 単語テスト	Unit 12の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
11	Unit 12 不定詞と動名詞 文法テスト	Unit 12の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
12	Unit 13 比較級と最上級 単語テスト	Unit 13の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
13	Unit 13 比較級と最上級 文法テスト	Unit 13の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
14	Unit 14 接続詞 単語テスト	Unit 14の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
15	Unit 14 接続詞 文法テスト	Unit 14の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
16	期末試験(60分)・解説(30分) 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング: GER051035)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知ってほしいことについて紹介および解説を行う。  
\*SDS 4.質の高い教育をみんなにの関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング: GER051035)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『気分はドイツ(改訂版)』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
2	【話法の助動詞について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
3	【話法の助動詞の用法について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
4	【ヒアリング練習】 ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
5	【形容詞について】 ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
6	【形容詞の比較・副詞的用法について】 比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
7	【分離動詞について】 分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
8	【動詞の3基本形について】 動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
9	【過去形の変化について】 過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
10	【完了形について】 ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
11	【完了形の用法について】 完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
12	【関係代名詞について】 関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
13	【受動態について】 受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
14	【zu不定詞について】 不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
15	【接続法について】 接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
16	【定期試験および解説】 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	試験に向け全体を復習すること。(90分)	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (科目ナンバリング: GER051035)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		
オフィスアワー					

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知ってほしいことについて紹介および解説を行う。  
\*SDS 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (科目ナンバリング: GER051035)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『気分はドイツ(改訂版)』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
2	【話法の助動詞について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
3	【話法の助動詞の用法について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
4	【ヒアリング練習】 ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
5	【形容詞について】 ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
6	【形容詞の比較・副詞的用法について】 比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
7	【分離動詞について】 分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
8	【動詞の3基本形について】 動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
9	【過去形の変化について】 過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
10	【完了形について】 ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
11	【完了形の用法について】 完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
12	【関係代名詞について】 関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
13	【受動態について】 受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
14	【zu不定詞について】 不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
15	【接続法について】 接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
16	【定期試験および解説】 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	試験に向け全体を復習すること。(90分)	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	健康科学 (M) (科目ナンバリング: HSS031028)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授) 中川 純二 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階 (米野) 1号館2階 (中川) 1号館2階 (石井 祐治)		
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制				
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関において、20年間にわたり健康・体育・スポーツをテーマに授業を担当した経験を活かし講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

生涯教育の一環として、健康やスポーツについての基礎的かつ科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けての望ましい健康観を確立し、豊かな人間性の育成に役立てる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

人間の健康や体力の向上に向けて、科学的な知識を身につける。自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できるようになる。

授業全体の内容と概要

授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義について、および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

3名の教員がオムニバス形式で行う。各教員ともパワーポイントや板書による講義形式で行うが、進展に応じ、質問やビデオ視聴などで理解を深めさせる。各教員が担当したテーマにおいて小テストも実施する。小テストの実施方法や評価等については各教員から改めて連絡する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業に関係のない私語は慎むとともに、スマホ、携帯電話等の電源は必ず切ること。授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので、欠席しないようにすること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康および体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。さらに人間の健康観において歴史の変遷も理解していた。体力の概念についても免疫や筋について深い知識を持っていた。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識もあり行動体力、防衛体力について深い理解があった。	WHOの健康の概念以外にも深い理解がさあつた。体力についても構成要素以外の知識があった。	WHOの健康概念や体力の構成要素については理解した。	人間の健康観や体力についての知識や理解がほとんど欠けていた。
運動及び栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動および栄養に関する専門的な知識が得られた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が比較的豊かであり、実践する上での方方も理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が比較的豊かになった。	健康な生活における運動および栄養に関する基本的な知識がえられた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識や関心がほとんど得られなかった。
現代の健康問題に対する知識と関心	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、専門的な深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、比較的深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があり予防に対する関心や意識もえられた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識は得られた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する知識、意識、関心がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学 (M) (科目ナンバリング: HSS031028)				
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授) 中川 純二 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階 (米野) 1号館2階 (中川) 1号館2階 (石井 祐治)		
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 教育機関において、20年間にわたり健康・体育・スポーツをテーマに授業を担当した経験を活かし講義する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林、小島、尾西、小山、佐藤、中川、米野、石井、天野	三和書籍	2023	798-4-86251-487-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、健康の概念 シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
2	体力の概念 (担当: 米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
3	運動と健康 (運動と身体変化) (担当: 米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
4	運動と健康 (運動の効果) (担当: 米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
5	運動と健康 (運動処方)、小テスト (担当: 米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
6	栄養と生活 (栄養素) (担当: 石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
7	栄養と生活 (食生活) (担当: 石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
8	運動と身体 (トレーニングの原理・原則) (担当: 石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
9	運動と身体 (運動とエネルギー) (担当: 石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
10	運動と身体 (スポーツと怪我)、小テスト (担当: 石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
11	救急処置 (救急処置の原則) (担当: 中川)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
12	救急処置 (救急蘇生) (担当: 中川)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
13	健康問題 (生活習慣病) (担当: 中川)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
14	健康問題 (中毒) (担当: 中川)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
15	健康問題 (感染症、精神の病気)、小テスト (担当: 中川)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施 (担当: 米野、石井、中川)	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。(90分)	解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学 ( S ) ( 科目ナンバリング : HSS031028 )				
授業担当者 ( 所属・職名 )	尾西則昭 ( 社会福祉学科・特任教授 )		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 ( 単位認定責任者 : 尾西 則昭 )	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本学および専門学校において、健康科学の授業を担当した経験を活かして指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯学習の一環として、健康やスポーツについての基礎的かつ科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を確立し、豊かな人間性の育成に役立て指導する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する。

到達目標

人間の健康や体力の向上に向け、科学的な知識を身につける。  
自らの健康問題やスポーツ活動に層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できる。

授業全体の内容と概要

授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。  
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業科目。

授業の方法

授業は板書及び配布資料で講義を実施する。終了後、振り返りシートに理解できたこと、あるいは理解できなかったことを書いてもらい次回フィードバックとして回答を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	P B L
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。  
20分以上の遅刻は欠席とみなします。  
授業に臨む際に求められる態度、姿勢、授業に集中して聞くこと。  
授業中の私語は慎んでください。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	0%	10%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康および体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念や体力の構成要素について深く知識を理解することができた。	WHOの健康の概念や体力の構成要素についておおむね理解できた。	WHOの健康の概念や体力の構成要素についての基礎的な知識が比較的理解できた。	WHOの健康概念や体力の構成要素について多少理解できた。	WHOの健康概念や体力の構成要素についてほとんど理解できなかった。
運動および栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動および栄養に関する専門的な知識を深く理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する専門的な知識をおおむね理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が比較的理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する基本的な知識が多少理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が理解できなかった。
現代の健康問題に対する知識と感心	生活習慣病や健康問題についての知識を深く理解できた。	生活習慣病や健康問題についておおむね理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識が比較的理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識が多少理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識を理解することができなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学 (D) (科目ナンバリング: HSS031028)				
授業担当者 (所属・職名)	小山 尋明 (建築学科・准教授)、佐藤 和裕 (経営学科・准教授)、三嶋 康		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	生涯教育の一環として、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を育成する。
授業の位置づけ	デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標	人間の健康や体力の向上に向けて、科学的な知識を身につける。自らの健康問題やスポーツ活動に層深い関心を持って、生涯の健康作りに留意できる。
------	--

授業全体の内容と概要	授業の進展に応じ、ビデオを利用しながら理解を確実なものにする。また、救急蘇生法の時間には、正しい救急蘇生法についての知識を身につけることが、人を救うことに繋がることを念頭に置き、実際に体育館において3時間の普通救命講習会を実施する。
------------	--

授業の方法	授業では、プリントを活用しながら様々な事例を踏まえ紹介し、スポーツ障害対処法(心肺蘇生法・状況別の心肺蘇生法・患者の運搬法など)のビデオなどを利用し講義形式で行う。また、小テストを時間内に数回行いフィードバックとして回収後、回答の解説を行う。救急救命士数名による普通救命講習会も実施する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○
			双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	授業に関係ない私語は慎むとともに、携帯電話等の電源は必ず切ること。出席は重視しますので、特に、授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので、欠席しないようにすること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康及び体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念以外にも深い理解がなされていた。さらに人間の健康観において歴史的変換も理解していた。体力の概念についても免疫や菌について深い知識を持っていた。	WHOの健康の概念以外にも深い理解がなされていた。体力についても構成要素以外の知識もあり行動体力防衛体力についても深い理解があった。	WHOの健康の概念以外にも深い理解がなされていた。体力についても構成要素以外の知識があった。	WHOの健康の概念や体力の構成要素については理解していた。	人間の健康観や体力についての知識や理解力がほとんど欠けていた。
運動及び栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動及び栄養に関する専門的な知識が備わっていた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであり、実践する上での処方も理解していた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであった。	健康な生活における運動及び栄養に関する基本的な知識があった。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識や関心がほとんど欠けていた。
現代の健康問題に対する知識と関心	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、専門的に深い知識があり予防に対する関心や意識も強かった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、比較的深い知識があり予防に対する関心や意識も強かった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があり予防に対する関心や意識もあった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する知識は、意識、関心がほとんど欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学(D) (科目ナンバリング:HSS031028)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)、佐藤和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林, 小島, 尾西, 小山, 佐藤, 中山, 米野, 石井, 天野,	三和書籍	2023	978-4-86251-487-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明。)授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	健康 (健康の定義・健康の把握。)	自分のある一日の活動状況を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
3	体力 (体力の定義・体力と健康の関係。)	自分のある一日の活動状況を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
4	発育・発達 (発育・発達の意味 運動能力の発達。)	身体の発育・発達のプロセスを考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
5	栄養と生活 (人間と栄養。)	栄養素の種類と人体の構成成分を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
6	栄養と生活 (食生活・エネルギー代謝。)	自分のある一日の食物摂取の内容を記しておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
7	栄養と生活 (生活習慣病。)	生活習慣病の原因となる食習慣について調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
8	運動と身体 (ウォーミングアップ・クーリングダウン。身体の構造。)	運動がどうして健康に繋がるか考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
9	運動と身体 (運動のエネルギー。運動と酸素。)	呼吸・循環系トレーニングの生理学的効果を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
10	運動と身体 (生活環境の変化と身体活動。運動の効果)	生活環境を中心に環境と健康との関係を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
11	運動と身体 (スポーツ外傷とスポーツ障害。)	運動によって慢性的に起こる怪我を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
12	救急処置 (救急処置の原則。)	応急処置が直ちに必要な例と注意点を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
13	救急処置 (RICE処置。)	RICE処置で対応できる怪我を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
14	救急処置 (救急蘇生法。)	自動体外式除細動器の使用方法を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
15	救急処置 (救急蘇生法・応急手当。)	授業改善アンケートの実施	急病・急な症状及び怪我・事故などの応急手当を調べておく(90分)
16	まとめ。	ノート・プリントで講義内容を確認し、理解を深めておくこと(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	健康科学(A) (科目ナンバリング:HSS031028)					
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)、佐藤和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2	(単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標	生涯教育の一環として、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を育成する。
授業の位置づけ	デザイン学科のD P (4)に対応する。

到達目標	人間の健康や体力の向上に向けて、科学的な知識を身につける。自らの健康問題やスポーツ活動に層深い関心を持って、生涯の健康作りに留意できる。
------	--

授業全体の内容と概要	授業の進展に応じ、ビデオを利用しながら理解を確実なものにする。また、救急蘇生法の時間には、正しい救急蘇生法についての知識を身につけることが、人を救うことに繋がることを念頭に置き、実際に体育館において3時間の普通救命講習会を実施する。
------------	--

授業の方法	授業では、プリントを活用しながら様々な事例を踏まえ紹介し、スポーツ障害対処法(心肺蘇生法・状況別の心肺蘇生法・患者の運搬法など)のビデオなどを利用して講義形式で行う。また、小テストを時間内に数回行いフィードバックとして回収後、回答の解説を行う。救急救命士数名による普通救命講習会も実施する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○
			双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	授業に関係ない私語は慎むとともに、携帯電話等の電源は必ず切ること。出席は重視しますので、特に、授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので、欠席しないようにすること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	0%	30%	60%	10%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康及び体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念以外にも深い理解がなされていた。さらに人間の健康観において歴史的変換も理解していた。体力の概念についても免疫や菌について深い知識を持っていた。	WHOの健康の概念以外にも深い理解がなされていた。体力についても構成要素以外の知識もあり行動体力防衛体力についても深い理解があった。	WHOの健康の概念以外にも深い理解がなされていた。体力についても構成要素以外の知識があった。	WHOの健康の概念や体力の構成要素については理解していた。	人間の健康観や体力についての知識や理解力がほとんど欠けていた。
運動及び栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動及び栄養に関する専門的な知識が備わっていた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであり、実践する上での処方も理解していた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであった。	健康な生活における運動及び栄養に関する基本的な知識があった。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識や関心がほとんど欠けていた。
現代の健康問題に対する知識と関心	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、専門的に深い知識があり予防に対する関心や意識も強かった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、比較的深い知識があり予防に対する関心や意識も強かった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があり予防に対する関心や意識もあった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する知識は、意識、関心がほとんど欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学(A) (科目ナンバリング:HSS031028)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)、佐藤和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林, 小島, 尾西, 小山, 佐藤, 中山, 米野, 石井, 天野,	三和書籍	2023	978-4-86251-487-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	健康 (健康の定義・健康の把握。)	自分のある一日の活動状況を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
3	体力 (体力の定義・体力と健康の関係。)	自分のある一日の活動状況を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
4	発育・発達 (発育・発達の意味 運動能力の発達。)	身体の発育・発達のプロセスを考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
5	栄養と生活 (人間と栄養。)	栄養素の種類と人体の構成成分を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
6	栄養と生活 (食生活・エネルギー代謝。)	自分のある一日の食物摂取の内容を記しておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
7	栄養と生活 (生活習慣病。)	生活習慣病の原因となる食習慣について調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
8	運動と身体 (ウォーキング・アップ・ケリグ・タウ。身体構造。)	運動がどうして健康に繋がるか考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
9	運動と身体 (運動のエネルギー。運動と酸素。)	呼吸・循環系トレーニングの生理学的効果を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
10	運動と身体 (生活環境の変化と身体活動。運動の効果)	生活環境を中心に環境と健康との関係を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
11	運動と身体 (スポーツ外傷とスポーツ障害。)	運動によって慢性的に起こる怪我を考えておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
12	救急処置 (救急処置の原則。)	応急処置が直ちに必要な例と注意点を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
13	救急処置 (RICE処置。)	RICE処置で対応できる怪我を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
14	救急処置 (救急蘇生法。)	自動体外式除細動器の使用方法を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
15	救急処置 (救急蘇生法・応急手当。)	急病・急な症状及び怪我・事故などの応急手当を調べておく(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	ノート・プリントで講義内容を確認し、理解を深めておくこと(90分)	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング: SWS111002/2023年度以降SWS121002)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。</li> <li>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</li> </ol>
授業の位置づけ	社会福祉学科のディプロマポリシー(DP)の(1)と(2)と(3)と(4)と(5)に対応する。

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。</li> <li>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。</li> </ol>
------	---

授業全体の内容と概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士の職域と求められる役割について学ぶ。</li> <li>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について学ぶ。</li> <li>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について学ぶ。</li> <li>総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について学ぶ。</li> <li>ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等学ぶ。</li> <li>「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。</li> </ol>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。</li> <li>テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。</li> <li>適宜質問を促し、質問に対応する。</li> <li>自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。</li> <li>ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等がある場合もある。</li> </ol>

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																

履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。</li> <li>適宜質問に対応する。</li> <li>自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。</li> <li>ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。</li> </ol>
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>教科書は必ず持参する。</li> <li>必要な資料等は適宜配布する。</li> <li>15回目の授業時にノートの確認を行う。</li> <li>出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。</li> <li>その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価である。</li> <li>成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。</li> </ol>					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>社会福祉士の職域と求められる役割について</td> <td>社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。</td> <td>社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。</td> <td>社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。</td> <td>社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について</td> <td>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。</td> <td>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。</td> <td>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。</td> <td>ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について</td> <td>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。</td> <td>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。</td> <td>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。</td> <td>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>総合的かつ包括的な支援について</td> <td>総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。</td> <td>総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。</td> <td>総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。</td> <td>総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>多職種連携の意義と内容について</td> <td>多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。</td> <td>多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。</td> <td>多職種連携の意義と内容について、理解することができた。</td> <td>多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。</td> </tr> </table>						評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	社会福祉士の職域と求められる役割について	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。	総合的かつ包括的な支援について	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。	多職種連携の意義と内容について	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。
評価項目	評価基準																																														
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										
社会福祉士の職域と求められる役割について	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。																																										
ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。																																										
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。																																										
総合的かつ包括的な支援について	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。																																										
多職種連携の意義と内容について	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング: SWS111002/2023年度以降SWS121002)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』共済	日本ソ・シャルワ・ク教育学校	中央法規出版	2021	9784805882412	価格 13,190
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します。』a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明)、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、社会福祉士の職域及び福祉行政等における専門職	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、民間の施設・組織における専門職及び諸外国の動向	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象、ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、多機関による包括的支援体制	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、ソーシャルサポートネットワーク	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容、多職種連携及びチームアプローチの意義	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容、機関・団体間の合意形成と相互関係	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容、利用者、家族の参画	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	授業改善アンケートの実施、まとめ(事例研究)及びレポートに対するフィードバック(解説)を行う	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211004)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計、インテリア設計経験。一級建築士。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。				

概要

履修目標

デザインにおいて、基礎的な造形力である、2次元上における造形すなわち平面における造形力を、作品制作の中で高めていく。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) (5) に対応する。

到達目標

作品のコンセプトを、平面上に適切に、かつ美しく表現できる。  
表現方法を選択する際に、適切な手法や材料を用いることができる。  
要求された課題を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

課題を通して、デザインの基礎となる描画、着彩、配置、カッティング等々の基礎的な作業を行いながら平面作品を制作する。  
平面構成Iで習得した技術を作品制作に活かしながら、さらに高めていく。

授業の方法

課題を通して、平面構成Iで学んだ表現方法を使って作品を制作する。  
全体の課題の進行程度によって、課題数の増減・手法等の調整を行うことがある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

平面構成Iを履修していることが前提。  
制作には、アクリルガッシュ、筆、パレット、芯の柔らかい鉛筆、定規、コンパス等の筆記具、カッターナイフ、スケッチブックまたはクロッキー帳を必要とする。  
上記のほか、適宜、課題制作前に指示するものを準備すること。  
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

1 2 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。  
正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻5回を1回欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
作品のコンセプトを、平面上に適切に、かつ美しく表現できる。	十分に表現出来ていた。	概ね表現出来ていた。	不十分ではあるが、表現出来ていた。	最低限の表現にとどまった。	表現出来ていなかった。
表現方法を選択する際に、適切な手法や材料を用いることができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。
要求された課題を適切に表現できる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211004)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計、インテリア設計経験。一級建築士。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 課題1 抽象基礎課題2 構想 継続課題	シラバスを読んでおくこと(90分)	課題の制作(90分)
2	課題1 抽象基礎課題2 下書き・スケッチ1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
3	課題1 抽象基礎課題2 下書き・スケッチ2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
4	課題1 抽象基礎課題2 彩色・仕上げ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
5	課題1 講評 課題2 抽象基礎課題3 構想	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
6	課題2 抽象基礎課題3 スケッチ1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
7	課題2 抽象基礎課題3 スケッチ2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
8	課題2 抽象基礎課題3 彩色・仕上げ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
9	課題3 講評 課題4 拡大とトリミング 構想	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
10	課題4 拡大とトリミング スケッチ1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
11	課題4 拡大とトリミング スケッチ2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
12	課題4 拡大とトリミング 彩色・仕上げ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
13	課題5 継続課題(写真) 構想	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
14	課題5 継続課題(写真) レイアウト	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
15	課題5 継続課題(写真) 仕上げ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
16	全課題の確認・総評 授業改善アンケートの実施	課題の制作(90分)	振り返り(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング: APT311002)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)、向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階、2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

積雪寒冷地における木造と鉄筋コンクリート造について、技術と製図の基本を修得することを目標としている。木造では軸組構法が主となるが、構造・構法の考え方や高断熱・高气密の建築技術を学ぶ。鉄筋コンクリート構造では、壁構造とラーメン構造の構造計画、外壁・地下室・屋上防水等の詳細図、積雪寒冷地の外装計画等を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1),(2)に対応する。

到達目標

時間内に課題を完成させることができ、期日を守ることの重要性を身に付ける。木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨構造の設計図面の描写や技法が製図規約に従って、正しく表現できる。

授業全体の内容と概要

木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨構造の各種設計図の表現方法を学ぶ。課題は授業計画に従い、毎週提示された授業時間内に完成させ提出することを原則とする。課題により次回の提出を認めている。課題は採点の後返却される。

授業の方法

課題解説、製図、およびそれらの指導は、すべて製図室にて行われる。したがって、指定された製図道具を各自必ず持参し、授業に臨むこととなる。また、課題ごとに配布する資料と板書による説明をし、そのうち製図を始める。再提出や追加課題に備えて、自宅に製図板、製図道具等を揃えておくことが不可欠である。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

当日の製図課題の説明は授業開始直後に行うので、遅刻してきた場合の説明は他の学生が製図に着手した後となるので、遅刻はかなりのハンディキャップとなるので注意をする。課題は全課題提出が原則である。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻4回で欠席1回とみなすので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

2コマ連続実技なので、単位認定に必要な最低出席回数は22回以上、かつ全課題提出とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本技術について寸法とスケール、図面の表示記号、線の種類と描き方、建築図面の理解、空間の理解	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- について理解できていたが部分的に不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。
木造軸組工法の各種図面において、柱の位置、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部材ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。しかし、一部の表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。
鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において、柱割、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部材ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング: APT311002)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)、 向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階、2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト建築設計資料集』	日本建築学会編	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス1 授業計画の説明と履修指導	シラバスにより次回の部分を予習すること(45分)	授業計画の内容と履修内容を復習すること(45分)
2	ガイダンス2 製図のルール, 作図方法	製図のルール, 作図方法を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
3	寒冷地の木造建築 - 1a平面図(柱の配置, 軸組構法)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
4	寒冷地の木造建築 - 1b平面図(壁の断熱と大壁・真壁)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
5	寒冷地の木造建築 - 2a 展開図の描き方, 建具表の表現	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
6	寒冷地の木造建築 - 2b 展開図と建具表の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
7	寒冷地の木造建築 - 3a 基礎の断熱, 寒冷地の1階床組	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
8	寒冷地の木造建築 - 3b 基礎伏図と1階床伏図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
9	寒冷地の木造建築 - 4a 2階荷重の伝播, 小屋組の造り方	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
10	寒冷地の木造建築 - 4b 2階床伏図と小屋伏図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
11	寒冷地の木造建築 - 5a 矩計図に表現される事項	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
12	寒冷地の木造建築 - 5b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
13	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 1a 柱スパンと柱の断面寸法, 外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
14	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
15	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 2a 断面の考え方, 表現方法	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
16	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 2b 断面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 3a 梁・スラブと階高, 断熱方法, 天井の構法	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
18	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 3b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
19	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 4a 防水(屋上防水, 地下室の防水と断熱)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
20	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 4b 防水(屋上防水, 地下室の防水と断熱)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
21	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 5a外装 コンクリート打放し, カーテンウォール	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
22	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 5b 立面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
23	鉄筋コンクリート造壁構造 - 1a 壁式構造とは耐力壁の壁量と配置	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
24	鉄筋コンクリート造壁構造 - 1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
25	鉄筋コンクリート造壁構造 - 2a 断熱材と開口部と納まり	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
26	鉄筋コンクリート造壁構造 - 2b 平面詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
27	鉄骨構造 - 1a 柱スパンと柱の断面寸法, 外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
28	鉄骨構造 - 1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
29	鉄骨構造 - 2a 床・屋根スラブの造り方, 壁下地と仕上げ材 次回の製図内容を予習すること(90分)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
30	鉄骨構造 - 2b 部分詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
31	講評会-1	講評会にむけて, 今までの製図課題を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 課題図面を見直すこと(45分)
32	講評会-2 授業改善アンケートの実施	講評会にむけて, 今までの製図課題を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 課題図面を見直すこと(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング: MAN413002, MAN513002/2023年度以降, MAN423002)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今まで学んできた様々な経営分野の知識を集合体としてとらえマネジメントの本質を理解し実践できる知識として獲得する。

授業の位置づけ

経営学科DPの(1)、(3)、(4)に対応する。

到達目標

経営に関する実践的な思考を実務に生かすため、種々の理論等が理解できる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートを取り、その内容をしっかり理解すること。様々な考え方を利用することによって今まで学んだことがどのようにつながり意思決定やバランスがにつながるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励む。SDG 4.質の高い教育をみんなにの関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、教科書に沿って経営学におけるマネジメントの本質をより深く理解してもらい、ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、テキスト・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング: MAN413002, MAN513002/2023年度以降 MAN423002)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「経営学」』	佐藤 耕紀	同文館出版株式会社	2021	9784495540890	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業アンケート結果の説明 経営学の基本的な考え方	専用のノートを準備する(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
2	正しく考え、正しく判断する心理学的側面	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
3	価格の仕組みを理解して、増収・増益を目指す	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
4	相乗効果とコストダウン	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
5	ライバルとの競争を勝ち抜く	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
6	目的実現	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
7	分析手法 復習	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
8	分析手法 復習	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
9	やる気と個性を活かして、強いチームを作る	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
10	やる気と個性を活かして、強いチームを作る	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
11	DX時代の組織の形を考える	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
12	DX時代の組織の形を考える	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
13	DX時代の組織の形を考える	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
14	人材マネジメント&ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(90分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (M) (科目ナンバリング: SOE081054)					
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

<b>履修目標</b>
就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。様々な業界で働く社会人の講話を聴くことで、進路の目標選択ができる知識を身に付けさせる。さらには次年度以降のインターンシップ参加に対する意識の向上も目標とする。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(1)、(2)に対応する。

<b>到達目標</b>
社会で営まれる様々な公共的な活動やビジネスの形態を知り、そこで働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知り、学生が卒業後の自分をシミュレーションすることができるようになる。

<b>授業全体の内容と概要</b>
様々な業界で働く企業人からは業界についての詳細な情報、市役所や警察などの担当者からは社会人として身に付けるべき一般常識を学ぶ。さらにはインターンシップに参加した先輩たちの体験談など、週毎に講師・内容・テーマを変えて行われる。

<b>授業の方法</b>
毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。さらには3回の授業を終える毎に小テスト(全3回)を設けて、知識の再確認を行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)	

<b>履修上の注意事項</b>
シラバスを読み授業の進行確認をすること、初回のガイダンスにて説明を受ける各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。講義終了後の質疑応答には積極的に参加すること。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
---

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「毎回の講話内容を把握し有効な知識として身に付けている」	全3回の小テストの平均点が90%以上である。	全3回の小テストの平均点が80%以上である。	全3回の小テストの平均点が70%以上である。	全3回の小テストの平均点が60%以上である。	全3回の小テストの平均点が60%未満である。
思考力・判断力・表現力「毎回の講話内容に対して自らの意見を以て適切に分析できている」	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容を的確に理解把握したものになっており、作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容を十分に捉えており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の要点については理解できており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容についての理解が不十分であり、作文量も不十分である。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容についての理解ができておらず、作文が不完全である。
主体性・多様性・協働性「毎回の講話にあたって、知識の吸収に積極的であり、授業に参加する意思が強い」	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられており、講話終了後の質疑応答に積極的に参加した。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられているものが半分以上見られる。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が殆ど見られない。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が見られず、授業参加の意思が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (M) (科目ナンバリング: SOE081054)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを一読しておくこと。(45分)	予定される全講話内容について把握しておくこと。(45分)
2	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
3	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
4	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
5	第1回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
6	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
7	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
8	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
9	第2回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
10	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
11	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
12	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行う。(45分)
13	第3回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
14	今後の就職活動の流れについて インターンシップについて	就職活動やインターンシップについて、その意義や有効性について基本的な知識を持っておくこと。(45分)	インターンシップに参加した際のシミュレーションを行っておくこと。(45分)
15	インターンシップ報告会	インターンシップについて、その意義や有効性について自分の考えを持っておくこと。(45分)	報告内容を整理し、ノートとして纏めておくこと。(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	過去の講話や授業全内容を整理しておくこと。(45分)	授業内容を受けて、就職活動に向けて必要な知識習得に必要な計画を行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (S) (科目ナンバリング: SOE081054)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

**履修目標**  
就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。様々な業界で働く社会人の講話を聴くことで、進路の目標選択ができる知識を身に付けさせる。さらには次年度以降のインターンシップ参加に対する意識の向上も目標とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

社会で営まれる様々な公共的な活動やビジネスの形態を知り、そこで働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知り、学生が卒業後の自分をシミュレーションすることができるようになる。

授業全体の内容と概要

様々な業界で働く企業人からは業界についての詳細な情報。市役所や警察などの担当者からは社会人として身に付けるべき一般常識を学ぶ。さらにはインターンシップに参加した先輩たちの体験談など、週毎に講師・内容・テーマを変えて行われる。

授業の方法

毎回の講話を聴き、授業終了後には振り返りをレポートとして提出する。さらには3回の授業を終える毎に小テスト(全3回)を設けて、知識の再確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

シラバスを読み授業の進行確認をすること。初回のガイダンスにて説明を受ける。各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。講話終了後の質疑応答には積極的に参加すること。  
「不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。」

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画撮影は事前相談得て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

**評価前提条件**  
単位に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「毎回の講話内容を把握し有効な知識として身に付けている」	全3回小テストの平均点が90%以上であること。	全3回小テストの平均点が80%以上であること。	全3回小テストの平均点が70%以上であること。	全3回小テストの平均点が60%以上であること。	全3回小テストの平均点が60%未満である。
思考力・判断力・表現力「毎回の講話内容に対して、自ら意見を添って適切に分析できている」	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容を的確に理解把握したものになっており、作文も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容を十分に捉えており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の要点については理解できており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容についての理解が不十分であり、作文量も不十分である。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容についての理解ができておらず、作文が不完全である。
主体性・多様性・協働性「毎回の講話にあたって、知識の吸収に積極的であり、授業に参加する意思が強い」	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられている。講話終了後の質疑応答に積極的に参加した。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられているものが半分以上見られている。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が殆ど見られない。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が無く、授業に参加の意思が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (S) (科目ナンバリング: SOE081054)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『P 適時、資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 『授業改善アンケート結果反映の説明』	シラバスを一読しておくこと。(45分)	予定される全講話内容について把握しておくこと。(45分)
2	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
3	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
4	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
5	第1回小テスト	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
6	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
7	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
8	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
9	第2回小テスト	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
10	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
11	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
12	講話	講師について、事前取材しておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
13	第3回小テスト	講話 - までの内容を理解しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自ら回答を再考し自己採点しておくこと。(45分)
14	今後の就職活動の流れについて インターンシップについて	就職活動やインターンシップについて、その意義や有効性について基本的な知識を持つこと(45分)	インターンシップに参加した際のシミュレーションを行うこと。(45分)
15	インターンシップ報告会	インターンシップについて、その意義や有効性について自分の考えを持つこと(45分)	報告内容を整理し、ノートとして納めておくこと。(45分)
16	まとめ 『授業改善アンケートの実施』	過去の講話や授業全内容を整理しておくこと。(45分)	授業内容を受けて、就職活動に向けて必要な知識習得に必要な計画を行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (D) (科目ナンバリング: SOE081054)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>
就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。様々な業界で働く社会人の講話を聴くことで、進路の目標選択ができる知識を身に付けさせる。さらには次年度以降のインターンシップ参加に対する意識の向上も目標とする。

<b>授業の位置づけ</b>
デザイン学科のDP(1)、(2)に対応する。

<b>到達目標</b>
社会で営まれる様々な公共的な活動やビジネスの形態を知り、そこで働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知り、学生が卒業後の自分をシミュレーションすることができるようになる。

<b>授業全体の内容と概要</b>
様々な業界で働く企業人からは業界についての詳細な情報、市役所や警察などの担当者からは社会人として身に付けるべき一般常識を学ぶ。さらにはインターンシップに参加した先輩たちの体験談など、週毎に講師・内容・テーマを変えて行われる。

<b>授業の方法</b>
毎回の主題に準じた各界の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowerPointにて作成され、他に配布物としてプリントが用いられることもある。講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。さらには3回の授業を終える毎に小テスト(全3回)を設けて、知識の再確認を行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b>
シラバスを読み授業の進行確認をすること。初回のガイダンスにて説明を受ける各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。興和終了後の質疑応答には積極的に参加すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「毎回の講話内容を把握し有効な知識として身に付けている」	全3回の小テストの平均点が90%以上である。	全3回の小テストの平均点が80%以上である。	全3回の小テストの平均点が70%以上である。	全3回の小テストの平均点が60%以上である。	全3回の小テストの平均点が60%未満である。
思考力・判断力・表現力「毎回の講話内容に対して自らの意見を以て適切に分析できている」	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容を的確に理解把握したものになっており、作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容を十分に捉えており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の要点については理解できており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容についての理解が不十分であり、作文量も不十分である。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容についての理解ができておらず、作文が不完全である。
主体性・多様性・協働性「毎回の講話にあたって、知識の吸収に積極的であり、授業に参加する意思が強い」	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられており、講話終了後の質疑応答に積極的に参加した。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられているものが半分以上見られる。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が殆ど見られない。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見がなく、授業参加の意思が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (D) (科目ナンバリング: SOE081054)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを一読しておくこと。(45分)	予定される全講話内容について把握しておくこと。(45分)
2	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
3	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
4	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
5	第1回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
6	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
7	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
8	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
9	第2回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
10	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
11	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
12	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行う。(45分)
13	第3回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
14	今後の就職活動の流れについて インターンシップについて	就職活動やインターンシップについて、その意義や有効性について基本的な知識を持っておくこと。(45分)	インターンシップに参加した際のシミュレーションを行っておくこと。(45分)
15	インターンシップ報告会	インターンシップについて、その意義や有効性について自分の考えを持っておくこと。(45分)	報告内容を整理し、ノートとして纏めておくこと。(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	過去の講話や授業全内容を整理しておくこと。(45分)	授業内容を受けて、就職活動に向けて必要な知識習得に必要な計画を行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科 1 年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (A) (科目ナンバリング: SOE081054)				
授業担当者(所属・職名)	学科キャリア支援委員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 学科キャリア支援委員)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。様々な業界で働く社会人の講話を聴くことで、進路の目標選択ができる知識を身に付けさせる。さらには次年度以降のインターンシップ参加に対する意識の向上も目標とする。

授業の位置づけ
---------

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標
------

社会で営まれる様々な公共的な活動やビジネスの形態を知り、そこで働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知り、学生が卒業後の自分をシミュレーションすることができるようになる。

授業全体の内容と概要
------------

様々な業界で働く企業人からは業界についての詳細な情報、市役所や警察などの担当者からは社会人として身に付けるべき一般常識を学ぶ。さらにはインターンシップに参加した先輩たちの体験談など、週毎に講師・内容・テーマを変えて行われる。

授業の方法
-------

毎回の主題に準じた各界の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowerPointにて作成され、他に配布物としてプリントが用いられることもある。講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。さらには3回の授業を終える毎に小テスト(全3回)を設けて、知識の再確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)	

履修上の注意事項
----------

シラバスを読み授業の進行確認をすること。初回のガイダンスにて説明を受ける各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。講話終了後の質疑応答には積極的に参加すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「毎回の講話内容を把握し有効な知識として身に付けている」	全3回の小テストの平均点が90%以上である。	全3回の小テストの平均点が80%以上である。	全3回の小テストの平均点が70%以上である。	全3回の小テストの平均点が60%以上である。	全3回の小テストの平均点が60%未満である。
思考力・判断力・表現力「毎回の講話内容に対して、自らの意見を以て適切に分析できている」	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容的確に自らの意見を以て適切に分析できている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容を十分に捉えており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の要点について理解できており、一定以上の作文量で述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内について理解が不十分であり、作文量も不十分である。	毎回提出の振り返りシートの内容が講話の内容について理解ができておらず、作文が不完全である。
主体性・多様性・協働性「毎回の講話にあたって、知識の吸収に積極的であり、授業に参加する意思が強い」	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられており、講話終了後の質疑応答に積極的に参加した。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられている。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が述べられているものが半分以上見られる。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が殆ど見られない。	毎回提出の振り返りシートの内容に、講話を受けて自らが持った意見が無く、授業参加の意思が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科 1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (A) (科目ナンバリング: SOE081054)				
授業担当者(所属・職名)	学科キャリア支援委員	研究室等所在	各研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 学科キャリア支援委員)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを一読しておくこと。(45分)	予定される全講話内容について把握しておくこと。(45分)
2	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
3	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
4	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
5	第1回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
6	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
7	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
8	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
9	第2回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
10	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
11	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
12	講話	講師について、事前取材をしておくこと。(45分)	講話内容についてノートの整理を行うこと。(45分)
13	第3回小テスト	講話 ~ までの内容を整理しておくこと。(45分)	小テストの内容について、自らの回答を再考し自己採点してみる。(45分)
14	今後の就職活動の流れについて インターンシップについて	就職活動やインターンシップについて、その意義や有効性について基本的な知識を持っておくこと。(45分)	インターンシップに参加した際のシミュレーションを行っておくこと。(45分)
15	インターンシップ報告会	インターンシップについて、その意義や有効性について自分の考えを持っておくこと。(45分)	報告内容を整理し、ノートとして纏めておくこと。(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	過去の講話や授業全内容を整理しておくこと。(45分)	授業内容を受けて、就職活動に向けて必要な知識習得に必要な計画を行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かす専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

IoT(Internet of Things)の理解に必要な基礎知識に向けた知識(電気工学、電子工学、その他)の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にティラスカッションやティベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則としてS評価は全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んできた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが疎忽した。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	Bluetooth機器の理解(1) 受信機(イヤホン用)の作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	Bluetooth機器の理解(2) 受信機(イヤホン用)の完成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	Bluetooth機器の理解(3) 受信機(スピーカー用アンプ内蔵)の作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	Bluetooth機器の理解(4) 受信機(スピーカー用アンプ内蔵)の作成(続き)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	Bluetooth機器の理解(5) 受信機(スピーカー用アンプ内蔵)の完成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	制作過程と結果のレポート作成(PowerPoint)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	中間まとめ レポート発表(プレゼンテーション)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	コンピュータとネットワーク TCP/IPプロトコル IPv4とIPv6、IPアドレスとサブネットマスク	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	インターネット サービスと仕組み	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	クライアント・サーバーシステム HTTPサーバー クライアント(ブラウザ)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	ワイヤレスネットワーク 無線LAN	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	デバイスにおける近距離通信技術 USB、Bluetooth、他	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	IoT機器の事例研究(専門演習 に向けて)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	全体まとめ 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	定期試験(学科:9-15回目の内容) 定期試験と解答説明	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む。余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(1)(3)(4)に対応する。

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。  
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取り組みめる。  
経済学の考えのもとついたコミュニケーションに取り組みめる。

授業全体の内容と概要

まず経済学の基本となる重要概念を学ぶ。学んだことを知識としてただ理解するだけでなく、経済学の考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをありませず演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえて集団討論による考察も行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組みめた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いてとらえることができなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的考察を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取り組みけた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取り組みけた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明	シラバスを読む(45分)	シラバス等の確認とまとめ(45分)
2	時間割引について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
3	時間割引の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
4	時間割引の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
5	時間割引に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
6	インセンティブについて	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
7	インセンティブの事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
8	インセンティブの事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
9	インセンティブに関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
10	ゲーム理論について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
11	ゲーム理論の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
12	ゲーム理論の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
13	ゲーム理論に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
14	後期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
15	後期学生生活の振り返り	後期の学生生活について振り返る(45分)	振り返りをまとめる(45分)
16	補講・課題等 授業アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う(45分)	演習ノートの整理(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	担当教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢・学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

担当教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

目標は『未来を見通しビジネスを創造する力をつける』である。コロナ禍や強権国家の台頭など世界の環境の変化は目まぐるしく、未来を見通すには高度な分析力と総合力として実行力が必要となる。『分析力、総合力、実行力を涵養することを目標とする。』

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

経営学の視点に立つ分析力、総合力、実行力を身につける。

授業全体の内容と概要

北海道の北広島市、由仁町、神恵内村でのフィールドワークを中心に、実用的な活動を行う。SDGsでは「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任 つかう責任」「14. 海の豊かさを守ろう」「15. 陸の豊かさを守ろう」に関連する。

授業の方法

授業はフィールドワーク(北広島市、由仁町、神恵内村)が中心となる。研究室にて企画を立て、対象地域の人々とともに行動する。したがってコミュニケーション力も必要となる。フィールドワーク終了後はレポートを作成する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

分析力、総合力、実行力、改善力を存分に発揮すること。積極的な発言を望む。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要とされる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営学の視点に立つ分析力	経営学の視点に立つ分析力が極めて高い	経営学の視点に立つ分析力がやや高い	経営学の視点に立つ分析力が高い	経営学の視点に立つ分析力がある	経営学の視点に立つ分析力が不足している
経営学の視点に立つ立案力	経営学の視点に立つ立案力が極めて高い	経営学の視点に立つ立案力がやや高い	経営学の視点に立つ立案力が高い	経営学の視点に立つ立案力がある	経営学の視点に立つ立案力が不足している
運営能力	経営学の視点に立つ運営能力が極めて高い	経営学の視点に立つ運営能力がやや高い	経営学の視点に立つ運営能力が高い	経営学の視点に立つ運営能力がある	経営学の視点に立つ運営能力が不足している
評価能力	経営学の視点に立つ評価能力が極めて高い	経営学の視点に立つ評価能力がやや高い	経営学の視点に立つ評価力が高い	経営学の視点に立つ評価力がある	経営学の視点に立つ評価力が不足している
改善能力	経営学の視点に立つ改善力が極めて高い	経営学の視点に立つ改善力がやや高い	経営学の視点に立つ改善力が高い	経営学の視点に立つ改善力がある	経営学の視点に立つ改善力が不足している

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 地域活性化の定義	地域活性化の定義を考える	地域の分析を行う
2	フィールドワーク(北広島市 エスコンフィールド)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
3	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
4	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
5	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
6	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
7	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
8	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
9	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
10	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
11	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
12	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
13	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
14	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
15	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
16	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学芸姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かす専門的な知識領域を磨く。基本的に専門演習 Aの内容を継続する。
授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。
到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。
到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

到達目標																								
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。																								
授業全体の内容と概要																								
「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を著実に進めることが一層求められる。																								
授業の方法																								
講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

授業全体の内容と概要																								
「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を著実に進めることが一層求められる。																								
授業の方法																								
講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

授業の方法																								
講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

履修上の注意事項
10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を獲得へ向けた理解を深めることができた。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が向上した。</td> <td>授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことが出来る。</td> <td>積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。</td> <td>何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。</td> <td>自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が向上した。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことが出来る。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																								
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。																								
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が向上した。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことが出来る。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

- 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
- 「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。
- 「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・演習科目なので、積極的な出席が必要
- ・私語などの迷惑行為は厳禁
- ・講義中スマホの操作は厳禁
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	株式会社の経営体制・資格と役割(7)事例研究 大学の学びとキャリア(1) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社の経営体制・資格と役割(8)事例研究 大学の学びとキャリア(2) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の経営体制・責任(1)役員 大学の学びとキャリア(3) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の経営体制・責任(2)役員 大学の学びとキャリア(4) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の経営体制・責任(3)事例研究 大学の学びとキャリア(5) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の経営体制・責任(4)事例研究 大学の学びとキャリア(6) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の経営体制・責任(5)事例研究 大学の学びとキャリア(7) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の経営体制・資格と役割(5)指名委員会等・監査等委員会・執行役 大学の学びとキャリア(8)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制・資格と役割(6)監査役・監査役会 大学の学びとキャリア(9)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・資格と役割(7)会計参与・会計監査人 就職活動の準備(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・資格と役割(8)事例研究 就職活動の準備(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・資格と役割(9)事例研究 就職活動の準備(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・資格と役割(10)事例研究 就職活動の準備(4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・資格と役割(11)事例研究 就職活動の準備(5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

専門演習 bは、専門演習 aと同じ手法で進めるが、専門演習 aでの改善点を踏まえて、より質の高い成果を目指す。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

当ゼミナールは、提出物等の期限が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミで積極的に発言・参加すること。この3つを重視する。この3つを守れない場合は減点対象とする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	グループディスカッションの基本	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 (研究テーマの候補をいくつか挙げる)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
4	研究テーマの決定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
5	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
6	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
7	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
8	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
9	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
10	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
11	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
12	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
13	プレゼンテーション(研究成果の発表)と質疑応答	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
14	本研究の検証(振り返り)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
15	本研究の検証(後期に向けた改善点) 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
16	担当教員による講評と評価についての説明	授業振返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚だけでなく客観的事実(データ)からも評価できるようにする。その過程を通して、保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識の定着、様々な人々と一緒に仕事をしていくための人間力の育成、プロジェクトを遂行するためのマネジメント力、学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための社会人基礎力を向上させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案(Excel, Word, Power Pointなどを使用)について学ぶ。グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実践経験(体験活動)に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはない。日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	研究計画の立案 先行研究の文献調査(文献検索の方法、読み方)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
3	研究計画の立案 研究方法、研究倫理について	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
4	研究計画の立案 実験・調査依頼文の作成	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
5	実験・調査依頼	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
6	アンケート調査	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
7	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
8	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
9	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
10	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
11	調査結果のデータ分析	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
12	調査結果のデータ分析	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
13	調査結果報告資料作成	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
14	調査結果報告資料作成	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
15	調査結果報告発表	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
16	調査結果報告発表まとめと評価について	授業振返り作り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を検証する。
- ・トレーニング内容を確立する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。  
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。  
・トレーニング  
・新たなトレーニング方法の検証  
・レース分析  
・簡単な動作分析 など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み取り組んでいく。  
途中経過をゼミで発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各自状態によってトレーニング内容が変わってくるため、日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニングおよびレース内容をもとに評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	ガイダンス (45分)	学習内容の復習(45分)
2	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
3	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
4	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
5	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
6	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
7	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
8	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
9	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
10	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
11	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
12	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
13	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
14	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
15	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
- ・新たな指導法を確認する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。  
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。

- ・トレーニング
- ・各部活における新たな指導法
- ・ゲーム分析
- ・簡単な動作分析 など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。  
途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となる。データをもとに発表などから評価する。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解	学習内容の復習(90分)
2	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
3	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
4	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
5	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
6	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
7	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
8	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
9	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
10	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
11	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
12	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
13	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
14	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
15	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示等を参照				

概要

履修目標

財務会計に関する知識を習得するとともに、経営分析等を通じてそれを活用する力を身につける。  
また、4年次の卒業論文の執筆に向けて、その論点(財務会計の問題点)を自ら発見するため、自発的に考える力を身につける。

授業の位置づけ

経営学部のDP(1)、(2)、(3)および(4)に対応する。

到達目標

- ・財務会計の理論、国内外の会計基準およびそれらに基づく実務にまつわる知識を身につける。
- ・有価証券報告書の公表資料を用いて、実際の企業を分析する力を身につける。
- ・卒業論文の書き方や参考文献等の資料収集を体得するとともに、卒業論文のテーマ・論点を見つける。

授業全体の内容と概要

3年次では、財務会計にまつわる文献を精読し、近年における財務会計の動向を把握する。その中で、自分なりに財務会計における論点(問題点)を見つけ、卒業論文の執筆に備える。授業最終回では、半年間のまとめとして、財務会計の動向または実際の企業に関する経営分析をテーマとしたプレゼンテーション回を行う予定である(具体的なテーマや実施形式は、受講生との話し合いによって決定する)。このほか、卒業論文の書き方や文献収集について随時指導していく。

授業の方法

テキスト等の指定された文献の箇所・テーマを各自レポート形式で事前にまとめ、当日はそれに基づいてディスカッションを深めていく。ディスカッションにおいては、積極的な発言を期待する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

財務会計を専門とするため、「財務会計論」を履修していることが望ましい。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。  
自主的・積極的な演習内での発言を評価する一方、無断欠席は大きな減点要因となるので要注意。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
財務会計にまつわる知識の習得	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれをある程度活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用しようとした。	授業で取り上げた財務会計の知識を最低限習得できた。	授業で取り上げた財務会計の知識を習得できなかった。
財務会計に対する問題意識の醸成と論点の発見	財務会計の論点・問題点を見つけ、その解決に向けた考察を行っている。	財務会計の論点・問題点を見つけた。	財務会計に対する問題意識を抱き、その論点となる問題を探している。	財務会計に対する問題意識を抱き始めた。	財務会計に対する問題意識を全く抱かなかった。
主体的・意欲的な授業への参加	自分だけでなく、他の受講者も巻き込んだ形で授業に参加し、授業全体の活発化に取り組んだ。	積極的に質問やディスカッションを行い、能動的に授業に参加した。	積極性は乏しいものの、質問やディスカッションに一部参加した。	授業には参加したものの、質問やディスカッションについて、受動的に姿勢に終始した。	授業に意欲的に参加しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: 講義の方針確認 前期の復習 授業改善アンケート結果反映の説明	前期に用いた資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	金融商品会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
3	金融商品会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
4	従業員給付会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
5	従業員給付会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
6	連結会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
7	連結会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
8	企業結合・事業分離等の会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
9	企業結合・事業分離等の会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
10	外貨換算会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
11	外貨換算会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
12	経営分析	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
13	経営分析	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
14	プレゼンテーション報告会の準備	プレゼンテーションの準備(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
15	プレゼンテーション報告会の準備	プレゼンテーションの準備(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
16	プレゼンテーション報告会(本番)と総評 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備(45分)	報告会での指摘事項を再確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。 「SDS 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向の努力は認められるがなかなか定着していない。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向の姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向の努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向の姿勢が見られなかった。																		
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向の努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向の姿勢が見られなかった。																																				

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習(45分)	授業の復習(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
16	後期授業の総括について	後期授業の復習(45分)	全体の復習(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会の変化から社会政策(福祉政策)の変化を理解できるようになる。  
 専門演習 B の目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探索する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
- ・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。
- ・次年度の国家試験を意識して、積極的に学ぶ習慣を身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として理解すべき社会システム、特に政治経済の基礎、並びに、社会福祉学部学生として福祉制度変革の背景の理解を主目的に議論中心の授業を展開する。  
 『SDG4. 質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である10回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家コンを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自習が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1 『特別支援学校教育についてのディスカッション』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2 『後期の演習及び研究についての説明と協議』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11 『特別支援教育の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12 『特別支援教育等の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13 『特別支援教育等の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14 『特別支援教育等の今日的課題演習』	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括 専門演習 Bのまとめ(発表)	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組み込まれており、身に付けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1」(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。  
 ・各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。  
 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。  
 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

学生が学びたいテーマに沿った形で進められる。  
 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。  
 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
 後期の「専門演習 B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って単立ができ、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

子ども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べる方法を理解する。  
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。  
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。  
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ」「自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。  
専門演習 A から継続する。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。  
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。  
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・受講者数は8～9名程度、専門演習 A から継続して受講。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
- ・吉江ゼミでは、大学祭への参加を基本条件とするので、ゼミ生で企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を体系的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見 収集	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括としての評価・ディスカッション	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標	ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。
---------	--------------------------

到達目標	福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。自ら目標達成のために、計画性・実行性を習得する。コミュニケーション能力などの向上を図る。
------	--

授業全体の内容と概要	現場の話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。最終には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
------------	--

授業の方法	講義・ゼミナール・実験・制作・見学等様々な授業形態を行う。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数10回以上。
--------	----------------------

評価方法	
------	--

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	現場見学(福祉サービス事業所) シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	現場見学(福祉サービス事業所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	現場見学(精神科診療所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	現場見学(精神科診療所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	現場見学(地域活動支援センター)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	現場見学(地域活動支援センター)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	現場見学振り返り(福祉サービス事業所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	現場見学振り返り(精神科診療所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	現場見学振り返り(地域活動支援センター)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	まとめ	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「専門演習 B」の目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の獨創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探索する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学テーマ」の糸口をつかむことができる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
- ・研究テーマに沿った論文執筆の基本スキルを身につけることができる。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。  
S D G 4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、ディスカッションの諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である10回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確なっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の意見を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	調査活動準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	調査活動準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	調査活動まとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	調査活動まとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	調査活動まとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	調査報告会、総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
------

心理学の視点から、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、調査、実験、ディスカッションなど通して獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

この授業では、各自が決めた研究テーマに基づき研究を進めていく。毎回、進捗状況の報告や研究成果(先行研究のレビュー等)の発表を行い、全員でディスカッションをする。  
質問には随時対応し、提出された文章に対しては添削やコメントによるフィードバックを行う。  
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できた	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポート執筆できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	ゼミ生による発表とディスカッション1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	ゼミ生による発表とディスカッション2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	ゼミ生による発表とディスカッション3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	ゼミ生による発表とディスカッション4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	ゼミ生による発表とディスカッション5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	ゼミ生による発表とディスカッション6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	ゼミ生による発表とディスカッション7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	ゼミ生による発表とディスカッション8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	ゼミ生による発表とディスカッション9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	ゼミ生による発表とディスカッション10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	ゼミ生による発表とディスカッション11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	ゼミ生による発表とディスカッション12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	ゼミ生による発表とディスカッション13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	ゼミ生による発表とディスカッション14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括(卒業研究に向けて)	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。  
 個々の研究テーマをもち、研究方法に関するノウハウを理解する。  
 上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。  
 研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。  
 自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する内容や今日的な課題について、各自が関心をもち追究したい内容の焦点化を図るとともに、調査研究や文献研究の方法、情報の整理やまとめ方について検討し整理する。  
 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。  
 フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。  
 全体発表を通して、調査研究等の成果報告、全体への情報共有を行う。  
 質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。  
 「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する教員になることを目指し、特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する内容や今日的な課題について、各自が関心をもっている者とする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてのネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川 厚志)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をともに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(活動の目的、方法、活動計画等)前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認	所属研究室選択資料の確認(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
2	前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認各自の追究する内容等(概要)の確認	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
3	各自の追究する内容等(概要)の確認調査研究、文献研究等の各自の計画(期間、内容、方法等)の確認	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
4	調査研究、文献研究等の各自の計画の確認及び計画による情報収集と整理	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
5	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理実施計画に基づく情報収集内容の全体共有1	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
6	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理実施計画に基づく情報収集内容の全体共有2	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
7	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理実施計画に基づく情報収集内容の全体共有3	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
8	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理実施計画に基づく情報収集内容の全体共有4	前期の振り返り(4.5分)	前期の振り返りの確認(4.5分)
9	中間報告資料の作成	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
10	中間報告会(前半の取組内容、振り返りと後半の取組方針)	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
11	前半の取組内容、振り返りと後半の取組方針の確認各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
12	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理実施計画に基づく情報収集内容の全体共有5	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
13	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理実施計画に基づく情報収集内容の全体共有6	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
14	文献研究、調査研究等による情報収集内容の整理発表資料の作成	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
15	全体発表会(後期の取組内容、整理した情報内容)振り返りと次年度の取組方針について	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)
16	全体発表会(後期の取組内容の振り返りの確認次年度の取組方針の確認)	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標
卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組み込まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(1)と(2)と(3)と(4)と(5)に対応する。

到達目標
<p>ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。</li> <li>・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。</li> <li>・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。後期の「専門演習 B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って単立ができ、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム(演習科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備(アカデミック・シンキング)の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。  
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

- 専門ゼミ初年度の1年間を通して、アカデミック・シンキングを学修する。
- SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。
- 次のからについて段階的理解をすすめる。
  - 学術論文のスタイルを確認する。
  - (書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ)
  - 大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて図書館レファレンスサービスを見つけ取る。
  - 学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。
  - 社会的現象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。
  - 学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。
  - (定義を確認する、比較する、相違点や類似点を見つける)

授業の方法

社会福祉学科Teams「2023年度 専門演習 履修方法」(2023年1月開示)には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」(PDF)がある。アカデミック・シンキングのための文献精読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。
- コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料をまとめたものである。準備学習に必要となる教材(論文コピー、報告書など)課題(練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料)授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報授業者への相談質問のための案内
- 不満の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。高校教育までにつけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。これは、必要とされる量の基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べ、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究をふまえ、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べ、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえ、問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻についていくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集してまとめた。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼性の理解が十分ではない。Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解し、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示した。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の裏本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注釈、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参考文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなく、改善の余地があった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参考文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的に協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこなうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	2019		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	2015		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	2013		
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、演習ガイダンス	シラバス、科目Teamsの確認(45分)	スケジュールと準備学習の整理(45分)
2	アカデミック・シンキング基礎1(学術文献の種類)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
3	アカデミック・シンキング基礎2(調べ学習、自由研究、学術研究)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
4	アカデミック・シンキング基礎3(研究不正;捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
5	アカデミック・シンキング基礎4(学術倫理;ハラスメント、研究協力者への配慮)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
6	アカデミック・シンキング基礎5	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
7	アカデミック・シンキング基礎6	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
8	アカデミック・シンキング基礎7	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
9	アカデミック・シンキング基礎8	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
10	文献講読1(文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
11	文献講読2(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
12	文献講読3(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
13	文献講読4(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
14	文献講読4(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
15	文献講読5(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
16	まとめ	資料の読解(45分)	次年度への課題設定(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			





基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイ	所属研究室選択資料の確認(45分)	授業振り返り課題(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「専門演習 B」の目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の獨創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
- ・個々の学生が、それぞれの「勉学テーマ」の糸口をつかむことができる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
- ・研究テーマに沿った論文執筆の基本スキルを身につけることができる。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。  
S D G s 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である10回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になったっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家コンを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087, SEM533094)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322034)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

CAD教育の始めとして、コンピュータによる作図が自在に出来るように、基本操作から木造・RC造設計課題を2次元CADで「建築製図」として仕上げられる程度まで修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

2次元CADを使い、自分で計画した建築物が手描き図面のように、自由自在に使えるための基本操作と作図手順を行うことができる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ室にて、2次元CADであるjw\_cadを用いて、木造およびRC造についての演習を行う。住宅の設計課題に取り組み、自由に作図できるようにjw\_cadを習得する。  
「SD&11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

コンピュータ室にて、2次元CAD画面を大型ディスプレイに表示しながら解説する。設計課題では作成したエスキスを個別にプレゼンしてもらい、図面確認と修正指導を行うことでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業はコンピュータ室を使うので座席指定をします。USBメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
2次元CADの特性を活かした作図ができるか	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての的確に駆使することができた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての的確に駆使することがほぼできた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての的確に駆使することがある程度以上できた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての的確に駆使することがある程度できた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての的確に駆使することができなかった。
設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案できるか	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがほぼできた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度以上できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができなかった。
JW-CADを駆使して自身の計画内容を相手に伝えることができるか	JW-CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	JW-CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	JW-CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	JW-CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	JW-CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322034)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013(エクステンションブック Jw_cadシリーズ 1)』	Jiro Shimizu (著), Yoshifumi Tanaka (著)	エクスタレッジ	2012	978-4767813929	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。インストールと設定、レイヤ・作図・編集等基本操作 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
2	レイヤ・作図・編集コマンド	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
3	木造平面図	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
4	木造立面図	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
5	R C造マンション平面図の作成1	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
6	R C造マンション平面図の作成2	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
7	R C造マンション平面図の作成3	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
8	R C造マンション敷地図と南側立面図の作成	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
9	2.5Dの作成1	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
10	2.5Dの作成2	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
11	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成1	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
12	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成2	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
13	内部パースの作成(CADデータのインポート)	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
14	内部パースの作成(柱壁の立ち上げ)	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
15	内部パースの作成(着色) 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと。(45分)	自分のパソコンを使って復習すること(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ行政学 (科目ナンバリング: SPS422062, SPS522052)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容を学ぶ。	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

本授業では、文化としてのスポーツの捉え方や位置づけを学ぶと共に、国及び地方公共団体の全体的枠組みや関係法令等スポーツ振興の係りについて学習する。また、地域スポーツクラブ等における指導者の必要性や役割等についても学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

国及び地方公共団体等における行政のスポーツ振興施策の現状と目指すべき方向性の概要を理解すると共に、スポーツ指導者のスポーツ振興への役割や心得等について理解することができる。

授業全体の内容と概要

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト「共通科目」、「共通科目」に準拠して授業を進める。授業に必要な資料等は、その都度配布する。

授業の方法

本授業は、テキストに準拠し、パワーポイントや配布資料を参照しながら進める。また、授業回によってグループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行い学習する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ノートを持参し板書する。  
携帯電話の電源を切る。イヤホン着用禁止。  
私語は慎む。  
脱帽、飲食禁止。  
授業中の体調不良等は申し出ること。  
無断での退席は認めない。  
20分以上の遅刻は欠席とする。  
\*以上を反する場合は退席とし欠席扱いとする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの概念における関心・意欲および授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問・発言するなど積極的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。	授業中の課題や板書をこなしていた。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書をしていなかった。
スポーツ振興の知識・理解	授業内容を越える知識を積極的に勉強し理解度を深めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容の概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
スポーツ振興の分析・展開	授業内容に留まらず、問題点と課題を聞きさせ、より良い生涯スポーツ社会の実現に向けた実践的展開を提案できた。	授業内容をほぼ全て理解し、問題点を複合的に捉え分析していた。	授業内容を概ね理解し、複数の問題点を見つけることができた。	授業内容の一部から問題点を見つけていた。	授業内容が理解できないため、問題点を見つけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ行政学</b> (科目ナンバリング: SPS422062, SPS522052)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく(90分)	オリエンテーションの内容を理解しておく(90分)
2	スポーツの概念と歴史	スポーツの歴史について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
3	わが国のスポーツの固有性と特性および制度	わが国のスポーツの固有性と特性および制度について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
4	わが国のスポーツ行政のしくみ	わが国のスポーツ行政のしくみについて調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
5	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
6	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブ	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブについて調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
7	地方公共団体におけるスポーツ振興施策	地方公共団体におけるスポーツ振興施策について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
8	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」	スポーツ少年団について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
9	スポーツ行政と地域スポーツ振興施策の課題	学修課題を整理しておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
10	スポーツ指導者とスポーツ行政	スポーツ指導者とスポーツ行政について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
11	スポーツ指導者の役割(指導者の倫理)	指導者の倫理について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
12	スポーツ指導者の役割(指導者の心構え, 視点)	指導者の心構え, 視点について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
13	スポーツ事故における指導者の法的責任(リスクマネジメント)	スポーツのリスクマネジメントについて調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
14	スポーツ事故における指導者の法的責任(スポーツ事故判例)	スポーツ事故判例について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
15	スポーツと人権(スポーツ倫理と基本的人権)	スポーツ倫理と基本的人権について調べておく(90分)	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を深める(90分)
16	定期試験及び解説 試験時間60分, 解説30分 授業改善アンケートの実施	授業全体を振り返り試験準備をしておく(90分)	試験および解説を踏まえ授業内容の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	データサイエンス基礎 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・データサイエンスの意義と目的についての理解を深め、数理・データサイエンス・AIを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につける。  
 ・統計学の知見に基づいたデータの加工・分析・表現技法の知識・技術を習得する。

授業の位置づけ

・経営学科のDP(2)に対応する。  
 ・社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
 ・デザイン学科のDP(2)に対応する。  
 ・建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

・データ・AI活用領域の広がりを理解し、それらを活用する価値を説明できる。  
 ・データ・AI活用の際に留意すべきモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解する。  
 ・Microsoft Office Excelを使って、与えられたデータを適切に加工・分析・表現することができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AIの活用について、知識だけでなく、実際にデータを加工し、表現できる技術を体系的に学習する。教科書・オンライン教材(動画・テキスト)を使った学習により基礎知識の習得を目指し、複数回Excelを使った演習を行うことで、データ処理の基本的な技術の習得を目指す。なお、分析演習の課題では、組織の課題解決に資するデータ分析を行い、より現実感のある分析手法を学ぶ。

本科目は、数理・データサイエンス・AI教育の関連授業科目である。

本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。  
 ・「SDG 4:質の高い教育をみんなに」  
 ・「SDG 9:産業と技術革新の基盤をつくろう」  
 ・「SDG 12:つくる責任 つかう責任」

授業の方法

本科目では、映像コンテンツ主体のオンライン教材(ベネッセ社提供)により、学習を進める。適時、教員によりプロジェクター及び大型モニターに教材(スライド資料等)または教員のパソコン画面を提示しながら解説を行う。なお、習熟度を測定するため、各授業回後に確認テストの実施、及びExcel分析演習課題の提出を複数回求めるので、必ず受験・提出すること(評価の対象とする)。オンライン教材は、自宅からでも視聴可能であるため、準備・事後学習に役立てること。本科目では、出欠確認、教材・資料等の配布、課題の提示・回収・採点(フィードバック)は全てTeamsにて行う。

習熟度に関して個人差が大きくなる可能性があるため、次の学習支援を実施する。

・授業時間外において質問などがあれば、Teamsチャットにて受け付ける。  
 ・提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。  
 ・習熟度に応じて、個別指導(補講)を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・本科目では、コンピュータ及びExcelに関する基礎知識が前提となるため、「情報基礎演習」の単位修得が望ましい。  
 ・演習時は、大学に備え付けのコンピュータを使用するが、自己所有のノートパソコン(Windows/Mac)を使用してもよい。  
 ・自己所有のノートパソコンを使用する場合は、Excelのインストールが必要である(大学から無償提供あり)。  
 ・課題は、自分で考え作成したものを提出することとし、第三者が作成した著作物等の盗用(剽窃)が認められた場合は、提出を無効とする。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上とする。  
 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。  
 ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から20%減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	20%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数理・データサイエンス・AIの理解	データ・AI活用領域の広がりについて事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりについて事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりについて事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりについて事例を用いて説明できた。	データ・AI活用領域の広がりについて事例を用いて説明できなかった。
データ・AI活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、自分ごととして考えた上で、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解でき、事例を見つけて理解できた。	データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できた。	データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)について理解できなかった。
コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Excelを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができず、結果を正しく表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	データサイエンス基礎 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教養としてのデータサイエンス』	北川 源四郎・竹村 彰通	講談社	2021	9784065238097	
2	『データサイエンスの基礎』	瀧田 悦生	講談社	2019	9784065170007	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、データサイエンスとは 授業改善アンケート結果反映の説明	データサイエンスの定義について調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
2	社会で起きている変化	データサイエンスによる起きている身近な変化を調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
3	社会で活用されているデータ 情報収集(文献検索・データベース活用法等)	社会で活用されているデータについて調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
4	データ・AIの活用領域	AIについて調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
5	データ・AI利活用のための技術	AIの事例について調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
6	データ活用とは	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
7	データ・AI利活用の現場	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
8	データ・AI利活用の最新動向	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
9	データを読む(データの種類、データの代表値、データのばらつき)	平均値・中央値・最頻値について調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
10	データを読む(相関と因果、母集団と抽出、統計情報の正しい理解)、組織の課題解決に資するデータ分析演習	相関と因果の違いについて調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
11	データを説明する 情報の整理(ワークシート・表計算)	Excelの操作方法について復習する(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
12	データを扱う 情報発信(レポート・プレゼンテーション技法等)	Excelグラフの作成方法について復習する(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
13	データ・AIを扱う上での留意事項(ELSI、不正行為、個人情報)	個人情報について調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
14	データ・AIを扱う上での留意事項(バイアス、AIの正しい活用)	バイアスについて調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
15	データを守る上での留意事項とまとめ	情報セキュリティについて調べる(90分)	確認テストの内容を復習する(90分)
16	定期試験、授業改善アンケートの実施	全ての確認テストを復習する(90分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 (科目ナンバリング: ACC411007, ACC511004)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示等を参照				

概要

履修目標

簿記とは、企業の取引を一定のルールに従って、記録・計算および整理し、報告書を作成する一連の手続きのことであり、広く社会的にも重要な役割を果たしている。また、簿記の基本原理解は、会計学の理論的な側面を理解するためにも重要な基礎となる。本講義は、簿記の一連の手続きを理解し、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成と読解ができることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

- ・5つの勘定(資産・負債・資本・収益・費用)の意味を理解し、具体的な簿記一巡の手続きを習得する。
- ・決算手続きを理解し、財務諸表(貸借対照表・損益計算書)を作成することができる。
- ・完成した財務諸表(貸借対照表・損益計算書)を読み取ることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、簿記・会計の初心者を対象に、商業簿記に関する授業を行い、簿記の仕組みを基礎から学ぶ。授業中は、テキストの解説のみならず、設例を用いた解説や演習問題に解答する時間を設ける。

授業の方法

簿記の学習は、実際に自分で問題を解くことで、体得するという性質がある。したがって、講義内では、問題演習を積極的に行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・簿記は、学習の積み重ねが必要な科目であるため、講義には毎回出席すること、また、復習を欠かさず行うこと。
- ・上記の通り、講義内で問題演習の時間を設けるので、講義には必ず電卓を持参すること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	30%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
5つの勘定(資産・負債・資本・収益・費用)を理解し、正しい金額を算定できる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、即座に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間内に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間をかけつつも、資料から勘定の計算ができる。	勘定科目を5つの勘定(資産・負債・資本・収益・費用)に分類できる。	勘定科目を5つの勘定(資産・負債・資本・収益・費用)に分類できなかった。
決算手続きを理解できる。	決算手続きを理解した上で、速やかに財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間内に財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間をかけつつも、財務諸表を作成することができる。	決算手続きを最低限理解している。	決算手続きを理解できなかった。
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容に基づき、基本的な経営分析ができる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴を説明できる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴に気づくことができる。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 (科目ナンバリング: ACC411007, ACC511004)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スタディガイド基本簿記(第4版)』	柳裕裕 編著	中央経済社	2022年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(講義の進め方、簿記概論) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスとテキストの序文を読んでおく(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
2	5つの勘定(資産・負債・資本・収益・費用)	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
3	仕訳と総勘定元帳への転記	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
4	試算表の作成	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
5	決算手続きと損益計算書・貸借対照表の作成	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
6	現金・預金	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
7	商品売買	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
8	掛け取引・貸倒れ	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
9	その他の債権・債務	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
10	手形と電子記録債権・債務	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
11	有形固定資産	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
12	収益・費用の前払・前受・未収・未払	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
13	株式会社の資本と税金	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
14	財務諸表の作成	テキストの指定箇所を予習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
15	総復習と問題演習	これまでの内容を復習する(90分)	課題プリントを含め、問題演習に取り組む(90分)
16	定期試験と解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する(90分)	定期試験の解説内容を確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通じて、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDPの(1)(2)(3)(4)に対応する。  
 デザイン学科のDPの(1)(3)(5)に対応する。  
 建築学科のDPの(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

マンガを中心とする表現の特性、産業としての側面や、専門用語などの知識を身に付け理解する。  
 文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。  
 ディスカッションや発表などを通して、大学で学ぶための基礎的な学力(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など)を身につける。  
 表現・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。

授業全体の内容と概要

マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、語文化や社会について多様な視点から考える力を養いながら、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自でマンガについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。  
 『SDGs16・平和と公正をすべての人に』の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。  
 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること、個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。  
 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを越えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	産業としてのマンガ(1) 雑誌文化と新しいビジネスモデル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	産業としてのマンガ(2) マンガ制作と流通 マンガ家の位置づけ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	「マンガ家」という仕事(1) 制作方法の特殊性(他メディアと比較して)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	「マンガ家」という仕事(2) 制作方法の多様性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
6	「マンガ家」という仕事(3) マンガ家の仕事の現場	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	マンガと社会(1) 戦争を語るメディアとしてのマンガ 中沢啓治「はだしのゲン」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	マンガと社会(2) 戦争を語るメディアとしてのマンガ この時代『この世界の片隅に』読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
9	マンガと社会(3) 戦争を語るメディアとしてのマンガ この時代『この世界の片隅に』映画版との比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
10	プレゼンテーションの方法 レポートのまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
11	個人発表(1)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前期の A に引き続き、大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

経営学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) に対応する。  
 社会福祉学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) ( 5 ) に対応する。  
 テザイン学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) に対応する。  
 建築学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) に対応する。

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。  
 自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。  
 学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

前期の A に引き続き、講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。  
 報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。  
 司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。  
 担当教員による講評を行う。  
 レポート作成に向けた準備を進める。  
 輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。  
 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。  
 自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リダクションを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、自己紹介、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
6	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
11	テキストの内容報告と討論(10)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(11)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード参照				

概要

履修目標

本授業では、体力・形態測定を実施することで自己の体力を把握し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニング方法の基本的な理論と実践方法について学習する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(3)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

各自、無理のない体力目標を設定し、様々なトレーニング方法の基本を理解し実践できることを目標とする。  
 生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。  
 様々な種類のトレーニングに関する基本理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。DVDや動画を参考に基本的なトレーニングを実践することで、互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。遅刻は2回につき1回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
トレーニングの基本	トレーニングの基本を良く理解している	トレーニングの基本をほぼ理解している	トレーニングの基本をある程度理解している	トレーニングの基本を理解している	トレーニングの基本を理解していない
トレーニングの応用	トレーニングの応用が良くなる	トレーニングの応用がほぼ良くなる	トレーニングの応用がある程度できる	トレーニングの応用ができる	トレーニングの応用ができない
トレーニングの実践	専門的なトレーニングの実践が良くなっている	一般的なトレーニングの実践が良くなっている	基本的なトレーニングの実践がある程度できている	トレーニングの実践ができている	トレーニングの実践ができない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
2	体力測定	体力測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
3	形態測定	形態測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
4	トレーニングの基本	トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
5	トレーニングの基本	トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
6	トレーニングの基本	トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
7	トレーニングの基本	トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
8	トレーニングの基本	トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
9	トレーニングの応用	トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
10	トレーニングの応用	トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
11	トレーニングの応用	トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
12	トレーニングの実践	トレーニング種目を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
13	トレーニングの実践	トレーニング種目を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
14	トレーニングの実践	トレーニング種目を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
15	体力測定 授業改善アンケートの実施	体力測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	まとめ・フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)					
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1	(単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照					

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。  
 グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。  
 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。  
 後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。  
 入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。  
 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。  
 プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。  
 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとてみ巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	グループディスカッション(学生スポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	グループディスカッション(スポーツと金)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	グループディスカッション(オリンピック)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	グループディスカッション(スポーツの未来)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ミニプレゼンテーションの準備 1 (スポーツの問題と課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ミニプレゼンテーションの準備 2 (スポーツの問題と課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	ミニプレゼンテーション(5分) 1-5番	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	ミニプレゼンテーション(5分) 5-10番	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	ミニプレゼンテーション(5分) 11番-	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーション(15分)の準備 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション(15分)の準備 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション(15分)と質疑応答 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション(15分)と質疑応答 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション(15分)と質疑応答 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再確認する。(45分)	評価等の内容を確認しておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
競技スポーツ及び、健康のための基礎的トレーニングを学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るようにする。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標
競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康に一層深い関心を持って、安全にトレーニングすることができる。

授業全体の内容と概要
競技スポーツ又は、健康のために必要な基礎的トレーニングを実践し、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見つけ出し実践する。 「SDG4:質の高い教育をみんなに」

授業の方法
授業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
ラグビー部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴も必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	0%	50%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	0%	50%	20%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲もまったくなく、安全に注意を払うことができなかった。
知識・理解	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができ、実践的に活用できた。	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて適切に活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できていて、活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていないが、活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていなく、その獲得・修得に取り組むことができなかった。
計画・実行	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できた。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できた。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できた。	達成目標が曖昧ではあったが計画を立てて3割程度できた。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を当該授業に関連内容として活用し、学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
8	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
9	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
11	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	基礎トレーニングの実践 授業改善アンケートの実施	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	生涯スポーツとしての特性を理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

余暇時間の増大や高齢化が進む中で、自分自身の人生をより豊かで充実したものにするために、スポーツは非常に重要な役割を果たすと考えられる。本授業では、トレーニングの理論と実践を通し、生涯にわたって定期的に体を動かす習慣を養うことを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

栄養、運動、休養に関する基礎的知識を身につける。  
 自らの体力・目標に応じたトレーニングプログラムを組み立てる。  
 生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。  
 正しいトレーニング理論を学び、体を動かす重要性、楽しさを学ぶ。

授業の方法

授業はトレーニングの実技が中心となるが、トレーニング方法についてグループで研究を行い、各自に適しているトレーニング方法を継続的に実践できるよう実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

柔道部に所属する学生を対象とする。体育館・ウエイトトレーニング場を中心に授業を行うので、ジャージ・屋内用トレーニングシューズを用意すること。  
 怪我や健康上の理由がある者は、事前に申し出ること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	0%	0%	60%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、何事にも意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り、役割を果たすことができ、指示通り取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり、意欲もなく安全に注意を払っていない状態であった。	行動の仕方を守らず役割も果たせず、意欲もまったくなく、安全に配慮できなかった。
知識・理解	トレーニングの基礎知識を十分持ち、それぞれの領域においても十分理解し、実践的に活用できた。	トレーニングの基礎知識を持ち、各領域においても深く理解し、適切に活用できた。	トレーニングの基礎知識がある程度理解し、活用することができた。	トレーニングの基礎知識が少なく、活用することができなかった。	トレーニングの基礎知識が全くなく、取り組みが全くみられなかった。
計画・実行	達成目標を設定することができ、達成目標以上のトレーニングを実施することができた。	達成目標を設定し、達成目標が達成できるよう努力することができた。	達成目標を設定し、5割程度達成することができた。	達成目標の設定が明確でなく3割程度しか達成することができなかった。	達成目標を設定出来ず、なんとなくトレーニングを行っていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解する(45分)
2	体力測定、形態測定	体力測定の方法を確認しておく(45分)	体力測定の方法を確認しておく(45分)
3	ストレッチ	ストレッチの方法を確認しておく(45分)	ストレッチの方法を理解する(45分)
4	体幹トレーニング	体幹トレーニングの方法を確認しておく(45分)	体幹トレーニングの方法を理解する(45分)
5	最大学上重量測定1	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
6	最大学上重量測定2	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
7	パワーポイント	パワーポイントの方法を確認しておく(45分)	パワーポイントの方法を理解する(45分)
8	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング1	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
9	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング2	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
10	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング3	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
11	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング4	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
12	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング5	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
13	ボールを用いたトレーニング	ボールを用いたトレーニング方法を確認しておく(45分)	ボールを用いたトレーニング方法を理解する(45分)
14	最大学上重量測定3	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
15	最大学上重量測定4	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	生涯トレーニングの特性を確認しておく(45分)	生涯トレーニングの特性を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
現代社会における健康の位置づけを考え、運動が生涯にわたりそれへどう寄与するかを学ぶ。からだの構造の基礎的知識を身につけることによって、合理的にパフォーマンスの向上をはかる。
授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)に対応する。
到達目標
トレーニングの目的を理解できる。 怪我の予防・応急処置を実践できる。

到達目標
トレーニングの目的を理解できる。 怪我の予防・応急処置を実践できる。
授業全体の内容と概要
目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。
授業の方法
からだの構造に関する基礎知識を踏まえ、トレーニングルームにてトレーニングを実践しながら怪我の予防・応急処置を取り入れ目的を理解していく。トレーニングの経過を観察記録し、各自記録結果をパワーポイント等にまとめ、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行い学習する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
研究室、体育館、トレーニング場で授業を行う。 からだを動かすのに適した服装とする。(ジャージ等) 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。												

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数、13回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	0%	0%	70%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	0%	0%	70%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>自ら進んで行動や役割を果すことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。</td> <td>積極的に行動や役割を果すことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守り役割を果すことができ、普通に組み安全に注意を払っていた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果そうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を払っていなかった。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果さなく意欲もまったくなく、安全に注意を払っていなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>からだの構造を理解し、運動との結びつきに及んでいた。</td> <td>からだの構造を理解していた。</td> <td>からだの構造を概ね理解していた。</td> <td>からだの構造をある程度理解していた。</td> <td>からだの構造を理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>計画・実行</td> <td>計画を立てることができた。その計画に沿って実行でき、達成目標がほぼ全てクリアされていた。</td> <td>計画を立てることができた。達成目標は7割程度であった。</td> <td>計画を立てることができた。達成目標は5割程度であった。</td> <td>計画を立てることができた。達成目標は3割程度であった。</td> <td>計画を立てることができなかった。達成目標が設定されていないため行動がみられなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果すことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果すことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ、普通に組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果そうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を払っていなかった。	行動の仕方を守らず役割を果さなく意欲もまったくなく、安全に注意を払っていなかった。	知識・理解	からだの構造を理解し、運動との結びつきに及んでいた。	からだの構造を理解していた。	からだの構造を概ね理解していた。	からだの構造をある程度理解していた。	からだの構造を理解していなかった。	計画・実行	計画を立てることができた。その計画に沿って実行でき、達成目標がほぼ全てクリアされていた。	計画を立てることができた。達成目標は7割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は5割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は3割程度であった。	計画を立てることができなかった。達成目標が設定されていないため行動がみられなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果すことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果すことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ、普通に組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果そうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を払っていなかった。	行動の仕方を守らず役割を果さなく意欲もまったくなく、安全に注意を払っていなかった。																								
知識・理解	からだの構造を理解し、運動との結びつきに及んでいた。	からだの構造を理解していた。	からだの構造を概ね理解していた。	からだの構造をある程度理解していた。	からだの構造を理解していなかった。																								
計画・実行	計画を立てることができた。その計画に沿って実行でき、達成目標がほぼ全てクリアされていた。	計画を立てることができた。達成目標は7割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は5割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は3割程度であった。	計画を立てることができなかった。達成目標が設定されていないため行動がみられなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明)	事前にシラバスを読んでおく(45分)	オリエンテーションの内容を理解しておく(45分)
2	からだの構造(概論)	からだの構造について調べ(45分)しておく	からだの構造について理解しておく(45分)
3	からだの構造(概論)	からだの構造について調べ(45分)しておく	からだの構造について理解しておく(45分)
4	怪我の予防	怪我について調べておく(45分)	怪我の予防について理解しておく(45分)
5	怪我の予防	怪我について調べておく(45分)	怪我の予防について理解しておく(45分)
6	応急処置	応急処置について調べておく(45分)	応急処置について理解しておく(45分)
7	応急処置	応急処置について調べておく(45分)	応急処置について理解しておく(45分)
8	トレーニング実技(PNF)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
9	トレーニング実技(PNF)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
10	トレーニング実技(アイソメトリックトレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
11	トレーニング実技(アイソメトリックトレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
12	トレーニング実技(コンセントリックトレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
13	トレーニング実技(コンセントリックトレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
14	トレーニング実技(エキセントリックトレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
15	トレーニング実技(エキセントリックトレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	トレーニングの実施内容と効果をまとめておく(45分)	トレーニングの効果を確認しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

トレーニング理論を理解し、実践する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。  
 課題解決のために他者と討議することができる。  
 トレーニングを実践することができる。

授業全体の内容と概要

試合で最高のパフォーマンスを発揮するために、科学的なエビデンスに基づいた情報を理解する。トレーニング計画を立て実行しパフォーマンスの向上を確認する。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてトレーニングを行う。既存のトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。  
 学生の不明点・疑問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

硬式野球部優先。  
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	60%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
トレーニング理論の理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できる。トレーニングを構成する様々な要素について調べた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
トレーニングの実践	トレーニングを実践し、成果と原因を把握し、改善のための新たな計画を立てていくことができた。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握でき、改善のための新たな計画を立てていくことができた。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握できた。	トレーニングを実践していた。	トレーニングを実践していなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 目標設定シートの記入	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	投球動作の復習、測定と評価	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	ピリオダイゼーション	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	前半の復習、目標設定シートの記入	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	投球ドリル(ドライブライン)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	投球ドリル(ドライブライン)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	投球ドリル(ドライブライン)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	投球ドリル(ドライブライン)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	スピードトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	スピードトレーニング / プライオメトリクス	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	プライオメトリクス	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	後半の復習、目標設定シートの記入 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツ及び、健康のための基礎的トレーニングを学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るようにする。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科DP(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康に一層深い関心を持って、安全にトレーニングすることができる。

授業全体の内容と概要

競技スポーツ又は、健康のために必要な基礎的トレーニングを実践し、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見つけて実践する。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに、実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

陸上部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴を必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位確定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	0%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自ら進んでどれだけ競技に取り組めたか	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができる。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができる。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っている。	行動の仕方を守らず役割を果たさそうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を配っていない。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を配っていない。
自ら考えどれだけトレーニングメニューを考えられたか	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができ、実践的に活用できる。	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて適切に活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できていて、活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていない、活用できるレベルにない。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていない、その獲得、修得に取り組んでいない。
自ら立てた目標にどれだけ近づけたか	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できる。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できる。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できる。	計画を立てることができるが、達成目標が曖昧であり3割程度しかできない。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『月刊陸上競技』					
2	『月刊陸上競技マガジン』					
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングの理解 1	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングの理解 2	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングの理解 3	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングの理解 4	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングの理解 5	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングの理解 6	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
8	基礎トレーニングの習得 1	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
9	基礎トレーニングの習得 2	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	基礎トレーニングの習得 3	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
11	基礎トレーニングの習得 4	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	基礎トレーニングの習得 5	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	基礎トレーニングの習得 6	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	基礎トレーニングの習得 7	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	基礎トレーニングの習得 8	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施		

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>
国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(4)、(5)に対応する。 デザイン学科のDP(4)に対応する。 建築学科のDP(4)に対応する。

<b>到達目標</b>
「パフォーマンスを向上させたい」、「オーバーリーディングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために、科学的なエビデンスに基づいた情報、また、エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が、成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する。

<b>授業全体の内容と概要</b>
すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ、最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ。

<b>授業の方法</b>
授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

<b>履修上の注意事項</b>
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。 不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

<b>資格指定科目</b>
---------------

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールではキリスト教・仏教・イスラム教・儒教の教義内容とその特色を概観し、各々を構造神学的に比較したうえで、それらを振興する人々のエートス(行動様式)の生成と、そこから導き出された現代国際社会の諸相を分析し、併せて日本社会における宗教の影響と、日本人のエートスについての思考を深めるようにする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
経営学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・キリスト教、仏教、イスラム教、儒教の基本的協議を理解できる。
- ・上記宗教から導き出されるエートスを理解し、現代社会への影響を理解できる。
- ・現代日本社会における「宗教」とその機能を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『日本人のための宗教原論—あなたを宗教はどう助けてくれるか—』(徳間書店)を基本参考文献とし(講義ごとに購読パートを教員がコピーする)、併せて、山本七平、橋爪大三郎、大澤真幸、の著書を参考に、音読しながら購読し、必要に応じてディスカッションを行う。

授業の方法

- ・各講義ごとに参考文献を音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加える。また、ディスカッションも行う。
- ・ゼミで使用するプリントは前の週に配布する。熟読することが望ましい。
- ・学生の要望には可能な限り応じるが、教育上問題ありと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的積極的参加を望む。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席数10回以上をクリアすること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キリスト教・仏教・イスラム教・儒教の基本的協議を理解する。	ゼミナールで行った内容について説明できる。ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	高校のテキストにおける「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
各宗教から導き出されるエートス(行動様式)を理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	マックス・ウェーバーの「エートス」の概念を理解できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
現代日本社会における宗教的機能について理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	小室直樹・山本七平の「日本教」について、説明できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校の世界史の復習(45分)	配布資料の熟読(45分)
2	宗教のアウトライン1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
3	宗教のアウトライン2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
4	キリスト教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
5	キリスト教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
6	キリスト教3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
7	キリスト教4	前回資料の読み込み(90分)	配布資料の熟読(90分)
8	仏教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
9	仏教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
10	イスラム教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
11	イスラム教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
12	儒教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
13	儒教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
14	日本人と宗教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
15	日本人と宗教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
16	日本人と宗教3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナール Aの継続として、学生が世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識と考え方を身につける。学生が、プレゼンテーション・コミュニケーションの基礎を身につける。文章作成の基礎の習得。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

受講者において、プレゼンテーション・コミュニケーションの基礎が習得できていること。文章作成の基礎が習得できていること。世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、理解できていること。

授業全体の内容と概要

毎回、教員による講義と受講者各自の学習(文献調査)により、世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識を習得し、合わせて、プレゼンテーション、レポート等によって学んだことを発信する。後期は、北海道以外の日本の歴史と文化を中心に学習を進める。

授業の方法

毎回、1)調査、発表者によるプレゼンテーション、2)討論、3)教員による補足と講評(フィードバック)を行なう。適宜、文章作成の練習も行なう。プレゼンテーションと説明では、スライド、板書、ボード等を使用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	20%	60%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・調査能力	多様で正確な情報収集と編集、整理ができ、的確に発信できた。	正確な情報収集と整理ができ、的確に発信できた。	情報収集と整理の基礎が身に付いており、発信の基本ができていた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、発信の基本ができていた。	指示による情報収集・整理ができていなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論、明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎が身に付いており、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎ができていた。	指示によって議論、プレゼンテーションが適切に遂行できた。	指示による議論、プレゼンテーションができていなかった。
歴史と文化の理解・認識	日本の文化に関する広く深い理解ができ、発展的な学習ができた。	日本の文化に関する的確な理解ができ、発展的な学習が期待できた。	日本の文化に関する基本的な理解ができ、深めることが期待できた。	指示によって日本の文化に関する基本的な理解ができた。	指示による日本の文化に関する理解ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、教員による日本の歴史と文化の基礎に関する講義	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
2	教員による日本の歴史と文化の基礎に関する講義	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
3	受講者による調査とプレゼンテーション(1)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
4	受講者による調査とプレゼンテーション(2)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
5	受講者による調査とプレゼンテーション(3)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション(4)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
7	受講者による調査とプレゼンテーション(5)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
8	受講者による調査とプレゼンテーション(6)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
9	受講者による調査とプレゼンテーション(7)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
10	受講者による調査とプレゼンテーション(8)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
11	受講者による調査とプレゼンテーション(9)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
12	受講者による調査とプレゼンテーション(10)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
13	受講者による調査とプレゼンテーション(11)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
14	受講者による調査とレポート作成(1)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
15	受講者による調査とレポート作成(2)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
16	受講者による調査とレポート作成(3)	レポート作成の準備(45分)	レポートの仕上げ(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

社会福祉実践に用いられることが多い語を学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する科目。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する科目。

到達目標

用語と各々の意味を覚えるとともに、自分に適した暗記方法を身につけることができる。  
 チームワークに必要なコミュニケーションの初歩的なスキルを身につけることができる。

授業全体の内容と概要

福祉現場で用いられることが多い基礎的な用語(主にカタカナの用語)と基礎的な意味について学ぶ。  
 実践的なコミュニケーションについて学ぶ。  
 「SDG1:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。  
 一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので、答えること。  
 随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。  
 授業毎に使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
 出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語を理解できる。	カタカナ語に該当する日本語を示すことができた。	カタカナ語の意味を答えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
実践的なコミュニケーションをロールプレイで展開できる。	適切な態度や言葉を用いてロールプレイができた。	ロールプレイでは、相手を尊重した姿勢をとることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったア行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
2	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったカ行とサ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
3	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったタ行とナ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
4	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったハ行とマ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
5	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったヤ行とラ行とワ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
6	敬語の種類	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートの整理をする。(45分)
7	敬語の使い方	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	授業で学んだことを意識し、目上の人と話会話を。(45分)
8	気をつけなければならない言葉や話し方	自分の言葉や話し方の特徴について箇条書きで整理する。(45分)	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。(45分)
9	中間まとめ	1回から8回の内容を振り返り、疑問点や再度説明を希望する部分をまとめる。(45分)	1回から8回までで理解が不十分だった点を復習する。(45分)
10	コミュニケーションの意義・目的	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。(45分)
11	コミュニケーションの役割 コミュニケーションの種類	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。(45分)
12	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
13	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
14	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
15	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
16	まとめ	1回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。(45分)	この授業で学んだ事を振り返り、2年生へ向けた自己の課題を明確化する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

**履修目標**  
 「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解させ、併せて快適な学生生活を営むことが出来る様指導する。提示したテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力を高める工夫をし、また、「学びの方法」も修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の DP (2) (5) に対応する。  
 経営学科の DP (2) (5) に対応する。  
 デザイン学科の DP (2) (5) に対応する。  
 建築学科の DP (2) (5) に対応する。

到達目標

上記の授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関する講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質問には随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。  
 ・SDG-3「すべての人に健康と福祉を」の関連科目。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

**評価前提条件**  
 出席状況(3分の2以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力しながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える B」 テーマの見つけ方(新聞・図書・雑誌等)	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションテーマの見つけ方(ニュース・ネット等)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション資料の作成について	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマについて(フィールドワーク等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマについて(調理実習等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順1・2番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順3・4番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順5・6番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順7・8番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順9・10番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドワークや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。  
 20分以上の遅刻は欠席とします。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	『尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)』		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
2	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
3	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
4	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
5	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
6	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
7	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
8	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
9	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
10	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
11	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
12	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
13	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
14	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
15	健康についての調査 個人発表 「授業改善アンケート実施」	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(45分)	解説の内容を確認する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育の制度や内容についてその概要を理解することができる。  
教育の諸問題についてその概要を理解することができる。  
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。  
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読  
教育に関する基本的事項についての調べ学習  
教員として求められる一般教職及び教職教養の学習  
学校視察やボランティア活動等への参加  
漢字検定等への参加  
「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
教員として求められる一般教職及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
漢字検定取得に真剣に取り組むことを履修の条件とする。(目標準2級)  
○授業内で紹介する体験活動に積極的に取り組むことを履修の条件とする。  
各自、ノートを用意すること。(ルースリーフは不可)  
○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。  
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学習計画の作成	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	学習指導要領について考える 理念 学習計画の発表 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	学習指導要領について考える 前文 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	学習指導要領について考える 総則 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	学習指導要領について考える 総合的な学習の時間 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	学習指導要領について考える 道徳 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	子どもたちの学力について考える 学力とは何か 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	子どもたちの学力について考える 生きる力 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	子どもたちの学力について考える 学力調査結果 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	生徒指導について考える 意義 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	生徒指導について考える 問題行動等 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	生徒指導について考える 問題行動等調査結果 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	進路指導について考える 問題行動等への対応 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	進路指導について考える キャリア教育 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	進路指導について考える 進路指導の在り方 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。(昨年度の主な活動: 食品パッケージデザイン作成、イベントポスター作成、くるもの杜イベント企画、企業のビクトグラム作成、農産物直売所のPOP作成、企業ロゴマーク作成、各イベントや幼稚園施設などでのデザインワークショップなど)

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(5)に対応する。  
 福祉学科のDP(2)、(4)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)、(3)、(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)、(4)に対応する。

到達目標

- (1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
- (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
- (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講定員15名  
 受講条件  
 本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。  
 受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。  
 社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人  
 やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人  
 協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人  
 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	前期の活動におけるの確認と振り返り シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	1年間の活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツの基礎的トレーニングを理解し、個人に必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。

授業の位置づけ

営学科のDP(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科のDP(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできる。

授業全体の内容と概要

競技スポーツに必要な基礎的トレーニングを実践し、自らの競技力向上のために必要なトレーニングを見つけ出し実践する。

授業の方法

プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。なお、今回の授業において前回の反省と確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細についてはガイダンスにて説明する。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	60%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングができる。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングができた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングが7割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングが5割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングが3割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用が7割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで理解しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	トレーニング実践 1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
3	トレーニング実践 2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
4	トレーニング実践 3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
5	トレーニング実践 4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
6	トレーニング実践 5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
7	トレーニング実践 6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
8	トレーニング実践 7 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
9	トレーニング実践 8 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
10	トレーニング実践 9 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
11	トレーニング実践 1.0 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
12	トレーニング実践 1.1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
13	トレーニング実践 1.2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
14	トレーニング実践 1.3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
15	トレーニング実践 1.4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(45分)	専門用語の意味を理解しておくこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

学生が大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナールで行うSPIに必要な知識及び思考過程をしっかりと身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)に対応する。  
 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナールで行うSPIに必要な知識及び思考過程を修得できる。

授業全体の内容と概要

数の計算、式の計算及び関数とグラフ等を練習問題を計算することによって、数学の問題を解く実感及びSPIに必要な数学の知識をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。  
 レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学及びSPIに必要な基礎知識の修得	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	連立方程式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	連立方程式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	代数方程式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	代数方程式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	代数方程式(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	直線	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	放物線	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	円	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	不等式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
11	不等式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	領域	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	三角比	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	三角関数(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	三角関数(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の授業ではさまざまなタイプのレポートや論文を書く機会が多くなります。そこで前半はレポート・論文の基本的事項を学びます。後半は2年生で学習する「建築材料実験」の準備として、簡単な実験を通して材料の基礎的な性状を学びます。さらに建設施工に関するDVD視聴から、土木建築全般の最新のインフラ技術を学びます。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(2)、(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDPPDP(1)、(2)、(4)に対応する。  
 デザイン学科のDPPDP(1)、(2)、(4)に対応する。  
 建築学科のDPPDP(1)、(2)、(4)に対応する。

到達目標

レポート・論文作成の基本的能力を磨く。また簡単な建築実験や建設技術に関する動画から建築への関心を高めていきます。

授業全体の内容と概要

1. レポート・論文作成の基本的事項を確認し、簡単なレジュメを作成する。
2. 簡単なコンクリートを構成する材料の物理試験を実施する。
3. 建設技術に関するDVD視聴からレポートを作成する。

授業の方法

1. 板書やプロジェクターを利用してレポート・論文作成の基礎的事項を講義形式で実施する。
2. 実験アトリエ棟で材料材料に関する物理試験等を実施する。
3. 図書情報館の視聴覚教室で建設技術に関するDVD視聴及びレポート作成を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義形式及び実習形式により演習や試験サンプル作成を行うので、休まず出席すること。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート・論文に関する基礎知識	レポート・論文に関する内容がほぼ理解できた。	レポート・論文に関する内容が80%理解できた。	レポート・論文に関する内容が70%理解できた。	レポート・論文に関する内容が60%理解できた。	レポート・論文に関する内容が理解できなかった。
実験実習に関する基礎知識	実験実習に関する内容がほぼ理解できた。	実験実習に関する内容が80%理解できた。	実験実習に関する内容が70%理解できた。	実験実習に関する内容が60%理解できた。	実験実習に関する内容が理解できなかった。
建設技術の理解	建設技術がほぼ理解できた。	建設技術の80%を理解できた。	建設技術の70%を理解できた。	建設技術の60%を理解できた。	建設技術が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学生のレポート・論文作成トレーニング』	桑田てるみ	実教出版		9784407336146	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜、資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを確認する(45分)	ガイダンス及びシラバスの理解(45分)
2	レポート・論文の基礎	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
3	レポート・論文のルール	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
4	レポート・論文の種類	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
5	レポート・論文の体裁	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
6	建築材料基礎実験1	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
7	建築材料基礎実験2	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
8	建築材料基礎実験3	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
9	建築材料基礎実験4	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
10	建築材料基礎実験5	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
11	建設技術の世界1	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
12	建設技術の世界2	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
13	建設技術の世界3	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
14	建設技術の世界4	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
15	建設技術の世界5	資料を予習する(45分)	資料を確認し復習する(45分)
16	振り返り・まとめ	総復習(45分)	総復習及び配布資料の整理(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画者、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市や街を形づくる。ゼミでは都市や建築のより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

「経営学科」のDP(2)(4)に対応する。  
 「社会福祉学科」のDP(2)(4)に対応する。  
 「デザイン学科」のDP(2)(4)に対応する。  
 「建築学科」のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前期で学んだことを発展・応用させるため、いくつかの課題に取り組む。グループに分かれて都市や建築について調査分析を行い、空間的な提案をまとめ発表・ディスカッションを行う。SDGs3.すべての人に健康と福祉を SDGs11.住み続けられるまちづくりを SDGs12.つくる責任 つかう責任

授業の方法

課題説明はパワーポイントを用いる。適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。グループに分かれて調査分析し、提案を作成する。パソコンを使うため、各自ノートパソコンを準備すること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築書籍に積極的に触れること。また、グループワークでは積極的に発言をし、議論をする。20分以上の遅刻は欠席とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	40%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独力で調査し、課題を解決することができた。	アドバイスをもち、調査・課題を解決することができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。
表現力	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	課題1 説明	対象を事前に調べる(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
3	課題1 事例等調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
4	課題1 事例等調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスをフィードバックしまとめる(45分)
5	課題1 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
6	課題2 説明	対象を事前に調べる(45分)	講義内容を復習(45分)
7	課題2 フィールドワーク	対象を事前に調べる(45分)	フィールドワーク内容をまとめる(45分)
8	課題2 調査結果取りまとめ	フィールドワーク内容をまとめる(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
9	課題2 調査結果取りまとめ	対象を事前に調べる(45分)	エスキスをフィードバックしまとめる(45分)
10	課題2 調査結果発表	調査分析を行い、まとめる(45分)	発表を自己評価し、今後の課題を認識する(45分)
11	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
12	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックする。(45分)
13	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
14	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックしまとめる(45分)
15	課題2 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
16	まとめ・ディスカッション	授業を振り返る(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)					
授業担当者(所属・職名)	高橋 摩耶(国際交流センター・センター員)・佐藤 恵利(国際交流センター)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 高橋 真弥・佐藤 恵利)	CAP制	○			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミナール B			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標

日本語でのレポートやレジュメの書き方、PPTの作成、授業内発表など、学生が大学生活を送るうえで必要なスキルを身につける。また、授業内容は日本に関するにとらえず日本国外の文化・歴史も例にあげ、幅広いジャンルで学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

レポート等の課題を通して文章作成の基礎を習得し、授業内の発表を通して説明や質疑応答といったプレゼンテーション能力を身につける。

授業全体の内容と概要

担当教員が様々なテーマのもと、各発表形式(レポート、レジュメ、PPT)を使用して講義を行う。それを参考に、学生自身が指定されたテーマに沿って情報収集し、発表を行う。授業内容は時事問題やエンタメ、サブカル、日本や日本以外の国の文化比較など、様々なジャンルに渡る。日本文化や日本事情を通して「SDG3:すべての人に健康と福祉を」、「SDG7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「SDG10:人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。基本的には教員による各テーマに合わせた講義後、翌週から学生の発表を行うものとし、学生には情報収集や課題作成の時間をしっかり与える。受講人数にもよるが、1回の授業で3人程度発表し、担当教員や学生からの質疑応答の時間を取る。なお、授業内容は学生の興味に合わせて柔軟に対応するものとし、学生から要望があった場合には応えるようにする。レポートなどの課題提出時には日本語のチェックも行い、修正したものを学生にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。30分の遅刻は欠席とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	40%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	高橋 摩耶(国際交流センター・センター員)・佐藤 恵利(国際交流センター)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 高橋 真弥・佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 基礎ゼミナル B			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、授業、評価の説明)、前期の振り返り・授業改善アンケート結果反映の説明(担当:高橋)	シラバスを読む・資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
2	教員による講義 参考論文を指定し、レジュメ形式で紹介(担当:高橋)	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
3	学生による発表・質疑応答 指定論文のレジュメを作成し、発表(担当:高橋)	事前にレジュメを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
4	学生による発表・質疑応答 指定論文のレジュメを作成し、発表(担当:高橋)	事前にレジュメを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
5	学生による発表・質疑応答 指定論文のレジュメを作成し、発表(担当:高橋)	事前にレジュメを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
6	教員による講義 エンタメまたはサブカルをテーマにPPTを使用して講義(担当:高橋)	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
7	学生による発表・質疑応答 PPTを作成し、発表(担当:高橋)	事前にPPTを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
8	学生による発表・質疑応答 PPTを作成し、発表(担当:高橋)	事前にPPTを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
9	学生による発表・質疑応答 PPTを作成し、発表(担当:佐藤)	事前にPPTを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
10	教員による講義 教員の発表を参考にレポート作成・発表の準備(担当:佐藤)	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
11	学生による発表・質疑応答 レポートを作成し、発表(担当:佐藤)	事前にレポートを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
12	学生による発表・質疑応答 レポートを作成し、発表(担当:佐藤)	事前にレポートを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
13	学生による発表・質疑応答 レポートを作成し、発表(担当:佐藤)	事前にレポートを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
14	教員による講義(時事問題、文化紹介、文化比較等)(担当:佐藤)	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
15	教員による講義(時事問題、文化紹介、文化比較等)・授業改善アンケートの実施(担当:佐藤)	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
16	後期学習範囲の総括および反省・最終レポートの提出(担当:佐藤)	最終レポート提出の準備(45分)	授業内容復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育の制度や内容についてその概要を理解することができる。  
 教育の諸問題についてその概要を理解することができる。  
 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える  
 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読  
 教育に関する基本的事項についての調べ学習  
 教員として求められる一般教養及び教職教養の学習  
 学校視察やボランティア活動等への参加  
 漢字検定等への参加  
 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
 教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
 サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
 漢字検定に真剣に取り組むこと。  
 各自、ノートを用意すること。(ルースリーフは不可)  
 プリント類はプラットフォームに格納し、毎回授業に持参すること。  
 ○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学修計画の作成	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	SDGsについて考える1 設定の背景と17の目標 学修計画の発表 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	SDGsについて考える 日本社会との関連 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	SDGsについて考える 教育との関連 授業で取り組むアイデアを交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	子どもたちの学力について考える1 学力とは 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	子どもたちの学力について考える 生きる力 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	子どもたちの学力について考える 学力調査結果 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	生徒指導について考える1 意義 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	生徒指導について考える 特別支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	生徒指導について考える 問題行動等 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	進路指導について考える1 労働の現状 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	進路指導について考える キャリア教育 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	障害のある子どもの保護者心理1 出生 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	障害のある子どもの保護者心理 家族 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	障害のある子どもの保護者心理 支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察し、ウィーンでの研修(希望者のみ)の準備を行う。また、このゼミナールでは就職活動時に必要になるスキルの修得を早い段階から始める。キャンパス・ライブを楽しみながら、自由な発想の展開、自己実現などをテーマに学びを広げる。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
ドイツ語圏への旅行、留学の際に、困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要
ウィーンといえば、クラシック音楽である。毎回、クラシック音楽をBGMに、ゆったりとしたペースで授業を行う。ウィーン文化・見どころについてプリントを配布し、説明を行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。

授業の方法
授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、13回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	80%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得した。</td> <td>学修した知識・技能をほぼ修得した。</td> <td>学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>学修した知識を修得できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組みなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組み、理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組みなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。																								
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	[ガイダンス] 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
2	[ウィーンのカフェの文化について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
3	[オーストリアのワインについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
4	[ハプスブルク家の歴史について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
5	[マリア・テレジアについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
6	[マリー・アントワネットについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
7	[シシーについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
8	[フロイトについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
9	[ウィーンの音楽について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
10	[ウィーンのおペラについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
11	[オペラとオペレッタの違いについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
12	[ウィーンの食事について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
13	[ハプスブルクの食卓について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
14	[ザハートルテについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
15	[グリーヒェンバイスルについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
16	[レポートのプレゼンテーション] 授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標
社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールことにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探索する。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。</li> <li>・ 各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。</li> <li>・ 関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。</li> <li>・ 研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「研究テーマ」に沿った形で進められる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。前期の「基礎ゼミナール A」の授業内容も含まれる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゼミ研究のテーマをが明確になっている。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっている。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。</td> <td>ゼミ研究のテーマに沿って着手してきている。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっている。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマに関するディスカッションができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。</td> <td>自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って着手してきている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。	研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。	自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って着手してきている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。																								
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。																								
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業15	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1年次前期の学生生活の達成と反省点を振り返り、今後の目標を明確にする。その上で、基礎ゼミナール Aのテーマとの連続として、現代の世代問題とライフコースの変化について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

世代問題やライフコースの変化について単に知識を習得するだけでなく、自らが対処を求められる問題としてそれらを考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナール Aの中で考察した青年期問題の理解を前提とした上で、現代青年期の世代的特質と変化するライフコースの中でキャリア形成が求められることを1「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談受け、大学の基本方針および規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められる水準を大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識を概ね修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できる水準に留まっていた。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準を大きく超えて考察できていた。	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準で考察できていた。	ゼミナール・テーマ取り組み、広く一般的な水準の考察に達していた。	ゼミナール・テーマに取り組み、考察が最低限の水準に留まっていた。	ゼミナール・テーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナール・テーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的な水準の分析には達していた。	左記事項について分析が最低限の水準に留まっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナール・テーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミナール内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容の確認(45分)
2	・前期大学生生活の振り返り 1.何が反省点か?	1年次前期の振り返り(45分)	反省点等の確認(45分)
3	・(続き) 2.後期以降の目標は?	今後の目標の明確化(45分)	目標の再確認(45分)
4	・世代の問題 1.世代とは何だろうか?	世代をどうとらえるかの考察(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	・(続き) 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
6	・(続き) 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(4)
7	・(続き) 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	・(続き) 2.現代青年期の世代問題	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	・(続き) 2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	・ライフコースの現代的特徴	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
11	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
15	・後期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	後期のすべての活動の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総まとめ	15回分の内容の振り返り(45分)	総まとめの再確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。  
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。  
教育にかかわる法令、答申などの通読  
教育に関する諸課題についての調べ学習  
教師に求められる教職教育等の学修  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。  
教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
教師に求められる教職教育等について演習を行う。  
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
板書や教材提示装置を活用する。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
各自、ノートを用意すること。(ルーズリーフは不可)  
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関するレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む)	前期の課題を整理すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること(45分)
2	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・いじめについて 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・いじめについて 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・虐待について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・虐待について 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・いじめ・虐待について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・家庭・地域との連携 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・家庭・地域との連携 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・家庭・地域との連携 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・教師をめぐる課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・教師をめぐる課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・教師をめぐる課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・自由課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・自由課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・自由課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」(主体性・働きかけ力・実行力)・「考え抜く力」(課題発見力・計画力・創造力)・「チームで働く力」(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)を修得する。

授業の位置づけ
・経営学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・社会福祉学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・デザイン学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・建築学科のDP(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。 ・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。 ・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。

授業全体の内容と概要
グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く難しさ」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらう。グループワークの成果物として「レポート」、「プレゼンテーション」、「Webサイトデザイン・ムービー」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。 本科目は、以下のSDGs関連授業である。 ・「SDG 8:働きがいも経済成長も」 ・「SDG 9:産業と技術革新の基盤をつくろう」 ・「SDG 16:平和と公正をすべての人に」 ・「SDG 17:パートナーシップで目標を達成しよう」 その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法
グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったPDCAサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。 ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。 ・授業時間外において質問及び相談があれば、Teamチャットまたは音声通話にて受け付ける。 ・提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。 ・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。 ・本科目内で最低1回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク			PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習			反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業			その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・所属学科の制限は設けない。 ・課題制作(デザイン制作)を行う場合は、全学科対応できるよう考慮した内容とする。 ・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。 ・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス(過程)」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。 ・不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上とする。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組みることができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与(学意欲)	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスの説明等	シラバスを確認する(45分)	履修登録結果を確認する(45分)
2	【ビギナーズセミナー】 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
3	【ビギナーズセミナー】 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
4	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	グループディスカッションのコツについて調べる(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
5	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
6	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
7	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
8	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
9	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
10	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
11	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
12	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
13	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
14	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
15	【学内プロジェクト活動(成果発表会)】 グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	反省点をまとめる(45分)
16	【まとめ・総評】	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容をまとめる(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B（再）（科目ナンバリング：BAS001004）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べるができる。

授業全体の内容と概要
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）																	

履修上の注意事項
基礎ゼミナール18再履修者。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、13回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	80%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得した。</td> <td>学修した知識・技能をほぼ修得した。</td> <td>学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>学修した知識を修得できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組みなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルをほぼ達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組みなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。																								
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B（再）（科目ナンバリング：BAS001004）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	レポートの内容についてのプレゼンテーションを行う。授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221053)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験あり。一級建築士。図学は製図の基礎的な技術に位置付けられるため、直接的な関連がある。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsによる事前連絡。				

概要

履修目標	図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。本実習ではこの表現技術について修得し、作図と立体表現により、作品を他者に伝える技術を高める。また、他者と協働し、作品を作り上げる力を高める。
授業の位置づけ	デザイン学科のDP (1) (2) に対応する。

到達目標	立体と平面の関係性を把握している。自身の作品を平面や立体に的確に美しく表現できる。図面の縮尺について理解できる。
------	--

授業全体の内容と概要	図学I から発展した内容。まずはトレース課題により、実際の図面に近いものをなぞり、感覚を得る。次に、簡単な課題により、図面描画の演習を行う。
------------	--

授業の方法	課題説明と必要に応じた講義の後、課題に各自取り組む。図学Iで用いたものと同じく、基本的な製図道具(製図用シャープペンシル、定規類、コンパス等)を必要とする。特に、三角スケールは必須の道具。そのほか、エスキスのためのスケッチブックまたはクローキ帳を必要とする。質問は適宜受け付ける。作業に必要な道具は各自で用意し、持参して用いること。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	2023年度図学Iを履修していることを前提とする。(連続的な内容のため) 最初の授業の日に、図学Iで制作した課題(ポートフォリオ含む)を持参のこと。図学Iと同様に、製図用シャープペンシル、定規(短い普通のもの、できれば30cm程度のもの)、三角定規、三角スケール、コンパス等が必要。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	教職課程(工芸)選択科目
--------	--------------

評価方法・基準

評価前提条件	1 2 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻5回を1回欠席とみなす。
--------	--

評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体と平面の関係性を把握している。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
自身の作品を平面や立体に的確に美しく表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
図面の縮尺について理解できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221053)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験あり。一級建築士。図学は製図の基礎的な技術に位置付けられるため、直接的な関連がある。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 トレース課題1	シラバスと準備する用具等の確認(90分)	課題の制作(90分)
2	トレース課題2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
3	トレース課題3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
4	トレース課題4	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
5	トレース課題5	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
6	トレース課題6	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
7	トレース課題7	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
8	創作課題 構想・エスキス1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
9	創作課題 構想・エスキス2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
10	創作課題 構想・エスキス3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
11	創作課題 製図 下書き1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
12	創作課題 製図 下書き2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
13	創作課題 製図 下書き3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
14	創作課題 製図 仕上げ1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
15	創作課題 製図 仕上げ2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
16	創作課題 製図 仕上げ・提出・総評 授業評価アンケートの実施	課題の制作(90分)	振り返り(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (M) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

複数の基本統計量とそれを組み合わせたデータの読みかたを理解することで、統計にだまされない能力を身につける。また、統計的有意性や推測統計の考え方を理解することで、統計分析の結果が意味することを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(1)(3)に対応する。

到達目標

複数の基本統計量を組み合わせて、データの特性について述べることができる。正規分布に従う分布について、統計的有意性を判断できる。推測統計の考え方の枠組みがわかる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス教育の関連授業科目であり、各種データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。具体的には、代表値などの基本統計量やヒストグラムによるデータの要約・整理、基本統計量を応用したデータ分析、推測統計学の考え方などについて学ぶ。また、統計量の定義や統計の理論を学ぶだけでなく、チームスポーツ競技の試合結果や選手データ、過去の気象データ、株価データなどをを用いた演習を行う。

授業の方法

各回の計画にそって、板書による講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、現実データも使用しながら基本統計量や推測統計の考え方について解説をおこなう。演習では、実際にノートを使って統計量を計算したり・グラフを描いたりする。さらに、得られた計算結果やグラフに関する自分なりの解釈も検討する。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データにかんする意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要なとなる出席回数は試験を除く10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本統計量・グラフの理解	複数の基本統計量とグラフとを比較・組み合わせてデータを分析できた。	複数の基本統計量やグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	ひとつの基本統計量もしくはグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	データから基本統計量を求める・グラフを描くことができた。	基本統計量を求めることができなかった。グラフが描けなかった。
統計学の考え方の理解	推測統計の考え方を理解して、かつ正規分布に従う分布の事例で統計的有意性の判断ができた。	推測統計の考え方を理解、または正規分布に従う分布の事例をもとに統計的有意性を判断できた。	統計的有意性の意味や推測統計の考え方を説明できた。	推測統計の基礎的な考え方がある程度説明できた。	推測統計の考え方を説明できなかった。
統計学の用語の理解	事例をあげて統計学の基礎的な用語を説明できた。	事例をあげて統計学の基礎的な用語をある程度説明できた。	統計学の基礎的な用語を説明できた。	推測統計の基礎的な用語をある程度説明できた。	推測統計の用語を説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (M) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『完全独習 統計学入門』	小島 寛之	ダイヤモンド社	2006	4478820090	
2	『数学ガールの秘密ノート やさしい統計』	結城 浩	SBCクリエイティブ	2016	4797387122	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	統計とは何か調べる(90分)	この授業で学ぶことについてノートにまとめる(90分)
2	データを代表する値: ・中央値と平均値・最頻値と平均値	代表値とは何か調べる(90分)	授業で学んだ代表値のまとめと演習問題(90分)
3	データの分布と代表値 ・範囲(レンジ)と最大値・最小値・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる(90分)	範囲のまとめと演習問題(90分)
4	度数分布表によるデータの整理 ・度数分布表とヒストグラム	度数分布とヒストグラムについて調べる(90分)	度数分布表・ヒストグラムのまとめと演習問題(90分)
5	グラフによるデータの直感的理解: ・範囲・四分位範囲と分布 ・箱ひげ図と価格変動分析	範囲・四分位範囲を調べる(90分)	グラフと分布との関係のまとめと演習問題(90分)
6	データのバラツキを知る ・バラツキの代表値: 標準偏差	標準偏差について調べる(90分)	標準偏差の計算のまとめと演習問題(90分)
7	バラツキとリスク ・変動係数とは ・バラツキによるビジネス・リスクの分析	変動係数について調べる(90分)	変動係数とバラツキのリスクに関するまとめ、演習問題(90分)
8	バラツキの事例と演習 ・リターンとリスクの資産運用分析	標準偏差とは何か調べる(90分)	標準偏差の計算のまとめと演習問題(90分)
9	統計でもっとも重要な分布 ・正規分布の特徴・正規分布を描いてみる	正規分布について調べる(90分)	正規分布の演習問題(90分)
10	統計的有意性と正規分布 ・身長平均・標準偏差と分布・標準偏差と統計的有意性	正規分布と統計的有意性の関係について調べる(90分)	標準偏差と統計的有意性のまとめと演習問題(90分)
11	推測統計の考え方	推測統計とは何かについて調べる(90分)	推測統計の考え方のまとめ(90分)
12	推測統計と標本調査: ・母集団と標本	母集団と標本について調べる(90分)	標本調査の考え方のまとめ(90分)
13	検定の考え方 ・仮説検定の考え方と例	仮説検定とは何かについて調べる(90分)	仮説検定の考え方のまとめ(90分)
14	信頼区間と推定の考え方 ・推定の考え方と例	推定とは何かについて調べる(90分)	推定の考え方のまとめ(90分)
15	推測統計のまとめ	これまでに学んだことを復習する(90分)	推測統計についてまとめる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験にでた問題の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (S) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

量的調査における記述統計 (最大値・最小値、分散、歪度 標準偏差 平均値 範囲) と多変量解析、重回帰分析、因子分析、ロジスティック回帰分析の理論と基本的な算出方法、計算方法を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP (1) (2) (5) に対応する

到達目標

記述統計を説明することができる。  
積分応用の意味を説明することができる。  
各種多変量解析の方法論を説明することができる

授業全体の内容と概要

データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。各種社会調査の統計データを使い、その分析方法と算出方法を演習形式で行い、最終的には、社会科学で扱うデータ分析の理論をマスターする。  
数理・データサイエンス教育の関連授業科目

授業の方法

各回の講義プリントを教員が配布し、量的調査における記述統計、分析方法の概念と数式を説明したうえで、実際のデータを使い、学生が各種数式を使って計算を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他 (授業の方法参照)

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データに関する意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート (合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計の理解	平均値、標準偏差、最大・最小値、中央値、最頻値、歪度の概念と理論を理解でき、その算出方法を習得した。	平均値、標準偏差、分散の概念について理解でき、その計算方法を習得した。	中央と、最頻値、平均値の関係を理解し、正規分布上の置ける意味を理解できた。	最大値と最小値、範囲について理解できた。	記述統計について何一つ理解できなかった。
相関についての理解	正・負の相関、相関係数についての概念と算出方法を理解し、相関係数を使って数値を算出できた。	相関係数を使って、数値を算出できた。	正・負の相関と相関係数の概念について理解できた。	正・負の相関の概念について理解できた。	相関について理解できなかった。
多変量解析についての理解	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析の方法について理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解できた。	回帰分析、重回帰分析の方法を理解できた。	多変量解析について何も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (S) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	この授業で学ぶこと ・統計とは ・授業計画 (シラバス) の説明 ・授業改善アンケート結果反映の説明	統計とは何か調べる (90分)	統計とは何かとこの授業で学ぶことについてノートにまとめる (90分)
2	記述統計 ・中央値と平均値 ・最頻値と平均値	記述統計とは何か調べる (90分)	授業に出てきた代表値のまとめと演習問題 (90分)
3	データの分布と代表値との関係 ・範囲 (レンジ) と最大値・最小値 ・分布と代表値	範囲 (レンジ) について調べる (90分)	範囲のまとめと演習問題 (90分)
4	平均値と分散	分散とは何か調べる (90分)	平均値と分散のまとめと演習問題 (90分)
5	分散と標準偏差	標準偏差とは何か調べる (90分)	平均値と分散と標準偏差のまとめと演習問題 (90分)
6	正の相関、負の相関	相関とは何かを調べる (90分)	正・負の相関のまとめと演習問題 (90分)
7	相関係数	相関係数について調べる (90分)	正・負の相関と相関係数の関係のまとめ (90分)
8	相関係数	相関係数とは何か調べる (90分)	ピアソンの相関係数の計算のまとめと演習問題 (90分)
9	回帰分析	回帰分析について調べる (90分)	回帰分析と相関に関するまとめ、演習問題 (90分)
10	重回帰分析	重回帰分析の特徴について調べる (90分)	重回帰分析に関する演習問題 (90分)
11	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰分析について調べる (90分)	ロジスティック回帰分析の演習問題 (90分)
12	因子分析	因子分析について調べる (90分)	因子分析のまとめと演習問題 (90分)
13	全数調査と標本調査	標本調査とは何かについて調べる (90分)	サンプリングの考え方のまとめ (90分)
14	サンプリングの方法 (1) -サンプリングの理論-	サンプリングの方法について調べる (90分)	サンプリングの考え方のまとめ (90分)
15	サンプリングの方法 (2) -演習問題- 授業改善アンケートの実施	サンプリングの種類について調べる (90分)	サンプリングの各種算出方法のまとめ (90分)
16	定期試験 (60分) と試験の説明 (	各回の演習問題に再度とりくむ (90分)	試験にでた問題の復習 (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (D) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、観測したい事象のすべてを網羅的に観測できない場合がある。ここでは、一部のデータ(標本)からデータ全体(母集団)の特性を推測する標本調査をアツカイ、推定および検定という推測統計の手法について学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)に対応する。

到達目標

標本平均についての中心極限定理を理解し、推定手法と検定手法についてはそれぞれの考え方を説明できる。

授業全体の内容と概要

数理 データサイエンス教育の関連授業科目。統計量と標本分布については自由度と標本分布表の使い方を理解する。推測統計では、推定手法および検定手法の考え方や処理手順について理解する。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。  
\*S04.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は教科書及びパワーポイントで実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。データ処理には表計算ソフトExcelを使用する。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を提示してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・「統計学入門」の履修・修得を履修の前提とする。
- ・USBメモリを持参すること。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	15%	0%	0%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
統計量と標本分布についての理解	不偏分散と標本分散について理解し、自由度と標本分布について理解できた。	不偏分散の考え方について理解できた。	さまざまな標本分布表の使い方を理解できた。	中心極限定理について理解できた。	中心極限定理について理解できなかった。
推定手法についての理解	与えられた条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができ、区間推定の信頼区間も導出できた。	信頼係数に対応する限界値と信頼限界の幅についての導出方法を理解できた。	与えられた統計データの条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができた。	推定手法の考え方を理解できた。	推定手法の考え方を理解できなかった。
検定手法についての理解	限界値と実現値を計算して、帰無仮説が棄却されるかどうかを判断できた。	有意水準に対応する限界値と、検定統計量の実現値を求める方法を理解できた。	検定統計量の分布を定めることができた。	検定手法の考え方を理解できた。	検定手法の考え方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (D) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明/データの整理 (表計算ソフトExcel)	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
2	標本平均の分布と中心極限定理	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
3	推測統計に用いられる標本分布	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
4	推定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
5	母平均の推定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
6	母分散の推定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
7	母比率の推定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
8	母相関係数の推定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
9	推定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
10	検定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
11	母平均の検定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
12	母平均の差の検定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
13	分散比の検定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
14	母分散の検定	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
15	検定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと (90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験 (80分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習しておくこと (90分)	試験内容について復習しておくこと (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習(A) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、観測したい事象のすべてを網羅的に観測できない場合がある。ここでは、一部のデータ(標本)からデータ全体(母集団)の特性を推測する標本調査を身につけ、推定および検定という推測統計の手法について学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

標本平均についての中心極限定理を理解し、推定手法と検定手法についてはそれぞれの考え方を説明できる。

授業全体の内容と概要

数理 データサイエンス教育の関連授業科目。統計量と標本分布については自由度と標本分布表の使い方を理解する。推測統計では、推定手法および検定手法の考え方や処理手順について理解する。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。  
\*S04.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は教科書及びパワーポイントで実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。データ処理には表計算ソフトExcelを使用する。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を提示してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・「統計学入門」の履修・修得を履修の前提とする。
- ・USBメモリーを持参すること。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	15%	0%	0%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
統計量と標本分布についての理解	不偏分散と標本分散について理解し、自由度と標本分布について理解できた。	不偏分散の考え方について理解できた。	さまざまな標本分布表の使い方を理解できた。	中心極限定理について理解できた。	中心極限定理について理解できなかった。
推定手法についての理解	与えられた条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができ、区間推定の信頼区間も導出できた。	信頼係数に対応する限界値と信頼限界の幅についての導出方法を理解できた。	与えられた統計データの条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができた。	推定手法の考え方を理解できた。	推定手法の考え方を理解できなかった。
検定手法についての理解	限界値と実現値を計算して、帰無仮説が棄却されるかどうかを判断できた。	有意水準に対応する限界値と、検定統計量の実現値を求める方法を理解できた。	検定統計量の分布を定めることができた。	検定手法の考え方を理解できた。	検定手法の考え方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習(A) (科目ナンバリング: STS072048)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明/データの整理(表計算ソフトExcel)	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
2	標本平均の分布と中心極限定理	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
3	推測統計に用いられる標本分布	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
4	推定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
5	母平均の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
6	母分散の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
7	母比率の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
8	母相関係数の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
9	推定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
10	検定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
11	母平均の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
12	母平均の差の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
13	分散比の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
14	母分散の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
15	検定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(80分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習しておくこと(90分)	試験内容について復習しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学入門 (科目ナンバリング: ENV071050)				
授業担当者(所属・職名)	吉田 淳一(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉田 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室で対応。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>人間と環境、人口問題、食糧問題、我々を取り巻く種々の環境問題(大気汚染、水質汚濁、廃棄物等)、エネルギー資源と環境問題、SDGsとの関わり、環境保全などについて幅広く学習することによって、環境学の基礎的考え方及び環境問題の現状を理解し、将来に向けた課題を考え、自分なりの考えを見出すことにより環境に関する諸課題に対して積極的に取り組むための姿勢を学ぶ。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>経営学部経営学科のDP(2)、(4)に対応する。          社会福祉学部社会福祉学科のDP(2)、(3)、(4)に対応する。          美術学部デザイン学科のDP(2)、(4)に対応する。          美術学部建築学科のDP(2)、(4)に対応する。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>我々を取り巻く種々の環境に関する課題(身の周りの環境問題、地球規模の環境問題、日本における環境問題、予測される将来の環境関連の課題等)の本質を理解し説明するとともに、それらの環境課題に対して、SDGsとの関連及び今自分は何を為すべきか、また何ができるかについて具体的に提案することができる。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>環境の定義、環境負荷、人口増加と経済活動の増大に伴う自然環境の変化と課題、SDGsとは何か、日本における環境問題(大気汚染、水質汚濁、食料、廃棄物等)の概要、日本における主なエネルギー資源とその問題点、新しいエネルギー資源の開発、および環境保全の在り方と問題点について、講義・文献調査・グループディスカッション等々を組み合わせて進める。</p>
--

<p><b>授業の方法</b></p> <p>電子的手段あるいはプリントで配布する講義資料及び映像を用いて、我々を取り巻く種々の環境問題(身近な環境問題、日本における環境問題、地球規模の環境問題、エネルギー問題など)及びSDGsの概要を講義形式で説明する。また、講義内容について自らの知識として定着が図れるよう、文献調査、レポート作成、グループディスカッション及びプレゼンテーションを実施する。講義中に不明点はフィードバックシートに記入して提出するとともに、自分で書籍等で調査して予習・復習を行う。また、グループディスカッション課題については、必要な調査を行い相互に意見交換して、グループとしての見解をまとめて発表資料及び概要説明資料としてまとめ、プレゼンテーションすることにより受講者全員でディスカッションを行う。</p>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題(グループディスカッション課題を含む)の進め方等については、その都度指示する。</li> <li>・配布する講義資料にある「講義のポイント」及び「復習課題」を活用し、授業内容を自らが積極的に調べる姿勢で授業に臨み、講義の理解に努めること。また、不明点や要望事項などがあれば、「フィードバックシート」に記入して提出する。</li> <li>・講義内容にとらわれないこと、自分が興味のある事項を見出し、積極的に調べること。</li> <li>・不測の事態が起きた際には、オンライン授業を実施する場合がある。</li> </ul>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

<p><b>資格指定科目</b></p>
----------------------

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。定期試験(期末試験)は行わないが、数回のレポート課題(グループディスカッション課題を含む)に対するレポートの論理構成及び内容の充実度、講義期間中に行う中間テストの結果、フィードバックシートにおける主体性等を総合して評価する。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	35%	60%	0%	0%	5%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
35%	60%	0%	0%	5%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界人口の増加と環境問題及びSDGsとの関係に関する理解	世界人口の増加と関連する環境問題及びSDGsについて、現状から予想される複数の将来の課題が定量的をもって具体的に例示されかつその課題の解決方法及び実施効果が定量的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題及びSDGsについて、現状から予想される複数の将来の課題が定量的をもって具体的に例示されかつその課題の解決方法及び実施効果が定性的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題及びSDGsについて、現状から予想される将来の課題の一部が例示され、かつその課題の解決方法が実施効果とともに定性的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題及びSDGsについて、現状から予想される将来の一部の課題が例示され、かつその課題の解決方法が定性的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題及びSDGsについて、現状から予想される将来の課題が例示されていない。又は、例示されていても解決方法が抽象的である。
地球温暖化問題に関する理解	地球温暖化に対する対策について、自分自身が取り組むべき複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果と課題について、SDGsの観点から定量的に説明されている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身が取り組む複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果と課題について、SDGsの観点から定量的に説明されている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身が取り組む複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果と課題について、SDGsの観点から定性的に説明されている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身が取り組む複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果について、SDGsの観点から説明ができている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身が取り組む複数の対策が一般的で、それがもたらす効果や課題についても、説明が抽象的である。
日本のエネルギー問題に関する理解	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、SDGsを踏まえ多面的から定量的な根拠に基づいて分析を行い、自分なりの提案が説明されている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、定性的な分析が行われ、SDGsを踏まえそれを基にした自分なりの提案が説明されている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、定性的な分析を基に、SDGsを踏まえ一般的な提案が説明されている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、SDGsを踏まえた現状調査の結果がまとめられている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、現状調査や分析ができていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学入門 (科目ナンバリング: ENV071050)				
授業担当者(所属・職名)	吉田 淳一 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉田 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『文系のための環境科学入門』	藤倉良他	有斐閣	2008		
2	『エコエコノミー時代の地球を語る』	レスター・ブラウン	家の光協会	2003		
3	『持続可能な低炭素社会』	吉田和文他	北海道大学	2011		
4	『76億人が暮らす一軒家』	末吉正三	新評論	2020		
5	『SDGs』	蟹江憲史	中央公論新社	2021		

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果の反映の説明。人間と環境の関係について。環境学とは。環境負荷とは。	環境の定義を調べる(90分)。	環境の定義の確認する(90分)。
2	人間と環境：我々の活動と環境。SDGsとは。	環境問題の概要を調べる(90分)。	日本における環境問題の概要を覚える(90分)。
3	地球規模の環境問題：人口増加と食糧問題(人口の急激な増加)。SDGsとの関係。	世界人口の変遷と適正人口について調べる(90分)。	世界人口と適正人口のギャップについて考える(90分)。
4	地球規模の環境問題：人口増加と食糧問題(慢性的な飢餓状態に陥っている発展途上国、フードロス)。	発展途上国における食糧事情について調べる(90分)。	発展途上国における食糧問題の解決策について考える(90分)。
5	地球規模の環境問題：人口増加と食糧問題(人口問題・貧困対策)。	人口問題と貧困対策について調べる(90分)。	人口問題と貧困対策について考える(90分)。
6	地球規模の環境問題：食料危機と国際問題(現状・課題及び対策、グループディスカッション、レポート作成)。	食料危機について調べる(90分)。	食料危機対策について考える(90分)。
7	地球規模の環境問題：食料危機と国際問題(プレゼンテーション、全体討論)。	食糧危機の解決策について調べてまとめる(90分)。	他グループの提示した解決策について考える(90分)。
8	地球規模の環境問題：地球温暖化問題(現状と将来)。SDGsとの関係。	地球温暖化とは何かについて調べる(90分)。	地球温暖化における本質的な問題点について考える(90分)。
9	地球規模の環境問題：温室効果ガス(国際的及び日本の対策、現状と課題)。	温室効果ガスの種類について調べる(90分)。	国際的取組みの現状と将来について考える(90分)。
10	地球規模の環境問題：地球温暖化対策(調査)。	温暖化対策の現状について調べる(90分)。	温暖化対策を考える(90分)。
11	日本における環境問題：大気、水質、廃棄物、環境保全(グループディスカッション、レポート作成)。	日本の環境問題の現状について調べる(90分)。	日本の環境問題への対策を考える(90分)。
12	日本のエネルギー資源と環境問題：エネルギー資源の需給状況と問題点。SDGsとの関係。	エネルギー資源の種類と化石燃料の問題点について調べる(90分)。	エネルギー資源の種類と化石燃料の問題点を理解する(90分)。
13	日本のエネルギー資源と環境問題：新エネルギー	新エネルギーの種類と問題点について調べる(90分)。	新エネルギーの現状と課題点について確認する(90分)。
14	日本のエネルギー資源と環境問題：エネルギー問題(解決策の調査・検討、グループディスカッション、レポート作成)。	エネルギー問題の解決策について調べる(90分)。	エネルギー問題の解決策について考える(90分)。
15	日本のエネルギー資源と環境問題：エネルギー問題(解決策の提案、プレゼンテーション、全体討論)。	エネルギー問題の解決策について提案をまとめる(90分)。	他グループの提示した解決策について考える(90分)。
16	定期試験(60分)。試験終了後に解説を行う。また、提出された課題(レポート)の総合評価をフィードバックする。授業改善アンケートの実施。	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)。	試験及び課題の解説に基づいて復習し整理する(90分)。

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング: ENL042032)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<b>履修目標</b>
英文法の基本を身に付けし、ビジネスでも使われるものを含め、理解できる語彙を増やす。音声変化に慣れることにより、リスニングの能力をつける。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(2)に対応する。

<b>到達目標</b>
今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身に付ける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
各ユニットはリーディング、文法、リスニングの3つのセクションで構成されている。ビジネスに関する内容を取り上げているため、「ビジネス英語」への橋渡しにもなっている。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

<b>授業の方法</b>
講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳していただくことを課題とし、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b>
教科書を必ず用意し、予習をしていただくこと。前期開講「英語入門」からの継続のため、「英語入門」を履修済みであること。教科書も同じものを使用する。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
----------------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な出席回数は、10回以上。

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

<b>ルーブリック</b>					
---------------	--	--	--	--	--

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業(語彙・文法・音声変化)の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすることで訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英文翻訳)の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング: ENL042032)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『Good Choice!新入社員ショウタと学ぶ大学基礎英語』	津村 修志 他	金星堂	2017	9784764740372	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 助動詞	テキストp.51-54 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	willの短縮形の音	テキストp.55-56 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
3	WH 疑問文	テキストp.57-60 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	疑問文のイントネーション	テキストp.61-62 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
5	可算名詞・不可算名詞	テキストp.63-66 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	名詞の複数形の語尾の音	テキストp.67-68 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
7	現在進行形	テキストp.69-72 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	弱音の[a]や[of]の音	テキストp.73-74 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
9	there is, there are	テキストp.75-78 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	数字の後の[th]の音	テキストp.79-80 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
11	動詞の過去形	テキストp.81-84 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	過去形の語尾の音	テキストp.85-86 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
13	過去形 否定・疑問文	テキストp.87-90 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	つながる音	テキストp.91-92 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング: ENL042032)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

受講者が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を習得する。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力が身に付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得がされている。特に英文法の基礎的な知識が身に付いており、基礎的な読解力が身に付いている。

授業全体の内容と概要

この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。毎回、英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答(フィードバック)を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、1)その回の説明、2)英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、3)その後解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材(コピー)を配布、使用する。解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。授業の最後にまとめと質問の時間(フィードバック)を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほとんど解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題が大体解けた。	テキストの説明が大体理解されており、テキストの問題の主要な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されており、テキストの問題がいくらか解けた。	英文法の初歩が理解されていなかった。
英文読解・作文の能力	テキストの英文が完全に理解され、基本的な英文が書けたりと書けた。	テキストの英文がほぼ理解され、基本的な英文が書けた。	テキストの英文が大体わかり、単純な英文が書けた。	簡単な英文が大体わかり、単純な英文が大体書けた。	簡単な英文がわからず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解されており、応用的な展開ができた。	テキストの英会話文がほぼ理解され、応用ができた。	テキストの英会話文が大体わかり、若干の応用ができた。	簡単な英会話文が理解でき、少し応用ができた。	簡単な英会話文が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング: ENL042032)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	"English Once More!"	Y.Aiko、他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読む。(90分)	Unit7の予習(90分)
2	Unit7: 名詞・冠詞の使い方(1)	Unit7の予習(90分)	Unit7の復習(90分)
3	Unit7: 名詞・冠詞の使い方(2)	Unit7の予習(90分)	Unit7の復習(90分)
4	Unit8: 代名詞の使い方(1)	Unit8の予習(90分)	Unit8の復習(90分)
5	Unit8: 代名詞の使い方(2)	Unit8の予習(90分)	Unit8の復習(90分)
6	Unit9: 形容詞の使い方(1)	Unit9の予習(90分)	Unit9の復習(90分)
7	Unit9: 形容詞の使い方(2)	Unit9の予習(90分)	Unit9の復習(90分)
8	Unit10: 副詞の使い方(1)	Unit10の予習(90分)	Unit10の復習(90分)
9	Unit10: 副詞の使い方(2)	Unit10の予習(90分)	Unit10の復習(90分)
10	Unit11: 比較の使い方(1)	Unit11の予習(90分)	Unit11の復習(90分)
11	Unit11: 比較の使い方(2)	Unit11の予習(90分)	Unit11の復習(90分)
12	Unit12: 前置詞の使い方(1)	Unit12の予習(90分)	Unit12の復習(90分)
13	Unit12: 前置詞の使い方(2)	Unit12の予習(90分)	Unit12の復習(90分)
14	Unit13: 受動態の使い方	Unit13の予習(90分)	Unit13の復習(90分)
15	Unit14: 現在完了形の使い方	Unit14の予習(90分)	Unit14の復習(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit7から14を通読する(90分)	Unit7から14を通読する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング: ENL042032)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習(ペアワークとグループワーク)を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP(2)に対応する。 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標
英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。ペアワークを通して、パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを円滑にするようにする。

授業全体の内容と概要
リーディングや様々なアクティビティを中心に、既存の英語知識を活用させ、スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し、表現する。

授業の方法
授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でダウンロードし自習用音声として活用する。NAU'UN-DO(http://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	0%	20%	20%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	0%	20%	20%	10%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>授業の理解度</td> <td>授業内容を超えた学修が認められる</td> <td>授業内容を十分に理解している</td> <td>授業内容を理解している</td> <td>授業内容の理解に不足がある</td> <td>授業内容を理解していない</td> </tr> <tr> <td>英語表現能力(スピーキング)</td> <td>優れた創造的表現を行うことができる</td> <td>文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる</td> <td>自在に定型的表現を行うことができる</td> <td>与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる</td> <td>与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない</td> </tr> <tr> <td>授業の積極的参加</td> <td>授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する</td> <td>授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる</td> <td>発問に対して、指名されれば正しく応じることができる</td> <td>授業に集中して理解しようとする態度が見られる</td> <td>授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる</td> </tr> <tr> <td>事前・事後学修</td> <td>自ら進んで学修範囲を超えて調べている</td> <td>学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる</td> <td>学修範囲の理解に曖昧な点がある</td> <td>指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である</td> <td>指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。</td> </tr> <tr> <td>リーディング技能</td> <td>授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる</td> <td>授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる</td> <td>授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。</td> <td>授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。</td> <td>授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない	英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない	授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる	事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。	リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない																																				
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない																																				
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる																																				
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。																																				
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。																																				

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング: ENL042032)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	"Project English"	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 英語で他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 (90分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(90分)
2	Modal Verbs (助動詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
3	Modal Verbs (助動詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
4	Unit 7 How was your weekend?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
5	Unit 8 What time is your first class?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
6	Unit 9 Have you ever been to Kyoto?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
7	Review Units 7-9	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
8	Grammar Present perfect (完了形)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
9	Grammar Present perfect (完了形)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
10	Mid-term Exam.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
11	Unit 10 Can I ask you a favor?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
12	Unit 11 I'm going to visit my grandparents.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
13	Unit 12 I'm on the train.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
14	Review Units 10-12	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
15	Review 1	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。(90分)	授業で説明を受けた解説を復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門 (科目ナンバリング: CHI051037)				
授業担当者(所属・職名)	孫 暢(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 孫 暢)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことができるようになる。中検4級程度のレベルに到達する。  
 (中国語検定試験(「中検」)は、主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。  
 「中検」は、中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。  
 「HSK」は、中国語による設問に中国語で答えることを求め、中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。  
 したがって、中検は日本の企業での活躍を目指す方、HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。)

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

中国語を通して、中国の文化を理解し日中友好に寄与することができる。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身につけられるようにする。  
 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」、「挨拶」、「基本文」、「会話文」、「入れ替え練習と応用」、「進出単語」、「文法」、「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。  
 中国語の学習を通して、中国の文化や歴史等も理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

「中国語入門」の単位未修得の学生は履修できません。  
 会話を特に重視したいので、聞き取った中国語を中国語で理解し、すぐに反応して中国語で答えられる能力を身につけるよう努力すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・文字・語彙・文法・読解等)	定期試験で9割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解している。	定期試験で8割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解している。	定期試験で7割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解している。	定期試験で6割以上、語彙・文法の誤りが若干あっても理解できている部分がある。	定期試験で6割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがある。
思考力・判断力・表現力(聴解・会話・プレゼン等)	表現方法が適切であり、誤りがない。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどない。	誤りが多少あるが、表現方法が適切である。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点がある。	表現方法に誤りがあり、自分の意見が伝わらない。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組みなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門 (科目ナンバリング: CHI051037)				
授業担当者(所属・職名)	孫 暢(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 孫 暢)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『本気で学ぶ中国語』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基礎からレッスンはじめての中国語』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	講義ガイダンス: シラバスの説明、中国語について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容確認(90分)	授業の内容確認(90分)
2	第11課 文型「主語(期間詞)述語動詞(回数詞)目的語、 (動作主はどのくらいのペースに何回...をする)」、	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
3	第12課 文型「主語+喜+動詞/名詞」(...が好きです)。 四声の復習「一」の声調変化、「了」の意味・使い方、 文型「又A又B」(Aでもあり、Bでもある)	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
4	第13課 文型「主語+喜+動詞/名詞」(...が好きです)。 情景会話「在学校」(学校で)	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
5	第14課 「先生」の使い方、文型「主語+述語動詞+目的語」 (...は、...をする)	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
6	第15課 文型「主語+述語動詞+特殊疑問詞・目的語」(...は何の...をしますか?)、「还没(有)」、「まだ」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
7	復習三 長い会話の聞き取り練習、基本文型のと め、会話練習と短文の読み方練習	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
8	第16課 文型「从A(場所/時点)到B(場所/時点)」、「A からBまで」、「因为...所以...」、「...のため、だが」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
9	第17課 文型「主語+在+場所名詞」(人/物は...にいる/ ある)、文型「主語+在+場所名詞+述語動詞+目	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
10	第18課 文型「主語+不+...」(あまり...ないです)、中国 語の数字、中国語の曜日、中国語の時間の表現	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
11	第19課 文型「主語+什么时候+述語動詞+目的語」(...は いつ...をする)、文型「主語+毎+几点+述語	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
12	第20課 中国語の期間詞、文型「对...感兴趣」(...に対して 興味がある)	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
13	復習四 学校での会話の聞き取り練習と文法の復習、 会話練習と短文の読解	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
14	総復習 発音・文法の復習と中国語で自分の出身 地・出身校を紹介して、質問に答える	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
15	総復習 会話・読み方の復習をして、中国語で北 海道や日本のことを説明する	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
16	定期試験・解説(60分+30分)、授業改善アン ケートの実施	定期試験の準備をする(90分)	試験の復習をする(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122128, )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

自然地理学 に引き続き地形学を中心に自然地理学の理解を深めることと我々の生活の身の回りに発生する自然災害について理解することが出来る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

変動帯とよばれている日本列島にはなぜ地震や火山活動が多いのかその理由が説明することができるようになる。地形図の読図や空中写真判読から地形の様子が理解できるようになる。自然災害に対する防災について考えることが出来るようになる。

授業全体の内容と概要

日本列島はなぜ地震や火山が多いのかプレートの運動、火山分布や活断層の運動の仕方などから説明する。また、活断層がどのような活動するのか阿寺断層の地図作業をとおして説明する。それらによってもたらされる自然災害について講述する。

授業の方法

授業の具体的な形態：講義形式、 進行方法：おもにパワーポイントと板書、使用する教材：配布資料及びビデオ、 課題に対する説明：地図作業を課題として予定しているため、12色程度の鉛筆の用意、 要望への対応等：集中講義期間中随時対応します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講者数の制限：なし、 受講条件：なし、 履修上必要な知識・学力等：本学の学生であれば全て可、 遅刻・欠席等のルール等：クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、 受講の心構え：受講を集中講義であるため、日毎に出される課題を復習として着実に取り組むこと。なお、高等学校で使用した地図帳が資料として参照できることが望ましい。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(地理歴史)必須科目。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	15%	15%	40%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プレートテクトニクスに基づく地球表面を覆うプレートの運動でどのような地形が形成されるのか説明できる。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動と運動する原因について明瞭に説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、それらのプレートの運動について説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できなかった。
世界の火山分布や地震帯とプレートの運動の関係の理解。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴と生じる原因とプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴を説明できなかった。
活断層についての理解。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。また、空中写真から活断層を判読でき、活断層の活動の仕方を説明できた。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。空中写真から活断層を判読できた。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	活断層とは何か？説明できなかった。	活断層とは何か？説明できなかった。
火山活動と噴火様式についての理解	火山の噴火現象について説明でき、それに由来する噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式及び火山地形について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それに由来する噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによってもたらされた噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。	火山の噴火現象について説明できた。	火山の噴火現象について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122128, )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	講義内容と授業計画のガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	本授業のシラバスの熟読しておくこと。(90分)	世界の地震や火山がどのような所に多いのかまとめておくこと。(90分)
2	プレートテクトニクス(1)	大陸移動説について調べておくこと。(90分)	大陸移動説を提唱したウエグナーの業績についてまとめておくこと。(90分)
3	プレートテクトニクス(2)	プレートのことについてインターネットなどで調べておくこと。(90分)	プレートと地殻やマンツルの違いについて整理しておくこと。(90分)
4	日本列島の地質構造(プレートの運動との関係)	日本列島および周辺にはどのプレートが分布しているのか調べておくこと。(90分)	日本列島の地質構造とプレートの関係をまとめておくこと。(90分)
5	日本列島の生い立ち	日本列島の地質について調べておくこと。(90分)	日本列島の生成過程についてまとめておくこと。(90分)
6	活断層とは(断層, 断層の運動と種類, 活断層の定義)	断層にはどのような種類があるのか調べておくこと。(90分)	活断層とどのような断層なのかまとめておくこと。(90分)
7	日本の活断層の分布と特徴	日本列島の活断層の分布図をみて分布する特徴を考えてみよう。(90分)	日本列島の活断層の分布の特徴を整理しておくこと。(90分)
8	阿寺断層(1)(活断層としての特徴)	阿寺断層の日本列島における位置を調べておくこと。(90分)	地図作業を通して阿寺断層がどのような性質をもつ断層なのかまとめておくこと。(90分)
9	阿寺断層(2)(活断層としての運動の仕方)(第1回テスト)	河岸段丘のことについて調べておくこと。(90分)	活断層の運動の仕方を整理しておくこと。(90分)
10	火山活動とは	火山の定義について調べておくこと。(90分)	世界の火山の分布の特徴とプレートの関係を整理しておくこと。(90分)
11	火山の噴火現象	様々な火山の噴火の様子をインターネットで調べておくこと。(90分)	火山ごとの噴火の様子の違いを整理しておくこと。(90分)
12	火山の噴火様式	火山噴火の様式について調べておくこと(90分)	火山ごとに噴火様式の違い理由を整理しておくこと(90分)
13	日本列島における火山の特徴	火山フロントとは何か調べておくこと。(90分)	日本列島に活動的な火山が多い理由をまとめておくこと。(90分)
14	日本列島における自然災害	日本列島でこれまで経験した地震災害について調べておくこと。(90分)	日本列島で地震災害が多い理由についてまとめておくこと(90分)
15	日本列島における自然災害	日本列島でこれまで経験した火山災害について調べておくこと。(90分)	日本列島で火山災害が多い理由についてまとめておくこと(90分)
16	まとめ及び講評(第2回テスト) 授業改善アンケートの実施	これまでの授業のまとめをしておくこと。(90分)	これまでの授業のまとめをして整理しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング：SOP122057)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>社会心理学は私たちの日常生活をあつかう学問である。この授業では、「私たちが社会からどのような影響をうけているのか」、「私たちが社会をどのように理解しているのか」について学修する。</p> <p>・理解するためのアプローチは大きく2つがある。一人ひとりの人間の心の仕組みに関心に向ける「心理学的社会心理学」と、集団に関心をおいてマクロな構造や社会的変化をあつかう「社会学的社会心理学」(中村陽吉：2006)である。</p> <p>・ここでは、社会学的理解と心理学的理解の2つの観点から、社会意識、実験社会心理学の基礎を学ぶ。</p>
---

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

社会心理学の基本になる学術用語の説明ができる。  
社会心理学の応用領域における日常生活について、概念である学術用語、理論等を用いて課題を把握して考察ができる。

評価基準の5指標は、履修目標をこえた(S)、履修目標をほぼ達成できた(A)、履修目標と到達目標の間であった(B)、到達目標をみたく、合格最低レベル(C)、到達目標に達することができなかった不合格(F)の段階的区分がある。成績分布目標は、履修状況により相対性及絶対性が動差される規定があるので留意する。

授業全体の内容と概要

・「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
社会心理学における自己研究を学修する。日常生活において私たちの思考や行動が「適応的無意識」のなかで大量の情報処理を瞬時におこなっている、その情報の解釈過程について考察する。

授業の方法

・「授業の進行方法」：授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担報告について説明をおこなう。  
・文献精読は埴野(大野健『日本語読解』岩波書店、1999)、三色線引き読み(藤原孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005)、論理的な文章：段落と全体の要旨把握(遠藤・渡辺：2021)の技法をもとに、プレゼンテーション、グループワーク、文献読解(下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他)の授業構成になる。  
・「使用教材」：授業はテキスト、副教材(プリント資料、映像資料)を紹介しながら、自己研究についての社会心理学基礎を学修する。  
・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」：「要望等への対応方法」：授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題と要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各履修学生は、文献精読、報告作業を担当する。  
個別報告とレポート作成提出は、協同学習として役割と時間を遵守する。  
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャンネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

学修サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと学修サポートする。  
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>・単位認定に必要な最低出席要件は11回(全授業回数2/3以上)である。 ・文献精読の分担報告(本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語等について、例をあげて説明記述する)をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」、実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。</p>
---

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能	文献の要旨をていねいにまとめている。これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉で説明した。	文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。	文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。	文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、証明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。	文献の要旨をまとめる作業が難しく、新しく学ぶことについて、証明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。
収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手書きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする。関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的・協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング: SOP122057)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『選択の科学』	S・アイエンガー/櫻井祐子訳	文藝春秋	2014	9784167901554	文春文庫S13-1
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『自分とは何か・「自我の社会学」入門』	船津 衛	恒星社厚生閣	2011	9784769912415	
2	『選択日記』	S・アイエンガー	文藝春秋	2012	9784163756004	
3	『新 心理学的社会心理学』	中村陽吉	ブレーン出版	2006	9784892428401	
4	『認知バイアス事典』	高橋昌一郎	フォレスト出版	2021	9784866801230	
5	『現代文解釈の基礎』	遠藤嘉基・渡辺実	筑摩書房	2021	9784480510730	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスと前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明をおこなう。報告役割分担を確認する。	シラバスを熟読する(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	自我の3側面(C・H・クーラー)、「人間の自我は、他の人間の認識や評価を想像し、それによって生じる自己感情からなっている」(船津衛)	配布資料を読んで予習をする。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	運命、偶然と選択、自分自身、自分の置かれた環境とセルフ・コントロール、自己決定権の自己認識	テキスト第1講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	宗教と幸福度、個人主義的文化と集団主義的文化の自己認識	テキスト第2講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
5	恋愛結婚と取り決め婚、日本人とアメリカ人の自己認識	テキスト第2講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
6	バーナム効果、認知不協和、就職活動の自己認識	テキスト第3講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
7	他者の自己評価、多面評価とフィードバック、社会資本の変化とエコーチェンバー効果をもたらす自己認識	テキスト第3講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	マシュマロテスト、ヒューリスティック、提示方法バイアス、確認バイアス、感情の自己認識	テキスト第4講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	視覚文化、流行、単純接触効果、広告と自己認識	テキスト第5講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
10	プライミング、投票行動と自己認識	テキスト第5講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	選択条件、選択行動、マジカルナンバー、ロングテールと自己認識	テキスト第6講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	退職金積立制度、医療保険制度、選択の多様性、選択の飽和と自己認識	テキスト第6講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	医療における治療方針の選択行動、父権主義、絶対的価値、相対的価値と自己認識	テキスト第7講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	選択的決定、非選択的決定、心理的反発、アクラシア、自己決定の委譲と自己認識	テキスト第7講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	三元(選択、偶然、運命)の連立、直感、熟考、選択死と自己認識	テキスト最終講の予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	自己研究の心理学的理解と社会学的理解の総括 授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 (科目ナンバリング：AHD311005)				
授業担当者(所属・職名)	木下泰男・建築学科・非常勤講師		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：木下泰男)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	専門学校・大学・研究機関等に於ける実務経験あり。	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所や研究機関での歴史建築意匠保存調査活動を専門学校教員、国外での歴史建築の実測調査等の実務経験を通して歴史様式や意匠などを講義・演習する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
<p>学生が、日本と西洋の古代から近代にいたる社会背景の変革と建築の歴史的な変遷を把握する。建築の歴史は先達が各々の時代の要求に応じて、生活空間(住居・集落・地域・国家)を構築し、より良い生活を営むための痕跡を学ぶことであり、冷静な判断力を養う建築の基本的な概念である。身近にある歴史的建造物や景観を培う心を養い、先達の多くの知恵を更なる未来に生かそうとする思想を学ぶ。</p>

授業の位置づけ
<p>建築学科のDP に対応する。</p>

到達目標
<p>膨大な建築歴史資料を網羅することは難しいものの、その一端に触れることで建築の歴史の側面に関連付けられる興味に発展し、建築史料や現存する建築、遺構等に足を通ぶ行動に繋げることができる。建築の歴史を理解する視点について説明ができるようになり、建築史学の考え方を理解することで、さまざまな建築の事象を建築学的に分析ができる。各建築物の特徴に即した調査研究活動を実施することができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>建築史を学ぶ目標を実現するために、毎回配布する講義資料と建築ノートに沿って、授業が進められ、講義のポイントが演習問題として課せられる。返却時に解説・助言が行われるため集中して聴講する必要が求められる。板書・プロジェクター・スクリーン事項は、授業資料が反映され、画像や図表の配布史料と共に解説されるので、「見て」、「聴いて」、「描いて」、理解する授業である。「SDG11.住み続けられる街づくりを」の関連科目。</p>

授業の方法
<p>授業では、テキストを基本に配布資料と板書やプロジェクター等を用いての「画像・図版・表」等を投影し、視覚に訴え要点を解説講義する。後半、講義を通しての手掛かりとなるポイントを記憶に留めさせる演習問題に取り組み、翌週までに解答をまとめ提出する。返却時にコメントし、フィードバック解説に努めている。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>単位認定に必要な最低出席回数(12回)以上を厳守すること。遅刻3回で1回の欠席とみなします。配布する出席票は必ず提出する。また、授業態度もチェックされるので留意すること。毎回する演習は重要な位置づけとし、翌週には必ず提出を義務付けています。翌週の返却時には授業の成果の定着が自覚できる。出題の解答には配布資料・講義の要点ノート等から求められる。定期試験は配布資料などから出題し、必ず受けると共に演習の提出は怠らないこと。本授業は、建築士試験の「計画」分野対策に有効であり、受験資格の必修科目である。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目
<p>「建築士試験受験科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目。</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は12回以上とし、毎回の授業で行う演習評価(授業成果)確認が単位認定の過半を占めるので、授業欠席や演習の未提出は不合格に直結することとなる。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	20%	0%	60%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
20%	0%	60%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>西洋・日本の近代以前までの様式と時代背景(関連)の理解把握</td> <td>様式の時代背景関連と建築の特徴の図表表現が演習に於いて概ね描くことができ</td> <td>それぞれの建築様式の時代背景関連が理解でき、建築の特徴に言及できた。</td> <td>それぞれの建築様式の時代背景関連が理解でき、建築の成り立ちに言及できた。</td> <td>それぞれの建築様式にみる時代背景の関連性が概ね理解できていた。</td> <td>それぞれの建築様式にみる時代背景の関連性が理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築物と様式に特化した特徴(図版資料等)の理解の把握</td> <td>建築物の構造や機能が様式との特徴ある整合性を理解し、明瞭な図版表現ができた。</td> <td>建築物の特徴的構造や機能と様式との整合性を理解し、概ね図版化表現ができた。</td> <td>建築物の特徴的構造や機能と様式との整合性を理解し、図版化ができなかった。</td> <td>建築物単体の特徴的構造や機能と様式との整合性が概ね理解できた。</td> <td>建築物単体の特徴的構造や機能と様式との整合性が理解できていなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築造形図版を用いた建築空間解説の描写表現力の確認</td> <td>建築造形図版表現と共に、プロポーションよく、キャプションの見落としなく表現できた。</td> <td>建築造形図版表現の整合性と共、プロポーションよく表現できた。</td> <td>建築造形図版のエスキス(描写)表現に整合性がみられるが、プロポーションよく表現できていない。</td> <td>建築造形図版のエスキス(描写)表現に整合性が見られ、不十分ながら表現できていた。</td> <td>建築造形図版のエスキス(描写)表現に於いて線に整合性が見られなく、描けていなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	西洋・日本の近代以前までの様式と時代背景(関連)の理解把握	様式の時代背景関連と建築の特徴の図表表現が演習に於いて概ね描くことができ	それぞれの建築様式の時代背景関連が理解でき、建築の特徴に言及できた。	それぞれの建築様式の時代背景関連が理解でき、建築の成り立ちに言及できた。	それぞれの建築様式にみる時代背景の関連性が概ね理解できていた。	それぞれの建築様式にみる時代背景の関連性が理解できなかった。	建築物と様式に特化した特徴(図版資料等)の理解の把握	建築物の構造や機能が様式との特徴ある整合性を理解し、明瞭な図版表現ができた。	建築物の特徴的構造や機能と様式との整合性を理解し、概ね図版化表現ができた。	建築物の特徴的構造や機能と様式との整合性を理解し、図版化ができなかった。	建築物単体の特徴的構造や機能と様式との整合性が概ね理解できた。	建築物単体の特徴的構造や機能と様式との整合性が理解できていなかった。	建築造形図版を用いた建築空間解説の描写表現力の確認	建築造形図版表現と共に、プロポーションよく、キャプションの見落としなく表現できた。	建築造形図版表現の整合性と共、プロポーションよく表現できた。	建築造形図版のエスキス(描写)表現に整合性がみられるが、プロポーションよく表現できていない。	建築造形図版のエスキス(描写)表現に整合性が見られ、不十分ながら表現できていた。	建築造形図版のエスキス(描写)表現に於いて線に整合性が見られなく、描けていなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
西洋・日本の近代以前までの様式と時代背景(関連)の理解把握	様式の時代背景関連と建築の特徴の図表表現が演習に於いて概ね描くことができ	それぞれの建築様式の時代背景関連が理解でき、建築の特徴に言及できた。	それぞれの建築様式の時代背景関連が理解でき、建築の成り立ちに言及できた。	それぞれの建築様式にみる時代背景の関連性が概ね理解できていた。	それぞれの建築様式にみる時代背景の関連性が理解できなかった。																								
建築物と様式に特化した特徴(図版資料等)の理解の把握	建築物の構造や機能が様式との特徴ある整合性を理解し、明瞭な図版表現ができた。	建築物の特徴的構造や機能と様式との整合性を理解し、概ね図版化表現ができた。	建築物の特徴的構造や機能と様式との整合性を理解し、図版化ができなかった。	建築物単体の特徴的構造や機能と様式との整合性が概ね理解できた。	建築物単体の特徴的構造や機能と様式との整合性が理解できていなかった。																								
建築造形図版を用いた建築空間解説の描写表現力の確認	建築造形図版表現と共に、プロポーションよく、キャプションの見落としなく表現できた。	建築造形図版表現の整合性と共、プロポーションよく表現できた。	建築造形図版のエスキス(描写)表現に整合性がみられるが、プロポーションよく表現できていない。	建築造形図版のエスキス(描写)表現に整合性が見られ、不十分ながら表現できていた。	建築造形図版のエスキス(描写)表現に於いて線に整合性が見られなく、描けていなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 (科目ナンバリング: AHD311005)				
授業担当者(所属・職名)	木下泰男・建築学科・非常勤講師		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 木下泰男)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	専門学校・大学・研究機関等に於ける実務経験あり。	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所や研究機関での歴史建築意匠保存調査活動を専門学校教員、国外での歴史建築の実測調査等の実務経験を通して歴史様式や意匠などを講義・演習する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築史(増補改訂版)』a	藤岡通夫・他5名	市ヶ谷出版社	2020年	9784870710023	13,000+税
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	後期授業回数16回。「シラバス」「授業改善アンケート」結果反映の説明。建築史の枠組みと西洋・日本建築史を俯瞰する視点の説明。	シラバスを予習し、テキストを読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
2	西洋建築史 古代文明;エジプト建築とオリエンタル建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
3	西洋建築史 西洋建築の規範;古代ギリシャ建築とローマ建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
4	西洋建築史 キリスト教建築空間とドーム;初期キリスト教建築とビザンチン建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
5	西洋建築史 巨大な宗教建築空間;ロマネスク建築とゴシック建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
6	西洋建築史 近世への多彩な扉;ルネサンス建築とバロック建築・ロココ建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
7	西洋建築史 過去への郷愁と多様化;新古典主義と歴史ロマン主義建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
8	日本建築史 住いの原型と縄文・弥生・古墳時代建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
9	日本建築史 仏教伝来と寺院建築;伽藍配置と仏堂建築	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
10	日本建築史 伊勢と出雲;神社建築の様式と流れ	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
11	日本建築史 都城と宮殿;宮と宮・貴族住居の確立と展開	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
12	日本建築史 仏教文化の国風化から中世寺院へ;密教・浄土教寺院(大仏様・禅宗様・折衷様);	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
13	日本建築史 城郭建築と御殿;戦国武将の象徴・座敷の成立と武家文化	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
14	日本建築史 書院・数寄屋・茶室の建築;権威と装飾・佻びの造形と洗練された美	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
15	日本建築史 近世社寺と市井建築;庶民信仰の寺院と歌舞伎舞台・能舞台・寺子屋・町屋	講義範囲のテキスト読み概要把握(90分)。	講義の概要確認と演習に取り組む(90分)。
16	『定期試験(後期)』配布資料からの出題(60分間)。 『授業改善アンケート』の実施。演習解説とフィードバック。	後期試験準備と演習の提出期限(90分)。	提出返却された演習の復習と確認(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321040)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえ、そのためには、考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。したがって空間表現や建築図面表現に必要な立体系の基礎的能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとにおこなう。前半はキーワードをもとに発想した空間の立体表現、後半では建築模型の基礎的課題に取り組む。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成し提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	15%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。	基本的道具の使い方をもちにより高い技術を習得することができた。	基本的道具の使い方をもちにより高い技術を習得するための練習に取り組むことができた。	基本的道具の使い方を習得することができた。	基本的道具の使い方をとおむね習得することができた。	基本的道具の準備・管理ができず、使い方を習得することができなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を修得する。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題提出のためのスケジュール管理ができた。	課題提出のためのスケジュール管理がおおむねできた。	スケジュール管理ができなかった。
立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたちにする、そのための表現する技術を修得する。	配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた。	配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想することがおおむねでき表現もできた。	建築空間を構想することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321040)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	使用する道具と材料・使い方の説明	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	立体構成1(壁)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	立体構成2(床)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(壁・床)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	立体構成3(タワー)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	立体構成4(スカイハウス)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(タワー・スカイハウス)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	立体構成5(サイコロの製作)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	立体構成6(建築模型の製作1) 建築模型とは	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	立体構成6(建築模型の製作2) 建築模型の作り方	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	講評会(建築模型)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
13	プレゼンテーション(建築模型の写真撮影)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	プレゼンテーション(プレゼンテーションパネルの製作)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(プレゼンテーションパネル)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ生理学（科目ナンバリング：SPS522054/2023年度以降SPS422124）				
授業担当者（所属・職名）	天野 雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：天野 雅斗）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
運動・スポーツによる身体機能の変化について理解し、競技スポーツおよび健康増進のために必要な運動処方や理論を指導する知識を習得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP（2）（4）に対応する。

到達目標
人間の筋・神経・呼吸・循環における生理学的基礎知識を学ぶとともに、運動・スポーツにおける生理学的変化を理解することで、健康維持や運動能力向上に効果的な運動処方を指導できる。

授業全体の内容と概要
前半は、骨格筋の収縮、呼吸に伴うガス交換や酸素摂取の基礎知識を学ぶ。後半はホルモン、体脂肪、体温、栄養と身体機能の関係について学び、さらには老化と身体機能、運動と生活習慣病との関係も理解させる。

授業の方法
各回のテーマについてテキストを使用しながら講義する。また、スポーツ現場で起こる生理的要因が影響するシーンを題材にしてグループディスカッションを行い理解を深める。双方向授業を展開するためにMentimeterやMicrosoft Teams を活用したExcelやPower Pointでの意見集約・共同作業、Formsでの確認テスト等を実施する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）															

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で1回の欠席とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	30%	0%	40%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
30%	0%	40%	0%	30%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても修得できた。	学習した知識・技能をおおむね修得できた。	学習した知識・技能を一定程度修得できた。	学習した知識・技能を最低限容認できるレベルで修得できた。	学習した知識・技能を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組みなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組みなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ生理学</b> （科目ナンバリング：SPS522054/2023年度以降SPS422124）				
授業担当者（所属・職名）	天野 雅斗（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：天野 雅斗）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門運動生理学』	和田正信	杏林書院	2015	9784764411593	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	スポーツ生理学について シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
2	筋収縮とエネルギー	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
3	筋線維の種類と特徴	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
4	筋の収縮様式と筋力	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
5	神経系の役割	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
6	運動と循環	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
7	運動と呼吸（ガス交換、酸素解離）	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
8	運動と呼吸（酸素摂取量）	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
9	運動とホルモン	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
10	身体組成と肥満	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
11	運動と体温	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
12	運動と疲労	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
13	運動と栄養	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
14	老化と身体機能	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
15	運動と生活習慣病	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
16	テスト及び解説 授業改善アンケートの実施	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA222009)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科DP(1) (2)に対応する。

到達目標

モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの描き分けが出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしている	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んで

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA222009)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容を画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
2	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
4	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
6	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
8	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
10	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
12	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
14	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
16	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
18	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
20	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
22	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
24	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
28	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
30	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック) 授業改善アンケート実施	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築システム論 (科目ナンバリング: BSM311014)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

この授業では、建築における様々な構造や部材の役割と名称を理解することを目的とする。大学で建築学を修得する上において、さらには建築に関わるあらゆる職種において必要な基礎的知識として、各種建築構造の特徴や部材に関する知識を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

各種建築構造の構造原理及び特徴、また非構造部材を含む建築の各部位・部材の名称や役割などを理解する。

授業全体の内容と概要

建築の代表的な構造形式である木造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、膜構造の構造原理や特徴について講義する。合わせて、各構造種別における建築の非構造部材の役割と名称についても学び、建物の専門家としての基礎的知識を身につける。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布資料などを利用して、建築構造のDVD視聴なども含めて講義形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

配布資料により講義を進めるので、休まず出席すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目, 建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	30%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の部位・部材の名称	全ての構造物の部位・部材名称を理解し、他の人に説明できた。	全ての構造物の部位・部材名称を理解できた。	基本的な構造物に対して名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できなかった。
建築物各構造の特徴・構造原理	構造物の特徴・構造原理が全て理解でき、他の人に説明できた。	構造物の特徴・構造原理が全て理解できた。	基本的な構造物の特徴・構造原理が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できなかった。
建築構造形式の理解力	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を箇・表などを示しながら記述することができた。	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を記述することができた。	建築構造形式の内容を理解し、基本的な内容を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築システム論 (科目ナンバリング: BSM311014)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図解テキスト 建築構造』	建築構造システム研究会編	彰国社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 各種構造システム	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	コンクリート系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
3	鋼材系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
4	膜財系・基礎・制震の構造	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	(専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分))
5	荷重系の種類	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
6	木造系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
7	コンクリート系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
8	鉄筋・鉄骨と部材	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
9	鉄筋コンクリート系(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
10	鉄筋コンクリート系(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
11	鉄骨構造の詳細(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
12	鉄骨構造の詳細(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
13	鉄骨構造の接合(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
14	鉄骨構造の接合(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
15	鉄骨構造の接合(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験	授業内容全体について資料を整理して、試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	キャリアデザイン (科目ナンバリング: SOE011013)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授) 青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(河野) 1号館4階(青山) 未定(星野)		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

自分のキャリアを客観的に見つめるための自己分析のスキルを身につける。また、将来のキャリアに必要な大学の学びについて考察する。そして、自己分析・考察から得た気づきを言葉にすることで、自己表現とキャリアへの理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

他者と関わり、自分自身をかえりみることで、自分のキャリア・ゴールの発見・達成に向けて前に踏み出すことができる。

授業全体の内容と概要

キャリアについて考察する知識やスキルを身につけるため、自己分析の手法や就職活動に必要な知識・心構え等を学ぶ。とくに、演習のなかで書きながら考えることによって自己理解を深める。また、全体の演習を通して、自己のキャリア・ゴールに向けて必要な学びを発見し、キャリア・ゴールの達成までに自分がなすべき行動をデザインする。  
 『SDG 8.働きがいも経済成長も』の関連科目。

授業の方法

各回の計画にそって、板書とプレゼンテーションによる講義とノートやプリントを用いた演習とをまじえた授業をおこなう。演習においては、ひとりで考えるだけでなく、他者(周囲の受講生や友人など)とも議論することで、自分の強みや考えをノートにまとめる。また、その演習の結果を課題として提出する。課題提出は原則として授業内とし、課題は返却しない。提出回以降の講義のなかで総評を実施する。  
 Microsoft Formsの課題から学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・演習や振り返り、まとめ授業で使用するために、ノートと筆記用具が必要である。
- ・質問は次回の授業までに行い、課題提出や必要な連絡・相談等は必ず期限を守る。
- ・剽窃・コピペが見出された課題は採点の対象としない。
- ・多くの演習課題を行うため、受講者の数によっては人数調整・座席指定をする場合がある。
- ・自分のキャリアについて真摯に深く考えることのできる学生の履修を求める。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。  
 なお、丁寧に書かれず、読み取れない文章は採点の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題における意見の提示と展開	自分の考えが根拠とともに論理的かつ明確に展開・提示されている。	自分の考えが根拠とともにある程度明確に展開できている。	自分の考えが明示されている。展開もしくは根拠のいずれかが不十分である。	自分の考えが示されているが、展開ならびに根拠のどちらにも不十分である。	自分の考えが示されていない。
課題の構成・書式	教員が指示した構成と書式にそって過不足なく適切に課題が整えられている。	教員が指示した構成と書式にある程度そった形で課題が整えられている。	教員の指示に基づいて課題が整えられているが、構成と書式のいずれかに不備がみられる。	教員の指示に基づいて課題が整えられているが、構成と書式のどちらにも不備がみられる。	提出課題が、教員が指示した構成と書式にそっていない。
課題への取り組み	すべての演習課題に主体的かつ能動的に取り組める。	ほぼすべての演習課題に主体的かつ能動的に取り組める。	ほぼすべての演習課題に取り組める。	ある程度(評価前提基準回教程度)の演習課題に取り組める。	授業のなかで演習課題に取り組まない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	キャリアデザイン (科目ナンバリング: SOE011013)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授) 青山 浩之(経営学科・教授)	青山 星野 秀治	研究室等所在	1号館2階(河野) 1号館4階(青山) 未定(星野)	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 - キャリアデザインとは何か -	キャリアとは何かを調べ、考えておく(90分)	ノートにキャリアとは何かについてまとめておく(90分)
2	コミュニケーションによる自己や他者の理解 - コミュニケーションとは何か - 担当: 河野・青山・星野	互いに理解しやすいコミュニケーションについて調べ、考えておく(90分)	キャリア・ゴール策定のために必要なコミュニケーションは何かをノートにまとめる(90分)
3	自分を知る: 自分自身の見つけ方の傾向を調べる - 課題: 20 答え法 - 担当: 星野	これまでの自分を振り返り、私とは何かを考えておく(90分)	キャリア・ゴール策定のために必要な視点を20 答え法から考え、ノートにまとめる(90分)
4	自分を知る: 個性の理解 担当: 星野	自分が興味を持っていることをノートのまとめておく(90分)	自分の個性について気づいたことをノートにまとめておく(90分)
5	自分を知る: 自分の可能性について発見する方法 担当: 星野	これまでの課題から気づいたことをノートにまとめる(90分)	課題を作成することで気づいたことをノートにまとめておく(90分)
6	自分を知る(まとめ): 自分が抱いている働くことのイメージ - 自己理解の整理 -	今までの課題で気づいた自分から、どのように働きたいかをイメージしておく(90分)	自分のキャリア目標達成には、どのような学びが必要かをノートにまとめておく(90分)
7	大学の学びをデザイン - 過去を振り返る - 担当: 河野	これまでの勉強や学生生活の振り返りをノートに書き出す(90分)	高校生へのアドバイスをノートにまとめる(90分)
8	大学の学びをデザイン - 社会の先輩から就活へのアドバイス - 担当: 河野	就職活動で求められるものは何か、自分なりに考えてノートに書き出す(90分)	就活で求められるものが何か自分の意見をノートにまとめる(90分)
9	大学の学びをデザイン - 社会の先輩から勉強へのアドバイス - 担当: 河野	社会で必要となる学びは何か、自分なりに考えてノートに書き出す(90分)	学びにかんする先輩のアドバイスをノートにまとめる(90分)
10	大学の学びをデザイン - 学びとキャリア・イメージ - 担当: 河野	第7から9回までに講義・演習で学んだことを振り返り、ノートに整理する(90分)	大学の学びを卒業後にどう活かすか、自分なりの考えをノートに書き出す(90分)
11	大学の学びとキャリア: 大学で何を学び、身につけなければならないか - 学生のキャリア3つの視点 -	社会で求められる力とは何か、社会人基礎力について調べ学習(90分)	プリントの空欄を記入し、仕事について考える(90分)
12	大学の学びとキャリア: 大学1-2年生のキャリアデザイン - 課題「自己PR」 -	働く目的とは何かについて、考えまとめておく(90分)	プリントの空欄を記入し、目標について考える(90分)
13	大学の学びとキャリア: 「働く」ということを考える - 新卒採用の選考を突破するために -	就職活動における自己PRについての調べ学習。「自己PR」課題1作成(90分)	提出した「自己PR」課題1の添削、「学生時代に力を入れたこと」課題2作成(90分)
14	大学の学びとキャリア(まとめ): なぜ自己分析が必要か - 課題「学生時代に力を入れたこと」 -	就職活動のスケジュールの調べ学習。就職活動のスケジュールの調べ学習。「学生時代に力を入れたこと」課題2作成(90分)	「自己PR」の解説をもとに、課題1・2を添削作成(90分)
15	全体のまとめ: キャリア・ゴールの設定と目標達成のために卒業までにすべきことの整理 授業改善アンケートの実施	ノートを見直し、キャリア・ゴール案とその達成に必要な行動をまとめておく(90分)	最終課題で設定したキャリア・ゴールを見直し、その達成に必要な学びを考えよう(90分)
16	最終課題を振り返り、自分のキャリア・ゴールとこれからすべき行動を再確認(課題で十分な考察がなされていない場合は再度課題を提出)	これまでのノートへの記録と最終課題でまとめた内容との比較(90分)	授業をとおして行った振り返りの内容についてノートにまとめる(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング: 2023年度以降SWS112025)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・畠山明	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士などの資格を持ち、ソーシャルワーカーとしての自分自身の経験や体談を踏まえ講義・演習を行う		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。
2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。
4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。
5. 精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

社会福祉士および精神保健福祉士に必要な専門職としての基礎的知識・技術について体験的に理解できる。

授業全体の内容と概要

1. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等)を中心とする演習形態により行う。
2. 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

1. グループに分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。
2. 自然災害等などの状況により、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。
3. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

1. 自分の意見等を積極的に発言することと、多くの考えがことを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となります。
2. 教科書は必ず持参すること。
3. 必要な資料等は適宜配布します。
4. 自然災害等などの状況により、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。
5. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程  
スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

1. 単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。
2. その他については、出席状況20%と、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度80%で評価します。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	0%	80%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できる。且つ各々の矢張り区別をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価において各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンスの重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング: 2023年度以降SWS112025)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・畠山明	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士などの資格を持ち、ソーシャルワーカーとしての自分自身の経験や体験を踏まえ講義・演習を行う		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク演習(共通科目)』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8243-6	価格 \ 2,750
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学びが深まるソーシャルワーク演習』	『学びが深まるソーシャルワーク演習』編集委員会	ミネルヴァ書房	2021	9784623091195	価格 \ 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(グループ分け 自己紹介) ・シラバスの説明 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
2	基本的なコミュニケーション技術について理解する ・言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
3	基本的な面接技術・面接の構造化について理解する ・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
4	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
5	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
6	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
7	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
8	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
9	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
10	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
11	ソーシャルワークの記録について理解する。 ・支援経過の把握と管理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
12	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
13	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
14	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
15	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング: DES222021)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コンピュータを用いたデザインの基礎の学び、表現手法を修得し、オリジナルの作品を制作できる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

画像処理ソフトAdobe社Photoshopを使用し、学生が画像処理及び作品制作のスキルを修得できる。

授業全体の内容と概要

基本機能からフォトタッチ、色調補正、テキスト処理などの画像処理の方法を学ぶ。

授業の方法

授業では、各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、その評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

デジタルデザインを履修済みであること。積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソフトウェアの理解	各種機能を十分理解し、自ら進んで学ぶことができる。	各種機能を十分理解している。	各種機能を概ね理解している。	各種機能を最低限理解している。	各種機能を理解していない。
ソフトウェアの操作スキル	学習したコンピュータソフトの機能を完全に理解し、十分に使うことができ、更に学習を進め応用スキルが身についている。	学習したコンピュータソフトの機能を理解し、適切使うことができる。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができる。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができる。	学習したコンピュータソフトを使うことができない。
学習したソフトを利用した作品の制作と他者に伝える表現力	自分が表現したい作品を満足に制作でき、他者に十分に伝えることができる表現となっている。	自分が表現したい作品を制作でき、他者に伝えることができる表現となっている。	自分が表現したい作品を概ね制作できる。	自分が表現したい作品を最低限制作できる。	自分が表現したい作品を制作できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング: DES222021)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe Photoshop CC解説書』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 画像処理の基本について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、画像処理を調べておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	画像解像度、ファイル形式について	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	選択範囲について	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	イラストレータとの統合処理	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	フォトレタッチ	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	色調補正 (レベル補正, トーンカーブ)	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	テキスト処理	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	レイヤーアニメーション	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	チャンネル、マスク処理の応用	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	フィルター処理の応用	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	課題作品制作1	課題作品のラフを完成すること (90分)	課題作品の制作を行うこと (90分)
12	課題作品制作2	課題作品のラフを完成すること (90分)	課題作品の制作を行うこと (90分)
13	課題作品制作3	課題作品のラフを完成すること (90分)	課題作品の制作を行うこと (90分)
14	課題作品制作4	課題作品のラフを完成すること (90分)	課題作品の制作を行うこと (90分)
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること (90分)	フィードバックするので、自己評価をすること (90分)
16	作品返却 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う (90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ医学</b> (科目ナンバリング: AHS422070, SPS522056)				
授業担当者(所属・職名)	黒川 泰任(経営学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 黒川 泰任)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<b>履修目標</b>																					
運動時の生理、病態生理、外傷・けがなどを、医学的背景から考察・学習する。																					
<b>授業の位置づけ</b>																					
経営学科のDP(1)、(2)、(5)に対応する。																					
<b>到達目標</b>																					
医学的知識の背景を元に、スポーツ指導の現場において、対象者の状態や外的環境に対して適切な対応ができ、また緊急時の救急処置ができるようにする。																					
<b>授業全体の内容と概要</b>																					
身体運動がヒトの体にどのような影響を与えるか、スポーツが生体に及ぼす影響を、ヒトの状態・性別・年齢・外的環境によってどのように異なるのかを知る。緊急時における対処方法を、具体的に修得する。 「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。 「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。																					
<b>授業の方法</b>																					
講義は配布資料を使用し、対話・質問形式で行う。また、確認小テストを講義後に行い、解答と講義内容の確認を行う。毎回の小テスト結果は、定期試験得点に加算する。																					
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<b>履修上の注意事項</b>																					
小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。首席は表彰される。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																					

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要となる出席回数は、10回以上。 定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	40%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	40%	0%	0%							

<b>ルーブリック</b>																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>運動のしくみを科学的に理解する。</td> <td>討論を元に、運動のしくみを科学的に考えられた。</td> <td>運動のしくみについて興味を持ち、理解しようとしていた。</td> <td>ヒトの運動の特徴がいた。</td> <td>講義の中心テーマを一つは理解できていた。</td> <td>講義に参加していなかった。</td> </tr> <tr> <td>効率的な運動方法を理解し、スポーツ指導の現場で活躍できる。</td> <td>討論を元に、運動のしくみで、科学的知識にもとづいた指導ができた。</td> <td>科学的知識にもとづいた運動のしくみへの理解が、スポーツ指導に必要なと理解していた。</td> <td>ヒトの運動を科学的に説明できた。</td> <td>講義の中心テーマを一つは理解できていた。</td> <td>講義に参加していなかった。</td> </tr> <tr> <td>運動がヒトに及ぼす影響を理解できる。</td> <td>運動がヒトに及ぼす影響を、科学の立場から理解できた。</td> <td>運動が良くも悪くも、ヒトに大きく影響することが理解できた。</td> <td>運動と健康の関係を説明できた。</td> <td>講義の中心テーマを一つは理解できていた。</td> <td>講義に参加していなかった。</td> </tr> <tr> <td>講義態度。</td> <td>討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられた。</td> <td>講義や皆の発言に耳を傾け、書き取っていた。</td> <td>板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。</td> <td>板書はできていた。</td> <td>講義に参加していない。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	運動のしくみを科学的に理解する。	討論を元に、運動のしくみを科学的に考えられた。	運動のしくみについて興味を持ち、理解しようとしていた。	ヒトの運動の特徴がいた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。	効率的な運動方法を理解し、スポーツ指導の現場で活躍できる。	討論を元に、運動のしくみで、科学的知識にもとづいた指導ができた。	科学的知識にもとづいた運動のしくみへの理解が、スポーツ指導に必要なと理解していた。	ヒトの運動を科学的に説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。	運動がヒトに及ぼす影響を理解できる。	運動がヒトに及ぼす影響を、科学の立場から理解できた。	運動が良くも悪くも、ヒトに大きく影響することが理解できた。	運動と健康の関係を説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。	講義態度。	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられた。	講義や皆の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできていた。	講義に参加していない。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
運動のしくみを科学的に理解する。	討論を元に、運動のしくみを科学的に考えられた。	運動のしくみについて興味を持ち、理解しようとしていた。	ヒトの運動の特徴がいた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。																														
効率的な運動方法を理解し、スポーツ指導の現場で活躍できる。	討論を元に、運動のしくみで、科学的知識にもとづいた指導ができた。	科学的知識にもとづいた運動のしくみへの理解が、スポーツ指導に必要なと理解していた。	ヒトの運動を科学的に説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。																														
運動がヒトに及ぼす影響を理解できる。	運動がヒトに及ぼす影響を、科学の立場から理解できた。	運動が良くも悪くも、ヒトに大きく影響することが理解できた。	運動と健康の関係を説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。																														
講義態度。	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられた。	講義や皆の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできていた。	講義に参加していない。																														

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>ｽﾎｰﾂ医学</b> (科目ナンバリング: AHS422070, SPS522056)				
授業担当者(所属・職名)	黒川 泰任(経営学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 黒川 泰任)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『健康・スポーツ科学講義』	出村慎一	杏林書院	2011	9784764411258	
2	『スポーツ栄養学』	寺田 新	東京大学出版会	2017	9784130527064	
3	『1から学ぶスポーツ生理学【第3版】』	中里浩一, 岡本孝信, 須永美歌	ナッパ	2022	9784905168706	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておく(90分)	運動やスポーツ医学について興味ある点を、まとめておく(90分)
2	健康と運動・スポーツ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく(90分)	当日講義内容の確認のため小テストを行うが、これを利用して理解を深める(90分)
3	体力、運動とは何か	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
4	運動の仕組み	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
5	発達と運動	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
6	運動の医学的背景 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
7	運動の医学的背景 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
8	運動と栄養(運動栄養学)1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
9	運動と栄養(運動栄養学)2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
10	運動と脱水	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
11	スポーツ活動中に多いケガ・障害 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
12	スポーツ活動中に多いケガ・障害 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
13	救急処置 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
14	救急処置 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
15	スポーツと心理・ストレス 授業改善のアンケート実施	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残り30分で解説を行う。	試験準備(90分)	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学概論 (科目ナンバリング: PHE122137, )				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

過去の哲学や具体例を踏まえながら、間接体験(感動)や創造的思索を通して、自他の心の支えとなりうるような確固とした価値観や人生観を形成することができる。また、これからの時代に必要ならたな哲学を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

「自分自身の確固とした価値観や人生観の構築と対人関係の向上」を目指す。

授業全体の内容と概要

過去の哲学や教師自身の考えを紹介するとともに、質疑応答などを通して、学生自身のみずからの価値観や人生観を形成する。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、かつ積極的に授業に参加することが不可欠である。的を射た発言に対し、平常点を付与する。

授業の方法

講義。対話、発表、ディベート、グループワーク、ディスカッションなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは10%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見を付け加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義の内容を十分理解し、みずからの人生に十分役立てた。	講義の内容をかなり理解し、みずからの人生にかなり役立てた。	講義の内容をそれなりに理解し、みずからの人生にそれなりに役立てていた。	講義の内容を理解しようとして努力し、みずからの人生に役立てようとした。	講義の内容を理解しておらず、みずからの人生に役立っていなかった。
発言	講義中の発言が10回以上あった。	講義中の発言が7回以上あった。	講義中の発言が5回以上あった。	講義中の発言が3回以上あった。	講義中の発言が3回未満だった。
プレゼンテーション、グループワーク	プレゼンテーション、グループワークにおいて中心的に発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいて積極的に発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいてそれなりに発表した。	プレゼンテーション、グループワークにおいて発表しようとした。	プレゼンテーション、グループワークに対し、消極的であった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学概論 (科目ナンバリング: PHE122137, )				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明 授業改善アンケート結果を反映の説明 哲学的価値論 1 すべては自分を移す鏡	シラバスを読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	哲学的価値論 2 すべては自分を移す鏡 活路を開く内的解決法	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	哲学的価値論 3 すべては自分を移す鏡 鏡に映える近親憎悪 - その人が嫌いなのは？ -	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	哲学的価値論 4 すべては自分を移す鏡 価値の歪 - 長所と短所は紙一重 -	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	哲学的価値論 5 すべては自分を移す鏡 思いこみの悲劇	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	哲学的価値論 6 すべては自分を移す鏡 自己価値観を高めるために	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	哲学的価値論 7 すべては自分を移す鏡 外的世界は内的世界を映したす鏡	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	哲学的価値論 8 すべては自分を移す鏡 愛せない理由	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	哲学的価値論 9 すべては自分を移す鏡 ありのままの人を愛する - 愛のコペルニクス転回 -	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	哲学的価値論 10 価値とはなにか 価値に絶対性と絶対的基準はあるか	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	哲学的価値論 11 価値とはなにか 価値の普遍妥当性について	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	哲学的価値論 12 価値とはなにか 価値の普遍妥当性について	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	哲学的価値論 13 価値とはなにか 価値の普遍妥当性について	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	哲学的価値論 14 価値の基本構造 光と闇のシンフォニー	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	哲学的価値論 15 価値の基本構造 価値とエントロピー	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習と第16回講義の予習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	サードセクター論 (科目ナンバリング: SOC422038, SOC522040)				
授業担当者(所属・職名)	山本一彦(経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 山本一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

地域ガバナンスの意味を知り、さまざまなマネジメント主体の特質と地域社会のよりよい発展について考え、現代のサードセクターの意義について理解することを目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

地域ガバナンスの理論とサードセクターについて単に知識を習得するだけでなく、地域のさまざまなマネジメント主体の特質や問題点とわれわれのかかわりを理解し、地域社会のよりよいあり方について自ら考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

地域ガバナンスの営みとその担い手としての生活者に目を向け、さまざまなマネジメント主体の特質と生活者とのかかわりを取り上げる。さらに、地域社会の持続可能性を支えるサードセクターと多様なマネジメント主体の共生的関係を探り、北海道の内発的発展について考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留であった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で9割以上の正答があった。	同8割以上9割未満の正答であった。	同7割以上8割未満の正答であった。	同6割以上7割未満の正答であった。	同部分の正答が6割に届かなかった。
思考力・判断力等	地域ガバナンス概念を軸にして、さまざまなセクターのマネジメント活動の特質と意義を十分に考察できていた。	左記の事項についておおむね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
地域問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマであるサードセクターを中心に、現実の地域問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	サードセクター論 (科目ナンバリング: SOC422038, SOC522040)				
授業担当者(所属・職名)	山本一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス・・・全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説	シラバス内容事前確認 (90分)	目的とねらいについての復習・確認 (90分)
2	地域ガバナンスの視点 1. 高度産業化と地域社会の変貌 ・・・生活者と社会関係資本	産業活動の高度化が地域社会をどのように変えたかについての事前考察(90分)	価値社会の持続と生活者の社会関係資本の重要性についての復習・理解(90分)
3	地域ガバナンスの視点 2. 地域ガバナンスとは何か?	地域ガバナンスされるとはどのようなことかの事前考察(90分)	地域ガバナンス概念の源流、その意味についての復習・理解(90分)
4	地域ガバナンスのアクター 1. 多様なマネジメント主体とサードセクター	地域社会におけるマネジメント主体のタイプについての事前考察(90分)	多様なマネジメント主体の特質と領域についての復習・理解(90分)
5	地域ガバナンスのアクター 2. 地方政府と公共マネジメント	地方公共団体はどのような役割を果たすべきかについての事前考察(90分)	地域ガバナンスでの地方政府の役割の意義と限界についての復習・理解(90分)
6	地域ガバナンスのアクター 3. 民間営利組織	営利事業が地域社会で果たすべき役割についての事前考察(90分)	地域ガバナンスでの企業の企業の役割の意義と限界についての復習・理解(90分)
7	現代のサードセクター 1. 社会的経済の領域	民間領域に営利企業以外のどのような組織・団体があるかの事前考察(90分)	社会的経済組織の現代的意義と地域における可能性についての復習・理解(90分)
8	現代のサードセクター 2. ボランティア・エコノミーとNPO法人	経営組織としてのNPO法人の登場についての事前確認(90分)	自発的市民セクターの重要性とNPO法人の意義についての復習・理解(90分)
9	現代のサードセクター 3. ワーカーズ・コレクティブ ・・・生産者・労働者の「協同」	協同組合の歴史的意義についての事前考察(90分)	ワーカーズコレクティブの事業組織としての特質についての復習・理解(90分)
10	現代のサードセクター 3. ワーカーズ・コレクティブ ・・・生産者・労働者の「協同」	地域におけるワーカーズコレクティブの役割についての事前考察(90分)	出資・経営・労働一体の事業組織と市民が「働くこと」についての復習・理解(90分)
11	内発的地域振興に向けて 1. 社会問題と地域社会の持続可能性	現代の地域社会で何が社会問題となっているかについての事前考察(90分)	地域社会の持続可能性にとって重要な施策についての復習・理解(90分)
12	内発的地域振興に向けて 2. 「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	異なるマネジメント主体間の協働かんけいのあり方についての事前考察(90分)	地域におけるマネジメント主体間の協働の重要性についての復習・理解(90分)
13	内発的地域振興に向けて 2. 「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	社会的企業とはどのような事業組織かについての事前考察(90分)	地域マネジメントにおける社会的企業の意義についての復習・理解(90分)
14	内発的地域振興に向けて 3. 北海道の内発的発展へ内発的地域主義と北海道	北海道の地域社会にとって何が必要とされているかについての事前考察(90分)	内発的地域主義の意義と北海道にとっての重要性についての復習・理解(90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック(90分)	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科2年、デザイン学科2年、建築学科2		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門 (M・D・A) (科目ナンバリング: SOC021021)				
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
現代社会の特質を知り、さまざまな場面に生ずる問題を生活者としての視点から把握して、持続可能なよりよい社会はどのようなものであるかを理解する。

授業の位置づけ
経営学科・デザイン学科・建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標
「現代社会の状況」について単に知識を習得するだけでなく、さまざまな社会問題を生活者としての自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察できる。

授業全体の内容と概要
まず、社会的存在としての人間という視点に立ち、集団や組織のありようを学ぶ。次に、近代化を遂げた現代社会がどのような問題を持つようになったかを批判的にとらえ、その特質を学び、持続可能な社会を展望する。また、特に、学生世代が該当する現代の青年期問題について考察を加える。

授業の方法
授業は現代社会のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない(PBL含む)、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL	
模範授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業	
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)	

履修上の注意事項
さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は11回

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会学の知識	定期試験における社会学の基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	左記の同部分が80%以上90%未満の正答であった。	左記の同部分が70%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分が60%以上70%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	「人間と人間の関係」の視点から、さまざまな場面の社会的問題を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
社会的問題への分析力・主体性等	授業の核となる「現代の社会状況」の視点で、さまざまな社会問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について主体的分析が概ねできていた。	左記の事項についての主体的分析が一般的水準でできていた。	左記の事項についての主体的分析が最低限の水準に留まっていた。	主体的分析ができているとはいえず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科2年、デザイン学科2年、建築学科2		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門(M・D・A) (科目ナンバリング: SOC021021)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目のガイダンス 全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方	シラバス内容を事前確認(90分)	目的とねらいについての復習・理解(90分)
2	近代社会の確立と社会学 1. 社会学成立の時代背景	近代社会とはどのようなものであるかのイメージ化(90分)	近代社会についての復習・理解(90分)
3	近代社会の確立と社会学 2. 社会学は何を考えるのか?	近代社会の人間関係とはどのような特質をものかについての意識化(90分)	人間関係の変化のあり方についての復習・理解(90分)
4	人間と社会集団 1. 社会的存在としての人間	「ヒト」という動物がもっている特殊性についての意識化(90分)	人間が「社会的」であることについての復習・理解(90分)
5	人間と社会集団 2. 社会集団の類型	人間がつくる集団にはどのような特質があるかについての事前考察(90分)	集団類型の原理についての復習・理解(90分)
6	人間と社会集団 3. 基礎的生活集団の変化	基礎集団としての家族が現代社会ではどういう特質をもつようになったかの事前考察(90分)	家族集団のあり方と社会のあり方が密接に関わっていることについての復習・理解(90分)
7	全体社会の変動 1. 社会変動と近代化	1. の振り返りを基に近代化とはどのような過程であるかの事前考察(90分)	社会変動パターンとその要因、近代化としての社会変動についての復習・理解(90分)
8	全体社会の変動 2. 近代市民社会の変化 (1) 大衆社会への移行	近代化によって成立した市民社会がどのように変化しているかの事前考察(90分)	現代社会の大衆化状況についての復習・理解(90分)
9	全体社会の変動 2. 近代市民社会の変化 (2) 個人化・リスク化する現代社会	個人を取り巻く不安定な現代社会の状況についての事前考察(90分)	リスク社会としての現代社会についての復習・理解(90分)
10	全体社会の変動 3. 近代産業社会の変化 (1) 産業社会の構造変化	近代化によって成立した産業社会がどのように変化しているかの事前考察(90分)	現代社会の脱工業化状況についての復習・理解(90分)
11	全体社会の変動 3. 近代産業社会の変化 (2) ポスト産業化の中の現代社会	知識集約化する現代産業社会についての事前考察(90分)	サービス経済が主軸となった現代社会についての復習・理解(90分)
12	現代の青年期 1. 青年期とアイデンティティ形成	1. の振り返りを基に社会の中の青年期についての事前考察(90分)	アイデンティティとはどのような自己のあり方であるかについての復習・理解(90分)
13	現代の青年期 2. ライフコースの多様化と 通過儀礼の喪失	現代社会の中のライフコースとはどのようなものかについての事前考察(90分)	標準的ライフコースが失われた現代社会でのアイデンティティ形成が困難であることの復習・理解(90分)
14	持続可能な社会に向けて	社会が持続可能となるためには何が問題でどのように対処すればよいかについての事前考察(90分)	後期近代社会に特有な社会問題についての復習・理解(90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重点項目のチェック(90分)	評価に関する確認と理解、試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および開設 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門（S）（科目ナンバリング：SOC021021）				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

- ・社会学とはどのような学問であるか、その基本的性格を概観する。
- ・社会学は、高校の科目でみると公民「公共」の学修内容に近い。学術3分類（人文科学、自然科学、社会科学）のひとつ、社会科学に含まれる学問である。社会学のなかでは、経済学は行動の効率合理性、政治学は国家と権力行使、法学は法規範に焦点をおくとみるならば、社会学はそれらのどれにもとらえられない、社会と人間の側面にこだわる性格を備えるものである。本科目においては、それらの基本的性格を学修する。
- ・社会学は、個人と社会の関係を分析すること、そして常識の批評的理解をおこなうものである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP（2）（5）に対応する。

到達目標

- ・社会を構成しているさまざまな領域について、その基本を理解する。
- ・社会でおきているさまざまな問題を、個人の責任のみでとらえるのではなく、社会的関係性のもたらす要因として説明をしようとする方法について、その基本を理解する。

授業全体の内容と概要

「SDG4 質の高い教育をみんなに」の関連科目  
社会学固有の考え方で、社会的行為、相互作用、社会集団、社会構造、社会変動などの概念を使い、私たちの社会でおこっている社会現象を記述説明する知識、技術を学修する。  
社会学の基礎知識を、日常生活を例をあげて説明すること、文献を読解引用してコメントを述べること、以上の統合的学習をすすめる。

授業の方法

- 【既習事項の整理作業】（第7回、第14回）は、社会学用語の理解を、日常生活を例にあげて記述説明をおこなう、作業学習である。
- 【視聴覚教材、社会学文献の読解】（第8回、第15回）は、映像資料を視聴し、社会学用語を使って解説、コメント文を作成する。（学習評価技法 パークレイ/メジャー、2016=2020）
- ・文献読解は、3色線引き読み（齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005）の技法を利用する。
- ・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」：各課題のフィードバックは、提出の次の授業にて模範回答例を紹介する機会がある。この後の課題提出の改善材料として利用してほしい。
- ・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・授業（講義）は学びの基本である。授業外学修として、図書館にある学術文献を調べる、自宅で準備学修（予習や復習）をすることにより、学修時間量を増やすことが大切になる。授業の学修は基礎的学修、さらに授業外学修は関連資料（Teamsファイル資料）読解による応用的学修である。
- ・授業の教材準備（テキスト、ファイル資料）をおこない、参加することが学生評価の対象になる。
- ・課題作成は、学術レポート（アカデミック・ライティング、AW）引用手続により文章作成する。（オリエンテーションにて説明する）
- ・学術倫理（剽窃、ほう助の禁止）を守り、学修する。
- ・テキスト目次構成、章の順番を入れ替えて学修すること、関連資料による発展学習がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要である。  
【既習事項の整理事項】、【視聴覚教材、社会学文献の読解】課題は、評価資料となる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することでの知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で例をあげて説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめ用語について、説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶ学術用語について、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的現象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけてながら、論理的に社会的現象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけてながら、社会的現象の分析表現することができた。	文献資料を選び、信頼性を保持したうえで引用することができた。改善の余地はあるが、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的現象の分析表現をすることができた。	文献資料を選び、引用する信頼性の確保すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的現象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めようとする。関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的・協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門(S) (科目ナンバリング: SOC021021)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基礎社会学 新訂第5版』	間瀬領吾ほか	世界思想社	2022	9784790717669	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会学用語図鑑』	田中正人	プレジデント社	2019	9784833423113	
2	『参照基準 社会学分野』	日本学術会議社会学委員会		2014		大学教育の分野別質保証のための教育課
3	『社会学の力 改訂版』	友枝俊雄・浜日出夫・山田真茂	有斐閣	2023	9784641174818	
4	『学習評価ハンドブック ALを促す50の技法』	パークレイ/メジャー	東京大学出版会	2020	9784130513531	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーションでシラバス(ループブック;古語の赤チヨーク、赤土の語源とされ、現在は評価基準の意味を持つとされる。出典略)を説明する。	シラバスを熟読する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	社会学と社会、社会学の歴史、社会学の思考	テキスト(間瀬, 2022)1章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	社会学の説明、社会学の説明論理	テキスト(間瀬, 2022)2章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	社会学の社会調査と計量	テキスト(間瀬, 2022)3、4章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	社会学の基本概念(社会的行為、地位と役割)	テキスト(間瀬, 2022)5章前半を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
6	社会学の基本概念(社会集団、官僚制)	テキスト(間瀬, 2022)5章後半を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
7	【既習事項の整理作業】	授業1回-6回を整理学修する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
8	【視聴覚教材、社会学文献の読解】	テキスト、文献資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
9	家族の社会学	テキスト(間瀬, 2022)6章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
10	都市の社会学	テキスト(間瀬, 2022)7章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
11	労働の社会学	テキスト(間瀬, 2022)9章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
12	社会福祉の社会学	テキスト(間瀬, 2022)13章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
13	差別の社会学	テキスト(間瀬, 2022)14章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
14	【既習事項の整理作業】	授業9回-13回を整理学修する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
15	【視聴覚教材、社会学文献の読解】、授業改善アンケートの実施	テキスト、文献資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
16	授業全体のまとめ、作業解説。	全授業のテキスト、文献資料、ノートの確認準備学修をする。(90分)	全体のふりかえりを行う。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年(留学生対象)		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語 (科目ナンバリング: JLN051039)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階国際交流センター	
単位数	2	(単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>教養力と語学力を身に付け、日本における実社会で活躍するための高度な日本語スキルを習得する。講義聴解や資料読解を通して「日本語」よりレベルの高い文書や資料を読み込む力を習得し、適切な文章表現ができるようになる。また新聞やインターネットなどの記事を取り上げ、新聞で使われる語彙、文末表現、慣用表現などを身に付け、日本語中級中期(日本語能力検定N2レベル)と同等の日本語能力を身に付ける。</p>
---

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。          社会福祉学科のDP(2)(3)(4)(5)に対応する。          デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。          建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。</p>
--

<p><b>到達目標</b></p> <p>読解力、文章表現力、意見の発表と他者の意見を聞く能力、ディスカッション能力を習得し、グループ内で討議することができる。グラフ・表・文献などの読み取り、意見交換の力を養い、コミュニケーションすることができる。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>資料や参考図書を使用し、日本語能力試験N2と同等の日本語能力を身に付ける。また、授業を通し「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指す。日本語学を通して日本文化や日本事情を理解し、「SDG3:すべての人に健康と福祉を」「SDG7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「SDG10:人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。</p>
--

<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業は参考資料、参考図書を使用し、中級中期の日本語を学習する。授業形態は講義だが、読解、聴解、作文、発表、グループワークなどもあり、学生が主体的に活動することもあり、また、場面を考えてのロールプレイやディスカッションも授業内で行う。評価はレポートと定期試験で判断するが、授業内に出される課題も評価対象となる。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。定期試験は授業で学んだ内容を基に文法、聴解、読解、文章表現などの項目で評価する。定期テストも評価後は各自でフィードバックすること。</p>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。また、全講義内容をもとに定期試験を行う。一日でも休むと講義内容が分からなくなってしまうので、出席すること。日本語はまだ日本語能力検定N2レベルまで達してあらず、日本語能力レベルの向上を目指すクラスである。自身の日本語能力レベルを確認し、履修すること。15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

<p><b>資格指定科目</b></p>
----------------------

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回である。          1.6回目の授業で定期試験を行う。          出席、授業態度、レポート、定期テストで評価する。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	0%	30%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
40%	0%	30%	0%	30%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	正しい文法を習得し、場面に合わせた文法の使い分けを理解することができた。	正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けをおおむね理解することができた。	正しい文法を習得し、場面に合わせた文法の使い分けを一定程度理解することができた。	正しい文法が習得できた。	正しい文法が習得できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で(日本語)表現でき、内容が分かりやすかった。	自身で考え、自分の言葉で(日本語)表現できた。	日本語での表現ができた。	日本語での表現ができなかった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問わなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年(留学生対象)		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語 (科目ナンバリング: JLN051039)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『P中級を学ぼう日本語の文型と表現 8 2 中級中期』	平井悦子・三輪さち子	スリーエーネットワーク	2009年	9784883195091	日本語と同じ教科書を使用。日本語
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(今期の授業目的と進め方・シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
2	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
3	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
4	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
5	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
6	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
7	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
8	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
9	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
10	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
11	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
12	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
13	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
14	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
15	総括(授業の内容を復習)レポート提出	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする(90分)	講義内容を深め、指定された課題を作成すること(90分)
16	定期試験実施(60分)と解説 授業改善アンケートの実施	試験に向けて講義の復習を行うこと(90分)	解説を受けて、試験及び講義全体の復習を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナル B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、体力・形態測定を実施することで自己の体力を把握し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニング方法の応用的な理論と実践方法について学習する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(3)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

各自、無理のない体力目標を設定し、様々なトレーニング方法の応用を理解し実践できることを目標とする。生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。  
 様々な種類のトレーニングに関する応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。遅刻は2回につき1回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用が良くできている	ウエイトトレーニングの応用がほぼできている	ウエイトトレーニングの応用力がある程度できている	ウエイトトレーニングの応用ができている	ウエイトトレーニングの応用ができない
体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用が良くできている	体幹トレーニングの応用がほぼできている	体幹トレーニングの応用がある程度できている	体幹トレーニングの応用ができている	体幹トレーニングの応用ができない
ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用が良くできている	ラダートレーニングの応用がほぼできている	ラダートレーニングの応用がある程度できている	ラダートレーニングの応用ができる	ラダートレーニングの応用ができない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
3	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
4	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
5	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
6	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
7	体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
8	体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
9	体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
10	SPI性格検査実施	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
12	ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	フィードバック	体力・形態測定結果を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

経営学科の(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科の(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科の(2)(4)に対応する。  
 建築学科の(2)(4)に対応する。

到達目標

グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。  
 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。  
 後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションを行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。  
 入前て話するための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。  
 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上遅刻は欠席扱いとする。  
 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとてみ巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまらず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であつた。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかつた。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかつた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	レポート作成 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
3	レポートの発表とディスカッション 1 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
4	レポートの発表とディスカッション 2 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
5	レポートの発表とディスカッション 3 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
6	ニューススポーツの実践発表準備 1 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
7	ニューススポーツの実践発表準備 2 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
8	ニューススポーツの実践発表準備 3 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
9	ニューススポーツの実践発表 1 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
10	SPI性格検査実施	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	ニューススポーツの実践発表 2 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
12	ニューススポーツの実践発表 3 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
13	ニューススポーツの実践発表 4 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
14	ニューススポーツの実践発表 5 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
15	ニューススポーツの実践発表 6 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
競技スポーツ及び、健康のための基礎的トレーニングを基礎セミナー A、Bより更に深く学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るように、メンタルトレーニングを取り入れながら実践していく。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康の保持増進に一層深い関心を持ってメンタルな強化も含め、安全にトレーニングすることができる。

授業全体の内容と概要

基礎セミナー A、を基に、メンタルトレーニングをどのように取り入れていくかなど、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見出し実践する。  
 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに、実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ラグビー部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴を必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。  
 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	50%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を払うことができなかった。
知識・理解	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識を持ち、それぞれの領域の持つ見方について説明することができ、実践的に活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて、適切に活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識の見解を一定程度理解できていて、活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識の見解をあまり深く理解できていないが、活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識の見解をまったく理解できていない、その獲得、修得に取り組むことができなかった。
計画・実行力	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できた。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できた。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できた。	達成目標が曖昧ではあったが、計画を立てて3割程度できた。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を踏まえて、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
8	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
9	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	SPI性格検査実施	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	トレーニングの実践 授業改善アンケートの実施	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	生涯スポーツとしての特性を理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

余暇時間の増大や高齢化が進む中で、自分自身の人生をより豊かで充実したものにするために、スポーツは非常に重要な役割を果たすと考えられる。本授業では、トレーニングの理論と実践を通じ、生涯にわたって定期的に体を動かす習慣を養うことを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

栄養、運動、休養に関する基礎的知識を身につける。  
 自らの体力・目標に応じたトレーニングプログラムを組み立てる。  
 生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。  
 正しいトレーニング理論を学び、体を動かす重要性、楽しさを学ぶ。  
 栄養学を学ぶ。

授業の方法

授業はトレーニングの実技が中心となるが、トレーニング方法についてグループで研究を行い、各自に適しているトレーニング方法を継続的に実践できるよう実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

柔道部に所属する学生を対象とする。体育館・ウエイトトレーニング場を中心に授業を行うので、ジャージ・屋内用トレーニングシューズを用意すること。  
 怪我や健康上の理由がある者は、事前に申し出ること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	0%	0%	60%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、何事にも意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り、役割を果たすことができ、指示通り取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり、意欲もなく安全に注意を払っていない状態。	行動の仕方を守らず役割を果たせず、意欲もまったくなく、安全に配慮できなかった。
知識・理解	トレーニング・栄養学の基礎知識を十分持ち、それぞれの領域においても十分理解し、実践的に活用できた。	トレーニング・栄養学の基礎知識を持ち、各領域においても深く理解し、適切に活用できた。	トレーニング・栄養学の基礎知識をある程度理解し、活用することができた。	トレーニング・栄養学の基礎知識が少なく、活用することができなかった。	トレーニング・栄養学の基礎知識が全くなく、取り組みが全くみられなかった。
知識・理解	トレーニング・栄養学の基礎知識を十分持ち、それぞれの領域においても十分理解し、実践的に活用できた。	トレーニング・栄養学の基礎知識を持ち、各領域においても深く理解し、適切に活用できた。	トレーニング・栄養学の基礎知識をある程度理解し、活用することができた。	トレーニング・栄養学の基礎知識が少なく、活用することができなかった。	トレーニング・栄養学の基礎知識が全くなく、取り組みが全くみられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解する(45分)
2	体力測定、形態測定	体力測定の方法を確認しておく(45分)	体力測定の方法を理解する(45分)
3	最大学上重量測定1	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
4	最大学上重量測定2	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
5	身体組成と肥満	身体組成と肥満について確認しておく(45分)	身体組成と肥満について理解する(45分)
6	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング1	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
7	運動と体温調整	運動と体温調整について確認しておく(45分)	運動と体温調整について理解する(45分)
8	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング2	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
9	老化に伴う身体機能の変化	老化に伴う身体機能の変化を確認しておく(45分)	老化に伴う身体機能の変化を理解する(45分)
10	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング3 SPI性格検査実施	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
11	疲労の要因	疲労の要因について確認しておく(45分)	疲労の要因について理解する(45分)
12	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング4	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
13	メンタルトレーニング1	メンタルトレーニングの方法を確認しておく(45分)	メンタルトレーニングの方法を理解する(45分)
14	メンタルトレーニング2	メンタルトレーニングの方法を確認しておく(45分)	メンタルトレーニングの方法を理解する(45分)
15	最大学上重量測定3	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	生涯トレーニングの特性を理解しておく(45分)	生涯トレーニングの特性を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における健康の位置づけを考え、運動が生産にわたりそれへどう寄与するかを学ぶ。からだの構造の基礎的知識を身につけることによって、合理的にパフォーマンスの向上をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

各トレーニング方法の特性を理解し、競技に応じたトレーニング方法を組み立てることができる。

授業全体の内容と概要

目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。

授業の方法

からだの構造に関する基礎知識を踏まえ、体育館及びトレーニングルームにてトレーニングを実践しながら各トレーニングの特性の理解を深めていく。トレーニングの経過を観察記録し、各自記録結果をパワーポイント等にまとめ、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行い学習する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

研究室、体育館、トレーニング場で授業を行う。からだを動かすのに適した服装とする。(ジャージ等)不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果すことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果すことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ、普通に組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果そうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を配っていないかった。	行動の仕方を守らず役割を果さなく意欲もまったくなく、安全に注意を払っていないかった。
知識・理解	からだの構造を理解し、運動との結びつきに及んでいた。	からだの構造を理解していた。	からだの構造を概ね理解していた。	からだの構造をある程度理解していた。	からだの構造を理解していなかった。
計画・実行	計画を立てることができた。その計画に沿って実行でき、達成目標がほぼ全てクリアされていた。	計画を立てることができた。達成目標は7割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は5割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は3割程度であった。	計画を立てることができなかった。達成目標が設定されていないため行動がみられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明)	事前にシラバスを読んでおく(45分)	オリエンテーションの内容を理解しておく(45分)
2	各トレーニングの特性(瞬発系トレーニング)	トレーニング方法を調べておく(45分)	トレーニングの特性を確認しておく(45分)
3	各トレーニングの特性(持久系トレーニング)	トレーニング方法を調べておく(45分)	トレーニングの特性を確認しておく(45分)
4	各トレーニングの特性(サーキットトレーニング)	トレーニング方法を調べておく(45分)	トレーニングの特性を確認しておく(45分)
5	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・上肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
6	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・頭部及び体幹)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
7	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・下肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
8	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・上肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
9	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・頭部及び体幹)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
10	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・下肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
11	トレーニング実技(瞬発系トレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
12	トレーニング実技(持久系トレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
13	トレーニング実技(サーキットトレーニング)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
14	トレーニングの組み立て	トレーニングの組み立て方を調べておく(体調を整えておく(45分))	トレーニングの組み立て方を確認しておく(45分)
15	トレーニングの組み立て	トレーニングの組み立て方を調べておく(体調を整えておく(45分))	トレーニングの組み立て方を確認しておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	トレーニングの実施内容と効果をまとめておく(45分)	トレーニング効果を確認しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

トレーニング理論を理解し、実践する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。  
 課題解決のために他者と討議することができる。  
 トレーニングを実践することができる。

授業全体の内容と概要

試合で最高のパフォーマンスを発揮するために、科学的なエビデンスに基づいた情報を理解する。トレーニング計画を立て実行しパフォーマンスの向上を確認する。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてトレーニングを行う。既存のトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。  
 学生の不明点・疑問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

硬式野球部優先。  
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	60%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
トレーニング理論の理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
トレーニングの実践	トレーニングを実践し、成果と原因を把握し、改善のための新たな計画を立てていくことができた。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握でき、改善のための新たな計画を立てていくことができた。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握できた。	トレーニングを実践していない。	トレーニングを実践していない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 目標設定シートの記入	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	投球動作の復習、測定と評価	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	ピリオダイゼーション	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	前半の復習、目標設定シートの記入	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	投球ドリル(ドライブライン)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	投球ドリル(ドライブライン) SPI性格検査実施	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	投球ドリル(ドライブライン)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	投球ドリル(ドライブライン)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	スピードトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	スピードトレーニング / プライオメトリクス	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	プライオメトリクス	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	後半の復習、目標設定シートの記入 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツ及び、健康のための基礎的トレーニングを基礎ゼミナール A Bより更に深く学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るように、メンタルトレーニングを取り入れながら実践していく。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科DP(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康の保持増進に一層深い関心を持ってメンタルな強化も含め、安全にトレーニングすることができる。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナール A, を基に、メンタルトレーニングをどのように取り入れていくかなど、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見つけて出し実践する。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに、実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

陸上部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴を必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	50%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自ら進んでどれだけ競技に取り組めたか	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができる。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができる。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っている。	行動の仕方を守らず役割を果たさそうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を配っていない。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を配っていない。
自ら考トレーニングメニューを消化できたか	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる、実践的に活用できる	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて、適切に活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できていて、活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていない、活用できるレベルにない。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていない、その獲得、修得に取り組んでいない。
自ら立てた目標にどれだけ近づけたか	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できる。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できる。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できる。	計画を立てることができるが、達成目標が曖昧であり3割程度しかできない。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『月刊陸上競技』					
2	『月刊陸上競技マガジン』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
8	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
9	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	トレーニングの実践 SPI性格検査実施	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
11	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	生涯スポーツとしての特性を理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)、(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科のDP(4)に対応する

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴させる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感 SPI性格検査実施	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

前期の A に引き続き、大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

経営学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) に対応する。  
 社会福祉学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) ( 5 ) に対応する。  
 テザイン学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) に対応する。  
 建築学科の D P ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) に対応する。

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。  
 自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。  
 学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

前期の A に引き続き、講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。  
 報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。  
 司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。  
 担当教員による講評を行う。  
 レポート作成に向けた準備を進める。  
 輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。  
 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。  
 自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リダクションを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
6	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	SPI性格検査実施	実施要領の確認(45分)	検査のふり返り(45分)
11	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(10)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは数学の歴史的概要と基本的ターム及び理論経済学における基本的な用法を学習することによって、論理的思考方法の構築する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 経営学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・数学の歴史的な外観を理解できる。
- ・数学の持つ論理性を理解できる。
- ・高理法、必要条件、十分条件、帰納法、逆・裏・対偶について理解できる。
- ・数学と近代経済学の関係を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『数学嫌いの人のための数学—数学原論—』(東洋経済)『数式を使わない数学の講義』(ワック出版)を基本参考文献とする。その他『Newton』等の科学雑誌を参考資料とする。音講を基本とする講義を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。

授業の方法

- ・音講を基本とする講義を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。
- ・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。
- ・学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくない要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席条件10回以上をクリアする

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学の歴史を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	世界史における数学の位置づけを理解できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
形式論理学について理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	命題、逆、裏、対偶についての知識を取得することができた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
数学と経済学との関連を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	必要条件、十分条件、背理法、帰納法についての基礎的知識を習得できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『数学が嫌いな人のための数学』	小室直樹	東洋経済新報社	2001年	4-492-27205-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校数学の復習(45分)	配布資料の読み込み(45分)
2	数学の論理の源泉-古代宗教から生まれた数学の論理-1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
3	数学の論理の源泉-古代宗教から生まれた数学の論理-2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
4	論理とは神との論争の技術1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
5	論理とは神との論争の技術2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
6	数学と近代資本主義1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
7	数学と近代資本主義2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
8	数学と近代資本主義3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
9	証明の技術1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
10	SPI性格検査実施	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
11	証明の技術2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
12	証明の技術3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
13	数学と近代経済学1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
14	数学と近代経済学2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
15	数学と近代経済学3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
16	数学と近代経済学4	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

前期の A に引き続き、学生が世界と日本の歴史と文化の基礎について理解し、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科の D P ( 2 ) に対応する。  
 社会福祉学科の D P ( 2 ) に対応する。  
 デザイン学科の D P ( 2 ) に対応する。  
 建築学科の D P ( 2 ) に対応する。

到達目標

受講者が世界と日本の歴史と文化の基礎的な知識を理解、習得し、学んだことを発信できるようになる。合わせて、プレゼンテーション、文章作成の基礎的な能力が身に付く。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が世界と日本の歴史と文化の基礎の学習(文献調査)を行い、合わせて、プレゼンテーション、文章作成のトレーニングを行う。

授業の方法

毎回、1) 受講者による文献調査、2) プレゼンテーション、質疑応答、3) 教員による補足、講評(フィードバック)を行う。適宜、文章作成の練習も取り入れる。プレゼンテーションでは板書、スライド、ボードを使用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	20%	60%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・整理の能力	多様で正確な情報収集と分析、編集、整理ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集・整理と適切な発信ができた。	情報収集・整理と発信の基本が身に付いた。	指示によって情報収集・整理と発信ができた。	指示による情報収集・整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論ができ、明確なプレゼンテーション、応答ができた。	適切な議論、プレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが運行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	ヨーロッパの歴史と文化に関する広く深い理解ができ、発展的な学習ができた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によってヨーロッパの歴史と文化の基礎が理解できた。	指示によるヨーロッパの歴史と文化の理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義。	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
2	ヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義。	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
3	受講者による調査とプレゼンテーション(1)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
4	受講者による調査とプレゼンテーション(2)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
5	受講者による調査とプレゼンテーション(3)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション(4)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
7	受講者による調査とプレゼンテーション(5)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
8	受講者による調査とプレゼンテーション(6)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
9	受講者による調査とプレゼンテーション(7)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
10	SPI性格検査実施	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
11	受講者による調査とプレゼンテーション(8)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
12	受講者による調査とプレゼンテーション(9)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
13	受講者による調査とプレゼンテーション(10)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
14	受講者による調査とレポート作成(1)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
15	受講者による調査とレポート作成(2)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
16	受講者による調査とレポート作成(3)	レポート作成の準備(45分)	レポートの仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)					
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1	(単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照					

概要

履修目標
------

社会福祉実践の現場で、必要な社会的なマナーを学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する科目。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する科目。

到達目標

福祉従事者に求められる態度と人柄を理解する。  
他者との共働に必要な要件を身につける。

授業全体の内容と概要

基本的な社会常識を身に付ける。  
福祉従事者に求められる資質について学ぶ。  
「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。  
一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので、答えること。  
随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。  
授業毎に使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一般的な社会常識を身につける。	成人として、常識をわきまえた行動ができた。	大学生としての常識をわきまえた行動ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
対人技能の基本を身につける。	社会人として求められる人間関係の理解及び福祉従事者として特に留意する点について述べる事ができた。	社会人に求められる人間関係の理解ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 大学生活を送る上で必要なマナー	大学生としてふさわしいふるまいには何か考える。(45分)	ノートを整理する。(45分)
2	大学生活を送る上で必要なマナー 明るさを備える。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
3	大学生活を送る上で必要なマナー 誠実さを備える。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
4	大学生活を送る上で必要なマナー 良識を持つ	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
5	大学生活を送る上で必要なマナー 素直な態度を心得る。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
6	大学生としてのマナー 清潔感に磨きをかける。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートの整理をする。(45分)
7	中間まとめ	1回から8回の内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい内容をまとめる。(45分)	授業で学んだことを意識し、目上の人と話を話する。(45分)
8	社会人としてのマナー 社会人意識とは	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
9	社会人としてのマナー 社交儀礼	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
10	SP I 性格検査実施	性格を自己分析する。(45分)	友人から自分の性格について意見を受ける。(45分)
11	社会人としてのマナー 社内の人間関係	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理するノートを整理する。(45分)
12	社会人としてのマナー 社外の人間関係	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
13	社会人としてのマナー 事例検討	11回、12回の内容を振り返る(45分)	(クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
14	社会人としてのマナー 接遇実践の基本	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
15	社会人としてのマナー 接遇実践の実際	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
16	まとめ	1回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。(45分)	この授業で学んだ事を振り返り、3年生へ向けた自己の課題を明確化する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

基礎ゼミナールの目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の DP (2) (5) に対応する。  
 経営学科の DP (2) (5) に対応する。  
 デザイン学科の DP (2) (5) に対応する。  
 建築学科の DP (2) (5) に対応する。

到達目標

基礎ゼミナール から継続して考えていながら、学生それぞれが1つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関する講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況(2/3以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	「SPI性格検査」を実施する	「SPI性格検査」についてのポイントを整理する。(45分)	「SPI性格検査」について振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間生活の基本である健康・体力や身体運動に関する知識を深め、現在不規則になりがちな生活習慣の改善が必要になる。学生生活における健康維持のための運動の大切さについての基礎知識を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康的なライフスタイルを確立する方法を身につける。不規則になりがちな生活習慣で留意しなければならない点について、いくつかのテーマを通じて、基本的な知識を学習する。現在だけのことだけでなく、卒業後に訪れるであろう社会人生活における健康づくりについて述べることができる。

授業全体の内容と概要

講義では、健康の意味、特に運動と健康とのかかわりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を習得する。さらに、生き生きとした人生を送るために運動・栄養・休養について、自らの生活習慣を見直す機会を深める。

授業の方法

資料を通読し、その内容がかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ学習の発表を行います。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。  
 20分以上の遅刻は欠席とみなします。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
2	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
3	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
4	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
5	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
6	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
7	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
8	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
9	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
10	SPI性格検査実施	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
11	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
12	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
13	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
14	学生調査発表	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
15	学生調査発表	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)					
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育制度についてその概要を理解することができる。  
教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。  
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。  
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読  
教育に関する基本的事項についての調べ学習  
教員として求められる一般教職及び教職教職の学修  
学校視察やボランティア活動等への参加  
漢字検定等への参加  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
教員として求められる一般教職及び教職教職について演習を行う。課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
漢字検定取得に真剣に取り組むことを条件とする。(目標準2級)  
○授業内で紹介する体験活動に積極的に取り組むことを条件とする。  
○各自、ノートを用意すること。  
○プリント類はプラットフォームに格納し、毎回授業に持参すること。  
○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関するレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*授業内で別途指示する。*					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学修計画の作成	基礎ゼミナールでの学修を自己評価すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教育法規のまとめ 教育基本法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教育法規のまとめ 学校教育法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教育法規のまとめ 学校教育法施行規則 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教育心理のまとめ 心理学のおこり 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教育心理のまとめ 学習理論等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教育心理のまとめ 心理療法等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	教育史のまとめ 日本教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	教育史のまとめ 西洋教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	SPI性格検査実施	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	教育原理のまとめ 教育改革の流れ 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	教育原理のまとめ 現代の教育課題 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	小論文についての学修 小論文の構成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	小論文についての学修 小論文の作成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	小論文についての学修 小論文の評価 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツの基礎的トレーニングを基礎ゼミナール A・Bより更に深く理解し、個人に必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。携っている競技の試合分析をする知識と理解力を身につける。

授業の位置づけ

営学科のDP(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科のDP(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできるようにする。また、試合の分析・考察(心理的)も出来る。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナール A・Bを基に個人に必要なフィジカルとメンタルトレーニングを実践し、自分の競技の試合をどのように分析・考察(心理的)すればよいかを考える。

授業の方法

プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。また、コンディショニングの方法・心理的などについての分析を行い、次の大会などに活かせるようにする。なお、今回の授業において前回の反省と確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細については、ガイダンスにて説明する。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	60%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングができる	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が7割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	トレーニング実践 1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
3	トレーニング実践 2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
4	トレーニング実践 3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
5	トレーニング実践 4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
6	トレーニング実践 5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
7	トレーニング実践 6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
8	試合分析 1 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
9	試合分析 2 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
10	試合分析 3 (心理的・コンディショニングの方法) SPI性格検査実施	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
11	試合分析 4 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
12	試合分析 5 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
13	試合分析 6 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
14	試合分析 7 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
15	試合分析 8 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(45分)	専門用語の意味を理解しておくこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に、必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる、を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエイション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(5)に対応する。  
 福祉学科のDP(2)、(4)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)、(3)、(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)、(4)に対応する。

到達目標

- (1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
- (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
- (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。  
 社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人ややる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人  
 協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人  
 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	前期の活動についての確認と振り返り シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	Creative activities 3・SPI性格検査実施	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	1年間の活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

学生が就職活動を行う時に必要なSPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)の基本をしっかりと身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)に対応する。  
 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)の基本を修得できる。

授業全体の内容と概要

金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、SPIの基礎知識(非言語分野)と解き方の基本について実感をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。  
 レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
SPIに必要な基礎知識の修得	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が100%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が90%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が80%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方(思考過程)を100%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を90%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を80%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	資料の読み取り	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	順列・組み合わせ	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	確率のとりえ方	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	集合	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	推論	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	ものの流れと比率	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	ブラックボックス	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	グラフの領域(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	S P I 性格検査実施	S P I 性格検査の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のS P I 性格検査の再確認(45分)
11	グラフの領域(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	グラフの領域(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	論証(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	論証(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	論証(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)					
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)		研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	1	(単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
------

基礎的なコンクリートの特徴を実習を通して学習する。また基本的な構造形式の原理を、簡易模型製作と通じて体験しながら修得する。

授業の位置づけ
---------

建築学科のDP(1)、(2)、(4)に対応する。

到達目標
------

- 1.コンクリートの物理的性質を理解し、コンクリートのひずみ測定からグラフが作成できる。
- 2.基本的な構造形式の原理が理解でき、簡易模型製作から構造形式及び力の流れ等が理解できる。

授業全体の内容と概要
------------

- 2年生前期までの構造系授業に関して、実習を経験しながら理解する。
- 1.コンクリート構造物の非破壊試験体験、コンクリートのひずみ測定。
  - 2.簡単な構造模型製作及び載荷試験などを通して、曲げ強度・トラス原理・断面2次モーメント等について体験し確認する。

授業の方法
-------

アトリエ棟の建築実験実習室において、個人およびグループで実習や模型製作を実施する。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

個人およびグループで作業をするので、休まず出席すること。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	0%	50%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コンクリートの強度とひずみに関する理解	コンクリート試験から強度とひずみの関係を理解し、グラフを作成し他の人に説明できた。	コンクリート試験から強度とひずみの関係を理解し、グラフを作成し理解できた。	コンクリート試験から強度とひずみの関係を理解し、グラフを作成できた。	コンクリート試験から強度とひずみの関係を理解できた。	コンクリート試験から強度とひずみの関係を理解できなかった。
建築構造形式の理解	建築構造形式が理解でき、他の人に説明できた。	建築構造形式が80%理解できた。	建築構造形式が70%理解できた。	建築構造形式が60%理解できた。	建築構造形式が理解できなかった。
実験報告書の理解	実習内容を理解し実験報告書が作成ができ、他の人に説明ができた。	実習内容を80%理解し実験報告書が作成ができた。	実習内容を70%理解し実験報告書が作成ができた。	実習内容を60%理解し実験報告書が作成ができた。	実験報告書の作成ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)		研究室等所在	アトリエ棟1階	
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 <small>1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。</small>			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	<small>『適宜、資料配布。』</small>					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを確認する(45分)	ガイダンス及びシラバスの理解(45分)
2	非破壊試験	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
3	弾性係数試験(1)歪ゲージ貼付け	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
4	弾性係数試験(2)ハンダ付け	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
5	弾性係数試験(3)ひずみ測定	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
6	弾性係数試験(4)ひずみ測定	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
7	実験グラフ作成	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
8	実験報告書	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
9	建築構造模型製作の概要説明	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
10	SPI性格検査実施	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
11	建築構造模型製作(1)	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
12	建築構造模型製作(2)	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
13	建築構造模型製作(3)	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
14	建築構造模型載荷強度試験	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
15	試験実施報告書	資料の予習する(45分)	内容を確認し復習する(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック 授業改善アンケートの実施	総復習をする(45分)	総復習及び配布資料の整理(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			





基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	都市空間の調査・研究	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
3	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
4	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
5	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映しまとめる(45分)
6	都市空間の調査・研究 中間発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
7	課題「都市空間のアップデート」課題説明	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
8	課題「都市空間のアップデート」課題 調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
9	課題「都市空間のアップデート」課題 調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
10	SPI 性格検査実施	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
12	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
13	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
14	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映しまとめる(45分)
15	課題「都市空間のアップデート」課題 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価すること(45分)
16	発表・まとめ 授業改善アンケートの実施	今までの授業を振り返る(45分)	学習を振り返り、自己評価を行う(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター員)		研究室等所在	本部棟3階国際交流センター	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ A・B		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センター等で対応				

概要

履修目標

授業を通して日本事情、日本文化をより詳しく理解する。日本事情、日本文化を学びながら、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指し、より高度な日本語能力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

日本の習慣、文化、現代日本の問題をよりよく理解するとともに自身の日本語能力を向上させる。日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。

授業全体の内容と概要

日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG3:すべての人に健康と福祉を」「SDG7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「SDG10:人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけでなく、プロジェクターやパソコン、レリアなども使用する。学生は教師が提示するトピックを題材に、日本語能力の向上を目指す。授業内では決まった人たちのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。授業中は携帯電話や辞書の使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこととする。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回である。  
 出席、授業態度、レポート、プレゼンテーションで評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語、日本文化、時事問題の知識・技能	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識・技能を習得しようとしている。授業外でも日本のニュースなどに関心を持っている。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識・技能を習得しようとしているが、授業内での関心だけで終わってしまった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持っているが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心をあまり持たない。授業内の活動には参加するが、知識・技能があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持たず、知識・技能を習得しようという姿勢が見られない。授業内の活動にもあまり参加しなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが自立的。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多い。	毎回の授業に参加し、授業対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱い。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加している。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的である。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題あり。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター員)		研究室等所在	本部棟3階国際交流センター	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ A・B		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						必要に応じ適宜配布
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(自己紹介・シラバス、授業の進め方についての説明など) プレゼンテーション	シラバスを熟読し、本講義についてりかいしておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
2	ニュース・トピック: 日本文化(観光)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
3	ニュース・トピック: 時事問題	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
4	ニュース・トピック: 日本文化(伝統文化・演芸など)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
5	ニュース・トピック: 時事問題	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
6	ニュース・トピック: 日本文化(マンガ)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
7	ニュース・トピック: 日本文化(ことわざ・慣用語)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
8	プレゼンテーション	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
9	プレゼンテーション	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
10	ニュース・トピック: 日本文化(コミュニケーション・ディスカッション) SPI性格検査実施	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
11	ニュース・トピック: 時事問題	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
12	ニュース・トピック: 日本文化(昔話)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
13	ニュース・トピック レポートテーマ発表	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
14	ニュース・トピック: 時事問題(リサイクル)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
15	ニュース・トピック: 時事問題(コミュニケーション・ノンバーバル言語)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
16	レポート提出 総括	レポートの再確認(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。  
フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。  
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する科目。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する科目。

到達目標

福祉に関する専門用語を覚える。  
自分に適した暗記方法を身につける。  
協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。  
フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。  
他者を尊重しながら自己主張できるようになる。  
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。  
一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。  
随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。  
内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
出席を重視するので遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学が権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
2	専門演習 Aの振り返り	前期のまとめた内容を整理する。(45分)	発表した内容を振り返る。(45分)
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
5	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
7	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
8	中間まとめ	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
10	「SPI性格検査実施」	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
16	まとめ	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えることを通じて、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と運動させながら新たな視点を獲得する。

授業の位置づけ

経営学科のD Pの(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のD Pの(1)(2)(3)(4)に対応する。  
 デザイン学科のD Pの(1)(2)(5)に対応する。  
 建築学科のD Pの(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に付け理解する。  
 文献や資料を考察するための基礎能力を身に付ける。  
 ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など)を身につける。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。  
 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収のほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること、個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。  
 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。  
 第6回にゲスト講師(マンガ家、マンガ編集者、マンガ施設関係者等)の参加を予定している。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを越えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田映生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	資料を読む(1)文献の読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	資料を読む(2)文献についての調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	資料を読む(3)文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	産業としてのマンガ(1)雑誌文化と新しいビジネスモデル ゲスト講師への質問を考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	ゲスト講師への質問を考える(45分)
6	産業としてのマンガ(2)雑誌文化と新しいビジネスモデル ゲスト講師(マンガ家、編集者など)参加	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料の作り方などを学ぶ(1)作品分析:大友克洋のマンガ作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料の作り方などを学ぶ(2)作品分析:大友克洋のアニメーション作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	個人発表の準備をする(45分)
9	個人発表(1)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
10	SPI 性格検査実施	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の準備をする(45分)
11	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	個人発表(5)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りと、レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー B (科目ナンバリング: BAS002006)					
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

身体というものの本質を理解し、不自由さ、困難さに寄り添う想像力と特別支援教育への関心を高める。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)と(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)と(4)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)と(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)と(4)に対応する。

到達目標

人と身体の関連性について思考を深め、身体を基礎とした認知の成立を理解する。  
 肢体不自由児に随伴しやすい限局性学習症について理解する。

授業全体の内容と概要

生後6か月までの乳児の発達(主に睡眠と覚醒、原始反射、感情の分化、基本姿勢と姿勢反応)について学習し、肢体不自由児や重複障害児の実態把握に欠かせない基本知識を理解する。身体と認知の関連を文献研究し、身体に働きかける可能性について深め、読み、書き、空間認知等のつまずきの改善方法について検討する。

授業の方法

各自がテーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。  
 全体への報告資料作成(持ち回り)、パワーポイント等の視聴覚メディアによる全体発表等をおして、情報共有する。  
 資料内容、発表内容等に対して、自己評価を下にしたフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

障害のある子に対する教育的な対応や特別支援教育に強い関心がある者とする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	50%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児の発達及び身体を通して獲得される認知能力に関する知識・理解	乳児の発達と重複障害児の関係と身体と認知の関係を十分に理解し、自ら深化させ発展的な探究活動ができた。	乳児の発達と重複障害児の関係と身体と認知の関係を十分に理解できた。	乳児の発達と重複障害児の関係と身体と認知の関係を理解できた。	乳児の発達と重複障害児の関係と身体と認知の関係を部分的には理解できた。	乳児の発達と重複障害児の関係と身体と認知の関係をまったく理解できなかった。
グループワークによる内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等をおすることがなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、グループワークや報告会等についても、常に自ら積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、グループワークや報告会等についても、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、グループワークや報告会等にも関心をもって取り組むことができた。	授業に対して部分的に積極的に取り組む、グループワークや報告会等にもある程度関心をもって取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、グループワークや報告会等にも積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの生活世界のはじまり』	浜田寿美男	ミネルヴァ書房			
2	『からだ・認識の原点』	佐々木正人	東京大学出版会			
3	『子どもの発達と診断1 乳幼児期前半』	田中昌人/田中杉恵	大月書店			
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(取組の概要、シラバスの説明、基礎ゼミ Aの確認等)	シラバスを読む(45分)	説明内容を整理する(45分)
2	乳児の発達の情報収集、今後の進め方、テーマの概要等のガイダンス	参考図書で発達の概要を調べる(45分)	発達について確かめる(45分)
3	乳児の発達概要の確認 活動計画、役割分担等、情報収集内容の確認	乳児の発達を調べる(45分)	内容を整理する(45分)
4	乳児の発達について担当者の報告 情報収集した内容の発表、ディスカッション	睡眠について調べる(45分)	内容を整理する(45分)
5	乳児の発達について担当者の報告 情報収集した内容の発表、ディスカッション	ボイタ法、ボバース法を調べる(45分)	内容を整理する(45分)
6	乳児の発達について担当者の報告 情報収集した内容の発表、ディスカッション	原始反射を調べる(45分)	内容を整理する(45分)
7	肢体不自由について深める 情報収集した内容の発表、ディスカッション	脳性まひ、大脳について調べる(45分)	内容を整理する(45分)
8	視覚認知について担当者の発表 情報収集した内容の発表、ディスカッション	視覚の仕組みについて調べる(45分)	発表を振り返る(45分)
9	物や人との関わりについて担当者の発表 情報収集した内容の発表、ディスカッション	感情の成り立ちについて調べる(45分)	内容を整理する(45分)
10	SPI性格検査実施 限局性学習症に関する基本的な情報 活動計画、役割分担等、情報収集内容の検討	LDについて調べる(45分)	内容を整理する(45分)
11	肢体不自由と限局性学習症に関する情報収集内容の概要 概要の確認、情報収集	LDについて調べる(45分)	内容を整理する(45分)
12	肢体不自由と限局性学習症に関する情報収集と整理 情報収集した内容の発表、ディスカッション	LDについて調べる(45分)	内容を整理する(45分)
13	肢体不自由と限局性学習症に関する情報収集と整理 情報収集した内容の発表、ディスカッション	LDの指導方法について調べる(45分)	内容を整理する(45分)
14	肢体不自由と限局性学習症に関する情報収集と整理 情報収集した内容の発表、ディスカッション	LDの指導方法について調べる(45分)	内容を整理する(45分)
15	現代人の問題 - 心身一元論 - 健康に生きることにしているディスカッション	心を健康に保つことについて調べる(45分)	心と身体について考察する(45分)
16	全活動内容の振り返り 身体と認知の関係についてのフリーディスカッション	全内容を振り返り自分の考えをまとめる(45分)	全内容を振り返る(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
前期基礎ゼミナール A での学びと考察を踏まえ、若者の雇用、大卒者の就職の状況を、日本と諸外国との比較の中で確認し、考察、理解を目指す。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標
若者・大卒者の雇用・就職状況について単に知識を習得するだけでなく、現代のライフコース変化の中での自らの問題として考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要
日本の雇用・就職状況の変化の動きの中で、どのような活動分野でどのような仕事・職業に就くのか具体化することを促し、その実現可能性を考察する。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL											
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業											
ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)											

履修上の注意事項
さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な出席回数は13回以上。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	80%	0%							

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組み、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準にとどかず、ゼミナールテーマが理解できていなかった。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組み、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準にとどかず、ゼミナールテーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容の確認(45分)
2	..現代日本社会の雇用・就職 1.大卒就職の歴史	日本の大卒就職の現状の意識化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
3	..1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
4	..1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	..1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
6	..2.若者の雇用の変化と現状	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
7	..2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	..2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	..2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	SPI性格検査実施	SPI性格検査の意義確認(45分)	SPI性格検査振り返り(45分)
11	..大卒就職・雇用の国際比較	日本の大卒就職・雇用の特徴のイメージ化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	..(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	..(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	..自らの進路決定に向けて	自らがどのような活動分野・仕事・職業を選択するかの明確化(45分)	選択分野・仕事・職業の再確認(45分)
15	..後期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	後期のすべての活動の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総括・振り返り	15回分の内容の振り返り(45分)	総括の再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」(主体性・働きかけ力・実行力)・「考え抜く力」(課題発見力・計画力・創造力)・「チームで働く力」(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)を修得する。

授業の位置づけ
・経営学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・社会福祉学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・デザイン学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・建築学科のDP(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係を構築できる。

授業全体の内容と概要
グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く難しさ」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらう。グループワークの成果物として「レポート」「プレゼンテーション」「デザイン制作物(ポスター・チラシ・Webサイトデザイン・ムービー)」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。 本科目は、以下のSDGs関連授業である。 ・「SDG 8:働きがいも経済成長も」 ・「SDG 9:産業と技術革新の基盤をつくろう」 ・「SDG 16:平和と公正をすべての人に」 ・「SDG 17:パートナーシップで目標を達成しよう」 その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法
グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったPDCAサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。 ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学習支援を実施する。 ・授業時間外において質問及び相談があれば、Teamチャットまたは音声通話にて受け付ける。 ・提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。 ・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。 ・本科目内で最低1回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・所属学科の制限は設けない。 ・課題制作(デザイン制作)を行う場合は、全学科対応できるよう考慮した内容とする。 ・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。 ・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス(過程)」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。 ・不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上とする。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与(学習意欲)	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスの説明等	シラバスを確認する(45分)	履修登録結果を確認する(45分)
2	【ビギナーズセミナー】 これまでの単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
3	【ビギナーズセミナー】 これまでの単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
4	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
5	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
6	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
7	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
8	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
9	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
10	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。 SPI性格検査実施	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
11	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
12	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
13	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
14	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
15	【プロジェクト活動(成果発表会)】 グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)
16	【まとめ・総評】	これまでの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B（再）（科目ナンバリング：BAS002006）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べるができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ゼミナール18再履修者。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B（再）（科目ナンバリング：BAS002006）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	レポートの内容についてのプレゼンテーションを行う。授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS122047)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師) 、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標	<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し実践的な技術を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。

到達目標	<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p>
------	---

授業全体の内容と概要	<p>教科書をもとに、実習前・実習中・実習後の学習方法を理解する。 事前には、実習の目的と構造(実習および実習指導の意義や目的、実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価、実習の構造、実習におけるリスクマネジメント)、実習先に向けた準備(情報収集の方法、実習記録の書き方、精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解)、実習先決定後の準備(実習先決定後の学習の内容と方法、実習計画の作成、事前訪問/事前打ち合わせ)を行い、実習中には、実習スーパービジョン、実習中の評価、実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題から学び、事後には、実習後に行う評価、事後学習の目的と方法、実習成果の報告(実習報告会)を通じて振り返りを行う。 *SDG 3、すべての人に健康と福祉を、*SDG 4、質の高い教育をみんなにの関連授業。</p>
------------	---

授業の方法	<p>教科書の主要な内容をまとめたレジュメを作成し報告することを通して、実習前・中・後に必要となる準備を行う。報告の分担は授業開始後に決定する。 実習配属先が決定後、実習に向けた事前学習・実習計画書の作成を通して、自らの実習課題を設定すること。事前学習・実習計画書は個別指導を実施する。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 Microsoft Teams / Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。</p>
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																		

履修上の注意事項	<p>教科書は毎回持参すること。 実習準備を行うことから出席を重視する。やむを得ず遅刻や欠席をするときは事前に連絡をすること。 講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師による講義等も実施の予定である。実習生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件	<p>単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。成績は、レジュメの作成・報告(20点)、事前学習・実習計画書の作成(50点)、平常点(30点)で総合して評価する。</p>					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	20%	50%	0%	30%	0%

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明・記述できた。</td> <td>精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について説明・記述できた。</td> <td>精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について説明・記述できた。</td> <td>精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</td> <td>関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて説明・記述できた。</td> <td>具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> </table>					評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明・記述できた。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について説明・記述できた。	精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について説明・記述できた。	精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて説明・記述できた。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
評価項目	評価基準																																													
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																									
ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明・記述できた。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について説明・記述できた。	精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について説明・記述できた。	精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて説明・記述できた。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS122047)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師) 、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通して精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク実習指導-ソーシャルワーク実習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバス説明、講義-演習-実習の循環(畠山・西野)	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造(実習および実習指導の意義と目的)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	ソーシャルワーク実習の目的と構造(実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	ソーシャルワーク実習の目的と構造(実習における教育評価、実習の構造)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	実習先決定に向けた準備(情報収集の方法、実習記録の書き方)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	実習先決定に向けた準備(精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	実習先決定後の準備(実習先決定後の学習の内容と方法)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	実習先決定後の準備(実習計画の作成、事前訪問/事前打ち合わせ)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	実習中の学習(実習スーパービジョン、実習中の評価)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	実習中の学習(実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	実習後の学習(実習後に行う評価、事後学習の目的と方法)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	実習後の学習(実習成果の報告)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	実習の実際(実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	実習の実際(精神科医療機関における実習)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	実習の実際(障害福祉サービス事業所における実習)(畠山)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	実習の実際(行政機関における実習)、まとめ(畠山・西野)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修/高・美
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES211017)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。  
頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。  
また、自己レベル認識を持てるようにする。前半はグラフィックデザイン、後半はプロダクトデザインを行う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (3) (5) に対応する。

到達目標

モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事が出来る。ユーザーをイメージして課題を的確に表現し、自分オリジナルな切り口を持ってデザイン出来る事。

授業全体の内容と概要

学生の脳内に形が形成出来るように、色々なロゴや製品のデザインを行う。  
自分の想像(脳内のイメージ)スケッチを行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。  
SDG12、つくる責任、使う責任に準じる。

授業の方法

課題のテーマに沿って、テーマが第三者に伝わる様にデザインする。使い勝手を考慮して美しく、便利なデザインを考えていく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。  
三菱鉛筆のハイユニの4A-4Bを使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。  
A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と色鉛筆、マーカー、消しゴム、カルトンを用意してください。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上  
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。	イメージを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	イメージを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	イメージを正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	イメージを捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	イメージを捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
課題テーマを正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。	課題テーマを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	課題テーマを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	課題テーマを正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	課題テーマを捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	課題テーマを捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
オリジナルな切り口を持って商品デザインをし、手を通して紙に表現出来る事。	オリジナルデザインが出来、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	オリジナルデザインが出来、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	オリジナルデザインが出来、頭の中に描くことができる。	オリジナルデザインが何となく、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	オリジナルデザインが出来ない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修/高・美
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES211017)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 デザインとは?授業改善アンケート結果反映の説明 基本形1 鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
2	課題1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	課題1ロゴ 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	課題2ロゴ 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	課題2ロゴ 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	課題3ロゴ 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	課題3ロゴ 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	課題3ロゴ 鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	課題プロダクト1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	課題プロダクト1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	課題プロダクト1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	課題プロダクト2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	課題プロダクト2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	課題プロダクト3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	課題プロダクト3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	デザイン概念 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。(90分)	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	財務会計論 (科目ナンバリング: ACC412010, ACC512007)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示等を参照				

概要

履修目標
<p>会計は、「事業(ビジネス)の言語」と呼ばれており、あらゆる業種や立場(経営者、従業員またはフリーランス等)を問わず、その知識が必要とされている。ところが、会計には、「利益」や「価値権利」のように、会計の世界にしか存在しない用語や概念が存在する。そこで、本講義では、社会人として求められる財務会計の知識・理解を深め、財務諸表分析を通じて会計情報を利用できるようになることを目標とする。</p>

授業の位置づけ
経営学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務会計の基礎的な仕訳処理を理解する。</li> <li>・財務会計の役割と財務諸表の構造に関する理論を理解する。</li> <li>・財務諸表分析を行うことができる。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
<p>講義の前半(第4回まで)は、財務会計の総論として、会計の基本前提や関連規則を取り上げる。講義の後半(第5回以降)は、個別論点を取り上げ、会計処理とそれを支える理論を解説する。本講義は、テキストの解説のみならず、自経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して進める。また、本授業科目は、「SDG13 気候変動に具体的な対策を」の関連授業であり、気候変動開示を含む、ESG情報開示・サステナビリティ報告に関しても取り上げる。</p>

授業の方法
会計処理を取り上げる際には、仕訳の計算を行う時間を設けるため、電卓を用意することを推奨する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<p>本講義は、簿記の発展科目であることから、「簿記論」の単位を取得していない者は受講できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	30%	0%	30%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
40%	30%	0%	30%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会計処理の意味を理解する。</td> <td>会計処理の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。</td> <td>会計処理を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。</td> <td>会計処理を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。</td> <td>会計処理の意味を最低限理解している。</td> <td>会計処理の意味を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>財務諸表の内容を理解できる。</td> <td>財務諸表の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。</td> <td>財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。</td> <td>財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。</td> <td>財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。</td> <td>財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>財務諸表の分析について理解できる。</td> <td>財務諸表分析を行い、数値の結果と関連づけて企業の状態を詳細に説明できる。</td> <td>財務諸表分析の数値を見て、企業の状態を判断できる。</td> <td>実際の企業の財務諸表を用いて、財務諸表分析を行い指標の数値を計算することができる。</td> <td>財務諸表分析に使用される指標の意味を最低限理解している。</td> <td>財務諸表分析に使用される指標の意味を理解できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	会計処理の意味を理解する。	会計処理の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	会計処理の意味を最低限理解している。	会計処理の意味を理解できなかった。	財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。	財務諸表の分析について理解できる。	財務諸表分析を行い、数値の結果と関連づけて企業の状態を詳細に説明できる。	財務諸表分析の数値を見て、企業の状態を判断できる。	実際の企業の財務諸表を用いて、財務諸表分析を行い指標の数値を計算することができる。	財務諸表分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	財務諸表分析に使用される指標の意味を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
会計処理の意味を理解する。	会計処理の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	会計処理の意味を最低限理解している。	会計処理の意味を理解できなかった。																								
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。																								
財務諸表の分析について理解できる。	財務諸表分析を行い、数値の結果と関連づけて企業の状態を詳細に説明できる。	財務諸表分析の数値を見て、企業の状態を判断できる。	実際の企業の財務諸表を用いて、財務諸表分析を行い指標の数値を計算することができる。	財務諸表分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	財務諸表分析に使用される指標の意味を理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	財務会計論 (科目ナンバリング: ACC412010, ACC512007)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ケースブック会計入門(第4版)』	永野剛雄	新世社	2014年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(講義の進め方、簿記論の復習) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスとテキストの序文を読んでおく(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
2	会計とは何か	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
3	会計の仕組みと規則	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
4	財務諸表の作成原理	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
5	棚卸資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
6	固定資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
7	金融資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
8	負債の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
9	中間テストと解説(テスト終了後、解説を行う)	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
10	純資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
11	収益・費用・税金の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
12	連結の貸借対照表と損益計算書	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
13	その他の財務諸表	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
14	企業の評価 財務諸表分析	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
15	総復習とサステナビリティ報告に関する最新動向	これまでの内容を復習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
16	定期試験と解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する(90分)	定期試験の解説内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ指導論 (科目ナンバリング: SPS422071, SPS522055)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かしてスポーツ指導論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標	スポーツ活動における望ましい指導者像、科学的・合理的な指導方法を学ぶ。また、スポーツ指導に必須とされる競技者育成と評価、スポーツ活動と安全管理、ミーティングの方法、指導計画について理解できる。
授業の位置づけ	経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。
到達目標	指導者としての心構え・視点、さまざまなスポーツ指導現場に対応できる基礎能力を身につける。

授業全体の内容と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ指導者に必要とされるプログラム作成手順、教授技術、指導に関わる評価及び評定について概説する。</li> <li>競技者を一番に考え指導のあたり方を認識し、お互いに意見交換をしながら、指導者としてのあべき姿を身につける。</li> </ul>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回のテーマに關してのプリント等をを使用して説明を行う。</li> <li>各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関してグループワークで思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。</li> </ul>

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。</li> <li>講義中、スマホや飲食物はカバン等に入れておくこと。スマホや飲食物は指示があれば可。</li> <li>講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整理と保管し必要時に参照できるようにすること。</li> <li>20分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻は3回で欠席1回とみなす。</li> <li>不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</li> </ul>
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	20%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
40%	20%	20%	0%	20%	0%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的・合理的な指導方法を学び理解	指導方法を学び、自分の意見を発表した	指導方法を学び、自分なりに思考・判断できた	指導方法を学び、自分なりに判断できた	指導方法を学び、理解できた	指導方法を学んでいるが、理解できなかった
指導現場に対応できる基礎能力	指導現場で基礎能力を身につけ、実践できた	指導現場で基礎能力を身につけ、説明できた	指導現場で基礎能力を身につけ、よく理解できた	指導現場で基礎能力を身につけ、理解できた	指導現場での基礎能力を理解できなかった
指導の在り方を確認し、指導者のあるべき姿の理解	指導者のあるべき姿を理解し、実践できた	指導者のあるべき姿を理解し、自分で判断できた	指導者のあるべき姿を十分理解できた	指導者のあるべき姿を概ね理解できた	指導者のあるべき姿を理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ指導論</b> (科目ナンバリング: SPS422071, SPS522055)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かしてスポーツ指導論に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『公認スポーツ指導者養成テキスト』		日本スポーツ協会	2019		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 スポーツ指導者とは 授業改善アンケート結果反映の説明	スポーツ指導者として大切にしたいことを説明できるようにしておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
2	スポーツ指導者の倫理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
3	指導者の心構え・視点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
4	世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
5	指導計画の立て方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
6	スポーツ活動と安全管理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
7	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
8	プレーヤーと指導者の望ましい関係について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
9	ミーティングの方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
10	世界に頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
11	トップアスリートを育てるために	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
12	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
13	競技力向上のためのチームマネジメントについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
14	競技力向上のための情報とその活用について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
15	ドーピング防止について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容を復習する。(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別活動の指導法 (科目ナンバリング: ESS143158, ESS243104, ESS343098, ESS443100, ESS543109)				
授業担当者(所属・職名)	若林 利行(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 若林 利行)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別活動の指導について教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>特別活動の指導法について、教職を志す学生に身に付けさせることを目的とする。特別活動とは学生生活における授業活動以外の全活動を指すものであり、学校とは何の為にあるのかをこの講義を通して修得するものである。</p>
<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>デザイン学科のDP(3)(4)に対応する。                  建築学科のDP(2)(4)に対応する。                  社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)DPに対応する。                  経営学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。</p>
<p><b>到達目標</b></p> <p>本科目は、デザイン学科のDP&lt;学修目標&gt;1、2を達成するための科目である。デザイン学科のDP&lt;履修すべき科目と単位&gt;1を達成するための科目である。特別活動の指導法について、教職を志す学生に特別活動の内容を理解させることを目的とする。特別活動とは学生生活における授業活動以外の全活動を指すものであり、学校の持つ意義をこの講義を通して考える。</p>

<p><b>到達目標</b></p> <p>カリキュラムマネジメントに基づいて各回のテーマに反って授業の検証を行なって質の高い講義をするとともに、主体的・実践的・具体的な理解を可能とするように考察・討論・発表などの活動を行う。                  「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業は、各回のテーマに基づき板書及び配布資料等を活用しながら講義形式で行うとともに、指導計画の作成など実践的な内容を含めて考察・討論・発表、ペアワーク、グループワーク・プレゼンテーションを取り入れた思考・考察、意見交換、討論、発表等の活動としてのActiveLearningを行い、さまざまな事例を素材としPPTを活用した講義形式。コミュニケーション力、メタ認知力を身に付ける。板書となるPPTについては表示したものを毎時間配布する。単元・項目によっては受講者の理解を知るためのレポートを提出し発表、要望等についてもレポートに記入欄を設ける。次回の導入時に全体にフィードバックを行う。</p>
---

<p><b>アクティブラーニングの実施方法</b></p> <table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>模範授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td>○</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL	○	模範授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL																	
○	模範授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																	

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>科目の性格上出席・受講態度等についてもそのまま評価対象とする。教師志望者として、ふさわしい受講態度で授業に臨むこと。講義に関係の無い私物については鞆に入れ、使用を厳禁とする。                  不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程(全教科)必修科目 中学校・高等学校教諭免許</p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要となる最低出席回数は、10回以上                  定期試験・受講態度などで決定。(教科の性格上受講態度・出席を重視する)</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	20%	0%	0%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	20%	0%	0%	10%	10%							

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題発見・課題解決力	テーマに意義を発見し、目標を設定した上で、最善の方法を選択し、計画を立て、適切な目標を設定、最善の方法を選択し、多面的・多角的に課題解決できた。	テーマに対し、適切な目標を設定した上で、目標に応じた方法を選択し課題解決できる、実行できた。	テーマに対し、目標を設定し、計画を立てることができ、結果を基準に照らし合わせて評価し、計画の見直しに努力できた。	テーマに対し、目標を設定し、計画を立てることができ、結果を基準に照らし合わせて評価できた。	テーマに対して目標を設定できず、課題を発見できなかった。
プレゼンテーションのスキル	聞き取りやすい声と適度な抑揚と間のある語りで、興味を惹きつけ聴取力がある。反応を受け、学習活動を牽引し、工夫ある適切なスライド資料ができた。	聞き取りやすい声と抑揚のある話し方で工夫している。自分の表情とジェスチャーに工夫ができる。図表やグラフなどスライド資料の順番・構成もできた。	終始、聞き取りやすい大きい声で話せる。みんなの表情を確認しながら話せる。文字の大きさや図表の使い方は十分だが、情報量のバランスを欠いていた。	発表途中で声が小さく、聞き取りづらいことがある。手元の原稿や発表スライドの方を向くなど不十分。文字の大きさは十分だが、図表やグラフが少なく、PRが不十分だった。	発表の内容が分かりづらく、相手に自分の意見を伝えられなかった。
論理的・批判的思考力	事柄・情報を整理して理論的に構造化でき、他を納得させる意見が展開できる。多面的・多角的に考察することができ、様々な可能性を検証することができた。	事柄・情報を整理して構造化でき、意見を展開できる。最適解を導くため、自分の思考が偏っていないか確認、考察することができた。	事柄・情報の整理に苦勞し、自分の意見を表現するまでに至らない。情報や人の意見を正しいか考察することができた。	事柄・情報の整理に苦勞し、自分の意見を表現するまでに至らない。情報や人の意見を正しいか考察することができた。	事柄・情報を整理出来ず、論理性を欠き、最適解を求めることが出来なかった。
情報管理能力	PC等の適切な図表・写真等を用いたレポート、効果的なプレゼンテーション資料を作成でき、ICTを活用した適切な情報整理ができる。もよくできた。	PC等の図表や写真等を用いたレポート、プレゼンテーション資料を作成でき、ICTを活用した学習ができる。情報整理もできる。多角的疑問に回答が出来る。	PC等を使用して、図表や写真等を用いたレポート、プレゼンテーション資料を作成できる。テーマに関する情報整理も出来た。	PC等を使用して、レポートの作成ができる。プレゼンテーションの資料作成に苦勞することが多い。テーマに関する情報整理はできた。	ICTの活用が未熟で、テーマに対する情報整理が出来なかった。
コミュニケーション力(グループワーク)	自ら積極的に話し相手との双方向の会話が出来、学生間の信頼関係があり、学習活動の中心的存在。自他の意見の尊重で、結論を出すことに貢献できた。	自ら相手に話し、相手からもよく話しかけられる。他との信頼関係を築き、関係性は良好に保つ。相手の意見に関心をもち、注意深く聞き、相手を理解できた。	自ら相手に話しかけ、相手から話しかけられたり他との信頼関係を築く努力をしている。同意する姿勢が強く、相手の意見を積極的に聞く姿勢がみられた。	自分から話しかけないが話しかけられれば、話をすることができる。消極的。相手の意見を聞くことができるが、議論を進め、学習活動を活性化させる発言が少なかった。	他との話し合いに参加することが無く、議論を進め、学習活動を活性化させる発言も無かった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別活動の指導法 (科目ナンバリング: ESS143158, ESS243104, ESS343098, ESS443100, ESS543109)				
授業担当者(所属・職名)	若林 利行(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 若林 利行)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別活動の指導について教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 特別活動とは何か	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
2	特別活動の歴史について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
3	教育基本法から見た特別活動の目的と意義について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
4	特別活動の種類と内容について	学習内容について学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
5	学級活動の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
6	学級活動の内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
7	学級活動の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
8	生徒会活動の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
9	組織と内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
10	生徒会活動の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
11	学校行事の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
12	学校行事の内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
13	学校行事の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
14	特別活動の指導上の留意点について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
15	特別活動の評価について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体の振り返りを行うこと(90分)	試験および解説を受けて講義全体を振り返り理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 (科目ナンバリング:PSS122036)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  
精神保健の基本的考え方を理解する。  
現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。  
現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。  
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。  
毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。質問等は随時対応。  
授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。  
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。  
新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 (科目ナンバリング:PSS122036)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方(精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方(精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	家族に関連する精神保健の課題と支援(介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(関与する専門職と関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(性マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221039)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
------

前期で学んだ画材の特性を活かして、更にイラスト表現の多様性を意識したイラスト制作を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

発想力、デザイン感性、積極的な探究心、研究心を養いクリエイティブの高い作品を制作できるようになる。

授業全体の内容と概要

各テーマを意識した制作意図、制作過程に沿ってイラスト表現の多様性を学ぶ。

授業の方法

各課題に合わせて様々なイラスト表現を研究して、イラストレーションの多様性を実習制作することを通して学ぶ。各課題ごとプレゼン実施、作品提出。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に開講する「イラストレーション基礎」の修得を前提とする。遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における画材の知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組む概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221039)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映。イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・1	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・1	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・2	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
4	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・2	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
5	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・3	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
6	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・3	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
8	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
9	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
10	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
11	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
16	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31a』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
18	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
19	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)
20	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)
22	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
23	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・4。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
24	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・4。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
25	オリジナルイラストレーション制作・1。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
26	オリジナルイラストレーション制作・1。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
27	オリジナルイラストレーション制作・2。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
28	オリジナルイラストレーション制作・2。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
29	オリジナルイラストレーション制作・3。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
30	オリジナルイラストレーション制作・3。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
31	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施), 作品講評, 作品提出。	作品の完成, プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施), 作品講評, 作品提出。授業アンケート実施。	作品の完成, プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222019)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

1. C I の理念及びその中核となる V I システムを理解する。  
 2. C I の基本要素であるシンボルマーク等のデザイン演習を行うことによって、その成り立ちを理解する。  
 3. C I のデザイン(形・色)演習を通して、その展開デザインの拡がりを理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科の D P ( 3 )、( 4 ) に対応する。

到達目標

C I の主体を類別し、シンボルマーク等の形・色のデザインを実施し、V I の基本形をレイアウトすることができる。

授業全体の内容と概要

C I の概要と V I システムの全体を把握し、その目的と機能・運用に関して理解し、テーマ選択後にデザイン演習を行う。  
 『SDG12・つくる責任つかう責任』の関連授業

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、クライアントにプレゼンすることを前提としたデザイン内容となるよう多角的に確認し、さらにフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。  
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することができる。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。  
 完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
C I の理念とその中核の V I システム	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、客観的なコメントを含め改善案も提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を1つ以上提示できた。	C I 理念と V I システムを理解できなかった。
シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本に、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを1点仕上げた。	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、客観的なフィードバックを繰り返し、1点に仕上げることができた。	シンボルマークのサムネール(1.0以上)を基礎に、1点に仕上げることができた。	シンボルマークデザインのためのサムネールが複数(1.0以上)できた。	シンボルマークのデザインができなかった。
デザイン(形・色)演習と展開デザイン	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを3つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを2つ以上含め、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をフィードバックを繰り返しレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をレイアウトし提出できた。	ベーシックデザインの演習が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222019)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 CIの歴史について	「CI」語句としての認識(45分)	CI導入企業や自治体の具体例の収集(45分)
2	CIデザインの事例収集とスケッチ	CI導入企業等のシンボルマーク、ロゴタイプの例を調査(45分)	CIデザイン、具体例の収集(45分)
3	CIS(VIS)の例・ベーシックとアプリケーション	「ベーシック・アプリケーション」語句としての認識(45分)	企業のアプリケーションデザイン例を収集(45分)
4	マークデザインのサムネール作成	シンボルマークの事例収集(45分)	サムネール補足演習(45分)
5	商標登録と企業戦略	「商標登録」語句としての認識(45分)	商標登録の実例調査(45分)
6	マークデザインのサムネール作成	自己で選択した形状のサムネール準備(45分)	サムネール補足演習(45分)
7	シンボルマークとピクトグラム	「ピクトグラム」語句としての認識(45分)	ピクトグラムの事例収集(45分)
8	ピクトグラムのアイデア制作	自己で選択したアイテムのサムネール準備(45分)	アイデア制作補足演習(45分)
9	VIとベーシックカラー	ベーシックカラー事例収集(45分)	「特別色」と「プロセスカラー」の区別と認識チェック(45分)
10	カラーリング演習	PC又は鉛筆色での用具準備(45分)	カラーリング演習(45分)
11	CISアプリケーション、3つのポイント	アプリケーションデザイン(展開デザイン)の語句と事例認識(45分)	具体例としての展開デザインを収集(45分)
12	CIS企画のためのアイデアフラッシュ	「アイデアフラッシュ」語句としての認識(45分)	アイデアフラッシュ補足(45分)
13	CIS課題演習 - 1 ・シンボルマークの位置づけ	「シンボルマーク」事例収集(45分)	シンボルマークのサムネール作業確認
14	CIS課題演習 - 2 ・シンボルマークのサムネール演習	サムネール案の準備作業(45分)	演習補足(45分)
15	CIS課題演習 - 1 ・シンボルカラーの位置づけ	「シンボルカラー」事例収集(45分)	“色”のもつ意味を確認(45分)
16	CIS課題演習 - 2 ・シンボルカラーリング演習	パソコン又は色鉛筆での着色チェック(45分)	演習補足(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	CIS課題演習 - 1 ・セットロゴ位置づけ	「セットロゴ」事例収集(45分)	セットロゴのパターン(レイアウト)を確認(45分)
18	CIS課題演習 - 2 ・セットロゴデザイン演習	セットロゴパターン(タテ組、ヨコ組)等のラフデザイン(45分)	演習補足(45分)
19	CIS課題演習 - 1 ・タイプフェイスの位置づけ	「タイプフェイス」事例収集(45分)	PCフォントやアナログレタリングでのラフデザイン(45分)
20	CIS課題演習 - 2 ・タイプフェイス演習	PCやアナログでの制作準備(45分)	演習補足(45分)
21	CIS課題演習 - 1 ・ロゴタイプ位置づけ	「ロゴタイプ」事例収集・一般企業(45分)	演習補足(45分)
22	CIS課題演習 - 2 ・ロゴタイプ演習	「ロゴタイプ」事例収集・自治体(45分)	演習補足(45分)
23	CIS課題演習 - 1 ・ベーシックカラーの設定	企業例としてのカラー事例収集(45分)	「特別色」と「プロセスカラー」の使用例の事例確認(45分)
24	CIS課題演習 - 2 ・ベーシックカラーの選択	「特別色」の主体に選定準備(45分)	演習補足(45分)
25	CIS課題演習 - 1 ・フォーマット&レイアウトの意義	レイアウト事例収集(45分)	レイアウトのサムネール準備(45分)
26	CIS課題演習 - 2 ・フォーマット&レイアウト演習	レイアウト作成準備(45分)	演習補足(45分)
27	CIS課題演習 - 1 ・レイアウトバリエーション	アドバイス項目のチェック(45分)	レイアウトの微調整作業(45分)
28	CIS課題演習 - 2 ・レイアウト調整	レイアウトアイテム等の最終チェック(45分)	演習補足(45分以上)
29	CIS今後の課題と未来展望	アドバイス項目のチェック(45分)	CISに対する個人的見解の整理(45分)
30	課題作品の提出	作品の最終チェックなどの(45分)	演習補足(45分以上)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく(45分)	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	総合的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツと栄養 (科目ナンバリング: SPS422072, SPS522057)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

この科目では「スポーツと栄養」についての理解と実践方法を学ぶ。また、スポーツ選手の栄養・食事管理・コンディショニング維持に必要な知識を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

基本的な栄養学について理解をするとともに日常の食材や食品から栄養のバランスや摂取量を判断できる能力も養い、コンディショニングの維持が実際にできるようになる。

授業全体の内容と概要

スポーツ種目別の栄養・食事内容の特徴、身体組成の測定方法、また、トレーニング期、調整期、試合前後それぞれのステージにおける食事の特徴や、アスリートと一般人における食事の相違点などについて解説する。  
SDG4:「質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

板書を中心に、実際のスポーツチームの栄養管理方法等のDVDなども取り入れながら講義形式で実施する。実際に食事調査に関しても実際にグループワークで行い、そこから見えてくる問題に対して取り上げ解説する。小テストは5回実施し、回収後フィードバックとして回答解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・単位認定に必要な出席回数は全体授業数の3分の2回以上とする。また遅刻3回で欠席1回とみなす。  
日本体育協会講習会科目#12、#36使用。「公認スポーツ指導者養成テキスト」のワークブックから問題を出す。詳細については授業中に指示する。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は全体授業数の3分の2以上とする。定期試験、出席、レポート提出を上表の基準で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	5%	5%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(理解力)	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を深く理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を概ね理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を多少理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について深く考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について概ね考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について多少考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業に意欲的に参加する事ができた。	授業に概ね意欲的に参加する事ができた。	授業に休は意欲的に参加する事ができた。	授業に意欲的に参加する事が少なかった。	授業に意欲的に参加する事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>ホ -ツと栄養</b> (科目ナンバリング: SPS422072, SPS522057)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明シラバスの説明及びスポーツと栄養(5大栄養素・栄養のバランス)(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
2	炭水化物・穀物・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
3	たんぱく質・筋肉づくり・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
4	脂質の栄養学的意義	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
5	食物繊維・野菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
6	スポーツと栄養(食事の摂り方・水分補給)(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
7	コンディショニング維持とビタミン	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
8	コンディショニング維持とミネラル	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
9	アスリートの栄養摂取と食生活(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
10	アスリートの栄養摂取と食生活(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
11	アスリートの栄養摂取と食生活(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
12	アスリートの栄養摂取と食生活(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
13	外食と栄養のバランス	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
14	減量と食事	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
15	まとめ	今までの小テストについて確認をしておく事(90分)	整理したノートから試験範囲をまとめる事(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験実施日 6.0分の試験終了後、残りの3.0分で解説を行う。	試験準備(90分)	試験のふりかえり(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論 (科目ナンバリング: ESS143160, ESS243107, ESS343101, ESS443103, ESS543112)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

生徒指導・進路指導の意義や役割をはじめ、その考え方、進め方を学ぶ。今日的な課題や対応できる資質能力を身につけ、学校指導体制や関係諸機関との連携の在り方について理解することができるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理及び今日的な課題、望ましい指導体制、家庭や関係機関との連携の在り方、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の進め方を理解し、効果的な授業を実践することができる。

授業全体の内容と概要

・生徒指導・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成することを援助するためのものであり、個としての個人適応ならびに社会適応の促進を援助するためのものであることをわかりやすく講義する。  
 ・各テーマにより、グループ学習など他の意見交換をしながら、自分の意見をまとめて発表できるとともに、協調性を身につけられるような活動を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。  
 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。  
 ・講義で配布するプリント等は、ファイルに整然と保管し、必要時に参照できるようにする。  
 ・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のある場合は可。  
 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生徒・進路指導の意義と諸問題についての理解できる	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。(9割)	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。(8割)	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。(7割)	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できた。	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できなかった。
生徒・進路指導の在り方についての思考・判断ができる	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。(9割)	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。(8割)	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。(7割)	調和のとれた人格を育成するために生徒・進路指導を考えたことができた。	調和のとれた人格を育成するためにの考えや判断ができなかった。
意見発表における主体性を身につける	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめて、意見交換をしながら発表できた。(9割)	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめて、意見交換をしながら発表できた。(8割)	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめて、意見交換をしながら発表できた。(7割)	生徒が自己実現するために援助するかを自分の意見をまとめることができた。	社会で自己実現するための自分の意見をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論 (科目ナンバリング: ESS143160, ESS243107, ESS343101, E SS443103, ESS543112)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新生徒指導・進路指導一理論と方法一』	林尚示・伊藤秀樹	学文社	2018	9784762026298	
2	『生徒指導提要』	文部科学省	教育図書	2010	9784877302740	
3	『中学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	2011		
4	『高等学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	2012		
5	『変わるキャリア教育一小・中・高等学校までの一貫した推進のために』	文部科学省	ミネルヴァ書房	2016	9784623077809	

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 生徒指導・進路指導の意義と役割について	学校で生徒指導がなぜ必要か自分の考えを言えるようにしておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
2	教育課程と生徒指導・進路指導の関連と進め方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
3	生徒指導体制と教育相談体制の考え方の違いについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
4	学校と家庭・地域・関係諸機関との連携と協力について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
5	生徒指導計画と進路指導計画の実践と課題について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
6	校則の意義と改善について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
7	体罰、児童虐待の現状と適切な指導方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
8	問題行動等(1)「いじめの定義」「不登校の多様な要因」「暴力行為」等の現状の理解と対応・指導法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
9	問題行動等(2)事例による対応策の討論・発表について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
10	インターネット・携帯電話の利用の現状と対応について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
11	効果的な職場体験・インターンシップ実施上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
12	アクティブ・ラーニングによるキャリア教育の理論と実践について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
13	キャリアプランの作成とキャリアカウンセリングの考え方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
14	生徒指導・進路指導のアセスメントの意義と目的について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
15	学校安全の現状と現代の労働問題について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容の復習。(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学入門 (科目ナンバリング: ECT021023)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介(経営学科・講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
近年世界経済は、中国の台頭やコロナ問題、ウクライナ情勢などといった不確実な情勢に対し大いに影響を受け、大変動の時期を迎えていると言える。ニュースや新聞などでも、こうした変動を示す文目を目にする事が多くなった。こうした世界情勢や大規模な経済変動を伝えるニュースに対し、学門の「分析的」で「冷静」な目をもって接することがますます重要になってきている。本講義では、学門としての経済学の基礎を学び、しっかりとした知識を構築する事により、日々伝えられるニュースを良く理解し、自分で分析し、判断出来る様にするを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科DP(2)、(3)に対応する。  
デザイン学科DP(2)、(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)、(4)に対応する。

到達目標

ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な考え方、概説的な日本経済史などを学び、日常で起きている経済問題について理解、説明できるようにする。

授業全体の内容と概要

ミクロ経済学(交換・取引、均衡分析・余剰分析)、マクロ経済学(ケインズ経済学・経済成長)、ゲーム理論(囚人のジレンマ・交互ゲーム)、日本経済史といった各領域を、テキストに即して説明する。

授業の方法

PPTを使った講義形態が主。毎回演習問題を行い、自分の理解度をチェックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書を必ず携帯する事、毎回きちんと内容を把握する事。講義の最後に毎回演習問題を行う。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のための最低出席回数11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミクロ経済学について	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。また、ミクロ経済学における分析の限界も説明することが出来る。	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。	「市場」のメカニズムを良く理解し、その均衡状態について説明することが出来る。	「市場」のメカニズムについて、一定の理解がある。	「市場」のメカニズムについて、理解が見られない。
マクロ経済学について	総需要管理政策の意味を深く理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その政策の問題点や、経済成長論についての理解がある。	総需要管理政策の意味を深く理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その問題点を挙げる事が出来る。	総需要管理政策の意味を深く理解し、計算問題を解くことが出来る。	総需要管理政策がどのようなものかについて説明できる。	総需要管理政策についての理解が見られない。
ゲーム理論について	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームや交互ゲームの解を示すことが出来る。	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームや交互ゲームの解を示すことが出来る。	囚人のジレンマゲームを含む、同時ゲームの解を示すことが出来る。	同時ゲームの解を示すことが出来る。	ゲームの均衡解についての理解が見られない。
日本経済史について	戦後の日本経済の歴史について深く理解し、マクロ経済学的含意を使った説明が出来る。	戦後の日本経済史について深く理解し、その転換点についての説明が出来る。	戦後の日本経済史を理解し、説明できる。	戦後の日本経済の流れをある程度説明できる。	戦後の日本経済の流れを説明できる。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学入門 (科目ナンバリング: ECT021023)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介(経営学科・講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『経済学概論』	矢口和宏、坂本直樹	株式会社みらい	2016		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の序章を良く読んでおく。	講義で行ったことを良く復習する(90分)
2	経済活動における選択と意思決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
3	経済学の基礎/取引とは何か	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
4	ミクロ経済学基礎 市場価格と取引量の決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
5	ミクロ経済学基礎 市場均衡と余剰分析	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
6	ミクロ経済学応用編 企業の価格設定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
7	ミクロ経済学応用編 市場の失敗	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
8	マクロ経済学入門 国家の経済について	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
9	マクロ経済学入門 物価・失業とマクロ経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
10	マクロ経済学入門 政策で経済は成長するか	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
11	ゲーム理論とは何か? 新しい経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
12	ゲーム理論・応用編	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
13	取引と選択決定・ミクロ経済の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
14	マクロ経済学・ゲーム理論の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
15	試験に向けて総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
16	期末試験 授業改善アンケートの実施	これまでの講義を良く復習しておく。	これまでの講義を通じて行ってきたことを良く復習する。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学入門（経済学概）（科目ナンバリング：ECT021023）				
授業担当者（所属・職名）	河野 善文（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	（単位認定責任者：河野 善文）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済のニュースや記事を理解するために必要な経済学の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のD Pの(2)に対応する。

到達目標

経済の基礎的なしくみや経済学の用語・考え方の要点を理解することで、経済のおもなできごとについて、その概要をニュース等から知ることができる。また、経済事象を解釈して自分なりに説明することができる。

授業全体の内容と概要

経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を教科書と経済資料で学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点をあて、市場での需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ（質問・対話）と演習問題をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、試験を除く10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済ニュースの理解	経済ニュースや資料を読み取って適切に説明できた。	経済ニュースや資料を読み取ってある程度説明できた。	経済ニュースや資料を調べて読み取ることができた。	経済ニュースや資料を調べてある程度読み取ることができた。	経済のニュースや資料を読み取ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学入門（経済学概）（科目ナンバリング：ECT021023）				
授業担当者（所属・職名）	河野 善文（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	（単位認定責任者：河野 善文）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学（第3版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	経済学とは：この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画（シラバス）の説明	経済学とは何かを考える（90分）	経済学とは何かノートにまとめる（90分）
2	日本の景気について： ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる（90分）	景気を調べる方法についてノートにまとめる（90分）
3	国内総生産からみた世界経済： ・国内総生産（GDP）とは ・世界の国内総生産（GDP）による世界地域比較	国内総生産について調べる（90分）	地域比較で気付いたことをノートにまとめる（90分）
4	希少な資源と生産活動： ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる（90分）	生産要素と生産活動についてノートにまとめる（90分）
5	経済成長とは： ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる（90分）	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる（90分）
6	経済成長と国民所得： ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる（90分）	経済成長についてノートにまとめる（90分）
7	実質値と名目値： ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる（90分）	実質値と名目値の違いをまとめる（90分）
8	需要と供給の作用： ・価格と需要量、供給量との関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる（90分）	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる（90分）
9	市場経済と価格： ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる（90分）	供給の市場価格への影響をノートにまとめる（90分）
10	10 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさや幸福	経済的厚生の問題について考える（90分）	経済的厚生の問題のまとめ（90分）
11	通貨と中央銀行： ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる（90分）	中央銀行と通貨についてノートにまとめ（90分）
12	日銀の資金供給と金利 ・金利とは ・日銀と資金供給	金利について調べる（90分）	日銀の政策と金利についてノートにまとめ（90分）
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは ・信用創造とは	通貨供給量について調べる（90分）	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる（90分）
14	日銀と金融政策 ・金融政策にかんするニュース ・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる（90分）	日銀の金融政策をノートにまとめる（90分）
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認（90分）	ノートの整理（90分）
16	定期試験（60分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再挑戦（90分）	わからなかった試験問題の復習（90分）

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年生（留学生対象）		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本語（科目ナンバリング：JLN052041）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階国際交流センター	
単位数	2（単位認定責任者：佐藤 恵利）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
<p>教養力と語学力を身に付け、日本における実社会で活躍するための高度な日本語スキルを習得する。講義聴解や資料読解を通して「日本語」よりレベルの高い文章や資料を読み込む力を習得し、適切な文章表現ができるようになる。また新聞やインターネットなどの記事を取り上げ、新聞で使われる語彙、文末表現、慣用表現などを身に付け、日本語能力試験N2が合格できる程度の日本語能力を身に付ける。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP（1）（2）（4）に対応する。          社会福祉学科のDP（2）（3）（4）（5）に対応する。          デザイン学科のDP（2）（4）（5）に対応する。          建築学科のDP（2）（4）（5）に対応する。</p>

到達目標
<p>読解力、文章表現力、意見の発表と他者の意見を聞く能力、ディスカッション能力を習得し、グループ内で討議することができる。グラフ・表・文献などの読み取り、意見交換の力を養い、コミュニケーションすることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>資料や参考図書を使用し、初中級レベルの文法の確認をする。また、授業を通し「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指す。日本語学習を通じて日本文化や日本事情を理解し、「SDG3：すべての人に健康と福祉を」、「SDG7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「SDG10：人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。</p>

授業の方法
<p>授業は参考資料、参考図書を使用しN2レベルの文法、読解、聴解を中心に復習を行う。授業形態は講義だが、読解、聴解、作文、発表、グループワークなどもあり、学生が主体的に活動することも多い。また、場面を考えたロールプレイやディスカッションも授業内で行う。評価はレポートと定期試験で判断するが、授業内に出される課題も評価対象となる。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。定期試験は授業で学んだ内容を基に文法、聴解、読解、文章表現などの項目で評価する。定期テストも評価後は各自でフィードバックすること。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	

履修上の注意事項
<p>授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組む、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。また、全講義内容をもとに定期試験を行う。一日でも休むと講義内容が分からなくなってしまうので、出席すること。日本語は日本語能力検定N2レベルの試験対策を中心にN2レベルの文法の基礎が身につけていることや自身の日本語レベルを確認し履修すること。日本語を履修後受講するのが望ましい。15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート（合理的配慮）
<p>事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回である。          16回目の授業で定期試験を行う。          出席、授業態度、レポート、定期テストで評価する。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	0%	30%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
40%	0%	30%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>日本語の知識・技能</td> <td>正しい文法を習得し、場面に合わせた文法の使い分けを理解することができる。</td> <td>正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けをおおむね理解することができた。</td> <td>正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けを一定程度理解することができた。</td> <td>正しい文法を習得できた。</td> <td>正しい文法を習得できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力、判断力、日本語での表現力</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよい。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現のおおむね内容が分かりやすい。声の大きさ、発音が良い。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の一定的内容が分かりやすい。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすい。</td> <td>他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られなかった。文法、発音に問題がある。</td> </tr> <tr> <td>主体的に日本語学習に取り組む態度</td> <td>毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加していた。</td> <td>毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にもおおむね積極的に参加していた。</td> <td>毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも一定の積極的に参加していた。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的だった。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業態度も問題あり。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	日本語の知識・技能	正しい文法を習得し、場面に合わせた文法の使い分けを理解することができる。	正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けをおおむね理解することができた。	正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けを一定程度理解することができた。	正しい文法を習得できた。	正しい文法を習得できなかった。	思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよい。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現のおおむね内容が分かりやすい。声の大きさ、発音が良い。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の一定的内容が分かりやすい。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすい。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られなかった。文法、発音に問題がある。	主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にもおおむね積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも一定の積極的に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的だった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業態度も問題あり。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
日本語の知識・技能	正しい文法を習得し、場面に合わせた文法の使い分けを理解することができる。	正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けをおおむね理解することができた。	正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けを一定程度理解することができた。	正しい文法を習得できた。	正しい文法を習得できなかった。																								
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよい。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現のおおむね内容が分かりやすい。声の大きさ、発音が良い。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の一定的内容が分かりやすい。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすい。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られなかった。文法、発音に問題がある。																								
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にもおおむね積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも一定の積極的に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的だった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業態度も問題あり。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年生（留学生対象）		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本語（科目ナンバリング：JLN052041）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	2（単位認定責任者：佐藤 恵利）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						必要に応じ適宜配布
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（今期の授業目的と進め方、シラバスの説明） プレズメントテスト	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
2	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
3	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
4	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
5	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
6	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
7	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
8	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
9	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
10	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
11	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
12	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
13	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
14	文法・読解・聴解・文章表現・文字・語彙	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
15	総括（授業の内容を復習）	参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
16	定期試験実施（60分）と解説 授業改善アンケート実施	試験に向けて講義の復習を行うこと（90分）	解説を受けて、試験及び講義全体の復習を行うこと（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123049)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。          精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。          ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。          精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。          具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要
障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 精神保健福祉領域における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。

授業の方法
教科書に記載されている事例を活用した、検討を行い相談援助の展開について学ぶ。 具体的な相談援助場面を想定したロールプレイを行い相談援助の実践力を涵養する。 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
精神保健福祉援助実習指導 を修了していることを前提とする。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・考察力</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・情意</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。	思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。	主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。																								
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。																								
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123049)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版』	一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2016	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバス説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	総まとめ	個人の振り返りをしておくこと(90分)	実習資料・日誌などの整理を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312004)				
授業担当者(所属・職名)	日野 桂子(建築学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 日野 桂子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開設して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標	設計とは様々な事を考えること。四季の環境を捉え、敷地と建物の関係をよく把握し、建主の要望をくみ取るなど、一軒の建物を設計するのに沢山の思慮がある事を感じながら作図する。バランスが取れ、デザインの良い、魅力ある空間の建築を設計する。任意の設計を行い、配置計画、外部環境と建築との関わり合い、生活動線を考慮することで、豊かな建築空間を計画する。空間のスケールを体感しながら、建築を設計する事を身につける。さらに講評会に向けてプレゼンテーション能力を高める。
授業の位置づけ	建築学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標	2軒の住宅について、魅力ある空間、建築を設計し、そのプランニングの意図を正しく明確に図面に描くことができる。
------	--

授業全体の内容と概要	実際の住宅建築の画像等を紹介、住宅の特徴、コンセプト等を伝え、設計に生かす。毎回エスキスチェック、作図チェックを行う。エスキスからプランニング、配置図、平面図、立面図、断面図、面積表で2次元の図面作成と3Dパースまたは模型等で設計意図を表現し、A2用紙にまとめ完成させる。
授業の方法	設計のポイントを伝え、エスキスチェック、作図チェックを行う(調査学習含む)。2つの講評会を行い、学生と教員とで意見交換をする。

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																

履修上の注意事項	筆記用具、製図道具、巻尺は必ず携帯すること。課題制作のためには、製図版、製図道具を使って手描きで作図、または、コンピューターによるCADソフトで作図、(手描き、画像、CAD図のカラーシュ、3Dまたは模型)。設計課題を製作中は集中して作業に取り組む。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件	「単位に認定必要となる最低出席回数は、11回以上」必ず巻尺を持参。設計する建物のサイズを実測して計画する。												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	80%	0%	0%	20%								

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>作図内容</td> <td>A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。</td> <td>A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。</td> <td>A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像、完成図面としての必要事項が描くことができた。</td> <td>A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図、完成図面としての必要事項が描くことができた。</td> <td>作図が完成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>設計デザイン力</td> <td>その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意匠的にデザインされたプラン。</td> <td>その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。</td> <td>プラン計画ができた。</td> <td>基本的なプラン計画ができた。</td> <td>基本的なプラン計画ができた。</td> </tr> <tr> <td>作業体制</td> <td>巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>集中してエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>ほぼエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>エスキスどおりに作図できなかった。</td> </tr> <tr> <td>講評会の発表</td> <td>建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。</td> <td>建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。</td> <td>発表を期日どおりに行うことができた。</td> <td>期日に遅れても発表を行うことができた。</td> <td>発表を行うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼン力</td> <td>1軒の建築に時間を充分にかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>1軒の建築に時間をかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>1軒の建築に時間をかけて思考し、作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>作図を提出しなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	作図内容	A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像、完成図面としての必要事項が描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図、完成図面としての必要事項が描くことができた。	作図が完成できなかった。	設計デザイン力	その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意匠的にデザインされたプラン。	その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。	プラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	作業体制	巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	集中してエスキスどおりに作図することができた。	ほぼエスキスどおりに作図することができた。	エスキスどおりに作図できなかった。	講評会の発表	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。	発表を期日どおりに行うことができた。	期日に遅れても発表を行うことができた。	発表を行うことができなかった。	プレゼン力	1軒の建築に時間を充分にかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、作図のチェック項目をすべて描いた。	作図のチェック項目をすべて描いた。	作図を提出しなかった。
評価項目	評価基準																																									
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																					
作図内容	A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像、完成図面としての必要事項が描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図、完成図面としての必要事項が描くことができた。	作図が完成できなかった。																																					
設計デザイン力	その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意匠的にデザインされたプラン。	その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。	プラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。																																					
作業体制	巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	集中してエスキスどおりに作図することができた。	ほぼエスキスどおりに作図することができた。	エスキスどおりに作図できなかった。																																					
講評会の発表	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。	発表を期日どおりに行うことができた。	期日に遅れても発表を行うことができた。	発表を行うことができなかった。																																					
プレゼン力	1軒の建築に時間を充分にかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、作図のチェック項目をすべて描いた。	作図のチェック項目をすべて描いた。	作図を提出しなかった。																																					

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312004)				
授業担当者(所属・職名)	日野 桂子(建築学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 日野 桂子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開設して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明 授業の進め方と課題提出までのスケジュール。実務 住宅建築1 自分が設計に取り入れたい建築物のレ ポート提出。設計課題。大学生の自分の家 配置 計画、ゾーニング、エスキスチェック	シラバスを読んでおくこと(45分)	レポート作成(45分)
2	住宅建築2 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図 エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
3	住宅建築3 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
4	住宅建築4 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
5	住宅建築5 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
6	住宅建築6 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
7	住宅建築7 課題提出 講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと(45分)	レポート作成(45分)
8	住宅建築8 設計課題。自分が設計に取り入れたい 建築物のレポート提出。家族の家 配置計画、ゾ ーニング エスキスチェック	レポート作成(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
9	住宅建築9 設計課題。家族の家 配置計画、ゾ ーニング エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
10	住宅建築10 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
11	住宅建築11 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
12	住宅建築12 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
13	住宅建築13 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
14	住宅建築14 課題提出 講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)
15	授業改善アンケートの実施 最終回において課題提出物に対して評価フィード バック。	教員のフィードバックに対する準備をしておくこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321073)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標	
------	--

授業の位置づけ	
---------	--

到達目標	
------	--

授業全体の内容と概要	
------------	--

授業の方法	
-------	--

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	
---------------	--

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	
--------	--

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321073)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222065)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2	(単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>																					
ストーリー漫画の構成・特徴を理解する。 漫画を描くための技術を身につけ、書く、漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探る。																					
<b>授業の位置づけ</b>																					
デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。																					
<b>到達目標</b>																					
ストーリー漫画の構成・特徴を知る。 漫画を描くための技術を身につける。 漫画での表現力を身につける。																					
<b>授業全体の内容と概要</b>																					
ストーリー漫画とはどのようにして作り上げていくのか、その方法を知り、読み物として成立させることを学ぶ。また、どのようなジャンルの漫画を描きたいのか、漫画で伝えたいことは何なのかを考える。漫画課題は制作段階ごとに個別に指導する。作画はアナログ・デジタルとどちらにも対応する。																					
<b>授業の方法</b>																					
授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は発表、添削、講評にてフィードバックする。																					
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<b>履修上の注意事項</b>																					
漫画を履修していることが望ましい。 授業開始から30分間で学籍内容の説明を行うので遅刻しないこと。 デジタルで描く場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																					

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
最低出席回数20回以上。 完成した課題を期日までに提出すること。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	50%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	50%	0%	50%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ストーリー漫画についての知識</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>漫画を描くための技術</td> <td>漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。</td> <td>漫画を描くための技術を磨くことができた。</td> <td>漫画を描くための技術を磨くことに努めた。</td> <td>漫画を描くための技術を身につけた。</td> <td>漫画を描くための技術を身につけることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>作品の表現力</td> <td>漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。</td> <td>漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。</td> <td>漫画での表現力を身につけることに努めた。</td> <td>漫画での表現力を身につけることができた。</td> <td>漫画での表現力を身につけることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ストーリー漫画についての知識	ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。	漫画を描くための技術	漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。	漫画を描くための技術を磨くことができた。	漫画を描くための技術を磨くことに努めた。	漫画を描くための技術を身につけた。	漫画を描くための技術を身につけることができなかった。	作品の表現力	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。	漫画での表現力を身につけることに努めた。	漫画での表現力を身につけることができた。	漫画での表現力を身につけることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ストーリー漫画についての知識	ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。																								
漫画を描くための技術	漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。	漫画を描くための技術を磨くことができた。	漫画を描くための技術を磨くことに努めた。	漫画を描くための技術を身につけた。	漫画を描くための技術を身につけることができなかった。																								
作品の表現力	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。	漫画での表現力を身につけることに努めた。	漫画での表現力を身につけることができた。	漫画での表現力を身につけることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222065)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 使用道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	必要な道具を準備する(45分)
2	ストーリー漫画の構成・特徴 漫画のおもしろさ どんな漫画を描きたいのか	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
3	好きな漫画について考える	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
4	漫画模写(1ページ)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
5	漫画模写(1ページ)発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
6	プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
7	プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
8	プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
9	ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
10	ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
11	ネーム直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
12	ネーム直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
13	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
14	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
15	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
16	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
18	ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
19	背景	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
20	背景	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
21	ベタぬり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
22	ベタぬり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
23	スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
24	スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
25	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
26	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
27	表紙(カラー)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
28	表紙(カラー)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
29	製本	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
30	展示	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
31	発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
32	講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222041)				
授業担当者(所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而 魅諭)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した実習を通して指導に当たる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる技術や社会人としての素養を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標

学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現することができる。  
 学生が、仕事をしていく上での社会人としての素養を身に付けることができる。  
 学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作し提出することができる。

授業全体の内容と概要

学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるため、教師は経験を生かし実践的な教授を行う。  
 『SDGs 15・陸の豊かさを守ろう』の関連項目

授業の方法

授業は、板書をしたり実物商品を活用しながらイラストレーションの仕事の事例を紹介する講義形式と、疑似依頼者と実践的やりとりを交わしながら社会性を身につけていく。イラストレーション作品を完成させる実技形式で行う。授業は、各課題の説明の後、実技制作にあたる。板書や実際の作品を用いた講義形式の一斉授業と、こまめな机間巡視による個々の学生への個別の指導とを組み合わせて行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

設定した課題の締め切りを遵守。実際の仕事の納期を意識すること。  
 指定した用具・用品、各自が必要とする材料、道具などを必ず持参すること。  
 授業は第一回からの積み重ね型の形態で行われるので欠かさず出席する事が大前提。  
 受講人数や習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。  
 (その都度説明しますのでご理解ください。)  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現について	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を十 分的確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を 確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を ほぼ確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を ある程度の確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を 確に行うことが出来な かった。
依頼者との仕事の進め方について	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 が十分身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 が身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 がほぼ身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 がある程度身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 が身につかなかった。
依頼作品(課題)について	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを十分 的確に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを 的確に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを 的確に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションをある程 度的に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを 的確に制作することが出来 なかつた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222041)				
授業担当者(所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而 魅諭)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務、細密画家、復元画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した実習を通して経験と授業関連内容、指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業の説明	予めシラバスに目を通しておく。(45分)	自己をみつめる。(45分)
2	自己紹介(自己プレゼン)	自己の持ち味を考える。 ポートフォリオなどあれば準備しておく。(45分)	明らかにした自己についてまとめておく。(45分)
3	イラストレーションの仕事の流れ	イラストレーションを仕事にすることについて考える。(45分)	イラストレーションという仕事をイメージトレーニングする。(45分)
4	課題提示(擬似依頼者)	自己の強みを改めて意識しておく。(45分)	課題となった仕事(依頼)の内容について整理する。(45分)
5	課題制作1・依頼者とのやりとりの仕方	一社会人としてのメールのマナーや敬語の使い方を確認しておく。(45分)	自分の身に置き換え学習を振り返る。(45分)
6	課題制作2・メールや電話で依頼者の希望を確認しあう作業	時限の挨拶や言葉の言い回しについて予習する。(45分)	依頼者の希望に沿うよう、アイデアを練る。(45分)
7	課題制作3・実践を想定したラフコンテのやりとり	思いを形にする(線で描く、相手に視覚で伝える)準備をする。(45分)	思いを形にするにはどうするかを考える。(45分)
8	課題制作4・実寸大のラフ画のやりとり	依頼者の希望するサイズについて確認しておく。(45分)	可能な限り多くのラフ画を考えておく。(45分)
9	課題制作5・ラフ画決定	候補のラフ画を厳選しておく。(45分)	ボツになったラフ画も過程として残してまとめておく。(45分)
10	課題制作6・本描き(構想、下描き)	自己の画風について考える。 最終形を頭に思い描く。(45分)	課題の進捗状況を確認する。(45分)
11	課題制作7・本描き(適した画材で描く)	自己の画風にあった画材について考える。(45分)	課題の進捗状況を確認し、見直しを持つ。(45分)
12	課題制作8・本描き(適した画材で描く)	制作の完成までの見直しを持つ。(45分)	課題の進捗状況を確認し、遅れている場合は進める。(45分)
13	課題制作9・本描き(仕上げ)	完成に向けて各所を検討する。(45分)	依頼者の希望に沿っているか再度確認する。 欠けている点があれば補う。(45分)
14	課題制作10・依頼者に提出	依頼者へ添える文面を幾つか考えたり調べたりしておく。(45分)	依頼-提出までの一連の流れを記録して整理しておく。(45分)
15	合評1・完成した作品の自己評価	自らの作品の自己評価を行っておく。(45分)	他の学生の作品に触れ、多様な価値観、表現を感じ取る。(45分)
16	合評2・完成した作品の他己評価 今後の制作に向けて	他者の意見、感想を参考に自らの作品についての評価を再検討する。(45分)	合評を通して感じたことを、以後の制作に反映させていくことを考える。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	課題提示 内容違いの複数課題を提示 仕事の同時進行の実践	依頼-提出までの流れを予め確認しておく。(45分)	複数を同時に 平行してこなす仕事についてイメージトレーニング をする。(45分)
18	二個以上の課題を選ぶ 平行して複数の仕事をやる心構えについて	自分の持ち味を再認識、再確認しておく。(45分)	受け取った課題(仕事の依頼)について考える。 (45分)
19	課題制作1・依頼者とのやりとりの仕方	前回の課題の進め方について復習しておく。(45分)	複数の依頼者ごとに整理出来る環境を整える。(45分)
20	課題制作2・メール、電話で依頼者の希望を確認しあう作業	複数の依頼者ごとの依頼の内容を確認しておく。(45分)	複数の依頼者ごとの希望を読み取る。 齟齬が生じないよう多方面から気持ちを読み取る。 (45分)
21	課題制作3・実践を想定したラフコンテのやりとり	複数の依頼者ごとの立場に立って依頼の内容を見返してみる。(45分)	各々の依頼者がどうしたら納得できるか、どうしたら 自己の画風を生かせるか考える。(45分)
22	課題制作4・実寸大のラフ画のやりとり(依頼者が 納得いくまで)	各々の依頼者に伝わる言葉を考えておく。(45分)	各々の依頼者と気持ちを合わせる自己の態度、姿勢 について、己を省みる。(45分)
23	課題制作5・ラフ画の決定	各々の依頼者の気持ちを再度考えておく。(45分)	各々の依頼者の希望に沿うことが出来るか何度モラ フ画を見直しておく。(45分)
24	課題制作6・ラフ画決定の確認後本描き制作 を開始	各々の依頼者へ提示する準備をしておく。(45分)	各々の依頼者に納期などを含めた提出までの流れを 提示出来たか、漏れはないかを確認する。(45分)
25	課題制作7・本描き	自己の画風について整理しておく。(45分)	自己を生かす画風について再考する。(45分)
26	課題制作8・本描き(各々の依頼者と経過報告をし ながら制作を進める)	各々の依頼者との信頼関係を維持するときに必要な ことは何かを考えておく。(45分)	各々の依頼者の気持ちになって自己の動きを省みる。 (45分)
27	課題制作9・本描き(制作を進める)	自己の画風を追究する。(45分)	それぞれの制作中の作品を客観的な目で見つめてみ る。(45分)
28	課題制作10・本描き(各々の依頼者に経過報告をし ながら制作を進める)	各々の依頼者との今までのやりとりを見返しておく。 (45分)	それぞれの制作中の作品を他者(身内や友達でよい )に見てもらう。(45分)
29	課題制作11・本描き(仕上げ)	それぞれの作品の完成に向けてなにをすべきか考え ておく。(45分)	全ての完成作品を客観的な目で見つめる。 各々の依頼者とのやりとりを見返しておく。(45分)
30	課題制作12・作品提出(各々の依頼者へ提出)	全ての作品の細部を確認しておく。(45分)	依頼-提出までの流れを各依頼者ごとにまとめて整 理しておく。(45分)
31	合評1・完成した作品の自己評価	自らの作品の自己評価を行う。(45分)	他の学生の作品に触れ、多様な価値観を知る、気づ く。(45分)
32	合評2・完成した作品の他己評価 授業改善アンケートの実施	他者の意見、感想を参考に自らの作品についての評 価を再検討する。(45分)	合評を通して感じたこと学んだことを以後の制作に どう反映させていくか考える。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324020)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)・佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にて設計業務に携わる		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は、建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築設計演習を通して建築士試験の2次試験製図課題の傾向を探り、実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び、多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し、出題者の意図を探り、計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し、作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには、とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き、その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数11回以上)と、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。	設計課題をすべて理解した上で不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324020)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)・佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸	研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所にて設計業務に携わる			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの確認。 授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	問題の読み解きとその手法	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングの陥穽	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	エスキスの注意点	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	良いエスキスと悪いエスキス	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	作図への移行	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	各階平面図の同時作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	面積表・仕上表:各伏図1	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	設計主旨のまとめ方:各伏図2	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	全体チェック	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国の歴史 (科目ナンバリング: HIS021025)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、ヨーロッパとイギリスの歴史を概観し、政治・社会、文化の歴史(通史)の基本的な知識を習得する。合わせて、歴史的な見方、考え方の基礎を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

ヨーロッパとイギリスの歴史と社会・文化についての基礎的知識を獲得し、自分なりの理解がされ、合わせて、獲得した知識が自身の言葉で的確に説明できる。さらに、歴史的な見方、考え方の基礎が身に付いている。

授業全体の内容と概要

ヨーロッパ、特にイギリスの歴史を時代を追って順次講義形式で概説していく。合わせて、日本を含むアジア等の諸国・地域について関連する部分を必要最小限説明していく。

授業の方法

毎回、講義形式でヨーロッパとイギリスの歴史を述べていく。原則、こちらで用意した原稿に沿って口頭で説明していくが、適宜、パワーポイントと板書、配布資料を併用する。授業の最後に当該箇所のまとめ確認を行い、その際、受講者にはミニッツペーパー(コメント)の提出を求める。ミニッツペーパー(コメント)への講評を次回の授業の冒頭で行い、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録画を認める。

資格指定科目

教職科目(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
歴史についての知識・理解	歴史(イギリス史)に関しての理解が正確、十分になされ、的確に説明ができた。	歴史(イギリス史)に関しての理解がおおよそなされ、おおよその説明ができた。	歴史(イギリス史)の主要な部分の理解がなされ、ある程度説明ができた。	歴史(イギリス史)の主要な部分の理解がなされている。	歴史(イギリス史)の理解が全くなされていなかった。
文献読解・考察の能力	歴史に関する初歩的な文献が十分に読解でき、明晰な考察ができた。	歴史に関する初歩的な文献の読解と考察がおおよそできた。	歴史に関する初歩的な文献の読解が大体できた。	指示によって歴史に関する初歩的な文献の読解が一定程度できた。	指示による歴史に関する初歩的な文献の読解ができなかった。
論述の能力	課題に対する説明が正確、論理的にでき、明確な文章で表現できた。	課題に対する説明が論理的にでき、明確な文で提示できた。	課題に対する説明がわかりやすく、読みやすい文で提示できた。	指示によって課題に対する説明がわかりやすく提示できた。	指示による課題に対する説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国の歴史 (科目ナンバリング: HIS021025)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス	シラバスを読んでおく(90分)	歴史の基礎的事項の復習(90分)
2	人類の起源・ヨーロッパの原始時代	原始・古代の予習(90分)	原始・古代の復習(90分)
3	ヨーロッパの古代(1)ギリシャ時代	古代ギリシャ(資料)の予習(90分)	古代ギリシャ(資料)の復習(90分)
4	ヨーロッパの古代(2)ローマ時代	古代ローマ(資料)の予習(90分)	古代ローマ(資料)の復習(90分)
5	ヨーロッパの中世(1)イギリスの中世:王政前期	イギリス王政前期の予習(90分)	イギリス王政前期の復習(90分)
6	ヨーロッパの中世(2)イギリスの中世:王政前期	イギリス王政前期の予習(90分)	イギリス王政前期の復習(90分)
7	ヨーロッパの近世(1)イギリスの近世:王政中期	イギリス王政中期の予習(90分)	イギリス王政中期の復習(90分)
8	ヨーロッパの近世(2)イギリスの近世:王政中期	イギリス王政中期の予習(90分)	イギリス王政中期の復習(90分)
9	ヨーロッパの近世(3)イギリスの近世:王政後期	イギリス王政後期の予習(90分)	イギリス王政後期の復習(90分)
10	ヨーロッパの近世(4)イギリスの近世:王政後期	イギリス王政後期の予習(90分)	イギリス王政後期の復習(90分)
11	ヨーロッパの近代(1)イギリスの近代	イギリス近代の予習(90分)	イギリス近代の復習(90分)
12	ヨーロッパの近代(2)イギリスの近代	イギリス近代の予習(90分)	イギリス近代の復習(90分)
13	ヨーロッパの近代(3)イギリスの近代	イギリス近代の予習(90分)	イギリス近代の復習(90分)
14	今日の世界(1)	既習事項の復習(90分)	既習事項の復習(90分)
15	今日の世界(2)	既習事項の復習(90分)	既習事項の復習(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	既習事項の復習(90分)	既習事項の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211011)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

新古典主義以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) (4) に対応する。

到達目標

- ・西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。
- ・作品に関する諸情報を自分の言葉で説明できる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の大まかな流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「見る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修 高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	30%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業内容を越えた自主的な学習ができた。	授業内容について自主的な学習ができた。	授業内容について十分な理解ができた。	授業内容について理解できた。	授業内容の理解が不足していた。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	授業内容を越えて文献や資料を自分で調査して、独自の知見を加えて説得的に論じることができた。	自分の考えをもとに文献や資料を自分で調査して、筋の通った論述を展開できた。	授業内容に沿って自分の考えを深めて展開し論述できた。	定期試験において自分の考えを記述することができた。	定期試験において自分の考えを記述できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211011)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術でめぐる 西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明 西洋美術史1の振り返り	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	新古典主義とロマン主義(1)ダヴィッド	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	新古典主義とロマン主義(2)アングル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	新古典主義とロマン主義(3)ジェリコー、ドラクロワ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	近代絵画のはじまり クールベ、ミレー、マネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	印象派(1)マネ、モネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	小テスト(1) 印象派(2)ルノワール	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	印象派(3)ジャポニスム	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	後期印象派と新印象派(1)ゴーギャン、ゴッホ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	後期印象派と新印象派(2)セザンヌ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	小テスト(2) 後期印象派と新印象派(3)スーラ、シニャック	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	世紀末美術(1)象徴主義 モロー ルドン	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	世紀末美術(2)ラファエル前派、分離派、アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	20世紀前半の諸潮流(1)フォーヴィスムとキュビスム マ蒂斯、ピカソ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	20世紀前半の諸潮流(2)ダダ、シュルレアリスムなど まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	定期試験 フィードバック 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122067)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2	(単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

子どもと家族を包括的支援の視点から、発達心理学、臨床心理学などの基礎的知見を踏まえ、現代の社会的状況や課題を明確にし、その支援のあり方について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学部(DP(2)、(3)、(5))に対応する

到達目標

- ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
- ・子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解する。

授業全体の内容と概要

発達心理学で学んだ内容を基礎としながら、子どもの発達に果たす家族、家庭の機能について考える。子育てや教育に関する各回のテーマに関する記事を自身の関心に従い新聞やニュースから探し、目を通してから授業に臨み、授業後には関連を自分なりにノートにまとめておくことを期待する。

授業の方法

授業では、テキスト、パワーポイント、板書、配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)を提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自分で振り返ることができるようなノートづくりを心がける。授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。不測の事態が起きた際にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準ずる。定期試験、授業の終わりに提出する感想等(リアクションシート)、授業態度を評価の対象とする。再試験は実施しない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について、資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	子どもと家族の関係性、その様々なあり方について、資料等も見ずに説明ができる。自分の考えを述べることができる。	子どもと家族の関係性、その様々なあり方について、資料等も見ながら説明ができる。自分の考えを述べることができる。	子どもと家族の関係性、その様々なあり方について、資料等も見ながら説明ができる。	子どもと家族の関係性、その様々なあり方について、資料等も見ながら部分的に説明ができる。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122067)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの家庭支援の心理学入門』	大倉得史、新川泰弘	ミネルバ書房	2020	978-4623089437	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 親子関係・家族関係	こどもの家庭支援に関して調べる(90分)	授業で学ぶ内容について振り返る(90分)
2	乳幼児期の子どもの発達と家庭	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
3	児童期の子どもの発達と家族	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
4	青年期以降の発達の特徴と課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
5	これまでの授業のまとめ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
6	家族・家庭の意義と機能	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
7	子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
8	子育て・仕事とライフコース	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
9	特別な配慮を要する子どもと家庭の理解と支援	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
10	発達支援が必要な子どもと家庭の理解と支援	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
11	子どもの生活環境・生育環境と生活習慣の獲得	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
12	子どもの心の健康問題と子ども家庭支援	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
13	子ども家庭支援をめぐる現代の社会的状況と課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
14	これまでの授業のまとめ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
15	これまでの授業のまとめ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	これまでの学習内容について振り返る(90分)	試験の振り返りを行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生 (科目ナンバリング：SNE122104)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
知的障害児に対する教育を効果的に行うために必要な心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容を理解し、指導上の基礎的な配慮事項を理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)と(5)に対応する。

到達目標
知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容がわかり、指導上の基礎的な配慮事項等がわかる。

授業全体の内容と概要
基本的な内容としては、知的障害に関する定義、原因、医学的分類、状態像の把握(アセスメント、心理検査)、関連障害(染色体異常、代謝異常、自閉スペクトラム障害等)、認知処理(感覚、知覚、記憶等)、身体と運動発達、言語獲得について、一般的な定型発達との比較及び教育的な対応の視点から説明する。「SDGs4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
プレゼン資料等の提示による講義形式を主とし、内容によりグループワークやペアワークを実施する。Microsoft Forms等を活用して、前時の振り返りと本時の内容確認の小テストを実施して、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配布や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	20%	0%	0%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	20%	0%	0%	10%	10%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を部分的に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応の適切な発展的に整理し、思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応の適切な発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生 (科目ナンバリング: SNE122104)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 堀川厚志)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、知的障害の概要について)	シラバスを読む(90分)	内容を振り返る(90分)
2	知的障害の用語と定義について	用語の使用と定義を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
3	知的障害の原因と医学的分類について	原因と医学的分類を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
4	知的障害児のアセスメントについて	アセスメントについて調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
5	知的障害児に対する教育的な活用を考慮した心理検査について	心理検査について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
6	知的障害に関連した障害(染色体異常)について	染色体異常について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
7	知的障害に関連した障害(代謝異常)について	代謝異常について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
8	知的障害に関連した障害(自閉スペクトラム障害等)について	自閉スペクトラム障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
9	知的障害児の認知特性について	認知特性について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
10	知的障害児の知覚特性について	知覚特性について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
11	知的障害児の知能について	知能について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
12	知的障害児の記憶について	記憶について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
13	知的障害児の身体と運動について	身体と運動について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
14	知的障害児の言語の理解と表出について	言語について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
15	知的障害児の言語の獲得について 授業改善アンケートの実施	言語について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
16	定期試験(60分間の筆記テスト、終了後15分間の解答の解説実施)	全内容・資料を整理する(90分)	全内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT312007)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
建築計画は、公共施設をはじめ地域に居住する住民の生活に貢献する施設を対象に、現代の社会状況のなかでどのように計画されなければならないかという視点で学ぶ。そのためには地域施設に求められる役割と、建築としてどのように具体的な計画内容と結びつけていかなければならないかを理解する。

授業の位置づけ
建築学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標
各種施設を対象に、その施設はどのような特徴的なはたらきをもつ施設であるか(基本事項)、社会状況によって施設の役割も変化してきたのか、今後その施設のあるべき姿について考察する力を身につけ、それらの設計活動に活用できる。

授業全体の内容と概要
授業の前半では、地域施設の歴史的背景から現在の施設における施設機能などの基本事項を解説する。後半では施設をとりまく社会状況をデータや資料をもとに理解し把握する内容になっている。 「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法
授業ではテキストのほかに、毎回配布する資料(テキストの内容を補充)を用いて授業を進める。授業の出席を重視するため、原則として授業資料は授業時間開始時におのみ配布する。各施設に関するレポートを課しその提出を必修とする。提出されたレポートについて講評を記述し返却する。小テスト終了後、回答と結果について講評する。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業開始時に配布する着席票に氏名を記入し回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回授業開始時におこなう小テスト(前回のふり返りテスト)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席は不合格に直結することになる。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	20%	0%	40%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
40%	20%	0%	40%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。</td> <td>公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含み、今後の施設のあり方までを理解できた。</td> <td>公共施設の基本的機能、今後の施設のあり方までを理解できた。</td> <td>公共施設の基本的機能、および多機能化の可能性を理解できた。</td> <td>公共施設の基本的機能を理解できた。</td> <td>公共施設の役割を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。</td> <td>各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。</td> <td>各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。</td> <td>各種施設の機能と室構成を理解できた。</td> <td>各種施設の室構成を理解できた。</td> <td>施設機能を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>社会状況により施設のあり方が変化すること、将来他の施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。</td> <td>社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化した際の在り方が多様化することを理解できた。</td> <td>社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化した際の在り方が替わること理解できた。</td> <td>社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したことを理解できた。</td> <td>社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。</td> <td>公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。	公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含み、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、および多機能化の可能性を理解できた。	公共施設の基本的機能を理解できた。	公共施設の役割を理解することができなかった。	対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。	各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と室構成を理解できた。	各種施設の室構成を理解できた。	施設機能を理解することができなかった。	社会状況により施設のあり方が変化すること、将来他の施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。	社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化した際の在り方が多様化することを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化した際の在り方が替わること理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したことを理解できた。	社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。	公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。	公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含み、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、および多機能化の可能性を理解できた。	公共施設の基本的機能を理解できた。	公共施設の役割を理解することができなかった。																								
対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。	各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と室構成を理解できた。	各種施設の室構成を理解できた。	施設機能を理解することができなかった。																								
社会状況により施設のあり方が変化すること、将来他の施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。	社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化した際の在り方が多様化することを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化した際の在り方が替わること理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したことを理解できた。	社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。	公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT312007)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『わかる建築学 建築計画 [第二版]』	浅野平八他	学芸出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバス事前確認(90分)	教科書確認(90分)
2	計画共通事項 バリアフリー法	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
3	図書館	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
4	スポーツ施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
5	幼稚園・保育所	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
6	学校	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
7	美術館・博物館	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
8	公民館・コミュニティ施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
9	宿泊施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
10	医療施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
11	福祉施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
12	商業施設・駐車場 業務施設(定義と分類, コアタイプ, オフィスレイアウト, 設備計画, EV計画)	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
13	戸建住宅	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
14	集合住宅	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
15	振返り試験	小テスト全体復習(90分)	振返り試験復習(90分)
16	総評(試験結果発表, 成績評価と解説) 授業改善アンケートの実施	資料参照(90分)	全体の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ社会学 (科目ナンバリング: SPS422061, SPS512011)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階研究室		
単位数	2 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。

授業全体の内容と概要

スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。

授業の方法

授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。またレポート提出も数回行う。なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻(15分)は2回につき1回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可する必要がある場合のみの使用は禁ずる。レポートを期限内に提出しない場合は不合格とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上  
小・中・最終レポート、出席回数を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え、主張を持っていた。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え、主張を持っていた。資料等を収集していた。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができた。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができた。	関心が薄く、ほとんど興味を示さなかった。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力していた。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さなかった。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、自分の考え、主張を持っていた。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、資料等を収集していた。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解していた。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めていた。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ社会学</b> (科目ナンバリング: SPS422061, SPS512011)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階研究室		
単位数	2 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンスとスポーツの意義(スポーツの社会性・)	体協のテキスト「共通科目」を見る(90分)	シラバス全体を見る(90分)
2	世界・日本のスポーツの歴史・発展の歩み(戦争、ゲリラ等も含めて)小レポートの提出	同「共通科目」に目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望④	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望⑤(問題点、課題も)小レポートの提出	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
6	「文化」としてのスポーツ(拡がる共鳴、政治化)小レポートの提出	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
7	スポーツの4つの柱(する、みる、支える、知る)	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
8	スポーツと人権(差別、体罰、LGBTなど)前半の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
9	現代スポーツの多面性(スポンサー、放映権など)	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
11	生涯スポーツ(子どもから高齢者)と生きがい	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す(90分)	講義の要点を整理する(90分)
15	後半授業の振り返り 授業改善アンケートの実施	前回のノートに目を通す(90分)	これまでのノートを読み返し振り返る(90分)
16	最終レポート課題の説明とまとめ	これまでのノートをじっくり読み返す(90分)	これまでの授業のまとめ(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ社会学（SP）（科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	1号館2階研究室		
単位数	2（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

<b>履修目標</b>												
スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。												
<b>授業の位置づけ</b>												
経営学科のDP（2）（4）（5）に対応する。												
<b>到達目標</b>												
スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。												
<b>授業全体の内容と概要</b>												
スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。												
<b>授業の方法</b>												
授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。またレポート提出も数回行う。 なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。												
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）									
<b>履修上の注意事項</b>												
遅刻（15分）は2回につき1回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可が必要のない場合の使用は禁ずる。レポートを期限内に提出しない場合は不合格とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。												

<b>修学サポート（合理的配慮）</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な出席回数は、13回以上 小・中・最終レポート、出席回数を評価の対象とする。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	70%	0%	0%	30%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツと社会との関連</td> <td>積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え、主張を持っている。</td> <td>スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え、主張を持つため、資料等を収集している。</td> <td>スポーツと社会との関連性を概ね理解することができる。</td> <td>スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができる。</td> <td>関心が薄く、ほとんど興味を示さない。</td> </tr> <tr> <td>オリンピックへの理解</td> <td>オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析している。</td> <td>オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解している。</td> <td>オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解している。</td> <td>オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力している。</td> <td>オリンピック・パラリンピックに興味を示さない。</td> </tr> <tr> <td>スポーツと地域貢献</td> <td>スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、自分の考え、主張を持っている。</td> <td>スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、資料等を収集している。</td> <td>スポーツと地域の結びつきを概ね理解している。</td> <td>スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めている。</td> <td>スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え、主張を持っている。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え、主張を持つため、資料等を収集している。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができる。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができる。	関心が薄く、ほとんど興味を示さない。	オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力している。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さない。	スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、自分の考え、主張を持っている。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、資料等を収集している。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解している。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めている。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え、主張を持っている。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え、主張を持つため、資料等を収集している。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができる。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができる。	関心が薄く、ほとんど興味を示さない。																								
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力している。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さない。																								
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、自分の考え、主張を持っている。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、資料等を収集している。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解している。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めている。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がない。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SP）（科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	1号館2階研究室		
単位数	2（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性）	体協のテキスト「共通科目」を見る（90分）	シラバス全体を見る（90分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）小レポートの提出	同「共通科目」に目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望④	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望⑤（問題点、課題も）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
6	「文化」としてのスポーツ（広がる共鳴、政治化）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
7	スポーツの4つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、LGBTなど）前半の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
15	後半授業の振り返り 授業改善アンケートの実施	前回のノートに目を通す（90分）	これまでのノートを読み返し振り返る（90分）
16	最終レポート課題の説明とまとめ	これまでのノートをじっくり読み返す（90分）	これまでの授業のまとめ（90分）

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422065, SPS522060)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間の体は、意図的に働きかけることにより、構造的にも機能的にも変化させることができる。本講義ではトレーニングに必要な基礎的理論、トレーニングの方法を概説し、トレーニング計画、筋力トレーニングの基礎、ストレッチングや体力テストの活用について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。

授業全体の内容と概要

テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出、ビデオを利用し、トレーニング理論、トレーニング計画などについて詳しく説明する。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料を活用しながら講義形式で行い、レポートの提出を求める。レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	30%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422065, SPS522060)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明 トレーニング理論と方法論 トレーニング学の理論	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
2	トレーニング理論と方法論 スポーツパフォーマンス構造論	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
3	トレーニング理論と方法論 トレーニング手段における基礎論	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
4	トレーニング理論と方法論 筋力トレーニングにおける基礎論	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
5	トレーニング理論と方法論 筋力トレーニングの方法	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
6	トレーニング計画とその実際 トレーニング目標の設定	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
7	トレーニング計画とその実際 トレーニング・プログラムの設計	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
8	トレーニング計画とその実際 トレーニング計画と疲労およびその回復	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
9	トレーニング計画とその実際 トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
10	体力テストとその活用 体力テストの位置づけについて	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
11	体力テストとその活用 形態および身体組成の測定と評価について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
12	体力テストとその活用 筋力・筋パワーの測定と評価について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
13	スキルの獲得とその獲得過程 スキルとは	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
14	スキルの獲得とその獲得過程 スキル獲得の過程	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
15	スキルの獲得とその獲得過程 スキル獲得にかかわる要因	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
16	テスト及び解説 60分の試験終了後、残り30分で解説 授業改善アンケートの実施	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 (科目ナンバリング: ESS143157, ESS243103, ESS343097, E SS443099, ESS543108)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観や道徳観、教育観、道徳教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)、(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)、(3)、(4)に対応する。

到達目標

具体例(ビデオ、資料等)やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。  
 みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。  
 現代社会が抱える問題点やその価値観・道徳観をしっかりと把握する。  
 過去の歴史を踏まえつつ、これからの時代に必要な価値観や道徳教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を形成し、これからの時代に必要な道徳教育とその方法論を構築する。  
 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベート、構成的グループエンカウンターなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもあり。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは100%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見を付け加えよう。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(中学)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義やビデオの内容を十分に理解し、みずからの教育観に十分役立てた。	講義やビデオの内容をかなり理解し、みずからの教育観にかなり役立てた。	講義やビデオの内容をそれなりに理解し、みずからの教育観にそれなりに役立てた。	講義やビデオの内容を理解しようとするが、みずからの教育観に役立てようと努めた。	講義やビデオの内容を理解しておらず、みずからの教育観に役立っていなかった。
発言	発言を10回以上した。	発言を7回以上した。	発言を5回以上した。	発言を3回以上した。	発言が3回未満だった。
ディベート、構成的グループエンカウンターなど	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、積極的に発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、それなりに発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、発表しようとするが、発表しなかった。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて消極的で、ほとんど発表していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 (科目ナンバリング: ESS143157, ESS243103, ESS343097, ESS443099, ESS543108)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの解説 授業改善アンケート結果の反映の説明 いま、なぜ、道徳教育なのか	シラバスをきちんと読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	道徳教育は、何をめざすのか	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	少年犯罪と心の教育	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	外国での道徳教育の取り扱い	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	わが国での道徳教育の歴史 幕末・維新期の道徳観	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	わが国での道徳教育の歴史 明治の価値変動の時代の道徳観	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	わが国での道徳教育の歴史 大正・昭和前期・統一教科書の時代の道徳	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	わが国での道徳教育の歴史 戦後の道徳教育の変遷	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	学校における道徳教育	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	道徳教育の目標と内容	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	道徳教育の計画	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	他教科・他領域と道徳教育との関連	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	指導の諸方式	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	指導案の作成	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	道徳教育の課題 家庭・社会および「公」と「私」の関連等	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習と第16回講義の予習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌 (科目ナンバリング: HUG122130, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

身近な地域の地誌を学ぶことによって、その地域性を理解し、また地域を多面的多角的に議論する能力を身に付ける。

授業の位置づけ
---------

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標
------

1. 北海道の地域性を説明することができ、他地域の地域性を学ぶ力を身につける。
2. 地域をマイクロスケールからミクロスケールで見ること学び、多面的多角的な視点を養う。

授業全体の内容と概要
------------

本授業では北海道と対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また、北海道や市町村といったローカルな視点で地域を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まず北海道の自然条件と歴史に着目し、その地域性を俯瞰する。そして北海道の市町村レベルで地域の形成過程を見ていく。そうした中で近年スキーリゾート開発が進み、インバウンド観光が盛んとなった二世コエリアを対象とし、ミクロな地域の姿を解説する。  
「SDG4.質の高い教育をみんなに」および「SDG11.住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法
-------

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。スライド資料を中心に映像資料を交えながら講義を進める。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

講義内で適宜連絡する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌 (科目ナンバリング: HUG122130, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	北海道の地理的条件 気候と地形	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	北海道の地理的条件 土地成因	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	北海道の地理的条件 北海道の開発	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	北海道とアイヌ文化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	北海道の歴史 古代～近代	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	北海道の歴史 近代	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	北海道の歴史 現代	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
9	広域中心都市の形成	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	港湾都市の形成と再開発	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	災害とまちづくり	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	自然環境の保全と共存	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	ニセコエリア -インバウンド観光と新たなまちづくり-	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	ニセコエリア -土地利用変化-	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	ニセコエリア -近年のスキーリゾート開発-	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (M) (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文を読み、個々の単語の発音練習を行う。基本的文法事項を復習し、作文練習、会話練習を行い、英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

英語の発音を修得する。基本的文法事項を理解し、簡単な作文と会話ができる。

授業全体の内容と概要

英文を読み、発音を確認し、基本的表現や文型を学び、英語の運用能力の向上を目指す。  
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い英語運用能力の向上を計り、学生参加型授業を行う。中間テスト、定期試験の答え合わせ等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

平常点重視、テキスト・辞書持参不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には10回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・語彙・文法・読解等)	定期試験・中間試験で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できていた。	定期試験・中間試験で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できていない部分が多かった。	定期試験・中間試験で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障を少しきず点があった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることができなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (M) (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『English Indicator 1』	テリー・オブライエン, 三原 京 他	南雲堂	2018	9784523178538	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方, 採点に関すること, その他授業に関するガイダンス。(シラバスの説明) Unit 1 The Royal Family	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
2	Unit 2 The Beatles Past tense 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
3	Unit 3 Very Cold Progressive forms 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
4	Unit 4 Euro Money Auxiliary verbs 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
5	Unit 5 To Your Health Perfect tense 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
6	Unit 6 Recycling Articles, pronouns 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
7	Unit 7 The UK Nouns: countable, uncountable	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
8	中間テスト	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
9	Unit 8 A Quiet Life Adjectives, adverbs 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
10	Unit 9 My Company Comparisons 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
11	Unit 10 Advertising Infinitives, conjunctions 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
12	Unit 11 Business Trips Prepositions, conjunctions 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
13	Unit 12 Get It Cleaned Causative verbs, perceptive	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
14	Unit 13 A Storm Passive voice 復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
15	Unit 14 The Media Relativesの復習	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
16	総合評価, 定期試験60分, 解説30分 授業改善アンケートの実施	リーディングアサシメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション(S) (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照またはチームズにて要確認				

概要

履修目標

身近な話題を中心とした日常生活の様々な場面を想定し、テキストに沿った文法整理から、会話、発音、語彙を総合的に学習することによってコミュニケーションツールとしての英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)、(4)に対応する。

到達目標

簡単な日常会話や場面表現に関して用いられる英文の文法解釈において、文型を理解したうえでコミュニケーションツールとして基礎的な英語運用能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

文法、語彙、会話表現の向上をはかり、自分が表現したいことを相手に伝えられるようコミュニケーションスキルの基礎を習得する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

本講座は講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。レポート、試験などの解説のフィードバックを実施する。  
指定翻訳アプリ: VoiceTra  
<VoiceTra(ボイストラ)はNICT(エヌアイシーティ: 国立研究開発法人情報通信研究機構)が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視する。遅刻は20分までとし2回の遅刻を以って欠席1回とする。特別な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、中間試験として文型理解度確認テストを実施する。加えて英文日記を1回提出し、レポートとして採用する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科) 選択科目 保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。12回の出席を基準とし10回の出席を確保できないものは再履修とする。平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きな課題の提出には、加点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	10%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる語彙・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成している。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定し、コミュニケーションをとる土台が出来つつある。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べ、辞書を活用してコミュニケーションの土台づくりの努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着し、辞書を使うことはできる。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もしない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書も見られない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション(S) (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラー改訂版 世界一わかりやすい英文法の授業』	関 正生	KADOKAWA	2018	9784046022882	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業評価アンケートの結果への対応を説明 英語の構造に関する基本的な考え方	専用のノートを準備する(90分)	自分の弱点確認(90分)
2	英語と日本語の違い&英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
3	英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
4	英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
5	英語の動詞とその使い方 & オーストラリア文化談	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
6	英語の動詞とその使い方 & アメリカ大学文化談	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
7	品詞に関するイメージ	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
8	品詞に関するイメージ	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
9	英文の構造を理解する & アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
10	英文の構造を理解する & アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
11	英文の構造を理解する	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
12	時制	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
13	時制	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ & テストReview 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む(90分)	期末試験に備える(90分)
16	試験(60分)及び授業総評(30分)	試験準備(150分)	授業内容の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年、建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応するため「外国語」を学ぶための科目であり、英語で外国人と最低限のコミュニケーションができるよう実際に使える英語を身につける。また、日本と外国の習慣や文化、考え方の違いについて理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

会話表現の向上をはかり、自分が表現したいことを最低限相手に伝えられるように、コミュニケーションスキルを習得することができる。

授業全体の内容と概要

身近なトピックや日本の伝統文化・習慣を扱ったダイアログを通して「聞く・読む」から「話す・書く」へとつなぐ技能統合を重視した英語運用能力育成を目的とし、口語表現などを学習し、会話でよく使用される重要な表現を想定し相手の気持ちを読み取り、相手に自分の気持ちを伝えるコミュニケーションを学ぶことができる。

授業の方法

授業では視聴覚メディアを活用し、講義形式で行う。リスニングで単語の発音をインプットし、リーディングでは英文を声に出して読むアウトプットの作業を行う。また、テキストの練習問題を解き疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。ペアでのロールプレイ、グループワークなど多く取り入れるので積極的に授業に参加する。  
映像・音声の無料ストリーミング配信(<http://text.asahipress.com/free/english/>) 音声アプリ「リスニングトレーナー」を使えばテキストの音声スマホ・タブレットに簡単にダウンロード。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	10%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を超えた学修が認められる。	授業内容をほぼ理解している。	到達目標に達している。	到達目標は理解しているが、授業内容の理解に少し不足がある。	到達目標に達していない。
英語表現能力	英語で優れた表現を行うことができる。	英語で表現を行うことができる。	英語で表現を一定程度行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない。
積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する。	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる。	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる。	授業に集中して理解しようとする態度が見られる。	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる。
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている。	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる。	学修範囲を調べている。	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である。	指示された範囲の事前・事後学修が不十分である。
リスニング・スピーキング	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング・スピーキングの2技能を問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの2技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの2技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング・スピーキングの2技能の運用に不十分な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング・スピーキングの2技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年、建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	WELCOME TO NIPPON! < Building International Friendships >	田地野 彰	朝日出版社	2018	978-4-255-15613-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 Giving Directions and Helping	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。(90分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(90分)
2	Talking about Yourself 自己紹介で使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
3	Host Family 留学生などを迎える時に使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
4	Commuting by Train 電車の乗換説明に使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
5	Taking Classes 物事の描写に使える英語表現(1)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
6	Talking with a Teacher 寝る時に使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
7	Finding Friends 自分の趣味や好みを伝える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
8	Potluck パーティーなどの集まりで使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
9	Sumo 物事の描写に使える英語表現(2)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
10	Four Seasons 好きな季節の説明に使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
11	Green Tea 物事の描写に使える英語表現(3)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
12	Japanese Food 料理の説明に使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
13	Part-time Jobs アルバイト先で使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
14	Shopping at a Clothing Shop 買い物で使える英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
15	Asakusa オスメの場所を紹介する英語表現	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習すること。(90分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験での疑問点などは前もって質問できるように準備しておく。	間違えた箇所をもう一度復習し理解する。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	権利擁護を支える法制 (科目ナンバリング: SWS112011/2023年度以降SWS122011)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

相談援助と法の関わりについて学ぶとともに、相談援助業務において必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動の実際を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

憲法、行政法、民法など権利擁護と法との関係について理解できる。  
ソーシャルワーカーに必要な成年後見制度、日常生活自立支援事業等の知識について説明できる。  
権利擁護活動の実際について理解を示すことができる。

授業全体の内容と概要

相談援助業務において必要となる法知識(憲法、民法、行政法など)を学ぶとともに、権利擁護の仕組みとしての成年後見制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業についての知識を習得する。  
「SDGs.すべての人に健康と福祉を」、「SDG11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格科目、精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現在の成年後見制度と権利擁護の問題点を理解できた。	成年後見制度の内容と権利擁護の仕組みを理解できた。	権利擁護に関わる法律の仕組みについて理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できなかった。
思考・判断	現状を踏まえわが国の権利擁護制度に内在する課題について考察できた。	成年後見制度の趣旨を権利擁護活動に活かす方法等を考えることができた。	成年後見制度の仕組みから権利擁護活動の実際をイメージすることができた。	成年後見制度、日常生活自立支援事業等について説明できた。	成年後見制度、日常生活自立支援事業等について説明できなかった。
関心・意欲	権利擁護活動におけるソーシャルワーカーの役割について理解を示すことができた。	利用者の能力に応じた権利擁護活動の実際について関心を示すことができた。	利用者の能力に応じた成年後見制度の仕組みについて理解を示すことができた。	権利擁護活動の実際について理解を示すことができた。	成年後見制度の必要性に関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	権利擁護を支える法制 (科目ナンバリング: SWS112011/2023年度以降SWS122011)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8239-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 法とは何か(法と社会規範, 法と道徳の関係, 法の体系・種類・機能)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	法とは何か(法の基礎知識, 法の解釈, 裁判と判例)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	ソーシャルワークに関わる法(憲法の意義, 日本国憲法の基本原理, 基本的人権)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	ソーシャルワークに関わる法(民法の意義, 民法総則, 債権・契約, 不法行為・など)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	ソーシャルワークに関わる法(婚姻・離婚, 親権・未成年後見, 扶養, 成年後見, 相続)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	ソーシャルワークに関わる法(行政法の意義, 行政組織, 行政行為, 行政強制, 行政訴訟, 国家賠償)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	権利擁護を支える仕組み(権利擁護の意義, 福祉サービスの適正利用, 苦情解決の仕組み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	権利擁護を支える仕組み(高齢者虐待防止法, 児童虐待防止法, 障害者虐待防止法)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	権利擁護を支える仕組み(障害者差別解消法, 障害者サービスの利用等に関する意思決定支援ガイドライン)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	権利擁護活動における法的諸問題(インフォームド・コンセント, 秘密・プライバシー・個人情報, 権利擁護活動)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	成年後見制度(成年後見制度の意義と仕組み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	成年後見制度(後見, 保佐, 補助の概要, 任意後見の概要)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	成年後見制度(成年後見制度利用支援事業, 成年後見制度の動向)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	権利擁護に関わる組織, 団体, 専門職	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後, 30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえて授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA211007)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1) (2)に対応する。

到達目標

モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度の養成をする。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさが大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA211007)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
2	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
4	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
6	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像を保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
8	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
10	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
12	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
14	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
16	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
18	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
20	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
22	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
24	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
28	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
30	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック) 授業改善アンケートの実施	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング：SNE122109)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

共生社会の創造のための教養として肢体不自由者の教育を効果的に行うために必要な基本的な知識と障害の状況等に応じた指導の在り方について基礎的な知識を得る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を具体的に述べる事ができる。

授業全体の内容と概要

特別支援教育の対象となる肢体不自由者の現状を押しさえ、児童生徒の実態把握の方法と評価、障害の状態に応じた教育課程や指導内容・方法、健康の保持や訓練、医療的ケアの仕方等について映像教材等も活用しながら構成する。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配付資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着をはかる。また、DVDを視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。レポートについてはコメントによりフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 肢体不自由者の障害特性に応じた指導を効果的に行うために必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。
- 授業内容の習得状況を確認するために中間テストを実施することがある。
- 実践事例のVTR教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求めているので、授業を欠席することのないよう留意すること。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	10%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由教育の理解	肢体不自由教育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	肢体不自由教育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	肢体不自由教育について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由教育について、一部理解する事ができた。	肢体不自由教育について、理解できなかった。
肢体不自由教育の思考・判断・表現	肢体不自由教育について、積極的に思考・判断し、自ら表現しようとする事ができた。	肢体不自由教育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。	肢体不自由教育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	肢体不自由教育について、思考する事ができた。	肢体不自由教育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心を持って参加する事ができた。	授業へいくらかの関心をもって参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング: SNE122109)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	シアース教育新社	2021年	978-4-86371-548-6	
2	『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	平成29年	978-4-303-12424-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説総則編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04229-4	
4	『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『肢体不自由教育の基本とその展開』	慶應義塾大学出版会	慶應義塾大学出版会	2008年	978-4-7664-1409-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及びイントロダクション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておくこと(90分)	シラバスに基づいて、授業内容に見直しを立てる(90分)
2	肢体不自由教育の歴史 肢体不自由疑似体験	指定した教科書の「肢体不自由児の基礎知識」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	肢体不自由教育の現状	指定した教科書の「肢体不自由児のある子供に応じた教育課程編成」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	特別支援教育に関わる法令	指定した教科書の「学習指導要領の改訂と特別支援教育の推進」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	教育課程と学習指導要領 1	指定した教科書の「学習指導要領の改訂と特別支援教育の推進」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	教育課程と学習指導要領 2	指定した教科書の「肢体不自由児に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	個別の教育支援計画と個別の指導計画	指定した参考指定した教科書の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築」及び「インクルーシブ教育システム構築のための特別支	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	自立活動の変遷と区分	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	自立活動の指導計画	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	自立活動の実際(身体の動き他)	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	自立活動の実際(摂食指導)	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
12	医療的ケアと訪問教育	指定した教科書の「訪問教育」及び「医療的ケア」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
13	キャリア教育と進路指導	指定した教科書の「進路指導と進路の状況」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	個に応じた授業づくり(やりたい気持ちに沿う)	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	DVD視聴時のメモを元に整理する(90分)
15	個に応じた授業づくり(集団の中の個別化) 授業改善アンケートの実施	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残り30分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223043)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

大型オリジナルイラストのためのイラストの多様性、表現方法を学び、完成度の高い作品作りを目指す。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な探求心、研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立。各自に合うコンペなどへの応募も検討する。

授業全体の内容と概要

個々のイラスト表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で画材表現、イラスト表現を身につける。ビジュアル本制作に於いて独自のイラストの方向性の研究。

授業の方法

イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性等について講義を行った後、各自の過去のイラスト作品の研究を行う。その後で、実技にて作品制作を行う。また各自作品ビジュアル本を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされる積極的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組む概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けた。
イラストの多様性・実践的・制作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的・制作、多様性を習得し表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的制作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223043)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。オリエンテーション(イラストレーターの仕事について)	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	制作への心構え,制作意識について,イラスト表現の多様性についてなど講義	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	各自過去のイラスト作品を持参して,各自のオリジナリティを探索。テーマ性,イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。(45分)	作への取り組みを進めること。(45分)
4	各自過去のイラスト作品を持参して,各自のオリジナリティを探索。テーマ性,イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。(45分)	各自のイラスト表現の方向性を固めて制作への取り組みを進めること。(45分)
5	オリジナルイラストのコンセプト確定(テーマ性,媒体など)。画材,タッチ表現の決定。	イラストの構想,テーマ,コンセプトなどを練っておくこと。(45分)	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。(45分)
6	オリジナルイラストのコンセプト確定(テーマ性,媒体など)。画材,タッチ表現の決定。	イラストの構想,テーマ,コンセプトなどを練っておくこと。(45分)	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。(45分)
7	大型作品への取り組みについて。水張り作業,下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。(45分)	アイデア出し,ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
8	大型作品への取り組みについて。水張り作業,下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。(45分)	アイデア出し,ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
9	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
10	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
11	着色作業2	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	着色作業2	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	着色作業3	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	着色作業3	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	着色作業4	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
16	着色作業4	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	着色作業5	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
18	着色作業5	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
19	着色作業6	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
20	着色作業6	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
22	プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
23	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作(絵本的表現の習得)。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。(45分)
24	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作(絵本的表現の習得)。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。(45分)
25	ビジュアル本制作-1。絵コンテ,ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。(45分)
26	ビジュアル本制作-1。絵コンテ,ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。(45分)
27	ビジュアル本制作-2。製本作業1	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
28	ビジュアル本制作-2。製本作業1	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	ビジュアル本制作-3。製本作業2	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
30	ビジュアル本制作-3。製本作業2	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
31	ビジュアル本制作-4,製本完成。プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。	作品完成,プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	ビジュアル本制作-4,製本完成。プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。授業	作品完成,プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)



基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	
科目名称	トレーニング 科学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	2 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	2 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング: APT313008)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

## 概要

<b>履修目標</b>
建築の計画や設計をおこなう上での基準は健康者の身体能力であった。しかし、わが国では人口の高齢化が急速に進展し、高齢者は増加の一途を辿っている。さらに人口の高齢化に伴って、障がい者人口もさらに増加すると見られている。そこで、高齢者・障がい者の身体特性を学び、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識の修得により建築計画ができる。

## 授業の位置づけ

建築学科のDP(1),(2),(3)に対応する。

## 到達目標

高齢者・障がい者が多く暮らす疾病やこれに伴う心身の特性を理解し、生活上の不便、不都合を知ることによって生活空間の計画・設計上の配慮点を理解できる。また、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識を理解し、それに基づいて建築計画することができる。

## 授業全体の内容と概要

福祉環境整備に関する法制度の流れを理解し、高齢者・障がい者の身体特性を知る。福祉用具を利用するための住空間の規模計画、生活空間の部位の寸法など要点を把握する。

## 授業の方法

テキストに加えてプロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また、課題は各単元ごとに出題し、それはレポート形式とする。課題は3課題を準備している。そのうちの最終課題は、住宅のバリアフリー化をテーマに計画・プレゼンし、それを講評する。

## アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

## 履修上の注意事項

講義における板書内容と配布資料を要領よく整理することが重要である。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

## 修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

## 資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

## 評価方法・基準

### 評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

### 評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	20%	0%	0%	0%

## ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
福祉用具と住空間に関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。
建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング: APT313008)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』	野村, 橋本	彰国社	2015	978-4-395-32048-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 福祉環境計画の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	ハートビル法, 障害者基本法, 生活福祉空間づくり, その他関係法令	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
3	高齢者・障害者の身体特性	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
4	計画と設計に求められるコンセプト	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
5	高齢者・障害者の福祉用具1	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
6	高齢者・障害者の福祉用具2	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
7	住環境整備の計画1 アプローチ, 駐車場, 建物出入口	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
8	住環境整備の計画2 室内出入口, 廊下, 階段	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
9	住環境整備の計画3 エレベータ, 便所	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
10	住環境整備の計画4 床の配慮, 段差の解消	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
11	住環境整備の計画5 スペースの配慮, 建具, 収納	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
12	生活空間改善の手法 計画の基本と応用	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
13	生活空間改善の手法 計画例1	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
14	生活空間改善の手法 計画例2	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
15	生活空間改善の手法 計画例3 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り, 特に専門用語を復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	保健医療と福祉 (科目ナンバリング：SOM112013/2023年度以降SOM122013)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：宮崎 剛司)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉活動に必要な医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種との協働について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)と(2)と(3)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

保健医療サービスについてその概要と保健医療サービス提供が各専門職の連携をもとになされることを説明できる。

授業全体の内容と概要

保健医療の概況や基本事項を学ぶ。それぞれの専門職種が担う役割をもとに保健医療サービス提供における連携とはどのようなものか理解を深める。

授業の方法

講義形式。板書とテキストの活用を基本とし、最新の統計や資料の活用を加え解説を行う。また、まとめや確認のために小試験を課題とし、検索後返却し解答・解説を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
医療保険制度の理解	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について詳細に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について概ね理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について部分的に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
保健医療サービスの概要	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法について把握し、健康増進・保健対策との関連を詳しく説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について概ね説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について部分的に説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。
専門職の役割	保健医療分野における社会福祉士の役割を、患者の権利とチーム医療との関連から詳しく説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利とチーム医療について概ね説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利とチーム医療について部分的に説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利とチーム医療について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	保健医療と福祉 (科目ナンバリング: SOM112013/2023年度以降SOM122013)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8248-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健医療サービスについて	事前に教科書全体に目をとっておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	医療保険制度	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	医療保険制度(保険給付)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
4	医療保険制度(医療費政策)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
5	診療報酬	教科書の「診療報酬」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
6	保健医療サービスの概要(医療法)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
7	保健医療サービスの概要(医療・福祉施設と医療計画)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく(90分)	前半の授業内容を復習しておく(90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨む(90分)	問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	テスト返却。保健医療サービスの概要(衛生行政)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく(90分)	返却テスト結果と授業で行ったことを見直し整理しておく(90分)
10	保健医療サービスの概要(健康増進・保健対策)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
11	専門職の役割(医療ソーシャルワーカー)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
12	専門職の役割(各専門職とチーム医療)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
13	専門職の役割(患者の権利・インフォームドコンセント)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
14	保健医療サービスの連携と実際	教科書の「専門職の連携」について事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
15	総括と保健医療サービスの今後の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	提案した福祉課題に今後取り組んでいく(90分)
16	定期試験60分の終了後、残りの時間で解説します。	定期試験準備を行っておく(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 (科目ナンバリング: MAN412003, MAN512003)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること。				

概要

履修目標
経営組織とは、何なのか。こういった構造や活動をするのか。その基礎を理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(1)(3)(4)に対応する。

到達目標
2年次以降の専門分野の活動に必要な経営の基本となる用語及び組織メカニズム(特に意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメント)が理解できている。

授業全体の内容と概要
経営活動の基本要素である意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメントに関する基本知識を理解・習得する。SDG4:「質の高い教育をみんなに」のテストケースとして授業中の発言を重視し、ハンドアウトやプリントを多用する。

授業の方法
座学においてPCによるプロジェクト投影と配布資料による講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。教科書に関する事前学習は当たり前のことで予習のページを指定する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席および授業参加度を重視し、20分以上の遅刻および15分以上の途中退席は欠席扱いとする。授業中の私語、居眠り、携帯・スマートホン利用は厳禁。これを破った場合は欠席扱いとする。また、本科目は座席を指定する。板書の撮影は許可するが次回の授業までに必ずノートに転記すること。加えて、平常の学習状況を確認するためノートチェックを行う。10回以上の出席がない学生は評価の対象としない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので必ず相談して欲しい。

資格指定科目
教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回(厳守)。12回以上の出席を標準とし、これに満たない場合は平常点の加点を失う。教科書を持参しない学生に関しては評価対象としない。本科目は後期科目なので2回目以降の授業で教科書未持参の学生には履修中止を勧告する。よって、教科書未購入の学生の履修は、これを認めない。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	20%	0%	20%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	様々な組織形態、組織デザインを完全に理解し、事例に対応した理想的な組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを十分に理解し、事例に対応した新たな組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解し、事例の組織形態を理解できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していなかった。
思考力・判断力・表現力	モチベーション理論を完全に理解し、事例に対応した自らのモチベーション論を展開できた。	モチベーション理論を十分に理解し、事例に対応したモチベーションの在り方を理解できた。	モチベーション理論を理解し、事例のモチベーションの形態を理解できた。	モチベーション理論を理解していた。	モチベーション理論を理解していなかった。
主体性	リーダーシップを完全に理解し、自らもリーダーシップを発揮し様々な意見を提案できた。	リーダーシップを十分に理解し、事例に対応したリーダーシップ論を理解できた。	リーダーシップを理解し、リーダーシップの目的を理解できた。	リーダーシップを理解していた。	リーダーシップを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 (科目ナンバリング: MAN412003, MAN512003)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『経営組織入門』	上林憲雄・庭本佳子	文眞堂	2020	9784830950698	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	経営組織とは	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	組織形態と活動	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	バーナードの組織論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	組織の基本原則	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	意思決定	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	「やる気」を高める・・・モチベーション理論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	「やる気」を高める・・・モチベーション理論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	リーダーシップ論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	リーダーシップ論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	チームワークとチームマネジメント	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	チームワークとチームマネジメント	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	イノベーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	ネットワーク ノートチェック指示	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	総括レビュー 授業改善アンケートの実施	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	試験に向け全体を復習する。(90分)
16	定期試験及び解説 (60分の試験終了後、30分で総括を行う)	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受け講義全体を復習する。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論 (科目ナンバリング: SWS122043)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面に即して授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉に関する制度とサービスについて理解する。精神障害者の特徴、生活状況、精神保健福祉法、障害者総合支援法、年金・医療・生活保護など各種制度を理解し、マネジメントを把握する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

精神保健福祉領域の基礎知識をもとに、自分なりの考えを述べることができる。

授業全体の内容と概要

精神障害者を取り巻く課題を学び、グループワークやディスカッションを行う。板書やプリントの確認問題を行いながら学習を行う。確認問題は解説を行う。また、事例検討に関しては、事後の状況を説明し制度と生活支援がイメージできるようにフィードバックを行う。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目である。

授業の方法

教科書は必ず持参すること。小テスト、レポートの内容や提出方法は、授業内にて指示する。精神疾患や障害のある人の社会生活にとって、制度やサービスがもつ意義を絶えず問い直ししながら、学習を進めてほしい。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など)、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

授業態度、単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	14回授業に参加し、積極的に学習ができた。	13回授業に参加し、積極的に学習ができた。	12~10回授業に参加し、積極的に学習ができた。	9回以下授業に参加し、積極的に学習できなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストで平均100~90点を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上を獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか獲得できなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に4回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に3回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に2回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習や質問、意見を出すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論 (科目ナンバリング: SWS122043)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践に即して授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉制度論』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8255-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
2	精神障害者に関する制度・施策の理解	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
3	精神障害者に関する制度・施策の理解	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
4	精神障害者の医療に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
5	精神障害者の医療に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
6	精神障害者の医療に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
7	精神障害者の生活支援に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
8	精神障害者の生活支援に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	事前に教科書を確認(90分)
9	精神障害者の生活支援に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
10	精神障害者の経済的支援	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
11	精神障害者の経済的支援	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
12	精神障害者と生活困窮	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
13	精神障害者と生活困窮	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
14	精神保健福祉領域の近年の動向	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
15	まとめ	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
16	確認テスト及びテストの解説 授業改善アンケートの実施	テストの事前学習(90分)	テストの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・（科目ナンバリング：SNE122106）				
授業担当者（所属・職名）	千葉 聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：千葉 聡美）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	特別な支援を必要とする病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理、行動特性等の基本的な知識を理解する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。												
到達目標	病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理の各特性や行動特性等について理解することができる。												
授業全体の内容と概要	病弱・身体虚弱児の身体的・心理的な特性や病理の特性について、できるだけ具体的な事例や視聴覚教材等を活用しながら構成する。 *SDGs：すべての人に健康と福祉を」の関連科目。												
授業の方法	各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジュメ）で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。具体的な事例のVTR視聴後にレポート提出を行う。レポートはコメントしてフィードバックする。質問等随時対応する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）										
履修上の注意事項	○20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。 ○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。												

修学サポート（合理的配慮）	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	20%	0%	0%	20%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
50%	20%	0%	0%	20%	10%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱者の心理・生理・病理の理解	心理・生理・病理の理解について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	心理・生理・病理について関心をもって理解し学修できた。	心理・生理・病理についてほぼ学修できた。	心理・生理・病理について不十分ながら理解することができた。	心理・生理・病理について理解できなかった。
病弱者の心理・生理・病理についての思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで多少表現できた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断・表現にできなかった。
病弱者の心理・生理・病理に係る授業への関心・意欲・態度	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが多少参加できた。	授業への参加態度に課題が残った。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・ (科目ナンバリング：SNE122106)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020年	978-4863715486	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱者の心理・生理・病理」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	病弱者と病弱教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	小児慢性特定疾患についての理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	障がいの受容と支援の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	発達段階とプレパレーションの理解と方法について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	腎臓疾患の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	悪性新生物の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
8	こころの病の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	小児の心身症の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	てんかんと脳腫瘍の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	筋ジストロフィーの理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	発達障がいの理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	自立と進路指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	病弱者の「限界への挑戦」について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	緩和ケアとトータルケアの課題について 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	講義内容の重要事項について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 (科目ナンバリング: CHS122073)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の3つを授業の目的とする。  
 1. 保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。  
 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。  
 3. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(4)に対応する。

到達目標

- 子どもを理解する視点について説明する。
- 子どもを理解する上での基本的な考え方について説明する。

授業全体の内容と概要

子どもの実態に応じた発達を理解する視点及び理解する方法について学修する。さらに、発達課題に応じた援助と関わりについて理解を深める。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントを活用し、授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れる。特に各回でテーマを設定し、思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。  
 提出されたレポート及び質問等は、コメントを記入してフィードバックを行う。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。遅刻の場合は、入室可能だが20分以上の遅刻は欠席扱いとみなすので注意すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子ども理解の視点に対する知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)	子ども理解の視点についての知識を深く理解できた。	子ども理解の視点についての知識をおおむね理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解できた。	子ども理解の視点についての知識を多少理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解することができなかった。
思発達課題に関する思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	発達課題に応じた援助について十分に考察できた。	発達課題に応じた援助についておおむね考察できた。	発達課題に応じた援助について考察できた。	発達課題に応じた援助について多少考察できた。	発達課題に応じた援助について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	子ども理解の方法について理解したことをわかりやすく説明できた。	子ども理解の方法について理解したことをおおむね説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを多少説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 (科目ナンバリング: CHS122073)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 保育における子どもの理解の意義 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
4	子どもを理解する視点 子どもの生活や遊び	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	子どもを理解する視点 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	保育計画の意味を理解しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	子どもを理解する視点 子ども相互のかかわりと関係づくり	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す1回目の課題を作成する(90分)。
7	子どもを理解する視点 集団における経験と育ち、葛藤、つまずき	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	子どもを理解する視点 保育の環境の理解と構成、環境の変化・移行	発達心理等発達過程を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す2回目の課題を作成する(90分)。
9	子どもを理解する方法 観察・記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
10	子どもを理解する方法 省察・評価	計画作成の方法をよく読んでおく(90分)。	授業終了時に示す3回目の課題を作成する(90分)。
11	子どもを理解する方法 職員間の対話、保護者との情報の共有	対象年齢と計画の運動性を理解しておく(90分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
12	発達の課題に応じた援助と関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書の評価頁を事前に読んでおく(90分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
14	発達の連続性と就学への支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す4回目の課題を作成する(90分)。
15	子どもの理解に基づく発達援助・まとめ	保育の計画で学んだ事を整理しておく(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(90分)。
16	提出されたレポートの総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222045)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、具現化する。自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索する。オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知る。自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶ。オリジナルのキャラクターを生み出し、立体作品に仕上げる。

授業全体の内容と概要

自分の相棒としてのキャラクターを立体物として生み出す。張り子技法で作成する。完成後、作品を撮影し、発表する。その後、展示を行い講評にてフィードバックする。  
「SDGs 12. つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

授業内容は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後、デジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。共通の材料はこちらで準備する。課題は講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題制作に真剣に取り組むこと。  
ハサミ、カッター、ガムテープ、刷毛、筆、ボウル(入れ物)、は各自で用意すること。  
授業開始から30分で作業の説明をするので遅刻しないこと。  
欠席した場合は次の授業までに同じ段階まで作業を進めておくこと。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数10回以上。  
作品が期日までに完成していること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造の理解	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解し、作品に活かすことができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することに努めた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができなかった。
表現方法	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索し、作品に活かすことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することに努めた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができなかった。
作品への情熱	オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げ、完成度の高い作品ができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げることができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げることに努めた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げることができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222045)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
2	自分の相棒のラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	立体造形 芯づくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	立体造形 芯づくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	立体造形 成形	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	立体造形 成形	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	立体造形 補強	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	立体造形 補強	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	立体造形 着色	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	立体造形 着色	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	立体造形 表面加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	立体造形 表面加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	立体造形 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	立体造形 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	撮影・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	展示・講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 (科目ナンバリング: ECT422027, ECT522030)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マクロ経済学の基本用語や考え方を理解することで、マクロ経済学に関する基礎的な問題が解け、日本のマクロ経済のニュースが自分なりに解釈できる。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(1)(3)に対応する。

到達目標

マクロ経済学の基礎的な用語を説明できる。  
マクロ経済学の基礎的な理論に関する計算問題や図解問題を解ける。  
日本のマクロ経済規模やマクロ経済政策に関するニュースの概要を説明できる。

授業全体の内容と概要

国民所得や三面等価、通貨供給量などのマクロ経済の用語ならびに財市場の均衡理論など、マクロ経済学の基本的な枠組みについてテキストを通じて学ぶ。また、日本のマクロ経済に関する記事や資料を読み、マクロ経済学で学んだことをもとにマクロ経済の動向や政策について考察・解釈する。

授業の方法

各回の計画によって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、マクロ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説する。演習では、マクロ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげて用語を説明するなどの演習問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は試験を除く10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マクロ経済の用語の理解	事例をあげてマクロ経済の用語を明確に説明できた。	事例をあげてマクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語をある程度説明できた。	マクロ経済の用語を説明できなかった。
マクロ経済理論の理解	図や式を利用してマクロ経済学の問題をとき、その結果についてコメントできた。	図や式を利用してマクロ経済学の問題がとけた。	マクロ経済学の基礎的な図や式を正確に書くことができた。	マクロ経済学の図や式をある程度書くことができた。	マクロ経済学の図や式を書くことができなかった。
日本のマクロ経済の理解	日本のマクロ経済や経済政策の動向について概要を説明できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向について概要をある程度説明できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向についてある程度考察できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向について調べることができた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 (科目ナンバリング: ECT422027, ECT522030)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2	『マクロ経済学の基礎(第2版)』	家森信善	中央経済社	2021	9784502371318	
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	マクロ経済学とは ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	マクロ経済学とは何かについて調べる(90分)	マクロ経済学とは何かについてノートにまとめる(90分)
2	日本のマクロ経済について ・経済活動と国民経済計算 ・日本のマクロ経済の動向	国内総生産GDP・月例経済報告について調べる(90分)	国民経済計算とは何かについてノートにまとめる(90分)
3	マクロ経済学の基本要素 ・マクロ経済の3つの面 ・マクロ経済の3つの市場と経済主体	経済の3つの面と経済主体について調べる(90分)	マクロ経済学の基本要素についてノートに整理してまとめる(90分)
4	経済の3面とその関係 ・経済の3つの面と国民所得 ・経済の3つの面の関係	三面等価について調べる(90分)	経済の3つの面の関係をノートに整理してまとめる(90分)
5	財の需要と供給 ・マクロ経済学の記号と式 ・財市場における総需要と総供給の均衡	財市場の均衡について調べる(90分)	財市場の均衡についてノートにまとめる(90分)
6	均衡国民所得 ・国民経済計算 ・所得と消費の関係	消費関数について調べる(90分)	国民経済計算の復習(ノート整理)と演習問題(90分)
7	均衡国民所得の計算 ・均衡国民所得の計算 ・演習:均衡国民所得	均衡国民所得について調べる(90分)	均衡国民所得の計算方法のノート整理と演習問題(90分)
8	有効需要と財政政策 ・有効需要と不況 ・景気対策	有効需要と財政政策について調べる(90分)	財政政策にかんするノート整理と演習問題(90分)
9	均衡国民所得の図解 ・総供給と総需要の図 ・均衡国民所得の図解	45度線分析について調べる(90分)	均衡国民所得の図の描きかたをノートにまとめる(90分)
10	完全雇用と需給ギャップ ・日本の雇用状況 ・完全雇用と完全雇用国民所得	完全雇用について調べる(90分)	完全雇用国民所得の説明をノートにまとめる(90分)
11	需給ギャップと経済政策 ・需給ギャップの復習 ・演習:需給ギャップ	需給ギャップの復習(90分)	需給ギャップにかんする演習問題(90分)
12	投資の決定について ・金利とは ・投資の決定の考え方	金利・期待収益について調べる(90分)	投資決定の考え方についてノートにまとめる(90分)
13	中央銀行と通貨 ・金利の現状 ・通貨と日本銀行	日本銀行について調べる(90分)	通貨と日銀についてノートにまとめる(90分)
14	金融政策と通貨 ・金融政策とは ・日銀と金融政策	金融政策について調べる(90分)	日銀と金融政策についてノートにまとめる(90分)
15	財市場と金融市場のまとめ	これまでの授業ノートを見直し疑問点をまとめる(90分)	不明な点を確認して授業ノートを完成させる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験で間違えた問題に再度とりくむ(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（ｽﾌﾟｰﾀﾞﾝｼﾞ' ﾓﾄｺｰｽ以外）・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホスピタリティマネジメント論（科目ナンバリング：TOS422041）				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井 壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：五ノ井 壽一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業での実務経験を有する教員がその経験を活かし、ホスピタリティについて講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

「ホスピタリティ」が持つ基本的な理念を理解し、現代社会における重要性を学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP（1）（3）（4）に対応する。

到達目標

自らの生活において「ホスピタリティ」の理念を実践できるようにホスピタリティの意義を理解する。

授業全体の内容と概要

観光関連産業をホスピタリティ産業とも呼ぶことがある。基本的な「ホスピタリティ」の意味や歴史などに触れ観光関連産業における「ホスピタリティ」の基本的な実践例を紹介しながら平素の講義を行う。

授業の方法

授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。様々な場面で意見を求めるのでしっかりと自分の意見を述べてほしい。その都度、講義中にフィードバックを行うので今後役に立ててほしい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

最低限の履修マナーを守ること。教科書を必ず持参し、欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視するので予習復習はもちろんのこと積極的に調査研究を行うこと。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。加えて、期日までにレポート提出のない学生は評価の対象としない。ファイナルレポートでネットからのコピー&ペーストを用いた場合、再履修とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	積極的に活動し、様々な媒体を通して調査・研究を行い、自分の意見を構築した。	やや積極性を欠くもののインターネットを中心に研究を行い自分の意見構築を試みた。	インターネットを中心にあとどまり、自分なりの意見を見つけ出すことができなかった。	最低限の研究活動を行うにとどまり、自分なりの意見を見つけ出すことができなかった。	最低限の研究活動が見られなかった。理解度も不十分で終わってしまった。
表現力（レポートについて）	十分な調査に基づいた、極めて優れたレポートを展開し、到達目標を完全に達成した。	それなりの調査に基づいたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標をほぼ達成している。	合格と認められる最低限のレポートで到達目標に対する努力は認められる。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず調査・研究も不十分で到達目標を充足していない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（ホスピタリティ・マネジメント以外）・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホスピタリティマネジメント論（科目ナンバリング：TOS422041）				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井 壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：五ノ井 壽一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業での実務経験を有する教員がその経験を活かし、ホスピタリティについて講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『わかる！使える！ホスピタリティの教科書』	浦部義郎	PHP研究所			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ホスピタリティ入門』	青木義英・神田孝治・吉田道代	新曜社	2015	9784788513365	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・ガイダンス	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
2	ホスピタリティとは	ホスピタリティについて情報を収集しておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
3	おもてなしの原点	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
4	ホスピタリティの文化と歴史（日本）	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
5	ホスピタリティの文化と歴史（海外）	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
6	ホスピタリティとサービスの違い	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
7	ホスピタリティ時代の到来	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
8	真実の瞬間とは	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
9	社会の潮流変化とホスピタリティ	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
10	お客様対応とホスピタリティ	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
11	環境変化とパラダイムシフト	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
12	企業の見えざる資産とは	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
13	今、企業が求めているもの	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
14	ホスピタリアンリーダーの条件	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
15	ホスピタリティの実例（日本国内外の会社） 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事項について調べておくこと（90分）	講義内容の振り返りを行うこと（90分）
16	まとめ（レポートの総評と解説）	講義を振り返り、質問事項があれば整理しておくこと（90分）	総評・解説を受けて、講義全体をふりかえること（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学 (科目ナンバリング: EDP122064, EDU242096, EDP342092, E DP442094, EDU542101)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学生が、教育心理学領域で扱われる理論や専門用語を理解し、それらの知識的枠組みが日常で行われている教育活動の中でどのようにいかされているのかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

教育心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を理解し、説明する。  
教育心理学領域で扱われる理論や専門用語が、日常の教育活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。

授業全体の内容と概要

教育心理学で扱われるテーマのうち、学習、評価、発達(発達障害を含む)、パーソナリティ、臨床心理について講義を行う。それぞれのテーマについて、代表的な理論や専門用語を解説し、それらが日常生活でどのように活用されるのかを考察する。授業では、スライドや板書を活用しながら講義を進める。  
\*SDG4、質の高い教育をみんなにとの関連授業

授業の方法

各回の最後に次回のキーワードを示す。各自、予習としてキーワードの内容を調べたうえで授業に臨むこと。授業では、スライドや板書を適宜活用しながら解説をする。質問には随時対応する。  
授業で使用するスライドはMicrosoft Teamsを用いて共有する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、非常に理解できた。	専門知識について、かなり理解できた。	専門知識について、やや理解できた。	専門知識について、最低限の理解ができた。	専門知識について、最低限の理解ができなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠をよく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げ、その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールに非常に沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにかなり沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールに沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学 (科目ナンバリング: EDP122064, EDU242096, EDP342092, E DP442094, EDU542101)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方、教育心理学とは)	教育心理学で扱う領域について調べる(90分)	教育心理学で扱う内容を振り返る(90分)
2	学習の理論1(古典的条件づけ等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
3	学習の理論2(サイン・ゲシュタルト説等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
4	学習の諸現象(動機づけ等)と評価(絶対評価、相対評価、形成的評価等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
5	学習の過程(発見学習、題解決学習等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
6	集団と評価の歪み(ピグマリオン効果、ハロー効果等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
7	記憶(短期記憶、長期記憶、忘却曲線等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	これまでの学習内容について振り返る(90分)
8	これまでのまとめ(学習、記憶の理論を振り返る)	これまでの学習内容について振り返る(90分)	授業内ワークで理解できなかった箇所を復習する(90分)
9	発達的基础(遺伝説、環境説、相互作用説等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
10	発達の諸理論(認知的発達理論)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
11	発達の諸理論(エリクソンのライフサイクル論)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
12	精神分析と防衛機制	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
13	パーソナリティ理論(類型論と特性論)と代表的なパーソナリティ検査	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
14	配慮を要する子どもの理解と支援	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	これまでの学習内容について振り返る(90分)
15	これまでのまとめ(発達、パーソナリティ、心理的支援を振り返る)授業改善アンケートの実施	これまでの学習内容について振り返る(90分)	提示されたキーワードについて、説明できるように復習する(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。	提示されたキーワードについて、説明できるように準備する(90分)	試験でできなかった問題を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学 (S) (科目ナンバリング: EDP122064, EDU242096, EDP342092, E DP442094, EDU542101)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、教育心理学領域で扱われる理論や専門用語を理解し、それらの知識的枠組みが日常で行われている教育活動の中でどのようにいかされているのかを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。

到達目標

教育心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を理解し、説明する。  
教育心理学領域で扱われる理論や専門用語が、日常の教育活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。

授業全体の内容と概要

教育心理学で扱われるテーマのうち、学習 評価 発達 (発達障害を含む)、パーソナリティ、臨床心理について講義を行う。それぞれのテーマについて、代表的な理論や専門用語を解説し、それらが日常生活でどのように活用されるのかを考察する。授業では、スライドや板書を活用しながら講義を進める。  
「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

各回の最後に次回のキーワードを示す。各自、予習としてキーワードの内容を調べたうえで授業に臨むこと。授業では、スライドや板書を適宜活用しながら解説をする。質問には随時対応する。  
授業で使用するスライドはMicrosoft Teamsを用いて共有する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、非常に理解できた。	専門知識について、かなり理解できた。	専門知識について、やや理解できた。	専門知識について、最低限の理解ができた。	専門知識について、最低限の理解ができなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠をよく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げ、その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールに非常に沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにかなり沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにやや沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学 (S) (科目ナンバリング: EDP122064, EDU242096, EDP342092, E DP442094, EDU542101)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方、教育心理学とは)	教育心理学で扱う領域について調べる(90分)	教育心理学で扱う内容を振り返る(90分)
2	学習の理論1(古典的条件づけ等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
3	学習の理論2(サイン・ゲシュタルト説等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
4	学習の諸現象(動機づけ等)と評価(絶対評価、相対評価、形成的評価等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
5	学習の過程(発見学習、課題解決学習等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
6	集団と評価の歪み(ビッグマリオン効果、ハロー効果等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
7	記憶(短期記憶、長期記憶、忘却曲線等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	これまでの学習内容について振り返る(90分)
8	これまでのまとめ(学習、記憶の理論を振り返る)	これまでの学習内容について振り返る(90分)	授業内ワークで理解できなかった箇所を復習する(90分)
9	発達的基础(遺伝説、環境説、相互作用説等)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
10	発達の諸理論(認知的発達理論)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
11	発達の諸理論(エリクソンのライフサイクル論)	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
12	精神分析と防衛機制	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
13	パーソナリティ理論(類型論と特性論)と代表的なパーソナリティ検査	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	今回の内容をまとめ、疑問点を整理する(90分)
14	配慮を要する子どもの理解と支援	提示されたキーワードについて、内容を調べ、まとめる(90分)	これまでの学習内容について振り返る(90分)
15	これまでのまとめ(発達、パーソナリティ、心理的支援を振り返る)授業改善アンケートの実施	これまでの学習内容について振り返る(90分)	提示されたキーワードについて、説明できるように復習する(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。	提示されたキーワードについて、説明できるように準備する(90分)	試験でできなかった問題を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312013)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)		研究室等所在	アトリエ棟 1階	
単位数	2	(単位認定責任者: 長森 正)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築構造力学の内容を基礎にして、静定トラス・断面の力学特性・応力度・ひずみ度・部材の設計など項目について特徴や解法を学習する。物理学や数学をベースとして基礎知識を修得し、それらに応用する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。弾性状態における応力とひずみの関係を説明でき、それらを計算できる。断面の力学特性を理解し、断面諸量を計算できる。建築施工管理技士及び建築士程度の問題が解けるようになる。

授業全体の内容と概要

内容は静定力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形などである。静定トラスの軸力・部材断面の諸量・ひずみ度・応力度・など事項について演習問題を解きながら講義する。

授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。参考資料無しで演習を解けるように説明する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要。講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復練習)が必要である。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目, 建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
静定トラス・断面諸量の知識	様々なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	様々なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができなかった。
ひずみ度・応力度・部材設計	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算でき、他の人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができ、他人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	2級建築士問題(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	2級建築士問題(構造部門)を解答できた。	建築施工管理技士(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	建築施工管理技士(構造部門)を解答できた。	建築施工管理技士問題(構造部門)を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312013)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技術士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 静定トラス(1)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、演習問題を復習する(90分)
2	静定トラス(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
3	静定トラス(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
4	断面の力学的特性(1) 図心	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
5	断面の力学的特性(2) 断面1次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
6	断面の力学的特性(3) 断面2次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
7	断面の力学的特性(4) 断面係数	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
8	断面の力学的特性(5) 断面2次半径	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
9	ひずみ度と応力度(1) ひずみとひずみ度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
10	ひずみ度と応力度(2) 梁の応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
11	ひずみ度と応力度(3) 弾性係数	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
12	部材の設計(1) 許容応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
13	部材の設計(2) 曲げ材の設計	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
14	部材の設計(3) 組合せ応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験 6.0分の試験終了後、残りの3.0分で解説する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科 1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論 (科目ナンバリング: CHS121077)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 慶知(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 慶知)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。				

概要

履修目標

この科目は、以下の4つを授業の目的とする。  
 1 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育の内容との関連を理解する。  
 2 保育所保育指針の各章のつながり、保育の全体的な構造について理解する。  
 3 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や歴史の変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。  
 4 保育の多様な展開について具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

保育所保育指針をもとに保育の全体構造と保育内容について理解できる。  
 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と保育の多様な展開について理解できる。

授業全体の内容と概要

保育の全体構造と保育内容について学修する。  
 保育の基本を踏まえた保育内容の展開及び保育の多様な展開について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループワークを取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。  
 リアクションペーパーを活用し質問に対する返答等コメントしてフィードバックする。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題の提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の全体構造について、基礎的な知識を深く理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識を理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できなかった。	保育の全体構造について、基礎的な知識の理解が難しかった。
保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できなかった。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをやや説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをやや説明できなかった。	保育の多様な展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科 1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論 (科目ナンバリング: CHS121077)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 慶知(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 慶知)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	ブレーベル	2018	9784577814482	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事(90分)	1回目の講義で理解した事を整理する(90分)
2	保育の内容と歴史的変遷とその社会的背景 保育士の専門性と保育士倫理綱領の解説 保育の現場における安全管理について	保育の歴史の変遷について事前に学習しておく(90分)	2回目の講義で理解した事を整理する(90分)
3	保育者に求められると資質とセルフチェック アンガーマネジメント、子ども観について学ぶ 保育者の専門性と虐待について	保育者に求められる資質について事前に学習する(90分)	3回目の講義で理解した事を整理する(90分)
4	保育指針より保育の基本を学ぶ 養護と教育を一体的に行う保育と子どもの主体性、 環境を涵養して行う保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事(90分)	4回目の講義で理解した事を整理する(90分)
5	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 生活や遊びによる総合的な保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事(90分)	5回目の講義で理解した事を整理する(90分)
6	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 個と集団による発達を踏まえた保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事(90分)	6回目の講義で理解した事を整理する(90分)
7	家庭、地域、小学校との連携や 多様化する保育ニーズへの対応と 特別な配慮を必要とする子どもの保育、多文化共生	多様化する保育ニーズや小学校との連携について事前に学習しておく(90分)	7回目の講義で理解した事を整理する(90分)
8	試験についての事前説明。定期試験60分。 授業改善アンケートの実施。	講義内容を振り返り復習する(90分)	試験の解説に基づき復習し整理する(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング：SNE122107)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を理解できる。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。知的障害教育の歴史の変遷と現状を知り、児童生徒の実態把握の方法、教育課程や指導内容・方法、評価等を具体的な事例や映像等の視聴覚教材を活用し総合的に構成する。\*SDGs4:質の高い教育をみんなにの関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、テーマに関する説明をした後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。ICT活用に関連して、授業についての質問などはチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援学校教諭)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学習することができた。	知識・技能の基礎的内容を学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容についての理解ができなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング: SNE122107)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - 授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、知的障害教育の概要	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	知的障害児教育の歴史 - 戦前の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	知的障害児教育の歴史 - 戦後の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	知的障害の理解と教育の制度について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	学習指導要領と教育課程編成の基本的な考え方について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	実態把握の方法と個別の指導計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	個別の指導計画と授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	知的障害のある子どもの日常生活の指導と遊びの指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	知的障害のある子どもの作業学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	知的障害のある子どもの生活単元学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	知的障害のある子どもの自立活動の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
12	知的障害のある子どもの教科別の指導などについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	知的障害のある子どもの個別的教育支援計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	知的障害のある子どもの交流及び共同学習について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	知的障害のある子どもの学習評価の方法について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング: HUG122126, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

人文地理学の基礎を理解するとともに、地理空間情報の基礎を知り、地域や教育に活用できる考え方の基礎を身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

1. 人文地理学的な見方・考え方を修得する。
2. 地理空間情報及びGISの基礎知識を習得する。

授業全体の内容と概要

近年身近に普及している地理空間情報とGIS(地理情報システム)の基礎と活用方法を学ぶ。その知識を応用し、教育に活かす力を身に付けることを目標とする。またその過程でオープンデータとして公開されている統計情報を活用するスキルを身に付ける。「SDGs4: 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。またPCを利用し、GISソフトを活用した作業を行い、その成果についてディスカッションを行う。作業を行う過程で、政府統計の総合窓口e-Statや地理情報分析支援システムMANDARAの活用方法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(地理歴史)必修科目 (社会)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
地理空間情報・GISスキル	右の記述を高いレベルで実現していた。	地理空間情報およびGISを活用し、たいへんわかりやすく説明ができた。	地理空間情報およびGISを活用し、説明することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができなかった。
資料収集・活用	統計情報等の資料収集を行い、高いレベルで活用し、説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用し説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用することができた。	統計情報等の資料収集を行った。	統計情報等の資料収集を行っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング: HUG122126, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『フリーGISソフトMANDARIN10入門 増補版: かんたん!オリジナル地図を作ろう』	谷 謙二	古今書院	2022	4772281231	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	身の回りのGIS	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地理空間情報とGIS	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	統計情報とオープンデータ	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	統計情報の収集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	統計情報の編集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	統計情報の可視化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	GISの基礎 測地系と座標系	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	GISの基礎 地図の作成	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	GISの基礎 地理空間情報の可視化・地図化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	GISの基礎 地理空間情報の整理	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	GISの基礎 地理空間情報の統合	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	GISの基礎 地理空間情報の活用	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	次回成果発表の準備学修。(90分)
14	地理空間情報の活用成果発表	成果発表の準備学修。(90分)	次回成果発表の準備学修。(90分)
15	地理空間情報の活用成果発表	成果発表の準備学修。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322035)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)、向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1	(単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にてVector Works・ARCHICADを用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

「CAD演習」を受けて本講ではJW-CADより高機能なBIM(Building Information Modeling)であるVectorWorks・ARCHICADの作図操作について学ぶ。設計演習科目に関連する課題を通して、図面表現が単なる「お絵かき」ではなく、「建築製図」として仕上がる段階までCADが設計ツールとして扱えるように修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

3次元CADを使い、自分で計画した建築物が手描き図面のように作図できる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ室にて、VectorWorks・ARCHICADを用いたモデリング・作図操作の演習を行う。設計演習科目に関連する課題を実施し、VectorWorks・ARCHICADを用いて自由にモデリング・作図できるスキルを習得する。

授業の方法

コンピュータ室にて、VectorWorks・ARCHICADの作図操作画面を大型ディスプレイに表示しながら説明し、学生に操作方法を修得してもらう。作図操作に慣れたら、木造またはRC造の設計課題を提示し、まずはエスキスを作成させる。個別にプレゼンしてもらい、それに対して確認と修正指導を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業はコンピュータ室を使うので座席指定をします。USBメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
VectorWorks・ARCHICADを用いて正しいモデルが表現ができる。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、的確で美しいモデル表現が完璧にできた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、的確で美しいモデル表現が8割方できた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、的確で美しいモデル表現がほぼ6割方できた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、モデル表現ができた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、モデル表現ができなかった。
VectorWorks・ARCHICADを用いて正しい作図表現ができる。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、的確で美しい作図表現が完璧にできた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、的確で美しい作図表現が8割方できた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、的確で美しい作図表現がほぼ6割方できた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、作図表現ができた。	VectorWorks・ARCHICADを用いて、作図表現ができなかった。
相手に伝わるプレゼンテーション(レイアウト)ができる。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが完璧にできた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが8割方できた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションがほぼ6割方できた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング: APT322035)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)、向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を基に授業を行う。 設計事務所にてVector Works・ARCHICADを用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『10日間でマスター! VectorWorks(ver.2018/2017対応)』	山川佳伸	エクスマレッジ	2018	9784767825199	
2	『Archicad 26ではじめるBIM設計入門 [企画設計編]』	BIM LABO	エクスマレッジ	2022	9784767830803	
3	『ARCHICAD21ではじめるBIM設計入門 [基本・実施設計編]』	BIM LABO	エクスマレッジ	2019	9784767825946	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 作品紹介 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	VectorWorks・ARCHICAD 基本操作	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	VectorWorks・ARCHICAD 基本操作	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	VectorWorks・ARCHICAD 基本操作	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	作図演習課題1(3階建てビル・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	作図演習課題1(3階建てビル・作図)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
10	作図演習課題1(3階建てビル・レイアウト出力)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
11	作図演習課題2(住宅課題・モデリング)	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
12	作図演習課題2(住宅課題・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
13	作図演習課題2(住宅課題・モデリング)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
14	作図演習課題2(住宅課題・作図)	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
15	作図演習課題2(住宅課題・レイアウト出力)	レイアウト準備(45分)	レイアウト提出(45分)
16	講評会 授業改善アンケートの実施	講評会準備(45分)	振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (A) (科目ナンバリング: ESS323056, SOE423051)				
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校において職業教育を指導する立場の時、職業についての基礎知識・技能を重んじ、個性に応じた進路を選択させる能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

職業についての基礎知識・技能を重んじ、個性に応じた進路を選択させる能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

職業の考え方、職業と社会、個人と職業、職業の選択、職業を生きる、進路指導、職業適性及び検査等について理解し、その指導法を学ぶ。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。また、課題の提出後講義中に解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇	双方向授業
その他(授業の方法参照)			

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。  
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
個性に応じた進路指導方法の修得	個性に応じた進路指導方法について完璧に理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解した。	個性に応じた進路指導方法についてほぼ理解した。	個性に応じた進路指導方法について大體理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解しなかった。
職業の考え方や選び方についての理解	講義の内容から職業の考え方や選び方について完璧に理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方についてほぼ理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について大體理解した。	職業の考え方や選び方について理解しなかった。
職業適性や検査法の理解	講義の内容から職業適性や検査法について完璧に理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について理解した。	講義の内容から職業適性や検査法についてほぼ理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について大體理解した。	職業適性や検査法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (A) (科目ナンバリング: ESS323056, SOE423051)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	職業の意味1(労働分担の原理)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	職業の意味2(欲求の層構造)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	職業と社会	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	個人と職業	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	職業選択1(自己と職業のかかわり)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	職業選択2(レディネス)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	自己理解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	職業適性の概念	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	職業適性検査について	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	職業適性検査の実施1(筆記)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	職業適性検査の実施2(器具)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	職業適性検査の採点・評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	進路指導に関する活動1(位置づけ)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	進路指導に関する活動2(組織)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 (科目ナンバリング：ECP422029, ECP522032)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前相談の上調整か、もしくは研究室前のボードにて確認のこと。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>開拓庁舎の開校に始まる北海道の近代的経済は、本土の政治的・経済的恩恵におおきく左右されつつも、第1次産業やエネルギー産業を主体とする自律的な経済として発展を続けてきた。また1960年代以降、観光産業において顕著な発展を見せ、また70年代以降は情報産業の盛り上がりも見せた。他方で、石炭から石油へのエネルギー転換による相次ぐ炭鉱の閉山、200カイリ問題、そしてパブル崩壊以降の北海道拓殖銀行の破たん等、困難な時期を経験し、さらに現在では、COVID-19の蔓延により、基幹産業となるべき観光業も、インバウンド需要の大きな落ち込みを経験し、危機を迎えている。本講義では、北海道経済の特色を学びながら今後の北海道経済の行方を考えるきっかけを作ることを目的とする。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>経営学科のDP(1)、(2)、(4)に対応する。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>北海道経済の歴史、主要産業、現状について説明することが出来る。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>1. 北海道の地理・歴史          2. 北海道経済の日本経済・世界経済におけるプレゼンス          3. 北海道経済の現状と、ICTパラダイム          4. 北海道経済の今後の課題、進むべき方向を考える</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>パワーポイント資料、DVD、統計資料などを使う。          また外部から講師を招き、講演をしてもらう予定である(第13回講義中を予定)。</p>
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>普段からよく北海道経済について関心を持ち、ニュースや資料を調べておくこと。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定のために必要な出席回数は11回以上</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	30%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道の地理・歴史	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景について、網羅的に理解でき、説明することが出来る。	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景について、理解しており、説明することが出来る。	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景などについて理解、している。	北海道の位置、歴史的背景などについて理解している	北海道の位置、歴史的背景などについて理解が見られない
北海道経済について	北海道経済の特色である第1次産業、北方圏経済、環日本海経済、福祉政策について、良く理解が出来ており、説明できる。	北海道経済の特色である第1次産業、北方圏経済、環日本海経済、福祉政策について、良く理解が出来ている。	北海道経済の特色である第1次産業、北方圏経済、良理解が出来ている。	北海道経済の特色である第1次産業について理解が出来ている。	北海道経済に関する理解が見られない。
北海道経済の今後について	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について、そして各産業が活路を見出そうとしているICT産業の可能性について良く理解し説明することが出来る。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について、そして各産業が活路を見出そうとしているICT産業の可能性について良く理解している。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について、解決策を議論できる。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について理解している。	北海道経済の諸問題について理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 (科目ナンバリング: ECP422029, ECP522032)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『北海道の経済と歴史』	小林好宏	北海道大学出版	2010	978-4832967298	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション 本講義について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを良く読み、講義の進行を良く理解しておく(90分)。	講義で話した年間スケジュールを良く見直す(90分)
2	北海道経済の今	ニュース等で近年話題に上がっている北海道経済に関する問題をピックアップしておく。(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
3	北海道経済の地理・歴史	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
4	北海道経済vs九州経済	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
5	環日本海経済圏と北海道	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
6	「北方圏」の有利・不利	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
7	札幌圏と道東・道北・道南地方	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
8	北海道の社会福祉	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
9	北海道の主要産業1・農林水産業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
10	北海道の主要産業2・観光・スポーツ産業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
11	北海道経済の基本的体質：官庁と民間企業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
12	北海道経済とICTパラダイム1：官民の取り組みと課題	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
13	北海道経済とICTパラダイム2：実際の現場では...	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
14	世界経済の中の「北海道」	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
15	北海道経済はどこへ向かうべきか？	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	試験勉強(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング：SNE123108)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育(知的障害教育)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的知識を習得する。

授業の位置づけ

「社会福祉学科」のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、知的障害教育における教育課程の編成や個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法、自立活動の指導、授業づくりなどを理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を理解する。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、知的障害教育に係わる法令の理解や教育課程の編制の仕方や指導内容・方法について、演習方式も取り入れながら行う。  
「SDGs4:質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。  
ICTに関連して、授業についての質問などは、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援学校教諭)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の専門的な知識・技能の習得	専門的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	専門的な内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	専門的な内容を学修することができた。	専門的な内容について一定程度理解することができた。	専門的な内容について理解できなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング: SNE123108)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育(知的障害教育)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の授業案づくり』	太田正己	黎明書房	2016	978-4-654-01929-8	
2	『特別支援教育の学習指導案と授業研究』	肥後祥治 ほか	ジアース教育新社	2013	978-4-86371-213-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - 授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、知的障害教育について -	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスを確認すること。(90分)
2	知的障害教育に関係する法令(教育基本法や学校教育法、学習指導要領等)の理解と教育課程について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	特別支援学校学習指導要領のポイントと教育動向について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	特別支援学校と特別支援学級における教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	教育課程 - 教育課程編成上の基本事項と指導の形態について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	教育課程 - 各教科等の年間授業時間と各教科等の指導のねらいについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	教育課程 - 各教科等を合わせた指導、教科別の指導等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	教育課程 - 自立活動、年間指導計画の作成について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	教育課程 - 学習指導案の作成 - 各教科等の指導案	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	特別支援教育に関する理解 - 制度と課題、合理的配慮等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	特別支援教育に関する理解 - 教育課程	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
12	特別支援教育に関する理解 - 学習指導要領	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	特別支援教育に関する理解 - 障害児教育の歴史と就学の手続き等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	特別支援教育に関する理解 - 指導法・検査法・心理的特性等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	まとめと今後の課題 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223047)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験に基づいて映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

**履修目標**  
デザインやアートのコンテンツとして映像を捉え、その基本的な撮影・編集技術を学び、制作工程に携わることで、その表現の可能性を知ることができる。

映像制作の過程を通じて、作品の完成度を高めるために必要な要素は何か？ に気付かせ、それを実践できる。映像メディアの必要性、映像ならではの表現を用いることができる。

**授業の位置づけ**  
デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(4)に対応する。

**到達目標**  
映像制作の過程を通じて、作品の完成度を高めるために必要な要素は何か？ に気付かせ、それを実践できる。映像メディアの必要性、映像ならではの表現を用いることができる。

**授業全体の内容と概要**  
映像表現の内容を踏まえ、映像の制作工程とチームワークについて学ぶ。同時に、映像制作のアプリケーションとしてAfterEffectsの操作講習を行い、履修者全員に必要な最低限の技術を身に付けさせる。  
「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

**授業の方法**  
映像表現 で用いたPowerPointと提出されたストーリーボードを用いて、知識の再確認を行う。その後、実技として、作品制作のためのグループを編成し、役割分担を行い、映像制作の工程に沿ったスケジュールを作成し作品の制作を進行する。毎週、グループ毎に進行確認のミーティングやディスカッションを行い、その報告はメールにて提出する。ロケハンやロケのための現地調査・取材は時間外でも良しとする。これと並行して、前半の5週を自習としてAfterEffectsの操作講習を行う。質問には随時対応し、技術的な指導も随時行う。制作完了後は上映会にてプレゼンテーションし、意見交換を行わせて後に全体講評を行う。

**アクティブラーニングの実施方法**

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

**履修上の注意事項**  
映像制作の実技になるので、全授業を通じてチームワークとなる。もちろん、完成作品についての評価はチーム毎になるので、役割分担の際には公平な仕事量を中心掛けることが重要。  
不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b> 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b> 教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

**評価前提条件**  
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「映像の撮影・編集に関する基本的な技術を身に付けている」	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が十分に修得でき、制作時に効果的な応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得でき、制作時に応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術は修得できているが、制作時に応用するまでには至らなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が不完全であり、制作時に用いることができなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力 「映像制作において、グループ内の役割についてその必然性を理解し、自らに与えられた役割を果たすことができる」	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用することができた。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用するよう努力した。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解していたが、知識と技術の活用は十分ではなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解できなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を果たすことができず、携わることができなかった。
主体性・多様性・協働性 「グループ制作作業における全工程を把握し、その中で与えられた工程に取り組みながら、積極的に意見交換をしながら、作品の質を高めるよう心がけることができる」	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルを超えて活動していた。	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルに達していた。	制作グループ内で、与えられた作業には取り組みが積極的だったが、積極性や協働性に於いては求められるレベルには達していなかった。	制作グループ内で、作業への取り組みが消極的であり、協働性については極めて限定的であった。	制作グループ内で、全ての取り組みが不十分であり、責任感に乏しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223047)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明「ストーリーメイク」「リアリズム、オポテュニ	シラバスを一読しておくこと(45分)	グループ設定について代表者が取り纏め、次週の授業開始時までに提出(45分)
2	After Effects の操作講習 「入力-出力」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
3	After Effects の操作講習 「編集」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
4	After Effects の操作講習 「エフェクト」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
5	After Effects の操作講習 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
6	After Effects の操作講習 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
7	映像制作(180sec-) テーマ - コンセプト	グループ内での役割分担と仕事内容について、明確にしておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
8	映像制作(180sec-) シナリオ - 設計	映像表現 の授業内容を再確認すること(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
9	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
10	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
11	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
12	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
13	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
14	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
15	映像制作(180sec-)	微調整や修正のためのミーティングをしておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
16	映像制作(180sec-)発表 授業改善アンケートの実施	プレゼン用のコンセプトシートを纏めておく(45分)	他のグループへの意見や感想を纏めて、既定の日時まで提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経済学概論 (科目ナンバリング: ECT122136, ECT412011, ECT522029)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
経済のニュースや記事を理解するために必要な経済学の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済現象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDPの(1)(3)に対応する。

到達目標
経済の基礎的なしくみや経済学の用語・考え方の要点を理解することで、経済のおもなできごとについて、その概要をニュース等から知ることができる。また、経済現象を解釈して自分なりに説明することができる。

授業全体の内容と概要
経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を教科書と経済資料で学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点を当て、市場における需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1. 貧困をなくそう」に関連するものである。

授業の方法
各回の計画によって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業のなかで、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的として、基礎的な問題の演習と紙もしくはWEB媒体のリアクションペーパーを活用した問いかけをおこなう。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
履修人数によっては座席を指定する場合があります。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は試験を除く10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて経済現象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて経済現象をある程度説明できた。	経済学の考え方をを用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済ニュースの理解	経済ニュースや資料を読み取って適切に説明できた。	経済ニュースや資料を読み取ってある程度説明できた。	経済ニュースや資料を調べて読み取ることができた。	経済ニュースや資料を調べてある程度読み取ることができた。	経済のニュースや資料を読み取ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経済学概論 (科目ナンバリング: ECT122136, ECT412011, ECT522029)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	経済学とは: この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	経済学とは何かを考える(90分)	経済学とは何かノートにまとめる(90分)
2	日本の景気について: ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる(90分)	景気を調べる方法についてノートにまとめる(90分)
3	国内総生産からみた世界経済: ・国内総生産(GDP)とは ・世界の国内総生産(GDP)による世界地域比較	国内総生産について調べる(90分)	地域比較で気付いたことをノートにまとめる(90分)
4	希少な資源と生産活動: ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる(90分)	生産要素と生産活動についてノートにまとめる(90分)
5	経済成長とは: ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる(90分)	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる(90分)
6	経済成長と国民所得: ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる(90分)	経済成長についてノートにまとめる(90分)
7	実質値と名目値: ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる(90分)	実質値と名目値の違いをまとめる(90分)
8	需要と供給の作用: ・価格と需要量、供給量との関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる(90分)	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる(90分)
9	市場経済と価格: ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる(90分)	供給の市場価格への影響をノートにまとめる(90分)
10	10 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさや幸福	経済的厚生の問題について考える(90分)	経済的厚生の問題のまとめ(90分)
11	通貨と中央銀行: ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる(90分)	中央銀行と通貨についてノートにまとめ(90分)
12	日銀の資金供給と金利 ・金利とは ・日銀と資金供給	金利について調べる(90分)	日銀の政策と金利についてノートにまとめ(90分)
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは ・信用創造とは	通貨供給量について調べる(90分)	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる(90分)
14	日銀と金融政策 ・金融政策に关するニュース ・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる(90分)	日銀の金融政策をノートにまとめる(90分)
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認(90分)	ノートの整理(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再挑戦(90分)	わからなかった試験問題の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論 (S) (科目ナンバリング: ECT122136, ECT412011, ECT522029)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済のニュースや記事を理解するために必要な経済学の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のD Pの(2)に対応する。

到達目標

経済の基礎的なしくみや経済学の用語・考え方の要点を理解することで、経済のおもなできごとについて、その概要をニュース等から知ることができる。また、経済事象を解釈して自分なりに説明することができる。

授業全体の内容と概要

経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を教科書と経済資料で学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点をあて、市場での需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ(質問・対話)と演習問題をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、試験を除く10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済ニュースの理解	経済ニュースや資料を読み取って適切に説明できた。	経済ニュースや資料を読み取ってある程度説明できた。	経済ニュースや資料を調べて読み取ることができた。	経済ニュースや資料を調べてある程度読み取ることができた。	経済のニュースや資料を読み取ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論(S) (科目ナンバリング: ECT122136, ECT412011, ECT522029)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	経済学とは: この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	経済学とは何かを考える(90分)	経済学とは何かノートにまとめる(90分)
2	日本の景気について: ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる(90分)	景気を調べる方法についてノートにまとめる(90分)
3	国内総生産からみた世界経済: ・国内総生産(GDP)とは ・世界の国内総生産(GDP)による世界地域比較	国内総生産について調べる(90分)	地域比較で気付いたことをノートにまとめる(90分)
4	希少な資源と生産活動: ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる(90分)	生産要素と生産活動についてノートにまとめる(90分)
5	経済成長とは: ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる(90分)	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる(90分)
6	経済成長と国民所得: ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる(90分)	経済成長についてノートにまとめる(90分)
7	実質値と名目値: ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる(90分)	実質値と名目値の違いをまとめる(90分)
8	需要と供給の作用: ・価格と需要量、供給量との関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる(90分)	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる(90分)
9	市場経済と価格: ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる(90分)	供給の市場価格への影響をノートにまとめる(90分)
10	10 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさや幸福	経済的厚生の問題について考える(90分)	経済的厚生の問題のまとめ(90分)
11	通貨と中央銀行: ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる(90分)	中央銀行と通貨についてノートにまとめ(90分)
12	日銀の資金供給と金利 ・金利とは ・日銀と資金供給	金利について調べる(90分)	日銀の政策と金利についてノートにまとめ(90分)
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは ・信用創造とは	通貨供給量について調べる(90分)	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる(90分)
14	日銀と金融政策 ・金融政策に关するニュース ・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる(90分)	日銀の金融政策をノートにまとめる(90分)
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認(90分)	ノートの整理(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再挑戦(90分)	わからなかった試験問題の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (M) (科目ナンバリング: EDU011015)					
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照					

概要

履修目標
生涯学習についての考え方と具体的な活動の現状から学び、生涯学習の学習者・支援者としての理解を深めるとともに生涯学習について国際化・情報化等の視点から、今後の動向を考察する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標
生涯学習の考え方や歴史などの基礎的知識を身に付け、国内外の実践をとおして、人的支援の支援の在り方や施設等の役割、生涯学習における教育の現代的課題を理解できる。

授業全体の内容と概要
今回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問等は、チャット形式などの支援システムなどで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="radio"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。全学科が同一クラスで授業を行うため、受講に当たっての注意事項を必ず守ること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(全教科)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	10%	0%	20%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	10%	0%	20%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>生涯学習理論等の理解</td> <td>生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。</td> <td>生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。</td> <td>生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。</td> <td>生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。</td> <td>生涯学習理論等について、理解が不十分である。</td> </tr> <tr> <td>生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現</td> <td>生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。</td> <td>生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。</td> <td>生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとする事ができた。</td> <td>生涯学習について、思考活動に一定程度取り組み、表現しようとしていた。</td> <td>生涯学習について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度・姿勢</td> <td>授業に非常に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に関心をもって参加することができた。</td> <td>授業への関心が一定程度みられた。</td> <td>授業への参加態度に課題があった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。	生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとする事ができた。	生涯学習について、思考活動に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。	授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。																								
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとする事ができた。	生涯学習について、思考活動に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。																								
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (M) (科目ナンバリング: EDU011015)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香山正弘 ほか	ミネルブ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『多文化・他民族共生時代の世界の生涯学習』	岩崎正吾	学文社	2018	978-4-7620-2757-4	
2	『生涯学習概論 改訂版』	小林 繁 ほか	エイデル研究所	2020	978-4-87168-613-6	
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習について(復習)	教科書から「生涯学習社会」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	生涯学習を支える思想1 - 生涯学習の学習論と社会的位相	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	生涯学習を支える思想2 - 自己主導的学習論と知識基盤社会における生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	施設に基づいた生涯学習活動1 - 生涯学習施設と社会教育施設、生涯学習推進センターの役割等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	施設に基づいた生涯学習活動2 - 公民館、図書館、博物館、体育施設等の役割	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習にかかわる人的支援1 - 生涯学習支援にかかわる人々	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習にかかわる人的支援2 - 生涯学習支援にかかわる専門職員等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	伝統として息づく日本の生涯学習1 - 生涯学習の先駆的発想と実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	伝統として息づく日本の生涯学習2 - 地域を育てる生涯学習の実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	諸外国の生涯学習1 - イギリス、アメリカ、ドイツ等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	諸外国の生涯学習2 - フランス、デンマーク、ブラジル等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の現代的課題1 - 生きがいづくり、健康、まちづくり等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習の現代的課題2 - 高齢社会、少子化、高度情報化等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習の現代的課題3 - 環境問題、安全・安心な社会づくり等の生涯学習と学習成果の活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習社会の形成と今後の動向 - 生涯学習のまとめ-「これまで」と「これから」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等を整理し、レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する(90分)	試験の結果を見直す(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科、デザイン学科、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング: EDU011015)					
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照					

概要

履修目標

生涯学習についての考え方と具体的な活動の現状から学び、生涯学習の学習者・支援者としての理解を深めるとともに生涯学習について国際化・情報化等の視点から、今後の動向を考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

生涯学習の考え方や歴史などの基礎的知識を身に付け、国内外の実践をとあして、人的支援の支援の在り方や施設等の役割、生涯学習における教育の現代的課題を理解できる。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問等は、チャット形式などの支援システムなどで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
全学科が同一クラスで授業を行うため、受講に当たっての注意事項を必ず守ること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとする事ができた。	生涯学習について、思考活動に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科、デザイン学科、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング: EDU011015)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香山正弘 ほか	ミネルヴァ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『多文化・他民族共生時代の世界の生涯学習』	岩崎正吾	学文社	2018	978-4-7620-2757-4	
2	『生涯学習概論 改訂版』	小林 繁 ほか	エイデル研究所	2020	978-4-87168-613-6	
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習について(複習)	教科書から「生涯学習社会」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	生涯学習を支える思想1 - 生涯学習の学習論と社会的位相	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	生涯学習を支える思想2 - 自己主導的学習論と知識基盤社会における生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	施設に基づいた生涯学習活動1 - 生涯学習施設と社会教育施設、生涯学習推進センターの役割等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	施設に基づいた生涯学習活動2 - 公民館、図書館、博物館、体育施設等の役割	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習にかかわる人的支援1 - 生涯学習支援にかかわる人々	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習にかかわる人的支援2 - 生涯学習支援にかかわる専門職員等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	伝統として息づく日本の生涯学習1 - 生涯学習の先駆的発想と実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	伝統として息づく日本の生涯学習2 - 地域を育てる生涯学習の実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	諸外国の生涯学習1 - イギリス、アメリカ、ドイツ等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	諸外国の生涯学習2 - フランス、デンマーク、ブラジル等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の現代的課題1 - 生きがいづくり、健康、まちづくり等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習の現代的課題2 - 高齢社会、少子化、高度情報化等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習の現代的課題3 - 環境問題、安全・安心な社会づくり等の生涯学習と学習成果の活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習社会の形成と今後の動向 - 生涯学習のまとめ-「これまで」と「これから」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等を整理し、レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する(90分)	試験の結果を見直す(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS122086)				
授業担当者(所属・職名)	浩而魅諭(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 浩而魅諭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験をもち、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室(兼託児)を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で働んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや行動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)、(3)に対応する。

到達目標
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を習得する。 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。

授業全体の内容と概要
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を学修する。 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。

授業の方法
折書で授業を実施し、講義形式で各回のテーマに沿った解説を行う。フィールドワークで自然の造形美に触れる体験を行う。そこから得たことを生かした課題制作を実技形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
指定した用具・用品等、自筆ノート、各自が準備した材料・用材等を持っていくこと。 出席を取り終わった後は欠席とする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。 受講人数や季節、天候、習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。 (その都度説明しますのでご理解ください。) 受講人数を見て、グループでの活動を主体にすることもある。基本的に毎回出席することが大前提。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程などにに基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力をつける。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を十分につけることが出来た。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力が概ねつくれることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力が不十分ではあるがつけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を最低限つけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力が出来ていなかった。
造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力をつける。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を十分につけることが出来た。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を概ねつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力が不十分ではあるがつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を最低限つけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力が出来ていなかった。
発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来る。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが十分にできていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが概ね出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが不十分ではあるが出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが最低限出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS122086)				
授業担当者(所属・職名)	浩而魅諭(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 浩而魅諭)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者を対象にした自然体験型教室(兼託児)を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で悩んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや言動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保育の内容における造形表現とは	あらかじめシラバスの確認をしておく(45分)	授業の流れを理解し全体的見通しをもつ(45分)
2	3歳未満児と造形表現	未満児の発達特性を予習しておく(45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく(45分)
3	3歳以上児と造形表現	3歳以上児の発達特性を予習し、フィールドワークの準備をする。(45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく。(45分)
4	造形表現のための基本技法	フィールドワークの準備をしておく。(45分)	自然素材の保育現場での可能性について考える。(45分)
5	造形表現のための基本技法	身近に小さい子がいる環境ならば、どんなことに心がけるか聞いておく。どんな絵を描いているか見せてもらう。(45分)	近隣の児童会館には子育てサロンを開設しているところが多々ある。多くは未就園児とその保護者が対象だ。可能であれば見学させてもらうのも良い。
6	造形表現のための基本技法	既存の造形表現に触れておく。(45分)	既存の造形表現を味わい自己に取り入れ活かしていく。(45分)
7	造形表現のための基本技法	フィールドワークの準備をしておく。(服装、道具)(45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく(45分)
8	造形表現のための基本技法	フィールドワークの準備をしておく(服装、道具)(45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく。(45分)
9	造形表現のための応用技法	雪の可塑性について予習しておく(45分)	雪の特性を生かした造形表現について考える(45分)
10	造形表現のための応用技法	雪の量塊感を持って表現することについて考える(45分)	身近な素材である雪の持つ造形表現の可能性についてまとめる(45分)
11	造形表現のための応用技法	フィールドワークで感じ取ったことをまとめておく(45分)	思いをどう表現していくか考える(45分)
12	造形表現のための応用技法	フィールドワークで集めた素材を準備しておく(45分)	フィールドワークで感じた気持ち、膨らんだ思いをどう表現すれば良いか考える(45分)
13	造形表現のための応用技法	自分の作品を客観的に見つめる。思いが表れているか。足りないことは何か。(45分)	作品を客観的に見つめる。(45分)
14	さまざまな造形表現と保育の環境 1	自分の作品を客観的に見つめる。工夫する箇所はないか考える。(45分)	作品を客観的に見つめる。完成していなければ完成させておく。(45分)
15	さまざまな造形表現と保育の環境 2	自分の作品についてどう発表するか考えておく。(45分)	他の学生の作品に触れると、多様な価値観、表現を感じ取る。(45分)
16	講評 授業改善アンケートの実施	他者からの意見、感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。(45分)	講評を通じて感じたことを、以後の作品に反映させていくことを考える。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT312019)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常生活をとりまく建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が多く、生活環境・社会構造の変化とともに、より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令他、関係法令からまちづくりや住まいづくり、建築のデザインに関わる法令法規について学習し、住宅やまち・都市を取り巻く今日的課題と法整備の状況を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(3)に対応する。

到達目標

建築基準法に定める集団規定の持つ意義や規定を理解し、都市デザインに密接な係わりを持つ道路と敷地・用途地域・各種高さ制限などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。  
「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストも行い、解説することでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

法令集と赤ペン、青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画区域等における建築物の敷地、用途、建築物等の理解	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができなかった。
都市計画区域等における建築物の接する道路等の理解	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT312019)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築基準法関係法令集 2023』	日建学院編	建築資料研究社	2023	4863588356	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。建築基準法と都市計画法 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規 の振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市と道路	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	用途地域・実例で見る建築用途制限の詳細	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	許可申請の手続き	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	容積率1-敷地の容積率の限度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	容積率2-建築物の容積率の緩和・特定道路・地区計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	容積率3-天空率の計算と実例	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	都市計画図と建ぺい率	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	斜線制限(道路斜線制限・隣地斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	斜線制限(北側斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	斜線制限(その他の高さ制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	斜線制限と緩和規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	日影規制	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	日影図(含 CADによるシミュレーション)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法と倫理2 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング: MAN413005, MAN523014/2023年度以降 MAN423005)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標
------

現実的・実践的なマーケティング論を学ぶことにより、マーケティング的な思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の中で活用できるようになる。

授業の位置づけ
---------

経営学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標
------

戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。

授業全体の内容と概要
------------

戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、その中で用いられる具体的な理論、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。

授業の方法
-------

パワーポイントによるプロジェクト投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

15分以上の遅刻・途中退席は欠席扱いとする。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスの理解	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング: MAN413005, MAN523014/2023年度以降 MAN423005)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 経営戦略の基本コンセプト 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	全社戦略と事業戦略 SCPモデルと5フォース分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	マイケル・ポーターの3つの基本戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	業界内のポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	バリューチェーン	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	事業ドメイン 全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	VARIO	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	SWOT分析(1)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	SWOT分析(2)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	PPM	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	アンゾフのマトリックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	PDCA KPI	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	イノベーションと経営戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	ブルーオーシャン	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	アライアンスとM&A	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 (SP) (科目ナンバリング: MAN413005, MAN523014, 2023年度以降MAN423005)				
授業担当者 (所属・職名)	鈴木 重政 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標
------

現実的・実践的なマーケティング論を学ぶことにより、マーケティング的な思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の中で活用できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(3)に対応する。

到達目標

戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。

授業全体の内容と概要

戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、その中で用いられる具体的な理論、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクト投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻・途中退席は欠席扱いとする。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスの理解	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解している。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論（SP） （科目ナンバリング：MAN413005，MAN523014 2023年度以降MAN423005）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 （単位認定責任者：鈴木重政）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 経営戦略の基本コンセプト 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
2	全社戦略と事業戦略 SCPモデルと5フォース分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
3	マイケル・ポーターの3つの基本戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
4	業界内のポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
5	バリューチェーン	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
6	事業ドメイン 全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
7	VARI0	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
8	SWOT分析（1）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
9	SWOT分析（2）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
10	PPM	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
11	アンゾフのマトリックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
12	PDCA KPI	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
13	イノベーションと経営戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
14	ブルーオーシャン	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
15	アライアンスとM&A	今回の授業に必要な準備学習を行う。（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。（90分）	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング:PSS123038)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者:伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(3)(5)に対応する。

到達目標

1. 精神医学、精神医療の歴史を説明する。2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3. 代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要

精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。

授業の方法

講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。  
筆記試験で規定の成績を得たもの。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング:PSS123038)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東・隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 第1巻 精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会＝編集	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
2	代表的な精神障害 成人の人格および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
3	代表的な精神障害 精神遅滞	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
4	代表的な精神障害 心理的発達障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
5	代表的な精神障害 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
6	代表的な精神障害 神経系の疾患(てんかんを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
7	治療法 身体的療法 薬物療法とその副作用	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
8	治療法 身体的療法 電気ショック療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
9	治療法 精神療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
10	治療法 環境・社会療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
11	治療法 精神科リハビリテーション	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
12	病院精神医療(身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
13	精神科救急医療(インフォームドコンセントを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
14	地域精神医学	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
15	まとめ	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと(90分)	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS122084)				
授業担当者(所属・職名)	小黒 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黒 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	非常勤教員 入力例: 事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(3)(4)(5)に対応する。
到達目標
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識、技術である音楽表現ができる。身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境づくりを実践することができる。

授業全体の内容と概要																					
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。 *SB04. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。																					
授業の方法																					
教科書や板書を用いて説明を行い、実技を通して保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。質問や相談に対して随時応答する。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
準備学習において、しっかりしたイメージをもって授業に臨むよう準備すること。限られた授業時間なので、事後学習として各個人でトレーニングを行うこと。災害等不測の事態によりオンラインで授業する場合もある。																					

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	30%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	30%	10%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>福祉・保育における関心、意欲及び授業態度</td> <td>子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。</td> <td>子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。</td> <td>子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。</td> <td>子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。</td> <td>子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することが難しかった。</td> </tr> <tr> <td>音楽の基礎知識と理解</td> <td>音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。</td> <td>音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。</td> <td>音楽の基礎的な知識を理解できた。</td> <td>音楽の基礎的な知識を多少理解できた。</td> <td>音楽の基礎的な知識を理解することが難しかった。</td> </tr> <tr> <td>音楽表現における技術と演習</td> <td>保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得していた。</td> <td>保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得していた。</td> <td>保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得していた。</td> <td>保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得していた。</td> <td>保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することが難しかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することが難しかった。	音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することが難しかった。	音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することが難しかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することが難しかった。																								
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することが難しかった。																								
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することが難しかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS122084)				
授業担当者(所属・職名)	小黑 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黑 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『改訂 ユニバーサルデザインの音楽表現』	星山麻木	萌文書林	2018年	978-4893472854	
2	『保育者のためのピアノ基礎』	井口太 / 筒井かほる	朝日出版社		9784255156286	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 保育の内容「表現」の中の音楽表現について	シラバスを確認すること(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
2	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
3	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
4	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
5	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
6	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
7	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
8	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
9	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
10	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
11	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
12	てあそび歌, わらべ歌	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
13	てあそび歌, わらべ歌	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
14	てあそび歌, わらべ歌	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
15	音楽表現のまとめ	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
16	定期試験 60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行います。	教科書を読み学習しておくこと(45分)	解説を受けて, 講義全体のふりかえりを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223051)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コンピュータプログラムを用いメディアアート制作の基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

メディアアート作品を創作するための基礎技術を修得することができる。

授業全体の内容と概要

メディアアートの現状を紹介し、実施にプログラム(Processing)を学び、各自のメディアアート作品を創作する。

授業の方法

授業では、各ステップの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

デジタルデザインを履修済みであること。  
遅刻・欠席すると次の授業の理解が難しくなるので注意すること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プログラムのコーディングの理解	学んだコーディングを理解し、自ら学習して、更に理解の向上に努めていた。	学んだコーディングを理解していた。	学んだコーディングを概ね理解していた。	学んだコーディングを最低限理解していた。	学んだコーディングを理解できなかった。
プログラムの操作スキル	学習したプログラムを適切に使うことができ、応用するkとができた。	学習したプログラムを適切に使うことができた。	学習したプログラムを概ね使うことができた。	学習したプログラムを最低限使うことができた。	学習したプログラム使うことができなかった。
メディアアート作品の制作	オリジナルのメディアアート作品を制作することができた。	学習した内容を応用して、メディアアート作品を制作することができた。	学習した内容の知識でメディアアート作品を制作することができた。	非常に簡単なメディアアート作品を制作することができた。	メディアアート作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223051)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「Processingをはじめよう 第2版」』	Casey Reas, Ben Fry	オライリー・ジャパン	2016	9784873117737	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明 メディアアートとは	シラバスを読んでおくこと。メディアアートについて調べておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	Processingの基礎	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	計算と変数について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	繰り返しとランダムについて	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	条件分岐命令について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	データの読み込みと画像の取り扱い	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	変換について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	関数について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	アニメーション	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	配列	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	オリジナルメディアアート作品の制作 1	作品の構想を完成させること (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
12	オリジナルメディアアート作品の制作 2	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
13	オリジナルメディアアート作品の制作 3	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
14	オリジナルメディアアート作品の制作 4	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
15	プレゼンテーション	プレゼン用レジュメの準備をすること (90分)	フィードバックするので、自己評価をすること (90分)
16	作品講評 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う (90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322042)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前半では、建築図面の基礎的立体表現として陰影とアクリソメ図の課題に、後半ではこれらの手法を統合させた課題に取り組む。立体表現の課題では基本的技術を習得し、応用課題では表現の多様性を理解するとともに実践し技術を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

立体表現の基礎技術力ならびに応用力を養うとともに、表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題製作、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	0%	15%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と、可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。	基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身につけようとする姿勢がみられた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をおおむね身につけることができた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができなかった。
表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解する。	対象以外の建築にも興味を持ち、建築作品、設計者について進んで調べることができた。	対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。	建築作品ならびに設計者について理解できた。	建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。	建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。
講評会を通して、自分の作品及び他社の作品に対する客観的に受け止め理解し、批評をもちに作品を客観視する力を修得する。	自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解できた。	自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。	自己の作品に対する評価を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322042)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	陰影表現1(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
3	陰影表現2(配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	陰影表現3(断面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(立面図・配置図・断面図)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
6	アクソメトリクスの図法解説	授業資料の確認(45分)	授業資料の復習(45分)
7	アクソメトリクスの表現1(外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	アクソメトリクスの表現2(内観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
9	アクソメトリクスの表現3(外観+内観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	講評会(アクソメトリクス 外観・内観)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
11	可塑的素材を使用した模型の説明と制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	一点図法(内観表現)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	二点図法(外観表現)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(可塑的素材を使用した模型, 透視図)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営スポーツコース）・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法（科目ナンバリング：DMB543120/2023年度以降DMB443135）				
授業担当者（所属・職名）	若林 利行（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：若林 利行）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割を理解し、学習指導の基本・実務の事項を修得する。また、保健体育科の授業を行ったための必要な知識と指導技術について修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP（1）（2）（4）（5）に対応する。

到達目標

中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

授業全体の内容と概要

カリキュラムマネジメントに基づいて各回のテーマに反って授業の検証を行なって質の高い講義をするとともに、主体的・実践的・具体的な理解を可能とするように考察・討論・発表などの活動を行う。  
授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。  
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

学校教育の動向、中学校及び高等学校の保健体育科の学習内容に関してはパワーポイント及び学習指導要領解説を用いながら行い、授業づくりについてはグループワークを行いながら検討し、最終的に模擬授業を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後10分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による3回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

復習を中心に毎回の授業内容を自分で保健体育の授業づくりに応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保できるようにする。授業づくりに係る学習指導案作成、教材作成と模擬授業を実践できる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	20%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中学校及び高等学校保健体育科教育の目的・目標と評価との関わりについて理解する。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を基に明確に整理することができていた。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を参照しながら必要な情報を選択することができていた。	保健体育科の目標と評価の観点について、学習指導要領解説、教科書を参考にしながら説明できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について列挙できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について想起することができていなかった。
中学校及び高等学校保健体育科教育に関する学習指導の基本・実務の事項について理解する。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに必要な情報と関連づけながら根拠を持って説明し、学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに必要な情報を列挙しながら学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、学習指導要領解説から学年ごとに抜き出して整理することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について列挙することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について想起することができていなかった。
保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術を用いて授業実践できる。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考に作成した学習指導案や教材を作成して模擬授業を実践できるとともに、他者の授業に対しても批判的視点で評価することができていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考に作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できるとともに、他者の授業および教材と比較し、違いについて理解できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考に作成した学習指導案および教材を使用して模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考に作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考に作成した学習指導案を作成、模擬授業を実践できていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営スポーツコース）・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法（科目ナンバリング：DMB543120/2023年度以降DMB443135）				
授業担当者（所属・職名）	若林 利行（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：若林 利行）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説・保健体育編 - 』	文部科学省	東山書房	平成30年	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領解説・保健体育編 - 』	文部科学省	東山書房	平成31年	9787-4-8278-15689-9	
3	『最新 中学校保健体育』	友添秀則、衛藤 隆 著者代表	大修館	令和3年		
4	『現代高等保健体育 改訂版（高等学校・保健の教科書）』	高橋健夫 著者	大修館	平成27年	978-4-4-469-66276-4	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 ガイダンス、保健科教育の意義と目的	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	保健科教育の変遷	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	「保健」の担当教師に求められる能力	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	保健科教育の内的・外的条件	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	保健科教育の目標	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	「保健」の学習内容	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	保健学習を効果的にすすめるための教材作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	保健学習の評価	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	学習指導案の作成 学習指導の様式と指導計画	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	学習指導案の作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	学習指導案の作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	学習指導案の作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -、 講義のフィードバック 授業改善アンケートの実施	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年（留学生対象）		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	上級日本語（科目ナンバリング：JLN054038）				
授業担当者（所属・職名）	竜野 征一郎（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：竜野 征一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標	<p>教養力と語学力を幅広く身に付け、日本における実社会で活躍するための高度な日本語スキルを修得する。それぞれの場面に合った日本語の表現方法を学び、円滑な会話やコミュニケーションに必要な能力を身に付ける。</p>
授業の位置づけ	<p>経営学科のDP（2）に対応する。          社会福祉学科のDP（2）に対応する。          デザイン学科のDP（2）に対応する。          建築学科のDP（2）に対応する。</p>
到達目標	<p>様々な文章を読み、ディスカッションや発表などの活動を通して、総合的な日本語運用能力を身に付ける。</p>

到達目標	<p>様々な文章を読み、ディスカッションや発表などの活動を通して、総合的な日本語運用能力を身に付ける。</p>
------	---

授業全体の内容と概要	<p>様々な文章を読み、内容および日本語の表現について理解を深めるとともに、ディスカッションや発表などの活動を行うために必要な表現・構成についても学習を行う。日本語能力試験N1レベル相当以上の内容を取り扱う。</p>
------------	--

授業の方法	<p>授業では主にプリントなどを用いながら、ディスカッションや発表などを学習活動に取り入れて講義を行う。指定された課題を作成してもらうほか、レポート作成など、自主的に行い、提出したものがあれば評価の対象とする。また、受講者数に応じてグループワークおよびグループ発表を行う場合がある。</p>
-------	---

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	<p>受講対象者は留学生とする。前期に開講される上級日本語を受講していることを前提とする。受講者の発表や意見交換に向けて、資料の用意や課題作文など積極的に取り組むこと。また、事前に配布される資料には必ず目を通しておくこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
----------	---

修学サポート（合理的配慮）	<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	<p>単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。出席状況、課題提出、発表能力、試験、授業への参加態度など総合的に判断する。</p>												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	50%	0%	15%	5%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	30%	50%	0%	15%	5%								

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文章理解	テキストに関する一般的な背景知識および具体的な論理情報を使用しながら、筆者の主張についてより複雑な推論を行うことができた。	筆者の主張について、一般的な背景知識も考慮しながら基礎的な推論を行うことができた。	テキストの内容を理解し、その構造や特徴、筆者の主張についても理解できた。	テキストの内容を理解し、別の言葉で説明したり、要約することができた。	テキストの内容について、理解できなかった。
日本語表現	クラス内で用いられた日本語表現について、意味や使用場面について理解し、発表や課題作文内で実際に用いることができた。	クラス内で用いられた日本語表現について、意味や使用場面について理解し、適切に使用することができた。	クラス内で用いられた日本語表現について、それぞれの表現の意味を理解し、各日本語表現の使用場面が理解できた。	クラス内で用いられた日本語表現について、それぞれの表現の意味を理解できた。	クラス内で用いられた日本語表現について、理解できなかった。
発表	聞き手に配慮された多様な資料を用いた、主張内容が明確な発表を行うことができた。適切な引用により、内容に具体性があり、説得力があった。	聞き手に配慮された多様な資料を用いた、主張内容が明確な発表を行うことができた。また、主張内容が資料と一貫性のあるものだった。	適切な資料を用いながら、主張内容が明確な発表を行うことができた。	主張内容について、関連性のある資料を用いながら、理解可能な発表を行うことができた。	話し方や発表資料が適切でなく、主張が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年(留学生対象)		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	上級日本語 (科目ナンバリング: JLN054038)				
授業担当者(所属・職名)	竜野 征一郎(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 竜野 征一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『学生の能力と興味に応じて教材を指定・作成する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『参考文献・文献類は授業中にプリント等を用い随時紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション (シラバスの説明および今期の授業目的と進め方について解説・プレースメントテスト・実力確認を含む)	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと授業では主にプリントなどを用いながら、ディスカッションや発表などを学習活動に取り入れて講
2	上級表現練習(1)トピック 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
3	上級表現練習(2)トピック 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
4	上級表現練習(3)トピック 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
5	上級表現練習(4)トピック 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
6	上級表現練習(5)トピック 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
7	上級表現練習(6)トピック 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
8	上級表現練習(7)トピック 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
9	上級表現練習(8)トピック 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
10	上級表現練習(9)トピック 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
11	上級表現練習(10)トピック 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
12	上級表現練習(11)トピック 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
13	上級表現練習(12)トピック 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
14	上級表現練習(13)発表と質疑応答	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
15	上級表現練習(14)まとめ	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと(90分)
16	解説およびフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体の内容についてふりかえりを行うこと(90分)	解説およびフィードバックを受け、講義に関してより理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング: BSM313017)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人命を預かる建築物を造り出す過程において、建築が社会に果たす意味や役割を考える力を養う。さらに、建築士試験の「建築施工」および建築施工管理技士試験に対応した基本事項の理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。

到達目標

設計図書には詳しく表現されていない建築施工の各工程を学び、施工管理者としての実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士試験を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	10%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築施工」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング: BSM313017)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	事前準備: 地盤調査	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	仮設工事計画: 仮設建物・工作物	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	地下工事: 土工事・山留め工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	地下工事: 基礎工事(直接基礎および各種杭基礎)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	鉄筋コンクリート工事: 鉄筋工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	鉄筋コンクリート工事: 型枠工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	鉄筋コンクリート工事: コンクリート工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	鉄筋コンクリート工事: プレキャスト・ブロック工事・ALC工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	鉄骨工事: 鉄骨の種類と加工	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	鉄骨工事: 鉄骨の接合方法・溶接接合	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	鉄骨工事: 鉄骨の接合方法・高力ボルト接合	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	鉄骨工事: 工事現場作業(工事現場作業工程等)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	木質系工事: 木造の接合部・造作工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	木質系工事: 小屋組と工法・枠組壁工法	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う) 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122113)				
授業担当者(所属・職名)	室岡 弘明(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：室岡 弘明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元道立聾学校・高等聾学校の校長としての学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標	聴覚障害者の心理・生理・病理面からの考察を基盤として、我が国の聴覚障害教育の全体像を把握するとともに、聴覚障害児の発達と各段階における教育内容・方法について理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。																								
到達目標	聴覚障害の特性と発達及び教育内容の特徴を理解し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。																								
授業全体の内容と概要	聴覚障害の特性をおさえた上で、聴覚障害の種類・程度による発達の特性及びコミュニケーション能力と環境との関係性について具体的な事例を取り入れて構成する。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。 *SDGs10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目																								
授業の方法	授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてグループ発表、レポート提出を行う。なお、レポートは評価並びにコメントを記入し、フィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	教職科目(特別支援教育)であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	40%	0%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
50%	40%	0%	0%	10%	0%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
聴覚障害の特性と教育内容の習得	聴覚障害教育に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	聴覚障害教育に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能の習得や、その内容説明ができなかった。
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 (科目ナンバリング: SNE122113)				
授業担当者(所属・職名)	室岡 弘明(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 室岡 弘明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 元道立聾学校・高等聾学校の校長としての学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『聴覚障害教育の基本と実際』	中野善達	田研出版	2008	978-4860890186	
2	『聴覚障害教育の手引』	文部科学省	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-562-2	
3	『聴覚障害教育のこれまでとこれから』	脇中起余子	北大路書房	2009	978-4762826900	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 耳の役割(聴覚障害とは)	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	特別支援学校(聾学校)の教育の実際	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	聴覚障害児が受ける教育の場	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	聞こえのしくみと聴覚障害の種類	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	聞こえと聴力検査の実際	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	オーディオグラムと聴力型	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	補聴器と人工内耳	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	聴覚障害児の発達の特性(発達と心理)	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	聴覚障害幼児の言語発達	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	聴覚障害教育の歴史的経過(1)-欧米について	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	聴覚障害教育の歴史的経過(2)-日本について	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	聴覚障害教育における教育課程	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	聴覚障害者のコミュニケーション手段	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	聴覚障害教育の実際	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	保護者への支援,まとめ	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	試験(60分)、授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング: ACC423024, ACC523026)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

適正な経営の意思決定を行うことができるようにマーケティングと経営戦略に会計をミックスし、経営の総合力をつける。戦略的な予算を策定することができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(3)に対応する。

到達目標

会計情報をもとに経営戦略と予算を策定できる基本能力を有する。

授業全体の内容と概要

テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法

毎回プリント(ケース)を配布し、講義内容の管理会計における位置づけを説明し、本題に入る。双方向授業を活用して、学生から意見を発言してもらう。講義の最後にミニテストを実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。原簿計算論を履修済みであることが望ましい。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
CVP分析を用いた分析を行うことができ、経営戦略を策定できる。	CVP分析を用いた経営戦略(販売価格決定、固定費、変動費の設定)ができた。	CVP分析を用いて、目標利益を達成するための営業料を算定することができた。	CVP分析を正しく行うことができた(損益分岐点の算定)。	固定費と変動費の分析ができ、CVP分析を正しく行うことができた。	固定費と変動費の区分ができず、CVP分析を正しく行うことができなかった。
マーケティングと経営戦略を合わせた予算策定	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正な経営戦略と予算編成ができた。	経営戦略を達成するための予算を策定することができた。	PPMと5force分析から経営戦略の策定ができた。	SWOT分析とPPTを行うことができた。	SWOT分析ができなかった。
全社戦略を策定することができない	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正なM&A計画を策定することができた。	M&A、多角化における資産評価と投資価値の算定を行うことができた。	DCF(ディスカウントキャッシュフロー)法を用いて全社戦略を策定することができた。	全社戦略について理解していた	全社戦略について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング: ACC423024, ACC523026)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明など) 企業経営と管理会計の目的 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	管理会計のフレームワーク	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	管理会計の歴史	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	ABC・ABM	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	ERPパッケージ	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	戦略評価、DCF法	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	事業戦略・全社戦略	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	製品開発	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	短期利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	予算管理	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	生産管理	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	事業部制会計	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	研究開発	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	投資計画、M&A	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業改善アンケートの実施	総復習(90分)	総復習(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: DMB543121/2023年度以降DMB443136)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の各領域の特性に応じた指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態を視野に入れた効果的な授業を設計することができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。  
 ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につけるとともに、多様な評価方法の在り方を理解する。  
 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等をを使用して説明を行う。  
 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等一連の活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・講義で配布するプリント類はファイル等の整理と保管し必要時に参照できるようにすること。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(9割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(8割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(7割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程について理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(9割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(8割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(7割)	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。(9割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。(8割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。(7割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	知識と指導技術が身につけられず指導案の作成ができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: DMB543121/2023年度以降DMB443136)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法 に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2022	9784487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆 他	大修館書店	2022	9784469663198	
5	『[指導と評価の一体化]のための学習評価に関する参考資料 中学校「保健体育1」』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 今、求められている体育教師とは	理想の体育教師像とはどのような教師なのか考えておく。(90分)	まとめられる体育教師像で、自身が不足していることをまとめる
2	体育授業で取り上げる内容・領域について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
3	体づくり運動の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
4	器械運動の特性と情報機器を活用した授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
5	陸上競技の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
6	水泳の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
7	球技(1)ネット型の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
8	球技(2)ゴール型の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
9	教球技(3)ベースボール型の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
10	武道(1)柔道の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
11	武道(2)剣道の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
12	ダンスの特性と情報機器を活用した授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
13	体育理論の指導内容と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
14	指導案の作成方法について(その1)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
15	指導案の作成方法について(その2) 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容を復習(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ中学体育2022』	高橋 健夫 他	大修館書店	2020		
2	『ステップアップ高校スポーツ2022』	高橋 健夫 他	大修館書店	2020		
3	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2018		
4	『高等学校学習指導要領平成30年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2019		
5	『体育科教育入門 三訂版』	岡出美則、友添秀則、岩田靖	大修館書店	2016		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法 (M) (科目ナンバリング: LAW122132, LAW423035, LAW522036)				
授業担当者 (所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 細川 光法)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

国際社会のルールが国際法である。国際法は国際社会を構成する各々が遵守すべき法である。国際社会の秩序維持に欠かすことのできない国際法についての関心を深め、国際社会のルールについて学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP (1)、(2)に対応する。

到達目標

「国際社会の平和と安全」を維持するための国際法について理解を深め、更に高度な知識を得るための基礎をつくる。

授業全体の内容と概要

国際法の存在意義について考え、国際法に関する基礎知識の習得を目指す。  
 「SDG 16. 平和と公正をすべての人に」の関連科目。

授業の方法

板書、プリントなどを用い、講義形式・学生参加型授業を実施する。 レポートの解説等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他 (授業の方法参照)

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為 (私語など) をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート (合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は15回の授業のうち10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割未満。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦勞していた。	思考力・表現力共に弱かった。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法（M） （科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，LAW522036）				
授業担当者（所属・職名）	細川 光法（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者：細川 光法）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『はじめての国際法 第3版』	尾崎 哲夫著	自由国民社	2016年	9784426122775	
2	『よくわかる国際法 第2版 やわからアカデミアム・<わかる>シリーズ』	大森 正仁編著	ミネルヴァ書房	2014年	9784623069781	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関する事，その他授業に関するガイダンス。（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読むこと。（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
2	国際公法と国際私法	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
3	国際法の主体と法源	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
4	国際法の歴史	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
5	条約、条約の改定・修正	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
6	国際紛争と法的解決	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
7	日米間の条約と問題点	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
8	北方領土問題の歴史的経緯と法的問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
9	国家領域「領土」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
10	日本の領土問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
11	国会領域「領海」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
12	領空と国際空域	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
13	宇宙空間	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
14	国際連合の成立とその役割	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
15	国際法と個人の関係	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
16	総合評価、定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認（90分）	試験の内容を復習（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法（S）（科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，LAW522036）				
授業担当者（所属・職名）	細川 光法（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：細川 光法）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

国際社会のルールが国際法である。国際法は国際社会を構成する各々国家が遵守すべき法である。国際社会の秩序維持に欠かすことのできない国際法についての関心を深め、国際社会のルールについて学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP（1）、（2）に対応する。

到達目標

「国際社会の平和と安全」を維持するための国際法について理解を深め、更に高度な知識を得るための基礎をつくる。

授業全体の内容と概要

国際法の存在意義について考え、国際法に関する基礎知識の習得を目指す。  
「SDG 16. 平和と公正をすべての人に」の関連科目。

授業の方法

板書、プリント等を用い講義形式・学生参加型授業を行う。 レポートの解説等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会）選択科目、教職課程（公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は15回の授業のうち10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割未満。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えることに苦勞していた。	思考力・表現力共に弱かった。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法（S） （科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，LAW522036）				
授業担当者（所属・職名）	細川 光法（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者：細川 光法）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『はじめての国際法 第3版』	尾崎 哲夫著	自由国民社	2016	9784426122775	
2	『よくわかる国際法 第2版 やわからアカデミアム・<わかる>シリーズ』	大森 正仁編著	ミネルヴァ書房	2014	9784623069781	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関する事，その他授業に関するガイダンス。（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読むこと。（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
2	国際公法と国際私法	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
3	国際法の主体と法源	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
4	国際法の歴史	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
5	条約、条約の改定・修正	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
6	国際紛争と法的解決	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
7	日米間の条約と問題点	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
8	北方領土問題の歴史的経緯と法的問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
9	国家領域「領土」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
10	日本の領土問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
11	国家領域「領海」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
12	領空と国際空域	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
13	宇宙空間	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
14	国際連合の成立とその役割	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
15	国際法と個人の関係	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる（90分）	授業中に学んだことを復習。（90分）
16	総合評価、定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認（90分）	試験の内容を復習（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング: AEN322057)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近年、ユニバーサルデザインに関する情報の量は目覚しく増大し、その考え方を反映したものが数多く開発・生産・販売されている。「ものづくり」をとおして共生社会実現のための理解を深めるため、指定した単位空間を対象にその実測調査をおこない、そこから既存施設の問題点を明らかにし、ユニバーサルデザインの視点から改修計画を提案・発表する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

疑似体験により介助される側、介助する側としての両立場を理解する。生活空間のあり方に対して自分なりの考えを見つめるきっかけとなり、身の回りにある製品・商品および空間に対しての理解、ユニバーサルデザインの視点からの建築空間・都市空間の評価、改修計画の提案とその発表する能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

前半は疑似体験を通して、身体障がい者並びに高齢者の身体機能の低下を体感し、生活活動に対する心理状態を推測し、理解の一助とする。後半はユニバーサルデザインの考え方を製品・商品に積極的に取り入れている企業への現地調査を実施する。さらに、不特定多数の利用者が対象となる空間の実測とその改修計画に取り組みユニバーサルデザインの視点で提案をおこない、プレゼンテーション後、作品ごとに講評をおこなう。(SDGs11.住み続けられるまちづくりを)の関連授業

授業の方法

疑似体験は、体験者・介助者・観察者の三者の視点でおこなう。ユニバーサルデザインを考えた製品・商品の調査には、企業を直接訪問し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた製品に対する理念、開発から実現へのプロセスを理解する。プレゼンテーション・提案など、指定された課題は全て提出すること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

製品調査に際しては大学外での現地調査となるため、建築を学ぶ学生として行動・言動・マナーなど各自責任ある態度が求められる。また積極性と自発的な行動力を求める。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

演習科目であり原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、ユニバーサルデザイン製品の現地調査は必修とし、授業・演習には積極的に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し、実社会にどのように反映され機能しているかを理解する。	ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。	概念を理解し、実例を通して有用性実例を認識できた。	概念を理解できた。	おおむね概念が理解できた。	レポートが提出できなかった。
指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面を作成をおこない、現状における問題点を見つける。	優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。	図面を完成することができた。	図面を作成することができなかった。
ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。	非常に優れた改修計画を提案できた。	優れた改修計画を提案できた。	改修計画を提案できた。	多少問題があるものの改修計画を提案できた。	改修計画を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング: AEN322057)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、ユニバーサルデザインとは	シラバス事前確認(90分)	受講の注意の確認(90分)
2	「ユニバーサルデザイン」の考え方	配布資料確認(90分)	講義内容の振り返り(90分)
3	疑似体験プログラム(A.高齢者)(B.右片麻痺)	配布資料確認(90分)	体験データのまとめ(90分)
4	疑似体験プログラム(C.車椅子)	配布資料確認(90分)	体験データのまとめ(90分)
5	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査1	配布資料確認(90分)	チェックリストのまとめ(90分)
6	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査2	チェックリストの確認(90分)	チェックリストのまとめ(90分)
7	実測調査 対象の実測	実測用具の確認(90分)	実測データの整理(90分)
8	実測調査 収集データのまとめ	データ不足箇所の確認(90分)	実測データの整理(90分)
9	実測図作成1 平面図	実測データの確認(90分)	図面確認(90分)
10	実測図作成1 平面図	図面確認(90分)	図面確認(90分)
11	実測図作成2 展開図	実測データの確認(90分)	図面確認(90分)
12	実測図作成2 展開図	図面確認(90分)	図面確認(90分)
13	ユニバーサルデザイン製品製造メーカー 講習	見学会場の確認(90分)	配布資料・講習内容の振り返り(90分)
14	ユニバーサルデザイン製品製造メーカーショールーム見学	製造メーカーの商品確認(90分)	見学レポート作成(90分)
15	改修計画案の検討 平面計画	改修条件の確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)
16	改修計画案の検討 平面計画	改修条件との整合性確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	改修計画案の検討 断面計画	改修条件の確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)
18	改修計画案の検討 断面計画	改修条件との整合性確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)
19	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
20	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
21	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	図面の完成度確認(90分)
22	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	図面の完成度確認(90分)
23	改修計画案の作成2 展開図A,B	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
24	改修計画案の作成2 展開図A,B	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
25	改修計画案の作成3 展開図C,D	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
26	改修計画案の作成3 展開図C,D	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
27	改修計画案の内部模型製作	制作道具・材料の確認(90分)	制作模型の進捗状況確認(90分)
28	改修計画案の内部模型製作	平面図・展開図の確認(90分)	制作模型の完成度確認(90分)
29	改修計画案 提出	提出準備(90分)	提出物の再確認(90分)
30	改修計画案 グループ別発表	発表準備(90分)	発表内容の振り返り(90分)
31	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)
32	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスコミュニケーション演習 (科目ナンバリング: CME421017, CME521019)					
授業担当者(所属・職名)	本間 智子 (キャリア支援センター・主任)		研究室等所在	1号館1階キャリア支援センター		
単位数	2 (単位認定責任者: 本間 智子)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	CAエアラインスクールにてビジネスマナーやコミュニケーション力を学ぶ。入社した旅行業・航空業にてビジネスマナー等の徹底した接客業を実践。採用業務にも携わる。韓国の大学にて日本語学科専攻学生対象に日本企業への就職活動に必要なマナー等の講義経験有。現在星城道都大学キャリア支援センターにて就職活動に必要なマナー講座を実施。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、キャリア支援センターや面談室にて対応。					

概要

**履修目標**  
 ビジネス社会においてビジネスマナーやコミュニケーション能力を身につけた人材が求められていることから、社会に出て必ず遭遇する様々な場面での対人関係やビジネスシーンを円滑に進めるために社会人が身につけておくべき基本的なコミュニケーションに関する知識やマナーを習得することを目的とする。2年次に受講することにより、早めに習得しておくことでインターンシップ参加時のビジネスマナーや、自身の就職観念・将来像の促進を図ることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科DPの(1)、(3)、(4)に対応する。

到達目標

社会人としてのコミュニケーション力とは何かを理解し、ビジネスコミュニケーションの要素である「言語・非言語」、「伝える力・発信力」、「傾聴力・質問する力」、「文章で伝える力」を身に付ける。  
 社会人としてのビジネスマナー・社会での人間関係の築き方とは何かを理解し、「敬語」、「電話対応」、「ビジネスメール」、「名刺交換」等の基本的なマナーを身に付ける。  
 自身の人生キャリアプランを形成するためへの自己分析・自己理解を考え、自分史を創り出すことを学ぶ。  
 自分の意見や考えが相手に伝わるような「発信力」、「プレゼンテーション力」を身に付ける。  
 相手の話を聴く傾聴的態度を身に付け、協調して会話や討議を進めることを学ぶ。

授業全体の内容と概要

まずは社会人としてのコミュニケーションの基本要素を理解させてから、受講生同士のロールプレイング・グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションの練習等を実施しながらコミュニケーション力やマナーに慣れてみる。  
 又、社会に出て必要な基本的なマナーを感じてもらうために、企業の新人社員研修等で実施されている「ビジネスマナー・コミュニケーション研修」の情報も取り入れ身に付ける。

授業の方法

授業はビジネスコミュニケーションやビジネスマナーの様々な事例を素材としながら配布参考資料を基に講義形式で行い、必要な内容によってロールプレイング・グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション等、体験式で実践させる。  
 授業の中で説明したことにおいてその都度質問や提案をするので、学生が即座に自身の考えや意見を自分なりにまとめて発言できるコミュニケーション力をここで身につけていく。  
 16回の授業の中で小テストを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・本講義は、通算GPAが2.0未満の学生は受講できない。  
 ・コミュニケーションスキル向上のために積極的に授業に参加する学生を期待する。  
 ・社会人として必要なコミュニケーションに関する知識やビジネスマナーを学習することを目的としているため、最も基本となる授業態度を重視する。  
 ・人としての最低限の規則を守り、私語、スマートフォン・居眠り等、授業に積極的ではない態度の学生は欠席とみなす。  
 ・ノート・筆記用具・前授業にて配布した資料を持参しない学生は欠席とみなす。  
 ・欠席・遅刻は極力避け、出席を重視する。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻早退2回で欠席1回とする。  
 ・試合や実習で欠席する場合は欠席届を事前に提出すること。  
 ・注意事項及び詳細はオンラインにて詳しく説明する。  
 ・不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。
- ・授業態度・ロールプレイング・グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション・小テスト・授業中の積極的行動で評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	20%	40%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ビジネスコミュニケーションの基礎要素の理解(言語・非言語、伝える力・発信力、傾聴力・質問する力、文章で伝える力)	ビジネスコミュニケーションの基礎要素に優れた理解を持ち、授業や実生活の中で実践し、どの相手に対してもコミュニケーション力を発揮できた。	ビジネスコミュニケーションの基礎要素をほぼ理解しており、完全ではないものの授業や実生活の中で実践する努力をしていた。	ビジネスコミュニケーションの基礎要素にある程度関心・理解を得ることができた。活動姿勢も積極的であった。	ビジネスコミュニケーションの基礎要素に関心・理解を得るための最低限の活動姿勢があった。	ビジネスコミュニケーションの基礎要素に関心・理解を得るための最低限の活動姿勢が見られなかった。
ビジネスコミュニケーション・マナーの思考力・判断力・表現力(ロールプレイ・グループワーク・ディスカッション・実技・プレゼンテーション等)	課題に対して行う実践練習を得意分野としており、自身の考えを即座に判断でき、周りを引き込むような表現力で発言ができた。	課題に対して行う実践練習に非常に積極性が見られ、自身の考えを即座に判断でき、自分らしい表現力で発言ができた。	課題に対して行う実践練習に積極性が見られ、不十分な部分はあるものの自身の考えを自分なりに判断し表現しようとする姿勢が見られた。	課題に対して行う実践練習に積極性は見られたが、自身の考えを上手く纏めて表現することができず周りの協力が必要であった。	課題に対して行う実践練習に積極性が無く、他人任せであり自身から進んで発言する等の姿勢が見られなかった。
主体的に授業に取り組む授業態度やマナー	毎授業を意欲的に受講し、真面目な態度・マナーであった。不透明な質問も、周りにわかるような質問の仕方をして、周りに観察力や周囲を盛り上げる力を持っていた。	毎授業を受講し、真面目な態度・マナーであった。不透明な質問も、周りに学生と協力し合って取り組む姿勢であった。	出席日数分授業に参加し、真面目な態度・マナーであった。積極性が少々不足していたが不透明な質問をしようとする姿勢は見られなかった。	出席日数分授業に参加し、真面目な態度・マナーであったが、不透明な質問も無く積極性が欠けていた。	出席日数分授業に参加してはいるが、不透明な質問も無く積極性が感じられなかった。態度・マナーも問題があった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスコミュニケーション演習 (科目ナンバリング: CME421017, CME521019)				
授業担当者(所属・職名)	本間 智子 (キャリア支援センター・主任)	研究室等所在	1号館1階キャリア支援センター		
単位数	2 (単位認定責任者: 本間 智子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	CAエアラインスクールにてビジネスマナーやコミュニケーション力を学ぶ。入社した旅行業・航空業にてビジネスマナー等の徹底した接客業を実践。採用業務にも携わる。韓国の大学にて日本語学科専攻学生対象に日本企業への就職活動に必要なマナー等の講義経験有。現在星架坡大学キャリア支援センターにて就職活動に必要なマナー講座を委嘱。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・ガイダンス・シラバスの説明 (授業の目的、進め方、評価方法、履修上の注意等)	シラバスで授業内容を把握しておくこと (90分)	オリエンテーション・ガイダンスについて振り返り・確認しておくこと (90分)
2	コミュニケーションの要素 (言語・非言語)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
3	コミュニケーションの要素 (発信力・伝える力)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
4	コミュニケーションの要素 (傾聴力・質問力)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
5	小テスト (1-4回の振り返り)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
6	自己分析・自己理解 (人生曲線)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
7	自己分析・自己理解 (自己史)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
8	ビジネスマナーの基本 (社会人としての心得・身だしなみ)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
9	ビジネスマナーの基本 (言葉遣い・敬語・名刺交換)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
10	ビジネスマナーの基本 (会社内での行動・ビジネス文書)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
11	ビジネスマナーの基本 (電話対応)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
12	ビジネスマナーの基本 (ビジネスメール)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
13	実践小テスト (電話対応・ビジネスメール・ビジネス文書)	学習内容に関連する事柄について調べておくこと (90分)	授業内容の復習・理解。「できる」状態になるよう練習すること (90分)
14	実践 (グループディスカッション)	学習内容に関連する事柄について準備を練習しておくこと (90分)	努力が必要な部分を明確にし、今後の目標を立て、練習すること (90分)
15	実践 (プレゼンテーション)	1-14回の授業を理解し、プレゼンテーションできる状態にしておくこと (90分)	出来た成功体験は認め、努力が必要な部分は繰り返し練習すること (90分)
16	小テスト (まとめ・フィードバック)	全授業内容を見直し不明点を無くしておくこと (90分)	全授業を振り返り、理解を一層深め、努力が必要な部分を明確にし、目標を立て日常的に練習すること (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: DMB543122/2023年度以降DMB443137)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法 に関連する諸事項を講義・実習する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解するとともに、具体的な授業を想定した効果的な授業設計や学習指導案の作成を行うことができる実践的な力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独特の役割をわかりやすく理解させる。  
 ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。  
 ・模擬授業を実践し、指導技術・内容(情報機器の活用を含む)を再確認するために自分の意見を述べながら、意見交換し改善点を見つける。  
 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。  
 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・講義で配布したプリントや模擬授業の指導案等は、ファイル等の整理と保管し、必要時に参照できるようにすること。  
 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(9割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(8割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(7割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程などについて理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(9割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(8割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(7割)	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。(9割)	の授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。(8割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。(7割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	授業を行うための知識と指導技術が身につけなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: DMB543122/2023年度以降DMB443137)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法 に関連する諸事項を講義・実習する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2022	9784487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆 他	大修館書店	2022	9784469663198	
5	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 学校における体育科の役割について	本時の課題について教科書等を参考に自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
2	選択制授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
3	指導案の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
4	模擬授業の進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
5	模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
6	模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
7	模擬授業(選択制授業)の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
8	模擬授業(選択制授業)の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
9	情報機器を活用した模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
10	情報機器を活用した模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
11	体育理論の模擬授業の指導案作成と授業展開について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
12	体育理論の模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
13	模擬授業の振り返り	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
14	模擬授業のまとめ	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
15	体育におけるスポーツ障害について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容を復習(90分)	本日の学修内容をまとめて提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ中学校体育2023道編』	高橋 健夫 他	大修館書店	2023		
2	『ステップアップ高校スポーツ2023』	高橋 健夫 他	大修館書店	2023		
3	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2018		
4	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2019		
5	『体育科教育学入門 三訂版』	岡出美則、友添秀則、岩田靖	大修館書店	2016		

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング: ESS143156, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

中学校の社会科教諭及び高等学校の地理歴史科教諭として最低限、身につけなければならない事、すなわち「社会科」・「地理歴史科」という教科の本質的な意義と目的を、詳細に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

実際に「社会科」・「地理歴史科」の授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業(後期)等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。  
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目  
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態は講義形式(板書を含む)が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	25%	25%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現ができた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現ができた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング: ESS143156, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	模擬授業見学(4年生)(1)	模擬授業見学の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
3	模擬授業見学(4年生)(2)	模擬授業見学の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	高等学校地理歴史科地理の指導について	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	高等学校地理歴史科世界史の指導について	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	高等学校地理歴史科日本史の指導について	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	社会科・地理歴史科教育の教材研究の方法(1)ディスカッション	ディスカッションの準備学習をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	社会科・地理歴史科教育の教材研究の方法(2)ディスカッション	ディスカッションの準備学習をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
9	指導案の作成 単元の目標と評価	事前に資料の範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	指導案の作成 授業のねらいと発問	事前に資料の範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	指導案の作成 板書計画	指導案の作成準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	指導案の作成 グループワーク・ICTの活用	指導案の作成準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	模擬授業用の資料の作成	模擬授業の資料を作成準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備をしておくこと。(90分)
14	模擬授業の実践	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	模擬授業の実践	模擬授業の練習をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備(90分)	まとめの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE322075)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE322075)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 (M) (科目ナンバリング: ECP123134, ECP422030, ECP522033)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き(特に要因)を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより、将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようにする。日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)と(3)に対応する。

到達目標

国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、EUの経済統合の大意を理解する。

授業全体の内容と概要

グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合(EU・ユーロ圏)の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。  
\*SDG10「人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

授業のポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。開始5-10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、配布済みレジュメに従い空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモをテキストなどを参考にノートにまとめることを推奨する。中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。その他、個別案件については要相談。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎	どの国の経済政策が、どの国に、日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することができた。	どの国の経済政策が国際経済、特に日本経済に影響を及ぼすのかを説明することができた。	主要国の財政政策および金融政策が国際経済に影響を及ぼすことを理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができなかった。
貿易と外国為替	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することができた。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することができた。	貿易と外国為替の因果関係を説明することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができなかった。
地域の経済統合	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	経済統合の深化として、通関手と通関士を説明することができた。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 (M) (科目ナンバリング: ECP123134, ECP422030, ECP522033)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明(シラバスの説明を含む)と市場メカニズムについて	シラバスの読み込みと価格メカニズムを調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	総需要と総供給(GDP, GNI, など)及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	経済活動と物価(インフレーションとデフレーション)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	財政政策(政府の役割を含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	金融政策(中央銀行の役割・機能を含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	ポリシー・ミックス(財政政策と金融政策)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う(90分) 中間試験のため見直しを行う(90分)
7	経済学の基本的考え方についての復習と中間テスト(小試験)	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
8	貿易理論(比較優位など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える(90分)
9	外国為替理論(中央銀行のスタンスなど)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	貿易と外国為替(為替リスク, 多国籍企業の行動)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	ブレトンウッズ体制(IMF, 世界銀行, GATT, WTO, 変動相場制など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	経済統合(FTA, EPA, TPP, APEC, EU, ASEAN など概要)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	経済統合(統合の深化およびメリットとデメリット)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス 授業改善アンケートの実施	ポリシー・ミックスを復習してくる(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 (S) (科目ナンバリング: ECP123134, ECP422030, ECP522033)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉 (社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き(特に要因)を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより、将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようにする。日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)と(3)に対応する。

到達目標

国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、EUの経済統合の大意を理解する。

授業全体の内容と概要

グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合(EU・ユーロ圏)の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。  
\*SDG10「人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

授業のポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。開始5-10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、配布済みレジュメに従い空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモをテキストなどを参考にノートにまとめることを推奨する。中間試験(論述)を採点後返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。遅刻3回で欠席、回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。その他、個別案件については要相談。

資格指定科目

中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎	どの国の経済政策が、どの国に、日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することができた。	どの国の経済政策が国際経済、特に日本経済に影響を及ぼすのかを説明することができた。	主要国の財政政策および金融政策が国際経済に影響を及ぼすことを理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができなかった。
貿易と外国為替	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することができた。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することができた。	貿易と外国為替の因果関係を説明することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができなかった。
地域の経済統合	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	経済統合の深化として、通関手と通関手との関係を説明することができた。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 (S) (科目ナンバリング: ECP123134, ECP422030, ECP522033)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉 (社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明(シラバスの説明を含む)と市場メカニズムについて	シラバスの読み込みと価格メカニズムを調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	総需要と総供給(GDP, GNI, など)及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	経済活動と物価(インフレーションとデフレーション)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	財政政策(政府の役割を含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	金融政策(中央銀行の役割・機能を含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	ポリシー・ミックス(財政政策と金融政策)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う(90分) 中間試験のため見直しを行う(90分)
7	経済学の基本的考え方についての復習と中間テスト(小試験)	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
8	貿易理論(比較優位など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える(90分)
9	外国為替理論(中央銀行のスタンスなど)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	貿易と外国為替(為替リスク, 多国籍企業の行動)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	ブレトンウッズ体制(IMF, 世界銀行, GATT, WTO, 変動相場制など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	経済統合(FTA, EPA, TPP, APEC, EU, ASEAN など概要)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	経済統合(統合の深化およびメリットとデメリット)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス 授業改善アンケートの実施	ポリシー・ミックスを復習してくる(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	総合的な学習の時間の (科目ナンバリング: ESS143162, ESS243110, ESS343103, E SS443105, ESS543114)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
------

各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するための指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

総合的な学習の時間の意義や目標等をはじめ、指導計画の作成や指導と評価の考え、実践上の留意点について理解できる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業進行上、シラバスに記載したテーマが前後することがあるが、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア及びプリント等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

思考・考察・討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。  
 ○講義の前後に行う学修課題を課しますので真摯に取り組むこと。  
 プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。  
 欠席した場合は、Microsoft Teamsからプリント等を入手すること。  
 講義中の私語・居眠り等は厳に慎むこと。  
 講義中は特に指示がない場合にはスマートフォンをカバン等の中に格納すること。  
 講義では演習を行うため、座席を指定する。  
 講義開始時間までに用便を済ませておくこと。  
 30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。  
 学修に向かう姿勢及び課題はすべて点数化・集積し評価点とする。  
 評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内が目安となっている。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめているが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られない。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点を挙げていないなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点を挙げていないなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	総合的な学習の時間の (科目ナンバリング: ESS143162, ESS243110, ESS343103, ESS443105, ESS543114)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815610	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』	文部科学省	学校図書	2018	9784762505362	
2	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815795	
3	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	学習指導要領の変遷並びに総合的な学習の時間の創設及び改訂の趣旨について シラバスの説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
2	総合的な学習の時間の意義について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
3	総合的な時間の目標について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
4	各学校において定める目標及び内容について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
5	指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱いについての配慮事項について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
6	総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
7	総合的な学習の時間の全体計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
8	総合的な学習の時間の年間指導計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
9	総合的な学習の時間の単元計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
10	総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
11	探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
12	探究的な学習の指導上の留意点について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
13	総合的な学習の時間の評価について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
14	総合的な学習の時間を充実させるための校内組織体制の整備について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
15	総合的な学習の時間を充実させるための環境整備及び外部との連携について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	前15回の学修内容を復習すること。(90分)
16	70分の試験終了後、残りの20分で解説を行う。	前15回の学修内容を復習すること。(90分)	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング：SNE123110)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育及び重複障害教育)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
共生社会の創造のための教養として肢体不自由者及び重複障害者の教育を効果的に行うために必要な基本的な知識と障害の状況等に応じた指導の在り方等の実践的な知識を取得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての実践的な知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要
特別支援教育の対象となる肢体不自由教育及び重複障害のある子供の教育の現状を押しさえ、児童生徒の実態に応じた教育課程や指導内容・方法について事例研究や映像教材等も活用しながら構成する。

授業の方法
授業は、教科書を輪読し、パワーポイント及び配付資料で教科書の内容を確認するとともに、思考・考察、意見交換、討論等の活動を行う。また、教育の実現場面のDVDを視聴しレポートにまとめたり、指導事例に基づいて指導案を作成し模擬授業を行う等で、総合的に教育の方法を取得させる。レポートや模擬授業についてはコメントによりフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○肢体不自由者の障害特性に応じた指導を効果的に行うために必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。</li> <li>○授業づくりの説明に続いて指導案の作成があるため、指導案の相談をしたい場合はオフィスアワーを活用すること。</li> <li>○模擬授業の実施及びレポート提出を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。</li> <li>○模擬授業に使用する教材は基本的に自己負担とする。</li> <li>○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</li> </ul>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	40%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	40%	0%	20%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由教育の理解	肢体不自由教育について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	肢体不自由教育について必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由教育について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由教育について、一部理解することができた。	肢体不自由教育について、理解できなかった。
肢体不自由教育の思考・判断・表現	肢体不自由教育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由教育について、思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由教育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	肢体不自由教育について、思考することができた。	肢体不自由教育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング: SNE123110)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育及び重複障害教育)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2	『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	平成29年	978-4-303-12424-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説総則編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04229-4	
4	『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び肢体不自由者・重複障害者の教育の概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておくこと(90分)	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見直しを立てる(90分)
2	肢体不自由者の教育内容	教科書の「肢体不自由児に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	肢体不自由者のコミュニケーション支援(1) ことばの獲得のプロセスと支援	教科書の「各教科等の指導の工夫」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	肢体不自由者のコミュニケーション支援(2) コミュニケーション手段と支援	教科書の「各教科等の指導の工夫」及び「情報機器等の活用」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	重複障害児の教育の意義	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	重複障害児の教育の内容と方法	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例(1)	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例(2)	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	重複障害児の指導場面の視聴及びレポートの作成	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	動画視聴のメモを基に重複障害児の指導を整理する(90分)
10	肢体不自由教育の教育課程と指導案作成のポイント及び指導の工夫(1) - 指導案の構成、全体指導計画、単元、題材の決定 -	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	資料と説明を基に指導案を作成を要する(90分)
11	肢体不自由教育の教育課程と指導案作成のポイント及び指導の工夫(2) - 題材設定の理由、目標系列、本時の展開 -	配布した資料に基づき指導案について事前に調べておくこと(90分)	資料と説明を基に指導案の作成を進める(90分)
12	肢体不自由教育の指導案作成のポイントと指導の工夫(3) - 配慮事項、板書計画、教室配置、教材教具、評価 -	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	資料と説明を基に指導案の完成をに必要な教材教具の作成を行う(90分)
13	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(1) 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	指導案を修正する(90分)
14	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(2) 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	指導案を修正する(90分)
15	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(3) 模擬授業 授業改善アンケートの実施	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	指導案を修正する(90分)
16	指導案および模擬授業について検討会	指導案や模擬授業の振り返り(90分)	検討の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123126））				
授業担当者（所属・職名）	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	未定	
単位数	1	（単位認定責任者：木村 浩紀）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特殊教育から特別支援教育に転換した趣旨を的確に把握し、特別支援学校教育実習の意義を認識するとともに、常に教育実習を見据えて、特別支援学校における教師の役割について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP（2）（4）（5）に対応する。

到達目標

特別支援学校の教育の概要について理解し、障害のある子どもの教育指導の在り方について基礎的な知識・技能・態度を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

特別支援学校の教育の概要及び授業の実態について理解できるようにするとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解をはかるようにする。また、テーマに関する事項に関して思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。  
「SBS4「質の高い教育をみんなに」」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてグループ発表、レポート提出（15回）を行う。なお、レポートは評価並びにコメントを記入し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

特別支援教育実習（事前指導 4年）を併せた2単位の取得が必要である。教職科目（特別支援教育）であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	20%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方	特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が的確に実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できなかった。
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123126））				
授業担当者（所属・職名）	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	未定	
単位数	1	（単位認定責任者：木村 浩紀）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2015		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、オリエンテーション	関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
2	児童生徒の障害の状態・特性の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
3	教室・寄宿舎等における生活の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
4	学校環境（組織、学級編制等）の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
5	教育課程の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
6	学習指導方法の研究（1）	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
7	自作教材の工夫に関する研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
8	学習指導方法の研究（2）	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
9	特別活動の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
10	学校行事の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
11	週時程表の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
12	生徒指導の研究・教育相談の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
13	特別支援教育実習報告会（実習直後に）	教育実習記録を整理し実習報告の準備に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
14	教職の適性・進路希望	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
15	教師の服務の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
16	レポート（最終回において解説し、フィードバックする。）	講義資料等で講義内容を整理する。（90分）	講義資料を見直す。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222055)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての製図の表現について、各自が実測した椅子の図面をCADを用いて作図する課題を通してより実用的な製図の基本を身につけることを目標とする。さらに平行投象と透視投象などを学ぶことによって立体表現の感覚を身に付けることも目的とする。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>デザイン学科のDP(1)(4)(5)に対応する。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>学生が、製図機やアプリケーション・ソフトを使い基本的な製図表現を(ある程度)正確にできる。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>美術、デザインにおける基本的素養としての製図表現について各自が理解しながら実用性の高い製図表現の基礎を身につけるために、デザイン製図で各自が作成した手描きの上面図、断面図、正面図をもとに本格的にCADを用いて作図する。また、立体表現の感覚を身につけるために、つまり、空間における物体と視点(あるいは画面(picture plane))との関係について、各自が作成した上面図、断面図、正面図をもとにCADによる3Dモデリングおよび手描きの平行投象(アイソメトリック図、等角図)と透視投象(三平面法)等の作図もおこなう。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進めてゆく。</p>
--

<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業のプレゼンテーションの方法として板書と各課題に関連する資料を配布し授業を実施する。講義形式で授業をすすめると共に製図機やパソコンを用いて制作手順および要点を示す。各回の授業の要点を学生各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、アクティブラーニングとして各自が自らが主体となって能動的に毎回の手書き、または、アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。学生が図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。また、毎回の提出する課題に対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。</p>
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。自筆ノート、各自が制作し課題、および用具等を持ってこよう。出席を取り終わったあとは欠席とする。デザイン製図で制作した上面図、断面図、正面図をもとにCADによる作図および立体図の作成をおこなうので、必ずデザイン製図の単位を修得していること。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程(工芸)選択科目</p>

<p><b>評価方法・基準</b></p> <p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本となる図表現について十分に理解し表現できる。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、十分に目標に達成していた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、概ね出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、不十分ではあるが出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、最低限出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、全く出来ていなかった。
テクニカル・イラストレーションの意味合いも含めた製図表現について十分に理解し表現できる。	空間における物体の位置や人間の視点そして画面(picture plane)との関係について、十分に理解し把握して作図することが、十分に目標に達成していた。	空間における物体の位置や人間の視点そして画面(picture plane)との関係について、十分に理解し把握して作図することが、概ね出来ていた。	空間における物体の位置や人間の視点そして画面(picture plane)との関係について、十分に理解し把握して作図することが、不十分ではあるが出来ていた。	空間における物体の位置や人間の視点そして画面(picture plane)との関係について、十分に理解し把握して作図することが、最低限出来ていた。	空間における物体の位置や人間の視点そして画面(picture plane)との関係について、十分に理解し把握して作図することが、全く出来ていなかった。
各自が意図したものをアプリケーション・ソフトを用いた表現を含めて製図表現することができる。	板書を写したノートや配付資料での解説等および各自が制作した図面やデータを参照しながら、それらを理解し作図することが、十分に目標に達成していた。	板書を写したノートや配付資料での解説等および各自が制作した図面やデータを参照しながら、それらを理解し作図することが、概ね出来ていた。	板書を写したノートや配付資料での解説等および各自が制作した図面やデータを参照しながら、それらを理解し作図することが、不十分ではあるが出来ていた。	板書を写したノートや配付資料での解説等および各自が制作した図面やデータを参照しながら、それらを理解し作図することが、最低限出来ていた。	板書を写したノートや配付資料での解説等および各自が制作した図面やデータを参照しながら、それらを理解し作図することが、全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222055)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, デザイン製図, CADの概要, 授業改善アンケート結果反映の説明, シラバスの説明	シラバスの確認(90分)	デザイン製図, CADの概要(90分)
2	CADを用いた椅子の上面図	CADを用いた椅子の上面図(90分)	CADを用いた椅子の上面図(90分)
3	CADを用いた椅子の側面図	CADを用いた椅子の側面図(90分)	CADを用いた椅子の側面図(90分)
4	CADを用いた椅子の断面図	CADを用いた椅子の断面図(90分)	CADを用いた椅子の断面図(90分)
5	アイソメトリック図の練習課題	CADを用いた椅子の三面図(90分)	CADを用いた椅子の三面図(90分)
6	椅子のアイソメトリック図の下書き	CADを用いた椅子の三面図(90分)	CADを用いた椅子の三面図(90分)
7	椅子のアイソメトリック図の作図	椅子のアイソメトリック図の下書き(90分)	椅子のアイソメトリック図の下書き(90分)
8	CADを用いた椅子のモデリング	CADを用いた椅子の三面図(90分)	CADを用いた椅子の三面図(90分)
9	等角図の練習課題	CADを用いた椅子の三面図(90分)	等角図の練習(90分)
10	椅子の等角図の下書き	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)
11	椅子の等角図の作図	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)	椅子の等角図の作図(90分)
12	三平図法による立体図の練習問題	三面図法による立体図の練習問題(90分)	三面図法による立体図の練習問題(90分)
13	三平図法による椅子の立体図の解説	三面図法による立体図の練習問題(90分)	三面図法による椅子の立体図(90分)
14	三平図法による椅子の立体図の下書き	三面図法による椅子の立体図(90分)	三面図法による椅子の立体図の下書き(90分)
15	三平図法による椅子の立体図の作図	三平図法による椅子の立体図の作図(90分)	三平図法による椅子の立体図の作図(90分)
16	講評 課題返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 (科目ナンバリング: LAW422034, LAW522035)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。会社法は、前期開講された商法をもとに、会社に関する法規制を中心に講義を行う。具体的には、会社法の分野を解説する。「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために4回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(欠欠などの学生に対しては補講を実施する)実施する。課題は、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(欠欠などの学生に対しては補講を実施する)。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上  
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えている、解答は答えられている	改善すべき点があるが、解答が一連し答えている	的確ではないが、解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 (科目ナンバリング: LAW422034, LAW522035)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『会社法(ベーシック・シリーズ)』	伊藤雄司・笠原武朗・得津晶	日本評論社	2021年	9784535806863	
2	『ポケット六法 令和5年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2021年	9784641009233	
3	『コア・テキスト会社法』	川村正幸・品谷篤哉・山田剛志	新世社	2020年	9784883843138	
4	『商法 第2版(ファーストトラックシリーズ4)』	伊藤真	弘文堂	2018年	9784335314599	
5	『法学入門』	穴戸常寿・石川博康	有斐閣	2021年	9784641126183	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 株式会社とは	シラバスの確認。株式会社についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	会社法の概要 株主自由譲渡の原則・株主有限責任の原則・株主平等の原則	会社法と株式会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
4	株式会社の機関設計(1)	持分会社と株式会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	株式会社の機関設計(2) 大会社で公開会社のCASE	監査役会設置会社・指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
6	株式会社の機関設計(3) 大会社で公開会社のCASE しっかり条文を読んでみよう 確認テスト2(前年実績)	監査役会設置会社・指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
7	株式会社の機関設計(4) 大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制-骨格と役割(1) 会計監査人	大会社で株式譲渡制限会社・会計監査人・内部統制システムについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
8	株式会社の機関設計(5) 大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制-骨格と役割(2) 会計監査人	会計監査人・内部統制システムについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	株式会社の経営体制-骨格と役割(3) 株主総会	株主総会についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)。特に株主総会決議に瑕疵がある場合についての調べ学習
10	株式会社の経営体制-骨格と役割(4) 株主総会 株式会社の経営体制-責任(1) 役員 確認テスト3(前年実績)	株主総会・取締役についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
11	株式会社の経営体制-責任(2) 役員 課題1(前年実績)	役員についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、課題作成
12	株式会社の経営体制-責任(3) 役取締役の責任 株式会社の経営体制-骨格と役割(1) 取締役会 確認テスト4(前年実績)	取締役の責任・取締役会についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
13	株式会社の経営体制-骨格と役割(2) 取締役会・代表取締役・表見代表取締役	取締役会・代表取締役・表見代表取締役についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
14	株式会社の経営体制-骨格と役割(3) 指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計監査人 確認テスト2(前年実績)	指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計監査人・会計監査人についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 課題作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	課題作成。第3回から第14回まで復習(90分)。	試験範囲の確認により, 第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング: ESS143154)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つが具体化内容である。  
 中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科の教科目標と内容を学修する。  
 授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。  
 ・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。  
 ・教科目標である公民的資質をふまえた分析説明ができる、教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。  
 下記ルーブリックの合格最低レベル(C)、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
 公民科の教科目標と内容を把握し、現代社会の社会的現象等をとらえる概念、理論について、学習指導理論をふまえ、学習指導時案を作成、模擬授業をおこない、授業設計と改善の方法を学修する。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・後期3Qは、学習指導要領にもとづくシナリオ型学習指導案の作成、模擬授業の観察評価をおこなう。  
 ・板書を利用しながら、公民科の学習指導要領の内容について講義形式で学修する。  
 ・模擬授業、PBL(Project Based Learning)による主体的実践が評価対象になる。  
 ・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」:教材研究、指導案、PBL等の各課題フィードバックは、回収の次の授業にて模範回答例が紹介される機会があるので、次回の課題提出の改善材料として利用をすすめる。  
 ・「要望等への対応方法」:授業の課題の取り組みなど質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に入室など、気軽に相談してほしい。オフィスアワーを利用すると事前の時間予約ができる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・「社会科・公民科教育法」、「社会科・公民科教育法」は、順序性のある段階的履修が基本になる。単独科目履修を希望する場合、履修登録前に教員へ相談すること。  
 ・「社会科・公民科教育法」、「社会科・公民科教育法」の指定テキストは共通のものである。  
 ・授業関連情報コースパケットをマイクロソフト社Teams科目チャンネル、過去の科目情報は、大学HP教員個人ページにあるので利用してほしい。過去の授業情報の閲覧は、要PIのため、履修学生は授業にて申請すること。https://www.seisadohto.ac.jp/~matsu/index.html  
 ・学習は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」(松下佳代:2015)のアウトプットである。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。  
 ・文献読解(分担報告:教材研究、指導案作成を報告する。教材研究における新しい知見、資料を説明記述する)、プレゼンテーション(分担発表)をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解すること 情報分析力として 適切な分析力として 学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改める余地があるが、まとめる作業が難しかった。新しく学ぶことについて、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しかった。新しく学ぶことについて、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでの関連づけをおこない、独自の視点から論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手紙きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用した。新しく学ぶことは、十分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しかった。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教生)としての自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めることとする。関心・意欲・態度	大学生(教職課程の教生)としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動ができた。	大学生(教職課程の教生)としての役割は、おおむね理解しており、行動することができる。	大学生(教職課程の教生)としての役割は、基本的な行動ができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、自らの理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング: ESS143154)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校社会 指導スキル大全』	梅津正美	明治図書出版	2022	9784184522336	
2	『中学校社会 公民 ともに生きる』	成田喜一郎ほか	教育出版	2020		17教出公民902(中学校検定)
3	『詳述公共』	中村達也ほか	清水書院	2017		7実教公共703(高校検定道教科書)
4	『用語集 公共+政治・経済』	用語集「公共」編集委員会	清水書院	2022	9784389218737	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス; シラバスの説明、前年度本科目の授業改善アンケート結果反映の説明 中学校公民的分野、高等学校公民科の指導方法と授	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	テキスト(筒井ほか2017:1章-2)を独習する。(90分)
2	模擬授業実践、中学校公民科公民科の分野、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美:2022)を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	模擬授業実践、高校公民科、公共、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	模擬授業実践、高校公民科、政治経済、倫理、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習、指導教諭(南英世氏HP)資料を確認する。(90分)
5	模擬授業実践、視聴覚教材	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業1-5回学習整理する。(90分)
6	模擬授業実践、中学校公民科公民科の分野、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習、NIER評価基準、規準を確認する。(90分)
7	模擬授業実践、高校公民科公共、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	模擬授業実践、高校公民科政治経済、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	模擬授業実践、高校公民科倫理、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業6-9回学習整理する。(90分)
10	模擬授業評価、学生観察シートの作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
11	模擬授業評価、学生自己評価の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
12	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
13	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業10-14回学習整理、音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
14	模擬授業実践、学生評価のまとめ	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体学習整理する。(90分)
15	課題提出(観察シート、音声記録と作業シート提出)指導方法と評価(振り返り、総括)	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体の学習整理する。(90分)
16	本科目のまとめ(授業総括と学修の教員講評)授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』	文部科学省	東京書籍	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784487286331	
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	筒井 美紀・遠藤野ゆり	有斐閣	2017	9784641174320	
4	『高校の公共が1冊でしっかりわかる本』	吉見直倫	かいき出版	2022	9784761230609	
5	『ディープ・アクティブラーニング』	松下佳代	勁草書房	2015	978432625101	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科3年・デザイン学科3年・建築学科3		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導 (科目ナンバリング: SNE144163, SNE244111, SNE344104, SNE444106, SNE544115)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)、木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<p>教員として必要な人間関係を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する知識を深めるため、特別支援学校の児童生徒と教職員及び社会福祉施設の利用者と職員に貴重な時間提供を受け、介護等体験が実施されることを十分に理解し、積極的、主体的に介護等体験に臨む意義を身に付ける。</p>

授業の位置づけ

経営学科のD P D P (2)と(4)と(5)に対応する。  
 デザイン学科のD P (2)と(4)に対応する。  
 建築学科のD P D P (2)と(4)に対応する。  
 社会福祉学科のD P (2)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

特別支援学校に在籍する児童生徒の特徴を知り、特別支援教育の意義を述べるとともに、社会福祉施設の利用者の特徴を知り、社会福祉施設の役割を述べることができる。

授業全体の内容と概要

体験の場である特別支援学校及び社会福祉施設における教育や介助・介護の実際と守るべきマナーを踏まえ、介護等体験の制度と趣旨及びその目的について学ぶ。併せて、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換・発表等の一連の活動を行う。  
 「SDGs4:質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書に基づいて、介護等体験制度の歴史の意義等を知り、特別支援学校及び社会福祉施設の現場の実態について、資料や視聴覚教材等で確認したり、体験実習を想定した留意点や心構え等についてグループ討議を行う。また、体験実習の申込書類の作成の仕方や実習日誌の記述のポイントなどを知る。介護等体験実習終了後には、体験で学んだことを振り返りその内容を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

小学校・中学校の教員免許状を取得するための必修科目である。  
 不測の事態の際にオンラインの実習を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(小学校・中学校)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。  
 介護等体験は特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間を体験しなければならない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
介護等体験についての知識・技能	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、体験する上での自己課題や心構えなどを自ら整理することができた。	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、自分の考えを整理できた。	介護等体験の意義や内容について一定程度の理解ができた。	介護等体験の意義について一部理解ができた。	介護等体験の意義について理解ができなかった。
介護等体験についての思考・判断・表現	介護等体験について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	介護等体験について思考・判断し、自ら表現することができた。	介護等体験について、思考活動に取り組み表現しようすることができた。	介護等体験について、思考することができた。	介護等体験にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に参加することができた。	授業にいくらかの関心をもって参加できた。	授業に関心がなく参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科3年・デザイン学科3年・建築学科3		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導 (科目ナンバリング: SNE144163, SNE244111, SNE344104, SNE444106, SNE544115)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)、木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新エリア』	全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟(編)	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-522-6	
2	『第5版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』	社会福祉法人全国社会福祉協議会	図書印刷	2020	978-4-7935-1277-3	
3	『5訂版 教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』	現代教師養成研究会(編)	大修館書店	2020	978-4-469-26876-8	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 介護等体験制度の歴史、目的、意義等について	シラバスを確認する 介護等体験制度を調べる (90分)	介護等体験制度の意義等をまとめる (90分)
2	特別支援学校における介護等体験の意義、内容等について	特別支援学校で体験する意義を考える (90分)	内容を整理する (90分)
3	特別支援学校の対象児童生徒、教育の概要、授業での働きかけ、配慮等について	特別支援学校の校種、教育概要を知る (90分)	特別支援学校の教育等をまとめる (90分)
4	特別支援学校における介護等体験の手続き、体験に際しての留意点と心構えについて	特別支援学校の校種、教育概要を知る (90分)	特別支援学校の教育等をまとめる (90分)
5	社会福祉施設における介護等体験の意義、内容及び社会福祉施設の概要、利用者、活動等について	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
6	社会福祉施設の概要、利用者、活動等について 利用者とのかわりと配慮等について	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
7	社会福祉施設における介護等体験の手続き等について 体験に際しての留意点と心構えについて	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
8	介護等体験の意義、内容について(まとめ) 自己課題を明確にし準備に必要な自己を整理する。 授業改善アンケートの実施	意義、内容について調べ、自己課題を明確にする (90分)	自己課題をまとめる (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323022)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標
<p>卒業制作を念頭に置き、課題としての公共の大規模建築の設計・計画・作図を学ぶ。建築設計演習での学びを応用し、土地、地域、利用者、建物の規模などをもとに、計画を行い、必要な図面の作図と、プレゼンテーションとしての必要情報などの表現方法を学ぶ。</p>

授業の位置づけ
建築学科のDP(2)(3)に対応する科目。

到達目標
大規模建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要
<p>施設計画の基本を学ぶとともに今日の問題点を理解し、今後のあり方を提案する。したがって、中間指導では各自が考えてきたフロアダイアグラムやエスキスをともに議論と指導の後、図面作成となる。発表・講評を行い、多様な考えと提案を理解する。</p> <p>「SDGs 1 2 つくる責任 つかう責任」 「SDGs 1 1 住み続けられるまちづくりを」 狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭にいた設計を指導する。</p>

授業の方法
<p>授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。)をしながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。</p> <p>また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>原則毎回出席すること(ただし最低出席回数12回以上)とし、積極的に課題に取り組むこと。決められた中間指導やエスキスチェックを受け、2つの課題が期限内提出され、講評を受けることが条件となる。</p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>大規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築関係法規に則った計画ができていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。</td> <td>各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を正しく作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができていた。</td> <td>各種図面を作図することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	大規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。	建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。	設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。	初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
大規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。																														

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323022)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授) 向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト建築設計資料集 第3版』日 本建築学会編	村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと (90分)
2	即日課題 1 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのコンセプトの考え方	即日課題について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む (90分)
3	即日課題 2 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのゾーニングと動線の考え方	即日課題について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む (90分)
4	即日課題 3 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのスケルトン、インフィルの考え方	即日課題について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む (90分)
5	即日課題 4 集合住宅と高齢者施設の複合建築物についてのランドスケープの考え方	即日課題について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む (90分)
6	設計課題 集合住宅と高齢者施設の複合建築物の計画 (課題説明)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
7	中間指導 コンセプトについて	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
8	中間指導 コンセプトと全体計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
9	中間指導 全体計画とランドスケープ (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
10	中間指導 ランドスケープと平面計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
11	中間指導 平面計画と断面構成 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
12	中間指導 平面計画と断面構成 (ダイアグラムについて)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
13	中間指導 模型とプレゼンテーション (模型の造り方 レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
14	中間指導 プレゼンテーション (レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと (90分)	他の学生の発表内容をまとめる (90分)
16	最終指導 プレゼンテーションの指導 解説し、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと (90分)	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史(M) (科目ナンバリング: ECH122124, ECH422032)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

## 概要

<b>履修目標</b>
現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。 とりわけ以下の2点に着目する。 資本主義(資本制)の成立と展開。農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。 市場経済化。需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学部のDP(1)(2)(4)に対応する科目。

<b>到達目標</b>
資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。 市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。

<b>授業全体の内容と概要</b>
Intro。古代から中世へ 1. 近世(初期近代) 2. 近代 3. 現代

<b>授業の方法</b>
P D F資料を中心として行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L		
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

<b>履修上の注意事項</b>
教科書を必ず持参すること。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
教職課程(社会・地理歴史)選択科目

## 評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	30%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解する。	教科書を超える内容について詳しく理解している	中世の経済について教科書の内容を理解できている	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
近代における資本制の発生と展開について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	大戦の発生及びその戦後からEUの誕生とその発展にまで教科書の内容を理解できている	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史(M) (科目ナンバリング: ECH122124, ECH422032)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始 授業改善アンケート結果反映の説明	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
2	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(オランダ&イギリス)	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
3	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(フランス&中・東欧)	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
14	EUへの道	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
15	まとめ	該当箇所の教科書の読解(90分)	期末試験勉強(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	授業の総まとめ(90分)	これまで学んだ事を見返す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 (S) (科目ナンバリング: ECH122124, ECH422032)				
授業担当者 (所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館 8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。</p> <p>とりわけ以下の2点に着目する。</p> <p>資本主義 (資本制) の成立と展開。農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。</p> <p>市場経済化。需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>社会福祉学部のDP (1) (2) (4) に対応する科目。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。</p> <p>市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>Intro. 古代から中世へ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近世 (初期近代)</li> <li>2. 近代</li> <li>3. 現代</li> </ol>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>P D F 資料を中心として行う。</p>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		P B L	
模範授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業	
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他 (授業の方法参照)	

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>教科書を必ず持参すること。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート (合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程 (社会・地理歴史) 選択科目</p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	30%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解する。	教科書を超える内容について詳しく理解している	中世の経済について教科書の内容を理解できている	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
近代における資本制の発生と展開について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	大戦の発生及びその戦後からEUの誕生とその発展に至るまで教科書の内容を理解できている	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史(S) (科目ナンバリング: ECH122124, ECH422032)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始 授業改善アンケート結果反映の説明	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
2	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(オランダ&イギリス)	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
3	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(フランス&中・東欧)	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
14	EUへの道	該当箇所の教科書の読解(90分)	講義で学んだ事の復習(90分)
15	まとめ	該当箇所の教科書の読解(90分)	期末試験勉強(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	授業の総まとめ(90分)	これまで学んだ事を見返す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マルチメディア表現 (科目ナンバリング：MUD422052, MUD522047)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者：由水 伸)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

情報通信技術に基づく、現代のマルチメディアコンテンツおよびその技術、技法について理解する。  
基本的なマルチメディアコンテンツの作成能力を身につけ、応用利用できることを目指す。  
マルチメディアが生活や社会に及ぼす影響についても理解し、経営学的視点からの利用価値について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

- (1)情報通信技術をベースとしたマルチメディア技術について説明できる。
- (2)知的財産権、マルチメディアの市場、社会の現状と近未来を理解できる。
- (3)マルチメディアの基本的な技法を組み合わせ、テキスト・図形・音声・動画を組み合わせたコンテンツを作成できる。

授業全体の内容と概要

1年生ということでコンピューターの基礎知識の習得を終えていないので、冒頭、必要になるICTの基本知識を学ぶ。その後、マルチメディアを支える技術、技法、取り巻く環境を順を追って理解する。  
授業は講義と実習を交えて行い、知識を体感的に理解することを可能としている。  
\*SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろうとの関連授業。

授業の方法

授業はICTを活用した講義と実習で構成される。  
実習はPCを利用し、Microsoft製品のほか、一部、オープンな教育リソースも活用して行う。  
実習課題については良好な事例について発表や、受講者全員での講評などを予定している。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。  
専門用語が多用されるので、自ら調べ、理解する姿勢が必要となる。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。  
原則としてS評価は全授業出席の者に限る。  
授業中に出席した課題は成績に直結するので、すべて提出すること。  
(欠席した回の課題は遅れて提出することを認める)  
最終評価は定期試験と実習課題の評価を合わせて、総合的に決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科目に対する知識・技能の修得状況	知識・技能を得るために真摯な取り組みを見せ、修得が高度に行われていた。また、周囲の学生を支援していた。	知識・技能を得るために真摯な取り組みを見せ、修得が十分に行われた。	知識・技能を得るためにまじめな取り組みを見せ、修得が良好に行われた。	知識・技能を得るためにまじめな取り組みを見せ、修得が行われた。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
実習課題への取り組み状況と成果物	実習課題に積極的に取り組み、創意工夫を持って、魅力ある作品に仕上げることができた。	実習課題に積極的に取り組み、高い表現力のある作品を完成できた。	実習課題に真面目に取り組み、表現力のある作品を完成できた。	実習課題に真面目に取り組み、作品を完成できた。	実習課題に取り組み姿勢が不足し、作品は未完成であった。
主体的に学ぶ姿勢	周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んでいた。また、予習復習を効果的にを行い、学生として模範的であった。	授業中に積極的に質問し、与えられた課題をこなすための相談あり前向きな努力がうかがわれた。	授業中、質問に適切に答えたり、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	積極性は少ないが、学ぼうとする姿勢がうかがわれた。	授業内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マルチメディア表現 (科目ナンバリング: MUD422052, MUD522047)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーションとシラバスの説明 マルチメディアを取り巻く環境と市場ニーズについて	シラバスの確認(90分)	配布資料の確認(90分)
2	コンピューターに関する基礎知識 演算と制御装置(CPU)、記憶装置 入力機器 出力機器 画面表示の仕組み	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
3	数値と数字に関する基礎知識 整数型 浮動小数点型 2進数 10進数 16 進数 メモリ使用量	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
4	テキストとフォントに関する基礎知識 プレーンテキスト リッチテキスト キースト 文字コード フォントの種類	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
5	テキスト表現 【実習】パーポイントを使ったテキストによる表現	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
6	音声に関する基礎知識 アナログとデジタル 音声フォーマット サンプル リングと量子化 圧縮音源 録音機材	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
7	音声編集 【実習】音声編集ソフトを使った波形の取り扱い	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
8	画像に関する基礎知識 ビットマップ画像 ベクター画像 色深度 ペジ ェ曲線 画像圧縮 画像ファイルと形式	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
9	画像編集 【実習】画像編集ソフトを使った図形の取り扱い	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
10	動画に関する基礎知識 アニメーションGIF 動画形式 動画圧縮 コーデ ック 撮影機材	予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
11	動画編集(1) 【実習】動画編集ソフトを使った映像作成 画像 写真 音声の準備	学習内容の予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
12	動画編集(2) 【実習】動画編集ソフトを使った映像作成 動画作成のポイント	学習内容の予習課題(90分)	授業振返り課題(90分)
13	総合課題 学んだ知識を活かした動画コンテンツの作成 各自でテーマを設定し動画で表現する	予習課題(90分)	総合的な実習課題の作成(90分)
14	3Dと仮想現実に関する基礎知識 画像、動画における3D技術と音声サラウンド VR(仮想現実) AR(拡張現実)、MR(複合)	学習内容の予習課題(90分)	総合的な実習課題の作成(90分)
15	A.Iとマルチメディア Society 5.0 マルチメディアと近未来 人間工学 仮想と現実の世界の融合	学習内容の予習課題(90分)	総合的な実習課題の作成(90分)
16	定期試験(60分)、解答解説 (授業アンケート実施回) 総合的な実習課題の提出(オンライン)	定期試験に備えて全講義内容を復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商業科教育法 (科目ナンバリング: ESS443097)				
授業担当者(所属・職名)	大庭 隆(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 大庭 隆)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元高等学校教頭・商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と商業科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

この科目は、経営学科のCP「2(3)」に対応する。全ての人々が共生する社会の実現に資する人材養成、各資格・免許養成に必要な教職に関する科目である。したがって、学生は地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う高校生を指導する教員として基礎的な資質・能力が身に付く。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

教科商業科の内容を把握し、学習指導要領を学習した上で適切に学習指導案が作成できる。商業科教員に必要な基礎的な知識と技術が身に付くことができる。

授業全体の内容と概要

教科「商業」における基礎的科目であるビジネス基礎の内容と指導方法を中心に、マーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の4分野の内容を詳しく理解するとともに、アクティブ・ラーニング等今日求められている学習方法を取り入れた学習指導案の作成と評価方法を学習する。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

講義形式で商業の基礎的科目であるビジネス基礎を中心に、マーケティング、簿記、情報処理等の科目の内容について理解し、重要な項目について教材研究を行うとともに、学習指導案の作成方法について学習する。実習形式で、教材の作成や授業中に必要なICT機器の活用を重視して取り入れる。なお、授業内容や課題については、ハンドアウト、manaba等で提示し、質問・要望等については、授業の最初や授業後にメールで受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程(商業科)の免許取得のための必修科目であり、教育実習や採用試験に直結する講義なので、くれぐれも教員の立場として、また教員の立場になったつもりで物事を考え取り組むこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上である。(特別な場合は別途対応を考慮することがある。)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教科内容の把握(知識の習得)	ビジネス基礎を中心に、マーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の商業科4分野の内容を詳しく理解することができる。商業の必要な情報・データへ、情報機器を利用してアクセスし、活用できる。	ビジネス基礎を中心に、マーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の商業科4分野の内容を理解するとともに、商業の必要な情報・データへ適切にアクセスし、活用できる。	ビジネス基礎を中心に、マーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の商業科4分野の概要を理解するとともに、商業の必要な情報・データへアクセスし、収集できる。	ビジネス基礎を中心に、マーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の商業科4分野の概要を捉えることや、商業の必要な情報・データへアクセスすることが難しい。	
学習指導案の作成(思考・表現力)	新学習指導要領解説の内容が活かされた目標が明確に立てられている。どのような学習形態で、何をどのような順序や方法で指導し、またどのように生徒を評価する観点か明確に記載されている。	新学習指導要領解説の内容に沿って目標が立てられている。どのような学習形態で、何をどのような順序や方法で指導し、またどのように生徒を評価する観点か記載されている。	新学習指導要領解説の内容に沿って目標が立てられている。学習形態や、何をどのような順序や方法で指導するかが概ね記載され、評価する観点か概ね記載されている。	目標が立てられており、学習形態や、何をどのような順序や方法で指導するかをどのようが、生徒の実態を考慮する必要がある。	生徒の実態に合った目標が立てられていない。学習形態や、何をどのような順序や方法で指導するかが明確でない。またどのように生徒を評価する観点か不明確である。
プレゼンテーションスキル(技能・主体的態度)	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた論文やレポートを作成し、ICTを活用し、人前でも問題なくプレゼンテーションできる。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポートを作成し、ICTを活用し、人前でもプレゼンテーションできる。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポートを作成し、ICTを活用し、人前でプレゼンテーションできる。	PC等を活用して論文やレポートを作成し、ICTを活用し、プレゼンテーションできる。	PC等を活用せず、指定の体裁で論文やレポート等資料が十分に作成できない。人前でプレゼンテーションできない。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商業科教育法 (科目ナンバリング: ESS443097)				
授業担当者(所属・職名)	大庭 隆(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 大庭 隆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元高等学校教頭・商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と商業科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教職必修最新商業科教育法』	日本商業教育学会	実教出版	2016	9784407322651	
2	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房		978-4-8278-1541-0	
3	『高等学校学習指導要領解説商業編』	文部科学省	実教出版	2010	97-4-407-32002-2	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 高等学校教育と商業教育(現状と課題)について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおく(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
2	商教育の歴史と高等学校学習指導要領の理解について	高等学校学習指導要領解説商業編を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
3	商業教育の専門性の向上について -文部科学省初等中等教育局教科調査官資料から	事前資料を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
4	教科「商業」の内容とその効果的指導方法について (1)・基礎的科目「ビジネス基礎」	新学習指導要領解説商業編の該当項目を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
5	教科「商業」の内容とその効果的指導方法について (2)・マーケティング分野	新学習指導要領解説商業編の該当項目を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
6	教科「商業」の内容とその効果的指導方法について (3)・ビジネス経済分野(マネジメント分野)	新学習指導要領解説商業編の該当項目を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
7	教科「商業」の内容とその効果的指導方法について (4)・会計分野	新学習指導要領解説商業編の該当項目を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
8	教科「商業」の各科目内容とその効果的指導方法について (5)・ビジネス情報分野	新学習指導要領解説商業編の該当項目を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
9	教育課程(特色ある教育課程の編成とカリキュラム マネジメント)について	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
10	特色ある商業教育の実践(各種特色ある取組と資格 取得)について	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
11	指導計画と効果的な指導のため情報機器を活用した 授業展開について	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
12	アクティブ・ラーニングの視点から考えた学習指導 案の作成について	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
13	学習指導案の作成と発表・評価(1)について	該当項目に関する学習指導案の事前作成(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
14	学習指導案の作成と発表・評価(2)について (上記(1)とは異なる分野の科目で作成)	該当項目に関する学習指導案の事前作成(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
15	学習指導案の改善とまとめ -授業指導要領と比較した新学習指導要領の特色 授業改善アンケートの実施	高等学校学習指導要領解説商業編を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
16	最終回として、内容全体のフィードバックとまとめ	講義の内容を総復習する(90分)	講義内容を整理する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223061)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

油彩やエッグテンペラだけでなく、その他のものについてもより深く学修し、支持体についても様々な処方を試みる。また、絵画制作をとおし、自らをより深く探求するとともに社会とのかかわりについても考察を深化させることを目標とする。技法材料・研究と重複する部分が多いが、繰り返すことにより、より確かなものを獲得できるようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(3)、(5)に対応する。

到達目標

油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法等から、自らの表現の意図に最も相応しい技法を採用し、作品制作を通して個性豊かに自己実現につなげることができる。

授業全体の内容と概要

自ら採用した技法と材料とを駆使し、自らが設定したテーマに沿って制作を行う。客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展等にも挑戦が、発表の場や形式についても自らの作風や大きさに合わせて選択する。

授業の方法

様々な技法材料について学修するだけでなく、主体的に自らが選択した技法や材料に重点を置き、自己表現する実技形式の授業である。それぞれの個性や哲学に相応しいテーマを設定し、表現した作品を創り上げることを課題とするものである。授業での視聴覚機器を活用した情報提供はもとより、履修生自らが美術館や公募展等で得た情報等を作品や人間形成に寄与させるものである。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術を通して何ができるかを引き続き模索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に十分効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解してあらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に十分効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解してあらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
描写について	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をより確かに、より効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を確かに、効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ確かに、ほぼ効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度確かに、ある程度効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法が不十分なもので、効果的に取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性をより深く認識し、社会とのかかわり方についてもより確かな見識を見出した。	自らの感性や個性を認識し、社会とのかかわり方についての見識も見出した。	自らの感性や個性をほぼ認識し、社会とのかかわり方についてもほぼ確かな見識を見出した。	自らの感性や個性をある程度認識し、社会とのかかわり方についてもある程度の見識を見出した。	自らの感性や個性を認識し、社会とのかかわり方についても見識を見出しえなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223061)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
		50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスについて、授業改善アンケート結果反映の 説明、公募展について	予めシラバスに目をおし、出品予定の公募展について も下調べをしておく。(45分)	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画 を立てる。(45分)
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について 下調べをしておく。(45分)	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモチ ーフについて検討する。(45分)
3	様々な技法や材料についての復習 エッグテンペラや油彩の技法・材料について	これまでに学修した様々な絵画技法や材料の特徴を 復習し、新作の表現に最も相応しいものを検討する (45分)	新作についての構想を練る。(45分)
4	様々な技法や材料についての復習 エッグテンペラや油彩の技法・材料について	新作についての構想を取りまとめ、その制作に要す る技法や材料を検討する。(45分)	構想を具体的に下絵として取りまとめ、制作のため の技法や材料を決める。(45分)
5	支持体製作(支持体をどの様にどれだけの大きさ のものにするかは任意選択) 基底材の選択と組み立てについて	新作の表現に最も相応しい基底材を決める。(45分)	基底材に足りないものがあれば補充を行う。(45分)
6	支持体製作 基底材の選択と組み立てについて	基底材の組み立てについて、自らの制作に相応しい ものとなるように作業計画を立てる。(45分)	作品の構想を具現化するために、必要とする資料な どの収集を行う。(45分)
7	支持体製作 地塗り材の選択と地塗り作業について	作品の具現化に最も効果的な地塗り材と塗布の仕方 について検討する。(45分)	本時の制作の進捗を観察し、思い通りの地塗りを行 えるように検討する。(45分)
8	支持体製作 地塗り材の選択と地塗り作業について	作品の構想に照らし、最も相応しい地塗り材の仕方 について検討する。(45分)	本時の地塗りで足りない点がないかを観察する。 (45分)
9	支持体製作 地塗り面の仕上げ	作品の構想に照らし、地塗り面の平滑の程度や吸収 の程度を調整する。(45分)	作り上げた支持体を観察し、不備な個所がないかを 観察する。(45分)
10	下絵の支持体への転写	下絵の転写の仕方を決める。(45分)	転写に不足した点はないかを観察し、必要に応じて 加筆する。(45分)
11	本制作 A(制作のための描法・技法・は任意選択) 大まかな色面把握について	大まかな色面把握ということについて予習する。 (45分)	細部に捉われて基本的な骨格を見失っていないかを 検討する。(45分)
12	本制作 B 大まかな色面把握について	足りない点や過ぎた点がないかについて検討する。 (45分)	他の学生の制作を参考にすることで、自らの制作 の進め方について検討する。(45分)
13	本制作 C 大まかな色面把握について	明度・彩度・色相のそれぞれの差異に目をやり、自 らの制作の進捗を検討する。(45分)	本時の制作を省みて足りない点や過ぎた点について 修正を行う。(45分)
14	本制作 D 大まかな色面把握について	上書きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に 、初期段階から細部に捉われすぎないように注意す (45分)	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について、大 まかに捉えられているかを確かめ、必要に応じて修 正を行う。(45分)
15	本制作 E 上書きによる細部の表現について	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に 、次第に細部に目をやるように注意する。(45分)	全体に目をやり、全体的にかつ段階的に書き込みが 行われているかを確認する。(45分)
16	本制作 F 上書きによる細部の表現について	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係 から変化して見えることを再確認する。(45分)	ここで、写実的な描写を行う場合は、まず明度につ いて、構想したものと間に隔たりが生じていない かを検討する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	本制作 G 上書きによる細部の表現について	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がない かについて検討する。(45分)	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響を 考慮し、構想したものと間に隔たりが生じていな いかを検討する。(45分)
18	本制作 H 上書きによる細部の表現について	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭 いたりして後戻りすることを検討する。(45分)	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、 溶剤や用具について慎重に検討する。(45分)
19	中間発表	これまでの自らの制作振り返る。(45分)	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想に ついて取りまとめる。(45分)
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方 など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。 (45分)	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作 の仕方について計画を立てる。(45分)
21	本制作 I さらなる書き込みについて(質感表現を主に)	ことに、明度に着目し、質感表現について検討す る。(45分)	明度差・コントラスト・やタッチにより質感が変化 することに着目し、これまでの制作を検討する。 (45分)
22	本制作 J さらなる書き込みについて(質感表現を主に)	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表 現されつつあるかを検討する。(45分)	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作 品などを参照する。(45分)
23	本制作 K さらなる書き込みについて(陰影表現を主に)	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められ るように努める。(45分)	次第に、作品の構成要素が増加し複雑化するが、部 分と部分だけでなく部分と全体との関係について 、隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
24	本制作 L さらなる書き込みについて(陰影表現を主に)	確かな陰影表現により、空気感が表現できるように 努める。(45分)	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでな く、彩度や色相についても検討する。(45分)
25	本制作 M さらなる書き込みについて(色彩調和を主に)	かたちや立体感を追い求めるのと同時に、表現の意 図に合った色彩調和について目をやる。(45分)	美しい調和だけでなく、良い調和とはどういうことか について検討する。(45分)
26	本制作 N さらなる書き込みについて(色彩調和を主に)	かたちを損なうことのないように、色彩調和を求め る。(45分)	立体感や奥行きの感を損なうことなく、色彩調和をは かるための要点は何かについて検討する。(45分)
27	本制作 O 仕上げに向けて	さらに全体を見通して、部分どうしや全体とのバラ ンスや調和について検討する。(45分)	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質 感の表現についても検討する。(45分)
28	本制作 P 仕上げに向けて	立体感や空気感が表現できているかを検討する。 (45分)	明部と暗部とについて、かたちや色彩調和を描な うことなく、足りない点や過ぎた点について修正を行 う。(45分)
29	本制作 Q 仕上げに向けて	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討 を行う。(45分)	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行 えているかを検討する。(45分)
30	本制作 R 仕上げに向けて	色彩調和について、全体調整を行う。(45分)	発表を前に、さらに全体に目をやり、自らの構想や 表現の意図に照らし調整を行う。(45分)
31	合評 A	これまでの制作活動を振り返り、良い点や足りない 点などについて検討する。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの制作と作 品についての自己評価を行う。(45分)
32	合評 B、授業改善アンケートの実施	他者との感性や価値観の相違、多様性などを認め、 卒業後の社会生活のあり方についての考えをまと める。(45分)	合評会での他者の意見や助言や感想を参考に、卒業 後の制作活動について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商業科教育法 (科目ナンバリング: ESS443098)				
授業担当者(所属・職名)	大庭 隆(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 大庭 隆)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元高等学校教頭・商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と商業科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成、模擬授業を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

この科目は、経営学科のCP「2(3)」に対応する、全ての人々が共生する社会の実現に資する人材養成、各資格・免許養成に必要な教職に関する科目である。したがって、学生は地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う高校生を指導する教員として必要な資質・能力が身に付く。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

教科商業科の内容を把握し、適切に学習指導案を作成できる。そしてそれを基に、デジタル教材を作成し、人前で模擬授業ができる。さらには、主体的・対話的で深い学びへ向かう姿勢が身に付き、授業改善と授業力向上の方法論を研究する姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

教科「商業」における基礎的科目であるビジネス基礎の内容と指導方法を中心に、マーケティング・マネジメント・会計・ビジネス情報の4分野の内容を詳しく取り扱うとともに、アクティブラーニング等今日求められる学習方法を取り入れた学習指導案の作成と評価方法、そして実践形式の模擬授業の実施を行う。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

商業の基礎的科目であるビジネス基礎を中心に、マーケティング、簿記、情報処理等の科目の内容について、重要な項目に絞り学習指導案を作成し、グループ学習形式でお互い評価し合う演習を行う。そして、授業時間外で作成してきた学習指導案も含めて、教材の作成や授業中に必要なICT機器を大いに活用しつつ、それらに基づいて実際に実習形式で模擬授業を実施する。模擬授業の見学等の参加状況も重要視する。なお、授業内容や課題については、ハンドアウト、manaba等で提示し、質問・要望等については、授業の最初や授業後にメールで受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程(商業科)の免許取得のための必修科目であり、教育実習や採用試験に直結する講義なので、くれぐれも教員の立場として、また教員の立場になったつもりで物事を考え取り組むこと。なお、模擬授業の指導案作成と実践は必須である。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上である。(特別な場合は別途対応を考慮することがある。)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	10%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学習指導案の作成(思考・表現力)	学習指導要領解説の内容が活かされた目標が明確に立てられている。 どのような学習形態で、何をどのような順序や方法で指導し、またどのように生徒を評価する観点が明確に記載されていた。	学習指導要領解説の内容に沿って目標が立てられている。 どのような学習形態で、何をどのような順序や方法で指導し、またどのように生徒を評価する観点が記載されていた。	学習指導要領解説の内容に沿って目標が立てられている。 学習形態や、何をどのような順序や方法で指導するかを概ね記載され、評価する観点が概ね記載されているが、生徒の実態を考慮する必要があるがなかった。	目標が立てられており、学習形態や、何をどのような順序や方法で指導するかを概ね記載され、評価する観点が明確である。またどのように生徒を評価する観点が不明確であった。	生徒の実態に合った目標が立てられていない。 学習形態や、何をどのような順序や方法で指導するのかが明確でない。 またどのように生徒を評価する観点が不明確であった。
模擬授業(主体的態度)	授業がシラバスに明確に位置づけられ、全体を見て構成ができた。 教材・教員や授業の展開の仕方は適切であった。 発問・指示が適切で聞き手の意欲を引き出した。	授業がシラバスにしっかりと位置づけられ、生徒の実態を考慮した構成と、目標が達成できた。 教材・教員や授業の展開の仕方は適切であった。 発問・指示が適切であった。	授業のねらいや目標を明示した上で取り組み、構成された。目標が達成できた。 教材・教員や授業の展開の仕方は妥当であった。 発問・指示が妥当であった。	授業がシラバスに位置づけられ、ねらいや目標に近かった。 教材・教員が用意された。授業が進められた。 発問・指示が見られた。	授業がシラバスに位置づけられず、ねらいや目標が達成されなかった。 教材・教員の準備が不十分で、授業の展開のしかたが適切ではなかった。 発問・指示が見られないが、適切ではなかった。
ICTスキル(知識・技能)	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成するなど、効果的にICTを活用できる。 必要な情報・データに適切にアクセスでき使用できた。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成し、ICTを活用した。 必要な情報・データに適切にアクセス使用できる。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できる。 必要な情報・データにアクセスし使用できた。	PC等を活用して論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成する。 必要な情報・データにアクセスし使用した。	PC等を活用できず、指定の体裁で論文やレポート、プレゼンテーション資料が作成できない。 必要な情報・データにアクセスできなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商業科教育法 (科目ナンバリング: ESS443098)				
授業担当者(所属・職名)	大庭 隆 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 大庭 隆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元高等学校教頭・商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と商業科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成、模擬授業を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教職必修最新商業科教育法』	日本商業教育学会	実教出版	2016	9784407322651	
2	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房		978-4-8278-1541-0	
3	『高等学校学習指導要領解説商業編』	文部科学省	実教出版	2010	978-4-407-32002-2	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 商業科の科目と指導法(1)・学習目標の設定と単元の評価規準	シラバスをよく読んでおく(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
2	商業科の科目と指導法(2)・指導と評価の計画 観点別学習状況の評価	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
3	学習指導案作成とICTを活用した効果的な教材の作成 (1)デジタル素材 (2)デジタルコンテンツ	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
4	授業のための効果的なプレゼンテーション方法 (1)デジタル素材の活用 (2)様々なハード・ソフトウェアの活用	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
5	年間指導計画、単元別指導計画、学習指導案、指導ノートの作成	新学習指導要領解説商業編を熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
6	学習指導案の作成 実施科目: ビジネス基礎	模擬授業準備、基礎的科目(ビジネス基礎)、学習指導要領の解説(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
7	模擬授業-学習指導案の作成と実践・授業観察 (1) 実施科目: ビジネス基礎(ビジネスとコミュニケーション)	該当項目の模擬授業準備(指導案等の事前作成)(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
8	模擬授業-学習指導案の作成と実践・授業観察 (2) 実施科目: ビジネス基礎(ビジネスと売買取引)	該当項目の模擬授業準備(指導案等の事前作成)(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
9	模擬授業-学習指導案の作成と実践・授業観察 (3) 実施科目: ビジネス基礎(経済と流通の基礎)	該当項目の模擬授業準備(指導案等の事前作成)(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
10	模擬授業の評価と反省(効果的な指導方法について)	過去3回分の内容について意見をまとめる(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
11	模擬授業-学習指導案の作成と実践・授業観察 (4) 実施科目: 4分野から各自選択	該当科目の模擬授業準備(指導案等の事前作成)(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
12	模擬授業-学習指導案の作成と実践・授業観察 (5) 実施科目: 上記と異なる分野から各自選択	該当科目の模擬授業準備(指導案等の事前作成)(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
13	模擬授業の評価と反省(効果的な指導方法)	過去2回分の内容について意見をまとめる(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
14	社会の変化に適應する商業教育と学校運営(キャリア教育)	事前資料の熟読(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
15	課題の整理・作成とまとめ	模擬授業の総合的なまとめと反省(90分)	講義内容を整理し、まとめて次回に備える(90分)
16	まとめ -商業科教育法とキャリア形成(教員採用試験について)、授業改善アンケートの実施	事前資料の熟読(90分)	講義内容をまとめる(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222069)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

彫刻では、木彫の基本的な技法、用具の使いかた、材料についての知識を実践的に学ぶ

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、プレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

立体構成1及び2、彫刻1を履修したものが望ましい。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。評価は作品点(70%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。講義の前中で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようとしていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222069)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理科しておく事(45分)
2	彫刻を考える	身近な彫刻作品について考えてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
3	木彫「りんご」ドローイング 髪研ぎ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
4	木彫「りんご」ドローイング 髪研ぎ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
5	木彫「りんご」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
6	木彫「りんご」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
7	木彫「りんご」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
8	木彫「りんご」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
9	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
10	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
11	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
12	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
13	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
14	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
15	木彫「りんご」 仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
16	木彫「りんご」 仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	木彫2 「抽象彫刻」 ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
18	木彫2 「抽象彫刻」 ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
19	木彫2 「抽象彫刻」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
20	木彫2 「抽象彫刻」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
21	木彫2 「抽象彫刻」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
22	木彫2 「抽象彫刻」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
23	木彫2 「抽象彫刻」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
24	木彫2 「抽象彫刻」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
25	木彫2 「抽象彫刻」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
26	木彫2 「抽象彫刻」 彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
27	木彫2 仕上げ 「抽象彫刻」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
28	木彫2 「抽象彫刻」 仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 (M) (科目ナンバリング: POL123133, POL422050)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

国際社会の抱える諸問題の現状と歴史および国際政治を把握するための基礎的な理論を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

国際政治の歴史的な展開を説明することができる。  
 国際政治に関する理論を理解し説明することができる。  
 国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。

授業全体の内容と概要

国境を越えたモノ、カネ、ヒトの自由移動の進展に伴い、今日の世界はますます相互に依存し合うようになっている。この授業では、国際社会が抱える諸問題について、歴史的な経緯と国際政治の理論をもとに学んでいく。  
 「SDG1. 貧困をなくそう」、「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」、「SDG16. 平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会)の選択科目、教職課程(公民)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
国際政治の歴史的な展開を説明することができる。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、発展的に説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を部分的に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
国際政治に関する理論を理解し説明することができる。	国際政治に関する基礎的な理論を正確に理解し、発展的に説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を正確に理解し、説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を理解し、説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を部分的に理解し、説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を理解し、説明することができなかった。
国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを十分に説明することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを説明することができた。	国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを説明することができた。	国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを部分的に説明することができた。	国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 (M) (科目ナンバリング: POL123133, POL422050)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
2	国際関係の成立	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
3	第一次世界大戦	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
4	第二次世界大戦 ヨーロッパ	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
5	第二次世界大戦 アジア	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
6	冷戦の始まり	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
7	冷戦の展開	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
8	冷戦後の国際政治 湾岸戦争	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
9	冷戦後の国際政治 9・11アメリカ同時多発テロ	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
10	中間テスト	中間テスト範囲のプリントの熟読 (90分)	中間テストの復習 (90分)
11	日米関係の歴史	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
12	国際政治理論からみた日米関係	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
13	東アジアの国際情勢	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
14	国際政治の理論	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分+解説30分)	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 (S) (科目ナンバリング: POL123133, POL422050)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

国際社会の抱える諸問題の現状と歴史および国際政治を把握するための基礎的な理論を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標

国際政治の歴史的な展開を説明することができる。  
 国際政治に関する理論を理解し説明することができる。  
 国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。

授業全体の内容と概要

国境を越えたモノ、カネ、ヒトの自由移動の進展に伴い、今日の世界はますます相互に依存し合うようになっている。この授業では、国際社会が抱える諸問題について、歴史的な経緯と国際政治の理論をもとに学んでいく。  
 「SDG1. 貧困をなくそう」、「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」、「SDG16. 平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会)の選択科目、教職課程(公民)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
国際政治の歴史的な展開を説明することができる。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、発展的に説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を部分的に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
国際政治に関する理論を理解し説明することができる。	国際政治に関する基礎的な理論を正確に理解し、発展的に説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を正確に理解し、説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を理解し、説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を部分的に理解し、説明することができた。	国際政治に関する基礎的な理論を理解し、説明することができなかった。
国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを十分に説明することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを説明することができた。	国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを説明することができた。	国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを部分的に説明することができた。	国際社会の諸問題を考察し、自分の考えを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論(S) (科目ナンバリング: POL123133, POL422050)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
2	国際関係の成立	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
3	第一次世界大戦	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
4	第二次世界大戦 ヨーロッパ	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
5	第二次世界大戦 アジア	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
6	冷戦の始まり	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
7	冷戦の展開	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
8	冷戦後の国際政治 湾岸戦争	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
9	冷戦後の国際政治 9・11アメリカ同時多発テロ	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
10	中間テスト	中間テスト範囲のプリントの熟読(90分)	中間テストの復習(90分)
11	日米関係の歴史	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
12	国際政治理論からみた日米関係	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
13	東アジアの国際情勢	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
14	国際政治の理論	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
16	定期試験(試験60分+解説30分)	試験の準備(90分)	試験のふり返り(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223063)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>自ら感心や感動を覚える対象を選択し、よく観察し写生することを通して日本画の表現に欠かせない基礎的な描写力を伸ばすことができる。</li> <li>日本画の内容を発展させ、手漉き和紙の制作を通して日本画の基底材としての和紙の特徴と表現の多様性を知ることができる。</li> <li>基底材から発想を得て、さらに、箔・岩絵の具などの画材の扱いの基本を知り、その表現の多様性を知ることができる。</li> <li>各自の構想に沿って画材と基底材を選択し、独自の日本画表現へと発展させることができる。</li> </ol>

授業の位置づけ
美術学部デザイン学科のDP(1)(2)(5)に対応する。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>手漉き和紙の制作を通して、日本画の基底材としての和紙の特性に気付く。</li> <li>身近な自然物、静物、人物、風景などの写生を通して、対象から受けた感動を独自の表現に近づけようとしている。</li> <li>岩絵の具や箔の表現技法を習得し、各自の構想に沿った表現に生かすことができる。</li> </ol>

授業全体の内容と概要
楮とトロロアオイを使って手漉き和紙を作成する。揉み紙技法と裏打ち技法の習得を通して和紙の特性と可能性に気付く。膠・箔・罌水・岩絵の具の特徴を知る。自然物、人物、静物などを写生する。基底材研究を通して技法を選択し作品の構想を練る。写生をもとに下絵を作る。主に岩絵の具を使って制作を進める。

授業の方法
授業は、日本画の基礎知識についての講義と日本画の画材や表現についての実技によって構成される。日本画における基礎的な知識と技法を応用し、より積極的に日本画制作に関わって行うとする姿勢が望まれる。希望者は学外(円山動物園)と学内(大学構内)での写生を行う(フィールドワーク)。制作の構想時と完成時に作品についての発表(プレゼンテーション)と相互批評を行う。手漉き和紙の制作は全員で協力して行う(グループワーク)。「創作ノート」に作品完成までの構想や技法を記録し提出することを課す。素材や技法については授業内での解説と演習の他にTEAMSのパワーポイント資料を参照しながら進める。

アクティブラーニングの実施方法				
プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
使用する木製パネル、楮紙素、裏打ち紙等は各自で購入するものとする。日本画を履修し単位を取得した者を対象にする。制作スペースと用具の関係から履修人数を24名程度に制限する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準												
評価前提条件												
単位認定に必要となる最低出席回数は2回以上とする。以下、3点が期日までに提出されていること 写生(TEAMS課題欄に提出) 日本画紙本作品1点 受講制作ノート												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	80%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	80%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>写生力</td> <td>対象の色と形をよく観察し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。</td> <td>対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。</td> <td>対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。</td> <td>対象の色と形を描写することができた。</td> <td>対象の色と形を描写できなかった。</td> </tr> <tr> <td>構成力</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙などの技法を摂取しつつ独自の表現へと高めることができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙などの技法を摂取して独自の表現に生かすことができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙など和紙の特性を生かした技法を試みることができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉くことができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知った上で和紙を漉くことができなかった。和紙の特性を生かした技法を知ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>岩絵具の色、質感、粒子の特徴を熟知できた。岩絵具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面上に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵具の色、質感、粒子の特徴を理解できた。岩絵具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面上に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができた。岩絵具を画面上に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができた。岩絵具を画面上に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができなかった。岩絵具を画面上に確実に定着させることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>構想力</td> <td>受講制作ノートの記録を通して、自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを活用することができた。</td> <td>自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを活用することができた。</td> <td>自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを記録した。</td> <td>自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講制作ノートを活用することができた。</td> <td>自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講制作ノートの記録を活用することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	写生力	対象の色と形をよく観察し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。	構成力	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙などの技法を摂取しつつ独自の表現へと高めることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙などの技法を摂取して独自の表現に生かすことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙など和紙の特性を生かした技法を試みることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉くことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知った上で和紙を漉くことができなかった。和紙の特性を生かした技法を知ることができなかった。	表現力	岩絵具の色、質感、粒子の特徴を熟知できた。岩絵具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴を理解できた。岩絵具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができた。岩絵具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができた。岩絵具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができなかった。岩絵具を画面上に確実に定着させることができなかった。	構想力	受講制作ノートの記録を通して、自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを記録した。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講制作ノートを活用することができた。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講制作ノートの記録を活用することができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
写生力	対象の色と形をよく観察し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。																														
構成力	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙などの技法を摂取しつつ独自の表現へと高めることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙などの技法を摂取して独自の表現に生かすことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地獄打ち、揉み紙など和紙の特性を生かした技法を試みることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉くことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知った上で和紙を漉くことができなかった。和紙の特性を生かした技法を知ることができなかった。																														
表現力	岩絵具の色、質感、粒子の特徴を熟知できた。岩絵具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴を理解できた。岩絵具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができた。岩絵具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができた。岩絵具を画面上に確実に定着させることができた。	岩絵具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、発色良く表現することができなかった。岩絵具を画面上に確実に定着させることができなかった。																														
構想力	受講制作ノートの記録を通して、自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講制作ノートを記録した。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講制作ノートを活用することができた。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講制作ノートの記録を活用することができなかった。																														

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223063)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの説明 ・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく。授業テキストの和紙の欄を読む。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
2	基底材研究演習	作業分担に沿って和紙漉き演習に必要な準備をする。(45分)	手漉き和紙制作の用具・工程などの知識を確認する。(45分)
3	基底材研究演習 ・楕とトロアオイで和紙を漉く	作業の役割に沿って準備を進める。和紙の構造を学ぶ。(45分)	手漉き和紙制作の用具・工程などの知識を確認する。(45分)
4	基底材研究演習 ・楕とトロアオイで和紙を漉く	手漉き和紙の工程を理解し各自の工夫や研究の成果を確認する。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
5	漉いた和紙を板から剥がす モチーフの写生	描きたいモチーフを選択し取材準備する。(45分)	和紙を剥がす経験を通し乾燥と強度を確認する。(45分)
6	モチーフの写生 ・希望者は大学構内での写生授業	授業以外での写生を作品制作に利用できる内容に整える。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
7	モチーフの写生 和紙に墨水をひく	前までの写生を通して作品の構想を進める。(45分)	手漉き和紙に墨水を施す目的と方法を知る。作品の構想を練る。(45分)
8	モチーフの写生 ・希望者は大学構内での写生授業	墨水を引いた和紙の管理をする。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
9	基底材から発想する ・揉み紙技法を知る ・裏打ち技法を知る	授業テキストの揉み紙の欄、裏打ちの欄を読む。(45分)	揉み紙技法を確認する。裏打ち技法を確認する。(45分)
10	モチーフの写生	揉み紙と裏打ちの効果を知り作品の構想を進める。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
11	基底材から発想する ・揉み紙技法を知る ・裏打ち技法を知る	授業テキストの揉み紙の欄と裏打ちの欄を読む。(45分)	揉み紙と裏打ちの効果を確認する。(45分)
12	モチーフの写生 ・岩絵の具のマチエールを知る ・銀箔の硝化変色を知る	TEAMSの資料でマチエールと箔の変色について確認する。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
13	作品の構想をまとめる 構想に沿って技法を選択する	作品の構想をまとめ、基底材に施す技法の選択をする。(45分)	作品の構想を確認し使用する技法を精査する。(45分)
14	相互鑑賞 ・下図の完成	作品の構想と技法を決定し紹介する内容を決める。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
15	岩絵の具を知る ・下地を作る	テキストの岩絵の具の欄を読む。(45分)	岩絵の具の粒子を確認する。(45分)
16	岩絵の具を知る ・岩絵の具の粒子と密度を知る	使いたい岩絵の具を選択する。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	岩絵の具を知る ・下図を転写する ・念紙を知る	トーンが「ペ」に下図が転写出来ているか確認する。(45分)	念紙の目的と使い方を確認する。(45分)
18	岩絵の具を知る ・岩絵の具の粒子と塗りの技法を知る	岩絵具の着彩に必要な準備をする。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
19	着彩	本紙に下図が転写出来ていること。岩絵具の着彩に必要な準備をする。(45分)	岩絵具の扱い方、膠抜きを確認する。(45分)
20	着彩 ・岩絵の具の保管方法(膠抜き)を知る	岩絵具の着彩に必要な準備をする。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
21	着彩 ・岩絵の具の塗りの技法を知る	膠、膠綿、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ている。(45分)	岩絵具の塗りの技法を確認する。(45分)
22	着彩	岩絵具の着彩に必要な準備をする。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
23	着彩 ・岩絵の具の塗りの密度と発色の関係を知る	膠、膠綿、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ている。(45分)	岩絵具の粒子と塗りの密度、発色を確認する。(45分)
24	着彩	岩絵具の着彩に必要な準備をする。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
25	着彩 ・箔を生かす	膠、膠綿、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ている。テキストとTEAMS資料で箔の技法を確認する。(45分)	箔の種類、砂子以外の技法を知る。(45分)
26	着彩	岩絵具の着彩に必要な準備をする。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
27	着彩	膠、膠綿、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ている。(45分)	岩絵具の彩色の進捗状況を確認する。(45分)
28	着彩	岩絵具の着彩に必要な準備をする。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
29	相互鑑賞 ・画印を描く	相互鑑賞で自作を語る準備が出来ている。(45分)	岩絵具の彩色の進捗状況を確認する。(45分)
30	作品完成と鑑賞 作品を額装する	作品の装丁、額の種類、創作ノートの整備、提出物の準備が出来ている。(45分)	テキスト、TEAMSのパワーポイント資料を確認し習得した知識や授業の感想を創作ノートに記入する。(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック 課題を額装する 創作ノートを完成させる	講義全体を通して質問事項をまとめておく。(45分)	岩絵具の彩色の完成とノートの記入を確認する。(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	提出物の最終確認をする。	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223067)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	鴨 修平(デザイン学科・非常勤)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

漫画の基礎技術の向上と現代における表現技法の多様性を学習し、漫画雑誌だけを発表の場としない柔軟な考えを身につけ、芸術文化の推進に率先垂範できる能力を身に付けるとともに、芸術文化をとおし社会における使命・役割を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

漫画の作業工程を理解し、制作する中で漫画の読者の立場から作者の立場に視点を変化することができる。

授業全体の内容と概要

いくつかの課題を通して基礎的なテクニックの確認と補強をしながら、雑誌投稿などを想定した漫画作品の制作を各自で行う。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。(持参できない場合は講師と相談) 3回の遅刻で1回の欠席とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。  
授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期日内に作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現(知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。
漫画制作(ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できなかった。作品を創作できなかった。
漫画制作(作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223067)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子 (デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明・原稿の制作手順	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
2	好きな作品のプレゼンイラスト2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
3	ストーリーのネームと実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
4	ストーリーのネームと実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
5	ストーリーのネームと実技3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
6	ストーリーのネームと実技4	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
7	背景作画1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
8	ペンとスクリーントーンの実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
9	背景作画2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
10	ペンとスクリーントーンの実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
11	4P漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
12	4P漫画制作 ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
13	4P漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
14	4P漫画制作 下書き	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
15	4P漫画制作 ペン入れ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
16	4P漫画制作 仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
18	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
19	ストーリー漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
20	ストーリー漫画制作 ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
21	ストーリー漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
22	ストーリー漫画制作 下書き	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
23	ストーリー漫画制作 ペン入れ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
24	ストーリー漫画制作 ペン入れ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
25	ストーリー漫画制作 背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
26	ストーリー漫画制作 ベタぬり・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
27	ストーリー漫画制作 スクリーントーン	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
28	ストーリー漫画制作 仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
29	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
30	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
31	授業改善アンケートの実施 講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
32	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN323024)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

外界の厳しい自然環境から人間生活を護り、快適な室内環境を実現するために、「建築環境」の内容に引き続き、建築伝熱、建築音響、湿気・結露の物理的基礎、及びその建築計画上の方法を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)に対応する。

到達目標

建築計画上の物理的基礎として、熱費流の3つの過程、音波の基本的性質や音の強さ、湿り空気の性質を理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業。室内と外部の温度差を生じる伝熱理論、室内の湿り空気や結露問題、音波の性質や吸音・遮音について、その基礎的取扱いからその建築計画上の方法までを学ぶ。さらに演習問題を通して理解を深める。

授業の方法

授業は、パワーポイントおよび配付資料で実施し、資料にて説明をした後、演習問題を行う。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。授業の最後には「ふりかえり」レポートを提出し、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・ A4版ポケットタイプのファイルとノートを毎回持参すること。
- ・ 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ・ 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
45%	15%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築伝熱の理解	外気から室内までの熱費流抵抗と熱費流量を計算できた。	熱費流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。	熱費流率と熱伝達率、熱費流率の関係を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できなかった。
建築音響の理解	音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。	吸音材料と吸音構造について理解できた。	吸音や遮音の考え方について理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。
湿気と結露の理解	表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。	室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。	空気線図の見方を理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN323024)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新建築環境工学 改定4版』	田中俊六	井上書院	2014	9784753017577	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
2	熱環境 - 1 伝熱の基礎 熱エネルギーの流れ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
3	熱環境 - 2 固体中の熱伝導・熱伝達と熱貫流	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
4	熱環境 - 3 熱伝導率や熱伝達率と熱貫流率の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
5	熱環境 - 4 熱貫流量の計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
6	熱環境 - 5 建物外表面の熱授受と熱損失評価	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
7	音環境 - 1 音の性質と伝播、音の表し方と単位、音の大きさと聴感	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
8	音環境 - 2 室内音響 室内音響計画、室内音響の評価、室内音響設計	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
9	音環境 - 3 壁・床の遮音対策、音響透過損失	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
10	音環境 - 4 建築音響の材料と構造	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
11	音環境 - 5 騒音とその防止 騒音の測定と評価、騒音の伝播、騒音防止計画	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
12	湿気と結露 - 1 湿り空気、露点温度と結露、空気線図	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
13	湿気と結露 - 2 壁の透湿と結露、定常透湿計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
14	湿気と結露 - 3 表面結露と内部結露、断熱と温度・湿度の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
15	湿気と結露 - 4 結露の発生と防止対策	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)授業改善アンケートの実施	試験範囲について復習しておくこと(90分)	試験内容について復習しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イノベーションマネジメント論 (科目ナンバリング: MAN423036, MAN523039)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について事例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
近年、グローバル社会においてイノベーションの創出は国家レベルの重点政策として取り組まれている。我が国においても少子高齢化、人口減少社会、経済のグローバル化の進展といった課題解決に向けてイノベーションの必要性が益々高まってきている。本講義では、イノベーションの本質を理解し、その創出過程のメカニズムを明らかにするとともに、成功する為に必要な条件について理解することをねらいとする。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標
イノベーションの本質について理解し、将来、自らイノベーションを起こすことで、社会に価値を提供できるような考え方、発想を持てるようにする。選ばれた天才のみが発明できるのではなく、身近なレベルでもイノベーションを起こすことが可能であることを理解する。

授業全体の内容と概要
イノベーションとは単に技術的な発明だけでなく、既に存在するものを組み合わせることで新しい価値を創出することも可能である。古典的な理論から始まり、主流となつた破壊的イノベーション、そして最新のオープンイノベーション等の概念について体系的に学習することで、イノベーションの多様な在り方について理解する。また、イノベーションを起こす際のマネジメント理論についても習得する。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(商業)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	20%	0%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	20%	0%	0%	10%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イノベーションについての理解</td> <td>国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグローバルの視点から説明することができた</td> <td>イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた</td> <td>イノベーションの意味について説明することができた</td> <td>イノベーションの意味について理解していた</td> <td>イノベーションの意味について全く理解していなかった</td> </tr> <tr> <td>イノベーションの理論についての理解</td> <td>今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた</td> <td>イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた</td> <td>イノベーションの理論について説明することができた</td> <td>イノベーションの理論について理解していた</td> <td>イノベーションの理論について全く理解していなかった</td> </tr> <tr> <td>イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解</td> <td>イノベーションを起こすことが可能な企業を具体的にイメージすることができた</td> <td>イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた</td> <td>イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた</td> <td>イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた</td> <td>イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	イノベーションについての理解	国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグローバルの視点から説明することができた	イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの意味について説明することができた	イノベーションの意味について理解していた	イノベーションの意味について全く理解していなかった	イノベーションの理論についての理解	今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた	イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの理論について説明することができた	イノベーションの理論について理解していた	イノベーションの理論について全く理解していなかった	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解	イノベーションを起こすことが可能な企業を具体的にイメージすることができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
イノベーションについての理解	国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグローバルの視点から説明することができた	イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの意味について説明することができた	イノベーションの意味について理解していた	イノベーションの意味について全く理解していなかった																								
イノベーションの理論についての理解	今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた	イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの理論について説明することができた	イノベーションの理論について理解していた	イノベーションの理論について全く理解していなかった																								
イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解	イノベーションを起こすことが可能な企業を具体的にイメージすることができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イノベーションマネジメント論 (科目ナンバリング: MAN423036, MAN523039)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	イノベーションとは何か?	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	DX(デジタル・トランスフォーメーション)概論	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	シュンペーターの新結合	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	ドラッカーの「7つの機会」	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	知識創造理論(SECIモデル)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	破壊的イノベーション(1)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	破壊的イノベーション(2)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	オープンイノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	リバース・イノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	イノベーション実現のための戦略(1)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	イノベーション実現のための戦略(2)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	イノベーションを起こすマネジメント(1)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	イノベーションを起こすマネジメント(2)	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222083)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈について理解することが目的である。

授業の位置づけ
---------

デザイン学科のDP(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
------

学生が造形論に関わる内容に関して(最低限の)口頭での発表またはレポート形式で記述することを学ぶことができる。

授業全体の内容と概要
------------

学生が美術、デザインにおける基本的素養としての造形解釈について理解するために、授業計画に記載されている「ハイブリッド感覚」や「類像現象」などの直観的で造形の本質に関するテーマに触れ、理解した内容やコンセプト、自らの思考を口頭での発表やレポート形式で記述する。

授業の方法
-------

授業のプレゼンテーションの方法としてパワーポイントを用いて授業を実施し、講義形式で授業をすすめる。毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回のテーマについてアクティブラーニングとして各自が自ら主体となって能動的に口頭での発表や、レポート形式で記述(レポート制作)する。学生が、プレゼンテーションとしての口頭での発表やレポート形式で記述を行う。実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート(13課題)の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。また、毎回の口頭での発表や、レポートに対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。自筆ノートを制作すること。出席を取り終わったあとは欠席とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

教職課程(美術・工芸)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

10回以上の最低出席回数。および、レポート課題10課題以上の提出の双方。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が、人間に関わる文化的な表徴であることを理解し表現している。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、十分に目標に達成していた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、概ね出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、不十分ではあるが出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、最低限出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説と、さらには自らが対象としたものについての考察の内容が充実している。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、十分に目標に達成していた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、概ね出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、不十分ではあるが出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、最低限出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、全く出来ていなかった。
レポートとしての構成、内容、および、基本的な記述の形式が正しく表現されている。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、十分に目標に達成していた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、概ね出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、最低限出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222083)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, 授業の進め方, 単位認定について シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, 授業の進め方についての確認 (90分)
2	ハイブリッド感覚	ハイブリッド感覚(90分)	ハイブリッド感覚(90分)
3	類像現象	類像現象(90分)	類像現象(90分)
4	手法としての流用	手法としての流用(90分)	手法としての流用(90分)
5	架空の風景	架空の風景(90分)	架空の風景(90分)
6	ミニチュア化	ミニチュア化(90分)	ミニチュア化(90分)
7	表現形式としてのドット	表現形式としてのドット(90分)	表現形式としてのドット(90分)
8	組み替えのデザイン	組み替えのデザイン(90分)	組み替えのデザイン(90分)
9	表現形式のアーキタイプ	表現形式のアーキタイプ(90分)	表現形式のアーキタイプ(90分)
10	構成要素で構成されている造形	構成要素で構成されている造形(90分)	構成要素で構成されている造形(90分)
11	擬態するデザイン	擬態するデザイン(90分)	擬態するデザイン(90分)
12	作品の解釈について	作品の解釈について(90分)	作品の解釈について(90分)
13	見立て	見立て(90分)	見立て(90分)
14	簡略化のデザイン	簡略化のデザイン(90分)	簡略化のデザイン(90分)
15	まとめ レポート提出	簡略化のデザイン(90分)	まとめ レポート提出(90分)
16	講評 レポート返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング: BSM323027)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

構造用鋼から圧延された鋼板および各種の形鋼を高力ボルトや溶接などの接合手段によって組み上げた構造または建築物を鉄骨構造という。鉄骨構造建築物の柱、梁、梁・梁、柱梁接合部、柱脚などの断面設計法について例題を通して修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

鋼材の種類と記号を学び、引張材、圧縮材など部材設計の基本事項を修得し、簡単な計算例を通してボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鋼材の種類と記号を学び、設計荷重、鋼材の許容応力度、ボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計法を中心に講義・演習を中心に行う。また、引張材、圧縮材など部材設計の基本についても講義・演習を行う。

授業の方法

授業は配布物とプロジェクターを中心に講義形式で行う。授業では、課題解説・演習等をおり交ぜて行うが、基本的に予習課題を事前学修し重要箇所について確認しながら進めていく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回出席しなければ、分らなくなるので注意する。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目、建築士試験受験資格課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鋼材の種類と記号	鉄骨構造・鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴をほぼ簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できなかった。
引張材、圧縮材など部材設計の基本事項	引張材、圧縮材、曲げ材などの許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度についてほぼ簡単に説明できた。	許容応力度について説明できた。	許容応力度について簡単に説明できなかった。
設計荷重、鋼材の許容応力度、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計	複雑な接合設計について簡単に説明できた。	接合設計について簡単に説明できた。	接合設計についてほぼ簡単に説明できた。	接合設計について説明できた。	接合設計について簡単に説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング: BSM323027)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識(第三版)』	橋本篤秀	市ヶ谷出版社	2016	9784870711563	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 鋼構造の概要	シラバスを確認する(90分)	授業内容の復習(90分)
2	鋼材の基礎	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
3	鉄骨の構造設計	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
4	引張材の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
5	引張材の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
6	圧縮材の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
7	圧縮材の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
8	圧縮材の力学(3)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
9	曲げ材の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
10	曲げ材の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
11	曲げ材の力学(3)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
12	接合部の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
13	接合部の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
14	接合部の力学(3)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
15	耐震設計概要	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説	全体内容の再確認及び理解(90分)	試験内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	eビジネス論 (科目ナンバリング: MAN422021, MAN522023)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役のITコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるIT(とりわけインターネット)の活用価値について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
近年、ビジネスにおいてインターネットの活用は当たり前と言えるが、特にスマートフォンの普及によりビジネスモデルそのものが多様化しつつある。本講義では企業がインターネットを活用することで、いかに生産性向上を図ることができるかを認識することができる。あわせて、現在、注目が集まっているDXの概念についても理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標
インターネットビジネスの多様性とその価値について理解し、安全かつ効果的な活用ができるための基礎知識を習得し、社会に出てから実践に役立つようなスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要
本講義ではeビジネスの基本から理解し、ビッグデータ、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、RPA、キャッシュレス社会といった最新のトレンドの動向にも触れることでこれからのインターネットの活用価値と可能性について理解する。またソーシャルメディアの台頭により、情報発信・コミュニケーションを主目的としたインターネット活用へのパラダイムシフトが急速に進行していることについても認識を深める。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	20%	0%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	20%	0%	0%	10%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>eビジネスについての理解</td> <td>eビジネスで成果を上げていた企業について経営戦略と関連付けて説明することができた</td> <td>eビジネスで成果を上げていた企業について成功要因について説明することができた</td> <td>eビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた</td> <td>eビジネスとは何かについて理解していた</td> <td>eビジネスについて全く理解していなかった</td> </tr> <tr> <td>eビジネスを実践している企業の調査</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査し結果をレポートとしてまとめることができた</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査をすることができた</td> <td>eビジネスを実践している企業の調査ができなかった</td> </tr> <tr> <td>eビジネスの現在と未来の可能性についての理解</td> <td>eビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた</td> <td>eビジネスの可能性について説明することができた</td> <td>eビジネスの現在について説明することができた</td> <td>eビジネスの現在について理解していた</td> <td>eビジネスの現在について全く関心がなかった</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	eビジネスについての理解	eビジネスで成果を上げていた企業について経営戦略と関連付けて説明することができた	eビジネスで成果を上げていた企業について成功要因について説明することができた	eビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた	eビジネスとは何かについて理解していた	eビジネスについて全く理解していなかった	eビジネスを実践している企業の調査	eビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた	eビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた	eビジネスを実践している企業の調査し結果をレポートとしてまとめることができた	eビジネスを実践している企業の調査をすることができた	eビジネスを実践している企業の調査ができなかった	eビジネスの現在と未来の可能性についての理解	eビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた	eビジネスの可能性について説明することができた	eビジネスの現在について説明することができた	eビジネスの現在について理解していた	eビジネスの現在について全く関心がなかった
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
eビジネスについての理解	eビジネスで成果を上げていた企業について経営戦略と関連付けて説明することができた	eビジネスで成果を上げていた企業について成功要因について説明することができた	eビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた	eビジネスとは何かについて理解していた	eビジネスについて全く理解していなかった																								
eビジネスを実践している企業の調査	eビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた	eビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた	eビジネスを実践している企業の調査し結果をレポートとしてまとめることができた	eビジネスを実践している企業の調査をすることができた	eビジネスを実践している企業の調査ができなかった																								
eビジネスの現在と未来の可能性についての理解	eビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた	eビジネスの可能性について説明することができた	eビジネスの現在について説明することができた	eビジネスの現在について理解していた	eビジネスの現在について全く関心がなかった																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	eビジネス論 (科目ナンバリング: MAN422021, MAN522023)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現役のITコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるIT(とりわけインターネット)の活用価値について実例を挙げて解説する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
2	eビジネスとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
3	DX(デジタル・トランスフォーメーション)の波	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
4	デジタルマーケティングの動向	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
5	ソーシャルメディア概論	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
6	クラウドコンピューティング	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
7	IoT(モノのインターネット)とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
8	IoT(モノのインターネット)のビジネスへの応用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
9	迫りくるキャッシュレス社会	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
10	コロナ禍で普及したテレワーク	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
11	AI(人工知能)の基本	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
12	AI(人工知能)のビジネスへの応用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
13	RPAについて	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
14	eビジネスに必要な情報セキュリティ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。(30分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング: LAW422018, LAW522020)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

法令違反が企業の存亡をも左右する現在、法律を守りそれに従って行動することが強く求められる。ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得することを目指す。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

ビジネス実務法務検定試験(東京商工会議所主催)を通して、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得する。基本的法律知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業全体の内容と概要

ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することにより、ビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。ビジネス活動で日常起こりうる法的な問題点の認識。具体的には、民法・商法・経済刑法・知財法・独禁法・労働法・税法等、コンプライアンス・CSR(企業の社会的責任)・内部告発、ビジネス実務法務検定試験受験対策講座。「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業(第3回から第4回の計2回)は、資料をパワーポイントで投影し、資料を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。問題演習を行う授業(第5回から第13回の計9回)は、資料を配布して実施する。確認テストは、講義の理解を深めるために5回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。小テストは、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(欠欠などの学生に対しては補講を実施する)。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上  
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた。	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えていた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング: LAW422018, LAW522020)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ポケット六法 令和5年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2021年	9784641009233	
2	『民法 第2版(ファーストトラックシリーズ2)』	伊藤真	弘文堂	2020年	9784335314612	
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ビジネス実務法務検定とは	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	ガイダンス シラバスの説明 ビジネスに関わる法律とは コンプライアンス能力とは	シラバスの確認 コンプライアンス能力についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	民法の概要1 民法の基本原則 契約とは 貸借・使用貸借・消費貸借	民法の基本原則、契約(貸借・使用貸借・消費貸借)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	民法の概要2 民法の基本原則、契約(諾成契約と要物契約) 契約の一般的なきまり(承諾、条件・期限)	民法の基本原則、契約のきまりについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	問題演習 契約・不動産物権変動 確認テスト3(前年実績)	契約、物権変動についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 確認テストの復習
6	問題演習 債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担	債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分)
7	問題演習 未成年者、成年被後見人、意思表示(心裡留保・虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫)	制限行為能力者、意思表示についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分)
8	制限行為能力者の法の見方・考え方 確認テスト4(前年実績)	制限行為能力者についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	錯誤・詐欺の法の見方・考え方 問題演習 貸借・賃借人の義務、借地・借家・賃借権	貸借・賃借人の義務、借地・借家・賃借権についての調べ学習(90分)	配布資料の復習 問題演習の復習(90分)
10	電子消費者契約特例法・消費者契約法の見方・考え方 問題演習 債権譲渡、物権(留置・質・抵当権)	債権譲渡、物権(留置・質・抵当権)、保証債務についての調べ学習(90分)	配布資料の復習 問題演習の復習(90分)
11	不法行為についての演習問題 確認テスト5(前年実績)	不法行為についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
12	問題演習 代理(表見・無権)、不法行為 小テスト1(前年実績)	過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 小テスト1の復習 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
13	問題演習 過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効 小テスト2(前年実績)	第5回から第13回まで復習(90分)	問題演習の復習(90分) 小テスト2の復習
14	まとめ 問題演習の復習	第5回から第13回まで復習(90分)	問題演習の復習(90分)
15	まとめ 問題演習の復習 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第5回から第13回まで復習(90分)	試験範囲の確認により、第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認、第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221081)				
授業担当者(所属・職名)	苫名 真(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 苫名 真)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

様式の変遷、モチーフの意味、技法や風土と表現の関係、作品収集の歴史などさまざまな角度から東洋日本美術にアプローチすることにより、その特質や魅力を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) (5) に対応する。

到達目標

1. 様式、モチーフ、技法、風土性など美術に向き合うさまざまな視点があることを理解する。
2. 東洋日本美術の特質や魅力を把握する。
3. 初めて目にする作品に対しても自らさまざまな視点を立ててアプローチすることができる。

授業全体の内容と概要

さまざまな視点やテーマから東洋日本美術の特質や魅力にアプローチする。

授業の方法

受講生は各回の授業で扱う代表的作品一点について事前に感想を書き、授業の冒頭に一人ずつ発表する。その上で講師がパワーポイントを使って各テーマの美術について講義する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回の感想発表と受講姿勢の平常点を重視し、レポートも合わせて評価する。授業の冒頭で各自発表してもらったので遅刻しないこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程 高・美術 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしないことが何度あった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも明確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221081)				
授業担当者(所属・職名)	苫名 真 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 苫名 真)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本美術史』 <sup>a</sup>	山下裕二・高岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『教養の日本美術史』	吉田亮	ミネルヴァ書房	2019	978-4623085156	
4	『日本美術史ハンドブック』 <sup>a</sup>	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』 <sup>a</sup>		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、時代と様式 (仏像彫刻)	シラバスを読む。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
2	時代と表現 (描かれたもののけ)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
3	モチーフと意味 (中国山水画と花鳥画)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
4	モチーフと意味 (清明上河巻)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
5	絵を読む (院政期絵巻)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
6	絵を読む (洛中洛外図屏風)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
7	記録と表現 (肖像画)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
8	記録と表現 (写真)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
9	技法と表現 (木版画)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
10	技法と表現 (ガラス)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
11	風土と美術 (木田金次郎と神田日勝)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
12	風土と美術 (三岸好太郎)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
13	美術の収集と展示 (正倉院から美術館まで)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
14	美術館のいま (役割と施設)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
15	レポートの発表とフィードバック	レポートを準備する。(90分)	授業内容を復習する。(90分)
16	レポートの発表とフィードバック 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。(90分)	授業内容を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323032)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

広範な建築関係法令の中で、建築基準法を取り巻き「建築行政」を構成する各法律がどのような役割を持ち、社会の中でどう機能し、運営されているのかを認識する。そして建築関係法令のうち都市整備の基幹である都市計画法、何かと話題で今後も改正が予想される建築士法、ユニバーサルデザイン・バリアフリーの観点からの新ハートビル法、都市防災の要である消防法他、関係法令を実務的視点も含めて理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(3)に対応する。

到達目標

都市計画法の建築基準法に關する規定や、建築士法および建設業法の建築基準法に關する規定、その他の建築関連法規に關する規定を理解することができる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。  
「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

法令集と赤ペン、青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画法の建築基準法に關する規定の理解	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を8割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を6割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができなかった。
建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定の理解	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を8割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を6割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に關する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323032)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基本建築関係法令集令和3年版法令編』	建築資料研究社	建築資料研究社	2021		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。都市計画法1-建築基準法と都市計画法 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規 の振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市計画法2-都市形成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	都市計画法3-開発	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	都市計画法4-地域・区域	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	都市計画法5-都市の構成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築士法1-建築士の役割	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築士法2-業務と倫理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建設業法1-施工管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建設業法2-生産管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	新ハートビル法-やさしいまちづくり	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	消防法1-消防設備	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	消防法2-防災計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	品確法・耐震改修法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	都市再開発法・その他	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	民法-建築関係抜粋 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験(60分)・試験解説(30分)	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	貧困に対する支援 (科目ナンバリング: SWS112012/2023年度以降SWS122012)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

現代における公的扶助(貧困・低所得者に対する支援制度)の意義を理解するとともに、貧困問題の本質とソーシャルワーカーの役割について知る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

貧困問題の本質を理解する視点について理解することができる。  
現代における貧困原因を分析し、最低生活保障のあり方について考えることができる。  
要保護者、低所得者の特性に応じた自立支援の意義について説明することができる。

授業全体の内容と概要

公的扶助の概念、範囲、歴史的展開、現代社会における機能などについて概説したうえで、わが国における公的扶助制度である生活保護制度の仕組みと生活困窮者に対する自立支援のあり方について学び、併せて最近の保護動向から今後の課題について理解を深める。  
「SDG1、貧困をなくそう」、「SDG2、飢餓をゼロ」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、今回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
思考・判断	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
関心・意欲	具体的な事例に則して最低生活保障のあり方について考えることができた。	現代における貧困原因を分析しソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	現代における貧困問題に対するソーシャルワーカーの役割について考える姿勢を示した。	現代における貧困原因について考えることができた。	現代における貧困原因について考えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	貧困に対する支援 (科目ナンバリング: SWS112012/2023年度以降SWS122012)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	78-4-8058-8247-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 貧困とは何か(貧困の概念・絶対的貧困と相対的貧困、社会的排除など)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	貧困とは何か(貧困の実態、貧困を取り巻く社会環境、貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	貧困とは何か(公的扶助の意義と範囲)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	貧困に対する取り組みの歴史(欧米における救貧制度から公的扶助に至る歩み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	貧困に対する取り組みの歴史(日本における救貧制度から公的扶助に至る歩み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	貧困に対する取り組みの歴史(日本における近年の取り組み・ホームレス自立支援法、生活困窮者自立支援法など)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	貧困に対する法制度(生活保護法の基本原理、保護の種類と内容、最低生活費と保護基準、保護の動向)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	貧困に対する法制度(生活保護における相談支援活動、自立支援プログラム、保護施設)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	貧困に対する法制度(生活困窮者自立支援法の仕組みと実際)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	貧困に対する法制度(低所得者対策、ホームレス対策)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	貧困に対する支援における関係機関と専門職(貧困に対する支援における公私の役割、国と都道府県・市町村の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職(福祉事務所の組織・業務と社会福祉士専任の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職(自立相談支援機関その他の関係機関・関連専門職の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	貧困に対する支援の実態(貧困に対する支援活動の実態と社会福祉士の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえて授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング: BSM323029)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築生産に必要な内外装工事や施工管理およびそれに至る工事契約や積算について理解を深め、また、建築士試験の施工および建築施工管理技士試験に対応した学力の修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。

到達目標

建築施工に重要な各工事に着目し生産技術を学ぶことで、設計や施工の実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築生産」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング: BSM323029)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	工事契約と品質保証	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	工事監理	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	施工業務	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	内外装の仕上げ工事: 防水と屋根工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	内外装の仕上げ工事: 左官工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	内外装の仕上げ工事: タイル工事・石工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	内外装の仕上げ工事: 塗装工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	内外装の仕上げ工事: ガラス工事・建具工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	内外装の仕上げ工事: 内装工事・断熱工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	建築物の維持管理(改修工事)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	建築物の維持管理(設備工事)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	積算	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	建築廃棄物の有効利用法(リサイクル法)ほか	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う) 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	児童・家庭福祉 (科目ナンバリング: SWS112007/2023年度以降SWS122007)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標

児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。  
 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。  
 児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。  
 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。  
 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する。

到達目標

児童が権利の主体と踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解することができる。  
 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解することができる。  
 児童や家庭福祉に係る法制度について理解することができる。  
 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解することができる。  
 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解することができる。

授業全体の内容と概要

児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について学ぶ。  
 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について学ぶ。  
 児童や家庭福祉に係る法制度について学ぶ。  
 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について学ぶ。  
 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を学ぶ。

授業の方法

スライドや板書、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。定期試験・レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

1. 次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。
2. 次の3点を考えながら受講すること。  
 大人として子どもとどのように向き合っていくか。  
 親としてのどのようなサービスが活用できるか。  
 子どもとその家族の支援者になるためにどのような努力が必要かの3点を考えながら受講すること。
3. レポート課題は、「子どもと家庭に係わるニュース(新聞・インターネット配信記事等)」を10収集し、それぞれに対して400字程度のコメントをつけたものとし、11回目の授業で提出を求める。
4. 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
45%	40%	0%	0%	15%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、ほぼ理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、やや理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができなかった。
児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、ほぼ理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、やや理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉に係る法制度について	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができなかった。
児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、ほぼ理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、やや理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	児童・家庭福祉 (科目ナンバリング: SWS112007/2023年度以降SWS122007)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業の中で関連するものを紹介している
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、児童・家庭の定義と児童の権利 授業改善アンケート結果のフィードバック	テキスト学習 第1章(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
2	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境	テキスト学習 第3章(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
3	児童・家庭福祉の歴史 児童福祉の理念と児童観の変遷	テキスト学習 第2章第1節・第2節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
4	児童・家庭福祉の歴史 児童・家庭福祉制度の発展過程	テキスト学習 第2章第3節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
5	児童・家庭に対する法制度 (児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律・DV防止法)	テキスト学習 第4章第1節、第5章第5節・第8節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
6	児童・家庭に対する法制度 (母子及び父子並びに寡婦福祉法・母子保健法)	テキスト学習 第5章第2節・第7節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
7	児童・家庭に対する法制度 (児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当法)	文献学習(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
8	児童・家庭に対する法制度 (次世代育成支援対策推進法・少子化対策基本法・売春防止法・子ども子育て支援法・就学前の子どもに関する教育・保育)	テキスト学習 第5章第1節・第3節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
9	児童・家庭に対する法制度 (子どもの貧困対策の推進に関する法律・子供若者育成支援推進法・いじめ防止対策推進法)	テキスト学習 第5章第4節・第11節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
10	児童や家庭に対する支援における公私の役割関係及び国、都道府県、市町村の役割	テキスト学習 第4章第2節・第4節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
11	児童・家庭に対する支援における関係機関(児童相談所)の役割	文献学習(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
12	その他の児童や家庭(女性、若者を含む)に対する支援にかかわる組織・団体の役割	文献学習(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
13	児童・家庭に対する支援における関係機関に関連する専門職等の役割	テキスト学習 第4章第5節(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
14	社会福祉士の役割と児童・家庭に対する支援の実際(多職種連携を含む)	テキスト学習 第6章(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
15	まとめ(事例研究)及びレポートに対するフィードバック(解説)を行う(授業改善アンケートの実施)	文献学習(90分)	試験に向けた学習(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、解説による試験のフィードバック(30分)を行う	試験に向けた学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理（4（科目ナンバリング：APT324038））				
授業担当者（所属・職名）	安藤 淳一（建築学科・教授）	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：安藤 淳一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標	建築技術者の倫理に関する基本的な概念を広く理解し、技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について紹介事例（ケーススタディ）をもとに確認するとともに、その知識修得にあたりグループ討論での意見交換をもとに状況判断・行動へ展開する力を修得する。												
授業の位置づけ	建築学科のDP（3）（4）に対応する。												
到達目標	このプログラムをもとに建築技術者としての判断力の基礎となる知識を身に付けるとともに、そのもととなる人間としてのモラルを醸成させ、技術者としてのモラルまで発展させることを養う。そこから技術者としてより上位の判断力、対応能力に結び付けていくための契機とすることを旨とする。												
授業全体の内容と概要	前半は教科書を使った講義形式で進め、後半は建築技術者としての倫理観養成のために、公開されているWEBラーニングプログラムを使用した授業とその振り返りを兼ねたグループでの討議をおこなう。												
授業の方法	講義形式は教科書を主体に、技術者の職能に係る事例をもとにグループ討議をおこなう。意見交換からはじめ、討議へ発展させることでさまざまな価値観をもった人の中で技術者として倫理観にもといた判断が求められるかのトレーニングをおこなう。グループ討議の後、内容について講評をおこなう。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）										
履修上の注意事項	各自の事例の検証とグループ討議はワンセットのプログラムであるため、どちらかを欠席した場合は、重要事項に関わる内容が欠落し学習成果に結びつかないことになる。従って欠席・遅刻の内容に心がけること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。												

修学サポート（合理的配慮）	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件	原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業内容を振り返る復習レポート(授業成果)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	60%	0%	0%	0%	40%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術者が遭遇する事例の検証をおこなうことから、将来建築技術者として同様な場面に遭遇した際に求められる倫理的な判断力となる基礎的知識を修得する。	事例検証から、最善の判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、より良い判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点には近い判断する力を修得することができた。	倫理的視点から判断する力を修得することができなかった。
人間としてのモラルを醸成させ、グループディスカッションを通じて技術者としてのモラルまで発展させる能力を修得する。	積極的にディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をおおむね伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をほぼ伝えることができる。	ディスカッションに参加しても自己の意思を伝えることができなかった。
建築技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について、紹介事例(ケーススタディ)をもとに理解する。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解し想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解しおおむね想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響をおおむね理解することができた。	紹介事例(ケーススタディ)をもとに理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理（4（科目ナンバリング：APT324038））				
授業担当者（所属・職名）	安藤 淳一（建築学科・教授）	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：安藤 淳一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築倫理用教材』	日本建築学会編	丸善			
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方と到達目標について	シラバスの事前確認（90分）	授業内容の確認（90分）
2	建築の職能 社会との関わり - 1	該当単元の予習（90分）	復習レポート（90分）
3	建築の職能 社会との関わり - 2	該当単元の予習（90分）	復習レポート（90分）
4	建築技術者の倫理 - 1	該当単元の予習（90分）	復習レポート（90分）
5	建築技術者の倫理 - 2	該当単元の予習（90分）	復習レポート（90分）
6	WEBラーニング # 1	WEBラーニング受講方法の確認（90分）	復習レポート（90分）
7	WEBラーニング# 1 に対するグループ討論	前回の内容確認（90分）	討論結果のまとめ（90分）
8	WEBラーニング # 2	WEBラーニング受講方法の確認（90分）	復習レポート（90分）
9	WEBラーニング# 2 に対するグループ討論	前回の内容確認（90分）	討論結果のまとめ（90分）
10	WEBラーニング # 3	WEBラーニング受講方法の確認（90分）	復習レポート（90分）
11	WEBラーニング# 3 に対するグループ討論	前回の内容確認（90分）	討論結果のまとめ（90分）
12	建築技術者の倫理を探究 1	該当単元の予習（90分）	復習レポート（90分）
13	建築技術者の倫理を探究 2	該当単元の予習（90分）	復習レポート（90分）
14	建築技術者の倫理 - 3	該当単元の予習（90分）	復習レポート（90分）
15	建築技術者の倫理に対するグループ討論	前回の内容確認（90分）	討論結果のまとめ（90分）
16	総括（レポート提出状況と解説、評価） 授業改善アンケートの実施	提出課題の確認（90分）	全体の振り返り（90分）

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科 4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談（カウンセリング）（科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，E DP444108，EDP544117）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名 美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	未定	
単位数	2	（単位認定責任者： 蝦名 美穂）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
現代社会の変容の中で、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向も見られる。こうした様々な問題に対して、学校が対応しなければならない状況になっている。その現状を踏まえ、「チーム学校」の一員として対応するために必要な教育相談の進め方について学び、こどもの不適応問題に対しての基礎知識を習得する。
授業の位置づけ
経済学部（2）、（4）、美術学部（2）、（4）に対応する科目
到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

到達目標
・教育相談の基本的な進め方について理解する。 ・対応するために教師としてできることを自分なりに考える。 ・子どもの不適応行動について理解する。 ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準ずる。 レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	30%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見て説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科 4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談（ <b>カネリク</b> ）を <small>（科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，E DP444108，EDP544117）</small>				
授業担当者（所属・職名）	蝦名 美穂（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	未定		
単位数	2（単位認定責任者： 蝦名 美穂）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ガイドブックあつまれ！みんなで取り組む教育相談 ケース理解xチームづくりxスキルアップ』	益子洋人・平野直己	明石書店	2022	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『深掘り！関係行政論 教育分野 公認心理師必修』	高坂 康雄	北大路書房	2021	978-4-7628-3178-2	
2	『生徒指導提要（改訂版）』	文部科学省		2022		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 教育相談とは	教育相談について調べる（90分）	授業で学ぶ内容について振り返る（90分）
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
4	児童期・思春期の発達に関する知識 身体の成長、 認知・学習	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
5	児童期・思春期の発達に関する知識 認知・学習、 仲間関係	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
6	児童期・思春期の発達に関する知識 心の発達	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
7	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
8	学校で起きる諸課題の特徴 いじめ	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
9	学校で起きる諸課題の特徴 不登校	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
10	学校で起きる諸課題の特徴 発達障害	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
11	学校で起きる諸課題の特徴 アタッチメントに関わる課題	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
12	学校で起きる諸課題の特徴 児童虐待	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
13	学校で起きる諸課題の特徴 自然災害	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
14	学校で起きる諸課題の特徴 「危機」対応	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
15	学校で起きる諸課題の特徴 保護者支援	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理（90分）	レポート作成（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談（ <b>カウンセリング</b> ）を（科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，E DP444108，EDP544117）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名 美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	未定	
単位数	2	（単位認定責任者： 蝦名 美穂）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会の変容の中で、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向も見られる。こうした様々な問題に対して、学校が対応しなければならない状況になっている。その現状を踏まえ、「チーム学校」の一員として対応するために必要な教育相談の進め方について学び、子どもの不応問題に対しての基礎知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP（2）、（3）、（5）に対応する

到達目標

- ・教育相談の基本的な進め方について理解する。
- ・子どもの不応行動について理解する。
- ・支援をする上で利用可能なリソースを知る。
- ・対応するために教師、スクールソーシャルワーカーとしてできることを自分なりに考える。

授業全体の内容と概要

学校教育における教育相談の意義、役割について学ぶ。子どもの不応に関する授業の際には、事前に授業で取り上げる事柄について自ら調べるなどして、受講生は関心を高める努力をする。そして、実際に対応に必要なことは何かを考える。

授業の方法

授業では、教科書、パワーポイント、配布資料などを使用して、講義形式で行う（グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む）。授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）を提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。不測の事態が起きた際にはオンライン授業を実施する場合がある。カウンセリング論を事前に受講していることより本講義の内容理解が深まると考える。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準ずる。レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。講義を事前に受講していることより本講義の理解が深まると考える。

カウンセリング

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	30%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について、資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談（ <b>カネリク</b> ）を（科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，E DP444108，EDP544117）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名 美穂（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	未定		
単位数	2（単位認定責任者： 蝦名 美穂）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ガイドブック あつまれ！みんなで取り組む教育相談 ケース理解×チームづくり×スキルアップ』	益子洋人・平野直己	明石書店	2022	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『深掘り！関係行政論 教育分野 公認心理師必修』	高坂 康雄	北大路書房	2021	978-4-7628-3178-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 教育相談とは	教育相談について調べる（90分）	授業で学ぶ内容について振り返る（90分）
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外に於ける教	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
4	児童期・思春期の発達に関する知識 身体の成長、 認知・学習	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
5	児童期・思春期の発達に関する知識 認知・学習、 仲間関係	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
6	児童期・思春期の発達に関する知識 心の発達	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
7	対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
8	学校で起きる諸課題の特徴 いじめ	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
9	学校で起きる諸課題の特徴 不登校	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
10	学校で起きる諸課題の特徴 発達障害	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
11	学校で起きる諸課題の特徴 アタッチメントに関わる課題	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
12	学校で起きる諸課題の特徴 児童虐待	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
13	学校で起きる諸課題の特徴 自然災害	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
14	学校で起きる諸課題の特徴 「危機」対応	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
15	学校で起きる諸課題の特徴 保護者支援	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理（90分）	レポート作成（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（3年）（科目ナンバリング：AEA223071）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
<p>（課題）では形として目で見ることができないものをテーマとして、それを目に見える形として表現する技量を身につける。</p> <p>（課題）では（課題）で取り組んだ結果を更に発展させ、北海道らしい四季を作品制作のテーマとして掲げ、その形象化を目指し、彫刻作品として完成させ、併せて様々な素材を体験し、今後の制作活動に役立てる。</p>

授業の位置づけ
美術学部デザイン学科のDP(1)と(2)に対応する科目。

到達目標
自然が持つ優れた造形性を理解し、形態の美しさについて学び、それらを他者に伝えることができる。

授業全体の内容と概要
<p>（課題）では「暖かさ」をテーマに抽象彫刻をテラコッタ（粘土を素焼きにしたもの）として制作。陶芸用の粘土で制作し、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。</p> <p>（課題）では「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、様々な素材（金属、流木、石膏、粘土など）にて立体造形作品として制作する。</p>

授業の方法
<p>（課題）抽象彫刻をテーマにパワーポイントにて講義をする。「暖かさ」という言葉からイメージする形態を導き出し、アイディアスケッチを制作。陶芸用粘土にて実制作に入り、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。</p> <p>（課題）四季を表現した美術作品や音楽作品を鑑賞し、意見を述べ合う。「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、アイディアスケッチを制作。実制作に使用する素材を決め、実制作に移る。使用する素材へのアドバイスや立体に組み立てるための技法を指導する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）									

履修上の注意事項
<p>実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。</p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する確かな調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力も高い。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も認められる。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（3年）（科目ナンバリング：AEA223071）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 （課題）についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞。	シラバスを読んでおくこと。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
2		シラバスを読んでおくこと。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
3	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
4	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
5	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
6	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
7	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
8	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
9	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
10	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
11	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
12	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
13	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）
14	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）
15	（課題）についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
16	（課題）についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	東洋・西洋の自然観が判る音楽を鑑賞。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
18	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
19	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
20	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
21	各自が使う素材の収集。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
22	各自が使う素材の収集。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
23	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
24	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
25	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
26	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
27	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
28	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
29	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
30	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
31	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）
32	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（4年）（科目ナンバリング：AEA223071）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

**履修目標**  
 (課題)では形として目で見ることのできないものをテーマとして、それを目に見える形として表現する技量を身につける。  
 (課題)では(課題)で取り組んだ結果を更に発展させ、北海道らしい四季を作品制作のテーマとして掲げ、その形象化を目指し、彫刻作品として完成させ、併せて様々な素材を体験し、今後の制作活動に役立てる。

授業の位置づけ

美術学部デザイン学科のDP(1)と(2)に対応する科目。

到達目標

自然が持つ優れた造形性を理解し、形態の美しさについて学び、それらを他者に伝えることができる。

授業全体の内容と概要

(課題)では「暖かさ」をテーマに抽象彫刻をテラコッタ(粘土を素焼きにしたもの)として制作。陶芸用の粘土で制作し、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。  
 (課題)では「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、様々な素材(金属、流木、石膏、粘土など)にて立体造形作品として制作する。

授業の方法

(課題) 抽象彫刻をテーマにパワーポイントにて講義をする。「暖かさ」という言葉からイメージする形態を導き出し、アイディアスケッチを制作。陶芸用粘土にて実制作に入り、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。  
 (課題) 四季を表現した美術作品や音楽作品を鑑賞し、意見を述べ合う。「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、アイディアスケッチを制作。実制作に使用する素材を決め、実制作に移る。使用する素材へのアドバイスや立体に組み立てるための技法を指導する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用(知識の習得)	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する確に調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する資料等を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方(思考力・表現力)	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力も高い。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も認められる。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション(表現力)	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（4年）（科目ナンバリング：AEA223071）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 （課題）についてのオリエンテーション。パワーポイントを用いて課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞。	シラバスを読んでおくこと。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
2	（課題）についてのオリエンテーション。パワーポイントを用いて課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞。	シラバスを読んでおくこと。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
3	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
4	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
5	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
6	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
7	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
8	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
9	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
10	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
11	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
12	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
13	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）
14	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）
15	（課題）についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
16	（課題）についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	東洋・西洋の自然観が判る音楽を鑑賞。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
18	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（45分）	制作に参考となる資料の収集。（45分）
19	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
20	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
21	各自が使う素材の収集。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
22	各自が使う素材の収集。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
23	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
24	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
25	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
26	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
27	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
28	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
29	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
30	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
31	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）
32	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認。（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報ネットワーク論 (科目ナンバリング: COS422054, COS523049)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可(会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

情報ネットワークの構築技術(設計、設置、運用、保守、セキュリティ)を学ぶ科目である。インターネットを支える技術を中心に、ネットワークとサーバーの仕組み、技術を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

ネットワークとプロトコルに関する知識が身につくこと。  
ネットワーク機器と各種サーバーの役割を理解し、正しく設定ができる。  
ネットワークを構築する技術を修得する。  
ネットワークセキュリティの重要性と適切な対処法がわかる。

授業全体の内容と概要

TCP/IPを使ったネットワークを前提に、LANケーブル作成、ネットワーク機器の接続と設定、サーバー構築と動作確認、保守とセキュリティまで、実作業を通して学ぶ。  
「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

座学での説明は2割程度、残りは実習を通して学んでいく。  
全員を3人程度のグループに分けて進めていき、グループ内で役割を交代しながら、課題に沿ってネットワークを構築し、全体像をつかむ。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

機材、ソフト数の制限より、受講人数は20名までとする。(情報システム論単位取得者を優先する)  
講義内容には前後の相関性があるので、特段の理由が無い限り全出席が望ましい。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は11回以上。(集中授業のため、欠席した日の分の補講はできない)  
30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。  
各回の授業で課題提出がある。したがって、欠席するとS評価取得は困難となる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コンピュータネットワークの基本を理解し、ネットワークとサーバーの構築技術を理解する。	コンピュータネットワークの知識を深く習得し、サーバーを含めたLAN構築の設計ができた。	コンピュータネットワークの知識を広く習得し、サーバーを使ったLAN間接続ができた。	コンピュータネットワークの基礎知識を習得し、LAN構築とネットワーク機器の設定ができた。	コンピュータネットワークの基礎知識を習得し、PCを含む機器をLANに接続することができた。	ネットワークに関する知識が不十分でLAN構築ができなかった。
コンピュータネットワークを利用する際に発生するリスクを最小限にとどめるセキュリティ知識を有する。	ネットワークを利用する場合のリスクに精通し、業務レベルでの効果的な防御と対処法を考案することができた。	ネットワークを利用する場合のリスクと、その技術的背景を理解し、業務に必要なレベルで防御と対処法をとることができた。	ネットワークを利用する場合のリスクに対し、個人レベルの対処法をとることができた。	ネットワークを利用する場合のリスクに気づき、適切な防御法をとる必要性を認識できた。	ネットワークを利用する場合のリスクに関心が低く、興味を示さなかった。
コンピュータネットワーク上の情報の流れとコミュニケーションの特性、情報社会のリスクに関する知識を有する。	コミュニケーションツールの特性や危険性を踏まえた上で、問題を選りながら有効に活用する方法を周囲に伝えることができた。	コミュニケーションツールの特性や危険性を踏まえた上で、問題を避けながら有効に活用することができた。	コミュニケーションツールの特性や危険性を理解し問題に対応できた。	コミュニケーションツールには危険性が潜んでいることを理解した。	コミュニケーションツールの危険性を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報ネットワーク論 (科目ナンバリング: COS422054, COS523049)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果についてグループ分け	コンピュータネットワークとは(90分)	インターネットの成り立ちについて整理する(90分)
2	LANとは ケーブル作成、ネットワーク機器の名称と役割、通信とメディア IPアドレス、サブネットとサブネットマスク、	ネットワーク機器の種類を調べる(90分)	IPアドレスとMACアドレスの役割の違いを整理(90分)
3	LAN学習の準備 サーバ準備、設定、通信確認	コンピュータの構成部品と役割について調べる(90分)	サーバーに使うOSについてまとめる(90分)
4	ユーザー管理、アクセス制御、ファイアウォールについて、他	コンピュータセキュリティに関する事件の調査(90分)	セキュリティ上重要な点を整理(90分)
5	ルーター設定 各種設定、NATの理解、DHCP、DNS、ルーティング管理他	IPv4のアドレス枯渇問題とは何か調べる。(90分)	ルーターの設定項目と役割を整理(90分)
6	サーバー構築実習(1) Webサーバー	Webサーバーの種類とシェアについて調べておく(90分)	ブラウザの種類と歴史について事後学習する(90分)
7	サーバー構築実習(2) HTML	ハイパーテキスト、HTMLとCSSについて調べておく(90分)	CMSとはなにかについて事後学習する(90分)
8	サーバー構築実習(3) ファイルサーバー	FTPとWindowsのファイル共有について調べておく(90分)	UNIXにおけるファイル共有について事後学習する(90分)
9	サーバー構築実習(4) メールサーバーとメールクライアント	メールプロトコル(SMTP、POP、IMAP)について調べる(90分)	メールクライアントの設定方法の再確認(90分)
10	サーバー構築実習(5) リモート管理: リモートデスクトップ	リモートデスクトップとは何か調べる(90分)	VNCについて事後学習する(90分)
11	サーバー構築実習(6) リモート管理: SSHとコマンド	Te lnet、SSHについて調べる(90分)	コマンドラインによる遠隔操作の利点と主なコマンド(90分)
12	ワイヤレスネットワーク機器の設定(1) 機器の設定	SSIDの設定ルールについてしらべておく(90分)	暗号化をしない通信の危険性について調べる(90分)
13	ワイヤレスネットワーク機器の設定(2) 暗号化の重要性	暗号化の種類と特徴を調べておく(90分)	ワイヤレスネットワークのWEPの危険性とWPAの脆弱性について事後学習する(90分)
14	ネットワークとセキュリティ インターネット上に存在する危険と対応法	マルウェアについて調べる(90分)	情報流出事件について過去3年分をまとめる(90分)
15	ネットワークとセキュリティ ネット社会でのモラル、ルール、まとめ	パソコン遠隔操作事件について調べる(90分)	ネット上のいじめ問題について調べる(90分)
16	定期試験(60分)、解答解説(授業アンケート実施回)	定期試験に備えて全講義内容を復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング：SNE123093)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育全般と発達障害)について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

障害のある子どもの保育に携わる保育士に必要なさまざまな援助技能を、シミュレーション学習をとおして習得するとともに、子ども1人ひとりの発達課題と生活課題を明らかにすることによって保育現場で援助技能を適切に活用して援助することを理解できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科DP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

障害のある乳幼児の障害特性を知るとともに、障害のあるなしにとらわれない視点から保育実践を行うことのできる保育士になるために、必要な知識・技術について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

総合保育場面や家族支援の事例に基づき、ロールプレイ等のシミュレーション学習を通して、遊びや対人関係の援助、日常生活動作等に関する具体的な保育技術、保育計画の立案や面接・記録の技法の実際を学び、保育士としての心構えを取得する。  
\*SDGs4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で教科書の内容を確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着をはかる。また、DVDで具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のVTR教材を視聴した後に、事例に基づいたレポート作成を定めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
- ・指定教科書は必ず持参して授業を受けること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	10%	10%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害児保育の理解	障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	障害児保育について、一定程度の理解ができた。	障害児保育について、一部理解する事ができた。	障害児保育について、理解ができなかった。
障害児保育の思考・判断・表現	障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。	障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。	障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	障害児保育について、思考する事ができた。	障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心を持って参加する事ができた。	授業へのいくらかの関心をもちつ事ができた。	授業へ積極的に参加する事ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング: SNE123093)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・非常勤教員)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育全般と発達障害)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『実践事例に基づく障害児保育』	七木田敦編著	保育出版社	2014年	978-4-938795-62-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション -授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、障害児保育の概要	シラバスを確認しておくこと(90分)	シラバスに基づいて、授業内容に見直しを立てる(90分)
2	保育場面の事例を通して学ぶ(アセスメント)	教科書の「障害のある子どもの保育とは」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	保育場面の事例を通して学ぶ(保育計画の立案)	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	保育場面の事例を通して学ぶ(保育計画の立案2)	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	保育場面の事例を通して学ぶ(ロールプレイ 個別援助)	教科書の「かかわりの基本・ていねいなかわり」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	保育場面の事例を通して学ぶ(ロールプレイ 集団援助)	教科書の「学習に障害のある子どもの保育」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	家族支援の事例を通して学ぶ(アセスメント)	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	家族支援の事例を通して学ぶ(面接場面のロールプレイ)	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	家族支援の事例を通して学ぶ(保護者会運営のロールプレイ)	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	スーパービジョンとチームワーク(所内ケース検討会議のロールプレイ)	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	スーパービジョンとチームワーク(所内ケース検討会議のロールプレイ)	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
12	DVDの視聴及びレポートの作成	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	DVD視聴時のメモを元に整理する。(90分)
13	他機関連携の事例を通して学ぶ(児童相談所・保健所)	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	他機関連携の事例を通して学ぶ(早期療育システム)	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
15	障害児保育にかかわる保育士の資質について総合的に検討する「授業改善アンケートの実施」	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残り30分で解説する。)		指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分) 試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育史 (科目ナンバリング: EDU141151, EDU241095, EDU341091, E DU441093, EDU541100)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>教職に必要な知識や技能のうち、教育の歴史や様々な教育思想に関する基礎的知識をはじめ、それらと多様な教育の理念とのかかわりや過去から現在に至る教育や学校の歴史の変遷についての知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>経営学科のDP(2)(4)に対応する。          社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。          デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。          建築学科のDP(2)(4)に対応する。</p>
--

<p><b>到達目標</b></p> <p>授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。</p>
--

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し15回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4：質の高い教育をみんなに」の関連科目</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア及びプリント等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望には口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。</p>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>				
プレゼンテーション		グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。          ○講義の前夜に行う学修課題を課しますので真摯に取り扱すること。          プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。          欠席した場合は、Microsoft Teamsからプリント等を入手すること。          講義中の私語・居眠り等は厳に慎むこと。          講義中は特に指示がない場合にはスマートフォンをカバン等の中に格納すること。          講義では質問を行うため、居席を指定する。          講義開始時間までに用便を済ませておくこと。          30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。          学修に向かう姿勢及び課題はすべて点数化・集積し評価点とする。          評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内が目安となっている。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程(全教科)必修科目</p>
---

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>					
単位認定に必要な最低出席回数は13回。					
<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえ、簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育史 (科目ナンバリング: EDU141151, EDU241095, EDU341091, E DU441093, EDU541100)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』	広岡義之ほか	ミネルヴァ書房	2019	9784623087723	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 日本の古代・中世の教育制度と教育の歴史について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
2	日本の近世の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
3	明治維新と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
4	日本における近代国家の確立と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
5	大正デモクラシーと教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
6	日本の戦時体制下の教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
7	日本の戦後の教育政策について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
8	日本の現代の教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
9	古代のギリシア・ローマの教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
10	中世・ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
11	17・18世紀及び革命期の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
12	近代公教育制度の成立について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
13	19世紀の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
14	20世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
15	世界の教育制度と改革の動向について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	前15回の学修内容を復習すること。(90分)
16	70分の試験終了後、残りの20分で解説を行う。	前15回の学修内容を復習すること。(90分)	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理 (科目ナンバリング：SWS122039)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標	<p>「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 精神障害者へのかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標	精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。
------	---

授業全体の内容と概要	<p>障害者福祉の理念や概念の理解や社会的階層について学ぶ。 精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。 「SDGs・すべての人に健康と福祉を」関連科目</p>
------------	--

授業の方法	<p>授業形態は講義形式で行う。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。</p>
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																

履修上の注意事項	<p>教科書は必ず持参すること。 必要な資料等は適宜配布する。 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理 (科目ナンバリング: SWS122039)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神障害者福祉についてシラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	精神科医療の特異性について(強制入院・治療、精神科特例)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	精神科医療の特異性について(隔離・身体的拘束、多剤併用)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	精神障害者の家族について(保護義務者の歴史、家族の多様性)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯について(精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	原理・価値について(社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	観点・視点について(人と環境の相互作用、エンパワメント、リカバリー、アンチステイグマ)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	関係性について(加害者性、援助関係、協働関係)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	精神保健福祉士法について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	精神保健福祉士の職業倫理について(倫理綱領)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	精神保健福祉士の職業倫理について(倫理的シレンマ)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	精神保健福祉士の業務特性について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	精神保健福祉士の職場・職域について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について(業務指針、業務分類)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について(指針に基づく業務の展開例)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)授業改善アンケートの実施	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（オムニバ）（科目ナンバリング：AEA222073）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫・楠本 祐弘・中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：林 春生）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
<p>「物」を作るには必ずその物に最も適切な「構造」を考えなければならない。それが出来て初めてデザインするという事になる。デザイン、制作の過程を学び、あわせて、使用する木材の性質、木工の道具と機械類の操作、着色、塗装等も学ぶ。発想を展開しデザインする。安全で効率良い制作作業を行う。作品の説明までを一つの作品制作として行うように制作する。素材知識を身につけ、段取りをして物づくりの基本的な効率の良い作業の進め方を身につける。日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。</p>

授業の位置づけ
デザイン学科のD P（1）（3）（5）に対応する。

到達目標
<p>使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。ガラスの素材知識を理解する。ガラス工芸の手法を修得する。テーマを持ってデザイン表現が出来ている。作業を安全に効率よく行える。作品を的確な言葉で説明出来る。陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを学ぶ。あわせて、刃物の危険性も学ぶ。素材特性を理解するよう、作業と素材感の異なる3つの技法を行う。パート・ド・ヴェールでは原型・型取りを行い、ガラスを型に流し小皿またはオーナメントを製作する。高温のガラス特性を理解する為にバーナーワーク/吹きガラスを実技する。バーナーワークではガラス棒を溶かしとんぼ玉等を製作、吹きガラスはグラス等を製作する。基本的な焼き物の知識や技術を身につけてもらうため、茶碗・鉢・皿といった身近な物を課題にして成形技術の実習を中心に進める。「土ぬり」「装飾」「釉掛け」「窯詰め」「窯焼き」なども作品の制作経過に沿って学ぶ。それと同時に全国の焼き物・各窯業地などの特色なども学ぶ。</p>

授業の方法
<p>実際に作業を見せて説明し、実技を行う。パート・ド・ヴェールは粘土原型を制作し、耐火石膏で型取りした後ガラスカレットを詰め焼成する。作業日数を考え、段取りをしながらか進める。バーナーワークは交代で作業する。吹きガラスはパート・ド・ヴェールのスケジュールに照らし合わせ行う。講師による作業のチェックは適宜行う。講評会を行い、作品のプレゼンテーションを行う。課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。</p>

アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
<p>出席を重視する。作業に適した服装を用意する。安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。成績を主に作品で評価するため必ず作品提出する事。課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に達しているレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度である。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため真剣に取り組んでいる。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。	授業中着席するものの課題や作業をしていない。
知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にすすめる理解度を深めている。	授業内容をほぼすべて理解している。	授業内容の概ねを理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができる。また、安全な作業を展開できる。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけている。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができない。
技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組む。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題を完成させる。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（オムニバ）（科目ナンバリング：AEA222073）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫・楠本 祐弘・中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：林 春生）	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	島田晶夫 授業説明 第一課題「象嵌」 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
2	島田晶夫 第一課題のデザイン、制作	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
3	島田晶夫 第二課題「カトラリー」 デザイン	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
4	島田晶夫 第二課題の制作	完成までの計画を立てる事。（45分）	手工具の使い方の把握。（45分）
5	島田晶夫 第三課題「栴」	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
6	島田晶夫 第三課題の練習	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
7	島田晶夫 第三課題の本番材での加工	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
8	島田晶夫 第三課題の本番材での加工	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
9	島田晶夫 第三課題の本番材での加工	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
10	島田晶夫 第三課題の細部手直し、組み立て、仕上げ、解説、フィードバック	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）
11	楠本裕弘 シラバスの説明-技法説明を行う。 【パート・ド・ヴェール】小皿・オーナメント	シラバスを読んでおくこと。 アイデアの素材収集する。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
12	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント デザイン 【とんぼ玉】交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	アイデアの検証する。（45分）
13	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 原型制作 【とんぼ玉】交代で作業	作業の段取りをする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
14	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 原型制作 【とんぼ玉】交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	原型の修正を行う。（45分）
15	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り 【とんぼ玉】交代で作業	原型の修正をする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
16	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り 【とんぼ玉】交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	石膏型の点検と修正を行う。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 焼成準備 【吹きガラス】ガラス制作	ガラスのデザインをする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
18	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 焼成準備 【吹きガラス】ガラス制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	石膏型・カレットの点検を行う。（45分）
19	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 仕上げ	作業の段取りをする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
20	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 講評会	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	自己他者の発表を考察する。（45分）
21	中島知之 シラバス説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
22	中島知之 基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり・菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
23	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
24	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
25	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
26	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
27	中島知之 釉掛け・窯詰め・電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
28	中島知之 釉掛け・窯詰め・電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
29	中島知之 課題作品の批評会	質問事項を考えておく（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
30	中島知之 総講評会・解説	質問事項を考えておく（45分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（45分）
31	中島知之 楠本裕弘 島田晶夫 全体的な講評を行う。	これまで学んだ技法等についてまとめておくこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
32	林 春生 各自の振り返りの発表 授業改善アンケートの実施	これまで学んだ技法等についてまとめておく（45分）	他の発表も参考に更に振り返りをおこなうこと（45分）



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 (M) (科目ナンバリング: S0P123059, S0P423042, S0P523041)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

産業・組織について、心理学の領域ではどのような研究がなされているのかを理解する。さらに、そのような心理学的知見が社会（産業・福祉）の中でどのように活用されているのかを考える。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)に対応する。

到達目標

産業心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。  
産業心理学領域で扱われる理論や専門用語が、社会活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。  
学んだ知識の枠組みを手掛かりとして、現在の産業分野の社会問題の原因や解決方法を考察する。

授業全体の内容と概要

心理学は医療・保健・教育・福祉・司法・産業と、さまざまな領域で応用されている。産業心理学では、そのような基礎心理学の知見が産業分野でどのように応用されているのかを理解する。さらに、産業が抱える問題に対して心理学がどのように貢献できるのかについても知る。  
SDGs「すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

スライドや板書を提示しながら講義形式を中心に進行する。途中にディスカッションを取り入れることがある。質問には随時対応し、振り返りにはコメントをしてフィードバックをする。  
授業で使用するスライドはMicrosoft Teamsを用いて共有する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
55%	0%	45%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用と応用	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を複数挙げ、その根拠についても非常によく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を複数挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げることができなかった。
アカデミック・スキル(文章表現)	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、非常に表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、かなり表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、やや表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、最低限表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 (M) (科目ナンバリング: SOP123059, SOP423042, SOP523041)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明, 産業心理学の歴史と研究領域)	産業心理学とはどのような学問領域かを調べる (90分)	産業心理学で扱う内容について確認する (90分)
2	動機づけ (モチベーションの理論の基礎)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	動機づけ (モチベーションの理論の発展)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	職場ストレスとカウンセリング (ストレスモデル)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	職場ストレスとカウンセリング (産業カウンセリング)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	まとめ (動機づけと職場ストレス, カウンセリング)	2回から5回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する (90分)
7	集団と組織 (集団の意思決定)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	集団と組織 (集団状況でのパフォーマンス)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	集団と組織 (多様性と共同社会)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
10	リーダーシップの諸理論	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
11	まとめ (集団・組織とリーダーシップ)	7回から10回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する (90分)
12	消費者行動 (消費行動を規定する心理要因)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
13	消費者行動 (消費者をとりまく心理要因)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
14	人事アセスメント	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	12回から14回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する (90分)
16	60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。	資料を確認し, 自分の言葉で授業内容を説明できるように準備する (90分)	試験でわからなかったことを再確認する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 (S) (科目ナンバリング: SOP123059, SOP423042, SOP523041)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

産業・組織について、心理学の領域ではどのような研究がなされているのかを理解する。さらに、そのような心理学的知見が社会（産業・福祉）の中でどのように活用されているのかを考える。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)に対応する。

到達目標

産業心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。  
産業心理学領域で扱われる理論や専門用語が、社会活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。  
学んだ知識の枠組みを手掛かりとして、現在の産業分野の社会問題の原因や解決方法を考察する。

授業全体の内容と概要

心理学は医療・保健・教育・福祉・司法・産業と、さまざまな領域で応用されている。産業心理学では、そのような基礎心理学の知見が産業分野でどのように応用されているのかを理解する。さらに、産業が抱える問題に対して心理学がどのように貢献できるのかについても知る。  
SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

スライドや板書を提示しながら講義形式を中心に進行する。途中にディスカッションを取り入れることがある。質問には随時対応し、振り返りにはコメントをしてフィードバックをする。  
授業で使用するスライドはMicrosoft Teamsを用いて共有する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
55%	0%	45%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用と応用	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を複数挙げ、その根拠についても非常によく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を複数挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げることができなかった。
アカデミック・スキル(文章表現)	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、非常に表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、かなり表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、やや表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、最低限表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 (S) (科目ナンバリング: SOP123059, SOP423042, SOP523041)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明, 産業心理学の歴史と研究領域)	産業心理学とはどのような学問領域かを調べる (90分)	産業心理学で扱う内容について確認する (90分)
2	動機づけ (モチベーションの理論の基礎)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	動機づけ (モチベーションの理論の発展)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	職場ストレスとカウンセリング (ストレスモデル)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	職場ストレスとカウンセリング (産業カウンセリング)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	まとめ (動機づけと職場ストレス, カウンセリング)	2回から5回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する (90分)
7	集団と組織 (集団の意思決定)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	集団と組織 (集団状況でのパフォーマンス)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	集団と組織 (多様性と共同社会)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
10	リーダーシップの諸理論	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
11	まとめ (集団・組織とリーダーシップ)	7回から10回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する (90分)
12	消費者行動 (消費行動を規定する心理要因)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
13	消費者行動 (消費者をとりまく心理要因)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
14	人事アセスメント	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	12回から14回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する (90分)
16	60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。	資料を確認し, 自分の言葉で授業内容を説明できるように準備する (90分)	試験でわからなかったことを再確認する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (科目ナンバリング: SOE122063, SOE242097, SOE342093, S, OE442095, EDU542102)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教育の理想や思想は、「教育制度」となれば実際に力をもつものとはならないとの観点から教育を把握するとともに、21世紀の教育行政に対応できる教育行政学について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育行政の組織や権限等の法制的な理解にとどまらず、学習するものの立場に立った教育条件整備の在り方について考察し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

教育行政というものがあり、どうあるべきかを理論的・体系的にとらえるとともに、教育内容から教育環境の問題までを現実において具体的に考えていく。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、発表等の活動を行う。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	40%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育行政の法的理解と教育制度の習得	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの作成	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (科目ナンバリング: SOE122063, SOE242097, SOE342093, S, OE442095, EDU542102)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育行政学』	横井敬部	八千代出版	2022	978-4-8429-1839-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 ・教育行政の身近な課題について	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・憲法・教育基本法について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・文部科学省と教育政策形成について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育委員会制度について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育財政と教職員配置について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育課程について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	憲法・教育基本法と教育行政制度のまとめ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	公教育制度と学校・教員 ・教育を受ける権利と公教育制度について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	公教育制度と学校・教員 ・学校組織と学校経営について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	公教育制度と学校・教員 ・教職員制度と教員の仕事について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	公教育制度と学校・教員 ・学校を支える教職員・施設と専門職協働について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの権利条約と学校の課題について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの成長・発達を支える行政について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	子ども・若者支援と権利保障 ・進路を拓く若者支援と学校の取り組みについて	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	公教育制度と学校・教員 子ども・若者支援と権利保障 のまとめ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	教育行政学のまとめ 定期試験(60分) 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (S) (科目ナンバリング: SOE122063, SOE242097, SOE342093, S, OE442095, EDU542102)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教育の理想や思想は、「教育制度」とならなければ実際に力をもつものとはならないとの観点から教育を把握するとともに、21世紀の教育行政に対応できる教育行政学について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

教育行政の組織や権限等の法制的な理解にとどまらず、学習するものの立場に立った教育条件整備の在り方について考察し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

教育行政というものがあり、どうあるべきかを理論的・体系的にとらえるとともに、教育内容から教育環境の問題までを現実において具体的に考えていく。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察・発表等の活動を行う。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	30%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育行政の法的理解と教育制度の習得	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの作成	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (S) (科目ナンバリング: SOE122063, SOE242097, SOE342093, S, OE442095, EDU542102)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育行政学』	横井敬部	八千代出版	2022	978-4-8429-1839-6	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 教育行政の身近な課題について	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	憲法・教育基本法と教育行政制度 憲法と教育基本法について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	憲法・教育基本法と教育行政制度 文部科学省と教育政策形成について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	憲法・教育基本法と教育行政制度 教育委員会制度について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	憲法・教育基本法と教育行政制度 教育財政と教職員配置	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	憲法・教育基本法と教育行政制度 教育課程について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	憲法・教育基本法と教育行政制度のまとめ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	公教育制度と学校・教員 教育を受ける権利と公教育制度について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	公教育制度と学校・教員 学校組織と学校経営について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	公教育制度と学校・教員 教職員制度と教員の仕事について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	公教育制度と学校・教員 学校を支える教職員・施設と専門協働について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	子ども・若者支援と権利保障 子どもの権利条約と学校の課題について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	子ども・若者支援と権利保障 子どもの成長・発達を支える行政について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	子ども・若者支援と権利保障 進路を拓く若者支援と学校の取り組みについて	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	公教育制度と学校・教員 子ども・若者支援と権利保障のまとめ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	教育行政学のまとめ 定期試験(60分) 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (M) (科目ナンバリング: CLP123058, CLP423047, CLP523046)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学生が、コミュニティ心理学の理念と目標を理解し、コミュニティ心理学の介入方法について理解する。さらに、学生が、いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら、実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(3)に対応する科目。

到達目標

コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。実際のコミュニティ活動を通じた問題解決の事例を、心理学の知見を援用しながら説明する。コミュニティ心理学に関するテーマについて、調べ、整理し、スライド資料を用いて紹介する。

授業全体の内容と概要

コミュニティ心理学の理念・目的に基づき、人が環境に適応するための援助だけでなく、個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに、従来の臨床心理学的なアプローチに加え、社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。  
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

前半は板書とパワーポイント、配布印刷物を活用しながら、講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し、知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。プレゼンテーション発表の枠は、6枠×3回であり、その中で全履修者の発表を終わらせる必要がある。そこで、履修者の人数が多い(19名以上)の場合、グループでの発表になる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識を非常に理解できた。	専門知識をかなり理解できた。	専門知識をやや理解できた。	最低限の専門知識を理解できた。	最低限の専門知識を理解できなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
授業への積極的参加	授業へ非常に参加できた。	授業へかなり参加できた。	授業へやや参加できた。	授業へ最低限の参加ができた。	授業へ積極的に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (M) (科目ナンバリング: CLP123058, CLP423047, CLP523046)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバス及び授業改善アンケートの結果反映の説明、コミュニティとは)	コミュニティについて調べる (90分)	本授業で扱うテーマを確認する (90分)
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	予防プログラム	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	これまでの振り返り	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
10	プレゼンテーション (テーマ, 発表順の決定, 準備)	関連する文献を読む (90分)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)
11	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)	スライド資料をまとめる (90分)
12	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
13	プレゼンテーション発表とディスカッション (第1グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
14	プレゼンテーション発表とディスカッション (第2グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
15	プレゼンテーション発表とディスカッション (第3グループ)	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
16	これまでの内容の振り返り (プレゼンテーションの準備日を兼ねる) 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (S) (科目ナンバリング: CLP123058, CLP423047, CLP523046)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学生が、コミュニティ心理学の理念と目標を理解し、コミュニティ心理学の介入方法について理解する。さらに、学生が、いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら、実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)に対応する科目。

到達目標

コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。実際のコミュニティ活動を通じた問題解決の事例を、心理学の知見を援用しながら説明する。コミュニティ心理学に関するテーマについて、調べ、整理し、スライド資料を用いて紹介する。

授業全体の内容と概要

コミュニティ心理学の理念・目的に基づき、人が環境に適応するための援助だけでなく、個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに、従来の臨床心理学的なアプローチに加え、社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。  
「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

前半は板書とパワーポイント、配布印刷物を活用しながら、講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し、知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。プレゼンテーション発表の枠は、6枠×3回であり、その中で全履修者の発表を終わらせる必要がある。そこで、履修者の人数が多い(19名以上)の場合、グループでの発表になる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識を非常に理解できた。	専門知識をかなり理解できた。	専門知識をやや理解できた。	最低限の専門知識を理解できた。	最低限の専門知識を理解できなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
授業への積極的参加	授業へ非常に参加できた。	授業へかなり参加できた。	授業へやや参加できた。	授業へ最低限の参加ができた。	授業へ積極的に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (S) (科目ナンバリング: CLP123058, CLP423047, CLP523046)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバス及び授業改善アンケートの結果反映の説明、コミュニティとは)	コミュニティについて調べる (90分)	本授業で扱うテーマを確認する (90分)
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	予防プログラム	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	これまでの振り返り	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
10	プレゼンテーション (テーマ, 発表順の決定, 準備)	関連する文献を読む (90分)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)
11	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)	スライド資料をまとめる (90分)
12	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
13	プレゼンテーション発表とディスカッション (第1グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
14	プレゼンテーション発表とディスカッション (第2グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
15	プレゼンテーション発表とディスカッション (第3グループ)	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
16	これまでの内容の振り返り (プレゼンテーションの準備日を兼ねる) 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法（M）（科目ナンバリング：LAW122131，LAW422033，LAW522034）				
授業担当者（所属・職名）	青山 浩之（経営学科・教授）	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：青山 浩之）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

民法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるように学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP（1）（2）（3）に対応する。

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法学の基礎となる民法の面白さを伝える。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。民法は、市民生活や経済活動を法で支えるうえで基本となる法律であり、最も身近な法律である。民法の基本となる知識を修得し、事例に即し講義を行う。具体的には、総則・物権・債権からなる財産法を中心に解説する。Sdc「10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料（第3回から第14回の計12回）を配布して実施する（調査学習含む）。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために6回（前年実績）実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回（前年実績なし）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回（前年実績）実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する（欠欠などの学生に対しては補講を実施する）。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上  
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる事ができた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる事ができた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができた。	解答が的確で、過不足なく網羅して答えていた。	一部に解答と関係ないことを答えていた。	改善すべき点があったが、解答を一通り答えていた。	的確ではないが、解答を部分的には答えていた。	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法(M) (科目ナンバリング: LAW122131, LAW422033, LAW522034)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『民法 第2版(ファーストラックシリーズ2)』	伊藤真	弘文堂	2022年	9784335314612	
2	『ポケット六法 令和5年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2022年	9784641009233	
3	『大学生生活と法学』	江藤祥平・大塚智貞・遠藤聡大・豊谷しのぶ・辰野嘉訓・田島	有斐閣	2022年	9784641126312	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 民法全体の概観	シラバスの確認 民法の特徴と基本原理の調べ学習(90分)	復習(90分)
3	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者(未成年者, 成年被後見人)	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	成年被後見人, 意思表示(錯誤・心裡留保・通謀虚偽表示・詐欺・強迫)	成年被後見人, 意思表示についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	代理(代理, 表見代理, 無権代理) 確認テスト1(前年実績)	代理(代理, 表見代理, 無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
6	代理(無権代理) 確認テスト2(前年実績)	代理(無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
7	問題演習の解答と解き方 時効(取得時効, 消滅時効) 確認テスト3(前年実績)	時効(取得時効, 消滅時効)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
8	物権 - 物権法の概観	物権法についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	物権 - 用益物権(地上権, 永小作権, 地役権, 入会権), 物権の変動(動産, 不動産), 即時取得 確認テスト4(前年実績)	用益物権, 物権の変動, 即時取得についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
10	物権 - 物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権) 確認テスト5(前年実績)	物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
11	債権 - 保証契約, 連帯保証 課題1(前年実績)	保証契約, 連帯保証についての調べ学習(90分)	課題の作成 配布資料の復習(90分)
12	答案練習 債権 - 手付, 担保責任	課題の作成 手付, 担保責任についての調べ学習(90分)	答案練習の復習 配布資料の復習(90分)
13	債権 - 債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担 確認テスト6(前年実績)	債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
14	債権 - 不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任	不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	第3回から第14回まで復習(90分)	試験範囲の確認により, 第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法(S) (科目ナンバリング: LAW122131, LAW422033, LAW522034)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

民法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるように学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法学の基礎となる民法の面白さを伝える。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。民法は、市民生活や経済活動を法で支えるうえで基本となる法律であり、最も身近な法律である。民法の基本となる知識を修得し、事例に即し講義を行う。具体的には、総則・物権・債権からなる財産法を中心に解説する。Sdc「10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する(調査学習含む)。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために6回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(欠欠などの学生に対しては補講を実施する)。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上  
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる事ができた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる事ができた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができた。	解答が的確で、過不足なく網羅して答えていた。	一部に解答と関係ないことを答えていたが、解答は答えていた。	改善すべき点があったが、解答を一通り答えていた。	的確ではないが、解答を部分的には答えていた。	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法(S) (科目ナンバリング: LAW122131, LAW422033, LAW522034)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『民法 第2版(ファーストラックシリーズ2)』	伊藤真	弘文堂	2022年	9784335314612	
2	『ポケット六法 令和5年版』	佐伯 仁志, 大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2022年	9784641009233	
3	『大学生生活と法学』	江藤祥平・大塚智貞・遠藤聡大・豊谷しのぶ・原野真剛・田島	有斐閣	2022年	9784641126312	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 民法全体の概観	シラバスの確認 民法の特徴と基本原理の調べ学習(90分)	復習(90分)
3	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者(未成年者, 成年被後見人)	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	成年被後見人, 意思表示(錯誤・心裡留保・通謀虚偽表示・詐欺・強迫)	成年被後見人, 意思表示についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	代理(代理, 表見代理, 無権代理) 確認テスト1(前年実績)	代理(代理, 表見代理, 無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
6	代理(無権代理) 確認テスト2(前年実績)	代理(無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
7	問題演習の解答と解き方 時効(取得時効, 消滅時効) 確認テスト3(前年実績)	時効(取得時効, 消滅時効)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
8	物権 - 物権法の概観	物権法についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	物権 - 用益物権(地上権, 永小作権, 地役権, 入会権), 物権の変動(動産, 不動産), 即時取得 確認テスト4(前年実績)	用益物権, 物権の変動, 即時取得についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
10	物権 - 物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権) 確認テスト5(前年実績)	物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
11	債権 - 保証契約, 連帯保証 課題1(前年実績)	保証契約, 連帯保証についての調べ学習(90分)	課題の作成 配布資料の復習(90分)
12	答案練習 債権 - 手付, 担保責任	課題の作成 手付, 担保責任についての調べ学習(90分)	答案練習の復習 配布資料の復習(90分)
13	債権 - 債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担 確認テスト6(前年実績)	債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
14	債権 - 不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任	不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	第3回から第14回まで復習(90分)	試験範囲の確認により, 第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (テキスタイル) (科目ナンバリング: AEA223075)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

テキスタイルデザインについての知識を深める。  
技法の特徴を理解し、習得する。  
技法を自己の作品に活かす。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

テキスタイルデザインについて知る。  
技法を理解する。  
技法を用いて作品を制作する。

授業全体の内容と概要

スクリーンプリント技法の特徴と制約を活かし、試行錯誤してものづくりをする。制作の目的を設定し、各自で作業計画を立てる。完成後、作品を発表し、展示する。  
「SDG12. つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後、デジタル資料はTeamsに保存するので振り返り可能。デザインはアナログ・デジタルどちらにも対応する。制作段階ごとに個別に指導する。課題は添削、講評にてフィードバックする。作品完成後、発表し、展示する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

必要な道具と生地は各自で用意する。  
授業開始30分間で説明をするので遅刻しないこと。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は20回以上。  
自分の作業日は必ず出席すること。  
作品を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスタイルデザインについての知識を深める。	テキスタイルデザインについての知識を深め、活かすことができた。	テキスタイルデザインについての知識を深めることができた。	テキスタイルデザインについて知り、その知識を深めることに努めた。	テキスタイルデザインについて知ることができた。	テキスタイルデザインについて知ることができなかった。
技法の特徴を理解し、習得する。	技法の特徴を理解し、習得し、活かすことができた。	技法の特徴を理解し、習得することができた。	技法を理解し、習得することに努めた。	技法を理解することができた。	技法を理解することができなかった。
技法を自己の作品に活かす。	技法を自己の作品に活かす、完成度の高いものができた。	技法を自己の作品に活かすことができた。	技法を用いて作品を制作し、作品に活かすことに努めた。	技法を用いて作品を制作することができた。	技法を用いて作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (テキスタイル) (科目ナンバリング: AEA223075)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 作品制作の目的を設定する	シラバスを読んでおくこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
2	テキスタイルデザインとはなにか スクリーンプリント技法について	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	作品制作の目的を設定する 作業計画を立てる	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	作業計画を立てる	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	素材研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	素材研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	技法研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	技法研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	デザイン決定	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	デザイン決定	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	原画作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	原画作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
18	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	製版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
20	製版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
21	刷り	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
22	刷り	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	落版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
24	落版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	作品加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	作品加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	レポート作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	レポート作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	展示	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	発表・鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
32	講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（金工）（科目ナンバリング：AEA223075）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

金属の加工技法を活かして、美しい作品を制作することができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

金属の加工技法を理解して作品を制作することができる。

授業全体の内容と概要

工芸実習（金属）では指輪制作（ろう付け技法）と、銅板レリーフ（鍛金）の2課題を通じて、実践的に金属の表現力を磨く。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。  
評価は作品点（70%）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（30%）の基準で行う。  
講義の前中で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金属表現の基本的な特性の理解（知識・理解）	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用して作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法が理解できず、作品が制作できなかった。
技術を応用したデザインの能力（思考力・表現力・判断力等）	習得した技術を生かした独自の美しいデザインを制作した。	習得した技術を生かした独自のデザインを制作した。	習得した技術を使って自分なりにデザインを制作した。	習得した技術を使ってデザインを制作した。	習得した技術を使ってデザインを制作できなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（金工）（科目ナンバリング：AEA223075）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事（45分）
2	金属工芸について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
3	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
4	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
5	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
6	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
7	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
8	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
9	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
10	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
11	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
12	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
13	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
14	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
15	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
16	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
18	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
19	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
20	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
21	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
22	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
23	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
24	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
25	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
26	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
27	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
28	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
29	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
30	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（染色）（科目ナンバリング：AEA223075）				
授業担当者（所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

天平の三織（束織、繰織、編織）から束織と繰織の実技体験をする。正倉院御物から伝わる防染技法を体験することによって日本の古代文化に想いを馳せる。

授業の位置づけ

デザイン学科DP(1)(2)に対応する。

到達目標

染色の歴史の中での防染の位置付けとバリエーションを知る。  
二つの技法を習得し制作ができる。  
染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。

授業全体の内容と概要

天平の三織を知り古代の技法に挑戦する。  
束織は板締め絞り染めとして、繰織はろうけつ染めとしてそれぞれ現代に伝わるが古式に近い作業方法をとる。

授業の方法

視聴覚メディアと板書、作例によって歴史と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとに三織の作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

工具類、染料の使用に対応した服装の用意。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席と課題作品の完成、提出を求める。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
防染とは何かを知る。	防染とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	防染とは何かを詳しく知っていた。	防染とは何かを知っていた。	防染とは何か、最低限のことを知っていた。	防染とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
染料と道具を正しく使用できる。	2種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用でき、それを周囲に伝えることができた。	2種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できた。	染料と道具をある程度正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（染色）（科目ナンバリング：AEA223075）				
授業担当者（所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
2	糸織課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
3	実作業による作例（大玉を例として）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
4	各自方眼紙にデザイン	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
5	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
6	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
7	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
8	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
9	染色作業（植物染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
10	染色作業（植物染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
11	染色作業（重ね）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
12	染色作業（重ね）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
13	洗い、定着、乾燥	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
14	作品発表作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
15	糸織課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
16	実作業による作例（ブロック、筆）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	各自原画	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
18	各自原画	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
19	原画着色	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
20	原画着色	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
21	染色作業一層め（直接染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
22	染色作業一層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
23	染色作業二層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
24	染色作業二層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
25	染色作業三層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
26	染色作業三層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
27	修正、加筆	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
28	アイロン脱蠟	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
29	蒸し、脱蠟	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
30	洗い、定着	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
31	作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
32	課題解説、質疑応答 授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2学年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（版表現）（科目ナンバリング：AEA223075）				
授業担当者（所属・職名）	鳴海伸一（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室およびアトリエ棟2階版画教室	
単位数	2	（単位認定責任者：鳴海伸一）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP日本美術家連盟会員 / 版画学会会員		
オフィスアワー	実施教室等対応				

概要

履修目標

本講義では基本版種となる凹凸孔平、各版の知識と理解を深め、デザインの発想やイラストなどの表現の幅を広げ、自己の才能と可能性を探索・追求する事を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

版の知識と技術を深め、自身で正確で安全な制作が可能な実力を養う。また、その版表現によって個性のある作品成果を目標とする。

授業全体の内容と概要

本講義では主要4版種の中から、「銅版画」と「リトグラフ」の小作品を制作する。美術家やイラストレーター、クリエイター、メディアアーティストを目指す方々の印刷技術の理解にも有意義な実技である。

授業の方法

「描画」－「製版」－「刷り」と作業を進める。油性描画材、腐蝕液、溶剤、油性インクなど版画ならではの専用画材を扱い、プレス機を用いて各版種ひとり1作品を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作の特性上、汚れてもよい服装や保護具を着用のごと。制作過程で乾燥・化学反応などの待機時間や日数を要し、設備の台数制限から作業の順番待ちが発生します。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は22回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
版の原理と制作工程を理解しようとしている。	知識と技術が伴って安全かつ正確な制作ができている。他版種にも関心を寄せ、作品発表につなげている。	知識だけではなく、実技としてほぼ正しい制作工程が可能である。	助言をもとに、制作工程を理解し、製版と向き合っている。	凹凸孔平の基本版種の原理を図として理解できている。	版表現に興味をもてず、原理を理解しようとしていない。版が完成していない。
扱っている道具、材料の特性を理解しようとしている。	道具、材料を応用的に用いることが出来、経済的な制作とメンテナンスができる。	授業内容に準じた内容で道具と材料を自身で的確に扱って使用することができる。	材料の特性を理解し、助言をもとに効率的な制作ができる。	授業内容に沿った内容で道具、材料の特性を理解し、助言をもとに制作ができる。	自身が扱っている道具や材料に関心をよせていない。道具を大切に扱えていない。
安全で正確な制作工程を理解している。	教室の安全維持、環境維持に積極的に取り組んでいる。	換気、環境、設備の理解と保護具の着用など安全に配慮した制作ができる。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	無頓着で雑な制作を行い、工程を把握しようとしていない。
作品の仕上りに成果が反映されている。	授業外の技法にも挑戦し、研究的な手法を身につけている。楽しんで制作ができている。	授業内の技法を理解し、画面の中に効果的に表現されている。	画面、サインなどが明記され、版表現の魅力を感じ取っている。	本刷りがされ、判断も行われシート作品として完成している。	本刷りがされていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2学年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（版表現）（科目ナンバリング：AEA223075）				
授業担当者（所属・職名）	鳴海伸一（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室およびアトリ工棟2階版画教室	
単位数	2（単位認定責任者：鳴海伸一）		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員 / 版画学会会員		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明とガイダンス / 版画について 授業改善アンケート結果反映の説明	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
2	シラバスの説明とガイダンス / 版表現の魅力と感性	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
3	凹版画制作 / エッチング - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）
4	凹版画制作 / エッチング - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）
5	凹版画制作 / エッチング - 下絵と転写 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
6	凹版画制作 / エッチング - 下絵と転写 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
7	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
8	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
9	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版と刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
10	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版と刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
11	凹版画制作 / エッチング - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
12	凹版画制作 / エッチング - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
13	凹版画制作 / エッチング - 刷りとアクアチント -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
14	凹版画制作 / エッチング - 刷りとアクアチント -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
15	凹版画制作 / エッチング - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
16	凹版画制作 / エッチング - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	平版画制作 / リトグラフ - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）
18	平版画制作 / リトグラフ - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）
19	平版画制作 / リトグラフ - 転写と描画 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
20	平版画制作 / リトグラフ - 転写と描画 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
21	平版画制作 / リトグラフ - 第1製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
22	平版画制作 / リトグラフ - 第1製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
23	平版画制作 / リトグラフ - 第2製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
24	平版画制作 / リトグラフ - 第2製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
25	平版画制作 / リトグラフ - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
26	平版画制作 / リトグラフ - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
27	平版画制作 / リトグラフ - 刷りと判断 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
28	平版画制作 / リトグラフ - 刷りと判断 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
29	平版画制作 / リトグラフ - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
30	平版画制作 / リトグラフ - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
31	まとめ / 鑑賞と講評 授業改善アンケートの実施	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
32	まとめ / 鑑賞と講評	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング: MAT322054)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が微積分の基礎知識を養う力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

基本的な数学の知識から学び、微積分の基礎知識までを修得する。さらに、それらのことを通して、答えだけではなく、計算過程(思考過程の説明)も大切であることを理解し、習得することができる。

授業全体の内容と概要

数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・一次関数・極限値、導関数、微分法の公式、べき・三角関数・指数関数・対数関数などの微分、不定積分、置換積分法、部分積分法など、豊富な練習問題を計算することによって、微積分の知識の定着を図る。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。また、課題及び演習の解答は時間内に行うようにする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。予習・復習を怠らないこと。授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	20%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
微積分の基礎知識の修得	極限及び微積分の基礎知識が100%理解できた。	極限及び微積分の基礎知識が90%以上理解できた。	極限及び微積分の基礎知識が80%以上理解できた。	極限及び微積分の基礎知識が70%以上理解できた。	極限及び微積分の基礎知識が70%も理解できなかった。
計算過程(思考過程の説明)の習得	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を70%も記述したレポートにならなかった。
微積分を学ぶために必要な基礎数学の知識の修得	基礎数学の知識が100%理解できた。	基礎数学の知識が90%以上理解できた。	基礎数学の知識が80%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング: MAT322054)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	整数と計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	展開・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	平方根・一次関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	極限值・連続関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	導関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	べきの微分	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	微分法の公式1(極限值)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	微分法の公式2(導関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	初等関数の微分1(三角関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	初等関数の微分2(指数関数・対数関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	不定積分1(原始関数と不定積分)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	不定積分2(初等関数の積分)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング: SWS123024)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
社会福祉士国家試験出題基準などにも関連し、地域福祉学の基礎を で学修し、 では地域における具体的な実践について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のディプロマポリシー(DP)の(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
1. 地域社会における社会福祉の対象について、具体的事例に基づき、説明ができる。 2. 地域社会における社会福祉のアプローチについて具体的事例に基づき、説明できる。

授業全体の内容と概要
1. 地域福祉学は、実践方法・技術を学ぶものがコミュニティワーク、その対象理解を学ぶものが地域福祉論になる。 2. 本科目は、での理論的接近により地域社会の推進方法の基礎をより推し進め、地域における具体的な実践について学修する。 3. テキストを中心に、関連文献を適宜紹介する。 参考文献として、その他、文献資料も活用する。 4. 授業内容は、社会福祉士国家試験科目「地域福祉と包括的支援体制」の内容についての理論的理解を含む。 5. 「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」、「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜、質疑応答を交える。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 15回目の授業時にノートの確認を行う。 4. とは同じ教科書を使用する。 5. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 6. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

- 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできない。
- その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価である。
- 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】ソーシャルサポートネットワークについて理解できる。	ソーシャルサポートネットワークについて非常に理解できた	ソーシャルサポートネットワークについておおむね理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて一部理解できなかった	ソーシャルサポートネットワークについて理解できなかった
【知識】地域における社会資源について理解する。	地域における社会資源について非常に理解できた	地域における社会資源についておおむね理解できた	地域における社会資源について理解できた	地域における社会資源について一部理解できなかった	地域における社会資源について理解できなかった
【知識】災害時における地域福祉問題や対策について理解する。	災害時における地域福祉問題や対策について非常に理解できた	災害時における地域福祉問題や対策についておおむね理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について一部理解できなかった	災害時における地域福祉問題や対策について理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング: SWS123024)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8236-8	価格 13,190
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します。』 <sup>a</sup>					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	ソーシャルサポートネットワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	ソーシャルサポートネットワークについて・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	地域における社会資源の活用・調整・開発について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	地域における社会資源の活用・調整・開発について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	地域トータルケアシステムの構築と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	地域トータルケアシステムの構築と実際について・展開方法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	地域トータルケアシステムの構築と実際について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	地域における福祉サービスの評価方法について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	災害支援と地域福祉について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	災害支援と地域福祉について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	地域福祉と海外について・イギリス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	地域福祉と海外について・アメリカ 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング: ESS343096)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校工業科教員としての必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

工業教育の意義と役割を考え、基礎的知識及び技術、指導内容及び指導方法を理解することができる。

授業全体の内容と概要

工業教育の基礎的知識及び技術、指導内容・指導方法を理解し学ぶ。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題提出後、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
○	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	○ 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。  
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工業教育の意義と役割の理解	講義の内容から工業教育の意義と役割について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について大体理解した。	工業教育の意義と役割について理解しなかった。
工業教育の基礎的知識及び技術の理解	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について大体理解した。	工業教育の基礎的知識及び技術について理解しなかった。
指導内容及び指導方法の理解	講義の内容から指導内容及び指導方法について完璧に理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法についてほぼ理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について大体理解した。	指導内容及び指導方法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング: ESS343096)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『高等学校学習指導要領』	文部科学省				
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、カリキュラムとその在り方及び授業改善アンケート結果反映の説明	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	カリキュラムの要素と構成	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	工業教育のカリキュラムの編成1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	工業教育のカリキュラムの編成2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	工業教育のカリキュラムの変遷	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	模擬授業1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	模擬授業2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	工業高校のカリキュラム	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	カリキュラムへの作業分析方法の導入1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	カリキュラムへの作業分析方法の導入2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	学習指導と工業教育1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	学習指導と工業教育2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	模擬授業3	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	模擬授業4	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

## 基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング: ESS243094)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

## 概要

<b>履修目標</b>
美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

<b>授業の位置づけ</b>
デザイン学科のD P (1) (2) (3) に対応する。

<b>到達目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。</li> <li>中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。</li> </ul>

<b>授業全体の内容と概要</b>
<p>中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。</p> <p>授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。</p>

<b>授業の方法</b>
<p>授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを行う。模擬授業では他の学生の授業について検討し、ディスカッションを行う。模擬授業実施後、再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収のほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。</p>

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

<b>履修上の注意事項</b>
<p>指導案の作成や模擬授業などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。</p> <p>『中学校美術の教科書1-3年』(開隆堂出版、日本文芸出版、光村図書出版など)について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので各自が1冊は購入することが望ましい。</p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

## 修学サポート(合理的配慮)

<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

<b>資格指定科目</b>
教職課程(美術)必修科目

## 評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	20%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	20%	0%	50%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
	<b>評価基準</b>				
<b>評価項目</b>	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案の作成能力	授業内容を越えて文献や資料を自分で調査して、学習指導案を適切に作成することができた。	学習指導要領に沿って、考察をより深めながら適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿って、考察の程度適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた。	学習指導案を作成することができなかった。
模擬授業などの演習やディスカッションを通じた考察	自ら進んで課題の範囲を超えて調べ、自主的な学習が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング: ESS243094)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図画工作科・美術科教育法』	図画工作科・美術科教育法研究会編	建帛社	2019年	9784767921150	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年7月平成29年告示』	文部科学省	日本文教出版大版	2018年	9784536590136	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆真、茂木一司、福本謹一	建帛社	2010年	9784767921013	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編 音楽編・美術編 平成30年7月』	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業についてのオリエンテーション	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	学習指導要領における「鑑賞」:その意義と目的、内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
3	鑑賞教育の歴史と種類	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
4	「鑑賞」の教材研究(1)アートカードを使った鑑賞教育	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。(90分)	鑑賞の教材について、授業内容を復習する(90分)
5	「鑑賞」の教材研究(2)「分析批評」による名画鑑賞の授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。(90分)	鑑賞の教材について、授業内容を復習する(90分)
6	「鑑賞」の教材研究(3)対話型鑑賞による授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。(90分)	鑑賞の教材について、授業内容を復習する(90分)
7	ICT機器の活用について	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
8	学習指導案の作成(1)年間指導計画・学習指導案の構成と作成方法	事前配布プリント教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリント教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
9	学習指導案の作成(2)学習指導案の構成と作成方法	学習指導案を作成する(90分)	学習指導案を作成する(90分)
10	学習指導案の作成(3)制作した指導案の確認 模擬授業へ向けた準備	学習指導案を作成する(90分)	模擬授業の準備をする。(90分)
11	模擬授業(1)	模擬授業の準備をする。(90分)	授業後の振り返りや気づきをまとめる(90分)
12	模擬授業(2)	模擬授業の準備をする。(90分)	授業後の振り返りや気づきをまとめる(90分)
13	模擬授業(3)	模擬授業の準備をする。(90分)	授業後の振り返りや気づきをまとめる(90分)
14	模擬授業振り返り 指導案の修正	模擬授業を受けて、指導案を改めて作成する(90分)	学習指導案を作成する(90分)
15	まとめ	これまでの授業の疑問点をまとめておく(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
16	指導案講評 フィードバック	これまでの授業の疑問点をまとめておく(90分)	講評のフィードバックを受けて、授業の内容の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学と社会システム (科目ナンバリング: SOC111005/2023年度以降SOC121005)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業のねらい(目標)は、社会学の概念を使い、現代社会の特性、生活の多様性、人と社会、社会問題の理解を学修する。授業内容は、つぎの5つの項目を扱うこととなる。社会学の視点、社会構造と変動、市民社会と公共性、生活と人生、自己と他者。本科目では、社会学の学術概念を使い、社会的事象の課題について説明記述ができること。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(4)(5)に対応する。

到達目標

社会学の基本になる学術用語の説明ができる、社会学応用領域における社会問題について、社会学の学術概念、理論と社会統計を用いて、課題を把握し考察ができる。  
下記のルーブリック、到達目標は、合格最低レベル(C)であるので、上位段階の履修目標になるよう、ベストを尽くすこと。成績は、履修状況により相対性と絶対性が勘案されるので留意する。

授業全体の内容と概要

「SOS4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
社会学の扱う対象は広いといえるが、本授業では現代社会論、家族、地域社会の領域に関する基礎的学修する。社会学の学術用語、基礎的理論を確認し、社会的事象の理解を深めていく。

授業の方法

・授業の方法は、講義法、PBL、ワークシート作成、学術論文読解により実施する。  
・授業計画と学習内容の講義は、シラバス準拠法であり、テキストの目次順にすすめる教科書準拠法を採用していない。  
・PBL(問題基盤型学習)の第6回と第14回は、社会福祉士、公務員採用試験の過去問題の解題作業知識の外化作業は第15回、である。  
・映像教材視聴は、学術概念を使い説明記述するワークシート作成がある。  
・課題提出後の授業にて模範回答例を紹介、フィードバックをおこなう機会がある。  
・配布資料は欠落することのないようにファイリングする。ノートは、授業の再現ができるよう、取材メモとして作成する。  
・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフトTeams科目チャンネルを利用する。授業資料のファイルボックス、関連サイト紹介など、コースバケット学修利用をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・履修相談は、随時、対応するので、授業中、研究室来室など、気軽に相談してほしい。学生から教員へのチャット、メール等連絡は、教員が他の授業、面談などでは対応がむずかしい。学校事務扱い時間を確かめ、夜間、休日の連絡は緊急をのぞき、学校登校日に相談してほしい。  
・社会福祉士新カリキュラム対応テキスト準拠型授業(テキスト目次記載順)とシラバス準拠型授業(シラバス準拠型計画)を併用し学修する。  
・学修は、高校の学修スキルが基礎になるが、高等教育であるから広く深く学ぶこと、学術の多面的理解が重要である。  
・飯間浩明氏(国語辞書編集者)資料参照。https://twitter.com/IIMA\_Hiroaki/status/586525324088774657 (2023.02.22確認)  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格課程科目、教職課程(社会・公民)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要である。  
各授業の作業課題を提出することは基本要件になる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解すること、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、いくつかの例をあげて、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめる作業は難しかった。新しく学ぶ学術用語について、例証はなく、充分ではないが、自分の言葉で説明をこころみていた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業は難しかった。新しく学ぶ学術用語について、説明がまっただけでなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比しながら、類似点や相違点をあげながら、社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけながら、論理的に社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけながら、社会的事象の分析表現ができた。	文献資料を選び、信頼性について改善の余地はあるが、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析がまっただけでなかった。	文献資料を選び、引用することについて、信頼性の確保が難しかった。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析がまっただけでなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、本人が理解して行動することは難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学と社会システム (科目ナンバリング: SOC111005/2023年度以降SOC121005)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						テキスト改訂版発行2023年5月予定
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会学事典』	日本社会学会	丸善	2010	9784621082546	
2	『社会学用語図鑑』	田中正人編、香月孝史	プレジデント社	2019	9784833423113	
3	『社会福祉士養成課程のカリキュラム社会学と社会システム 教育に含めべき事項(内容)』	厚生労働省 福祉人材確保対策室		2020		<a href="https://www.mhlw.go.jp/">https://www.mhlw.go.jp/</a>
4	『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野』	日本学術会議		2014		<a href="http://210.149.141.38">http://210.149.141.38</a>
5	『社会学の力 改訂版』	友枝敏雄ほか	有斐閣	2023	9784641174818	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリック)、前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明をおこなう。	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	社会学の考え方-1(社会化、社会的地位、役割)	テキスト1章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	社会学の考え方-2(重要な他者、属性主義、業績主義)	テキスト1章「学習のヒント」を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	家族社会-1(家族類型、家族機能)	テキスト2章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	家族社会-2(家族形態、親族関係)	テキスト3章を予習する。(90分)	テキスト第3章「学習のヒント」発展学修する。(90分)
6	社会学の基本的概念、家族社会のまとめ(PBL)	授業1-5回の学習ふりかえり整理を行う。(90分)	今回の学習内容(PBL資料)を復習する。(90分)
7	現代社会の捉え方(ライフコース、ジェンダー、性別役割規範、社会的文化的性差)	テキスト4章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	地域社会-1(都市化、都市的生活様式、過疎化)	テキスト8章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	地域社会-2(第一次の関係、パーソナル・ネットワーク)	テキスト10章を予習する。(90分)	テキスト第10章「学習のヒント」を発展学修する。(90分)
10	地域社会-3(地域社会の人口変動)	テキスト10章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	少子化と高齢化 1(人口転換、出生力、死亡率)	テキスト11章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	少子化と高齢化 2(人口の地域間移動)	テキスト11章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	人口問題と社会学(人口構成、人口ボーナス、人口オーナス、人口転換)	テキスト12章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	ライフコース、ジェンダー、地域社会、少子化と高齢化、人口問題のまとめ(PBL)	授業7-10回学習のふりかえり整理する。(90分)	今回の学習内容(PBL資料)を復習する。(90分)
15	学術論文読解(三色線引き読み、福祉社会学)	三色線引き読み資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	本科目のまとめ(授業総括と課題シートの教員講評)授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。(90分)	全体のふりかえりを行う。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 (科目ナンバリング: MOF424026, MOF524028)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	基本的には事前調整による。もしくは、研究室前のボードを参照。				

概要

履修目標

昨今の世界経済における金融の役割は非常に大きくなっている。貿易額を見ても、実物取引よりも金融取引の方がはるかに規模が大きい。こうした金融のダイナミクスは取引の電子化により、世界経済の変転を加速しつつある。世界経済に大きな影響を与える金融のみかニズムについて、その歴史とシステムを良く理解し、今後の世界経済を分析する目を養う事を履修の目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

日本の金融システムを理解し、現状の世界経済を分析・説明出来る。

授業全体の内容と概要

1. 金融の歴史
2. 日本の金融
3. 金融システムの理解
4. 金融システムとマクロ経済学の関係の理解

授業の方法

パワーポイントによる講義・必要に応じて板書

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は教科書を使用せず、板書と配付資料によって行うので、必ず出席する事。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金融の歴史について	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史や、日本の金融史を網羅的に把握している。	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史を把握している。	貨幣の発生から金融システムの成立に至る歴史を把握している。	金融システムの成立について、把握している。	金融システムの成立について、理解が見られない。
金融システムについて	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題について網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割について理解している。	金融システムに関する理解が見られない。
金融とマクロ経済について	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して、網羅的に理解している。	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して理解している。	景気循環やインフレ、デフレに関して理解している。	金融と景気循環の関係を理解している。	金融と景気循環の関係に関して理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 (科目ナンバリング: MOF424026, MOF524028)				
授業担当者(所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション:本講義の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを良く読み、金融に関するネットニュースや新聞を良く読んでおく。(90分)	今後のスケジュールをよく確認しておく。(90分)
2	「金融」とは何か	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
3	金融システム発達の歴史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
4	日本の金融システム1:日本の金融史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
5	日本の金融システム2:日本の金融システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
6	「貨幣」とは何か:交換と貯蔵	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
7	資産と金融1:不確実性の回避手段としての金融	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
8	資産と金融2:金融市場と資産価格	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
9	銀行の役割と「利子」	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
10	イノベーションと金融:資金はどこから来るのか?	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
11	マクロ経済学から見た金融の役割1:金融と景気	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
12	マクロ経済学から見た金融の役割2:マクロ経済システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
13	バブル経済と金融:日本の経験を踏まえて	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
14	昨今の金融ニュースを読む:日本と世界の情勢	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
15	講義全体のまとめ	これまで講義で学んだ事を復習し、まとめておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	試験の準備をする(90分)。	これまで講義で学んだ事を復習する(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323077)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323077)				
授業担当者(所属・職名)			研究室等所在		
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング: ECP422045, ECP522044)				
授業担当者(所属・職名)	北広島市役所		研究室等所在	1号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在実際に地域政策を担当している方々から直接講義を受ける画期的な内容		
オフィスアワー	事前連絡をもとに各回授業後調整の上、非常勤講師室等に対応する。				

概要

履修目標

少子高齢化や人口減少が本格化する中、地域社会を取り巻く環境は厳しさの度を増している。様々な課題を克服していくためには、強かでない地域政策が求められる。本講では、地域政策の概念、今日的意義と課題、政策を立案・展開する際のポイント等を理解するとともに、実際に担当されている公務員の方から講義をいただき考究する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

地域社会のあり方に対する興味・関心が高まり、様々な立場にある住民の不安や悩み、要望等を踏まえ「問題」の発見・設定力、解決に向けた「目標や戦略」の立案力、事後の「評価」の際の分析力といった、一住民として、あるいは自治体職員等として必要な「政策」の基礎を立案できる。

授業全体の内容と概要

本講では、「地域政策」を、国による地域をフィールドにした下請的な政策実施と捉えず、地域主体による自律的な政策創出として捉える。だが、資金や人材、情報等が不足しがちな地域において、産業やコミュニティを強化・再生できるような政策の立案や実行が果たして可能なのか、指導者や住民たちのメンバーシップはいかにあるべきか。こうした疑問や問題意識を持ちつつ、道内外の先進事例に真摯に学びながら、改めて地域の可能性や政策づくりの核心を見出してゆく。

授業の方法

講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、各回のテーマに関する基本データ・動向や解決の方向性などを、事例研究の分析結果とも関連づけながら解説する。グループワークでは、事例の文献・資料から特徴や成功要因、課題などを討議・発表し合う(5回程度)。レポートの作成を多く求めるが(7回程度)、グループワークやレポートへのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	15%	0%	15%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域政策の意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容を概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解していなかった。
地域政策への関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問したり、発言するなど積極的な授業態度であった。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。理解を深めるため真剣に聴いていた。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書に取り組んでいなかった。
具体的な市町村等を対象に、地域が抱えている問題を克服するための政策を立案・提言	問題認識が適切で、目標設定や実現に向けた戦略が極めて優れていた。	問題認識が適切で、目標設定や戦略が優れていた。	問題認識が適切で、目標と戦略が設定されていた。	問題認識はやや弱いが、目標と戦略は設定されていた。	問題認識が弱く、目標や戦略も説得力に欠けた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング: ECP422045, ECP522044)				
授業担当者(所属・職名)	北広島市役所		研究室等所在	1号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現在実際に地域政策を担当している方々から直接講義を受ける画期的な内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスを中心に説明(本講の目的・内容・意義、進め方、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点など)授業改善アンケート締	シラバスによく目を通しておく(90分)	授業内容に関連した作文を作成(90分)
2	地域政策へのアプローチ(1) 「地域」の概念・区分と「政策」の概念・基本構造	事前配布「下條村」を読んでおく(90分)	授業資料とノートを整理する(90分)
3	地域政策へのアプローチ(2) 「地域政策」とは-その意味・内容と現代的課題	事前配布「猿払村」を読んでおく(90分)	所得水準の高い市町村の主力産業を調べてみる(90分)
4	地域政策へのアプローチ(3) 改めて、人口減少時代の地域課題を考える	過疎地域と過密地域の今日の状況・問題点を考察しておく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
5	地域政策の事例研究(1) 地方分権の意義と住民自治<岩手県藤沢町>	事前配布「藤沢町」を読んでおく(90分)	出身地や現在住んでいる地域での住民参加や協働の事例を調べてみる(90分)
6	地域政策の事例研究(2) 地方創生戦略のフレームワークと実際<島根県海士町及び千葉県流山市>	事前配布「海士町」「流山市」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
7	地域政策の事例研究(3) 農山漁村の活性化戦略<島根県邑南町>	事前配布「邑南町」を読んでおく(90分)	中山間地域の活性化策を検討・整理してみる(90分)
8	地域政策の事例研究(4) 地場産業を巡る変化と革新<愛媛県今治市>	事前配布「今治タオル」を読んでおく(90分)	代表的な地場産業の歴史と現状を調べる(90分)
9	地域政策の事例研究(5) 商業構造の変化と中心商店街の再生<香川県高松市丸亀商店街及び富良野マルシェ>	事前配布「高松市丸亀商店街」を読んでおく(90分)	出身地の商店街の現状と課題を検討してみる(90分)
10	地域政策の事例研究(6) 観光産業の特徴と地域の活性化<長野県野沢温泉村及び愛媛県内子町>	事前配布「内子町」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
11	地域政策の事例研究(7) 子どもの生きる力を育む-森のようちえん<島根県智頭町>	事前配布「智頭町」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
12	地域政策の事例研究(8) 新事業を創る-脱施設・共済型の病児保育<NPO法人フローレンス>	事前配布「フローレンス」を読んでおく(90分)	コミュニティ・ビジネスのアイデアを考え、まとめてみる(90分)
13	地域政策の事例研究(9) 起業活動の促進と起業家教育<福島県会津若松市ジュニアエコノミーカレッジ>	事前配布「会津若松ジュニアエコ」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
14	まとめ(1) 事例研究の総括と地域政策の核心	今振り返り上げた事例研究の共通点・相違点を整理しておく(90分)	北広島の特徴・課題などを調べておく(90分)
15	まとめ(2) 「北広島市への政策提言」(仮題)<発表・質疑・コメント>授業改善アンケートの実施	レポート「北広島市への政策提言」を作成する(90分)	定期試験の準備(90分)
16	「定期試験」(60分)及び解説(30分)	定期試験の準備(90分)	試験及び解説を受けて本講全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング: PHE122138, )				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

人生をみずから創造していくための基礎となる価値観や人生観、人間観、恋愛観、結婚観を構築することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

人生をみずから創造していくための基礎となる価値観や人生観、人間観、結婚、恋愛観などを構築する。

授業全体の内容と概要

過去の倫理思想や教師自身の考えを紹介しながら、学生自身が主体的にみずからの価値観や人生観を形成していく。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、かつ積極的に授業に参加することが欠かせない。「SDGs17：パートナーシップで目標を達成しよう」の関連授業

授業の方法

講義。対話、発表、ディベート、ディスカッション、グループワークなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居残り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは100%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見を付け加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されなことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義を十分に理解し、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などに十分役立った。	講義をかなり理解し、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などにかなり役立った。	講義をそれなりに理解し、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などにそれなりに役立った。	講義を理解しようと努め、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などに役立てようとした。	講義を理解しておらず、みずからの人生観や価値観、人間観、結婚観、恋愛観などに役立てようとしていなかった。
発表	発表を10回以上した。	発表を7回以上した。	発表を5回以上した。	発表を3回以上した。	発表が3回未満だった。
ディベート、ディスカッション、グループワーク	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、積極的に発表した。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、それなりに発表した。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて、あまり発表していないかった。	ディベート、ディスカッション、グループワークにおいて消極的、ほとんど発表していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング: PHE122138, )				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, シラバスの説明 授業改善アンケート結果を反映の説明 倫理学とはなにか	シラバスをきちんと読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	代の倫理学(ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、エピクロス学派、ストア学派)	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	中世の倫理学(教父哲学、スコラ哲学)とキリスト教	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	近代の倫理学(ベーコン、ホブズ、ロック、ヒューム)	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	近代の倫理学(カント『純粋理性批判』、『実践理性批判』)	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	近代の倫理学(ヘーゲル『法の哲学』、『精神現象学』、『歴史哲学』)	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	現代の倫理学(実存主義、プラグマティズム)	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	東洋の倫理学(孔子、老子、荘子、墨子、仏教)	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	人間関係の倫理学 1 愛とはなにか	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	人間関係の倫理学 2 愛とはなにか	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	人間関係の倫理学 3 愛とはなにか	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	人間関係の倫理学 4 謙虚について	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	人間関係の倫理学 5 謙虚について	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	人間関係の倫理学 6 ゆるしについて	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	人間関係の倫理学 7 ゆるしについて	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習と第16回講義の予習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング: ESS243096)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(芸術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験を基に工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>												
工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。												
<b>授業の位置づけ</b>												
デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。												
<b>到達目標</b>												
工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。												
<b>授業全体の内容と概要</b>												
工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。 *SDGs4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。												
<b>授業の方法</b>												
学習指導要領解説を用いて行い、学習内容はパワーポイントやプリント資料で説明する。主体的で対話的な学びを目指し、グループ学習・ディスカッション・発表などを行う。												
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
<b>履修上の注意事項</b>												
教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。 課題は期日までに提出すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。												

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	20%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	20%	0%	40%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解できた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を考えることができた。</td> <td>学習指導要領の要点をまとめることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。</td> <td>課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。</td> <td>課題を捉え、自分の意見を述べることができた。</td> <td>自分の意見を述べる事ができた。</td> <td>意見を述べる事ができない。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。	思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。	関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。																								
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。																								
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング: ESS243096)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(芸術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験を基に工芸科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	日本文教出版大版	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 教科書分析	シラバスをよく読んでおくこと(90分)	授業内容を復習する(90分)
2	工芸の技法	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
3	工芸の鑑賞	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
4	年間指導計画の作成	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
5	ICT機器の活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
6	模擬授業見学(4年生)1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
7	模擬授業見学(4年生)2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
8	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
9	評価の観点	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
10	学習指導案の作成1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
11	模擬授業1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
12	模擬授業振り返りと改善1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
13	学習指導案作成2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
14	模擬授業2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
15	指導案作成の振り返りと改善2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
16	課題・レポートの解説 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと(90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング: AHS522068)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

人々の健康づくりや体力向上、スポーツの振興、高齢者や障がい児(者)福祉、子育て支援や保育・幼児保育、子どもたちの健全育成や学校教育、ボランティアによる地域づくりなど、幅広い連携体制について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

レクリエーションの意義や歴史・制度について理解を深め、レクリエーション・インストラクターの役割を確認するとともに、現代社会における、ライフステージごとの課題や乳幼児・児童・障がい児(者)レクリエーションの課題について学び、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解する。また、レクリエーション事業の考え方や展開方法について理解し、且つ安全管理等についても理解する。  
レクリエーションについて理解する。  
レクリエーション活動について理解する。  
今までのレクリエーションの歴史について理解する。  
次世代を生かす子どもたちになぜレクリエーション活動支援が必要なのかについて知る。

授業全体の内容と概要

レクリエーションの主旨(目的)は心を元気にすることであり、レクリエーション支援者は、人々が自主的、主体的心を元気にできるようになることを目的に、ゲームや歌、ダンスといったレクリエーション活動を用いて手助けする指導者である。主に、福祉分野や教育分野の施設、学校、地域の事業などの現場で高齢者や子どもなどの対象者として心の元気づくりの支援を行う。  
レクリエーション講義では、以上の目的を達成するために、レクリエーション概論 楽しさと心の元気づくりの理論 レクリエーション支援の理論について学ぶ。  
\*SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的には対面式の授業形態であるが、演習部分ではグループワークの形をとるため、少人数でのグループ形式の授業形態もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

興味関心の強い学生は、教室の前の方で受講してほしい。また、教室後方で受講する学生も、周りに迷惑を及ぼすような言動や行動を慎むことを基本的なルールとする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レクリエーションの基礎知識と理解	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を深めることが理解できた。	レクリエーションの歴史や制度の基礎的知識を理解することができた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識をおおむね理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を多少理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を理解することができなかった。
レクリエーション支援の知識と理解	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を深く理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をおおむね理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を多少理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をほとんど理解できなかった。
レクリエーション支援事業の知識と理解	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について深く理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についておおむね理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について多少理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についてほとんど理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング: AHS522068)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『レクリエーション支援の基礎』	小西 亘	(財)日本レクリエーション協会	2007年	978-931180-81-9	
2	『楽しいをつくるやさしいレクリエーション実践』	川村 晴章	(財)日本レクリエーション協会	2000年	4-931180-61-2	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
2	レクリエーションの意義及び歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
3	レクリエーション運動の歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
4	レクリエーションインストラクターに期待される役割	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
5	レクリエーションの指導法 (ビデオ)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
6	高齢者社会の課題とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
7	障がい者とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
8	レクリエーションの企画・運営	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
9	レクリエーションの活動の安全管理	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
10	レクリエーション事業の考え方及び展開方法	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
11	レクリエーションの事業評価	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
12	レクリエーション支援の方法 アイスブレイキング・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
13	レクリエーション支援の方法 ホスピタリティ・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
14	加盟団体とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
15	レクワーク (レク種目体験) 「授業改善アンケート実施」	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
16	まとめ		ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。(90分) 解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222031)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法を理解し、基本的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要

制作現場でよく活用される制作環境をベースにHTMLやCSS、jQuery等の基礎的な知識・技術について演習を通して習得し、就職活動でも活用できるポートフォリオサイトを制作する。

授業の方法

授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い(必要があれば資料を配布)演習を行う。また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

Adobe CCライセンス必須。  
欠席した場合は次の授業までに制作内容を補充しておくこと。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222031)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 制作ツールのインストール・設定 HTMLの基本	シラバスを読んでおくこと(90分)	制作ツールについて理解しておくこと(90分)
2	HTMLの基本 HTML5の基本構造やタグについて理解する	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTML構造やタグの意味を理解しておくこと(90分)
3	CSSの基本 CSSの基本構造やセレクトについて理解する	HTMLの基本について再確認しておくこと(90分)	CSSの記法や構文について理解しておくこと(90分)
4	マークアップ演習 使用頻度の高いレイアウトパーツのHTML構造、CSS設計について理解する	WEB上で公開されているサイトのレイアウトをいくつか確認しておくこと(90分)	HTML構造やCSSの記法について理解しておくこと(90分)
5	マークアップ演習 使用頻度の高いレイアウトパーツのHTML構造、CSS設計について理解する	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTML構造やCSSの記法について理解しておくこと(90分)
6	jQueryの基本 jQueryの基本構造やセレクトの扱い、制御構文について理解する	マークアップ演習の内容を見直し、HTML・CSS構文を理解しておくこと(90分)	jQueryの制御構文について理解しておくこと(90分)
7	jQuery演習 使用頻度の高いjQuery構造・設計について理解する	jQueryの基本について理解しておくこと(90分)	jQueryの制御構文について理解しておくこと(90分)
8	ページ制作演習 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	HTML・CSSについて再確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
9	ページ制作演習 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
10	ページ制作演習 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
11	ページ制作演習 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
12	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元に枠組みの構築を行う	制作演習の内容を見直し、HTML・CSS構文を理解しておくこと(90分)	主に設計手法やインクルードについて理解しておくこと(90分)
13	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元にページの基本構築を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	主にデバイスフォント・WEBフォントについて理解しておくこと(90分)
14	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元にページの基本構築を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	制作中のポートフォリオサイトを見直し、不備が無いか確認しておくこと(90分)
15	ポートフォリオページ制作 jQueryによる制御構築を行う	jQueryについて再確認しておくこと(90分)	主にjQueryの技術的箇所について理解しておくこと(90分)
16	ポートフォリオページ制作 制作ページに対し、自身のポートフォリオ内容を反映する-提出	自身の制作物(電子データ)と紹介文をまとめておくこと(90分)	制作したポートフォリオサイトを見直し、理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング: 0EN323080)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、ものの見方、考え方を養う。加えて、今後の授業及び将来の社会生活での問題の発見・解決に役立てることができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め、併せてイノベーションとデザインの関係も理解できる。  
デザインの理解を深め、併せてイノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解できる。

授業全体の内容と概要

イノベーションの重要性、必要性について、様々なイノベーションを例に講義する。  
イノベーションを創生するための資質、企業の風土などについて講義をする。  
広義のデザインの考え方を講義し、システムデザイン及びデザイン思考の重要性を理解する。  
具体例として鉄道のデザイン(車両・駅舎システムなど)について講義をする。  
SDGsについては、SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイント(資料は配布)及び黒板への板書を中心に講義を進める。各自はパワーポイントや板書への口述内容をノートに取る。提出されたレポートに対しては、講評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

時間厳守。筆記具(黒板、口述の内容を各自メモ)  
月1回程度の頻度で課題を報告  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。  
レポートや課題作品の提出を課す。出席(率)や受講する姿勢、授業態度等も評点に運動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係を理解すること、社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係から新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの見方、考え方に役立てることができる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング: 0EN323080)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振り子特急の車両などの開発に従事してきたことを授業に関連させ教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	・シラバスの説明 ・授業改善アンケート結果、反映の説明 ・イノベーションとは何か、デザインとは何か?	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
2	・イノベーションとは何か? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
3	・様々なイノベーションの創生プロセス(1回) 破壊的イノベーションほか	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
4	・様々なイノベーションの創生プロセス(2回) シュンペーターのイノベーション?	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。 ・シュンペーターのイノベーションとは何かを調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
5	・様々なイノベーション 中間まとめ 特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
6	・行動変容から考えるイノベーション ・3つのドライバー(技術革新・心理変化・社会構造)	行動変容の意味を調べておくこと。 ・3つのドライバーの意味を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む3つの壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
8	・これからのイノベーション環境(グローバル化・多様性・・・)	これからのイノベーションは何か求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
10	・デザインとデザイン思考(イノベーションとデザイン思考の比較) デザイン思考の具体例	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道の公共性・特異性(公共・安全・サービス)について 公共性とは・・・	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことが調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
13	・駅舎のシステムのデザイン 駅舎の機能3つのパターン 駅舎の変遷と機能(BF,UD)	駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
14	・駅舎のシステムのデザイン 新千歳空港駅(旧国鉄デンマーク)とのコラボ)	可能な限り千歳空港駅をデザインの視点で見えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
15	・駅舎のシステムのデザイン 都市計画と駅舎のデザイン	可能な限り、旭川駅と駅周辺をデザインの視点で見えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
16	・全体のまとめ 将来ある皆さんへ 解説・フィードバック・課題に対する解説とフィードバック 授業改善アンケートの実施	・15回の講義の振り返りをしておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122019, SWS422078, SWS522085/20 ) 23年度以降SWS112019				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

相談援助に対応するための基礎的能力(定義、意義、目的など)を身につける。  
相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。  
「相談援助の展開過程について学ぶ」  
「SDGs「すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。  
レポート課題は、コメントを添え返す。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目  
社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークに関連する理論を理解する。	ソーシャルワークの独自性を加えながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ソーシャルワークのモデルと主なアプローチの理解ができる。	ソーシャルワークの歴史を踏まえながら各々を比較し、説明することができる。	各々を比較しながら説明できる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの援助のプロセスを理解できる。	理念に基づいた援助の展開について事例等を用い説明ができる。	援助の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122019, SWS422078, SWS522085/20 ) 23年度以降SWS112019				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法』	杉本敬夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークに理論が必要な理由	教科書の目次と今回の授業内容に該当する部分を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	人と環境の交互作用に関する理論	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	人と環境の交互作用に関する理論	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークのプロセス: ケース発見、インテーク	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ソーシャルワークのプロセス: アセスメント	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ソーシャルワークのプロセス: アセスメント	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	ソーシャルワークのプロセス: プランニング	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	ソーシャルワークのプロセス: インターベンション、モニタリング	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
9	ソーシャルワークのプロセス: 効果測定、評価、アフターケア	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	小試験	試験該当部分の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
11	中間まとめ	小試験の自己採点をもとに質問事項をまとめる。(90分)	小試験の不正解部分を復習する。(90分)
12	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	全体を通し、理解が不十分な所を整理する。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分解説をする)。 授業改善アンケートの実施	全体の復習をする。(90分)	試験の不正解部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122019, SWS422078, SWS522085/20 ) 23年度以降SWS112019				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)と(2)に対応する科目。

到達目標

相談援助に対応するための基礎的能力(定義、意義、目的など)を身につける。  
相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。  
「相談援助の展開過程について学ぶ」  
「SDGs「すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をすることで答えること。  
レポート課題はコメントを添えて返却する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は、欠席とする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークに関連する理論を理解する。	ソーシャルワークの独自性を加えながら説明できる。	概要について要点を押さえ述べる事ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ソーシャルワークのモデルと主なアプローチの理解ができる。	ソーシャルワークの歴史を踏まえながら各々を比較し、説明することができる。	各々を比較しながら説明ができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの課程が理解できる。	援助の展開について、事例等を用い説明ができる。	援助の流れと、ソーシャルワーカーが担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122019, SWS422078, SWS522085/20 ) 23年度以降SWS112019				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法』	杉本敬夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークに理論が必要な理由	教科書の目次と、次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	人と環境の交互作用に関する理論	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	人と環境の交互作用に関する理論	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークのプロセス: ケース発見、インタビュー	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ソーシャルワークのプロセス: アセスメント	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ソーシャルワークのプロセス: アセスメント	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	ソーシャルワークのプロセス: プランニング	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	ソーシャルワークのプロセス: インターベンション、モニタリング	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
9	ソーシャルワークのプロセス: 効果測定、評価、アフターケア	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	小試験	試験該当部分の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
11	まとめ	小試験の自己採点をもとに質問事項をまとめる。(90分)	小試験の不正解部分を復習する。(90分)
12	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	全体を通し、理解が不十分な所や質問事項を整理する。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、30分解説をする。) 授業改善アンケートの実施	全体の復習をする。(90分)	試験の不正解部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222032)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法をより深く理解し、制作現場に即した実践的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要

制作現場でよく活用されるより効率的な制作環境をベースに、HTMLやCSS、jQuery等の実践的な知識・技術について演習を通して習得する。

授業の方法

授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い(必要があれば資料を配布)演習を行う。また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

Adobe CCライセンス必須。  
欠席した場合は次の授業までに制作内容を補充しておくこと。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。
コンテンツマネジメントの知識・技能	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSを利用した構造を適切に組み立て、動的なWEBサイトを構成することができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSを利用した構造を組み立てることができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSに必要なツールを入手し、設定することができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解できた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222032)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 環境構築(gulp/sass環境)・概要説明 タスクランナー・CSSの拡張メタ言語を理解する	シラバスを読んでおくこと(90分)	制作ツールについて理解しておくこと(90分)
2	gulpの基本 タスクランナーを用いたコンパイル環境について理解する	タスクランナーの役割について理解しておくこと(90分)	コンパイル環境やタスク処理について理解しておくこと(90分)
3	sassの基本 scssの基本構造や記法について理解する	sassの役割について確認しておくこと(90分)	sassの基本構文について理解しておくこと(90分)
4	マークアップ演習 gulp・sassを用いた制作演習を行う	HTML・CSSの基本について再確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・sass設計手法について理解しておくこと(90分)
5	マークアップ演習 gulp・sassを用いた制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・sass設計手法について理解しておくこと(90分)
6	マークアップ演習 gulp・sassを用いた制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・sass設計手法について理解しておくこと(90分)
7	マークアップ演習 gulp・sassを用いた制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・sass設計手法について理解しておくこと(90分)
8	メディアクエリの基本 メディアクエリの役割・基本構文について理解する	マークアップ演習の内容を見直し、HTML・sass構文を理解しておくこと(90分)	メディアクエリの基本構文について理解しておくこと(90分)
9	ページ制作演習 サンプルデザインを元にレスポンシブ構造のコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	ページ設計手法について理解しておくこと(90分)
10	ページ制作演習 サンプルデザインを元にレスポンシブ構造のコンテンツ制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	レイアウトパーツの設計手法について理解しておくこと(90分)
11	ページ制作演習 サンプルデザインを元にレスポンシブ構造のコンテンツ制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	レイアウトパーツの設計手法について理解しておくこと(90分)
12	ページ制作演習 サンプルデザインを元にレスポンシブ構造のコンテンツ制作演習を行う	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと(90分)	レイアウトパーツの設計手法について理解しておくこと(90分)
13	表現演習 動画やSVG、jQueryを利用したアニメーション表現演習を行う	jQueryについて再確認しておくこと(90分)	アニメーション表現に必要な手法について理解しておくこと(90分)
14	提出課題制作 ベース構造の制作とメインビジュアルのデザインを行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	デザインパーツ制作上の注意点を理解しておくこと(90分)
15	提出課題制作 メインビジュアルとコンテンツ内容の制作を行う	制作中の課題ページやデザインを見直し、不備が無いか確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・sass設計手法について理解しておくこと(90分)
16	提出課題制作 メインビジュアルとコンテンツ内容の制作を行う -提出	制作中の課題ページを見直し、不備が無いか確認しておくこと(90分)	制作した課題ページを見直し、理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング: 0EN323081)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、ものの見方、考え方を養う。加えて、今後の授業及び将来の社会生活での問題の発見・解決に役立てることができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め、併せてイノベーションとデザインの関係も理解できる。  
デザインの理解を深め、併せてイノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解できる。

授業全体の内容と概要

イノベーションの重要性、必要性について 様々なイノベーションを例に講義する。  
イノベーションを創生するための資質、企業の風土などについて講義をする。  
広義のデザインの考え方を講義し、システムデザイン及びデザイン思考の重要性を理解する。  
具体例として鉄道のデザイン(車両・駅舎システムなど)について講義をする。  
SDGsについては、SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイント(資料は配布)及び黒板への板書を中心に講義を進める。各自はパワーポイントや板書への口述内容をノートに取る。提出されたレポートに対しては、講評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

時間厳守。筆記具(黒板、口述の内容を各自メモ)  
月1回程度の頻度で課題を報告  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。  
レポートや課題作品の提出を課す。出席(率)や受講する姿勢、授業態度等も評点に運動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係を理解すること、社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの見方、考え方に役立てることができる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング: 0EN323081)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振り子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	・シラバスの説明 ・授業改善アンケート結果、反映の説明 ・イノベーションとは何か、デザインとは何か?	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
2	・イノベーションとは何か? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
3	・様々なイノベーションの創生プロセス(1回) 破壊的イノベーションほか	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
4	・様々なイノベーションの創生プロセス(2回) シュンペーターのイノベーション?	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。 ・シュンペーターのイノベーションとは何かを調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
5	・様々なイノベーション 中間まとめ 特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
6	・行動変容から考えるイノベーション ・3つのドライバー(技術革新・心理変化・社会構造)	行動変容の意味を調べておくこと。 ・3つのドライバーの意味を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む3つの壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
8	・これからのイノベーション環境(グローバル化・多様性・・・)	これからのイノベーションは何か求められるのか?今までの講義を振り返って考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
10	・デザインとデザイン思考(イノベーションとデザイン思考の比較) デザイン思考の具体例	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道の公共性・特異性(公共・安全・サービス)について 公共性とは・・・	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことが調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
13	・駅舎のシステムのデザイン 駅舎の機能3つのパターン 駅舎の変遷と機能(BF,UD)	駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
14	・駅舎のシステムのデザイン 新千歳空港駅(旧国鉄デンマーク)とのコラボ)	可能な限り千歳空港駅をデザインの視点で見えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
15	・駅舎のシステムのデザイン 都市計画と駅舎のデザイン	可能な限り、旭川駅と駅周辺をデザインの視点で見えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
16	・全体のまとめ 将来ある皆さんへ 解説・フィードバック・課題に対する解説とフィードバック 授業改善アンケートの実施	・15回の講義の振り返りをしておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視聴覚教育 (科目ナンバリング: ESS143159, ESS243106, ESS343100, ESS443102, ESS543111)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が実践的な視聴覚機器の利活用及び主体的なプレゼンテーション技法を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

学生が視聴覚コンテンツ作成に必要な知的財産権を理解し情報を共有することができる。また、先進的で且つ実践的な視聴覚メディアを活用及びプレゼンテーション能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

この授業では、学校教育における視聴覚メディアとのかかわり方を修得することを目的とする。

授業の方法

パワーポイントによる講義形式を行う。また、各自、提案する課題に対してインターネット等による調査を行い、視聴覚メディアを利用し各自プレゼンテーションを行う。発表時にコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程科目であるので欠席はしないこと。遅刻2回で欠席1回とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	50%	10%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を超越して自主的な学修が認められる。	授業内容を理解している。	授業内容を概ね理解している。	授業内容を最低限理解している。	授業内容を理解していない。
情報の伝達	資料収集、表現方法に対して、十分効果的で且つ、自主的な学修が認められる。	資料は十分適切で、表現方法も十分に効果的である。	おおむね資料は適切で、表現方法も効果的である。	資料収集や表現方法を改善する必要がある。	情報の伝達全体に大幅に改善する必要がある。
説明する力	他が気が付かない観点で自分の考えを記述することができる。	自分の考えを正確に伝えることができる。	調べた情報を他に理解できる記述ができる。	調べた情報を他へ伝えることができるが、不十分である。	調べた情報を他へ伝えることができない。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視聴覚教育 (科目ナンバリング: ESS143159, ESS243106, ESS343100, ESS443102, ESS543111)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『視聴覚メディア』	近藤邦雄ほか	コロナ社	2017	9784339027952	
2	『ICT活用と理論の実践』	稲垣忠編著ほか	北大路書房	2021	9784762831805	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び視聴覚教育の学びについて授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	授業後の復習をしておくこと(90分)
2	視聴覚メディアと知的財産権(著作物の種類, 権利)	著作物の種類, 権利についての調べておくこと(90分)	著作物の種類, 権利の復習しておくこと(90分)
3	視聴覚メディアと知的財産権(著作権の保護期間, 著作権隣接権)	著作権の保護期間, 著作権隣接権について調べておくこと(90分)	著作権の保護期間, 著作権隣接権の復習しておくこと(90分)
4	視聴覚メディアと知的財産権(著作権の保護, 利用)	著作権の保護, 利用を調べていくこと(90分)	配布したプリントを完成しておくこと(90分)
5	視聴覚メディア機器の提示方法	視聴覚メディア機器について, 調べておくこと(90分)	提示方法を復習しておくこと(90分)
6	美術館における調査と現状の考察1	美術館と博物館の違いを調べておくこと(90分)	考察1をまとめておくこと(90分)
7	美術館における調査と現状の考察2	該当美術館の調査, 考察(90分)	該当美術館の調査, 考察(90分)
8	美術館における調査と現状の考察3	該当美術館の, 調査, 考察(90分)	レポートを完成させること(90分)
9	美術館における調査と現状の考察4	プレゼン用コンテンツを制作すること(90分)	プレゼン用コンテンツを制作すること(90分)
10	美術館における調査と現状のまとめ	プレゼン用コンテンツを制作すること(90分)	プレゼン用コンテンツを完成させること(90分)
11	情報の提示, プレゼンテーション1	レジュメを完成させること(90分)	他の発表者についての自分の考えをまとめること(90分)
12	情報の提示, プレゼンテーション2	発表内容の質問等をまとめておくこと(90分)	発表の反省点をまとめておくこと(90分)
13	画像処理の基本(編集, 加工処理等)	自己の教材のラフスケッチを作成しておくこと(90分)	編集, 加工処理について, まとめておくこと(90分)
14	画像処理の応用(画像を利用した制作)	画像処理に使用する画像を用意すること(90分)	自己の制作物について, 自己評価すること(90分)
15	まとめ(グループワーク)	自己の発表について, 自己評価をまとめておくこと(90分)	グループワークの結果をレポートすること(90分)
16	レポート提出 授業改善アンケートの説明実施	レポートを作成する(90分)	レポート講評の内容を振り返り自己評価する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122020, SWS422079, SWS522086/20 ) 23年度以降SWS112020				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

相談援助に対応するための基礎的能力(定義、意義、目的など)を身につける。  
相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。  
相談援助の展開過程について学ぶ。  
「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目  
、社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。  
提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながら説明ができる。	概要について要点を押さえ、述べる事ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べる事ができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニケーションの意義目的について理解ができる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解ができる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122020, SWS422079, SWS522086/20 ) 23年度以降SWS112020				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法』	杉本敬夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークの理論と方法 のふりかえり	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	ソーシャルワークの面接	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	ソーシャルワークの面接	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ケアマネジメント	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ケアマネジメント	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	中間まとめ	1回から6回の授業内容について質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	1回から14回の授業内容について質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分の試験の後30分解説を行う)。 授業改善アンケートの実施。	全体の復習をする。(90分)	試験で間違えた部分の復習をする。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122020, SWS422079, SWS522086/20 ) 23年度以降SWS112020				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)と(2)に対応する。

到達目標

相談援助に対応するための基礎的能力(定義、意義、目的など)を身につける。  
相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。  
「相談援助の展開過程について学ぶ」  
「SDGs「すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目  
社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。  
提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながら説明ができる。	概要について要点を押さえ、述べる事ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べる事ができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニケーションの意義目的について理解ができる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解ができる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122020, SWS422079, SWS522086/20 ) 23年度以降SWS112020				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法』	杉本敬夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークの理論と方法 のふりかえり	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	ソーシャルワークの面接	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	ソーシャルワークの面接	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ケアマネジメント	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ケアマネジメント	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	中間まとめ	1回から6回の授業内容について質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	1回から14回の授業内容について質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分の試験の後30分解説を行う)。 授業改善アンケートの実施。	全体の復習をする。(90分)	試験で間違えた部分の復習をする。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211002)				
授業担当者(所属・職名)	寺嶋 弘道 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 寺嶋 弘道)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	この科目は、美術館学芸員・館長として実務につく者が、その経験と事例に基づき創造性を探求する基本的な態度を実践的に指導する。		
オフィスアワー	事前にチャットまたはメール連絡により調整し、非常勤講師室等対応。				

概要

履修目標
人間の創造性と感性の所産である美術について、東西の多様な表現に触れながらそこに表された思想、信条、感覚、感情などを考察し、視覚芸術である美術の本質と文化所産の伝播と影響の真相を探究する。また、学修者自身が美の存在を自ら言葉で表現し、またはその内容を他者に伝えることができるようになることをめざす。もって、創造性の発現を促す美的体験の重要性を理解し、創作活動やさまざまな生産・製作活動の分野で社会に貢献できるクリエイティブな人材の育成に資する。

授業の位置づけ

デザイン学科のD P (1) (2) (4) に対応する。

到達目標

- 1 東西の美術の諸相を理解し、様式や表現に関する基礎用語を適切に用いることができる。
- 2 さまざまな美術作品の特質について理解を深め、具体的な事例をあげて美の所在を説明できる。
- 3 芸術文化の創造と伝播、技術や技法の発案と継承について旨目し、視覚芸術をめぐるさまざまな視点から考察することができる。
- 4 文化財の保護や美術研究の場としての美術館の役割を理解し、その機能と活動を説明できる。

授業全体の内容と概要

古今東西の美は、人類の創造力の証として世界各地の文化財や美術作品にその姿を現している。本授業では、地域と時代を俯瞰して人類の美の所産をめぐりつつ、その表現様式や美術潮流の基礎知識を学ぶとともに、特徴的なテーマや造形的な特質について時間と空間を往来しながらその特質をアプローチし、美術文化の創造と受容の過程を理解する。さらにこれらの美術作品が美術館や博物館において文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に大きな役割を果たしていることにも理解を深める。  
SDGs9. 産業と技術革新の基盤をつくろう。の関連項目

授業の方法

- ・各回の授業では作品画像をパワーポイントで提示しながら、講義形式で授業を進める。
- ・授業の内容に応じて、テーマに対するディスカッション、フリートーク、動画の視聴を併用する場合がある。
- ・ほぼ毎回の授業で、履修目標または授業テーマに関連したミニレポート、調査学習を主としたセルワークを課題として提示するので、期限までに作成し提出すること(期限遅れは減点対象)。
- ・ミニレポート、セルワークは必要に応じ、提出後の授業で解説・評価・指導内容を例示する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・教科書は使用しない。授業内で適宜、資料を配布する。参考図書は授業内で紹介する。
- ・各回の授業終了後は配布資料、ノート、参考図書等を読み返し、講義テーマを復習すること。
- ・予習として、次回授業のタイトルをもとにテーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、画集、図書、インターネット等で下調べをしておくこと。
- ・美術文化関係の展覧会や画集、テレビ番組、映画等を普段から積極的に見るほか、観覧が有用な美術館については授業内において紹介するので、実作品を鑑賞し自学自習に取り組むこと。
- ・やむを得ず欠席、遅刻する場合は、事前もしくは事後にチャットまたはメールで担当教員まで連絡すること。その事由によっては、特別課題の提出をもって出席とみなす場合がある。規則によって手続きが必要な欠席については学務課に届出ること。
- ・対面授業の実施を基本とするが、課題の提出や資料の配布は所定のWEBシステムを介して行う。また、感染症や災害など不測の事態が発生した場合にはオンライン授業となる場合もあるので、必要に応じてICT環境を整えておくこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定には、全16回の授業のうち期末の定期試験を除く計15回の三分の二以上の出席が必要(10回以上)。これに満たない者には期末定期試験の受験資格を付与しない。  
 成績評価は、期末の定期試験及びレポート試験20%、ミニレポート及びセルワーク等70%、今週のおすすめアート報告書(受講確認票)10%の比率で点数を配分し、それらの提出状況と記述内容を評定して総合判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
20%	0%	70%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
さまざまな表現様式・思潮・美術用語の理解	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いて論考をまとめることができた。	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相を理解し、基礎的な美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相に関心を持ち、基礎的な美術用語を用いることができた。	美術の諸相への関心や基礎的な美術用語への学びが不十分だった。
美術の本質や文化の伝播・影響に関する多角的探求	芸術や文化に内在する美の本質を論理的に考察し、自らの言葉で多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に内在する美の本質を考察し、自らの言葉で多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に内在する美の有り様を考察し、多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に現れた美の有り様について、説明することができた。	芸術や文化の美の有り様について、十分に考察するには至らなかった。
多様な芸術や文化に対する独自性・創造性の考察	芸術文化の創造、技術の継承について理解を深め、そのオリジナリティをさまざまな視点から分析し考察することができた。	芸術文化の創造、技術の継承について理解し、そのオリジナリティを分析し考察することができた。	芸術文化の継承について理解し、そのオリジナリティを考察することができた。	芸術文化の継承について関心を持ち、そのオリジナリティに気づくことができた。	芸術文化の継承やそのオリジナリティについて十分に考察するには至らなかった。
文化財の保護活用と芸術の社会包摂に関する理解	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を深く理解し、批評文・意見文などで自分の考えを的確に論述することができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、批評文・意見文などで自分の考えをまとめることができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、説明文・感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能に関心を持ち、感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能を理解するには至らなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211002)				
授業担当者(所属・職名)	寺嶋 弘道 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 寺嶋 弘道)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	この科目は、美術館学委員・館長として実務につく者が、その経験と事例に基づき創造性を探求する基本的な態度を実践的に指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、「芸術」の陰謀：美と、美術と、美術館と・迷宮の入り口	シラバスを読んでおくこと(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
2	文化財へのアプローチ 世界遺産探訪-もう一人の平山郁夫とその美術館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
3	文化財へのアプローチ 岡本太郎の縄文発見！@東京国立博物館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(90分)
4	文化財へのアプローチ 世界のロイヤルコレクション-ルヴル・故宮・正倉院	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
5	文化財へのアプローチ 大英博物館にて-憧れの古代ギリシャ・ローマ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	調査学習・表現練習を主としたセルフワークに取り組み提出すること。(90分)
6	視覚芸術の相克 栄光のルネサンス-画家ダ・ヴィンチVS彫刻家ミケランジェロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
7	視覚芸術の相克 運慶・快慶、見参！-ものものの時代を生きる道	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	調査学習・表現練習を主としたセルフワークに取り組み提出すること。(90分)
8	視覚芸術の相克 神々の黄昏-ロダンとカウディをめぐる「新」彫刻史	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	調査学習・表現練習を主としたセルフワークに取り組み提出すること。(90分)
9	視覚芸術の相克 新旧アカデミズム-近代ニッポン・文明開化150年の光と影	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(90分)
10	オリジナリティとは 厚岸・正行寺：「よみがえった襖絵」から探る美の真相	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
11	オリジナリティとは 彫刻倒壊！-複製技術をめぐる象(かた)・型・形	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
12	オリジナリティとは 深斎英泉と浮世絵の図像学-江戸庶民の美意識	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	調査学習・表現練習を主としたセルフワークに取り組み提出すること。(90分)
13	オリジナリティとは 合掌・クローン仏像に手を合わせるココロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
14	文化の伝播と創造 パフォーマンスアート：茶の湯-もてなしの心とつながり	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	調査学習・表現練習を主としたセルフワークに取り組み提出すること。(90分)
15	文化の伝播と創造 ホワイトモーターのジレンマ-ポップカルチャー時代の美術館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	配布された文献を参照してミニレポートを作成し提出すること。(90分)
16	文化の伝播と創造 中心と周縁-森村泰昌『まねが美術史』から 期末試験の実施、レポート試験の課題提示、授業改善アンケートの実施	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。(90分)	期末レポート試験の作成を行い提出すること。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: AEA223059)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照してください。				

概要

履修目標

洋画と同様に、油彩とエッグテンペラとによる混合技法について学ぶ。中身は洋画とほとんど変わりはないが、繰り返すことにより、洋画で修得した知識や技術をより深化させることを目標としている。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

油彩やエッグテンペラの技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などをより深く理解し、それぞれの特徴を活かした絵画制作を行えるようにすることや自分に相応しい表現方法を探究する態度を確立させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

油彩のみならず、エッグテンペラに関する様々な技法や材料について、支持体の種類とそれぞれの作り方と特徴、顔料の種類と性質、展色剤の種類と特徴、様々な用具の使用法や管理の仕方などについてさらに学修し表現の幅を一層広げるための科目である。かつ公募展での第三者による評価を受けるために大作制作に挑む。

授業の方法

油彩とエッグテンペラとによる「混合技法」で自己表現する実技形式の授業である。履修者各自が主体的に設定したテーマに則り、それを有効に表現した作品を創り上げることを課題とする。実習のみならず視聴覚機能を十分に活用し参考資料等の紹介や説明を行い、普段の授業や合評会においては、適切なコメントによりフィードバックさせ、自己実現に寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、芸術文化の素晴らしさを追求するばかりか、自らの表現が他者の目にどのように映るかを意識しながら、より良い社会の構築に貢献しようとする態度等も身につける意欲を持ち合わせた人を対象とした授業であることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術が十分に深化し、制作に十分奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術が深化し、制作に奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術が備わり、制作にやや奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術がある程度備わり、制作にある程度奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術に足りない点が多く、制作に活かせなかった。
彩色材料について	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が十分に深化し、表現の幅も十分に広がった。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が深化し、表現の幅も広がった。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が備わり、表現の幅の広がりも感じられた。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識がほぼ備わり、表現の幅にもある程度広がりが感じられた。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が不十分で表現力も乏しかった。
描写について	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについて十分に深化し、表現の幅も十分に広がった。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについて深化し、表現の幅も広がった。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについての深化が感じられ、表現の幅の広がりも感じられた。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについてある程度深化が感じられた。表現の幅もある程度広がった。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについて不十分であり、表現の幅の広がりも感じられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: AEA223059)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
		50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスについて、公募展について 授業改善アンケート結果反映の説明	予めシラバスに目をおし、出品予定の公募展について、下調べをしておく。(45分)	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画を立てる。(45分)
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について下調べをしておく。(45分)	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモチーフについての構想を練る。(45分)
3	支持体製作(支持体をどの様にどれだけ大きさにするかは任意選択) 木材の性質と裁断について	木材の性質や変化の仕方について予習する。(45分)	木材の性質や変化を予測した支持体製作を行うための方法を復習する。(45分)
4	支持体製作 材料の組み立てと接着剤について	様々な接着剤の特徴や取り扱い方について予習する。(45分)	様々な接着剤の特徴や取り扱い方について復習する。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方について	様々な地塗り材の特徴や取り扱い方について予習する。(45分)	様々な地塗り材の特徴や取り扱い方について復習する。(45分)
6	支持体製作 地塗り作業について 地塗り面の研磨と仕上げについて	それぞれの地塗り材の特徴を踏まえた地塗りの仕方について予習する。(45分)	自らの作品の構想に照らし、最も相応しい地塗りの仕方について検討する。(45分)
7	下絵の支持体への転写 様々な方法について	様々な転写方法について予習する。(45分)	自らの作品の構想に照らし、最も相応しい転写の仕方について検討する。(45分)
8	下絵の支持体への転写 転写作業について	自らの作品の構想に照らし、最も相応しい転写方法を決め、その仕方について予習する。(45分)	転写の具合について点検を行い、不十分な場合加筆修正を行う。(45分)
9	エッグテンペラでの下書き エッグテンペラ用展色剤の様々な処方について	エッグテンペラ用展色剤の様々な処方について予習する。(45分)	自らの作品の構想に照らし、最も相応しいエッグテンペラ用展色剤について検討する。(45分)
10	エッグテンペラでの下書き エッグテンペラ絵具の扱いと描法について	自らの制作に相応しいエッグテンペラ用展色剤の処方について予習する。(45分)	本時の制作を省み、課題とすべき点を検討する。(45分)
11	エッグテンペラでの下書き エッグテンペラ絵具の扱いと描法について	エッグテンペラ絵具と油彩絵具との差異について予習する。(45分)	エッグテンペラ絵具の効果的な描法について、古今の作品を参照して検討する。(45分)
12	エッグテンペラでの下書き エッグテンペラ絵具の扱いと描法について	エッグテンペラ絵具の特徴を踏まえた描法について予習する。(45分)	本日の制作を省み、必要に応じて加筆修正を行う。(45分)
13	混合技法による本制作 A 油彩絵具の特徴について	他の絵具にはない油彩絵具の特徴について予習する。(45分)	他の絵具にはない油彩絵具の特徴を踏まえた描法について検討する。(45分)
14	混合技法による本制作 B エッグテンペラでの下層を活かす油彩描法について	油彩絵具の透明性とエッグテンペラ絵具の速乾性について予習する。(45分)	油彩絵具の透明性とエッグテンペラ絵具の速乾性を活かした描法について、古今の作品を参照して検討する。(45分)
15	混合技法による本制作 C 質感の表現方法について	質感の表現方法について予習する。(45分)	古今の作品を参照し、様々な質感の表現法について検討する。(45分)
16	混合技法による本制作 D 質感の表現方法について	エッグテンペラと油彩の特徴を活かした質感表現について予習する。(45分)	本日の制作を省み、必要に応じて加筆修正を行う。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	混合技法による本制作 E 陰影の表現方法について	様々な陰影の表現方法について予習する。(45分)	陰影の表現方法について、古今の作品を参照して検討する。(45分)
18	混合技法による本制作 F 陰影の表現方法について	エッグテンペラと油彩の特徴を活かした陰影表現について予習する。(45分)	本日の制作について省みて、必要に応じて加筆修正を行う。(45分)
19	混合技法による本制作 G 色彩調和について	様々な色彩調和について予習する。(45分)	自らの構想に相応しい色彩調和について検討する。(45分)
20	混合技法による本制作 H 色彩調和について	自らの制作に相応しい色彩調和の仕方について予習する。(45分)	表現の意図が十分に表れた配色が行われているかについて検討する。(45分)
21	混合技法による本制作 I 絵具の明度について	絵具の明度について予習する。(45分)	絵具の明度の表し方や、明度の差が及ぼす効果について復習する。(45分)
22	混合技法による本制作 J 絵具の明度について	白や黒の絵具を混ぜ合わせる仕方以外の明度の調整方法について予習する。(45分)	白や黒の絵具を混ぜ合わせる仕方以外の明度の調整方法を採用した古今の作品を参照して検討する。(45分)
23	混合技法による本制作 K 絵具の彩度について	他の絵具を混ぜ合わせることによる彩度の変化について予習する。(45分)	彩度の値や変化が作品に及ぼす効果について検討する。(45分)
24	混合技法による本制作 L 絵具の彩度について	エッグテンペラと油彩の特徴を活かした彩度の調整方法について予習する。(45分)	彩度の値の変化が作品に及ぼす効果について制作をとおして確認する。(45分)
25	混合技法による本制作 L 絵具の色相について	それぞれの色彩系での微妙な色相の差異について予習する。(45分)	自らの構想を実現させるために必要な絵具を欠いている場合には調達する。(45分)
26	混合技法による本制作 L 絵具の色相について	環境による色相の変化について予習する。(45分)	色相を強調したり抑制したりする方法について復習する。(45分)
27	混合技法による本制作 M エッグテンペラ絵具での上書きについて	油彩絵具の層にエッグテンペラ絵具を乗せる方法について予習する。(45分)	古今の作品を参照し、エッグテンペラ絵具での上書きについて復習する。(45分)
28	混合技法による本制作 N エッグテンペラ絵具での上書きについて	油彩絵具の層にエッグテンペラ絵具を乗せるタイミングについて予習する。(45分)	本時の制作を省み、課題があれば、それを明らかにする。(45分)
29	混合技法による本制作 O エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について	エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について予習する。(45分)	古今の作品を参照し、エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について確認する。(45分)
30	混合技法による本制作 P エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について	作品の仕上げを前に、冷静に客観的に広い視野で自らの作品を点検する。(45分)	仕上げた作品について果たせたことや果たしきれなかったことについて検討する。(45分)
31	合評 A	自らの作品について自己評価を行う。(45分)	他者の意見や助言を参照し自らの作品についての評価を再検討する。(45分)
32	合評 B 授業改善アンケートの実施	感性や価値観の相違、多様性などを踏まえた社会生活のあり方についての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参照しこれからの制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 (M) (科目ナンバリング: POL122120)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近現代日本政治外交の歴史的展開に関する基本的な知識を身に付け、説明することができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。  
基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。  
現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。

授業全体の内容と概要

本授業では、近現代日本政治外交の歴史的展開について解説する。とくに、戦争や植民地支配に関する事実と背景を、東アジア諸国との相互関係に配慮しながら解説していく。近代日本の政治と東アジア諸国との関係を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた歴史を学ぶ。  
\*SDG10.人や国の不平等をなくそう、\*SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確かつ発展的に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を部分的に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができなかった。
正確な基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。	基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確かつ発展的に説明することができた。	基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確に説明することができた。	日本政治外交史の展開を説明することができた。	日本政治外交史の展開を部分的に説明することができた。	日本政治外交史の展開を説明することができなかった。
現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、自分なりの解釈を認得力をもって説明することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、自分なりの解釈を説明することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、説明することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、説明することが部分的にできた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 (M) (科目ナンバリング: POL122120)				
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
2	日本の近代化	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
3	近代日本と東アジア国際秩序	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
4	日清戦争と日露戦争	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
5	韓国併合	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
6	日本の植民地支配	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
7	対中21カ条要求をめぐる日本と中国	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
8	近代日本の政党政治	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
9	ワシントン体制と日本	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
10	中間テスト	中間テスト範囲のプリントの熟読 (90分)	中間テストの復習 (90分)
11	満洲事変	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
12	日中戦争	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
13	アジア太平洋戦争	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
14	戦時下の人々	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分+解説30分)	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 (S) (科目ナンバリング: POL122120)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近現代日本政治外交の歴史的展開に関する基本的な知識を身に付け、説明することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標

近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。  
 正確な基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。  
 現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。

授業全体の内容と概要

本授業では、近現代日本政治外交の歴史的展開について解説する。とくに、戦争や植民地支配に関する事実と背景を、東アジア諸国との相互関係に配慮しながら解説していく。近代日本の政治と東アジア諸国との関係を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた歴史を学ぶ。  
 \*SDGs10.人や国の不平等をなくそう」、「SDGs16.平和と公正をすべての人に」の関連授業。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確かつ発展的に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を部分的に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができなかった。
正確な基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。	基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確かつ発展的に説明することができた。	基礎事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確に説明することができた。	日本政治外交史の展開を説明することができた。	日本政治外交史の展開を部分的に説明することができた。	日本政治外交史の展開を説明することができなかった。
現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、自分なりの解釈を認得力をもって説明することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、自分なりの解釈を説明することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、説明することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、説明することが部分的にできた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察し、説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史(S) (科目ナンバリング: POL122120)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
2	日本の近代化	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
3	近代日本と東アジア国際秩序	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
4	日清戦争と日露戦争	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
5	韓国併合	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
6	日本の植民地支配	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
7	対中21カ条要求をめぐる日本と中国	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
8	近代日本の政党政治	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
9	ワシントン体制と日本	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
10	中間テスト	中間テスト範囲のプリントの熟読(90分)	中間テストの復習(90分)
11	満洲事変	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
12	日中戦争	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
13	アジア太平洋戦争	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
14	戦時下の人々	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
16	定期試験(試験60分+解説30分)	試験の準備(90分)	試験のふり返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222023)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

デザインの基本工程を理解し、各メディアのコンテンツを制作する際に必要とされる知識や技術を身に付ける。そして、一つのプロジェクトを俯瞰し、全体の指揮をシミュレーションすることができる。

授業全体の内容と概要

日常生活や社会生活において必要とされる様々な情報の中から一つを選び、それを公開するための全体計画を立案する。その後、自らが志向とするグラフィックデザイン系メディアコンテンツの制作を行う。  
「SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

グラフィックデザインで制作した課題作品を例にとり、情報メディアをデザインすることの意義を再確認するための指導を行う。その後、情報を公開するための全体計画を「効果的な視覚メディアを用いてプレゼンテーション」するための制作をデジタル環境で行う。後半においては自ら強く志向するメディアを選択し、そこに投下するためのコンテンツを制作する。メディアの取材や情報の選定は、フィールドワークによる現地取材、他媒体に公開される内容の調査・整理を行うことを前提とする。制作に必要なアプリケーション等の指導は個別に行う。質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。グラフィックデザインと同様にAdobe IllustratorとPhotoshopによる課題制作を行うので、履修者は基本操作を身に付けていなければならない。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	70%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「グラフィックデザインを情報メディアとして投入、適切な情報形態を整えることができる」	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ、その特性を理解した上で効果的な情報を投下可能な能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ情報投下ができる能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分である。	グラフィックデザインに対する知識と技術が不十分であり、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインの知識と技術が身につけなかった。
思考力・判断力・表現力 「グラフィックデザインのメディアにおいて、質の高い視覚情報の構築ができる」	適切なメディアの選択や完成度の高い表現を行う技能を身につけ、質の高い実践ができるレベルに到達した。	適切なメディアの選択や表現を行うための技能を身につけ、実践が可能なレベルに到達した。	メディアの選択や表現を行う技能は身につけているが、それを適切に応用することができていない。	適切なメディアの選択や表現を行う技能が不完全なため、メディアの選択や表現が不十分である。	メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性 「社会性・公共性に配慮しつつ、適切な情報形態を以ってのプレゼンテーションが行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、完成度の高いメディアの特性を理解した適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222023)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明「情報とは何か？」	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく(45分)	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく(45分)
2	「視覚化するべき情報の選択」	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく(45分)	「情報の選択」を終えておく(45分)
3	「企画立案」情報の分析とメディア計画	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと(45分)	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと(45分)
4	「企画立案」コンセプトシートの作成	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成(45分)	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成(45分)
5	「企画立案」企画書の作成	企画書に必要な素材の収集を行っておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
6	「企画立案」企画書の作成	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
7	「企画立案」企画書の作成	企画書完成に必要な準備を終えておく(45分)	企画書完成に必要な準備を終えておく(45分)
8	「企画立案」企画書の完成	企画書完成に必要な準備を終えておく(45分)	次週授業開始時まで完成提出できるよう進捗の調整を行う(45分)
9	制作工程の確認と制作にあたっての留意点について	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく(45分)	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく(45分)
10	視覚化が可能なメディアの選択とビジュアル計画	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく(45分)	ラフ案(3案)を計画しておく(45分)
11	「コピーとビジュアルの作成」ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(45分)	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(45分)
12	「コピーとビジュアルの作成」再ラフ案	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
13	「コピーとビジュアルの作成」再々ラフ案	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)
14	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)
15	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)
16	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成-提出	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	「コピーとビジュアルの作成」プレゼンテーションと講評	プレゼンテーションの準備(45分)	他者の作例を研究する(45分)
18	「コピーとビジュアルの作成」プレゼンテーションと講評-今後の展開	他者の作例を研究する(45分)	他者の作例を研究する(45分)
19	メディア化にあたっての留意点について	制作すべきメディアを決めておく(45分)	制作すべきメディアを決めておく(45分)
20	コピーとビジュアルの用法の試案	デザイン計画(45分)	デザイン計画(45分)
21	「メディアコンテンツの制作」ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(45分)	ラフ案の制作(45分)
22	「メディアコンテンツの制作」修正作業	ラフ案の制作(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
23	「メディアコンテンツの制作」再ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)
24	「メディアコンテンツの制作」修正作業	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
25	「メディアコンテンツの制作」再々ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)
26	「メディアコンテンツの制作」制作	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
27	「メディアコンテンツの制作」制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
28	「メディアコンテンツの制作」制作	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
29	「メディアコンテンツの制作」制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)
30	「メディアコンテンツの制作」完成	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)	次週授業開始時まで完成提出できるよう進捗の調整を行う(45分)
31	メディアコンテンツの発表	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく(45分)	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく(45分)
32	講評授業改善アンケートの実施	グラフィックデザインについて正しい認識を持たせる(45分)	グラフィックデザインについて正しい認識を持たせる(45分)

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習 (科目ナンバリング: EDU144168, EDU244116, EDU344110, E DU444112, EDU544121)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志(社会福祉学科・特任教)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- (1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
  - (2) 社会性や対人関係能力に関する事項
  - (3) 生徒理解や学級経営等に関する事項
  - (4) 教科等の指導力に関する事項
- 以上の項目で、個々の不足している知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。  
経営学科のDP(4)に対応する。  
デザイン学科のDP(4)に対応する。  
建築学科のDP(4)に対応する。

到達目標

教員に求められる必要不可欠な資質能力、更に本学が掲げる教員養成理念に基づく必要な資質を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

大学4年間のそれぞれの学習内容、理解度を把握するための教職課程履修カルテ等に基づく担当教員の指導により、個々の能力・技能等の課題を理解し、その不足している知識や技能等を補うため自己目標を設定し、課題解決に向け取り組みを行う。授業の内容は、教職課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を養うため、教職経験者を含めた複数教員の協力方式による効果的な授業(ロールプレイング・フィールドワーク・ワークショップ等)を展開する。『SDG4:質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。教職に関する科目の担当複数教員を中心に実践的な授業(ロールプレイング・フィールドワーク・ワークショップ等)を展開する。また、内容によって、教科に関する科目の担当教員や教職の現場経験者、更に地元教育委員会等の連携により授業を運営する。また、学生は進んで学校ボランティア・学校サポーター等に参加して教育経験をj得る。なお、課題として提出するレポート等については、評価とコメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業の参加態度、発表内容、レポート等を総合的に評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	25%	25%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目をb超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的なまとめ、進んで発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的なまとめ、進んで発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見をやや論理的なまとめ発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的なまとめ発表することができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに進んで参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義をやや理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習 (科目ナンバリング: EDU144168, EDU244116, EDU344110, E DU444112, EDU544121)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志(社会福祉学科・特任教)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
2	『高等学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明、資料の配布、各授業の到達目標の提示、学生個々の課題提示、学生の自己目標設定)、前年度の授業改善アンケート結果反	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	使命感や責任感、教育の愛情等に関する事項 1. 教職現場経験者(中学校、高等学校、特別支援学校)による「理想の教師像」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
3	2. 講義を参考にしたグループ討議「理想の教師像・私の教師像について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
4	社会性や対人関係能力に関する事項 1. 「教育現場でのいじめや不登校、特別支援教育等の現状と課題について」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
5	2. 講義を参考にしたグループ討議「課題解決に向けての教師としてのアプローチについて」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
6	3. 場面に応じた教師としての話し方(挨拶・言葉遣い等)及び日常的に発生する学級内の問題解決について	ロールプレイングについて学習しておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
7	4. 「地元学校における現地調査」<フィールドワーク>	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	フィールドワークの内容をまとめておくこと。(90分)
8	5. 「福祉施設等における現地調査」<フィールドワーク>	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	フィールドワークの内容をまとめておくこと。(90分)
9	生徒理解や学級経営等に関する事項 1. 講演「生徒が所属感、効力感を感じる学級経営について」(教育委員会指導主事又は地元学校)	学級経営について、学習しておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
10	2. 講演を参考にした意見発表と集団討議「私の学級経営方針について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
11	1. 教科等の指導力に関する事項 1. 教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
12	2. 教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
13	学生個々の課題解決の実施 1. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。(90分)	今回の体験をまとめておくこと。(90分)
14	2. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。(90分)	今回の体験をまとめておくこと。(90分)
15	3. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。(90分)	今回の体験をまとめておくこと。(90分)
16	まとめ(レポート課題等)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324069)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築法規」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。  
「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選ばれては通れないものなので、覚悟を以て取り組んで欲しい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	100%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項の理解	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項の理解	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項の理解	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324069)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	向井 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。用語・面積・高さ 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーションで配布した資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	採光・換気	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	階段・傾斜路	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	構造強度、構造計算	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	法22条区域内・特殊建築物	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	木造3階建共同住宅等	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	防火地域・準防火地域内	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	防火区画・内装制限・用途地域	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	容積率・建ぺい率・高さの制限	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	道路・壁面線	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	雑則・その他、基準法融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	バリアフリー法・耐震改修法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築士法・都市計画法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	品確法・長期優良住宅法 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222027)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (3) (5) に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決のためのアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようすること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うして捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザイン提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222027)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 造形面の確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 人に優しいか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 コンセプトは大丈夫か	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正 ディテールアップ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング 全体の構図チェック	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング サブモックを作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング モックの作成方法を検討	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング モックの確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング サブモックを作成仕上げ向かう	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング サブモックを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最終チェック	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324071)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築施工」にターゲットを絞り、その傾向と対策演習を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選ばれては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324071)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。施工計画・ネットワーク工程表 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	安全衛生管理・材料管理・工事管理業務	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	渉外諸手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	土工事・基礎地業工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	鉄骨工事・コンクリートブロック工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	木工事・防水・屋根工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	左官工事・タイル・張石工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	塗装工事・建具・ガラス工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	内装・断熱工事・設備工事・ユニット工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	用語・機械-工法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築積算・測量	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	工事契約・請負契約・契約図書 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	<b>絵画</b> (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

絵画を完成させることで、手順を理解し自ら作品を制作できる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

アカデミックな技法により、基礎的な絵画技術の向上と基本的な混色の理解をする。

授業全体の内容と概要

人物(顔)を中心にオーソドックスな手法を使い絵画で表現することで基本的なものの見方や技術をマスターする。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

絵画用具等の材料は各自が用意する。  
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
解剖学的な顔の表現が出来るかを基準とする	固有色にとられない表現が出来てた。	自然な形態感が出来ていた。	自然なバランスで表現出来ていた。	大きな調子の流れが出来ていた。	一部のみが強調されバランスを崩していた。
3原色に夜混色が正しく理解できている	彩度のコントロールが出来た。	色相のコントロールが出来た。	明度のコントロールが出来た。	大きな調子の流れが出来た。	一部の調子が破綻していても理解出来なかった。
自分が目標とした画風を最後まで表現出来るかを基準とする	作風の狙い等が的確に表現されていた。	雰囲気のある表現が出来た。	個性的な表現を追及出来た。	無理のない画風を選択表現出来た。	思いっただけの画風で表現しようとした。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する			

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション=シラバスの説明 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
2	オリエンテーション 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
3	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
4	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
5	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
6	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
7	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
8	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
9	(自画像創作)を描く(F12号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
10	(自画像創作)を描く(F12号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
11	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
12	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
13	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
14	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
15	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
16	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
18	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
19	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
20	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
21	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
22	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
23	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
24	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
25	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
26	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
27	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
28	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
29	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
30	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
31	細部を描き込み作品を完成させる。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
32	採点及び講評会を行う(解説・フィードバック)授業改善アンケート実施	提出課題の完成へ向けて準備をしておくこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES223029)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (3) (5) に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決のためのアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようすること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うして捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES223029)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは? デザインとは? デザインテーマ表	プロダクトデザインとは? 調べておく、シラバスを読む。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 アイデアは反映されているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正 レイアウト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング モック作成、効果的な方法考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング モック作成、何を表現するか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング モック作成、材料を検討	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング モック作成、考えていたのと造形は合っているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング モック作成、完成に近づける	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング モック作成完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 表現として効果的か	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を (科目ナンバリング:SPS522062/2023年度以降SPS422117))				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授) 天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階(米野) 2号館7階(天野)		
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約7年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
身体運動におけるメカニズムについての理論的学習に加え、スポーツ活動の実践を通して、グループワークなどにより、主体的に指導方法を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
学校の体育やスポーツ指導現場で必要な運動の見方や考え方を学び、その質的評価ができる。

授業全体の内容と概要
前半は、人体の解剖学的な学びに加え、力・重心・モーメントなどの運動力学的な基礎知識を学ぶ。後半は、具体的な運動をテーマに実践やグループワークを通して方法学を学ぶ。

授業の方法
基本的には教室において、板書またはパワーポイントで理論的学習を行うが、授業の後半は、運動場において、実践的な活動の中で運動方法を学ぶ。さらに、理解を深めるためにグループワークやビデオ視聴もする。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	30%	30%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	30%	30%	10%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動における解剖学的、生理学的な基礎知識の理解	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が専門的なレベルで得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が比較的よく得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識はおおよそ得られた。	人体の筋、骨格の基礎的知識や基礎的な生理的機能が理解できた。	人体の筋、骨格の基礎的知識がほとんど無い。生理学的基礎知識もほとんど得られなかった。
スポーツバイオメカニクスに関する知識と理解	身体運動の力学的な知識はとて豊かで運動の分析も多種できた。	身体運動の力学的な知識は比較的豊かで分析もおおよそできた。	身体運動の力学的な基礎的知識が備わり応用もできた。	身体運動の力学的な基礎的知識はあるが応用までには至らなかった。	身体運動の力学的な知識がほとんど理解できなかった。
バイオメカニクスの原則に則った運動の実践と指導法の理解	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解もとても深い。	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解も比較的できた。	理論に則った考えでの運動はおおよそ実践でき、指導のポイントも理解できた。	理論に則った考えでの運動はあまりできないが、指導のポイントは理解できた。	理論に則った考えでの運動が実践や指導のポイントも理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を (科目ナンバリング:SPS522062/2023年度以降SPS422117))				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授) 天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階(米野) 2号館7階(天野)		
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約7年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スポーツバイオメカニクス』	金子公寿	杏林書院	2017	978-4-7644-1079-4c3047	
2	『スポーツバイオメカニクス20講』	阿江通良	朝倉書院	2017	978-4-254-68040c3075	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)(授業改善アンケート結果反映の説明) 運動学とは	事前にシラバスを読んで確認する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
2	人体の構造(骨格・骨格筋) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
3	バイオメカニクスの基礎(エンジンとしての筋) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
4	バイオメカニクスの基礎(エネルギー供給) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
5	バイオメカニクスの基礎(運動の指令と調節) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
6	バイオメカニクスの基礎(運動の力学と法則) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
7	バイオメカニクスの実際(立つ) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
8	バイオメカニクスの実際(歩く) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
9	バイオメカニクスの実際(走る) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
10	バイオメカニクスの実際(跳ぶ) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
11	バイオメカニクスの実際(跳ぶ) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
12	バイオメカニクスの実際(投げる) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
13	バイオメカニクスの実際(打つ) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
14	バイオメカニクスの実際(蹴る) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
15	バイオメカニクスの実際(その他の運動) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施回) (担当:米野)	ノートに記載されたすべての内容を再度復習する(90分)	課題の内容を確認し、準備する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーチング方法論 (科目ナンバリング: SOP523083)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 博(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	体育棟1階スポーツ課		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 博)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて野手担当コーチを務める。その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。		
オフィスアワー	体育棟前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

指導対象者(選手及びチーム)がその目標を達成する為に、スポーツ指導者(コーチ)としてどのようにアプローチすべきかの基本的な考え方や具体的な方法について学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

スポーツ指導者として必要な基本理念を理解する  
 目標設定についての具体的な方法について理解する  
 ティーチングとコーチングの違いを理解し、それぞれの基本となる概念を理解する  
 具体的手法を用いて、目標達成に向けて適切な指導が実施出来る

授業全体の内容と概要

講義により基本的な考え方を学び、実習でティーチング及びコーチングを実践する  
 「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。  
 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイントを使用し、講義形式で実施する。  
 レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。  
 実習は講義内で学生に発表を行わせる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自身が取り組んでいる(取り組んでいた)競技の経験と照らし合わせての学習が効果的と考える。  
 もしくは身近な何らかの課題において、目標達成に向けてどうアプローチするかを参考にして学習する。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	40%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学習した知識・技能を確実に修得した	学習した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学習した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学習に真面目に取学習まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーチング方法論 (科目ナンバリング: SOP523083)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 博(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	体育棟1階スポーツ課		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 博)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて選手担当コーチを務める。その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ダブル・ゴール・コーチ』 <sup>a</sup>	Jim・Tompson	東洋館出版社	2021	9784491035901	
2	『ポジティブ・コーチング』 <sup>a</sup>	Raymond M.Nakamura	サイエンティスト社	2001	9784914903855	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 スポーツ指導者としての心構え 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく(90分)	学習内容の復習(90分)
2	コーチとは何か	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
3	ティーチングとコーチング	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
4	目標設定	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
5	ティーチング 概念	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
6	ティーチング 具体的手法	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
7	ティーチング 事例	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
8	ティーチング 実習	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
9	コーチング 概念	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
10	コーチング 具体的手法	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
11	コーチング 具体的手法	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
12	コーチング 具体的手法	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
13	コーチング 事例	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
14	コーチング 実習	学習のテーマについて事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
15	補足・まとめ	今までの学習について事前に調べる(90分)	学習内容の復習(90分)
16	期末試験(60分)解説(30分) 授業改善アンケートの実施	期末試験準備(90分)	期末試験内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 (科目ナンバリング: HSS522080/2023年度以降HSS422132)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高校・大学・専門学校等での教員経験を生かし、嘉納治五郎先生の精神を学習・理解を深めさせ、安全かつ技の技術を正確に指導できるように行っていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ポ・ド等を参照				

概要

履修目標

柔道の技術(礼法、基本動作、対人技能の投げ技・固め技等)を自ら身につけ、安全に配慮しながら指導できるよう、指導法を実践し学ぶ。練習方法と審判法、試合運営法を習得し、安全かつ健康を保持増進し、加納治五郎先生の精神である「人格の完成をはかり、社会に貢献できるよう」学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。基本動作、対人技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。また、安全指導のあり方を学習する。

授業全体の内容と概要

基本動作、基本的な技術を実践し習得する。安全指導への注意点を学び実践する。スムースな試合運営ができるよう習得する。

授業の方法

授業は実技のため、各人の技量が必要となってくる。基本的な動作(礼法・受身・技)を習得し、安全に注意を払いながら指導できるようにしていく。また、審判法やルールを理解し、円滑に試合運営ができるようにする。欠席・見学は無いよう体調管理に気を付け技の習得につとめる事。習得状況の確認試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

柔道衣を着用する。武道の精神である、礼節を大切に励行する。ルールで決められている、危険な物は身につけない(時計・指輪・ピアス・ミサンガ等)。体調の悪い時は、事前に申し出ること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目 再履修者専用

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
柔道に対する関心・意欲・態度・判断	日本古来の武道である柔道の精神を理解し、自ら意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	指示された事を普通に言い、安全に注意を払っていた。	指示されたことが理解できず、意欲もなく安全に注意を配っていなかった。	指示どおりにおこなわず、意欲も全くなく、安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	礼法・受身・技の理合いを理解し、各項目において特に優れている技能を有する事ができた。	各項目において技能が7割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が5割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が3割程度しか習得できていなかった。	各項目において技能が習得できていない、やる気がなかった。
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	審判規定を完全にマスターし、審判やゲームの運営をスムーズに実施することができた。	審判規定をマスターし、審判やゲームの運営を助言を受けながら実施することができた。	審判規定を最低限マスターし、審判やゲームの運営を行うことができた。	審判規定を理解することができず、部分的にしか審判やゲームの運営をすることができなかった。	審判規定を習得できず、審判やゲームの運営を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 (科目ナンバリング: HSS522080/2023年度以降HSS422132)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高校・大学・専門学校等での教員経験を生かし、嘉納治五郎先生の精神を学習・理解を深めさせ、安全かつ技の技術を正確に指導できるように行っていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業の進め方、柔道の教育的意義、武道の歴史)シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 担当: 中川・三嶋	事前にシラバスを読み確認をおこなう(45分)	ガイダンスの内容を理解する(45分)
2	柔道衣の着方、礼法、指導のあり方と基本動作と受身(後ろ受身、横受身、横転受身) 担当: 中川・三嶋	事前に柔道衣の着方、礼法、受身を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(45分)
3	基本動作、受身の復習(前回り受身)、安全な投げ方、袈裟固め 担当: 中川・三嶋	事前に基本動作の知識や投げ方の学習をする(45分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(45分)
4	投げ技(膝車、支え釣り込み足)、固め技(横四方固め) 担当: 中川・三嶋	事前に膝車、支え釣り込み足、横四方固めの学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
5	投げ技(体落とし、大腰)、固め技(上四方固め)、固め技のゲ・ム 担当: 中川・三嶋	事前に体落とし、大腰、上四方固めの学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
6	投げ技(小内刈、大内刈、大外刈)、固め技(縦四方固め)、固め技のゲ・ム 担当: 中川・三嶋	事前に小内刈、大内刈、大外刈、縦四方固めの学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
7	投げ技、固め技の復習、約束練習、固め技の簡易試合 担当: 中川・三嶋	事前に今まで習得した技の復習を行っておく(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
8	投げ技(背負投、一本背負)、約束練習、かかり練習、固め技の簡易試合 担当: 中川・三嶋	事前に背負投、一本背負投の投げ方を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
9	かかり練習、約束練習、自由練習の練習法 担当: 中川・三嶋	事前に練習方法の学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、さまざまな練習法を習得する(45分)
10	投げ技(払腰、内股)、固め技(絞め技と間接技の原理と安全指導)	事前に払腰、内股、絞め技、関節技の学習をする(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
11	投げ技11・固め技6つの復習、約束練習 担当: 中川・三嶋	事前に、今までに学習した技を復習しておく(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
12	試合の方法、審判法、かかり練習、自由練習 担当: 中川・三嶋	事前に試合の方法、審判法を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、審判法の習得に努める(45分)
13	試合の運営法、技の判定基準、約束練習、かかり練習、自由練習 担当: 中川・三嶋	事前に審判法の復習及び試合の運営方法を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、審判法、試合運営法を習得する(45分)
14	簡易試合を通じ、試合の運営方法、審判法、技の判定基準、役割、役割分担を学ぶ 担当: 中川・三嶋	事前に13時間目の復習をしておく(45分)	試合の運営法を習得し、安全に試合が運営できるか理解し工夫をする(45分)
15	ミニ大会を実施、運営法を学ぶ 担当: 中川・三嶋	ム・ズに大会を行えるよう手順を学習する(45分)	技術、指導法、審判法を習得し、安全に授業を行えるようにする(45分)
16	実技試験、到達度確認、授業改善アンケートの実施 担当: 中川・三嶋	実技試験のための用具等の準備を行う(45分)	指導における留意点を復習し、円滑に授業が行えるようまとめる(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324079)				
授業担当者(所属・職名)			研究室等所在		
単位数	1	(単位認定責任者: )	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標					
------	--	--	--	--	--

授業の位置づけ					
---------	--	--	--	--	--

到達目標					
------	--	--	--	--	--

授業全体の内容と概要					
------------	--	--	--	--	--

授業の方法					
-------	--	--	--	--	--

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項					
----------	--	--	--	--	--

修学サポート(合理的配慮)					
---------------	--	--	--	--	--

資格指定科目					
--------	--	--	--	--	--

評価方法・基準

評価前提条件					
--------	--	--	--	--	--

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324079)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健（2年）（科目ナンバリング：PSS522066/2023年度以降PSS422126）				
授業担当者（所属・職名）	畠山 明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：畠山 明子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際に関わる教育の専門職に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP（2）に対応する。

到達目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  
精神保健の基本的考え方を理解する。  
現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。  
現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。  
「SDGs. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。  
毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。質問等は随時対応。  
授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。  
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。  
新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト（30点）、第16回目に実施する定期試験（70点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方を理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健（2年）（科目ナンバリング：PSS522066/2023年度以降PSS422126）				
授業担当者（所属・職名）	畠山 明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：畠山 明子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
4	家族に関連する精神保健の課題と支援（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
5	家族に関連する精神保健の課題と支援（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
6	家族に関連する精神保健の課題と支援（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（性マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健（3年）（科目ナンバリング：PSS522066）				
授業担当者（所属・職名）	畠山 明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：畠山 明子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP（2）に対応する。

到達目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  
精神保健の基本的考え方を理解する。  
現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。  
現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。  
「SDGs. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること  
毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。質問等は随時対応。  
授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。  
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。  
新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト（30点）、第16回目に実施する定期試験（70点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方を理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健（3年）（科目ナンバリング：PSS522066）				
授業担当者（所属・職名）	畠山 明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：畠山 明子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
4	家族に関連する精神保健の課題と支援（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
5	家族に関連する精神保健の課題と支援（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
6	家族に関連する精神保健の課題と支援（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（性マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223048)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

アニメーション制作の基礎、およびアニメーションにおいて生き生きとした動きを描くための基本原則や表現方法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)に対応する。

到達目標

アニメーションにおける動画の基本原則を理解し、動画を作成できる。

授業全体の内容と概要

ウォルト・ディズニー・スタジオのアニメーターであるフランク・トーマスとオリバー・ジョストンが共著書『Disney Animation / The Illusion of Life』(1981)にまとめたアニメーションの12の基本原則を元に、物理原則に沿った動きを理解し、キャラクターを生き生きと動かす表現力を修得する。動画は、紙と鉛筆による手描きで行い、カメラで撮影する。

授業の方法

授業は動画の基本原則について映像で参考作品を鑑賞し、配布物資料で説明した後、課題制作に取り組む。作画に必要な画材(主にアニメーションタック、ライトボックスA4程度)については、初回の授業で詳細説明を受けた後、各自で準備(購入など)する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視し、課題作品において評価する。授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。制作に必要な画材(アニメーションタック、ライトボックスなど)は購入するなどして各自で必ず準備すること。価格の目安としては計3000円程度。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
動画の基本技術	動画作成における原画(キーフレーム)と中割り、フレームレート等、動画の基本・本質を理解して、手で描く作画力をも身につけた。	動画作成における原画(キーフレーム)と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、手で描く作画力をも身につけた。	動画作成における原画(キーフレーム)と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解せず、作画ができなかった。
基本原則の表現力	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く豊かな表現力をも身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く表現力をも身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、それに適した動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を学び、動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を元に、動画を描くことができなかった。
動画撮影と編集	すべての課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んでデータを整理して編集できた。ショーリールとしても通用する完成度に達した。	すべての課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んでデータを整理して編集できた。	課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んでデータを整理して編集できた。	課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んで編集できた。	動画の撮影ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223048)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	The Animators Survival Kit: A Manual of Methods, Principles and Formulas for	Richard Williams	Faber and Faber	2001	0571202284	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 アニメーションとは何か	シラバスを読んでおくこと (90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと (90分)
2	アニメーションの基本原則 1 Squash and Stretch	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
3	アニメーションの基本原則 2 Anticipation	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
4	アニメーションの基本原則 3 Staging	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
5	アニメーションの基本原則 4 Straight Ahead and Pose to Pose	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
6	アニメーションの基本原則 5 Follow Through and Overlapping Action	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
7	アニメーションの基本原則 6 Slow In and Slow Out	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
8	アニメーションの基本原則 7 Arcs	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
9	アニメーションの基本原則 8 Secondary Action	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
10	アニメーションの基本原則 9 Timing	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
11	アニメーションの基本原則 10 Exaggeration	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
12	アニメーションの基本原則 11 Solid Drawing	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
13	アニメーションの基本原則 12 Appeal	学習内容に関連する動きを観察すること (90分)	動画を描く (90分)
14	動画編集 1	動画を整理しておくこと (90分)	動画編集を進める (90分)
15	動画編集 2	動画を整理しておくこと (90分)	動画編集を進める (90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと (90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ダンス（科目ナンバリング：HSS522079/2023年度以降HSS422131）				
授業担当者（所属・職名）	天野 雅斗（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：天野 雅斗）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校教育においてダンス教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。まずは履修者自身がダンスを楽しむ素養を身に付け、親しみを持つようにする。その過程において、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

ダンスに親しみ、楽しめることができる。ダンスの基本的動き、音楽に合わせた動きの表現を理解し発表できるようになる。

授業全体の内容と概要

ダンスの基本的動き、音楽に合わせた動きの表現を中心に学び、最終的には課題に応じた創作ダンスの発表ができるようになる。

授業の方法

毎回の授業の中で、様々なダンスの動きや表現を学習する。単なる模倣ではなく、個人やグループでテーマやモチーフを表現したダンスを創作していく。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装で参加すること。その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ダンスに対する姿勢	音楽に合わせて自然と身体を動かしたり、自分の持つ考えや決められたモチーフについて表現することに楽しさを覚え、授業を通じてダンスに対して親しみを持つことができた。	音楽に合わせて身体を動かしたり、決められたモチーフについて表現することを楽しくすることがあり、ダンスに楽しさを感じ、授業を通じてダンスに対して親しみを持つことができた。	音楽に合わせて表現することを楽しく、発表会等に向けて表現や創作をすることができた。	音楽や表現を楽しみ、身体を動かすことができた。	音楽に合わせた動きや表現に、積極的に取り組むことができなかった。
グループでの創作および発表	グループでの創作において、主体的にテーマに対する斬新なアイデアや大胆な動きの提案し、印象的な作品の創作につなげることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアを考え、主体的に作品創作をすることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアについての話し合いに十分参加できた。	グループでの創作や、他者の前での発表ができた。	グループでの創作や、他者の前での発表が十分できなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ダンス (科目ナンバリング：HSS522079/2023年度以降HSS422131)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2021』	大修館書店編集部	大修館書店			
2	『ステップアップ中学体育2023』	大修館書店編集部	大修館書店			
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ガイダンス・レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (45分)	ガイダンス内容の理解(45分)
2	からだほぐし、ダンスへの導入	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
3	ダンスへの導入 リズムに合わせて動く	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
4	ダンスへの導入 誰かと一緒に動く	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
5	ダンスへの導入 動きから作品へ	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
6	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
7	即興による表現 ものをを使った表現	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
8	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
9	即興による表現 空間を活かした表現	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
10	作品創作への導入 イメージ・表現・動き	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
11	作品創作への導入 テーマ・モチーフ	授業内容のイメージ(45分)	学習内容の復習(45分)
12	作品創作	作品創作の準備(45分)	進捗の振り返りと確認(45分)
13	作品創作	発表会へ向けた創作(45分)	進捗の振り返りと確認(45分)
14	作品創作	発表会へ向けた創作(45分)	進捗の振り返りと確認(45分)
15	発表会	発表会への準備(45分)	作品の振り返り(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り(45分)	身に付いた事の確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223049)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
------

自主制作におけるアニメーションの制作工程を学び、制作技術および表現力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

自分のアイデアに基づいて、アニメーション作品を完成させる。

授業全体の内容と概要

作品の企画から最終的な書き出しまで、アニメーションの制作工程を実習を通して学ぶ。完成作品は、コンペティション応募を目指す。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布物資料などで学習内容の説明をした後、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行う。制作は、第10室のPC・ソフトウェアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコン、タブレットなどを選択しても良い。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視し、制作工程における提出物、および完成作品において評価する。授業の目的は、アニメーション制作における各工程を実習を通して学ぶことであるため、次の2点に注意が必要。  
 使用ソフトの指定はしない。ただし、デバイスを授業に持参できることが条件となる。  
 各制作工程チェックのため提出物が複数ある。授業内で提示された課題は、準備・事後学習の時間を使って次の授業までに必ず仕上げてくること。  
 「アニメーション」を履修・修得していることが望ましい。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
制作過程	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求し、洗練させた。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、努力した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。	プロセスに沿った制作がほとんどできなかった。
授業外学習(準備学習・事後学習)の取り組み	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げ、授業に臨み、授業のアドバイスを受けて、改善することができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げ、授業に臨むことができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題にある程度取り組みすることができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題に取り組み努力をした。	準備学習、事後学習に全く取り組むことができなかった。
完成作品	アニメーションの技術力・表現力が認められる完成度の高い作品を仕上げた。	アニメーションの技術力・表現力が認められる完成度の作品を仕上げた。	アニメーションの技術や表現力を活かした作品を完成させた。	作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223049)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 アニメーション制作について	シラバスを読んでおくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	プリプロダクション 企画・テーマ・コンセプト	作品の企画を考える(90分)	作品の企画をまとめる(90分)
3	プリプロダクション あらすじ	作品の企画をまとめる(90分)	あらすじを考える(90分)
4	プリプロダクション 脚本	あらすじを仕上げる(90分)	脚本を進める(90分)
5	プリプロダクション 絵コンテ	脚本を仕上げる(90分)	絵コンテを進める(90分)
6	プリプロダクション アニマティック	絵コンテを仕上げる(90分)	アニマティックを進める(90分)
7	プリプロダクション キャラクターデザイン	アニマティックを仕上げる(90分)	キャラクターデザインを進める(90分)
8	プロダクション 背景デザイン	キャラクターデザインを仕上げる(90分)	背景デザインを進める(90分)
9	プロダクション レイアウト	背景デザインを仕上げる(90分)	レイアウトを進める(90分)
10	プロダクション 動画	レイアウトを仕上げる(90分)	動画を進める(90分)
11	プロダクション 動画	動画を進める(90分)	動画を進める(90分)
12	ポストプロダクション 撮影	動画を仕上げる(90分)	撮影を進める(90分)
13	ポストプロダクション 編集	撮影を仕上げる(90分)	編集を進める(90分)
14	ポストプロダクション 録音	編集を仕上げる(90分)	録音を進める(90分)
15	ポストプロダクション 書き出し	録音を仕上げる(90分)	作品を完成させる(90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	データ入論 (科目ナンバリング: MUD422056)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>この世界にはあらゆる種類の膨大な情報が存在する。情報は目的に応じて、収集、管理、検索可能なデータベースとすることで、ビジネスや科学技術の発展に強力なツールとなる。実際、行政や医療、企業等の組織活動の他、日頃利用するブログやSNSといったネットサービスの裏方でもデータベースが活躍している。本講義では経営学部学生として必要になる、データ処理や管理に関する基本的なスキルを習得し、合わせて企業活動や組織のデータ分析や意思決定についても利用すべく、データベースに対する理解を深めることを目指すものである。</p>
<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>経営学科における全てのDPに対応する。</p>
<p><b>到達目標</b></p> <p>データベースを理解し、データ処理や管理に関する基本的な手法を習得する。 データ分析や意思決定の手法を習得する。 データベースの企業活動や組織への利用法を考える事ができるようになる。</p>

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>前半では、広く普及しているSQL言語を使ったデータベースの基本知識を学ぶ。その後、データベースの運用方法や事例研究を通じて、全体像を描き、最後に理解度を確認するため、各自でデータベースシステムの事例研究を行う。「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。</p>
<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業はITを活用して、講義と実習を交えて行い、知識を体感的に理解することを可能としている。授業中の実習にはPCを利用し、Microsoft製品のほか、一部、オープンな教育リソースも活用して行う。実習の際はグループに分けて実施する。</p>

<p><b>アクティブラーニングの実施方法</b></p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>専門的内容につき、情報処理に関する基礎知識を有している必要がある。 情報システム論の単位を取得しておくこと。 プログラミング論を受講しておくことが望ましい。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な出席回数は11回以上。 30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。 各回の授業で課題がある。したがって、遅刻・欠席は成績に影響する。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	50%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	50%	0%	0%	0%							

<p><b>ルーブリック</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データベースに関する概念の理解</td> <td>データベースの基本的な概念とその応用について理解できた。</td> <td>データベースの概念を理解できた。</td> <td>データベースの基本的な概念を理解できた。</td> <td>データベースの基本的な概念を不十分ながら理解できた。</td> <td>データベースの基本的な概念の理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>データベース設計の能力</td> <td>複雑なデータベースの設計が可能であるとともに、他者が設計したデータベースの評価が可能である。</td> <td>データベースの設計が可能である。</td> <td>基本的なデータベースであれば設計が可能である。</td> <td>周囲の支援や解説を受けることでデータベースの設計が可能である。</td> <td>データベースの設計ができない。</td> </tr> <tr> <td>データベース管理の能力</td> <td>データベースの構築と管理だけでなく、バックアップ、リカバリ、セキュリティの管理が可能である。</td> <td>データベースの構築や管理が可能である。</td> <td>基本的なデータベースであれば構築や管理が可能である。</td> <td>周囲の支援や解説を受けることでデータベースの構築や管理は可能である。</td> <td>データベースの構築や管理をすることができない。</td> </tr> <tr> <td>データベースの利用能力</td> <td>データベースの利用や開発は可能であるとともに、Webアプリケーションの開発も可能である。</td> <td>データベースの利用や開発が可能である。</td> <td>データベースの利用や開発は基本的なものであれば可能である。</td> <td>データベースの利用や開発は周囲の支援や解説を受けることで可能である。</td> <td>データベースの利用がうまくできない。</td> </tr> <tr> <td>事例研究への取り組み姿勢</td> <td>真面目に取り組み、成果物の内容は非常に優秀であった。</td> <td>真面目に取り組み、成果物の内容が優秀であった。</td> <td>真面目に取り組み、成果物の内容も十分であった。</td> <td>最低限の取り組みは行ったが、意欲が薄く、成果物の内容も略略であった。</td> <td>興味を示さず、取り組みは消極的で、成果物が提出されなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	データベースに関する概念の理解	データベースの基本的な概念とその応用について理解できた。	データベースの概念を理解できた。	データベースの基本的な概念を理解できた。	データベースの基本的な概念を不十分ながら理解できた。	データベースの基本的な概念の理解ができなかった。	データベース設計の能力	複雑なデータベースの設計が可能であるとともに、他者が設計したデータベースの評価が可能である。	データベースの設計が可能である。	基本的なデータベースであれば設計が可能である。	周囲の支援や解説を受けることでデータベースの設計が可能である。	データベースの設計ができない。	データベース管理の能力	データベースの構築と管理だけでなく、バックアップ、リカバリ、セキュリティの管理が可能である。	データベースの構築や管理が可能である。	基本的なデータベースであれば構築や管理が可能である。	周囲の支援や解説を受けることでデータベースの構築や管理は可能である。	データベースの構築や管理をすることができない。	データベースの利用能力	データベースの利用や開発は可能であるとともに、Webアプリケーションの開発も可能である。	データベースの利用や開発が可能である。	データベースの利用や開発は基本的なものであれば可能である。	データベースの利用や開発は周囲の支援や解説を受けることで可能である。	データベースの利用がうまくできない。	事例研究への取り組み姿勢	真面目に取り組み、成果物の内容は非常に優秀であった。	真面目に取り組み、成果物の内容が優秀であった。	真面目に取り組み、成果物の内容も十分であった。	最低限の取り組みは行ったが、意欲が薄く、成果物の内容も略略であった。	興味を示さず、取り組みは消極的で、成果物が提出されなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
データベースに関する概念の理解	データベースの基本的な概念とその応用について理解できた。	データベースの概念を理解できた。	データベースの基本的な概念を理解できた。	データベースの基本的な概念を不十分ながら理解できた。	データベースの基本的な概念の理解ができなかった。																																				
データベース設計の能力	複雑なデータベースの設計が可能であるとともに、他者が設計したデータベースの評価が可能である。	データベースの設計が可能である。	基本的なデータベースであれば設計が可能である。	周囲の支援や解説を受けることでデータベースの設計が可能である。	データベースの設計ができない。																																				
データベース管理の能力	データベースの構築と管理だけでなく、バックアップ、リカバリ、セキュリティの管理が可能である。	データベースの構築や管理が可能である。	基本的なデータベースであれば構築や管理が可能である。	周囲の支援や解説を受けることでデータベースの構築や管理は可能である。	データベースの構築や管理をすることができない。																																				
データベースの利用能力	データベースの利用や開発は可能であるとともに、Webアプリケーションの開発も可能である。	データベースの利用や開発が可能である。	データベースの利用や開発は基本的なものであれば可能である。	データベースの利用や開発は周囲の支援や解説を受けることで可能である。	データベースの利用がうまくできない。																																				
事例研究への取り組み姿勢	真面目に取り組み、成果物の内容は非常に優秀であった。	真面目に取り組み、成果物の内容が優秀であった。	真面目に取り組み、成果物の内容も十分であった。	最低限の取り組みは行ったが、意欲が薄く、成果物の内容も略略であった。	興味を示さず、取り組みは消極的で、成果物が提出されなかった。																																				

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	データベース論 (科目ナンバリング: MUD422056)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション データベースの基本 データベースとは何か、データベースの機能、データベースの設計	データベースについて概要を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
2	データベースの設計 データベースを設計するためのプロセスについて エンティティ、属性、リレーションシップ、正規化	学習内容欄の用語について事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
3	データベースの操作(1) SQL言語についての説明 基本的な構文、クエリの作成方法、データの挿入	学習内容欄の用語について事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
4	データベースの操作(2) SQL言語についての説明 基本的な構文、クエリの作成方法、データの挿入	SQL言語について理解しておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
5	データベースの管理 データベースを管理するためのツール、機能、および利点について	データベース管理ツールについて調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
6	データベースのセキュリティ データベースのセキュリティについて説明 アクセス制御、暗号化、およびバックアップなどの	学習内容欄の用語について事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
7	データウェアハウスとは、データの抽出、変換、分析などのプロセスについて ビッグデータの種類、処理方法、およびビッグデー	データウェアハウスとビッグデータについて事前に調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
8	データベース環境の構築と運用実習 企業で想定される業務を想定したデータベースの構築と運用を、実際の操作を通して学習する。	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
9	事例研究A(1) 事例研究Aはチュートリアルとして教員指導の元で、基本的な手法を学ぶ。	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
10	事例研究A(2) 続き	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
11	事例研究A(3) 完成	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
12	事例研究B(1) 事例研究Bではこれまで学んだ知識を用いて、用意されたいくつかの課題を選択し、各自でデータ	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
13	事例研究B(2) 続き	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
14	事例研究B(3) 完成 完成後、目的、仕様、利用方法等と、実際の運用結果をレポートにまとめ提出する。	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
15	事例研究Bの講評と、授業全体のまとめ 授業改善アンケートの実施	前回、教員から支持された内容を調べておく(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)
16	定期試験(学科)と模範解答 定期試験では主に、講義前半(1-7回目)の知識を問う。試験終了後、模範解答を解説する。	定期試験合格に向けて、講義前半(1-7回目)の復習を行う(90分)	学習内容の振り返り学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技（科目ナンバリング：HSS522071/2023年度以降HSS422115）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）・石井 祐治（経営学科・特任講師）・田畑		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることが出来るようにする。また、計画的な練習法や競技法を工夫できるようにするほか、競技会の企画・運営に関しても身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

陸上競技に自主的に取り組む。ルールやマナーを大切に。自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫出来るようにする。

授業全体の内容と概要

陸上競技における走競技種目、躍競技、投てき競技種目の特性を理解し、基本的な技術を習得する。

授業の方法

陸上競技場を中心に授業を進める。陸上競技のDVDを視聴することで競技の特性や特徴などの理解を深める。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではICT機器の活用をするなどして正しい技術を習得できるように進めていく。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、7月中にガイダンスで説明。大学近郊の陸上競技場を利用し、集中授業として実施予定。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	50%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
短距離競技の理解と実践	短距離競技の理解と実践が良くてきた	短距離競技の理解と実践がほぼできた	短距離競技の理解と実践がある程度できた	短距離競技の理解と実践ができた	短距離競技の理解と実践ができなかった
跳躍競技の理解と実践	跳躍競技の理解と実践が良くてきた	跳躍競技の理解と実践がほぼできた	跳躍競技の理解と実践がある程度できた	跳躍競技の理解と実践ができた	跳躍競技の理解と実践ができなかった
投てき競技の理解と実践	投てき競技の理解と実践が良くてきた	投てき競技の理解と実践がほぼできた	投てき競技の理解と実践がある程度できた	投てき競技の理解と実践ができた	投てき競技の理解と実践ができなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技（科目ナンバリング：HSS522071/2023年度以降HSS422115）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）・石井 祐治（経営学科・特任講師）・田畑		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2020』	荒木達雄他	大修館	2020	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明（戸佐 晃一）	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	短距離走（戸佐 晃一）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
3	短距離走 100m走（各種スタート法と正しい走り方） （石井 祐治・田畑 圭悟）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
4	短距離走 100m走（スタートダッシュ・中間疾走・フィニッシュ・タイムトライアル）（石井 祐治・田畑 圭悟）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
5	ハードル走 （ハードリングとインターバル・安全配慮） （戸佐 晃一）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
6	ハードル走 （スターティングブロックを使用するスタート、インターバル5歩走・3歩）（石井 祐治・田畑 圭悟）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
7	ハードル走 （タイムトライアル）（石井 祐治・田畑 圭悟）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
8	跳躍競技 （走り幅跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮） （戸佐 晃一）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
9	跳躍競技 （走り高跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮） （戸佐 晃一）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
10	跳躍競技 （走り幅跳び・高跳びトライアル） （石井 祐治・田畑 圭悟）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
11	投てき競技 （砲丸投げの基本動作、グライド、構えからつきだし・安全配慮）（戸佐 晃一）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
12	投てき競技 （砲丸投げトライアル）（石井 祐治・田畑 圭悟）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
13	リレー種目 バトンパスの方法とテークオーバーゾーンの走り方（石井 祐治・田畑 圭悟）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理解しておく（45分）
14	リレー種目 （4x100mのタイムトライアル） （石井 祐治・田畑 圭悟）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理解しておく（45分）
15	まとめ（競技会の企画・運営など） （戸佐 晃一）	競技会の企画・運営などを確認しておく（45分）	競技会の企画・運営などを理解（45分）
16	フィードバック、授業改善アンケートの実施 （戸佐 晃一）	授業内容を振り返り確認しておく（45分）	授業内容を理解しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バドミントン）（科目ナンバリング：HSS522075/2023年度以降HSS422121）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

共生社会の実現に寄与できる人材となるため、さまざまな情報の中から必要と思われる知識を幅広く理解・体得する科目である。さらに、教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず、作戦をいかに攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、施設等の安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力が身につく。

授業全体の内容と概要

バドミントンの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

バドミントンという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をグループワークで指摘し合いディスカッションをして技術の改善に反映できるように工夫を進めていく。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。その他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。  
健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	20%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解	基本技術を良く理解できた	基本技術をほぼ理解できた	基本技術のある程度理解できた	基本技術を理解できた	基本技術を理解できなかった
基本技術の実践	基本技術の実践が良くできた	基本技術の実践がほぼできた	基本技術の実践がある程度できた	基本技術の実践ができた	基本技術の実践ができなかった
戦術に関する理解	戦術に関して良く理解できた	戦術に関してほぼ理解できた	戦術に関してある程度理解できた	戦術に関して理解できた	戦術に関して理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バドミントン）（科目ナンバリング：HSS522075/2023年度以降HSS422121）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2020』	荒木達雄他	大修館	2020	9784469365638	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	基本技術の理解と実践 グリップ、オーバーヘッド	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
3	基本技術の理解と実践 アンダーハンド・プッシュ、ハイグリアー	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
4	基本技術の理解と実践 ドリブングリアー、ドロップカット	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
5	基本技術の理解と実践 スマッシュ・ヘアピン・サービス	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
6	基本技術の確認	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
7	バドミントンのフットワーク	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
8	戦術に関する理解と実践 シングルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
9	戦術に関する理解と実践 ダブルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
10	審判法とゲーム運営	バドミントンのルールを確認しておく（45分）	バドミントンのルールを理解しておく（45分）
11	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ゲーム ダブルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ゲーム ダブルス 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	実技試験	実技試験の準備をしておく（45分）	試験内容を練習しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (ラグビー) (科目ナンバリング: HSS522077/2023年度以降HSS422128)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるようにしていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し自らの技術向上のみならず作戦をいかにした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標
競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ健康・安全に留意できる教員としての指導能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
ラグビーの基礎技術の習得及びルールを学び、ゲームが出来るように授業を進める。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
ラグビーという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をフィールドバックしながら技術に反映できるように工夫し進めていく。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
服装は実技にふさわしい物を着用して下さい。グラウンドでの実技はアップシューズを使用します。 雨又は雪の場合は体育館で実技を行います。その際に屋内運動靴を必ず用意する。 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	30%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>運動技能(基本技能)</td> <td>ラグビーの各技能に優れ十分にできた。</td> <td>ラグビーの各技能が7割程度できた。</td> <td>ラグビーの各技能が5割程度できた。</td> <td>ラグビーの各技能が3割程度できた。</td> <td>ラグビーの各技能が全くできなかった。</td> </tr> <tr> <td>競技知識(ルールの理解)</td> <td>ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。</td> <td>細かいルールも理解することができた。</td> <td>主なルールを理解することができた。</td> <td>曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。</td> <td>全くルールを理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>社会的行動(挑戦する姿勢)</td> <td>好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。</td> <td>前向きに取り組み努力することができた。</td> <td>挑戦することができた。</td> <td>とりあえずやってみるが、諦めないでできた。</td> <td>できないと決めつけ、挑戦することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	運動技能(基本技能)	ラグビーの各技能に優れ十分にできた。	ラグビーの各技能が7割程度できた。	ラグビーの各技能が5割程度できた。	ラグビーの各技能が3割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。	競技知識(ルールの理解)	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。	社会的行動(挑戦する姿勢)	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
運動技能(基本技能)	ラグビーの各技能に優れ十分にできた。	ラグビーの各技能が7割程度できた。	ラグビーの各技能が5割程度できた。	ラグビーの各技能が3割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。																								
競技知識(ルールの理解)	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。																								
社会的行動(挑戦する姿勢)	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (ラグビー) (科目ナンバリング: HSS522077/2023年度以降HSS422128)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるようにしていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2	『ラグビー上達テクニック』	林 雅人	実業之日本社	2009	4408452548	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイドンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイドンスの内容を理解しておく(45分)
2	基本技術の理解と習得(ボールコントロール・パス)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
3	基本技術の理解と習得(ボールコントロール・キック)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
4	本技術の理解と習得(タックル)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
5	基本技術の理解と習得(スクラム)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
6	基本技術の理解と習得(ラインアウト)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
7	基本技術の理解と習得(モール・ラック)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
8	応用技術の理解と習得	ラグビーの応用技術を確認しておく(45分)	ラグビーの応用技術を理解しておく(45分)
9	戦術に関する理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃について 確認しておく(45分)	ラグビーの攻撃について 理解しておく(45分)
10	術に関する理解と実践 守備編	ラグビーの守備について 確認しておく(45分)	ラグビーの守備について 理解しておく(45分)
11	試合形式による審判法の実践	ラグビーのルールについて 確認しておく(45分)	ラグビーのルールについて 理解しておく(45分)
12	試合形式による戦術の理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃の戦術について確認しておく(45分)	ラグビーの攻撃の戦術について理解しておく(45分)
13	試合形式による戦術の理解と実践 守備編	ラグビーの守備の戦術について確認しておく(45分)	ラグビーの守備の戦術について理解しておく(45分)
14	試合形式(少人数でのゲーム)	少人数でのゲームについて確認しておく(45分)	少人数でのゲームについて理解しておく(45分)
15	試合形式(ゲーム)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	総合評価、到達度確認(授業改善アンケートの実施)	ラグビーの特性やルールについて確認しておく(45分)	指導における留意点を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング：SWS122053)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーを導入する意義、スクールソーシャルワーカーの役割、スクールソーシャルワークなど、広範な専門性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の(DP)(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解・説明できる。
- 発展過程と具体的にスクールソーシャルワーカーの役割について理解・説明できる。
- ソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。

授業全体の内容と概要

- 日本における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学ぶ。
- 海外における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学ぶ。
- 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」、「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

- 授業形態は「講義」形式である。
- テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明・板書を行う。
- 適宜質問を促し、質問に対応する。
- 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 1.5回目の授業時にノートの確認を行う。
- 板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
- 適宜質問に対応する。
- 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
- スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程  
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

- 教科書は必ず持参する。
- 必要な資料等は適宜配布する。
- 1.5回目の授業時にノートの確認を行う。
- 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。
- その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価である。
- 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング: SWS122053)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	978-4-6230-7834-9	価格 13,080
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田 宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格 13,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 子どもの貧困・発達・マノリティ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 教員の実態、地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - 人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について - 日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メソレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メソレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テストの勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング：SWS122054)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーが存在する意義・役割、スクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解・説明できる。
- 発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解・説明できる。
- スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。

授業全体の内容と概要

- 学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーが存在する意義・役割について、いじめ・不登校・学習保障・保護者対応・児童虐待への対応など、具体的な事例に基づいて、演習形式でスクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。
- 「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」「SDGs4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

- 授業形態は「演習」形式である。
- テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
- 適宜質問を促し、質問に対応する。
- 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
- 適宜質問に対応する。
- 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
- スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

- 教科書は必ず持参する。
- 必要な資料等は適宜配布する。
- 9回目の授業時にノートの確認を行う。
- 出席回数は最低7回なければ試験を受験することはできない。
- その他について、出席状況、演習における話し合いの態度や発言などの取り組みで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について一部理解ができた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解ができなかった。
【知識】発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。
【知識】スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング: SWS122054)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	978-4-6230-7834-9	価格 13,080
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映のスクールソーシャルワークと『いじめ・不登校・非行』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	スクールソーシャルワークと『いじめ・不登校・非行』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	スクールソーシャルワークと『自殺防止』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークと『発達障害・精神疾患』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークと『児童虐待』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークと『性的マイノリティ』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワークと『保護者対応-いじめ・不登校・非行・発達障害・貧困など』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークと『災害に備えた学校づくり』への対応 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークと『新たに求められていること』への対応-演習に取り組んできた事後エッセンス-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:PSS522067/2023年度以降PSS422133)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携、国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  
 精神保健の基本的考え方を理解する。  
 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。  
 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携について理解する。  
 国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。  
 現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。  
 精神障害の発生予防や偏見・差別の解消について学ぶ。  
 精神保健活動を行っている関係機関について学ぶ。  
 世界的な精神保健の動向について学ぶ。  
 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。  
 毎回感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
 第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。質問等は随時対応。  
 授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。  
 配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
 ニュース等で報道される福祉に関する話題について興味を持つこと。  
 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:PSS522067/2023年度以降PSS422133)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の動向と基本的考え方	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりを)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(学校教育における精神保健の課題、教員の精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(社会的孤立、性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神保健に関する発生予防と対策(精神保健における予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル依存対策、うつ病)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神保健に関する発生予防と対策(子育て支援と暴力・虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS123094)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。  
 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。  
 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。  
 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。  
 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。  
 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する

到達目標

子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解することができる。  
 施設養護及び家庭養護の実際について理解することができる。  
 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解することができる。  
 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができる。  
 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。

授業全体の内容と概要

子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。  
 施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。  
 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。  
 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。  
 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。

授業の方法

授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等を行い、それに基づき各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを速ベフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

保育士を目指す者として積極的に参加し、専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その自取組んだ演習内容を記録し保育士を目指す者としての自己覚知を重視すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

<p>修学サポート(合理的配慮)</p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p> <p>保育士養成課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、ほぼ理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、やや理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができなかった。
施設養護及び家庭養護の実際について	施設養護及び家庭養護の実際について、理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、ほぼ理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、やや理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができなかった。
社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、やや理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができなかった。
社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、やや理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができなかった。
社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、やや理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS123094)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認)、社会的養護における子どもの理解 授業改善アンケートの結果反映説明	社会的養護とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
2	社会的養護の内容 日常生活支援	日常生活とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
3	社会的養護の内容 治療的支援	治療とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
4	社会的養護の内容 自立支援	自立とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
5	社会的養護の実際 施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
6	社会的養護の実際 家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
7	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントとは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
8	記録及び自己評価	記録のあり方について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
9	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	保育の専門性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
10	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	相談援助の知識・技術について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
11	社会的養護における家庭支援	家庭支援について(90分)	レポート作成(90分)
12	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と展望について(90分)	レポート作成(90分)
13	社会的養護に関わる事例研究	事例研究(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
14	社会的養護に関わる事例に基づくロールプレイ	ロールプレイの準備(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
15	まとめ(授業改善アンケートの実施)	文献学習(90分)	文献学習(90分)
16	フィードバックとしてレポートに対する解説を行う	文献学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング：SOM123091)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<p>保育における保健の観点から保育環境や支援のあり方について学ぶ。子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策を学び、体制づくり、活動計画・評価等の一連について理解を深める。また、子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について学ぶ。</p>
授業の位置づけ
<p>社会福祉学科のDP(1)と(2)と(3)と(4)と(5)に対応する。</p>
到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

評価方法・基準

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

到達目標
<p>子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。</p>

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング: SOM123091)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの健康と安全』	大西文子編集	中山書店	2022	978-4521749778	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもを取り巻く社会状況と子ども保健	履修を終えている「子どもの保健」の概要を理解しておく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく(90分)
2	事故防止及び健康安全管理1 保育環境と衛生・安全対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する(90分)
3	事故防止及び健康安全管理2 子どもの事故、危機回避と体づくり	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく(90分)
4	子どもの健康に関する適切な対応1 保健的対応・対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめ、出された課題を調べておく(90分)
5	子どもの健康に関する適切な対応2 健康状態の把握 計測・測定	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく(90分)
6	子どもの健康に関する適切な対応3 病児の状態把握の方法と対応	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する(90分)
7	子どもの健康・安全にかかわる実施体制	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく(90分)
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括します。 授業改善アンケートの実施。	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	子どもの保健の課題に今後も取り組んでいく(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング: CHS123076)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。  
 2. 保育の全体計画の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。  
 3. 計画・実践・省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(4)に対応する。

到達目標

保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の計画の作成と展開、保育所における保育の評価について理解し、保育の内容を具体的に説明する。

授業全体の内容と概要

保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の計画の作成と展開、保育所における保育の評価など保育の内容について学修する。保育の計画と作成では、思考・考察、他者との意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。「SDGs4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で行う。授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れ、質疑応答の時間を設定する。提出された課題・作品はコメントをつけてフィードバックする。Microsoft Teams/Formsの諸機能も活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は、授業時間に説明する。遅刻した場合、入室は可能だが20分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内となっている。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育計画の知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の計画について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の計画について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解することができなかった。
計画を立案するための思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の内容を踏まえた計画作成について十分に考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成についておおむねに考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について多少考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の計画作成と評価について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことをおおむね説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを多少説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング: CHS123076)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『フォトラングージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画第2版』	神永直美	南文書林	2018	9784893472397	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	保育の計画と評価の基本(1)カリキュラムの基礎理論	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	保育の計画と評価の基本(2)保育所における保育の計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
4	保育の計画と評価の基本(3)保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	保育の計画と評価の基本(4)計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上	保育計画の意味を理解しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	保育所における保育の計画(1)保育所保育指針と幼稚園教育要領	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す1回目の課題を作成する(90分)。
7	保育所における保育の計画(2)保育の全体的な計画と指導計画	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	保育所における保育の計画(3)全体的な計画の編成	発達心理等発達過程を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す2回目の課題を作成する(90分)。
9	保育所における保育の計画(4)指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
10	育の計画の作成と展開(1)保育の全体的な計画の編成と展開	計画作成の方法をよく読んでおく(90分)。	授業終了時に示す3回目の課題を作成する(90分)。
11	保育の計画の作成と展開(2)指導計画の実際の作成と展開	対象年齢と計画の運動性を理解しておく(90分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
12	保育所における保育の評価(1)保育の省察及び記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
13	保育所における保育の評価(2)保育士及び保育所の自己評価	教科書の評価頁を事前に読んでおく(90分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
14	保育所における保育の評価(3)保育の計画の再編成	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す4回目の課題を作成する(90分)。
15	保育所における保育の評価(4)生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	保育の計画で学んだ事を整理しておく(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(90分)。
16	定期試験60分。試験終了後に解説を行う提出された課題の総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（人間（科目ナンバリング：CHS122079））				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、保育実践の内容を理解することである。そのための具体的内容は、保育者の専門性である。養護と教育にかかわる保育の内容を展開するための知識、技術、判断力を修得すること。保育の内容は領域、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を総合的にとらえ、人は社会と関わり生活していくための「人間関係」の重要性について、子どもの理解を深めることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

領域「人間関係」について、子どもの適切な理解を深めながら保育内容を実践することができる。テキスト課題「考えてみよう」を具体的に識別して列挙することができる。

授業全体の内容と概要

・授業の概要は、幼児教育の基本・乳幼児期の発達、子どもと保育者、遊びと人間関係・家庭生活と子ども、幼児教育と課題となる。  
 ・授業内容の取扱いは、保育の実践に必要な知識、理論、保育現場で起こり得る事例、事例を考える際の課題点、事例の対応方法、の4観点から構成される。  
 ・「SDGs4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

テキストのワークシート「事例 考えてみよう」（66例）を利用して、ケース学習をすすめる。「保育の現場で実際に起こり得る事例」について、ケース学習（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）、グループワークをおこない、授業展開する。授業では視聴覚教材を利用する。課題レポートのコメントはフィードバックされる機会がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	双方向授業	○ その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「保育内容演習（人間関係）」は、保育の内容（5領域）から「人間関係」を抽出する科目である。・保育の内容を統合する理解の視点もとめられる。

・配布資料はファイリングし、授業内容、資料の欠落することのないように留意する。

・授業は学生のみなさんと担当教員による協同学習となるので、主体的に参加、授業貢献する。

・大学交付学生用メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。  
 ・パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進める。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための出席要件は、授業第1回から第8回までに計6回以上の出席が必要になる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	30%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の内容の統合的視点をつまみながら、領域「人間関係」について、知識・技能を修得する。（知識・技能）	領域（人間関係）について、深く理解ができた。	領域（人間関係）について、おおむね理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識の理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識に欠ける部分はあるが、理解することができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識を著しく欠いており、理解することが難しかった。
保育内容の統合的視点をつまみながら、領域「人間関係」について、展開することができる。（思考力・判断力・表現力）	領域（人間関係）について、十分に思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、おおむね思考して、表現することができた。	領域（人間関係）について、基本的な思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、思考をして、表現することが難しかった。
保育者として、保育内容の理解に関心と意欲を持ち、積極的に参加することができる。（関心・意欲・態度）	領域（人間関係）について、保育者の役割と責任を自覚し、積極的に参加することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割をおおむね理解して、自ら行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割について、基本的な行動をすることができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、自分の役割を考慮しながら、行動することができた。	領域（人間関係）について、自分の役割を理解して、行動することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（人間）（科目ナンバリング：CHS122079）				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『事例と図解で学ぶ保育実践 子どもの心の育ちと人間関係 第2版』	寺見陽子	教育情報出版	2016	9784938795771	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針解説 平成30年』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
2	『保育を支えるネットワーク：支援と連携 保育学講座5』	日本保育学会	東京大学出版会	2016	9784130522052	
3	『子どもの育ちをエピソードで描く。』	鯨岡峻	ミネルヴァ書房	2013	9784623066414	
4	『札幌市・帯広市・江別市 公立保育士 採用試験対策シリーズ2023年度版』	協同教育研究会	協同出版	2022	9784319336173	
5	『子どもの経験から振り返る保育プロセス』	秋田喜代美	幼児教育映像制作委員会	2010		DVD教材

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 幼児教育の基本と教育学の接近	シラバスを熟読する。（45分）	今回の学習内容を復習する。（45分）
2	幼児教育の基本・乳幼児期の発達（視聴覚教材の視聴）	テキスト、章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
3	子どもと保育者（社会学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
4	子どもと保育者（保育学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
5	遊びと人間関係・家庭生活と子ども（社会学的接近と社会心理学的接近）	テキスト、章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
6	遊びと人間関係・家庭生活と子ども（視聴覚教材の視聴）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
7	幼児教育と課題 まとめ（エピソード記述法）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
8	幼児教育と課題 まとめ（保育学） 授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（45分）	全授業を振り返り、学習内容の反省的レポートを期日までに提出する。（45分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 (科目ナンバリング: CHS124102)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。保育実習等を通じて理解した課題を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力が身につく。自己課題の明確化及び保育の実践に際して必要となる基礎的資質・能力が身につく。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

保育士として必要な専門的知識、技術、職業倫理観について振り返ることができる。保育実習後の自己課題に気づき、保育士に求められる資質・能力が何かを認識できる。

授業全体の内容と概要

保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得について振り返る。さらに、保育実習等体験学習を通して、自己課題を明確にして保育士に求められる資質・能力とは何かを認識する。「SDGs 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

演習を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。学外の保育現場等へ出向くこともあるため、社会人としてふさわしい態度を求める。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の実践方法の基礎的知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育実践について基礎的な知識を深く理解できた。	保育実践について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解できた。	保育実践について基礎的な知識を多少理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題をおおむね明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して多少自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 (科目ナンバリング: CHS124102)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
2	学びの振り返り 保育士の意義、役割についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
3	学びの振り返り 保育士の職務内容、子どもに対する責任、倫理についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
4	学びの振り返り 社会性、対人関係能力についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
5	学びの振り返り 子どもやその家庭の理解についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
6	学びの振り返り 職員間、関係機関との連携についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
7	学びの振り返り 保育や子育て家庭に対する支援の展開に関する討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
8	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク 課題について	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
9	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク 要因、背景について	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
10	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク 課題解決の内容と方法	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
11	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループ発表、評価	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
12	これまでの学修を踏まえ、自己の課題の明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
13	これまでの学修を踏まえ、目指す保育士像について明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
14	自己の課題、保育士像に向けて取り組むべき具体的手段や方法の明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
15	保育士としての資質、能力についての研究発表とまとめ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
16	レポートに関する解説及びフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をおとして質問など整理しておく。(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS122087)				
授業担当者(所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 浩而 魅諭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室(兼託児)を立ち上げ運営してきた。その経験を生かし、保育に携わるものが身につけるべき心構えや、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にし、実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。				

概要

履修目標

造形表現で習得した技術の向上を目指し、創作的表現活動に取り組み、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)、(3)に対応する。

到達目標

「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。

授業全体の内容と概要

「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現を学修する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。

授業の方法

授業は板書を用いた講義形式で行う。また、実験を取り入れ課題制作など実技形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

指定した用具・用品など、各自が準備した材料・用材を持ってくる。出席を取り終わった後は欠席とする。受講人数や実施する季節、天候、受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。(都度説明しますのでご理解ください) 受講人数を見て、グループでの活動を主体にすることもある。基本的に毎回出席することが大前提となる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
五感を大切にした造形活動について理解することが出来る。	五感を大切にした造形活動について理解することが十分に出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することがほぼ十分に出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することがある程度出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することが最低限出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することが出来ていなかった。
色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をつけることが出来る。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力を十分につけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をほぼ十分につけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力がある程度つけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力を最低限つけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をつけることが出来ていなかった。
保育の造形表現の可能性について考えていく力をつけることが出来る。	保育の造形表現の可能性について考えていく力を十分につけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をほぼ十分につけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力がある程度つけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力を最低限つけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をつけることが出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS122087)				
授業担当者(所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 浩而 魅諭)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室(兼託児)を立ち上げ運営してきた。その経験を生かし、保育に携わるものが身につけるべき心構えや、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提とし、実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 保育における造形表現とは	予めシラバスを確認しておく。(45分)	授業の流れを理解し、全16回の見直しを持つ。(45分)
2	"保育士"として自己紹介しよう	自分の持味は何か、客観的に見つめておく。特技など披露出来るものは小道具を持参するなどしてよし、心に残った絵本などの紹介として現物を持参し	人の心を動かす話し方について感じ取ったことなどをまとめておく。(45分)
3	保育における造形表現の位置づけ	保育における造形表現の位置づけについて自分なりの考えをまとめておく。(45分)	保育における造形表現の位置づけについて新たにわかったことや感じたことをまとめておく。(45分)
4	保育における造形表現において、五感を意識した活動の大切さについて	五感とは何か、どんな造形表現が考えられるか自分なりの考えをまとめておく。(45分)	保育における造形表現において、五感を意識した活動の大切さについて気づいたことをまとめておく。(45分)
5	実験1・触感クイズ・気持ちを絵に表してみよう	触感って何か、確認しておく。そしてそれがなぜどのように造形表現において大切なのか自分なりの考えをまとめておく。(45分)	触感クイズで感じた触感を、色と形を用い絵として表現してみる活動から、感じ取ったことをまとめておく。(45分)
6	実験1で感じたことを伝えてみよう	感覚を伝えるに当たって、感情や情景などを表現する言葉を増やしておく。(45分)	感覚を色と形を使って人に伝える、言葉も使って、の活動から、保育の実践でどう生かしておけるかイメージトレーニングをしてまとめておく。(45分)
7	色彩の基本について	中学校の頃の美術の教科書や資料集を読んで色彩に関する知識をまとめておく。(45分)	色彩が日常生活でどのように生かされているのを見つめ直してみる。気づいたことをまとめておく。(45分)
8	実験2・色水をまぜてジュースを作るう・ふさわしい商品名を考えよう	混色の基本について中学校の教科書や資料集を確認しておく。(45分)	色のイメージを大切に商品名、他の候補は無いが考えてみる。(45分)
9	課題制作1・家をつくらう1(実験1、2で感じた感覚を制作に反映させるには)	実験1、2を振り返って自分なりの考えをまとめておく。(45分)	実験1、2で感じた感覚をどう制作に生かすことが出来るか、さらなる可能性を考えてみる。(45分)
10	課題制作2・家をつくらう2(どんな家にしたいのか、そのためにはどうしたらよいか)	思いを色と形によって表現することについて自分なりの考えをまとめておく。(45分)	思いを色と形によって表現することの具体的な方法を更に探っていく、課題制作に生かせるよう準備をする。(45分)
11	課題制作3家をつくらう3(制作・仕上げ)	計画した自分の家について具体的なイメージをかためておく。(45分)	自分の思い描いた家が出来たか客観的に作品をみつめる。足りないところは補う。未完成の場合は、完成まで進めておく。(45分)
12	保育における造形表現において・聴覚	聴覚について調べておく。造形表現にどう関係しているのか自分なりの考えをまとめておく。(45分)	聴覚に心地よさを感じ得る造形、その表現からさらに聴覚に新たな気づきをもたらす心を豊かにする可能性について自分なりの考えをまとめておく。
13	課題制作4・楽器をつくらう1(廃材工作で音の出る玩具をつくりたす)	自分のイメージした音を作り出すことが出来るような素材を予め集めておく。その先の活動で共鳴し合えるような表現が出来る様に考えを練っておく。	自分がイメージした世界を音で表現するための工作の可能性について深く考える。課題制作に生かせる形でまとめてみる。(45分)
14	課題制作5・楽器をつくらう2(制作・仕上げ)	思いを音として表現することが出来る細工はどうすればよいか、調べてみる。(45分)	課題作品が完成していない場合は、完成させておく。(45分)
15	合評1・我が家へようこそ・演奏会自己評価	自分の作品についてどう発表するか考えておく。(45分)	他の学生の作品に触れ、多様な価値観、表現の幅を感じ取る。(45分)
16	合評2・我が家へようこそ・演奏会自己評価 授業改善アンケートの実施	他者からの意見、感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。(45分)	合評を通じて感じたことを、以後の制作に反映させていくことを考える。実際の保育現場でどう生かしていくかを考えてまとめておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現 (科目ナンバリング: CHS122088)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、子どもの表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の3つを授業の目的とする。  
 1. 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術を習得する。  
 2. 子ども自身が児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を習得する。  
 3. 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術、子ども自身が児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について理解し、実演する。

授業全体の内容と概要

子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術、子ども自身が児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について実践を通して学習する。  
 『SDG4 - 質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。  
 児童文化財(パネルシアター)制作を行い発表してお互いを評価しあう時間も設定する。  
 課題や作品、レポート及び中間試験レポートはコメントをつけてフィードバックする。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加減方式とし、授業時間に説明する。  
 児童文化財制作(スケッチブックシアターを予定)のため、各自でクレヨン、マジック、絵具等教材の用意が必要。  
 遅刻の場合は入室できるが、20分以上の遅刻は欠席となる。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	20%	20%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童文化財に関する知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)	児童文化財について基礎的な知識を深く理解できた。	児童文化財について基礎的な知識をおおむね理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を多少理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	子どもの発達と児童文化財の関連について十分に考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連についておおむね考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について多少考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかりやすく説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかおおむね説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを多少説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現 (科目ナンバリング: CHS122088)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、子どもの表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開を実践的に指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	南文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと(45分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
2	子どもの発達と絵本, 紙芝居, 劇, パネルシアター1	児童文化財の種類を理解しておく(45分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
3	子どもの発達と絵本, 紙芝居, 劇, パネルシアター2	児童文化財の種類を理解しておく(45分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
4	子どもの発達と絵本, 紙芝居, 劇, パネルシアター3	児童文化財の種類を理解しておく(45分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
5	子どもの発達と絵本, 紙芝居, 劇, ストーリーテリング1	素話の意味を理解しておく(45分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
6	子どもの発達と絵本, 紙芝居, 劇, ストーリーテリング2	素話の実演方法を理解しておく(45分)。	授業終了時に示す課題を作成する(45分)。
7	子どもの発達と絵本, 紙芝居, 劇, ストーリーテリング3	昼間テストに向け発表練習をしておく(45分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
8	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境1 中間テスト(制作発表)	昼間テスト(発表)の準備をしておく(45分)。	8回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
9	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境2 中間テストの評価解説	望ましい保育環境について事前学習する(45分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
10	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境3	望ましい保育環境について事前学習する(45分)。	10回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
11	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開1	児童文化財と遊びの関係を事前学習する(45分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
12	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開2	児童文化財と遊びの関係を事前学習する(45分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
13	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開3	児童文化財と遊びの関係を事前学習する(45分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
14	学生による言語表現の展開1	言語発表の準備、練習をしておく(45分)。	授業終了時に示す課題を作成する(45分)。
15	学生による言語表現の展開2・まとめ・レポート提出	授業を通して学んだ事を整理しておく(45分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(45分)。
16	提出されたレポート、課題の総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	1.5回の内容を振り返り復習する(45分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(45分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング: CHS123090)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

乳児(3歳未満児)期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

3歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

3歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。  
「SDGs 4 - 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・演習を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。  
「乳児保育」を履修した後に受講すること。  
遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング: CHS123090)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新しい機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	2019	9784810314731	乳児保育で使用する教科書と同じです
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 子どもと保育士等との関係の重要性	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
4	子どもの体験と学びの芽生え	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
5	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実例	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実例	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
9	子ども同士の関わりとその援助の実例	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
11	集団での生活における配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
12	環境の変化や移行に対する配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
14	個別的な指導計画と集団の指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
15	計画実践発表とまとめ	教科書を読み、学修しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
16	レポートに関する解説及びフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をおとして質問など整理しておく。(45分)	解説を受け、講義全体をふりかえること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123040)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。  
 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。  
 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。  
 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。  
 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メソ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。  
 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法を理解する。

授業全体の内容と概要

精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要、過程、実際について学ぶ。  
 多職種連携多機関連携について学ぶ。  
 ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークソーシャルアクション等について学ぶ。  
 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

授業形態は講義形式で行う。  
 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。  
 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。  
 確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。  
 必要な資料等は適宜配布する。  
 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123040)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業内容の説明、シラバスの説明 ソーシャルワークの構成要素について	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	ソーシャルワークの展開過程について (インタークープランニング)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	ソーシャルワークの展開過程について (インターベンション・アフターケア)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点について	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	アウトリーチについて	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	インタークープについて(主訴の把握、スクリーニング、契約)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	アセスメント(本人に関する理解、環境に関する理解、アセスメントツール)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	援助関係の形成技法について(自己決定、意思決定、パートナーシップ、バウンダリー)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	面接技術について(面接の構造、マイクロカウンセリング)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	支援の展開(人、環境へのアプローチ)についての事例分析	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	支援の展開(ケアマネジメント)について	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	精神障害者家族の課題について(ケアラー・ヤングケアラー支援)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	家族理解の変遷について(家族システム論、家族の感情表出研究)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	家族支援の方法について(家族相談面接、家族関係における暴力への介入)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	家族支援の方法について(家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分) 授業改善アンケートの実施	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123041)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。  
 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。  
 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。  
 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。  
 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メソ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。  
 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法を理解する。

授業全体の内容と概要

ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークについて学ぶ。  
 ソーシャルアクションについて学ぶ。  
 各分野における精神保健福祉士の実践展開について学ぶ。  
 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

授業形態は講義形式で行う。  
 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。  
 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。  
 確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。  
 必要な資料等は適宜配布する。  
 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123041)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業内容の説明、シラバスの説明 ソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	コミュニティワークについて (精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	コミュニティワークについて (地域における精神保健福祉の向上)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	ソーシャルアクションについて (基本的視点・体制整備)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	ソーシャルアクションについて (政策提言・政策展開)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	多職種連携について (意義・目的・留意点など)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	多職種連携について (チームビルディング・チーム形態と特徴)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	多職種連携について (連携における精神保健福祉士の役割)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	ソーシャルアドミネストレーションについて (概念・意義)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	ソーシャルアドミネストレーションについて (組織と精神保健福祉士の関係性)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	ソーシャルアドミネストレーションについて (実践モデル・組織運営管理の実践)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	実践展開について (学校・教育分野)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	実践展開について (産業分野)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	実践展開について (司法分野)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	実践展開について (災害・その他)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分) 授業改善アンケートの実施	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: SWS122027)				
授業担当者(所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授) ・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW, CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

高齢・障がい、地域・行政、児童といった社会福祉各領域の事例を検証することによって、クライアントの主張の読み取り、ニーズに合致した支援方法を考察することにより、ソーシャルワーク実践を考察する視点を養う。あわせてロールプレイングを通して面接技法における要点を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業全体の内容と概要

事例検討を中心に、相談援助演習 で学んだことを、グループワーク、ロールプレイ等を通して、実践に近い形で学び、体得する。

授業の方法

3-4グループに分かれ(1グループ20名以内)事例検討、ロールプレイ、事例検討の結果発表を行う。教員のアドバイスの講義を含めつつ、学生自身が積極的に学び取るアクティブラーニング演習を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

この科目の単位が取得できない場合、次年度の相談援助実習及び相談援助実習指導 は履修できないので注意すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 子育て支援ソーシャルワーカー資格課程, スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数20回以上をクリアすること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーク実践事例の理解。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加し、付随した課題に明確な回答を与え、且つ、その理由を説明できた。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加できた。	ソーシャルワーク実践事例の読み込みが的確であった。	グループディスカッションに積極的に参加できた。	ディスカッションへの参加も消極的で、事例に付随した課題にも回答できなかった。
ロールプレイングへの積極的参加	ロールプレイングの場面の作成を積極的にを行い、且つC L、S W各々の役割をこなし、O S C E項目の平均4点以上をキープできた。(5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的にを行い、且つC L、S W各々の役割をこなし、O S C E項目の平均3点以上をキープできた。(5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的にを行い、且つC L、S W各々の役割をこなし、O S C E項目の平均3点以上をキープできた。(5段階評価)	ロールプレイングに積極的に参加してできた。	ロールプレイングへの積極的参加ができなかった。
チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点、といった応用課題を理解する	チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点等について明確に言語で説明できた。	チームワーク、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	チームワーク、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	左記の言語全てを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: SWS122027)				
授業担当者(所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授) ・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 SW, CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「ソーシャルワーク演習ワークブック」』	相澤謙治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	前期科目の復習(45分)	テキストの読み込み(45分)
2	ソーシャルワークプロセスの再確認	前期科目の復習(45分)	テキストの読み込み(45分)
3	事例研究1「倫理と組織：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
4	事例研究1「倫理と組織：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
5	事例研究2「高齢者介護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
6	事例研究2「高齢者介護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
7	事例研究3「知的障がい者：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
8	事例研究3「知的障がい者：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
9	事例研究4「児童虐待：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
10	事例研究4「児童虐待：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
11	事例研究5「DV：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
12	事例研究5「DV：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
13	事例研究6「ストレス：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
14	事例研究6「ストレス：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
15	事例研究7「障がい児：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
16	事例研究7「障がい児：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(90分)	事例検討結果の検証(90分)

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	事例研究8「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
18	事例研究8「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
19	事例研究9「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
20	事例研究9「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
21	事例研究10「権利擁護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
22	事例研究10「権利擁護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
23	事例研究11「地域：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
24	事例研究11「地域：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
25	応用演習(チームワーク)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
26	応用演習(リーダーシップ)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
27	応用演習(スーパービジョン)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
28	応用演習(ソーシャルワークの視点)	テキストの読み込み(90分)	講義中の自己の振り返り(90分)
29	各学生の気づき(グループ討議)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
30	振り返りと相談援助実習に向けて	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
31	実習事例検討(利用者理解とコミュニケーション)	テキストの読み込み(45分)	全体を通しての振り返り(45分)
32	実習事例検討(アセスメントと生活場面面接)	テキストの読み込み(45分)	全体を通しての振り返り(45分)

**基本情報**

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: SWS122029)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 大美)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉現場における実践経験のあるソーシャルワーカーが、その経験を活かして、実践現場における今日的課題と、それと向き合い、解決する方法を講義する。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照				

**概要**

**履修目標**  
 ソーシャルワーク各領域の外部講師の講義を聴講し、実践現場の職場・職種・ソーシャルワーク技法についての具体的方法を学び、次年度の実践現場における実習指導に備えて、実習領域を絞り込み、その領域の実践内容をイメージングする。

**授業の位置づけ**

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

**到達目標**

次年度の相談援助実習に向けて希望実習領域を明確にし、その領域の施設・機関・制度・利用者・地域社会・関連職種について理解する。併せて相談援助実習の意義と実習での学習目標を明確にする。

**授業全体の内容と概要**

- 相談援助実習各領域担当教員のグループ(20人以下)に分かれて少人数講義
  - 外部講師を招いての現場実践講義
  - 相談援助実習を終えた学生による実習体験報告会
- 以上3点から講義を構成する。

**授業の方法**

各領域担当教員から説明がある。質問等は各担当教員が随時対応し、フィードバックする。

**アクティブラーニングの実施方法**

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

**履修上の注意事項**

- 外部講師の講義を中心に、高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域のグループに分かれて講義を行う。
- 外部講師の講義はパワーポイントを使った実践現場の事例紹介が主であり、領域に分かれた講義ではグループディスカッションが中心となる。
- 年間を通してボランティアレポート(4,000字以上)の提出を課題とする。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

**修学サポート(合理的配慮)**

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

**資格指定科目**

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

**評価方法・基準**

**評価前提条件**

単位認定の最低出席回数10回をクリアすること。

**評価方法**

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	0%	0%	0%	20%

**ルーブリック**

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
外部講師の講義を聴講し、実践現場の課題、利用者像、具体的なソーシャルワーク技法を理解する。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について具体的に説明でき、それを地域社会との課題と結び付け説明でき、さらに、社会福祉制度の課題としてマクロに説明でき、且つ、次年度の実習領域の実習課題として昇華できた。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について具体的に説明でき、それを地域社会との課題と結び付け説明でき、さらに、社会福祉制度の課題としてマクロに説明できた。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について具体的に説明でき、それを地域社会との課題と結び付け説明できた。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について具体的に説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
次年度の実習領域を絞り込み、その領域の実習課題を明確にする。	次年度の実習領域を明確にし、実習に必要な知識(法的制度、利用者像、具体的SW技法)について説明でき、且つ、自分の実習課題を明確化し、これまで学んだ各領域の共通項を抽出でき、実習課題に昇華していた。	次年度の実習領域を明確にし、実習に必要な知識(法的制度、利用者像、具体的SW技法)について説明でき、且つ、自分の実習課題を明確化していた。	次年度の実習領域を明確にし、実習に必要な知識(法的制度、利用者像、具体的SW技法)について説明でき、且つ、自分の実習課題を明確化し、実習領域の職場・職種・ソーシャルワークについて説明できた。	次年度の実習領域を明確にし、実習の目的と課題を具体的に説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
ジェネリックソーシャルワークの概念を理解し、本講義の内容から、その具体的な要因を抽出できる。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明でき、自分が選択した講義領域と外部講師の講義内容からその要因を抽出できた。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明でき、自分が選択した講義領域と外部講師の講義内容からその要因を抽出できた。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明でき、自分が選択した講義領域の中からその要因を抽出できた。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: SWS122029)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 大美)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉現場における実践経験のあるソーシャルワーカーが、その経験を活かして、実践現場における今日的課題と、それと向き合い、解決する方法を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途指示します。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途指示します。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びグループ分けシラバスの説明	前期科目の復習(90分)	希望グループの決定(90分)
2	外部講師実践講義「児童養護施設におけるソーシャルワーク実践」	児童養護施設についての復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	外部講師実践講義「高齢者施設におけるソーシャルワーク実践」	高齢者施設についての復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	グループ講義第1クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野における各機関の特色」	選択領域グループの学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	グループ講義第1クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野における利用者の具体的ニーズと支援」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	グループ講義第1クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野におけるソーシャルワークの展開」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	グループ講義第1クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野における多職種機関との連携」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	実習体験報告会	希望領域報告者に対する質問事項の決定(90分)	実習希望領域の決定(90分)
9	グループ講義第2クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野における各機関の特色」	選択グループの学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	グループ講義第2クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野における利用者の具体的ニーズと支援」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	グループ講義第2クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野におけるソーシャルワークの展開」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	グループ講義第2クール「障害・高齢者・児童・地域行政分野における多職種機関との連携」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	実習希望領域に絞ったグループ学習	希望領域に関する自主学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
14	実習希望領域に絞ったグループ学習	希望領域に関する自主学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
15	実習希望領域に絞ったグループ学習	希望領域に関する自主学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
16	定期試験(60分試験終了後30分解説をする)	全体を通しての総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: SWS123031)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標

各領域の相談援助実習を終了した後、実習中の振り返り(利用者との関り、他職種・他機関連携、地域連携)を行うことによって、実習中の行為がSW実践の具体的な技法とどのような関連するか、SW諸理論とどのように関連するか、あるいは逸脱しているかを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

専門職として求められる資質、専門的知識・技術、倫理、自己に求められる問題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、現場実習での具体的援助経験を、専門性を踏まえて概念化し理論化できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

「相談援助実習」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、1対のものとして理解すべきである。「相談援助実習指導」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導」は事後指導と考える。「相談援助実習」での課題への取り組みを振り返り、それをレポートおよび報告書にまとめる。また「相談援助実習指導」の最終講義において「相談援助実習」の報告(各領域1名程度)、「相談援助実習指導」(2年生向け)での報告会(各領域から1名程度)を行う。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域・行政の各実習領域に分かれ、各々の担当教員が講義を行う。講義方法は各担当教員に一任されているが、各領域の制度、法規、実践事例、そして実習後の振り返りをメインに行う。講義資料は各担当教員が用意するが、実習後の振り返りについては学生自身が発表者になりプレゼンを行う(方法については担当教員に一任されるが、最低限シメの配布は行うこと)。年間を通して実習終了後のレポート、報告書の提出を課題として義務付けている。学生からの要望・課題については、可能な範囲で随時対応していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各領域担当教員の指示に従うこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席回数10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	30%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習中の利用者との関り、SW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明でき、且つ、具体的な技法との関連を説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、その各々の場面を通じての自己覚知ができる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と、失敗事例を振り返り、それを具体的に説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例を振り返り、それを具体的に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の他職種・他機関連携をSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明でき、且つ、ジェネリックソーシャルワークの視点から普遍的なSW理論に昇華できる。	実習中の他職種・他機関連携を全て説明でき、実習の領域の特性と合わせて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について、どんな職種・機関と連携したかを説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の地域連携についてSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をSW理論を用いて説明でき、且つ、地域ネットワーク構築の特徴を考察できる。	実習中の地域連携について説明でき、具体的な業務内容をSW理論を用いて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をSW理論を用いて説明できる。	実習中の地域連携について説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: SWS123031)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 事後学習(振り返り)	実習の振り返り(90分)	配布プリントの熟読(90分)
2	事後学習(振り返り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	事後学習(振り返り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
9	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
14	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
15	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
16	実習報告会	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ストレスとメンタルヘルス (科目ナンバリング: SOP122061)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

<b>履修目標</b>																								
メンタルヘルスキアの意義を理解する メンタルヘルスに関する基礎知識を理解する セルフケア・ストレスとの向き合い方に関する基礎知識を理解する																								
<b>授業の位置づけ</b>																								
社会福祉学科のDP(2)に対応する。																								
<b>到達目標</b>																								
メンタルヘルスキアに関する知識や対処方法を理解する。																								
<b>授業全体の内容と概要</b>																								
働く人たちのメンタルヘルスの悪化が社会問題となっており、当事者としてメンタルケアの基礎知識が求められている。そこで、この授業ではメンタルヘルスキアの意義や基礎知識、ストレスとの向き合い方について講義・実践を行う。内容は「メンタルヘルス・マネジメント」検定のテキストに準じて進行するため、興味がある人は個別に挑戦することもできる。 「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業																								
<b>授業の方法</b>																								
主に講義形式で進行する。講義中、グループワーク、リラクゼーション法やストレスチェックのデモンストレーションなどを取り入れることがある。教科書をもとに進めるが、資料を配布することもある。																								
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
<b>履修上の注意事項</b>																								
集団での作業(グループワーク)を行うことがある。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	40%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	40%	0%	0%	20%							

<b>ルーブリック</b>					
	<b>評価基準</b>				
<b>評価項目</b>	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ストレスの基礎知識	ストレスの基礎知識に関する理解が、最低限の基準を非常に上回る水準で到達できた。	ストレスの基礎知識に関する理解が、最低限の基準をかなり上回る水準で到達できた。	ストレスの基礎知識に関する理解が、最低限の基準をやや上回る水準で到達できた。	ストレスの基礎知識に関する理解が、最低限の基準に到達できた。	ストレスの基礎知識に関する理解が、最低限の基準に到達できなかった。
ストレスへの対処法	ストレスへの対処法に関する理解が、最低限の基準を非常に上回る水準で到達できた。	ストレスへの対処法に関する理解が、最低限の基準をかなり上回る水準で到達できた。	ストレスへの対処法に関する理解が、最低限の基準をやや上回る水準で到達できた。	ストレスへの対処法に関する理解が、最低限の基準に到達できた。	ストレスへの対処法に関する理解が、最低限の基準に到達できなかった。
文章表現/プレゼンテーション	理解した内容・知識を、求められた基準をやや上回る水準で表現できた。	理解した内容・知識を、求められた基準をやや上回る水準で表現できた。	理解した内容・知識を、求められた基準をやや上回る水準で表現できた。	理解した内容・知識を、求められた最低限の基準で表現できた。	理解した内容・知識を、求められた基準で表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ストレスとメンタルヘルス (科目ナンバリング: SOP122061)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『メンタルヘルス・マネジメント 検定試験 公式テキスト( 種 セルフケアコース)』	公 大版商工会議所	中央経済社	2 0 2 2	9784502388316	種 セルフケアコース(類似品に注)
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(メンタルヘルスとは?) シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	関連図書を熟読する(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
2	メンタルヘルスクアの意義 (ストレスの現状)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
3	メンタルヘルスクアの意義 (メンタルヘルスクアの方法と計画)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
4	ストレスの基礎知識 (ストレスとは)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
5	ストレスの基礎知識 (メンタルヘルス不調)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
6	ストレスの基礎知識 (心の健康問題の正しい態度)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
7	中間の振り返り	これまでの内容を整理する(90分)	出来なかった問題を振り返る(90分)
8	セルフケアの重要性 (過重労働の健康への影響)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
9	セルフケアの重要性 (自己保健義務)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
10	ストレスへの気づき方 (注意すべきリスク要因)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
11	ストレスへの気づき方 (仕事以外でのストレス)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
12	ストレスへの気づき方 (いつもと違う自分に気づく)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
13	ストレスへの気づき方 (ストレスのセルフチェック)	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
14	ストレスへの対処、軽減の方法	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
15	自発的な相談の有用性	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
16	これまでの振り返りと授業改善アンケートの実施	これまでの内容を整理する(90分)	これまでの内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 (科目ナンバリング:PSS122037)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携、国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。  
 精神保健の基本的考え方を理解する。  
 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。  
 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との連携について理解する。  
 国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。  
 現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。  
 精神障害の発生予防や偏見・差別の解消について学ぶ。  
 精神保健活動を行っている関係機関について学ぶ。  
 世界的な精神保健の動向について学ぶ。  
 「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。  
 毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
 第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。質問等は随時対応。  
 授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。  
 配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
 ニュース等で報道される福祉に関する話題について興味を持つこと。  
 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 (科目ナンバリング:PSS122037)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の動向と基本的考え方	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりを)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(学校教育における精神保健の課題、教員の精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(社会的孤立、性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神保健に関する発生予防と対策(精神保健における予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル依存対策、うつ病)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神保健に関する発生予防と対策(子育て支援と暴力・虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング: SWS122142)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授) 杉本	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格できる力を身に着けたため受験対策をする。

授業の位置づけ
---------

社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する。

到達目標
------

過去3年間の過去問の正答率が8割程度であり、問題の内容、解答を説明できる。

授業全体の内容と概要
------------

科目ごとに過去問を行い、解答の解説を行います。また、問題毎に説明ができるまで、取り組んでもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
-------

過去問を回答してもらい、頻出分野を解説します。板書や資料などを用いて学習を進めていきます。質問や疑問点などは解説を行い、そのつど対応します。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など)、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

受験科目になるため、基本的には毎回出席をしてもらう必要があります。

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

社会福祉士国家試験受験資格課程  
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は12回以上

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	25%	25%	50%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に出席し、科目ごとに問題を解説することができ	15回以上出席し、共通科目の問題を5科目以上解説することができた。	15回以上出席し、共通科目の問題を4科目解説することができた。	14回出席し、共通科目の問題を3科目解説することができた。	13回出席し、共通科目の問題を2科目解説することができた。	12回以下の出席しかできなかった。
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の第34回の共通科目を9割以上の点数で回答できる。	第34回の共通科目の点数が9割以上できた。	第34回の共通科目の点数が8割できた。	第34回の共通科目の点数が6-7割できた。	第34回の共通科目の点数が5割できた。	第34回の共通科目の点数が4割以下しかできなかった。
第33回と34回の共通科目の解説が行える。	11科目の解説ができた。	9-10科目の解説ができた。	7-8科目の解説ができた。	5-6科目の解説ができた。	解説を行うことができた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング: SWS122142)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授)杉本		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明。	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
2	過去問の学習方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
3	人体の構想と機能及び疾病	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
4	心理学理論と心理的支援	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
5	社会理論と社会システム	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
6	現代社会と福祉	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
7	地域福祉の理論と方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
8	福祉行政と福祉計画	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
9	社会保障	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
10	中間テスト	中間テストに向けた学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
11	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
12	低所得者に対する支援と生活保護制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
13	保健医療サービス	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
14	権利擁護と成年後見制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
15	第34回共通科目のテスト	第34回の予習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
16	各科目の解説。	解説のロールプレイ(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			